（三）

雇入期間	雇入場所	雇入年月日	航海ノ概略	職務	給料	公認	住所	番號	船員手帳ノ番號	船長署名捺印	雇主署名捺印	傭入年月日	解雇年月日	解雇ノ事由	記事

第二號書式

（一）

誌　　日　　海　　航

船

船番	航行	船籍	港
航路	變更シタルトキ		
人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ			
衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ			
碇泊港ニ於テ			
船舶ニ於テ急迫ノ危險ヲ去リタルトキ			
船長ニ於テ海員ヲ減シタルトキ			
船員法第四十一條ニ依リ法第四十二條ノ規定ニ依リ救助ヲ求メタルトキ			
船中ニ於テ犯罪アリタルトキ			
船中ニ於テ出生アリタルトキ			
船中ニ於テ死亡アリタルトキ又ハ行方不明トナリタルトキ			
船舶ニ關スル訴訟ヲ提起シタルトキ			
其他航海ニ關スル重要ノ事項			

名船舶所有者ノ氏名及住所

丸

船長氏名及住所

（二）

番號	事項	記載ヲ要シタル年月日
一	航路ノ變更	
二	船舶ヲ救ヒタルトキ又ハ人命ニ關スル救助ヲ求メタルトキ	
三	他ノ海難ニ罹リタルトキ	
四	碇泊港ニ於テ	
五	船舶ニ於テ急迫ノ危險ヲ去リタルトキ	
六	船長ニ於テ海員ヲ減シタルトキ	
七	船員法第四十一條ニ依リ法第四十二條ノ規定ニ依リ救助ヲ求メタルトキ	
八	船中ニ於テ犯罪アリタルトキ	
九	船中ニ於テ出生アリタルトキ	
十	船中ニ於テ死亡アリタルトキ又ハ行方不明トナリタルトキ	
十一	船舶ニ關スル訴訟ヲ提起シタルトキ	
十二	其他航海ニ關スル重要ノ事項	

（三）

海員氏名	職務	記載ヲ要シタル年月日

（四）

海員氏名	職務	記載ヲ要シタル年月日

（六）

番號	雇入ノ年月日	雇入ノ場所	雇入ノ期間	船舶番號手帳	住所	職務	給料	公認
第　號	【明治】年月日	【明治】年月日						
第　號	【明治】年月日	【明治】年月日						
第　號	【明治】年月日	【明治】年月日						
第　號	【明治】年月日	【明治】年月日						
第　號	【明治】年月日	【明治】年月日						
第　號	【明治】年月日	【明治】年月日						

番號	【明治】年月日公認	【明治】年月日公認	【明治】年月日公認

（備考）

一　（六）ノ雇入公認ヲ受クヘキ海員ニ變更アリタル場合ニ於テハ其海員ヲ補充スル爲メ新ニ雇入ノ公認ヲ受ケタルトキハ其海員ノ氏名ヲ記載スヘシ

二　番號ハ海員ノ雇入公認ヲ受ケタル順序ニ從ヒ一ノ番號ヲ附シテ之ヲ定メタル場合ニ於テハ一ノ海員ノ雇入公認ヲ受ケタル際ニ附シタル番號ヲ其海員ノ雇入公認ヲ受ケタル際ニ附シタル番號ト爲スヘシ

第二號書式

（一）

誌　　日　　海　　航

船

船番	航行	船籍	港
航路	變更シタルトキ		
人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ			
衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ			
碇泊港ニ於テ			
船舶ニ於テ急迫ノ危險ヲ去リタルトキ			
船長ニ於テ海員ヲ減シタルトキ			
船員法第四十一條ニ依リ法第四十二條ノ規定ニ依リ救助ヲ求メタルトキ			
船中ニ於テ犯罪アリタルトキ			
船中ニ於テ出生アリタルトキ			
船中ニ於テ死亡アリタルトキ又ハ行方不明トナリタルトキ			
船舶ニ關スル訴訟ヲ提起シタルトキ			
其他航海ニ關スル重要ノ事項			

名船舶所有者ノ氏名及住所

丸

船長氏名及住所

（二）

屬員名稱	數	事項	記載ヲ要シタル年月日

（一）

雛形第四號樣式

雛形	船客	旅客
番號	賃錢	番號
旅客定員	上等 中等 下等 合計	旅客定員
船舶所有者ノ名稱及住所氏名及住所	艙數	船舶所有者ノ名稱及住所氏名及住所
船路		船路
繫留場		繫留場
港		港

（二）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（三）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（四）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（五）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（六）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（七）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（八）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（一）

雛形第四號樣式

雛形	船客	旅客
番號	賃錢	番號
旅客定員	上等 中等 下等 合計	旅客定員
船舶所有者ノ名稱及住所氏名及住所	艙數	船舶所有者ノ名稱及住所氏名及住所
船路		船路
繫留場		繫留場
港		港

（二）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（三）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（四）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（五）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（六）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（七）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

（八）

番號	發				着				旅客ノ氏名	年齢	職業	族稱	本籍地	乘船場所	下船場所	摘要
	港	國名	月日	時	港	國名	月日	時								

●海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ關スル法律

大正十三年七月十八日
法律第二號

枢密院議令ノ協賛ヲ經タル大正十二年條約第二號海軍軍備制限ニ關スル條約ノ實施ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（昭和二、法律一、外務大臣副署。）

第一條　左ニ掲クル行爲ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一　軍艦ヲ建造スルコト

二　船舶ヲ軍艦ニ變更スルノ目的ヲ以テ之ニ武裝ヲ施シ又ハ武裝ヲ施スノ準備ヲ爲スコト

主務大臣ハ大正十二年條約第二號海軍軍備制限ニ關スル條約ノ規定ニ依ル義務ヲ履行スル爲必要アリト認ムル場合ニ於テハ前項ノ許可ヲ爲ササルモノトス

第二條　當該官吏ハ必要アリト認ムルトキハ前條ニ掲クル事項ニ關シ調査ヲ爲ス爲造船所、工場、軍艦、船舶其ノ他必要ナル場所ニ立入リ若ハ檢査ヲ爲シ又ハ關係者ニ對シ調査資料ノ提供ヲ命シ若ハ供述ヲ求ムルコトヲ得

第三條　第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ同條同項ノ許可ノ條件ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　第二條ノ規定ニ依ル官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虚僞ノ調査資料ヲ提供シ又ハ供述ヲ拒ミ若ハ虚僞ノ供述ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（大正十三年勅令第百九十號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行）

●大正十三年法律第二號施行規程

大正十三年八月十四日
海軍省令第七號

大正十三年法律第二號施行規程左ノ通定ム

第一條　大正十三年法律第二號施行規程ノ行爲ヲ爲サムトスル者ハ第一條第一項ノ許可番號　大正　年　月　日　官房第　號

第二條　前條ノ出願ノ目的タル行爲ハ大正十二年條約第二號海軍軍備制限ニ關スル條約中左ノ條項ニ規定スル制限ヲ超過スヘカラス

第五條、第六條、第九條第一項、第十條、第十一條、第十二條、第十四條、第十五條

第三條　許可ヲ受ケタル後當該軍艦又ハ船舶ノ要目、武裝其ノ他ニ關シ變更ヲ爲サムトスル者ハ更ニ適宜ノ樣式ニ依リ海軍大臣ニ出願シ其ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ拘ラス要目ヲ縮少シ又ハ武裝ヲ輕減スル場合ニハ許可ヲ受クルヲ要セス

第四條　左ノ場合ニハ遠ニ海軍大臣ニ屆出ツヘシ

工事ニ著手シタルトキ　（第二號樣式）

工事竣成シタルトキ　（第三號樣式）

工事ヲ取止メ又ハ中止シタルトキ　（第四號樣式）

附　則

本令ハ大正十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶令

大正三年四月七日
勅令第七號

朝鮮船舶令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮船舶令

第一條　左ノ船舶ヲ以テ本令ニ依ル日本船舶トス

一　官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二　朝鮮ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三　朝鮮ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四　朝鮮ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

第二條　前條ニ掲ケタル船舶ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外船舶法ニ依ル但シ同法中勅令トアルハ朝鮮總督府令、主務大臣トアルハ朝鮮總督、第四條第一項第十五條及第十七條中日本トアルハ朝鮮、外國トアルハ朝鮮外トス

朝鮮外ニ於テ取得シタル船舶ヲ朝鮮外各港ノ間ニ航行セシムル場合ニ於テ船舶所有者カ領事官又ハ內地、臺灣、樺太若ハ關東州ノ管海官廳又ハ內地、臺灣、樺太若ハ關東州ノ管海官廳ニ於テ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ朝鮮ノ管海官廳ニ於テ之ヲ受ケタルモノト看做ス

第三條　第一條ノ日本船舶ニ非サレハ不開港ニ寄港シ又ハ各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ法令若ハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若ハ捕獲ヲ避ケムトスルトキ又ハ朝鮮總督ノ特許ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

船舶法第一條ノ日本船舶ハ各港ノ間ニ於テ運送ヲ爲スコトヲ得

第四條　朝鮮總督ハ前條第二項ノ運送ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際舊令ニ依ル船舶國籍證書ヲ受有スル船舶所有者ハ本令施行ノ日ヨリ三月內ニ本令ニ依リ登錄ノ申請ヲ爲スヘシ

●朝鮮船舶令施行規則

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第六十五號
改正　大正三年第一四一號、九年第一五四號、一〇年第六四號

朝鮮船舶令施行規則左ノ通定ム

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ船舶ノ種類トハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ウルト否トニ拘ラス之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖之ヲ帆船ト看做ス

第二條　浚渫船ニシテ推進器ヲ有セサルモノハ之ヲ船舶ト看做サス

第二條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ

一　肋骨ヲ有スル船舶

二　機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶

三　日本形ニ非サル帆裝ヲ有スル船舶

前項ノ規定ニ該當セサル船舶ハ石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ

第三條　船籍港ハ府又ハ面ノ名稱ニ依ル

船籍港ト爲スヘキ府又ハ面ハ船舶ノ航行シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル

第四條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

一　試運轉ノトキ

二　積量ノ測度ヲ受ケムトスルトキ

三　正當ノ事由アルトキ

第五條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖船舶ニ國旗ヲ揭クルコトヲ得

一　祝日、祭日但シ外國ノ祝祭日ニ付テハ其ノ國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二　前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三　進水ノトキ

四　前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條　船舶ノ積量若ハ登錄ニ關スル事項又ハ其ノ標示ヲ照査スル爲必要アリト認ムルトキハ檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條　本令ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ提出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二章　積量ノ測度

第八條　船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ申請書ノ外造船地、造船者、進水ノ年月及船舶ノ原名ヲ證スル書面ヲ提出セシムルコトヲ得

總噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セムトスル船舶ニ付テハ管海官廳ハ前項ノ書面ノ外尙船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ提出セシムルコトヲ得

第八條ノ二　船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セムトスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケムトスル部分及改測ノ爲檢査前項ノ申請ニ因リ船舶國籍證書ノ交付ヲ受クル迄ハ舊令ニ依ル船舶國籍證書ハ之ヲ本令ノ船舶國籍證書ト看做ス

●朝鮮船舶令施行規則

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第六十五號
改正　大正三年第一四一號、九年第一五四號、一〇年第六四號

朝鮮船舶令施行規則左ノ通定ム

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ船舶ノ種類トハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ウルト否トニ拘ラス之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル船舶ハ機關ヲ有スルモノト雖之ヲ帆船ト看做ス

第二條　浚渫船ニシテ推進器ヲ有セサルモノハ之ヲ船舶ト看做サス

第二條ノ二　左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ

一　肋骨ヲ有スル船舶

二　機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶

三　日本形ニ非サル帆裝ヲ有スル船舶

前項ノ規定ニ該當セサル船舶ハ石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ

第三條　船籍港ハ府又ハ面ノ名稱ニ依ル

船籍港ト爲スヘキ府又ハ面ハ船舶ノ航行シ得ヘキ水面ニ接シタルモノニ限ル

第四條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

一　試運轉ノトキ

二　積量ノ測度ヲ受ケムトスルトキ

三　正當ノ事由アルトキ

第五條　左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付前ト雖船舶ニ國旗ヲ揭クルコトヲ得

一　祝日、祭日但シ外國ノ祝祭日ニ付テハ其ノ國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル

二　前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三　進水ノトキ

四　前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條　船舶ノ積量若ハ登錄ニ關スル事項又ハ其ノ標示ヲ照査スル爲必要アリト認ムルトキハ檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得

第七條　本令ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ提出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二章　積量ノ測度

第八條　船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請セムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ申請書ノ外造船地、造船者、進水ノ年月及船舶ノ原名ヲ證スル書面ヲ提出セシムルコトヲ得

總噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セムトスル船舶ニ付テハ管海官廳ハ前項ノ書面ノ外尙船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ提出セシムルコトヲ得

第八條ノ二　船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セムトスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケムトスル部分及改測ノ爲檢査官吏ノ臨檢ヲ受ケムトスル場所ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　積量ノ測度又ハ改測ハ船舶檢査執行地ニ於テ之ヲ行フ但シ船舶ノ構造、就路ノ狀況又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ船舶ヲ檢査執行地迄航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

朝鮮外ノ地ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ヲ行フ場所ハ當該官廳之ヲ指定ス

第十條　積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スル者ハ測度又ハ改測ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第十一條　削除

第十二條　管海官廳ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ノ申請ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ第二號書式ノ船舶件名書及所定ノ船舶積量測度表ヲ調製セシムヘシ

第十二條ノ二　管海官廳ハ積量ノ測度ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付シ第八條第二項ノ規定ニ依リ提出シタル書面アルトキハ之ヲ還付スヘシ

管海官廳ハ積量ノ改測ヲ行ヒタル場合ニ在リテハ船舶件名書ニ記載スル事項ト既ニ登錄シタル事項トヲ對照シ其ノ變更ニ係ル事項ヲ申請者ニ通知スヘシ

第十三條　船舶カ朝鮮外ノ地ニ於テ積量ノ測度又ハ改測ヲ受ケタル場合ニ在リテハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ遲滯ナク當該官廳ヨリ關係書類ノ送附ヲ受クルモノトス

第十四條　船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ在ル船舶ニ付積量ノ測度又ハ改測

ノ申請アリタル場合ニ於テ第九條第一項但書ノ事由ニ依リ船舶ヲ其ノ管轄區域内迄航行セシムルコト能ハサルトキハ該官廳ハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ第十二條及第十二條ノ二ニ規定スル事務ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ニ船舶件名書及船舶積量測度表ヲ送付スヘシ

第十五條　削除

第十六條　國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ朝鮮又ハ内地ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其ノ竣工前ト雖最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得

第十條、第十二條及第十二條ノ二第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付スルトキハ同時ニ船舶積量測度表ノ謄本ヲ交付スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測度表ノ謄本ヲ受ケタル者第八條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ該謄本ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三章　船舶ノ登錄

第十七條　船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ登記ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第十七條ノ二　管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ關係書類ヲ調査シ總噸數百噸以上ノ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿ニ登錄ス

一　番號
二　信號符字
三　種類
四　船名
五　船籍港
六　甲板ノ層數
七　船質
八　帆船ノ帆裝
九　最頂甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長
十　船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅
十一　長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深
十二　總噸數
上甲板下ノ噸數
上甲板上蔵圍シタル場所ノ噸數
船首樓ノ噸數
船橋樓ノ噸數
船尾樓ノ噸數
甲板室ノ噸數
船口ノ超過噸數
機關室ノ噸數
其ノ他ノ場所ノ噸數
十三　控除噸數
船員常用室ノ噸數
荷足水齡ノ噸數
機關室ノ噸數
帆船ノ帆庫ノ噸數
其ノ他ノ場所ノ噸數
十四　登簿噸數
十五　汽機ノ種類及數
十六　推進器ノ種類及數
十七　造船地
十八　造船者
十九　進水ノ年月
二十　原名
二十一　所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分

總噸數百噸未滿ノ汽船及前項ノ帆船以外ノ帆船ニシテ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノニ在リテハ前項第一號乃至第十一號、第十四號乃至第十七號、第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

一　總噸數
上甲板下ノ噸數
上甲板上蔵圍シタル場所ノ噸數
二　控除噸數
船員常用室ノ噸數
機關室ノ噸數
其ノ他ノ場所ノ噸數

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第一項第一號、第三號乃至第五號、第十七號、第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

一　船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
二　船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅
三　最當梁ノ中央ニ於テ其ノ上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深
四　積石數

第十七條ノ三　前條ノ規定ニ依リ登錄シタル信號符字ハ之ヲ朝鮮總督府官報ニ告示ス

第十八條　船舶ノ名稱ヲ變更セムトスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第十九條　管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

一　所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ
二　船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若ハ削除スルトキ
三　所有者ニ於テ自己ノ行爲ニ因ルニ非スシテ船舶ノ名稱ノ爲ニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第二十條　甲管海官廳ノ管轄區域内ニ定メタル船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更セムトスル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其ノ船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其ノ附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存スル登錄ノミヲ謄寫ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其ノ船舶原簿ニ登錄ヲ移ス

第二十一條　船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條　第十七條ノ二第一項第三號、第六號乃至第八號、第十五號、第十六號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ第二號書式ニ準シ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ但シ第二十三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請書ニ臨檢報告書ヲ添ヘテ提出シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登錄ヲ爲サムトスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ノ交付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第二十四條　第十七條ノ二第一項第三號第六號、第九號乃至第十六號第二項各號又ハ第三項各號ノ事項ニ付第十二條ノ二第二項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第二十五條　船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添ヘ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若ハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第二十七條　船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタル旨ノ證書ヲ添ヘ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ管海官廳ハ船舶ノ名稱ノ變更ニ準シ公告ス

第二十八條　船籍港ヲ管轄スル登記所ヨリ抹消ノ登記ヲ爲シタル旨ノ通知ヲ受ケタル船舶ニ付船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ當該管海官廳ハ遲滯ナク左ノ事項ヲ其ノ登記所ニ通知スヘシ

一　船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數
二　船舶所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
三　抹消ノ登錄ヲ爲シタル原因
四　抹消ノ登錄ヲ爲シタル年月日

第二十九條　船舶所有者ニ於テ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ船舶原簿ニ於テ訂正シ其ノ旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第三十條　何人ト雖手數料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害關係アル部分ニ限リ船舶原簿ノ閲覽ヲ請求スルコトヲ得

手數料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

第四章　船舶國籍證書及假船舶國籍證書

第三十一條　管海官廳ニ於テ第十七條ノ二ニ依リ船舶ノ登錄ヲ爲シタルトキハ第三號書式ノ船舶國籍證書ヲ申請者ニ交付ス

第三十二條　船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セムトスル者ハ變更ニ依リ登錄ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第三十三條　第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第三十四條　船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セムトスル者ハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ船舶國籍證書ノ滅失ニ因リ更ニ之ヲ請受ケムトスルトキ亦同シ

第三十五條　第三十二條又ハ前條ノ申請ヲ受ケタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但シ第二十條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス

第三十六條　船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク舊船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第三十七條　船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケムトスル船長ハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其ノ書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ提出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

假船舶國籍證書ノ樣式ハ第四號書式ニ依ルヘシ

第三十八條　船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケムトスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該管海官廳ニ提出スヘシ

第三十九條　假船舶國籍證書ノ有效期間ハ其ノ船舶ノ船籍港ニ回航セムトスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海官廳之ヲ定ム

第四十條　假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十三條乃至第三十六條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第四十一條　假船舶國籍證書ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキノ遲滯ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第四十二條　本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テハ之ヲ返還セサルトキハ管海官廳ハ其ノ無效ナルコトヲ朝鮮總督府官報ニ公告ス

第四十三條　船舶所有者ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ疏明シ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第四十三條ノ二　船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ請受ケムトスル者ハ最寄管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ英譯書ヲ交付スヘシ

第四十三條ノ三　第四十三條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ニ之ヲ準用ス

第四十三條ノ四　船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ受有スル者ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ但シ毀損ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五章　國旗及船舶ノ標示

第四十四條　船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ

一　帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
二　帝國ノ燈臺又ハ望樓ヨリ要求セラレタルトキ
三　外國ノ港ヲ出入スルトキ
四　朝鮮外ニ航行スル船舶帝國ノ港ヲ出入スルトキ

五　法令ニ別段ノ定アルトキ

第四十五條　噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ標示スヘキ事項及其ノ標示方法ハ左ノ如シ

一　船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍港名ヲ四吋以上ノ國字ヲ以テ記スルコト
二　中央ノ船樂ニ船舶ノ番號、總噸數及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ其ノ番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘著スルコト

第四十六條　船舶ハ左ノ場合ニ於テ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍港名ヲ四吋以上ノ國字ヲ以テ記スルコトヲ得

一　船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若ハ削除スルトキ
二　所有者ニ於テ自己ノ行爲ニ因ルニ非スシテ船舶ノ名稱ノ爲ニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第四十七條　甲管海官廳ノ管轄區域内ニ定メタル船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更セムトスル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其ノ船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其ノ附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存スル登錄ノミヲ謄寫ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其ノ船舶原簿ニ登錄ヲ移ス

第四十八條　船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第四十九條　第十七條ノ二第一項第三號、第六號乃至第八號、第十五號、第十六號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ第二號書式ニ準シ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ但シ第二十三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請書ニ臨檢報告書ヲ添ヘテ提出シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十條　船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登錄ヲ爲サムトスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ノ交付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第五十一條　第十七條ノ二第一項第三號第六號、第九號乃至第十六號第二項各號又ハ第三項各號ノ事項ニ付第十二條ノ二第二項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第五十二條　船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添ヘ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若ハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十三條　行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第五十四條　船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタル旨ノ證書ヲ添ヘ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス

第五十五條　船舶ノ登錄ヲ爲シタル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付ス但シ第二十條第一項ノ場合ニ於テハ乙管海官廳之ヲ交付ス

第五十六條　船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク舊船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

第五十七條　船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケムトスル船長ハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ假船舶國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ證明スルニ必要ナル書類アルトキハ其ノ書類ヲ添ヘ當該管海官廳ニ提出スヘシ

船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ假船舶國籍證書ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

假船舶國籍證書ノ樣式ハ第四號書式ニ依ルヘシ

第五十八條　船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ假船舶國籍證書ヲ請受ケムトスル者ハ第五號書式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證スル書面ヲ添ヘ當該管海官廳ニ提出スヘシ

第五十九條　假船舶國籍證書ノ有效期間ハ其ノ船舶ノ船籍港ニ回航セムトスル場合ニ於テハ到達スヘキ期間ヲ標準トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海官廳之ヲ定ム

第六十條　假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第五十三條乃至第五十六條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第六十一條　假船舶國籍證書ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキノ遲滯ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第六十二條　本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テハ之ヲ返還セサルトキハ管海官廳ハ其ノ無效ナルコトヲ朝鮮總督府官報ニ公告ス

第六十三條　船舶所有者ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ疏明シ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第六十三條ノ二　船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ請受ケムトスル者ハ最寄管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ英譯書ヲ交付スヘシ

第六十三條ノ三　第六十三條ノ規定ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ニ之ヲ準用ス

第六十三條ノ四　船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ受有スル者ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ但シ毀損ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六章　國旗及船舶ノ標示

第六十四條　船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲クヘシ

一　帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
二　帝國ノ燈臺又ハ望樓ヨリ要求セラレタルトキ
三　外國ノ港ヲ出入スルトキ
四　朝鮮外ニ航行スル船舶帝國ノ港ヲ出入スルトキ
五　法令ニ別段ノ定アルトキ

第六十五條　噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ標示スヘキ事項及其ノ標示方法ハ左ノ如シ

一　船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍港名ヲ四吋以上ノ國字ヲ以テ記スルコト
二　中央ノ船樂ニ船舶ノ番號、總噸數及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ其ノ番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘著スルコト
三　船首及船尾ノ外部兩側面ニ於テ喫水ヲ示ス爲船底ヨリ最大喫水線以上ニ至ル迄一呎毎ニ六吋ノ羅馬數字又ハ亞剌比亞數字ヲ以テ其ノ尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其ノ數字ノ表示セル喫水線ト一致セシムルコト
四　登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除シタル室及場所ニハ見易キ所ニ室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ記スルコト

特殊ノ構造ヲ有スル爲前項ノ規定ニ依リ難キ船舶ニ付テハ檢査官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

第六十六條　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ第一項第一號、第三號乃至第五號、第十七號、第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登錄ス

一　船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長
二　船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅
三　最當梁ノ中央ニ於テ其ノ上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深
四　積石數

第六十七條ノ三　前條ノ規定ニ依リ登錄シタル信號符字ハ之ヲ朝鮮總督府官報ニ告示ス

第六十八條　船舶ノ名稱ヲ變更セムトスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第六十九條　管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

一　所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ
二　船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若ハ削除スルトキ
三　所有者ニ於テ自己ノ行爲ニ因ルニ非スシテ船舶ノ名稱ノ爲ニ著シキ不便ヲ受クルトキ

第七十條　甲管海官廳ノ管轄區域内ニ定メタル船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更セムトスル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其ノ船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其ノ附屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存スル登錄ノミヲ謄寫ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其ノ船舶原簿ニ登錄ヲ移ス

第七十一條　船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第七十二條　第六十七條ノ二第一項第三號、第六號乃至第八號、第十五號、第十六號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ檢査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ第二號書式ニ準シ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ但シ第二十三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請書ニ臨檢報告書ヲ添ヘテ提出シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十三條　船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登錄ヲ爲サムトスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ノ交付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添附スヘシ

第七十四條　第六十七條ノ二第一項第三號第六號、第九號乃至第十六號第二項各號又ハ第三項各號ノ事項ニ付第十二條ノ二第二項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ變更ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第七十五條　船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添ヘ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若ハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十六條　行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫、其ノ名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

第七十七條　船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲サムトスル者ハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタル旨ノ證書ヲ添ヘ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ船舶ノ登錄用紙ヲ閉鎖ス

モ記載スヘシ

第五十二條　船稅ヲ賦課シ若減シ又ハ賦課ヲ廢止スヘキ事項發生シタルトキハ管海官廳ハ之ヲ船籍港ヲ管轄スル府郡廳ニ通知スヘシ船舶ノ所有者ニ變更アリタルトキ亦同シ

船籍港ニ變更ヲ生シタルトキハ舊船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ新船籍港ヲ管轄スル府郡廳ニ前項ノ通知ヲ爲シ舊船籍港ヲ管轄スル府郡廳ニ船籍港ノ變更アリタル旨ヲ通知スヘシ

第五十二條ノ二　船舶法第四條又ハ同法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ別記船舶積量測度手數料表ニ定ムル測度手數料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケ又ハ船舶カ測度ヲ要セサルモノト爲リタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手數料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

第五十二條ノ三　前條ノ測度手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ測度手數料納付書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ測度手數料納付書ニハ船舶ノ名稱、汽船、機關ヲ有スル帆船又ハ機關ヲ有セサル帆船ノ區別、總噸數、新規測度、全部改測又ハ一部改測ノ區別ヲ記載スヘシ又一部改測ノ場合ニシテ量噸甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尚其ノ旨ヲモ附記スヘシ

第五十三條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

一　船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スルトキ　一枚ニ付二十錢

二　船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルトキ　一回ニ付二十錢

三　汽船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケムトスルトキ　二圓

四　前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケムトスルトキ　四圓

五　帆船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケムトスルトキ　一圓

六　前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケムトスルトキ　二圓

前項ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ第一號及第二號ノ場合ニ於テハ申請書ニ、第三號乃至第六號ノ場合ニ於テハ手數料納付書ニ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

第五十四條　船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶檢査執行地外ニ檢査官吏出張シタルトキハ船舶所有者ハ成規ノ旅費及日當ヲ當該管海官廳又ハ其ノ指定シタル官廳ニ納付スヘシ

第五十四條ノ二　本令ノ規定ニ依ル手數料、旅費及日當ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セス

第七章　罰則

第五十五條　本令ノ規定ニ依リ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其ノ義務ヲ怠リタルトキハ船所有者ヲ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

朝鮮船舶令第三條ノ規定ニ違反シ外國船舶不開港ニ寄港シ又ハ各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第五十六條　本令ハ朝鮮船舶令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條　朝鮮船舶令施行前船舶國籍證書ヲ受有スル船舶ノ所有者ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測度ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第八條第二項各號ニ掲ケタル書類ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第五十八條　第十條及第十二條ノ規定ハ前條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ舊船舶法ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スル船舶ニ付テハ管海官廳ハ船舶件名書ノ謄本ヲ申請者ニ交付スルコトヲ要セス

船舶ニ臨檢シタル檢査官吏ハ積量ノ測度ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

第五十九條　舊船舶法ニ依リ船舶國籍證書ヲ受有スル船舶ニ付登錄ノ申請ヲ爲ス場合ニハ第十七條第一項ニ掲ケタル登記ノ謄本ヲ提出スルコトヲ要セス

第六十條　船舶國籍證書ヲ請受ケタル船舶所有者ハ遲滯ナク舊船舶國籍證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第五十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則（大正三年朝鮮總督府令第百四十一號）

第一條　本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　本令施行ノ際現ニ船舶原簿ニ登錄シタル船籍港ニ付テハ第三條第二項ノ規定ニ適合セサルモノト雖當該船舶カ引續キ其ノ地ニ船籍ヲ置ク場合ニ限リ從前ノ例ニ依ル

第三條　第十七條ノ二ノ規定ニ依リ登錄ヲ爲スヘキ事項、第二十二條及第二十四條ノ規定ニ依リ變更ノ登錄ヲ爲スヘキ事項竝船舶件名書、船舶國籍證書及假船舶國籍證書ノ書式ハ船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測前ノ船舶ニ付テハ從前ノ例ニ依ル

第四條　本令施行前積量ノ測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ本令施行後其ノ測度又ハ改測ヲ了リタル場合ニ於テモ第五十二條ノ二ノ規定ニ依ル測度手數料ヲ徵收セス

第五條　船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測ニ依リ船舶國籍證書又ハ其ノ英譯書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲其ノ書換ヲ申請スル場合ニ於テハ第五十三條ノ規定ニ依ル手數料ヲ徵收セス

前項ノ申請ト同時ニ船名、船籍港、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及持分以外ノ事項ノ變更ニ依リ船舶國籍證書又ハ其ノ英譯書ノ書換ヲ申請スル場合ニ付亦前項ニ同シ

第六條　船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依ル改測ノ場合ニ於テハ第五十四條ノ規定ニ依ル旅費及日當ヲ徵收セス

第七條　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ノ本令施行ノ際現ニ受有スル船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ書換ヲ爲ス場合ニ於テハ第五十三條ノ規定ニ依ル手數料ヲ徵收セス

附　則（大正十年朝鮮總督府令第六十四號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前積量ノ測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

別記

船舶積量測度手數料表

測度種類	船舶種類	總噸數									
新規測度又ハ全部改測	汽船及機關ヲ有スル帆船	二十噸以上五十噸未滿	五十噸以上百噸未滿	百噸以上三百噸未滿	三百噸以上五百噸未滿	五百噸以上千噸未滿	千噸以上二千噸未滿	二千噸以上三千噸未滿	三千噸以上四千噸未滿	四千噸以上六千噸未滿	六千噸以上八千噸未滿	八千噸以上一萬噸未滿	一萬噸以上
		七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十三圓	三十圓	四十圓	五十六圓	七十圓	八十圓	百圓	
	機關ヲ有セサル帆船	五圓	七圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	三十圓					
一部改測	汽船及機關ヲ有スル帆船	三圓	五圓	七圓	二千噸以上十圓								
	機關ヲ有セサル帆船	二圓	三圓	五百噸以上五圓									

備考

一　船舶ノ國籍ヲ變更シタルトキハ舊船舶國籍證書ヲ返還スヘシ

二　船質、鐵、木又ハ木鐵等ノ別

三　帆船ノ帆裝　三檣トップスルスクーナー、二檣トップスルスクーナー、一檣スループ等

四　總噸數　何噸何何

五　登簿噸數　何噸何何

六　汽機ノ種類及數　單式、二聯成、三聯成、四聯成、「タービン」、發動機何箇

七　推進器ノ種類及數　外車又ハ螺旋推進器何箇

八　造水ノ年月　何年何月

右年月日某所ニ於テ臨檢シタル所前記ノ通ニ有之候也

年　月　日　　所屬官廳　　官氏名印

備考

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ第十七條ノ二第三項ノ規定ニ依リ本書式中ノ事項ヲ變更又ハ省略スヘシ

第三號書式甲（朝鮮船舶令施行規則第十七條ノ二第一項ニ掲クル船舶ニ用ウルモノ）

竪一尺五分　橫八寸五分

紋章

船舶國籍證書

番號		信號符字	
船質		種類	
帆裝		船籍港	
汽機ノ種類及數		造船地	
推進器ノ種類及數		造船者	
船名		造水ノ年月	
		甲板ノ層數	

積量		尺度		
總噸數	控除噸數	船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅	量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長	所有者
上甲板下	船員常用室			
上甲板上蔽圍シタル場所	荷足水艙	長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ外面ニ至ル深		
船首樓	機關室			
船橋樓	帆船ノ帆庫	舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深		
船尾樓	其ノ他ノ場所			
甲板室				
艙口ノ超過				
機關室				
其ノ他ノ場所				
登簿噸數				

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證ス

年　月　日

日本帝國
管海官廳名　印

第一號書式　船舶積量測度申請書　汽（帆）船何丸

一　船籍港　何府又ハ何面（何道何郡何面）

二　積量　總噸數約何噸又ハ積石數約何石

三　造船地　何道何府何郡何面又ハ何府縣何市何郡何町村

四　造船者　何某又ハ何會社

五　造水ノ年月　何年何月

六　原名　何何

所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分　何道（何府何町何番地）何郡何面何洞里何統何戶　何某又ハ何會社

七　測度ヲ受ケムトスル場所　某所

八　右今般新造致（又ハ何國人何某ヨリ買受等）候ニ付積量測度相成度關係書類何通相添此段及申請候也

年　月　日　　住所　何　某印

管海官廳宛

備考

一　船名ニハ振假名ヲ附記スヘシ

二　道府郡面名又ハ郡市町村名、氏名及名稱ニハ讀方ノ明瞭ナル場合ノ外振假名ヲ附記スヘシ

三　外國ノ名稱ニハ外國文字ヲ附記スヘシ

四　原名ノ項ニハ朝鮮外ニ船籍ヲ有スル船舶カ朝鮮ニ船籍ヲ移轉シタル場合ニ在リテハ轉籍ノ前ニ於ケル最近ノ船名、船舶法第二十條ニ掲クル船舶カ總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ測度申請前ノ最近ノ船名ヲ記載スヘシ

五　第十七條ノ二第二項及第三項ニ掲クル船舶ニ付テハ造船者ヲ記載スルコトヲ要セス

第二號書式　船舶件名書　汽（帆）船何丸

一　甲板ノ層數　何層

第三號書式乙（朝鮮船舶令施行規則第十七條ノ二第二項ニ掲クル船舶ニ用ウルモノ）

船舶國籍證書

（紋章）

番號	信號符字	種類	船名	船籍港	造船地	進水ノ年月

尺度		船質	積量	所有者
量噸甲板上ニ於テ船首村ノ前面ヨリ船尾村ノ後面ニ至ル長…… 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅…… 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深……	推進器ノ種類及數	帆船ノ帆裝 汽機ノ種類及數	總噸數…… 上甲板下…… 上甲板上藏圍シタル場所…… 控除噸數…… 船員常用室…… 機關室…… 其ノ他ノ場所…… 登簿噸數……		

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年　月　日

日本帝國
管海官廳名　印

第三號書式丙（朝鮮船舶令施行規則第十七條ノ二第三項ニ掲クル船舶ニ用ウルモノ）

船舶國籍證書

番號	種類	船籍港	造船地

尺度	積量	所有者
船首ノ內面ヨリ船尾ノ內面ニ至ル船底水平ノ長…… 船體最廣部ニ於テ外板ノ內面ヨリ內面ニ至ル幅…… 腰當梁ノ中央ニ於テ其ノ上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深……		

（縦七寸五分　横五寸五分）

第四號書式乙（朝鮮船舶令施行規則第十七條ノ二第三項ニ掲クル船舶ニ用ウルモノ）

假船舶國籍證書

種類	船籍港	造船地	進水ノ年月	船名

尺度	積量	所有者
船首ノ內面ヨリ船尾ノ內面ニ至ル船底水平ノ長…… 船體最廣部ニ於テ外板ノ內面ヨリ內面ニ至ル幅…… 腰當梁ノ中央ニ於テ其ノ上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深…… 積石數……		

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ　年　月　日迄效力ヲ有スルモ其ノ以前ニ於テ船籍港ニ到著シタルトキハ直ニ其ノ效力ヲ失フ

年　月　日

日本帝國
管海官廳名　印

（縦七寸五分　横五寸五分）

第五號書式

假船舶國籍證書交付申請書

汽（帆）船何丸

一　船籍　港　何府又ハ何面（何道何郡何面）
二　造　船　地　何道何府何郡何面又ハ何府縣何郡何市町村
三　進水ノ年月　何年何月
四　甲板ノ層數　何層
五　船　質　鋼、鐵、木又ハ木鐵等
六　帆船ノ帆裝　三檣バーク、二檣トップスルスクーナー、二檣スクーナー、一檣スループ等
七　量噸甲板上ニ於テ船首村ノ前面ヨリ船尾村ノ後面ニ至ル長　何呎何吋何
八　船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅　何呎何吋何
九　長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深　何呎何吋何
十　總噸數　何噸何吋
十一　控除噸數　何噸何吋
十二　登簿噸數　何噸何吋
十三　汽機ノ種類及數　單式、二聯成、三聯成、四聯成、「タービン」、發動機何箇
十四　推進器ノ種類及數　外車又ハ螺旋推進器何箇
十五　所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分　何道（何府何町何番地）何郡何面何洞里何統何戸

右今般新造致（又ハ何國人何某ヨリ買受等）候ニ付假船舶國籍證書交付相成度船舶法第十五條（又ハ第十六條）及朝鮮船舶令施行規則第三十八條ノ規定ニ依リ關係書類何通相添此段及申請候也

年　月　日

住所
何
某印

管海官廳宛

備考
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ第四號書式乙ニ掲クル事項ニ依リ本書式中ノ事項ヲ變更又ハ省略スヘシ

●朝鮮船舶檢查令　大正三年四月七日制令第八號

朝鮮船舶檢查令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮船舶檢查令

第一條　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ檢查ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外船舶檢查法ニ依ル但シ同法中遞信大臣トアルハ朝鮮總督トス

第二條　朝鮮船舶ハ本令ニ依リ日本ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ朝鮮又ハ內地ニ於テ製造スル船舶ノ所有者ハ其ノ製造中ト雖一部ノ檢查ヲ申請スルコトヲ得

第三條　內地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ニシテ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港內ノミヲ航行シ又ハ朝鮮ヲ起點トシテ朝鮮外ノ地ニ航行スルモノハ本令ニ依リ檢查ヲ受クヘシ但シ船舶檢查法又ハ臺灣、樺太若ハ關東州ノ法令ニ依リ船舶檢查證書ヲ受有シ其ノ航行期間內ニ在ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　左ニ掲クル外國船舶ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ檢查ヲ執行ス

一　日本ノ臣民又ハ法人ニ於テ借入レ朝鮮各港ノ間又ハ朝鮮ト朝鮮外ノ地トノ間ヲ航行スルモノ

二　朝鮮ノ沿岸又ハ湖川港內ノミヲ航行スルモノ

三　朝鮮各港ニ於テ旅客又ハ移住民ヲ搭載スルモノ

附則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊令ニ依リ交付シタル船舶檢查證書ハ其ノ有效期間滿了ニ至ル迄仍其ノ效力ヲ有ス

●朝鮮船舶檢查令施行規則

大正三年五月三十一日朝鮮總督府令第六十八號
改正　大正四年第九三號、七年第四一號、八年一五三號、九年第五七號

朝鮮船舶檢查令施行規則左ノ通定ム

第一章　總則

第三號書式乙（朝鮮船舶令施行規則第十七條ノ二第二項ニ掲クル船舶ニ用ウルモノ）

船舶國籍證書

（紋章）

番號	信號符字	種類	船名	船籍港	造船地	進水ノ年月

尺度		船質	積量	所有者
量噸甲板上ニ於テ船首村ノ前面ヨリ船尾村ノ後面ニ至ル長…… 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅…… 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深……	推進器ノ種類及數	帆船ノ帆裝 汽機ノ種類及數	總噸數…… 上甲板下…… 上甲板上藏圍シタル場所…… 控除噸數…… 船員常用室…… 機關室…… 其ノ他ノ場所…… 登簿噸數……		

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年　月　日

日本帝國
管海官廳名　印

（縦九寸　横七寸）

第四號書式甲（朝鮮船舶令施行規則第十七條ノ二第一項及第二項ニ掲クル船舶ニ用ウルモノ）

船籍證書

（紋章）

進水ノ年月	船名	量積	所有者
		積量噸數……	

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年　月　日

日本帝國
管海官廳名　印

（縦八寸　横六寸）

假船舶國籍證書

種類	船名	進水ノ年月	造船地	船籍港	尺度	船質	積量	所有者

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ　年　月　日迄效力ヲ有スルモ其ノ以前ニ於テ船籍港ニ到著シタルトキハ直ニ其ノ效力ヲ失フ

年　月　日

日本帝國
管海官廳名　印

第一條　本令ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外朝鮮外國船舶檢查規則ニ依リ檢查ヲ行フヘキ外國船舶ニモ之ヲ適用ス

第二條　本令ニ於テ船舶ト稱スルハ前條ニ揭ケタル外國船舶ヲモ包含ス

本令ニ於テ漁船ト稱スルハ漁獵ニノミ從事スル船舶及專ラ漁獵揚ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶ヲ謂フ

本令ニ於テ旅客船ト稱スルハ十二人ヲ超エル旅客ヲ定員ヲ有スル船舶ヲ謂フ

本令ニ於テ移民船ト稱スルハ朝鮮ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海航路外ノ港又ハ別ニ定ムル地方ニ運送セムトスル船舶ヲ謂フ

朝鮮外國船舶檢查規則第二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二章　檢查ノ種類

第三條　船舶ノ檢查ヲ分チテ左ノ四種トス

一　特別檢查
二　定期檢查
三　臨時檢查
四　移民船舶檢查

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船及淺瀨船ニ對シテハ前項第一號ノ檢查ヲ行ハス

第四條　初テ特別檢查ヲ行フヘキ場合ハ左ノ如シ

一　日本船舶ヲ初テ航行ノ用ニ供セムトスルトキ
二　朝鮮船舶檢查令第四條第一號又ハ第二號ニ揭ケタル外國船舶ヲ同號ノ航路ニ使用セムトスルトキ
三　船舶檢查法第一條各號ノ船舶カ朝鮮船舶檢查令ノ規定ニ依リ檢查ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ
四　前條第二項ニ揭ケタル船舶カ特別檢查ヲ受クヘキモノトナリタルトキ

朝鮮船舶檢查令第二條ノ申請アリタルトキハ前項第一號ノ場合ニ於ケル特別檢查ノ一部ヲ行フ

第四條ノ二　特別檢查ノ有效期間ハ其ノ檢查ヲ受ケタル時ヨリ起算シ三年乃至六年トス

第五條　管海官廳ハ進水後二年ヲ經過セサル船舶ノ特別檢查ヲ第一回定期檢查ニ於テ定メラレタル航行期間滿了迄猶豫スルコトヲ得

第三條第二項ニ揭ケタル船舶カ特別檢查ヲ受クヘキモノトナリタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ該船舶ノ現ニ有スル航行期間滿了迄特別檢查ヲ猶豫スルコトヲ得

第六條　管海官廳ハ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ左ニ揭ケル船舶ノ特別檢查ヲ該船舶カ現ニ有スル特別檢查有效期間滿了迄猶豫スルコトヲ得

一　船舶級協會ノ特別檢查法ノ規定ニ依リ特別檢查ヲ受ケタル船舶
二　朝鮮船舶檢查令第四條第一號ニ揭ケタル外國船舶ニシテ其ノ所屬國政府ノ特別檢查又ハ朝鮮總督ニ於テ相當ト認ムル船級協會ノ特別檢查ヲ受ケタルモノ

第七條　朝鮮船舶檢查令ノ規定ニ依リ特別檢查ヲ受ケタル船舶カ檢查ヲ受クルコトヲ要セサルモノト爲リタル後再ヒ檢查ヲ受クヘキモノト爲リタルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ前ニ受ケタル特別檢查ノ有效期間滿了迄特別檢查ヲ猶豫スルコトヲ得

特別檢查ヲ受ケタル船舶カ第三條第二項ニ揭ケタル船舶トナリタル後再ヒ特別檢查ヲ受クヘキモノト爲リタルトキ又ハ特別檢查ヲ受ケタル船舶檢查令ノ適用ヲ受クヘキトキ亦前項ニ同シ

第七條ノ二　旅客船ニ非サル船舶ニシテ朝鮮總督ノ認可シタル船級協會ニ於テ朝鮮船舶檢查令ノ規定ニ依ル特別檢查ト同一程度ノ檢查ヲ受ケタルモノハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ有效期間滿了迄特別檢查ヲ猶豫スルコトヲ得

第八條　削除

第三章　檢查申請ノ手續

第十五條　船舶ノ檢查ニ關スル申請ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ヨリ之ヲ爲スヘシ但シ正當ノ事由アルトキハ船長ニ於テ之ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第三十四條第一項第四號第五號、第三十六條、第五十九條及第六十六條ノ認可申請ニ之ヲ準用ス

第十六條　船舶檢查申請書ニハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ニ揭ケル事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スヘシ

一　船舶ノ種類、名稱及總噸數若ハ積石數
二　所有者ノ住所及氏名若ハ名稱
三　船籍港
四　船長ノ氏名及其ノ海技免狀ノ種類
五　航行セムトスル航路
六　漁船ニ在リテハ業務種類
七　檢查ヲ受ケムトスル期日及場所
八　檢查ノ種類及其ノ申請ノ事由

檢查申請人ハ船舶カ初メテ檢查ヲ受ヲル場合ヲ除クノ外申請書ニ船舶檢查手帖ヲ添附スヘシ

第十七條　第五條乃至第七條ノ二ノ規定ニ依リ特別檢查ノ猶豫ヲ申請セムトスルトキハ左ニ揭ケル書類ヲ前條ノ申請書ニ添附スヘシ

一　第五條第一項ノ場合　進水ノ年月ヲ證スル書面
二　同條第二項ノ場合　船舶檢查手帖
三　第六條第一號ノ場合　內地ノ管海官廳ニ於テ交付シタル船舶檢查手帖

四　第六條第二號ノ場合　該政府又ハ船級協會ノ特別檢查證明書

五　第七條ノ場合　船舶檢查手帖若シクハ添附スルコト能ハサルトキハ前ニ特別檢查ヲ受ケタル年月、場所、當時ノ船名及番號ヲ記載シタル書面

船級協會ノ特別檢查證明書

第十七條ノ二　第二十條ノ二ノ規定ニ依リ休暇日ニ船舶ノ檢查ヲ受ケムトスル者ハ成ルヘク二日前迄ニ休暇日檢查申請書ヲ提出スヘシ

第十八條　朝鮮船舶檢查令第二條ノ規定ニ依リ製造中ノ船舶ノ檢查ヲ申請セムトスルトキハ申請書、製造仕樣書及圖面ヲ製造地ヲ管轄スル管海官廳ニ提出スヘシ但シ製造地カ內地ナルトキハ船舶所有者ノ住所ヲ管轄

スル管海官廳ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船舶カ石數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノナルトキハ圖面ヲ提出スルコトヲ要セス

第一項ノ申請書ニハ左ニ揭ケル事項ヲ記載シ申請人署名捺印シ船舶所有者ト製造者トヲ異ニスル場合ニ於テハ之ニ連署スヘシ

一　船舶ノ種類及總噸數
二　外板及船骨ノ材料
三　計畫積量
四　計畫吃水
五　計畫實馬力
六　汽機ノ種類及數
七　汽鑵ノ種類及數
八　推進器ノ種類及數
九　使用ノ目的
十　使用ノ航路
十一　製造所ノ名稱及其ノ所在地
十二　擔任技師ノ氏名
十三　起工ノ年月

圖面ハ左ノ七種ニ分チ寸法ヲ附記スヘシ

一　船體中央橫截面圖
二　船體中心線縱截面圖
三　甲板平面圖
四　汽機橫截面圖
五　汽機縱截面圖
六　汽鑵橫截面圖
七　汽鑵縱截面圖

第十九條　移民船檢查ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ第十六條ノ規定ニ依リテ記載スヘキ事項ノ外左ニ揭ケル事項ヲ記載シ船舶檢查證書ノ寫及朝鮮ニ船籍港ヲ有セサル日本船舶ニ在リテハ朝鮮外ニ於ケル日本管海官廳ニ於テ交付シタル船舶檢查手帖ヲモ添ヘテ管海官廳ニ提出シ之ヲ申請スヘシ

一　搭載スル移住民若ハ三等旅客ノ員數
二　移住民若ハ三等旅客ヲ搭載スル港、發航港、寄航港、到達港竝移住民若ハ三等旅客ヲ陸揚スル港
三　發航ノ日時及豫定航海期間
四　航行里程
五　平均速力

六　移住民若ハ三等旅客ヲ容ルヘキ場所

第四章　檢查

第二十條　船舶ノ檢查ハ別ニ指定シタル船舶檢查官吏檢查ヲ行フ但シ檢查申請人檢查執行地ニ於テ之ヲ行フ但シ檢查申請人檢查執行地ニ於テ檢查ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ疏明シタルトキハ檢查執行地外ニ於テ檢查ヲ受クルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ檢查申請人ハ船舶檢查執行地ニ於テ檢查ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ申請書ニ附記スヘシ

第二十條ノ二　船舶檢查執行地ニ於テハ急速ノ檢查ヲ必要トスル事由アル場合ニ限リ休暇日ト雖汽船ノ檢查ヲ行フ

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ船舶檢查執行地外ニ於テモ臨時ニ船舶ノ休暇日檢查ヲ行フコトヲ得

第二十一條　船舶ノ檢查ニハ汽船ニ在リテハ船長及機關長、帆船ニ在リテハ船長之ニ立會フヘシ

第二十二條　檢查ヲ受ケムトスル船舶ノ船長ハ朝鮮船舶檢查規程ノ定ムル所ニ依リ相當ノ準備ヲ爲スヘシ

第二十三條　檢查官吏檢查ノ爲船舶ニ臨檢シタルトキハ船長ハ船舶國籍證書、假船舶國籍證書、船舶檢查證書、假船舶檢查證書、船舶臺帳、船舶檢查手帖、船舶職員ノ海技免狀、海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿其ノ他檢查ニ必要ナル書類ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十四條　檢查ヲ受クル船舶ノ船長及機關長ハ檢查官吏ノ要求ニ應シ必要ナル幫助ヲ爲シ又ハ其ノ訊問ニ對シ陳述ヲ爲スヘシ

第二十五條　船長又ハ機關長差支アリテ檢查ニ立會フコト能ハサルトキハ運轉士又ハ機關士ヲシテ之ニ立會フヘシ

船長、運轉士、機關長又ハ機關士ノ乘組マサル船舶ノ檢查ヲ受クルトキハ船舶所有者ハ相當ノ者ヲ指定シテ檢查ニ立會ハシムヘシ

前三條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リテ立會フ檢查ニ立會フ者ナキトキ又ハ檢查ニ立會ヒタル者前三條ノ規定ニ違反シタルトキハ檢查官吏ハ其ノ檢查ヲ停止スルコトヲ得

第二十六條　檢查官吏檢查ヲ行フニ當リ必要アリト認ムルトキハ檢查ヲ結了スル迄船舶檢查證書、假船舶檢查證書、適航證書、同航認可證書又ハ臨時旅客定員證書ヲ領置スルコトヲ得

第二十七條　特別檢查、定期檢查又ハ臨時檢查ノ執行中檢查官吏ニ於テ其ノ船舶ノ入渠上架、修繕又ハ屬具ノ整備ヲ必要ナリト認メタルモ當該管海官廳ノ管轄區域內ニ於テ直ニ之ヲ爲スコト能ハサルトキハ檢查申請人ハ事由ヲ具シタル書面ヲ該管海官廳ニ提出シ其ノ檢查ヲ他ノ管海官廳ニ引繼キ又ハ囑託セムコトヲ申請スルコトヲ得

管海官廳ニ於テ前項ノ事由ニ正當ニシテ且船舶ハ其ノ航海ニ適スルモノト認メタルトキハ檢查ヲ中止シ之ヲ他ノ管海官廳ニ引繼キ又ハ囑託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ引繼ヲ受ケタル管海官廳ハ前管海官廳ニ於テ檢查シタル部分ノ檢查ヲ省略スルコトヲ得

第五章　檢查ニ關スル書類

第二十八條　船舶檢查證書ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種船舶檢查證書ハ定期檢查ヲ行ヒタルトキ又ハ該證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ、乙種船舶檢查證書ハ移民船舶檢查ヲ行ヒタルトキ之ヲ交付ス

甲種船舶檢查證書ハ第一號書式又ハ第二號書式、乙種船舶檢查證書ハ第三號書式ニ依ル

第二十九條　假船舶檢查證書ハ二回以上之ヲ交付スルコトヲ得ス但シ第三十條及第三十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

假船舶檢查證書ハ第四號書式又ハ第五號書式ニ依ル

第三十條　船舶檢查證書又ハ假船舶檢查證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ船舶檢查證書又ハ假船舶檢查證書ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第三十一條　前條ノ規定ニ依リ船舶檢查證書又ハ假船舶檢查證書ノ再交付ヲ申請スルモ其ノ交付ヲ受クルニ至ル迄時日ヲ要シ航海ニ差支ヲ生スルトキハ船長ハ前條ノ申請ヲ爲シ同時ニ最寄管海官廳ニ適航證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ其ノ事由ヲ具シ且滅失又ハ毀損ニ係ル船舶檢查證書又ハ假船舶檢查證書ニ記載シアリタル事項ヲ附記シ船舶檢查手帖ノ存在スル場合ニ於テハ之ヲ添附スヘシ

第三十二條　適航證書ノ有效期間ハ船舶檢查證書又ハ假船舶檢查證書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三箇月ヲ超エサル期間ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

適航證書ハ引續キ之ヲ交付スルコトヲ得ス但シ第五十條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

適航證書ノ第六號書式ニ依ル

第三十三條　船舶檢查證書又ハ假船舶檢查證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滯ナク最寄管海官廳ニ船舶檢查證書又ハ假船舶檢查證書ヲ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生シタル事項カ船舶國籍證書ニ記載スヘキモノナルトキハ假船舶國籍證書ニ記載スヘキモノナルトキハ船長ハ第四十條ノ規定ニ依リ交付シタル船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ當該管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ但シ同一管海官廳ニ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ書換ヲ申請スヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶檢查證書又ハ假船舶檢查證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一　船舶カ第三十一條第一項ノ規定ニ依リ適航證書ヲ受有スルトキ
二　船舶檢查執行地外ニ於テ製造セラレ若

ハ朝鮮船舶令第一條各號ノ一ニ該當スヘキモノト爲リタル船舶其ノ他檢査ヲ受クヘキモノト爲リタル船舶ヲ船籍港ニ回航セシメ又ハ檢査ヲ受クル爲該船舶ヲ最寄管海官廳所在地若ハ檢査執行地ニ回航セシムルトキ

三　朝鮮船舶令施行規則第四條各號ニ該當スルトキ

四　管海官廳ノ認可ヲ受ケ倉庫船若ハ繫留船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航セシメ又ハ平水航路ノミヲ航行スル帆船ヲ他ノ平水航路ニ回航セシムルトキ

五　管海官廳ノ認可ヲ受ケ朝鮮外ノ地ノ沿岸若ハ其ノ湖川港內ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地ニ回航セシムルトキ

前項第二號乃至第五號ノ場合ニ於テハ船舶ニ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ス

第三十五條　朝鮮外ニ於テ製造セラレ又ハ朝鮮船舶令第一條各號ノ一ニ該當スヘキモノト爲リタル日本船舶ヲ朝鮮ノ目的港ニ回航セシムルニ當リ旅客又ハ貨物ヲ搭載セムトスルトキハ船長ハ外國ニ在リテハ最寄帝國領事官、其ノ他ノ地方ニ在リテハ當該管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ但シ外國ニ在リテハ相當ノ技能ヲ有スル者ニ於テ船舶ノ航海ニ適スル旨ヲ證シタル書面ヲ申請書ニ添附スルコトヲ要ス

帝國領事官又ハ管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ認可シタルトキハ回航認可證書ヲ交付ス

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ船舶檢査證書ニ記載シタル航路定限又ハ航行期間ヲ超エテ船舶ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一　船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ朝鮮外ニ回航セシムルトキ

二　朝鮮外ノ地ノ沿岸若ハ其ノ湖川港內ニ使用スル目的ヲ以テ船舶ヲ其ノ目的地ニ回航セシムルトキ

三　朝鮮外ニ船舶ヲ港ニ變更スル爲船舶ヲ其ノ目的地ニ回航セシムルトキ

四　漁船カ第二條第二項ニ該當セサルモノト爲リタルトキ

四　船體、機關ノ要部若ハ重要ナル屬具ヲ修繕スル爲工場所在地ニ回航シ再ヒ檢査執行地ニ船舶ヲ回航セシムルトキ

五　管海官廳所在地外ノ場所ニ於テ一部ノ檢査ヲ受クタル船舶ヲ殘餘ノ檢査ヲ受クル爲管海官廳所在地ニ回航セシムルトキ

六　第二十七條第二項ノ規定ニ依リ檢査ノ引繼又ハ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ他ノ管海官廳ノ管轄區域內ニ船舶ヲ回航セシメ且囑託ノ場合ニ於テハ囑託ヲ受ケル管海官廳ノ管轄區域內ニ更ニ回航セシムルトキ

七　航路定限內ノ地ニ檢査執行地ヲ場合ニ於テ檢査ヲ受ケル爲船舶ヲ檢査執行地ニ回航セシムルトキ

八　航行期間滿了シタル場合又ハ航海ノ途中航行期間滿了スヘキ場合ニ於テ檢査ヲ受ケル爲船舶ヲ航路定限內ノ檢査執行地ニ回航セシムルトキ

九　航路定限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路定限內ニ回航セシムルトキ

十　航路定限變更ノ爲船舶ヲ航路定限外ニ回航セシムルトキ

十一　海難救助其ノ他管海官廳ニ於テ已ムヲ得サル事由アルモノト認ムル場合ニ限リ船舶ヲ一時航路定限外ニ回航シ再ヒ航路定限內ニ回航セシムルトキ

第三十七條　第三十四條第一項第四號、第五號又ハ前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケムトスルトキハ申請人ヨリ事由ヲ具シタル申請書ヲ提出スヘシ

前條第一項各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セムトスルトキハ其ノ旨ヲ前項ノ申請書ニ附記スヘシ

管海官廳ハ前二項ノ申請書ニ記載シタル事由ヲ斟酌セラレタルトキ

船舶カ朝鮮船舶檢査令ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

三　船舶ノ航行期間又ハ假船舶檢査證書ノ有效期間滿了ノトキ又ハ效力ヲ失フ

回航認可證書ハ第七號書式ニ依ル

第四十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶檢査證書又ハ假船舶檢査證書ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

一　船舶カ滅失若ハ沈沒シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

二　船舶カ朝鮮船舶檢査令ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

三　船舶ノ航行期間又ハ假船舶檢査證書ノ有效期間滿了シタルトキ

四　漁船カ第二條第二項ニ該當セサルモノト爲リタルトキ

第十三條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受ケタル船舶カ到達港ニ到著シタルトキハ其ノ港ニ於テ帝國領事官若ハ其ノ後最初ニ到著シタル港ニ於ケル帝國領事館ニ乙種船舶檢査證書ヲ返還スヘシ

第四十二條　左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ舊船舶檢査證書又ハ舊假船舶檢査證書ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

一　假船舶檢査證書ヲ受ケタル船舶ニ對シ船舶檢査證書ノ交付ヲ受ケタルトキ

二　船舶檢査證書又ハ假船舶檢査證書ヲ換ヲ受ケタルトキ

三　船舶檢査證書又ハ假船舶檢査證書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第四十三條　船舶檢査證書又ハ假船舶檢査證書ノ返還ハ第四十一條第一項第一號又ハ第二號ノ場合ニ於テハ其ノ事實アリタル日若ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日內ニ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人之ヲ爲シ同項第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ、遲滯ナク、前條各號ノ場合ニ於テハ新船舶檢査證書又ハ新假船舶檢査證書ト引換ニ船長之ヲ爲スヘシ但シ船長ノ在ラサル場合ニ於テハ船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人之ヲ爲スヘシ

船舶檢査證書又ハ假船舶檢査證書ヲ返還スル義務アル者ノ所在分明ナラサルトキ又ハ死亡シタルトキハ現ニ船舶檢査證書又ハ假船舶檢査證書ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十四條　適航證書ヲ受有スル船舶ニ對シ船舶檢査證書又ハ假船舶檢査證書ノ交付アリタルトキハ船長ハ遲滯ナク適航證書ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

適航證書又ハ假船舶檢査證書ノ交付アリタルトキハ船長ハ遲滯ナク適航證書ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第四十五條　船舶檢査證書、假船舶檢査證書又ハ適航證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

船舶檢査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

第四十六條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第四十七條　船舶檢査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

船舶檢査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ遲滯ナク舊船舶檢査手帖ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

船舶檢査手帖ノ封筒ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

第四十八條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第四十九條　船舶檢査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

船舶檢査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ遲滯ナク舊船舶檢査手帖ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

船舶檢査手帖ノ封筒ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

第五十條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第五十一條　船舶檢査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

船舶檢査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ遲滯ナク舊船舶檢査手帖ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

船舶檢査手帖ノ封筒ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

第五十二條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第五十三條　船舶檢査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

船舶檢査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ遲滯ナク舊船舶檢査手帖ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

船舶檢査手帖ノ封筒ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

第五十四條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第五十五條　船舶檢査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

船舶檢査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ遲滯ナク舊船舶檢査手帖ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

船舶檢査手帖ノ封筒ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ再交付ヲ申請スヘシ

第五十六條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第五十七條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第五十八條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第五十九條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十一條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十二條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十三條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十四條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十五條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十六條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十七條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十八條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第六十九條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十一條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十二條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十三條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十四條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十五條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十六條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十七條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十八條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第七十九條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十一條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十二條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十三條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十四條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十五條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十六條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十七條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十八條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第八十九條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十一條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十二條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十三條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十四條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十五條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十六條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十七條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十八條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第九十九條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百一條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百二條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百三條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百四條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百五條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百六條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百七條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百八條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百九條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百十條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百十一條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百十二條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百十三條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百十四條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百十五條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百十六條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百十七條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ保管スヘシ

船舶檢査手帖ハ檢査官吏ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖之ヲ開封スルコトヲ得ス

第百十八條　檢査官吏檢査ヲ終了シタルトキハ船舶檢査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船舶檢査手帖ハ船長ニ於テ之ヲ船內ニ

ル線内
第十九區　咸鏡北道檢津ヨリ草島ヲ經テ城亨端ニ至ル線内
第二十區　咸鏡北道郭端ヨリ大端ニ至ル線内

第五十六條　沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲サムトスル船舶ハ第五十四條又ハ前條ニ揭ケタル區域中相連絡スルモノニ限リ旅客船ニ在リテハ二區ヲ併セ旅客船ニ非サルモノニアリテハ二區以上ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スコトヲ得

第五十七條　平水航路ヲ航路定限ト爲ス船舶ニシテ第五十五條ニ揭ケタル區域又ハ湖川港ヨリ其ノ船舶ノ最强速力ヲ以テ二時間内ニ往復シ得ヘキ平水航路外ノ場所ヘ航行セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第五十八條　船舶ノ航路定限ハ檢査官吏ニ於テ當該船舶カ申請ノ航路ニ堪エルヤ否ヲ查覈シ前六條ニ揭ケタル區域内ニ於テ之ヲ定ム

檢査官吏ニ於テ申請ノ航路カ季節ニ依リテ危險アリト認ムルトキハ期間ヲ附シテ航路定限ヲ定ムヘシ

第五十九條ノ二　内地、臺灣、樺太又ハ外國ノ各港間又ハ湖川港内ヲ航行セムトスル日本船舶ノ航路定限ハ檢査申請人ヨリ申請アリタルトキハ前六條ノ規定ニ準シ之ヲ定ムルコトヲ得

第六十條　船舶ノ航行期間内ニ於テ航路ヲ變更セムトスル者ハ申請書ニ新舊航路定限ヲ列記シ船舶檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第七章　旅客定員

第六十一條　船舶ノ旅客定員ハ其ノ航路ニ依リ附錄旅客定員算出表ニ定ムル割合ニ從ヒ各室毎ニ之ヲ算定ス

第六十二條　船舶ニ旅客ヲ搭載スル場合ニ於テ十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ旅客定員ノ一人ニ換算シ一年以下ノ者ハ之ヲ算入セス

第六十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ旅客ト看做サス但シ第一號及第二號ニ揭クル者カ旅客室内ニ在ルトキハ旅客定員ニ算入ス

一　船舶所有者、船舶管理人及船舶借入人
二　船員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者
三　航行中ニ救助セラレタル者

第六十三條　船長ハ各旅客室毎ニ見易キ場所ヲ選ヒ該室ノ等級及旅客定員ヲ表示スヘシ

三等旅客室ニ客棚ヲ設クル船舶ニ在リテハ船長ハ各室ニ見易キ場所ヲ選ヒ客棚毎ニ其ノ旅客定員ヲ記入シタル客棚配置圖ヲ揭クヘシ

第六十四條　船長ハ旅客室ト船員常用室トヲ常ニ區別シ置クヘシ

第六十五條　旅客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ船長ハ該室ノ旅客定員ヨリ貨物ノ占有スル場所ニ相當スル人員ヲ減少シタルモノヲ超ヘテ旅客ヲ搭載スルコトヲ得ス

第六十六條　船舶ノ航行期間内ニ於テ旅客定員ヲ變更セムトスル者ハ申請書ニ事由ヲ具シ船舶檢査手帖ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第六十七條　近海航路以下ノ航路ニ於テ臨時多數ノ漁夫、移住民若ハ出稼人ヲ運送セムトスルトキハ檢査申請人ハ最寄管海官廳ニ申請シ其ノ認可ヲ受ケ第三十三條ノ手續ニ依ラシテ附錄臨時旅客定員算出表ニ定ムル割合ニ依リ旅客ヲ搭載スルコトヲ得

第六十八條　前條ノ規定ニ依リ管海官廳ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ船舶檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

一　旅客ノ種類及員數
二　航行里程
三　平均速力
四　發航港、寄航港、到達港
五　豫定航海期間
六　旅客室ニ充ツヘキ場所
七　船舶檢査證書ニ記載セル航行期間
八　船舶檢査證書ニ記載セル航路定限

第六十九條　管海官廳ハ前條ノ申請ヲ認可シタルトキハ旅客定員ヲ定メ第八號書式ノ臨時旅客定員證書ヲ申請人ニ交付ス

臨時旅客定員證書ハ第四十七條ノ規定ニ依リ船内ニ揭ケ置クヘキ證書ト併ヘ揭クヘシ

第七十條　軍隊ヲ運送セムトスルトキハ輸送擔任部隊ヨリ最寄管海官廳ニ請求シ第三十三條ノ手續ニ依ラスシテ附錄臨時旅客定員算出表ニ定ムル割合ニ依リ之ヲ搭載スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ第六十八條ノ規定ニ依リ船舶檢査手帖ヲ管海官廳ニ提出スルコト能ハサルトキハ軍隊ヲ搭載スル場所ノ略圖ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十條ノ二　船長ハ第六十七條又ハ前條ノ旅客ト其ノ他ノ旅客トヲ同一室内ニ搭載スルコトヲ得ス

第七十一條　第五十條ノ規定ハ臨時旅客定員證書カ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條　臨時旅客定員證書ハ船長ニ於テ當該航海ヲ終リタルトキハ遲滯ナク其ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第八章　汽壓制限

第七十三條　船舶ノ汽壓制限ハ檢査官吏ニ於テ機關ノ現狀ニ應シ朝鮮船舶檢査規程ニ依リ之ヲ定ム

第七十四條　檢査官吏ニ於テ安全瓣ヲ封鎖シタルトキハ其ノ鍵ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

第七十五條　船長ハ安全瓣ノ鍵ヲ封緘ノ儘船内ニ保管スヘシ

船長ハ已ムヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外安全瓣ノ封鎖及安全瓣ノ鍵ノ封緘ヲ開封スルコトヲ得ス

安全瓣ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ船長ニ於テ安全瓣ノ封鎖若ハ安全瓣ノ鍵ノ封緘ヲ開封シタルトキハ最寄管海官廳ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全瓣ノ封鎖及封緘ヲ施シ其ノ鍵ヲ受有スル旨ヲ記載シタル檢査手帖ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第七十六條　管海官廳ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九章　航行期間

第七十七條　船舶ノ航行期間ハ船舶ノ現狀ニ應シ船舶檢査法第四條又ハ朝鮮外國船舶檢査規則第三條ノ規定ニ依リ檢査官吏之ヲ定ム

第十章　再檢査

第七十八條　船舶檢査法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ再檢査ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ前檢査ニ對スル不服ノ事項及其ノ理由ヲ列記シタル事由書ヲ添ヘ檢査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ之ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ再檢査ノ申請書ヲ受理シタルトキハ前檢査ヲ行ヒタル檢査官吏ヲシテ再檢査申請ノ理由ニ對スル意見書ヲ調製セシメ申請書ト共ニ朝鮮總督ニ進達スヘシ

第七十八條　朝鮮總督ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト決定シタルトキ又ハ再檢査ノ申請人若ハ其ノ使用人カ再檢査ノ決定前ニ船舶ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス

朝鮮總督ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト決定シタルトキハ特ニ檢査官吏ヲ命シテ再檢査ヲ行ハシメ前檢査ヲ失當ナリト認メタルトキハ之ヲ取消シ該檢査官吏ノ報告ニ基キ更ニ當該管海官廳ヲシテ船舶檢査證書、假船舶檢査證書其ノ他ノ證書ヲ申請人ニ交付セシム

第十一章　雜則

第七十九條　船舶カ航行期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ其ノ旨管海官廳ニ屆出ツヘシ

一　船舶ヲ入渠若ハ上架セムトスルトキ
二　船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル屬具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修繕變更セムトスルトキ
三　汽機、發動機若ハ汽鑵ヲ取放シタルトキ又ハ螺旋軸ヲ拔出シタルトキ

第七十九條ノ二　船舶ノ檢査ヲ受クルトキハ檢査申請人ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄船舶檢査手數料表ニ定ムル檢査手數料ヲ納付スヘシ

檢査申請人ノ都合ニ依リ檢査申請ヲ取下タ又ハ船舶カ檢査ヲ要セサルモノトナリタル場合ト雖檢査著手後ナルトキハ檢査手數料ヲ徵收ス

第八十條　左ノ場合ニ於テハ各號ニ相當スル手數料ヲ納付スヘシ

一　船舶檢査證書又ハ假證書ノ交付、再交付若ハ書換ヲ受ケムトスルトキ　竝適航證書、回航認可證書又ハ臨時旅客定員證書ノ交付若ハ再交付ヲ受ケムトスルトキ

汽船　二圓
帆船　一圓

二　船舶檢査證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケムトスルトキ

汽船　四圓
帆船　二圓

三　船舶檢査手帖ノ再交付ヲ受ケムトスルトキ總噸數百噸以上ノ汽船及機關ヲ有スル帆船　十圓
總噸數百噸未滿ノ汽船及機關ヲ有スル帆船　七圓
機關ヲ有セサル帆船　五圓

前項第一號及第二號ノ手數料ハ第五十條ノ四ノ規定ニ依リ休暇日ニ於テ證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケムトスルトキハ各號ニ定ムル金額ノ倍額トス

第八十一條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スヘシ

檢査手數料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數、檢査ノ種類、旅客船ト旅客船ニ非サルモノトノ區別、臨時檢査ニ於ケル臨檢回數、休暇日ニ於ケル臨檢回數及手數料額ヲ記載スヘシ

第八十二條　船舶檢査執行地外ニ於テ檢査ヲ受ケムトスルトキハ檢査申請人ハ檢査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費及日當ヲ納付スヘシ但シ朝鮮船舶令施行規則第五十四條ノ檢査官吏ノ檢査ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八十三條　本章ノ規定ニ依ル手數料、旅費及日當ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セス

第十二章　罰則

第八十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三十條、第三十三條第一項、第三十四條第二項、第三十五條第一項、第四十一條乃至第四十四條、第四十六條第一項、第四十七條、第四十九條、第五十條、第五十八條第二項第三項、第六十三條、第六十四條、第六十九條第二項、第七十一條、第七十二條、第七十五條第一項乃至第三項又ハ第七十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第七十條第三項ノ場合ニ於テ臨時旅客定員證書ヲ第四十七條ノ規定ニ依リ船内ニ揭ケ置クヘキ證書ト併ヘ揭ケサルトキ

三　第三十六條第一項、第三十八條第一項又ハ第三十九條第一項ノ場合ニ於テ認可ヲ受ケスシテ旅客又ハ貨物ヲ搭載シ又ハ第六十五條若クハ第七十條ノ二ノ規定ニ違反シ旅客ヲ搭載シタルトキ

第八十五條　本令ノ罰則ハ會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當社員、取締役其ノ他ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第八十六條　本令ノ罰則ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ之ヲ適用ス

附則

第八十七條　本令ハ朝鮮船舶檢査令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十八條　本令施行前執行シタル特別檢査及定期檢査ハ本令ニ依リ爲シタル特別檢査ト看做ス

第八十九條　本令施行ノ際現ニ三年未滿ノ特別檢査期間ヲ有スル船舶ニシテ現狀ノ特ニ不良ナルモノニ付テハ本令施行後ト雖二年以上三年未滿ノ範圍内ニ於テ特別檢査期間ヲ定ムルコトヲ得

第九十條　本令施行前交付シタル回航認可證書ハ其ノ有效期間滿了ニ至ル迄仍效力ヲ有ス

附則（大正八年朝鮮總督府令第百五十三號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船舶檢査證書又ハ假證書ノ航路定限欄ニ近海航路ト記載シタルモノヲ受有スル船舶ハ近海航路第一區ト記載シタルモノヲ受有スル船舶ト看做ス

本令施行ノ際現ニ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ受有スル旅客帆船ニシテ第五十四條ニ揭ケタル區域中二區以上ヲ併セテ之ヲ航路定限ト爲スモノハ第五十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ航行期間滿了迄從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附則（大正九年朝鮮總督府令第五十七號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前檢査ヲ申請シタル船舶ニシテ本令施行後其ノ檢査ヲ結了シタルモノニ付テハ第七十九條ノ二ノ規定ニ依ル檢査手數料ヲ徵收セス

附錄

旅客定員算出表

航路	等級	上層旅客甲板以上ノ場所		下層旅客甲板	
		面積	容積	面積	容積
遠洋航路	一等室	一等及二等室ハ寢臺ノ數ニ依ル但シ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎ナルコトヲ要ス		一等及二等室ハ寢臺ノ數ニ依ル但シ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎ナルコトヲ要ス	
	二等室				
	三等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
近海航路	一等室	一等室ハ寢臺ノ數ニ依ル但シ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎ナルコトヲ要ス		一等室ハ寢臺ノ數ニ依ル但シ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎ナルコトヲ要ス	
	二等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎	九十立方呎
	三等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
沿海航路	一等室	十二平方呎	七十二立方呎	十五平方呎（但シ釋迦塔ノ備ルルトキハ面積ハ十二平方呎容積ハ七十二立方呎トス）	九十立方呎
	二等室	九平方呎	五十五立方呎	十二平方呎	七十二立方呎
	三等室	六平方呎	四十立方呎	九平方呎	五十五立方呎
平水航路	一等室	九平方呎	—	十二平方呎	—
	二等室	六平方呎	—	九平方呎	—
	三等室	四、五平方呎	—	六平方呎	—

備考

一　本表ハ旅客定員一人ニ充ツヘキ船室ノ面容積ノ最小限ヲ示ス

二　近海航路ノ一部ニ使用スル汽船カ其ノ航路定限ノ最遠里程ヲ航行シ得ヘキ時間十二時内ナルトキハ其ノ航路ノ狀況ニ依リ三等室一人ニ付面積及容積トモ沿海航路

ニ定ムル率迄遞減スルコトヲ得

三　平水航路ニ使用スル船舶カ其ノ航路定限ノ最遠里程ヲ航行シ得ヘキ時間一時内ナルトキ又ハ其ノ航路定限ノ最遠里程五海里内ナルトキハ其ノ航路ノ狀況ニ據リ三等室一人ニ付上層旅客甲板以上ノ場所ニ於テハ二、五平方呎、下層旅客甲板ニ於テハ四平方呎マテニ遞減スルコトヲ得

四　移住民一人分ノ最小面積及最小容積ハ本表中遠洋航路ノ三等室ノ割合ニ依ル

五　近海航路第一區及同第二區ヲ併セタル區域ヲ航路定限ト爲ス船舶ノ旅客室ノ面容積ハ本表中遠洋航路ノ割合ニ依ル

臨時旅客定員算出表

航行豫定時間	上層旅客甲板以上ノ場所		下層旅客甲板	
	面積	容積	面積	容積
二十四時間未滿	五平方呎	三十立方呎	八平方呎	五十立方呎
二十四時間以上	七平方呎	四十立方呎	十平方呎	六十立方呎

備考

本表ハ旅客定員一人ニ充ツヘキ船室ノ面容積ノ最小限ヲ示ス

船舶檢査手數料表

檢査種類 ＼ 總噸數	二十噸以上五十噸未滿	五十噸以上百噸未滿	百噸以上三百噸未滿	三百噸以上五百噸未滿	五百噸以上千噸未滿	千噸以上三千噸未滿	三千噸以上六千噸未滿	六千噸以上一萬噸未滿	一萬噸以上
特別檢査 旅客船ニ非サルモノ	十圓	十五圓	二十圓	三十圓	五十圓	七十圓	百圓	百三十五圓	二百圓
特別檢査 旅客船	四十圓	六十圓	九十圓	百四十五圓	二百圓	三百圓	四百圓	五百圓	六百圓
製造中ノ特別檢査 旅客船ニ非サルモノ	二十八圓	四十圓	六十圓	九十圓	百四十五圓	二百圓	二百七十圓	三百四十圓	四百圓
定期檢査 旅客船	六圓	九圓	十五圓	二十圓	三十圓	四十圓	五十圓	六十五圓	八十圓
定期檢査 旅客船ニ非サルモノ	四圓	六圓	十圓	十五圓	二十圓	二十五圓	三十五圓	四十五圓	五十五圓
臨時檢査 同ニ付	一圓	二圓	三圓	五百噸以上千噸未滿五圓			千噸以上二千噸未滿七圓	二千噸以上	

移民船檢査　三十五圓

機關ヲ有セサル帆船

汽船及機關ヲ有スル帆船

備考

一　臨檢一回ト稱スルハ檢査官吏一人一回ノ臨檢ヲ謂フ

二　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數十石ヲ以テ一噸ノ割合ニ換算シ檢査手數料ヲ算出ス

三　特別檢査及定期檢査ヲ同時ニ受クルトキハ特別檢査手數料ノミヲ納付スヘシ　製造中ノ特別檢査及定期檢査ヲ同時ニ受クルトキハ製造中ノ特別檢査手數料ノミヲ納付スヘシ

四　船體又ハ機關ノ特別檢査及定期檢査ヲ同時ニ受クルトキハ特別檢査手數料ノ半額及定期檢査手數料ノ半額ヲ納付スヘシ

五　船體ノ製造中ノ特別檢査、機關ノ特別檢査及定期檢査ヲ同時ニ受クルトキハ製造中ノ特別檢査手數料ノ半額及特別檢査手數料ノ半額ヲ納付スヘシ　機關ノ製造中ノ特別檢査、船體ノ特別檢査及定期檢査ヲ同時ニ受クルトキ亦前項ニ同シ

六　機關ノ製造中ノ特別檢査及定期檢査ヲ同時ニ受クルトキハ製造中ノ特別檢査手數料ノ半額及定期檢査手數料ノ半額ヲ納付スヘシ

六ノ二　船體若ハ機關ノ特別檢査又ハ船體若ハ機關ノ製造中ノ特別檢査ノミヲ受クルトキハ特別檢査手數料又ハ製造中ノ特別檢査手數料ノ半額ヲ納付スヘシ

六ノ三　製造中ノ特別檢査ノ申請ヲ取下ケタル場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ檢査手數料ヲ納付スヘシ

七　臨時檢査手數料カ當該船舶ノ特別檢査手數料ニ相當スル金額ヲ超ユルトキハ之ヲ該金額ニ止ム

八　臨時檢査又ハ休暇日檢査カ午前及午後ニ亙ルトキハ之ヲ臨檢二回ト看做ス

九　休暇日ニ於テ檢査ヲ受クルトキハ檢査官吏一人臨檢一回毎ニ本表及前各號ノ規定ニ依リ算出シタル料金ノ三割ヲ檢査手數料ニ加算ス但シ三割ノ金額カ三圓未滿ナルトキハ之ヲ三圓トシ二十五圓ヲ超ユルトキハ之ヲ二十五圓ニ止ム

十　外國ニ於テ檢査ヲ受クルトキハ其ノ檢査手數料ハ本表及前各號ノ規定ニ依リ算出シタル金額ノ四倍トス

第一號書式（縦一尺三寸　横九寸）

第　號

本船番號		信號符字	
船名		船籍港	
總噸數若ハ積石數		所有者	
航路定限		種類	汽機
旅客定員	一等室	種類	汽鑵
	二等室	制限	汽壓
	三等室	端艇	
航行期間		船長	

右檢査ヲ遂ケ朝鮮船舶檢査令（朝鮮外國船舶檢査規則）ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳名　印

備考　沿海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス汽船ニ對シ交付スル證書ニハ第五十八條ノ二ノ規定ニ依ル場合ヲ除ク外船長欄ニ記載ヲ爲サス

第二號書式（縦一尺三寸　横九寸）

第　號

本船番號		信號符字	
船名		船籍港	
總噸數若ハ積石數		所有者	
航路定限		種類	汽機
旅客定員	一等室	種類	汽鑵
	二等室	制限	汽壓
	三等室	端艇	
航行期間		船長	

右檢査ヲ遂ケ朝鮮船舶檢査令ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳名　印

割印

漁船檢査證書

第三號書式（縦一尺一寸　横九寸）

第　號

船名		船籍港	
總噸數若ハ積石數		所有者	
航路定限		種類	汽機
旅客定員	一等室	種類	汽鑵
	二等室	制限	汽壓
	三等室	端艇	
航行期間		船長	

右檢査ヲ遂ケ朝鮮船舶檢査令（朝鮮外國船舶檢査規則）ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳名　印

割印

甲種船舶檢査證書

第四號書式（縦一尺三寸　横九寸）

第　號

本船番號		信號符字	
船名		船籍港	
總噸數若ハ積石數		所有者	
航路定限		種類	汽機
旅客定員	一等室	種類	汽鑵
	二等室	制限	汽壓
	三等室	端艇	
航行期間		船長	

右檢査ヲ遂ケ朝鮮船舶檢査令（朝鮮外國船舶檢査規則）ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳名　印

割印

乙種船舶檢査證書

第　號

船名		船籍港	
所有者		總噸數	
航路定限		旅客定員	總員
航行期間			內譯

右檢査ヲ遂ケ朝鮮船舶檢査令（朝鮮外國船舶檢査規則）ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳名　印

假船舶檢査證書

第四號書式（縦一尺三寸　横九寸）

第　號

本船番號		信號符字	
船名		船籍港	
總噸數若ハ積石數		所有者	
航路定限		種類	汽機
旅客定員	一等室	種類	汽鑵
	二等室	制限	汽壓
	三等室	端艇	
證書有效期間		船長	

右檢査ヲ遂ケ朝鮮船舶檢査令（朝鮮外國船舶檢査規則）ニ依リ

此ノ證書ヲ交付ス

年　月　日

検査官吏官氏名　印
（検査官吏二名以上ナルトキハ連署スルモノトス）

備考　滔海航路又ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス汽船ニ對シ交付スル證書ニハ第五十八條ノ二ノ規定ニ依ル場合ヲ除ク外船長欄ニ記載ヲ爲サス

第五號書式（縦一尺三寸　横九寸三分）

假漁船檢査證書

本船番號	船名	總噸數若ハ積石數	航路定限	證書有效期間	船員定員	船長
信號符字	船籍港	所有者	汽機類　汽罐類　汽壓制限	漁業種類	漁業種類	漁業種類

右檢査ヲ遂ケ朝鮮船舶檢査令ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

年　月　日

検査官吏官氏名　印
（検査官吏二名以上ナルトキハ連署スルモノトス）

第六號書式（縦一尺三寸　横九寸六分）

適航證書

割印

船舶所有者住所（所在地）
氏名（名稱）

右所有ノ汽（帆）船　丸朝鮮船舶檢査令施行規則第三十六條第　號、第三十七條第三項又ハ第三十九條ニ依リ（旅客貨物ノ搭載ヲ許シタル旨又ハ之ヲ禁シタル旨ヲ記入ス）マテ航行スルコトヲ認可シ此ノ證書ヲ交付ス

但シ此ノ證書ハ　年　月　日限リ無效トス

年　月　日

管海官廳名　印

第七號書式（縦一尺三寸　横九寸六分）

割印

同航認可證書

船舶所有者住所（所在地）
氏名（名稱）

右所有者汽（帆）船　丸朝鮮船舶檢査令施行規則第三十六條第　號、第三十七條第三項又ハ第三十九條ニ依リ（旅客貨物ノ搭載ヲ許シタル旨又ハ之ヲ禁シタル旨ヲ記入ス）マテ航行スルコトヲ認可シ此ノ證書ヲ交付ス

但シ此ノ證書ハ　年　月　日限リ無效トス

年　月　日

管海官廳名　印

第八號書式（縦一尺一寸　横九寸）

割印

臨時旅客定員證書

船名	所有者	航路	證書有效期間

旅客定員

總員

内譯

右檢査ヲ遂ケ朝鮮船舶檢査令施行規則第六十九條ニ依リ此ノ證書ヲ交付ス

年　月　日

管海官廳名　印

●朝鮮外國船舶檢査規則

大正三年五月三十一日　朝鮮總督府令第六十七號

朝鮮外國船舶檢査規則左ノ通定ム

朝鮮外國船舶檢査規則

第一條　朝鮮船舶檢査令第四條第一號及第二號ニ揭ケタル外國船舶ノ檢査ハ左ニ記載スル船舶ヲ除クノ外船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキ、船舶ノ航行期間滿了ノトキ又ハ航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

一　總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ帆船

二　端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟

三　倉庫船、繫留船

四　平水航路ノミヲ航行スル帆船

第二條　朝鮮船舶檢査令第四條第三號ニ揭ケタル外國船舶ノ檢査ハ朝鮮ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及三等旅客五十人以上ヲ搭載シテ近海航路外ノ港又ハ特ニ指定シタル地方ニ運送セムトスル船舶ニ限リ之ヲ行フ

前項ニ揭ケタル外國船舶ノ檢査ハ船舶カ朝鮮ノ最後ノ港ヲ發航セムトスルトキ之ヲ行フ

移住民ト稱スルハ勞働ニ從事スル目的ヲ以テ支那以外ノ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂ヒ三等旅客ト稱スルハ一室ニ八人以上雜居スル者ヲ謂フ

第三條　第一條ニ揭ケタル外國船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在リテハ三月以上一年以下、帆船ニ在リテハ六月以上三年以下トス

第四條　第一條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受ケタル外國船舶ノ所有者、借入人又ハ船長ニ於テ船舶檢査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ檢査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假船舶檢査證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第五條　船舶檢査法第五條、第六條、第八條、第九條及第十二條ノ規定ハ朝鮮船舶檢査令第四條ノ外國船舶ノ檢査ニ之ヲ準用ス

第六條　朝鮮船舶檢査令第四條ノ外國船舶ノ積量ハ其ノ所屬國政府ノ交付シタル船舶國籍證書又ハ船舶檢査證書ニ記載シタル積量ニ依ル若船舶國籍證書又ハ船舶檢査證書ヲ受有セサルトキハ檢査官吏之ヲ測度ス

第七條　船舶檢査證書若ハ假船舶檢査證書ヲ受有セシテ朝鮮船舶檢査令第四條ノ外國船舶ヲ航行ノ用ニ供シ、船舶檢査證書若ハ假船舶檢査證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期間若ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ檢査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ航行停止ノ命ニ違反シ又ハ屬具ノ整備ヲ爲サス又ハ移住民若ハ三等旅客ニ對スル設備ヲ爲ササシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ船舶檢査證書若ハ假船舶檢査證書ノ交付ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶檢査證書若ハ假船舶檢査證書ニ旅客定員ノ記載ナキ船舶ニ旅客ヲ搭載シ又ハ該證書ニ記載シタル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタルトキハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　前條第二項ノ罰則ハ會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當社員、取締役其ノ他ノ代表者ニ之ヲ適用ス

前條第一項及第三項ノ罰則ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ朝鮮船舶檢査令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際朝鮮船舶檢査令第四條第一號又ハ第二號ニ該當スル外國船舶ハ本令施行ノ日ヨリ三月間ハ船舶檢査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

●朝鮮船舶檢査規程

大正三年五月三十一日　朝鮮總督府令第六十九號
改正　大正四年第五四號、八年第一五四號、九年第五八號、一一年第一四七號、一四年第一〇一號、一五年第八〇號

朝鮮船舶檢査規程左ノ通定ム

朝鮮船舶檢査規程目次

第一編　總則
第二編　船體部
　第一章　檢査準備
　　第一節　噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶
　　第二節　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶
第二章　檢査
第三章　削除
第四章　屬具
第五章　旅客室及船員常用室
第六章　旅客及船員ニ關スル設備
第三編　機關部
第一章　檢査準備

第二章　汽機及發動機
第三章　汽罐
第四章　噸筒、漏、嘴子、管及屬具等

朝鮮船舶檢査規程

第一編　總則

第一條　本令中鋼船ニ關スル規定ハ鐵船ニモ之ヲ適用ス

第二條　削除

第三條　船舶ノ檢査ハ本令ノ外鋼船ノ船體ニ付テハ朝鮮造船規程、噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル本船ノ船體ニ付テハ朝鮮本船檢査規程、機關ニ付テハ朝鮮造船規程ニ依リ之ヲ執行ス

第四條　定期檢査ニ於テハ船體、機關及屬具ノ現狀、旅客室及船員常用室、旅客及船員ニ關スル設備ヲ檢査ス

第五條　特別檢査ニ於テハ船體、機關及屬具ノ構造竝ニ現狀ヲ檢査ス

朝鮮船舶檢査令施行規則第七條ノ二ノ規定ニ依リ特別檢査ヲ猶豫シタル船舶ノ特別檢査ノ回數ニハ船級協會ノ當該檢査ヲ算入ス

第六條　檢査官吏船舶ノ特別檢査ヲ執行シタルトキハ噸數、速力、構造、材料、工事及現狀ニ應シ左ノ種別ニ從ヒ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

一　第一級船
二　第二級船
三　第三級船
四　第四級船

朝鮮船舶檢査令施行規則第三條第二項ニ揭ケタル船舶ノ資格ハ定期檢査ニ於テ之ヲ定ムヘシ

朝鮮船舶檢査令施行規則第七條ノ二ノ規定ニ依リ特別檢査ヲ猶豫スル船舶ノ資格ハ猶豫ノ申請アリタルトキ之ヲ定ムヘシ

檢査官吏ニ於テ定期檢査又ハ臨時檢査執行ノ際船舶ノ資格ニ變更ヲ生シタリト認ムルトキハ更ニ資格ヲ定ムヘシ

第二

一　外檢查上定期檢查ニ於テハ船ノ前後左右ノ喫水ヲ測リ船體ノ沈下ノ有無ヲ調査スルヲ要ス

二　船體ノ檢查ハ船渠ニ入レ船底ヲ露出シテ行フヲ原則トス

三　船體ノ檢查ニ於テハ外板、甲板、隔壁、船底、龍骨、肋骨、船梁、船艙口、甲板口、船艙口蓋、船艙口縁材、甲板口縁材、甲板口支柱、甲板口梁、甲板口縱通材、甲板口横通材、甲板口隅材、甲板口補強材、甲板口ブラケット、甲板口ビーム、甲板口ビームニー、甲板口ビームブラケット、甲板口ビームアーム、甲板口ビームアームブラケット、甲板口ビームアームニー、甲板口ビームアームブラケットニー、甲板口ビームアームブラケットニーアーム、甲板口ビームアームブラケットニーアームブラケット、甲板口ビームアームブラケットニーアームブラケットニーアームブラケットニー

第六十二條 船舶ハ左ノ場所ニ停泊スルコトヲ得ス

一 航路

二 船渠、船溜又ハ運河ノ入口

三 橋梁、桟橋又ハ他ノ船舶ノ繋留シアル場所ノ附近

四 海底電線又ハ海底水管ノ敷設シアル場所ノ附近

五 其ノ他命令ヲ以テ定メタル場所

第六十三條 船舶ハ他ノ船舶ノ航行ヲ妨ケ又ハ危険ヲ生セシムル虞アル場所ニ於テ錨泊、繋留又ハ曳船ヲ為スコトヲ得ス

第六十四條 船舶ハ他ノ船舶ノ航行ヲ妨ケ又ハ危険ヲ生セシムル虞アル場所ニ於テ他ノ船舶ヲ追越スコトヲ得ス

第六十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第六十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第六十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第六十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第六十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第七十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第七十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第七十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第七十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第七十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第七十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第七十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第七十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第七十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第七十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第八十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第八十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第八十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第八十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第八十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第八十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第八十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第八十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第八十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第八十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第九十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第九十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第九十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第九十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第九十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第九十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第九十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第九十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第九十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第九十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百二十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百二十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百二十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百二十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百二十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百二十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百二十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百二十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百二十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百二十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百三十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百三十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百三十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百三十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百三十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百三十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百三十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百三十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百三十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百三十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百四十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百四十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百四十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百四十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百四十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百四十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百四十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百四十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百四十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百四十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百五十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百五十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百五十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百五十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百五十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百五十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百五十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百五十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百五十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百五十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百六十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百六十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百六十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百六十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百六十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百六十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百六十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百六十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百六十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百六十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百七十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百七十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百七十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百七十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百七十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百七十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百七十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百七十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百七十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百七十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百八十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百八十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百八十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百八十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百八十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百八十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百八十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百八十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百八十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百八十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百九十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百九十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百九十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百九十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百九十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百九十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百九十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百九十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第百九十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第百九十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百二十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百二十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百二十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百二十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百二十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百二十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百二十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百二十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百二十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百二十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百三十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百三十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百三十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百三十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百三十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百三十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百三十六條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百三十七條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百三十八條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百三十九條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百四十條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百四十一條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百四十二條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百四十三條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百四十四條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ速力ヲ減シ又ハ必要ナル場合ニ於テハ停止スヘシ

第二百四十五條 船舶ハ他ノ船舶ニ近寄リ又ハ之ヲ追越ス場合ニ於テハ其ノ進路ヲ避ケ十分ノ間隔ヲ保ツヘシ

第二百四

室、汽部、水部、汽兜、加熱器ヲ掃除シ燃油器、安全瓣、制限瓣及正寒汽瓣ヲ取外シ置クコト

四　屬具ヲ適宜ノ場所ニ陳列シ置クコト

第百三條　特別檢査ニ於テハ前條ニ揭ケタル準備ノ外左ノ準備ヲ爲スヘシ

一　補助汽機ヲ開キ置クコト

二　推進器ヲ取外シ螺旋軸ヲ拔取リ置キ又汽機汽鑵ノ要部ニ屬スル瓣、嘴子及水線以下ニ於ケル船外ニ通スル瓣、嘴子ヲ開放シ置クコト

三　吸鎒及接續鎒ヲ取外シ置クコト

四　正汽管ノ包被竝機關室ヨリ各艙ニ通ル諸管ノ包被ヲ取除キ置クコト

五　「タービン」汽機ノ「ロートル」ヲ取出シ置クコト

六　「ギヤード、タービン」汽機ノ減速齒車裝置ノ外筐上半ヲ取外シ置クコト

七　發動機ノ空氣壓榨機及氣槽ヲ開キ置クコト

八　其ノ他檢査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スコト

第百四條　移民船檢査及臨時檢査ニ於テハ檢査官吏ノ指揮ニ從ヒ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二章　汽機及發動機

第百五條　朝鮮船舶檢査令施行規則第四條第二項ノ規定ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

一　汽筒、氣筒、「タービン」汽機ノ外筐及「ボヤール」、冷汽器、喞筒、船尾管等ヲ鑄造シタルトキ竝仕上ヲ了リタルトキ

二　諸軸、諸錨及「タービン」汽機ノ「ロートル」ノ粗削ヲ爲シタルトキ

三　汽筒、氣筒、「タービン」汽機ノ外筐及「ボヤール」、冷汽器、喞筒、船尾管等ヲ鑄造シタルトキ竝仕上ヲ了リタルトキ

四　諸軸、汽筒及氣筒ノ中心線ヲ定ムルトキ竝「タービン」汽機ノ「ロートル」及減速齒車ノ組立ヲ了リタルトキ

五　發動機ノ氣槽ハ各部ノ突緣又ハ鍛接ヲ爲シタルトキ竝燒鈍ヲ行ヒタルトキ

六　發動機ノ氣槽各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ竝全體ノ構造ヲ了リタルトキ

七　汽機及發動機ヲ船内ニ据附クルトキ

八　水壓試驗執行ノトキ

九　其ノ他檢査官吏必要ト認ムルトキ

第百六條　檢査官吏必要ト認ムルトキハ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　單式汽機ニ在リテハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍

二　二聯成汽機ニ在リテハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍

三　聯成汽機ニ在リテハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍、低壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ

三聯成汽機ニ在リテハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、中壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇、七五ヲ乘シタルモノ、低壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇、三ヲ乘シタルモノ

四　四聯成汽機ニ在リテハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、第一中壓汽筒ハ最大汽壓、第二中壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ、低壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇、三五ヲ乘シタルモノ

五　「タービン」汽機ノ「ロートル」及減速齒車ノ組立ヲ了リタルトキ

第百七條　汽筒及氣筒ハ朝鮮船舶檢査令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ其ノ二倍、低壓汽筒ハ最大汽壓ニ〇、五ヲ乘シタルモノ

第百八條　朝鮮船舶檢査令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキ或ハ大修繕ヲ行ヒタルトキ又ハ其ノ現狀ニ依リ檢査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　單式汽機ニ在リテハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍

二　二聯成汽機ニ在リテハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍

三　三聯成汽機ニ在リテハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍

四　四聯成汽機ニ在リテハ高壓汽筒ハ每平方吋ノ最大汽壓九十封度以上ナルトキハ之ニ九十封度ヲ加ヘタルモノ、九十封度未滿ナルトキハ其ノ二倍

第百九條　冷汽器ハ朝鮮船舶檢査令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ冷汽管ヲ取附ケタル前項以外ノ機査ニ於テ檢査官吏必要ト認ムルトキハ適當ノ水高壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

第三章　汽鑵

第百十條　檢査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ汽鑵包被ノ全部若ハ幾分ヲ取離シ又ハ汽鑵ヲ移動セシムヘシ

小汽鑵、加熱器、汽兜ニシテ狹隘ノ爲檢査スルコト能ハサルトキハ支柱、焰管等ヲ適宜取除カシメ又人孔狹小ニシテ内部ヲ檢査スルコト能ハサルトキハ該孔ヲ改造セシムヘシ

第百十一條　檢査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ汽鑵ヲ移動セシムヘシ

第百十二條　汽鑵制限ヲ減少シタル爲安全瓣ノ面積カ造船規程第二編第五章第七十八條ニ依リ算出シタルモノヨリ小ナルトキハ第百四十九條ノ規定ニ合格シタルトキニ限リ其ノ安全瓣ヲ改造スルニ及ハス

第百四十三條　汽壓制限ヲ減少シタル爲安全瓣ノ面積カ造船規程第二編第五章第七十八條ニ依リ算出シタルモノヨリ小ナルトキハ第百四十九條ノ規定ニ合格シタルトキニ限リ其ノ安全瓣ヲ改造スルニ及ハス

第百四十四條　檢査官吏必要ト認ムルトキハ汽鑵ヲ船内ニ据附クルトキ

第百四十五條　檢査官吏必要ト認ムルトキハ汽鑵ヲ船内ニ据附クルトキ

第百四十六條　檢査官吏必要ト認ムルトキハ鉸釘ヲ拔取ラシメ又ハ鑛板ヲ鑿採セシムヘシ

第百四十七條　削除

第百四十八條　人孔及泥孔ハ長徑六吋以上ノモノニ在リテハ相當ノ補强環又ハ突緣ヲ備フヘシ

第百四十九條　鍛合シタル鋼板ハ伸張ヲ受クル場所ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ明治三十一年七月一日以前ヨリ使用シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百二十條　削除

第百二十一條　汽鑵ハ特別檢査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　突緣又ハ鍛接シタルトキ

二　燒鈍法ヲ行ヒタルトキ

三　各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ

四　全體ノ構造ヲ了リタルトキ

五　水壓試驗執行ノトキ

六　汽鑵ヲ船内ニ据附クルトキ

七　其ノ他檢査官吏必要ト認ムルトキ

百十六條　檢査官吏必要ト認ムルトキハ鉸釘ノ若干ヲ拔取ラシメ又ハ鑛板ヲ鑿採セシム

第百十七條　削除

第百十八條　人孔及泥孔ハ長徑六吋以上ノモノニ在リテハ相當ノ補强環又ハ突緣ヲ備フヘシ

第百十九條　鍛合シタル鋼板ハ伸張ヲ受クル場所ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ明治三十一年七月一日以前ヨリ使用シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百二十條　削除

第百二十一條　汽鑵ハ特別檢査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　新ニ使用スル汽鑵ハ每平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、百封度以下ナルトキハ其ノ二倍

二　既ニ使用シタル汽鑵ハ每平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、百封度以下ナルトキハ其ノ二倍

三　燃料油ノ接觸スル加熱用蒸氣管ハ船内取附後最大壓力ノ二倍

第百三十五條乃至第百四十條　削除

第百四十一條　驗壓器ハ特別檢査又ハ定期檢査ノトキ及檢査官吏必要ト認ムルトキハ驗壓標準器ニ照シ其ノ適否ヲ檢査スヘシ

第百四十二條　削除

第百四十三條　汽壓制限ヲ減少シタル爲安全瓣ノ面積カ造船規程第二編第五章第七十八條ニ依リ算出シタルモノヨリ小ナルトキハ第百四十九條ノ規定ニ合格シタルトキニ限リ其ノ安全瓣ヲ改造スルニ及ハス

第百四十四條乃至第百四十八條　削除

第百四十九條　安全瓣ハ寒汽瀉ヲ閉チ充分ニ焚火シ十五分間以上蒸氣ヲ溢出セシメ汽壓ノ昇騰尙汽壓制限ノ十分ノ一ヲ超エサルモノナルコトヲ要ス

第百五十條　屬具ハ第八號表又ハ第九號表ニ依リ之ヲ備フヘシ但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ平水航路ニ關スル規定ニ依ル

附　則

本令ハ朝鮮船舶檢査令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮船舶檢査令施行規則第八十九條ニ揭ケタル船舶ニ付テハ檢査官吏ハ第八條第一項ノ標準ニ拘ラス特別檢査期間ヲ二年以上三年未滿ノ範圍内ニ於テ定ムヘシ

附　則（大正十一年朝鮮總督府令第百四十七號）

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮船舶檢査令施行規則第八十九條ニ揭ケタル船舶ニ付テハ檢査官吏ハ第八條第一項ノ標準ニ拘ラス特別檢査期間ヲ二年以上三年未滿ノ範圍内ニ於テ定ムヘシ

附　則（大正十一年朝鮮總督府令第百四十七號）

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮鐵鋼船舶檢査規程及ヒ朝鮮機關檢査規程ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ船舶檢査證書ヲ受有スル船舶ハ其ノ航行期間滿了迄又現ニ定期檢査ヲ申請セル船舶ハ次回定期檢査ヲ申請スル迄從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

スヘシ

内部ヲ窺知シ能ハサル表面冷汽器ハ細管ノ幾分ヲ拔出サシメ之ヲ檢査スヘシ

第百十條　船尾管支面材ノ磨耗其ノ内徑ノ二十分ノ一若ハ十六分ノ五吋ニ及フトキハ之ヲ整調スヘシ

第百十一條乃至第百十三條　削除

第三章　汽鑵

第百十四條　檢査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ汽鑵包被ノ全部若ハ幾分ヲ取離シ又ハ汽鑵ヲ移動セシムヘシ

小汽鑵、加熱器、汽兜ニシテ狹隘ノ爲檢査スルコト能ハサルトキハ支柱、焰管等ヲ適宜取除カシメ又人孔狹小ニシテ内部ヲ檢査スルコト能ハサルトキハ該孔ヲ改造セシムヘシ

第百十五條　朝鮮船舶檢査令施行規則第四條第二項ノ規定ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査ヲ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

一　突緣又ハ鍛接シタルトキ

二　燒鈍法ヲ行ヒタルトキ

三　各部ノ組立ヲ爲シ鉸釘孔ヲ精穿シタルトキ

四　全體ノ構造ヲ了リタルトキ

五　水壓試驗執行ノトキ

六　汽鑵ヲ船内ニ据附クルトキ

七　其ノ他檢査官吏必要ト認ムルトキ

百十六條　檢査官吏必要ト認ムルトキハ鉸釘ノ若干ヲ拔取ラシメ又ハ鑛板ヲ鑿採セシム

第百十七條　削除

第百十八條　人孔及泥孔ハ長徑六吋以上ノモノニ在リテハ相當ノ補强環又ハ突緣ヲ備フヘシ

第百十九條　鍛合シタル鋼板ハ伸張ヲ受クル場所ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ明治三十一年七月一日以前ヨリ使用シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百二十條　削除

第百二十一條　汽鑵ハ特別檢査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　新ニ使用スル汽鑵ハ每平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、百封度以下ナルトキハ其ノ二倍

二　既ニ使用シタル汽鑵ハ每平方吋ノ最大汽壓百封度ヲ超ユルトキハ其ノ一倍半ニ五十封度ヲ加ヘタルモノ、百封度以下ナルトキハ其ノ二倍

三　燃料油ノ接觸スル加熱用蒸氣管ハ船内取附後最大壓力ノ二倍

第百三十五條乃至第百四十條　削除

第百四十一條　驗壓器ハ特別檢査又ハ定期檢査ノトキ及檢査官吏必要ト認ムルトキハ汽鑵包被ノ全部若ハ幾分ヲ取離シ又ハ汽鑵ヲ移動セシムヘシ

第百四十二條　削除

第百四十三條　汽壓制限ヲ減少シタル爲安全瓣ノ面積カ造船規程第二編第五章第七十八條ニ依リ算出シタルモノヨリ小ナルトキハ第百四十九條ノ規定ニ合格シタルトキニ限リ其ノ安全瓣ヲ改造スルニ及ハス

第百四十四條乃至第百四十八條　削除

第百四十九條　安全瓣ハ寒汽瀉ヲ閉チ充分ニ焚火シ十五分間以上蒸氣ヲ溢出セシメ汽壓ノ昇騰尙汽壓制限ノ十分ノ一ヲ超エサルモノナルコトヲ要ス

第百五十條　屬具ハ第八號表又ハ第九號表ニ依リ之ヲ備フヘシ但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ平水航路ニ關スル規定ニ依ルコトヲ得

第四章　喞筒、瀉、嘴子、管及屬具等

第百二十二條　給水喞筒ハ新ニ使用スルトキ又ハ檢査官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ最大汽壓ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

第百二十三條乃至第百三十二條　削除

第百三十三條　正汽管及給水管ハ特別檢査ニ於テ左ノ水壓力ヲ以テ試驗ヲ執行スヘシ

一　新ニ使用スルモノニ在リテハ鑄又ハ積石數三百石未滿ノ帆船ニシテ本令施行前六箇年以内ニ發動機ノ氣槽及ヒ油槽、汽鑵、正氣管又ハ給水管ノ水壓試驗ヲ執行シタルトキハ本令施行後最初ノ申請スル定期檢査ニ於テ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

本令施行後ニ雖檢査官吏ニ於テ本令ノ規定ニ依リ救命胴衣ヲ備フルコトヲ得サル事由アリト認メタルトキハ本令施行後沿洋航路及近海航路（第一區ノミヲ航路定限ト爲ス場合ヲ除ク）船舶ニ在リテハ三年内、近海航路第一區ノ船舶ニ在リテハ四年内、沿海航路ノ船舶ニ在リテハ五年内ニ限リ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附　則（大正十四年朝鮮總督府令第百一號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ第一級船又ハ第二級船ノ資格ヲ失フヘキ木製汽船ニシテ地方ニ於ケル交通狀況其ノ他ノ事情ニ依リ已ムコトヲ得スト認ムルモノアルトキハ管海官廳ニ於テ朝鮮總督ノ承認ヲ受ケ一定期間ニ限リ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

（別表略ス）

●朝鮮木船檢査規程

大正十一年十一月十八日　朝鮮總督府令第百四十五號

朝鮮木船檢査規程左ノ通改正ス

木船ノ構造及材料ニ關シテハ遞信省令木船檢査規程ニ依ル但シ同規程中滿載吃水線ヲ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線ノ標示トス

附　則

本令施行前製造ニ着手シタル船舶ノ船體及ヒ機關ノ構造竝ニ鑄造物等ヲ定ムル數ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

本令施行ノ際製造中ノ船舶ニ最初ニ備附クヘキ錨、錨鎖、鋼索、操舵鎖及ヒ操舵鋼索ニ付テハ第五十七條第十二號及ヒ第五十九條第五項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

本令施行後最初ニ受クヘキ船底又ハ螺旋軸檢査ノ期日ハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ帆船ニシテ本令施行前六箇年以内ニ發動機ノ氣槽及ヒ油槽、汽鑵、正氣管又ハ給水管ノ水壓試驗ヲ執行シタルトキハ本令施行後最初ノ申請スル定期檢査ニ於テ其ノ水壓試驗ヲ執行スヘシ

本令施行ニ依リ救命胴衣ヲ備フルコトヲ得サル事由アリト認メタルトキハ本令施行後沿洋航路及近海航路（第一區ノミヲ航路定限ト爲ス場合ヲ除ク）船舶ニ在リテハ三年内、近海航路第一區ノ船舶ニ在リテハ四年内、沿海航路ノ船舶ニ在リテハ五年内ニ限リ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

附　則（大正十四年朝鮮總督府令第百一號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ第一級船又ハ第二級船ノ資格ヲ失フヘキ木製汽船ニシテ地方ニ於ケル交通狀況其ノ他ノ事情ニ依リ已ムコトヲ得スト認ムルモノアルトキハ管海官廳ニ於テ朝鮮總督ノ承認ヲ受ケ一定期間ニ限リ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

（別表略ス）

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

●朝鮮漁船檢査規程

大正三年五月三十一日　朝鮮總督府令第七十三號

朝鮮漁船檢査規程左ノ通定ム

朝鮮漁船檢査規程

第一編　總則

第一條　檢査官吏漁船ノ特別檢査ヲ執行シタルトキハ左ノ種別ニ從ヒ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

一　第一級漁船
二　第二級漁船
三　第三級漁船
四　第四級漁船

朝鮮船舶檢査令施行規則第三條第二項ニ揭ケタル船舶ノ資格ハ定期檢査ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二條　船體要部カ本令ノ規定ニ合格スル漁船ニ在リテハ左ノ標準ニ依リ該船舶ノ資格ヲ定ムヘシ

第一級漁船
- 汽船　上甲板下　百噸以上
- 帆船　上甲板下　三十噸以上

第二級漁船
- 汽船　上甲板下　十五噸以上
- 帆船　上甲板下　五節以上

第三級漁船
- 汽船　上甲板下　無制限
- 帆船　上甲板下　無制限

第四級漁船
- 汽船　上甲板下　無制限
- 帆船　上甲板下　無制限

船體要部ノ或部分カ本令ノ規定ニ合格セサル漁船ニ在リテハ檢査官吏カ航行ニ差支ナシト認ムルトキハ檢査官吏ノ相當ト認ムル資格ヲ定ムヘシ

第三條　檢査官吏漁船ノ特別檢査ヲ執行シタルトキハ左ノ標準ニ依リ船體又ハ機關ノ特別檢査期間ヲ定ムヘシ

船體及機關（發動機ヲ除ク）

- 製造後十年未滿ノモノ　五年
- 製造後十年以上十八年未滿ノモノ　四年
- 製造後十八年以上ノモノ　三年

製造中檢査ヲ受ケ製造シタル船體又ハ機關ハ年齡十五年未滿ノモノニ限リ各特別檢査ノ期間ヲ一年ツツ延長スルコトヲ得

第四條　第二條ニ揭ケタル船體要部トハ外板、甲板肋骨、梁及以上各部ノ固著方竝固著釘ヲ謂フ

第五條　漁船ノ航路定限ハ其ノ資格ニ依リ左ノ標準ニ從ヒ之ヲ定ム

第一級漁船　遠洋航路、近海航路、沿海航路、平水航路

第二級漁船　近海航路、沿海航路、平水航路

第三級漁船　沿海航路、平水航路

第四級漁船　平水航路

第三級漁船ハ特ニ朝鮮總督府遞信局長官ノ認可ヲ受ケ期間ヲ限リ沿海航路外ノ漁場ニ航行スルコトヲ得

第六條　檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ總噸數五十噸未滿又ハ積石數五百石未滿ノ漁船及沿海航路ノ漁業帆船ハ據船ノ上又總噸數二十噸未滿ノ漁船及平水航路ノ漁船ハ碇泊ノ儘特別檢査ヲ執行スルコトヲ得

第七條　漁船ノ檢査ニ關シ本令ニ規定ナキ事項ニ付テハ朝鮮船舶檢査規程ヲ適用ス

第八條　漁船ノ檢査ニ關シ本令及朝鮮船舶檢査規程ニ規定ナキ事項ニ付テハ檢査官吏ハ漁業ノ種類ニ依リ航行ノ適否ヲ標準トシ船體、機關、屬具、船員常用室及船員ニ關スル設備ヲ檢査スヘシ

第二編　船體部

第一章　船體

第九條　上甲板下順數二百噸以上ノ鋼製汽船及上甲板下順數五百噸以上ノ木製汽船ニ在リテハ機關室ヨリ船尾管ニ通行シ得ヘキ車軸隧道ヲ設クヘシ但シ船尾ニ機關室ヲ有スル漁船ニシテ檢査官吏ニ於テ適當ノ構造ヲ有スト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二章　木製漁船

第十條　上甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ノ緣材ハ其ノ高チ甲板上面ヨリ第一級漁船ニ在リテハ九吋以上、第二級漁船ニ在リテハ六吋以上ト爲スヘシ但シ直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ若ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ緣材ノ高チ減シ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第十一條　上甲板ニ設クル汽機室口及汽鑵室口ニハ甲板上面ヨリ第一級漁船ニ在リテハ一呎半以上、第二級漁船ニ在リテハ一呎半以上ノ高チ有スル圍壁ヲ取附ケ汽機室口ノ上端ニ天窓ヲ設クヘシ

第十二條　艙口ニハ堅牢ナル蓋板チ備ヘ且之チ堅固ニ密閉スル爲覆布及適當ノ締具チ備フヘシ但シ檢査官吏カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノチ備フルトキハ覆布ハ之チ備ヘサルコトヲ得

暴露甲板ノ機關室口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋若ハ蓋板及覆布竝適當ノ締具チ備ヘ又ハ水密トナルヘキ其ノ他ノ裝置チ爲スヘシ但シ檢査官吏ニ於テ水密ト爲スヘキ必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

第二章　木製漁船

第十三條　第二數四千未滿ノ漁船ニ在リテハ船體ノ構造及寸法カ本章ノ定ムル所ト同一ノ強力チ有セサル場合ト雖檢査官吏カ用途ニ差支ナシト認ムルトキハ第二級漁船ノ資格チ與フルコトヲ得

第十四條　內龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ寸法ト均シク爲スコトヲ得

第二數一萬二千五百未滿ノ漁船ノ汽機及汽鑵ノ下部ニ於ケル內龍骨ニハ堅材チ用ヰサルコトヲ得

第十五條　肋材衝接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スコトヲ得

第十六條　船底銳形ナル漁船ニ於テ肋根材チ中心線ノ兩側ニ止ムルトキハ適當ナル副龍骨チ龍骨ノ上面ニ取附ケ其ノ上面ニ鐵製又ハ木製ノ根材チ附シ兩舷ノ肋根材チ結合スヘシ此ノ場合ニ於テハ內龍骨及側內厚板ハ之チ省略スルコトヲ得

第十七條　活魚艙チ有シ且縱通隔壁チ設クル漁船ニ在リテハ該隔壁ノ下部ニ縱通材チ取附ケ之チ活魚艙ノ前後ニ二肋骨間延長シ活魚艙兩端ノ肋骨ノ寸法及該部外板ノ厚チ增ストキハ其ノ部分ニ於テ肋骨ノ心距及外板ノ幅チ增加シ梁ノ寸法チ輕減シ又內龍骨、側內厚板、內張板ハ之チ省略スルコトヲ得

第十八條　蒸曲肋骨ト組合肋骨トチ混用スル漁船ニ在リテハ組合肋骨間ノ距離適當ナルトキハ內龍骨、側內龍骨、側內厚板、彎曲部縱通材、梁受板等チ緊著スヘキ固著釘ハ組合肋骨ノミチ貫通セシムルコトヲ得

第十九條　第二數四千六百未滿ニシテ幅深ノ二倍ニ分ノ一チ超エサル漁船ニ在リテハ側內厚板チ取附ケサルコトヲ得

第二十條　彎曲部縱通材ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スコトヲ得

第二十一條　梁壓材ノ寸法ハ之チ取附ケル梁ノ兩端ノ截面ノ五分ノ四以上ト爲シ且梁ト接面ニ於ケル幅ハ梁ノ幅ヨリ大ナラシムヘシ

第二十二條　第二數五千未滿ノ漁船ニ在リテハ梁受板、梁壓材、船錨、彎曲部縱通材及側內厚板ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ二倍以上ト爲シ適當ノ固著釘チ以テ之チ固著スヘシ

第二十三條　第二數一萬未滿ノ漁船ニ在リテハ梁壓材チ以テ船錨チ兼用スルコトヲ得

第二十四條　甲板梁ノ心距朝鮮木船檢査規程第六十三條ニ揭クルモノヨリ小ナルトキハ心距ノ割合ニ應シ梁ノ寸法チ減スルコトヲ得

梁柱ノ數チ增ストキハ適當ニ梁ノ寸法チ減スルコトヲ得

第二十五條　木製梁柱ノ截面ハ船ノ幅ト深ノ和毎一呎半ニ付一平方吋ノ割合ト爲スヘシ

第二十六條　深五呎未滿ノ漁船ニ在リテハ船首肘材ノ竪ハ一箇ト爲シ船尾肘材ハ之チ省略スルコトヲ得

第十七輯　交通　電氣　第二章　運輸　第四款　船舶

有スト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條　上甲板ニ設クル機關室口、艙口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ノ緣材ハ其ノ高チ甲板上面ヨリ第一級漁船ニ在リテハ九吋以上、第二級漁船ニ在リテハ六吋以上ト爲スヘシ但シ直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ若ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ緣材ノ高チ減シ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第十一條　上甲板ニ設クル汽機室口及汽鑵室口ニハ甲板上面ヨリ第一級漁船ニ在リテハ一呎半以上、第二級漁船ニ在リテハ一呎半以上ノ高チ有スル圍壁ヲ取附ケ汽機室口ノ上端ニ天窓ヲ設クヘシ

第十二條　艙口ニハ堅牢ナル蓋板チ備ヘ且之チ堅固ニ密閉スル爲覆布及適當ノ締具チ備フヘシ但シ檢査官吏カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノチ備フルトキハ覆布ハ之チ備ヘサルコトヲ得

暴露甲板ノ機關室口、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋若ハ蓋板及覆布竝適當ノ締具チ備ヘ又ハ水密トナルヘキ其ノ他ノ裝置チ爲スヘシ但シ檢査官吏ニ於テ水密ト爲スヘキ必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

第二章　木製漁船

第十三條　第二數四千未滿ノ漁船ニ在リテハ船體ノ構造及寸法カ本章ノ定ムル所ト同一ノ強力チ有セサル場合ト雖檢査官吏カ用途ニ差支ナシト認ムルトキハ第二級漁船ノ資格チ與フルコトヲ得

第十四條　內龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ寸法ト均シク爲スコトヲ得

第二數一萬二千五百未滿ノ漁船ニ在リテハ外部腰板チ設クルコトヲ要セス

第三十一條　長深ノ八倍チ超ユル漁船ニ在リテハ梁壓材及舷側厚板ハ十分ノ一以上、內龍骨ハ五分ノ一以上過當比例ニ從ヒ適當ニ其ノ截面チ增スカ又ハ之ニ代ルヘキ補强構造チ爲スヘシ

第三十二條　低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及上甲板ノ梁壓材竝受梁材又ハ梁受板ハ第二數八千八百未滿ノ漁船ニ在リテハ肋骨ノ心距ノ三倍以上、第二數四千二百未滿ノ漁船ニ在リテハ肋骨ノ心距ノ二倍以上相當ヌヘシ

第三十三條　汽機室口及汽鑵室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板チ盤ルコトヲ要セス

第二數八千五百未滿ノ漁船ニ在リテハ汽機室口及汽鑵室口ノ牛梁ニ附スル橫梁曲材ハ適當ニ其ノ數チ減スルコトヲ得

第三十四條　長十呎未滿ノ機關室口ニハ朝鮮木船檢査規程第百二十九條ニ規定スル構造チ爲ササルコトヲ得

第三十五條　彎曲部縱通材ハ各材ノ幅五吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ鉚釘チ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘チ以テ之チ固著スルコトヲ得

第三十六條　梁受材又ハ梁受板ハ其ノ幅七吋未滿ナルトキハ肋骨每ニ鉚釘一箇チ以テ之チ固著スルコトヲ得

第三十七條　內部腰板及各層梁ノ副梁受板ノ備帆チ備フヘシ

第二十七條　第二數四千四百未滿ノ漁船ニ在リテハ汽機室口、汽鑵室口、長五呎以上ノ艙口兩端梁及檣ノ前後ノ梁ノ外梁曲材ハ之チ省略スルコトヲ得

第二十八條　第二數一萬二千五百未滿ノ漁船ニ在リテハ柔材チ以テ肋骨チ構成スル場合ト雖梁曲材ニ用ウル鉚釘ハ外板マテ貫通セシムルコトチ要セス

第二十九條　第二數四千未滿ノ漁船ニ在リテハ內張板チ設クルコトチ要セス

第二數八千五百未滿ノ漁船ニ於テ外板ノ厚及彎曲部縱通材ノ幅チ增ストキハ內張板チ設クルコトチ要セス

第三十條　第二數二萬五千未滿ノ漁船ニ在リテハ外部腰板チ設クルコトチ要セス

第三十一條　長深ノ八倍チ超ユル漁船ニ在リテハ梁壓材及舷側厚板ハ十分ノ一以上、內龍骨ハ五分ノ一以上過當比例ニ從ヒ適當ニ其ノ截面チ增スカ又ハ之ニ代ルヘキ補强構造チ爲スヘシ

第三十二條　低船首樓甲板又ハ低船尾樓甲板及上甲板ノ梁壓材竝受梁材又ハ梁受板ハ第二數八千八百未滿ノ漁船ニ在リテハ肋骨ノ心距ノ三倍以上、第二數四千二百未滿ノ漁船ニ在リテハ肋骨ノ心距ノ二倍以上相當ヌヘシ

第三十三條　汽機室口及汽鑵室口ノ兩側ハ堅材ノ木甲板チ盤ルコトチ要セス

第二數八千五百未滿ノ漁船ニ在リテハ汽機室口及汽鑵室口ノ牛梁ニ附スル橫梁曲材ハ適當ニ其ノ數チ減スルコトチ得

第三十四條　長十呎未滿ノ機關室口ニハ朝鮮木船檢査規程第百二十九條ニ規定スル構造チ爲ササルコトチ得

第三十五條　彎曲部縱通材ハ各材ノ幅五吋未滿ナルトキハ肋骨一本置ニ鉚釘チ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘チ以テ之チ固著スルコトチ得

第三十六條　梁受材又ハ梁受板ハ其ノ幅七吋未滿ナルトキハ肋骨每ニ鉚釘一箇チ以テ之チ固著スルコトチ得

第三十七條　內部腰板及各層梁ノ副梁受板ノ備帆チ備フヘシ

固著鉚釘ハ外板マテ貫通セシメサルコトチ得

第三十八條　第二數五千未滿ノ漁船ニ在リテハ船錨ト舷側厚板トノ固著ニハ打込釘ノミチ用ウルコトチ得

第三十九條　梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ五箇迄之チ減スルコトチ得

第四十條　外板ハ其ノ幅八吋半未滿ナルトキハ肋骨每ニ二箇、幅八吋半以上十吋半未滿ナルトキハ肋骨每ニ三箇、幅十吋半以上ナルトキハ肋骨每ニ四箇ノ釘チ以テ之チ固著スヘシ但シ外板ノ幅十吋半以上ナルトキハ雖單材チ以テ肋骨チ構成スル漁船及肋骨每ニ木釘チ用ウル漁船ニ在リテハ肋骨每ニ三箇チ用ウルコトチ得

第四十一條　舵心材ノ寸法ハ檢査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之チ減少スルコトチ得

第四十二條　第二數五千未滿ノ漁船ニ在リテハ船底包板ハ最大喫水線上六吋ノ所ニ止ムルコトチ得

第四十三條　「スクーナー」形漁船ノ「ガフ」ノ徑ハ長五呎ニ付一吋ト爲スコトチ得

第三章　鋼製漁船

第四十四條　第二級漁船ニシテ漁業上輕快ナル動作チ要スルモノニ在リテハ第二數五千未滿ノモノニ限リ檢査官吏ニ於テ適當ノ構造チ有スト認ムルトキハ左ノ規定ニ從ヒ各部ノ寸法チ減少スルコトチ得

一　正肋材及副肋材ノ橫邊ノ幅チ各二分ノ一吋減少シ且肋骨ノ心距チ二十四吋マテニ爲スコト

二　船底銳形ナル漁船ニ於テ肋板ノ高又ハ厚チ增加スルトキハ二箇ノ內龍骨用山形材チ以テ中心線內龍骨チ構成スルコト

三　梁チ肋骨每ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ正肋材ノ寸法ト均シク又梁上側板、梁上帶板、梁上側板ニ附スル山形材ノ寸法ハ之チ朝鮮鐵鋼船檢査規程ニ定ムル寸法ノ四分ノ一以內減少スルコト

四　舵心材及舵針ノ寸法ハ檢査官吏ノ見込ニ依リ適當ニ之チ減少スルコト

第四章　屬具

第四十五條　近海航路以上ノ帆船ニハ左ノ艤備帆チ備フヘシ

橫帆チ備ヘサル船	スクーナー　一箇
	カッター、ケッチ、スループ　一箇
	ラッガー　一箇
橫帆チ備フル船	フオールステースル　一箇
	フオールスル　一箇
	フオースル　一箇
	フオースル又ハメインスル　一箇
	フオールステースル　一箇
	トップスル　一箇

第四十六條　第二數一萬未滿ノ漁船ニ在リテハ容積ト面積トニ依リ算出シタル員數ヲ比較シ其ノ少數チ以テ該室ノ船員定員トス

第三編　機關部

第一章　汽機、汽鑵及發動機

第五十二條　朝鮮船舶檢査令施行規則第四條第二項ニ依リ船舶ノ製造中其ノ特別檢査チ執行スルトキハ左ノ時期ニ於テ臨檢スヘシ

一　汽機ノ汽筒、冷汽器、唧筒、船尾管等ノ仕上了リタルトキ及諸軸、諸錨ノ粗削チ爲シタルトキ

二　汽鑵各部ノ組立チ爲シ鉸釘孔チ精穿シタルトキ

三　發動機ノ氣筒、吸錨、諸軸、諸錨及推進器逆轉機又ハ推進器轉動機ノ仕上了リタルトキ

四　瓦斯發生爐及瓦斯洗滌器ノ組立了リタルトキ

五　水壓試驗執行ノトキ

六　其ノ他檢査官吏ノ必要ト認ムルトキ

第五十三條　朝鮮機關檢査規程第六條乃至第十一條、第十五條、第十八條及第十九條ノ規定ハ之チ漁船ノ機關ニ適用セス

第二章　唧筒、喞筒、噴子、管及屬具等

第五十四條　機關室ニハ正給水唧筒及正急水唧筒各一箇チ備フヘシ

第五十五條　第十一條ニ揭ケタル船舶ニ在リテハ第一級漁船ニ在リテハ二箇以內、第二級漁船ニ在リテハ一箇以內ニ減少スルコトヲ得

第五十六條　屬具ハ第三號表及第四號表ニ依リ之チ備フヘシ但シ平水航路ノ漁業汽船ニ在リテハ朝鮮船舶檢査規程第八號表、漁業發動機船ニ在リテハ同第九號表ニ依ル

附　則

本令ハ朝鮮船舶檢査令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表略ス）

●朝鮮船鑑札規則

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第六十六號
改正　大正十一年第二五號

朝鮮船鑑札規則左ノ通定ム

朝鮮船鑑札規則

第一條　總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ノ所有者ハ朝鮮ニ船籍港ヲ定メ船鑑札ヲ受クヘシ但シ左ニ揭ケル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

一　總噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノ帆船

二　端舟其ノ他櫓櫂ノミヲ以テ運轉スル舟

主トシテ櫓櫂ヲ以テ運轉スル舟

第二條　前條ニ規定スル船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船鑑札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ提出スヘシ

管海官廳其ノ他ノ官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

第三條　地方官廳ニ於テ前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ船舶ノ積量ヲ測度スヘシ但シ前條第二項ノ證明書ヲ提出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條　地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ爲シタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ提出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船鑑札ヲ交付スヘシ

第四條ノ二　船鑑札ヲ受有スル船舶ハ船體外部ニ於テ船首兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船舶ノ所屬道名及船鑑札番號ヲ標示スヘシ

特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ當該官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其他久シキニ耐エル方法ニ依リ高幅共四吋以上ノ文字ヲ以テ明瞭ニ之ヲ現ハシ船名及適名ハ國字船鑑札番號ハ亞剌比亞數字ト爲スヘシ標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其標示ヲ改ムヘシ

第五條　船鑑札ハ船舶ニ備置キ船長其ノ他船舶ヲ指揮スル者之ヲ保管シ當該官吏ニ於テ檢閱ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキヌ又ハ船鑑札ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ書換ヲ申請スヘシ

第二條第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ヲ積量ノ變更ニ係ル場合ニ之ヲ準用ス

船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ヲ船舶所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一項ノ申請ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第七條　船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更ヲ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方官廳ハ之ヲ改測ヲ爲スヘシ

第三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條　甲地方官廳ノ管轄區域内ニ定メタル船籍港ヲ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ變更セムトスルトキハ船舶所有者ハ事由ヲ疏明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ遲滯ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ添ヘ其ノ旨乙地方官廳ニ通知スヘシ

第九條　行政區畫變更ノ爲船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タス遲滯ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送付スヘシ

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但シ前項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　船鑑札カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條　地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第二項ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムルトキハ之ヲ船舶所有者ニ交付スヘシ

第十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一　船舶カ滅失若ハ沈沒シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ

二　船舶カ朝鮮船舶令第一條各號ニ該當セサルモノト爲リタルトキ又ハ船舶ノ存否カ六月間分明ナラサルトキ

三　船舶カ總噸數二十噸以上又ハ積石數二百石以上ト爲リタルトキ又ハ本令ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受クルコトヲ要セサルモノト爲リタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハサルトキハ第十條ノ場合ヲ除クノ外其ノ事由ヲ疏明スヘシ

第十三條　船鑑札ヲ受有スヘキ船舶ニシテ朝鮮船舶檢査令ノ適用ヲ受クルモノノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得

第十四條　地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船舶ニ臨視セシメ必要アリト認ムルトキハ積量ノ改測又ハ標示ヲ爲サシムヘシ

第十五條　第一條ノ船鑑札ヲ受有セス若ハ第四條ノ二ノ規定ニ依ル標示ヲ爲サシテ船舶ヲ航行セシメタルトキ第五條、第六條第一項、第八條第一項、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

第十六條　本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　本令施行前受有シタル船鑑札又ハ船準牌ハ本令施行ノ日ヨリ六月間仍其ノ效力ヲ有ス

前項ニ規定スル船鑑札及船準牌ノ所有者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ本令ノ規定ニ依リ船鑑札ノ交付ヲ申請スヘシ

船鑑札ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ之ト引換ニ舊船鑑札又ハ船準牌ヲ返還スヘシ

第十八條　本令施行前受ケタル假船鑑札ハ仍其ノ效力ヲ有ス

假船鑑札ノ有效期限ヲ經過シタルトキハ船舶所有者ハ假船鑑札ヲ返還スヘシ

第一號書式

船鑑札交付申請書

一　船種（汽船、帆船ノ別ヲ記シ發動機船ナルトキハ其ノ旨）　船名

二　船籍港　何府又ハ何面（何道何郡何面）

三　造水年月日

四　尺度（船體ノ長大幅、深）

五　測度ヲ受ケムトスル場所

六　申請ノ事由（新造、朝鮮外ヨリ購入等）

右船舶ニ對シ船鑑札交付相成度此段申請候也

年　月　日

住所
所有者　氏　名印

地方官廳　宛

第二號書式

船鑑札

第　號

汽
帆　船　丸

住所
氏名

年　月　日

地方官廳　㊞

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

支水隔壁ノ構造、寸法及因著ハ從前ノ規定ニ合格スルトキハ當分ノ內之ヲ本令ニ合格スルモノト看做ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

●船舶ノ建造又ハ修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ承認ニ關スル件

船舶ノ建造又ハ修繕ノ爲使用スヘキ物品ノ承認ニ關シテハ大正十五年遞信省令第十五號船舶建造及修繕用物品承認規則ニ依ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶建造及修繕用物品承認規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前爲シタル船舶建造用物品承認申請ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前爲シタル船舶修繕用物品承認申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲タルモノト看做ス

●朝鮮船舶積量測度令

大正三年四月二十三日
勅令第十四號

朝鮮船舶積量測度令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮船舶積量測度令

船舶ノ積量ノ測度竝積量ノ改測ノ場合ニ於ケル登錄稅及登記ニ關シテハ船舶積量測度法ニ依ル但シ同法中主務大臣トアルハ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶積量測度規程

大正三年九月二十九日
朝鮮總督府令第三十九號

朝鮮船舶積量測度規程左ノ通定ム

朝鮮船舶積量測度規程

第一章　總則

第一條　長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ呎ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ呎ヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入シ石數ヲ算定スルニハ第三章乃至第五章ノ規定ニ拘ラス其ノ內面ニ於ケル平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十條　第三章乃至第五章ノ規定ニ於テ一區分トシテ容積ヲ算定スヘキ場所ニシテ形狀複雜ナルモノニ在リテハ檢査官吏ニ於テ計算上精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限リ之ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ當該規定ヲ適用シ其ノ容積ヲ算定スルコトヲ得

第十一條　特殊ノ構造ノ有シ又ハ特別ノ事由アルカ爲本令ノ測度方法ニ依リ難キ船舶ニ

船籍港

長（幅）（深）　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ記載スルコトヲ要セス

總噸數（登簿噸數）　石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數

進水年月日

備考

一　發動機船ナルトキハ汽帆船ノ位置ニ發動機船ト記載スヘシ

二　船鑑札ノ寸法ハ曲尺壹五寸幅三寸厚及木質ハ適宜トス

●朝鮮造船規程

大正十一年十一月十八日
朝鮮總督府令第一百四十四號

朝鮮造船規程左ノ通改正ス

第一條　船體及機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外遞信省令造船規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長、鰹窟試驗規程トアルハ朝鮮鰹窟試驗規程、滿載吃水線ノ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線、滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ揭ケル第一級又ハ第二級閉鎖裝置トアルハ之ニ相當スル閉鎖裝置トス

第二條　本令ニ依リ製造スル船舶ノ滿載吃水ハ船舶ノ種類ニ應シ朝鮮總督府遞信局長ノ適當ト認ムルモノニ依ル

第三條　朝鮮總督府遞信局長ハ吃水ノ深淺ニ應シ本令ニ該當セサル構造及寸法ヲ認可スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮造船規程左ノ通改正ス

第一條　船體及機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外遞信省令造船規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長、鰹窟試驗規程、滿載吃水線ノ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線、滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ揭ケル第一級又ハ第二級閉鎖裝置トアルハ之ニ相當スル閉鎖裝置トス

第二條　本令ニ依リ製造スル船舶ノ滿載吃水ハ船舶ノ種類ニ應シ朝鮮總督府遞信局長ノ適當ト認ムルモノニ依ル

第三條　朝鮮總督府遞信局長ハ吃水ノ深淺ニ應シ本令ニ該當セサル構造及寸法ヲ認可スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮造船規程

大正十一年十一月十八日
朝鮮總督府令第一百四十四號

朝鮮造船規程左ノ通改正ス

第一條　船體及機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外遞信省令造船規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長、鰹窟試驗規程、滿載吃水線ノ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線、滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ揭ケル第一級又ハ第二級閉鎖裝置トアルハ之ニ相當スル閉鎖裝置トス

第二條　本令ニ依リ製造スル船舶ノ滿載吃水ハ船舶ノ種類ニ應シ朝鮮總督府遞信局長ノ適當ト認ムルモノニ依ル

第三條　朝鮮總督府遞信局長ハ吃水ノ深淺ニ應シ本令ニ該當セサル構造及寸法ヲ認可スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮造船規程

大正十一年十一月十八日
朝鮮總督府令第一百四十四號

朝鮮造船規程左ノ通改正ス

第一條　船體及機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外遞信省令造船規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長、鰹窟試驗規程、滿載吃水線ノ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線、滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ揭ケル第一級又ハ第二級閉鎖裝置トアルハ之ニ相當スル閉鎖裝置トス

第二條　本令ニ依リ製造スル船舶ノ滿載吃水ハ船舶ノ種類ニ應シ朝鮮總督府遞信局長ノ適當ト認ムルモノニ依ル

第三條　朝鮮總督府遞信局長ハ吃水ノ深淺ニ應シ本令ニ該當セサル構造及寸法ヲ認可スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮造船規程

大正十一年十一月十八日
朝鮮總督府令第一百四十四號

朝鮮造船規程左ノ通改正ス

第一條　船體及機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外遞信省令造船規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長、鰹窟試驗規程、滿載吃水線ノ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線、滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ揭ケル第一級又ハ第二級閉鎖裝置トアルハ之ニ相當スル閉鎖裝置トス

第二條　本令ニ依リ製造スル船舶ノ滿載吃水ハ船舶ノ種類ニ應シ朝鮮總督府遞信局長ノ適當ト認ムルモノニ依ル

第三條　朝鮮總督府遞信局長ハ吃水ノ深淺ニ應シ本令ニ該當セサル構造及寸法ヲ認可スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條　分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ謂フ

一　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ二重底內底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

二　前號ノ船舶ノ二重底內底板カ凸面ナルトキハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ內底板迄ト雖板ノ上面迄ト雖從ヒ船首材ノ兩舷ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁ノ梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

二　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ平ル距離

第三條　分長點ト稱スルハ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

三　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ

第五條　分深點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ニ應シ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

量噸甲板ノ長	等分數
五十呎以下	四
五十呎ヲ超エ百二十呎以下	六
百二十呎ヲ超エ百八十呎以下	八
百八十呎ヲ超エ二百二十五呎以下	十
二百二十五呎ヲ超ユルモノ	十二

第四條　分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ謂フ

一　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ二重底內底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

二　前號ノ船舶ノ二重底內底板カ凸面ナルトキハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ內底板迄ト雖板ノ上面迄ト雖從ヒ船首材ノ兩舷ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁ノ梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

二　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ平ル距離

第三條　分長點ト稱スルハ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

三　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ

第五條　分深點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ニ應シ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

量噸甲板ノ長	等分數		
	二重底內底板カ凹面ナルトキ	其ノ他ノ場合	
十六呎以下	五	四	
十六呎ヲ超エルモノ	七	六	

第四條　分長點ノ深ト稱スルハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ謂フ

一　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ二重底內底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

二　前號ノ船舶ノ二重底內底板カ凸面ナルトキハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ內底板迄ト雖板ノ上面迄ト雖從ヒ船首材ノ兩舷ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁ノ梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

二　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ平ル距離

第三條　分長點ト稱スルハ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

三　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテハ舷側外板ノ上面ヨリ肋板又ハ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚ヲ減シタルモノ

第五條　分深點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ニ應シ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

量噸甲板ノ長	等分數		
	二重底內底板カ凹面ナルトキ	其ノ他ノ場合	
十六呎以下	五	四	
十六呎ヲ超エルモノ	七	六	

副分深點ト稱スルハ二重底內底板カ凹面ナル場合ニ於テ最下ノ分深點間ヲ四等分シタル點ヲ謂フ

第六條　分深點及副分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船側內張板ノ內面ヨリ內面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

船側內張板ノ厚ニ差異アルトキハ其ノ平均ノ厚ノ所ヲ船側內張板ノ內面ト看做ス

第七條　遮浪甲板ト稱スルハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘサル甲板ヨリ有スル全通船樓甲板ヲ謂フ

遮浪甲板ハ船舶積量測度法第二條ニ揭クル甲板ノ層數ニ加ヘス

第八條　船舶積量測度法第三條及第四條ニ揭

付テハ朝鮮總督ノ相當ト認ムル測度方法ニ依ル

第二章　量噸甲板下ノ噸數及舷端以下ノ噸數

第十二條　分長點ニ於ケル横截面積ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一　分長點ノ深ヲ四等分又ハ六等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ上下兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘ス

二　分長點ノ深ヲ五等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第五分深點以上ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ第五分深點及第六分深點ノ幅ノ四分ノ一ト幅分深點ヲ上端ヨリ數ヘ其ノ第一及第三ノ幅ト第二ノ幅ノ二分ノ一トヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ各部分ヲ加ヘシ

三　分長點ノ深ヲ七等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第七分深點以上ノ部分ニ付テハ第一號ノ規定ヲ適用シ最下分深點間隔ノ部分ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用シ各部分ヲ加ヘシ

第十三條　量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外分長點ニ於ケル横截面積ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル面積ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ニ當ル面積ハ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十四條　船首尾船ヲ除キ二重底内底板又ハ肋板ノ高ニ階段アル船艙ノ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ各階段ニ從ヒ船體ヲ區分シ各區分毎ニ量噸甲板ノ長ヲ測リ之ヲ第三條ノ量噸甲板ノ長ニ充テ分長點ヲ定メ第五條ノ規定ニ依リ定メタル分深點等分數ヲ以テ各區分ノ分深點ヲ定メ前條ノ規定ヲ適用シ各容積ヲ算定シ之ヲ加ヘタルモノヲ百ニテ除スヘシ但シ各區分毎ニ測リタル量噸甲板ノ長カ三十呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ各分長點ニ於ケル横截面積ヲ算定シ中央ノ面積ノ四倍ニ前後ノ面積ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ該區分ノ容積ヲ算定スヘシ

第十五條　鋤鍵溝ヲ有スル漫漑船ノ量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ鋤鍵溝ノ末端隔壁ヲ境界トシテ船體ヲ區分シ各區分毎ニ前二條ニ規定スル方法ニ依リ算定シタル各容積ヲ加ヘタルモノヲ百ニテ除スヘシ

第十六條　舷端以下ノ噸數ヲ算定スル方法ヲ準用スヘシ

第三章　量噸甲板上ノ噸數及舷端以上ノ噸數

第十七條　量噸甲板上各甲板間ノ噸數ヲ算定スルニハ甲板間ノ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船首内張板ノ内面ヨリ船尾内張板ノ内面ニ至ル長ヲ測リ之ヲ量噸甲板ノ長ヲ除シ各分長點ノ高ノ中央ニ於テ内面ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔ノ三分ノ一及甲板間ノ平均ノ高ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十八條　上甲板上及舷端以上艙圍シタル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

一　量噸甲板ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル船艙、甲板室其ノ他艙圍シタル場所ニ在リテハ高ノ中央ニ於ケル内面ノ幅ヲ測リ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ一ヲ加ヘ之ニ平均ノ高ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

二　量噸甲板ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船艙、甲板室其ノ他艙圍シタル場所ニ在リテハ其ノ長ヲ四等分シ前條ニ規定スル方法ヲ準用スヘシ

第十九條　船舶積量測度法第三條第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ上甲板上ノ艙圍ノ噸數ヲ全部又ハ一部ヲ總噸數ニ算入スルハ登簿噸數ヲ減少スル結果ヲ生スル場合ニ限リ前項ノ機關室ノ噸數ニハ上甲板上ニ在ル機關室圍壁及之ニ附屬スル蔽圍シタル場所ノ噸數ヲモ包含ス

第一項ノ機關室ノ噸數ノ一部ト稱スルハ機關室ニ依リ區畫シタル堅所ノ噸數ヲ謂フ

第二十條　船艙、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ其ノ側壁又ハ端壁ニ幅三呎以上高四呎以上（繰材ヲ附スルトキハ其ノ高

項第一號乃至第三號ニ掲クルモノニ準スヘキモノト認ムル場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第五章　登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數

第二十五條　登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ噸數ノ算定ニ付テハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外第十八條ノ規定ヲ準用ス

第二十六條　船員常用室ト稱スルハ船長ノ專用スル諸室、海員ノ專用スル寢室、食堂、食器室、飲食料倉庫、洗面室、浴室、病室、藥局、賄室及便所竝上各室ニ專屬スル通路及採光通風ニ要スル場所ヲ謂フ

第二十七條　海圖室ト稱スルハ海圖、信號器具ノ他航海用器具ニ供用セラルル場所ヲ謂フ

第二十八條　荷足水船ト稱スルハ二重底水船ヲ除クノ外人孔ノミヲ備ヘ貨物、倉庫品及燃料ヲ積載スルニ適セサル構造ニ有スル水船ヲ謂フ

第二十九條　荷足水船ノ噸數ヲ算定スルニハ水船ノ頂板ノ長ヲ測リ其ノ長三十呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ三十呎ヲ超ユルトキハ之ヲ三等分シ量噸甲板ノ長ニ充テ之ヲ等分シ又船ノ中央ニ近キ分長點ノ深ヲ測リ其ノ深十六呎以下ナルトキハ之ヲ二等分シ十六呎ヲ超ユルトキハ之ヲ四等分シ第十二條及第十三條ノ規定ヲ準用スヘシ

第三十條　機關室ノ噸數ト稱スルハ第三十一條及第三十二條ニ掲クル場所ノ噸數ヲ加タルモノヲ謂フ

第三十一條　機關室ノ冠頂下ノ場所、冠頂下ノ上甲板上ノ場所、上甲板上ノ車軸隧道ノ噸數ヲ算定スルニハ平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第三十二條　螺旋推進器ヲ有シ車軸隧道ヲ設ケサル船舶ニ於テ車軸ニ供用セラルル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ中間軸ノ徑ノ三倍ヲ

自乘シ之ニ機關室後端隔壁ヨリ船尾管前端ニ至ル長ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第三十三條　機關室内ニ船舶ノ推進ニ關係ナキ場所アルトキハ其ノ平均ノ長、幅、深ヲ乘シテ得タル容積ヲ機關室ノ容積ヨリ除去スヘシ

第三十四條　船舶積量測度法第六條第一項第二號但書ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請アリタル場合ニ於テ同項第一號ノ規定ヲ適用スルハ機關室ノ噸數カ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ在リテハ總噸數ノ百分ノ十三以下、外車ヲ備フル船舶ニ在リテハ總噸數ノ百分ノ二十以下ニシテ特別ノ事由アル場合ニ限ル

第三十五條　水夫長倉庫ト稱スルハ甲板用諸器具、覆布、滑車類、端艇用附屬具、救命具及索類ヲ藏置スル場所ヲ謂フ

第三十六條　登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ水夫長倉庫ノ噸數ハ總噸數ニ應シ左表ニ掲クル控除噸數ヲ超ユルトキハ之ヲ該噸數ニ止ム但シ七十五噸ヲ超ユルコトヲ得ス

總噸數	控除噸數
百五十噸未滿	三噸
百五十噸以上五百噸未滿	總噸數ノ百分ノ二
五百噸以上千噸未滿	十噸
千噸以上	總噸數ノ百分ノ一

第三十七條　無線電信機具、其ノ從事員室、飲料水蒸溜機、消防消毒用瓦斯發生機（サーモタンク）及「コッファーダム」ニ供用セラルル場所ノ噸數ハ登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ之ヲ控除スヘシ

第三十八條　回漕船ノ船梁上ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船艙ノ上端ヲ境界トシ之ヨリ船梁ノ上面ニ至ル平均ノ高ト船首室ノ境界ヨリ船尾室ノ境界ニ至ル長ト船艙ノ内面ヨリ内面ニ至ル平均ノ幅トヲ乘シテ得タル容積ヲ十二ニテ除スヘシ

船梁下ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニハ船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長ヲ測リ之ヲ四等分シ其ノ各等分點及首尾兩端ニ於テ深ヲ測リ又各深ノ上下及中間等分點ニ於テ深ヲ測リ其ノ幅ヲ測リ其ノ深、幅ト長トヲ乘シテ得タル容積ヲ十二ニテ除スヘシ

附則

本令ハ朝鮮船舶積量測度令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶積量測度心得

大正三年九月二十九日　朝鮮總督府訓令第四十九號

朝鮮船舶積量改測規則左ノ通定ム

朝鮮船舶積量改測規則

第一條　本令ハ船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ行フ場合ニ之ヲ適用ス

第二條　船舶ノ積量ノ改測ハ本令施行後始テ執行スル定期檢査ノ場合ニ之ヲ行フ

朝鮮船舶檢査令ノ適用ヲ受ケサル船舶ノ積量ノ改測ハ本令施行ノ日ヨリ三年内ニ之ヲ行フ

船舶所有者ヨリ特別ノ事由ヲ具シ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ相當ト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス改測ヲ行フコトヲ得

第三條　改測ヲ受クヘキ船舶ニシテ朝鮮船舶檢査令ノ適用ヲ受クサルモノノ所有者ハ前條第二項ノ期間内ニ於テ改測ヲ受ケムトスル管海官廳ニ改測ノ申請書ヲ提出スヘシ

前項ノ申請書ニハ船舶ノ番號、種類、船名、船籍港、總噸數、改測ノ爲檢査官吏ノ臨檢ヲ受ケムトスル場所及船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ改測ヲ申請スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ前條第三項ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスル船舶所有者ニ之ヲ準用ス

第四條　船籍港ヲ管轄セサル管海官廳ニ於テ改測ヲ行ヒタルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ

第二條第二項ニ掲クル船舶ニ付同項ノ期間内ニ前項ノ關係書類ヲ送付スルヲ怠ルトキハ當該官廳ハ豫メ其ノ旨ヲ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ通知スヘシ

第五條　船舶所有者ニ於テ第三條ノ申請ヲ爲ササル船舶ニ付テハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ職權ヲ以テ適宜ノ時期ニ於テ其ノ改測ヲ行フヘシ

前項ノ規定ニ依リ改測ヲ行フ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ

第六條　前四條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿ノ船舶ニ之ヲ適用セス

第七條　前條ノ船舶ニ付テハ地方長官其ノ定ムル所ニ依リ本令施行後五年内ニ其ノ積量ヲ改測ス

附則

本令ハ朝鮮船舶積量測度令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶積量測度心得

大正三年九月二十九日　朝鮮總督府訓令第五十五號
改正　大正五年第八號

朝鮮船舶積量測度規程第二條ノ規定ニ依リ量噸甲板ノ長ヲ測ルニハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　船首内張板及船尾内張板ト稱スルハ量噸甲板ノ直下ニ於ケル内張板ヲ謂フ

二　甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ量噸甲板上ニ於テ船首ヨリ船尾ニ至ル水平距離ヲ測リ得ルトキハ量噸甲板上面ニ沿ヒタル距離ノ代リニ該距離ヲ採ルモ妨ケシ

三　甲板ヲ備ヘサル船舶ニ在リテモ前項ニ準シ取扱フヘシ

船尾ニ戸建ヲ有スル木製帆船ニ在リテハ量噸甲板ノ長ハ戸建ノ内面迄測ルヘ

シ

四　船首ニ於テ上甲板ニ傾斜アル木製帆船ニ在リテハ量噸甲板ノ長ハ該甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部チ標準トシテ測ルヘシ

第八條　船首尾船ニ於ケル分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第九條　鐵鋼船ノ船底内張板及船内船側内張板ノ厚カ三吋チ超エルトキハ之チ三吋ト看做スヘシ

鐵鋼船ノ冷藏艙ニ設ケル内張板ニ付テモ前項ニ準シ取扱フヘシ

鐵鋼船ノ船底内張板下ノ横木ノ高ハ之チ内張板ノ厚ニ算入ス

第十條　木船ノ内張板ノ厚ハ實際ノ寸法チ採ルヘシ

木船ノ肋根材上ニ設ケタル横木ノ高ハ内張板ノ厚ニ算入セス

木船ノ梁受板、艙内縱通材及彎曲部縱通材ハ内張板ノ一部ト看做シ船艙ノ幅チ測ルヘシ

第十一條　朝鮮船舶積量測度規程第六條第二項ニ揭ケル船側内張板ノ平均ノ厚ハ内張板又ハ「バッテン」ノ間隔カ一呎以下ナルトキハ其ノ厚ノ平均チ、一呎チ超エルトキハ其ノ厚チ全心距ニ等分シタルモノチ採ルヘシ

前項ノ間隔カ三呎チ超エルトキハ内張板ナキモノト看做シ取扱フヘシ

第十二條　内張板チ備ヘサル船艙ノ深ハ二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ上面迄、其ノ幅ハ肋骨ノ内面迄測ルヘシ但シ肋骨ノ心距四呎チ超ユル木船ノ船艙ノ深又ハ幅ハ外板ノ内面迄測ルヘシ

第十三條　艙内ニ内張板チ有シ船首尾船又ハ機關室等ニ内張板チ有セサル船艙ノ船艙ノ深及幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法チ採ルヘシ

第十四條　分深點カ「ポップス」ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ分深點ノ幅ハ「ポップス」チ構成スル肋骨ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第十五條　肋骨ノ深ニ階段アル船艙ノ船艙ノ幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法チ採ルヘシ

肋骨一本置ニ肋骨ノ深チ異ニスル船艙ノ船艙ノ幅ハ深ノ大ナル肋骨迄測ルヘシ

第十六條　二重底チ備ヘサル船艙ノ船底ノ幅ハ肋板又ハ肋根材ニ水平ニ分アルトキハ該部分ノ幅チ採リ、肋板又ハ肋根材カ傾斜スルトキハ内龍骨ノ幅チ採ルヘシ

第十七條　二重底内底板カ凸面ナル場合ニ於テハ分長點ノ深ハ中心線ニ於ケル内底板迄ノ深ニ山形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル山形ノ高ノ三分ノ一チ加ヘタルモノ、蒲鉾形ナルトキハ縁板上ヨリ測リタル蒲鉾形ノ高ノ三分ノ一チ加ヘタルモノチ採ルヘシ

前項ノ場合ニ於テ最下分深點ノ幅ハ縁板ヨリ縁板ニ至ル水平距離チ測ルヘシ

二重底内底板カ船側ニ迄スル場合ニ於テハ船側肋骨チ内底板ニ固著スル肘板ノ内縁チ前二項ノ縁板ノ位置ト看做ス

第十八條　朝鮮船積量測度規程第五條ノ規定ノ適用ニ當リ中心線内底板上縁板トノ高ノ差カ六吋未滿ナルトキ又ハ内底板カ凹面ナルモ緩曲セサルトキハ副分深點チ設クスシテ前條ニ準シ測度スルモ妨ナシ

第十九條　上甲板上蔽圍シタル場所及登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ニシテ其ノ形狀複雜ナルモノニ在リテハ檢査官吏ハ計算上便宜ニシテ且精密ノ結果チ得ヘシト認ムル場合ニ限リ先ツ全容積チ測リ之ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積チ減シ其ノ場所ノ容積チ算定スルモ妨ナシ

第二十條　船舶積量測度法第三條及第四條ニ揭ケル副汽機ト稱スルハ蒸氣喞筒及喞筒ト連結シタル汽機チ謂フ

第二十一條　朝鮮船舶積量測度規程第二十條及第二十一條ニ揭ケル場所ニシテ旅客ニ供用セサルカ爲總噸數ニ算入セサル場所及船員常用室トシテ登簿噸數チ算定スル爲總噸數ヨリ控除シタル場所チ旅客ニ供用スルトキハ移民船檢査及臨時旅客檢査ノ場合ト雖モ面迄測ルヘシ

第二十二條　朝鮮船舶積量測度規程第十四條ノ規定チ適用スルニハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　全通二重底チ備ヘル船舶ニ在リテハ機關室ノ下部ニ於ケル二重底ノ一呎以下、機關室ノ下部以外ノ二重底ニ六吋以下ノ階段アルモ區分測度チ爲スニ及ハス

二　車軸隧道端室ニ於テ二重底又ハ普通肋板ニ階段アルモ區分測度チ爲スニ及ハス

三　二重底チ備フル船舶ニシテ汽鑵室ノ下部ノミニ二重底内底板チ張ラサルカ又ハ普通肋板チ有スルトキハ區分測度チ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高チ有スル二重底チ備フルモノト看做シ測度スヘシ

四　普通肋板ノミチ有スル船舶ニシテ機關室ノ下部ニ於ケル肋板ニ高低アルモ區分測度チ爲サスシテ他ノ部分ト同一ノ高チ有スル普通肋板チ有スルモノト看做シ測度スヘシ

五　二重底ノ階段カ漸次傾斜スルモノニ在リテハ該傾斜部ニ二重底ノ高ノ低キ部分ト同一區畫トシテ取扱フヘシ

第二十三條　漁船ノ生洲及淺澤船ノ泥艙ノ喞數ハ之チ總喞數ニ算入ス

前項ノ生洲及泥艙ニ付テハ區分測度チ爲サスシテ其ノ部分ノ分長點ノ深ハ其ノ前後ニ於ケル二重底内底板、肋板又ハ肋根材ノ上面ト延長面迄測ルヘシ

第三章　量噸甲板上ノ喞數及舷端以上ノ喞數

第二十四條　朝鮮船舶積量測度規程第十七條ニ揭ケル甲板間ノ平均ノ高トハ各分長點ニ於ケル中心線ヨリ船ノ幅ノ約四分ノ一ノ所ニテ測リタル上層甲板ノ下面ヨリ下層甲板ノ上面ニ至ル平均ノ高ノ平均チ謂フ

第二十五條　上甲板上及舷端以上蔽圍シタル場所ニシテ、船尾ニ在リテハ船尾戸迄、船首ニ於テハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄、船側ニ於テハ船側肋骨チ内底板ニ固著スル肘板ノ内縁チ連結シタル線迄ノ場所ヲ謂フ

第二十六條　朝鮮船舶積量測度規程第二十一條ニ揭ケル場所ニシテ旅客ノ喞數ヲ算定スルニ付テハ左ノ場所ノ喞數ヲ算入セス

一　船首尾船ニ在リテハ船首尾隔壁ヨリ船ノ幅ノ約十五吋ノモノト甲板間ニ設ケル排水孔ノ間隔ハ約三十呎ニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分セラルル場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス

朝鮮船舶積量測度規程第二十條ニ揭ケル排水口ノ寸法及排水孔ノ間隔ニ付テモ亦前項ニ準ス

第二十七條　船艙ノ深ノ算定ニ付テハ檢査官吏ハ「ポップス」ノ位置ニ拘ハラス實際ノ深ニ依ルヘシ

第二十八條　操舵機具、繫船機具、揚錨機具及副汽鑵、副汽機ニ供用スル爲特ニ設ケタル室又ハ區畫アルトキハ其ノ實際占有スル場所及檢査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所チ加ヘタルモノチ謂フ

第二十九條　朝鮮船舶積量測度規程第二十條ニ揭ケル扉ニ準シ取扱フヘキ常設閉鎖裝置トハ引戸及捩止釘又ハ鈎形止釘チ以テ閉鎖シ得ル板戸チ謂フ

出入口ノ兩側ニ設ケタル堅溝形材ニ挿板チ爲セル裝置ハ之チ前項ノ常設閉鎖裝置ト看做サス

船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口一箇チ有スルモノト雖該出入口ノ面積カ特ニ大ニシテ出入口二箇以上チ有スルモノ同一ノ效力チ有スト認メ得ヘキ場合ノ取扱ニ付テハ國商チ添ヘル意見ヲ具シ差

信局長官ノ指揮チ受クヘシ

第三十條　朝鮮船舶積量測度規程第二十一條ニ揭ケル適當ノ排水口トハ高約二十吋幅約十五吋ノモノトシ甲板間ニ設ケル排水孔ノ間隔ハ約三十呎ニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分セラルル場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス

朝鮮船舶積量測度規程第二十條ニ揭ケル排水口ノ寸法及排水孔ノ間隔ニ付テモ亦前項ニ準ス

第三十一條　廚室ト稱スルハ「ガレー」「スカレリー」及流シ場チ謂フ

第三十二條　上甲板以上ニ在ル出入口ノミニ供用セラルル場所ハ之チ出入口室ノ一部ト看做シ其ノ喞數チ總喞數ニ算入セス

第三十三條　朝鮮船舶積量測度規程第二十三條ニ揭ケル舷口及戧炭口ノ喞數チ算定スル場合ニ於テハ船首尾船又ハ機關室等ニ内張板チ有セサル船艙ノ船艙ノ深及幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法チ採ルヘシ

第三十四條　分深點カ「ポップス」ノ位置ニ在ル場合ニ於テハ分深點ノ幅ハ「ポップス」チ構成スル肋骨ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第三十五條　船首尾船ニ於ケル分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第三十六條　朝鮮船舶積量測度規程第二十一條ニ揭ケル船側内張板ノ平均ノ厚ハ内張板又ハ「バッテン」ノ間隔カ一呎以下ナルトキハ其ノ厚ノ平均チ、一呎チ超エルトキハ其ノ厚チ全心距ニ等分シタルモノチ採ルヘシ

前項ノ間隔カ三呎チ超エルトキハ内張板ナキモノト看做シ取扱フヘシ

第三十七條　操舵室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ操舵室ノ喞數ヲ算定スヘシ

第五章　登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除スヘキ場所ノ喞數

第三十八條　船員常用室ノ喞數ハ各室毎ニ内法寸法ヲ測リ算定スヘシ

第三十九條　海員ノ事務室竝水先人、郵便官吏、稅關官吏、檢疫官吏、買辦、漁船ニ於テ漁獵ノミニ從事スル者、理髮人及海員ニ非スシテ船中ニ於テ職務ヲ行フ者ニ供用セラルル諸室ノ喞數ハ之ヲ船員常用室ノ喞數ニ算入セス

船員及旅客ニ併用スル場所ノ喞數ハ之ヲ船員常用室ノ喞數ニ算入セス但シ旅客船ニ非サル船舶又ハ旅客ヲ搭載シタル爲旅客船ト爲リタル船舶ニ於テ船員及旅客ニ併用スル場所ノ喞數竝旅客船ニ臨時旅客ヲ搭載スル場所ノ喞數ハ之ヲ船員及臨時旅客ニ併用スル場所ノ喞數ハ之ヲ船員常用室ノ喞數ニ算入ス

第四十條　船首尾水船ハ淡水船ノミニ用ヰラルル場合ト雖之ヲ荷足水船ト看做ス

第四十一條　朝鮮船舶積量測度規程第二十九條ノ規定ニ依リ船首尾水船ノ喞數ヲ算定スル場合ニ於テ各分長點ノ深ハ船首尾隔壁ニ接スル二重底又ハ普通肋板ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第四十二條　機關室カ二室以上アル場合ニ於ケル各室間ノ通路機關室又ハ車軸隧道ヨリ上甲板ニ至ル通路ノ喞數ハ之ヲ機關室ノ喞數ニ算入ス

第四十三條　船舶積量測度法第四條ニ揭ケル主喞筒ト稱スルハ淦水排出ニ供用セラルル蒸氣喞筒ヲ謂フ

第四十四條　主機關ト連結シタル副汽鑵ニ供用セラルル場所ノ喞數ハ之ヲ機關室ノ喞數ニ算入ス

第四十五條　朝鮮船舶積量測度規程第三十三條ニ揭ケル機關室内ニ於ケル船舶ノ推進ニ關係ナキ場所ト雖モ該室内ニ於テ主機關ト連結セサル副汽鑵、發電機、製氷機、倉庫、工作場、操舵機、消防消毒用瓦斯發生機、飲料水蒸溜機、船内送風機ニ供用セラルル場所又ハ特ニ構成シタル機械類ノ保備螺旋軸置場ニシテ區畫アルトキハ其ノ實際占有スル場所及檢査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘタルモノヲ謂フ淺漑船其ノ他特殊ノ船舶ニ於テ特殊ノ目的ニ供用セラルル機械ノ据付ケタル場合亦同シ

第六章　積石數

第四十六條　石數船ノ船艙ノ石數ヲ算定スル船底ノ長ハ船首尾ノ内面ニ在リテハ船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長トス

船首室ノ境界ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底ノ長ハ船首ニ在リテハ船首室ノ境界カ内軸ト船底トノ交叉部ヨリ後方ニ在ルトキハ該交叉部ヨリ船首室ノ境界カ該交叉部ヨリ前方ニ在ルトキハ實際ノ境界ヨリ測リ船尾ニ在リテハ船尾戸迄ト航ノ交叉部ヨリ測ルヘシ

第四十七條　石數船ノ船艙ノ石數ヲ算定スル場所ノ喞數ハ之ヲ船艙ノ石數ニ算入セス

第四十八條　船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ハ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅ト稱スル上下及三箇所ノ中間等分點ニ於ケル平均ノ幅トノ平均チ謂フ

囘漕船以外ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅ト稱スル上下及三箇所ノ平均チ謂フ

第四十九條　石數船ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ハ加數ヲ有セサル船艙ニ在リテハ加數ヲ外板トノ接合部ヨリ、加數ヲ有セサル船艙ニ在リテハ航ト外板トノ接合部ヨリ測ルヘシ

第五十條　囘漕船ノ船梁下ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅ト稱スルハ上下及三箇所ノ中間等分點ニ於ケル平均ノ幅トノ平均チ謂フ

囘漕船以外ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅ト稱スルハ上下及三箇所ノ平均ヲ謂フ

第七章　噸數ノ表示

第五十一條　囘漕船ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅ト稱スルハ上下及三箇所ノ中間等分點ニ於ケル平均ノ幅トノ平均チ謂フ

囘漕船以外ノ船艙ノ石數ヲ算定スルニ用ウル深ノ上下及中間等分點ニ於ケル平均ノ幅ト稱スルハ上下及三箇所ノ平均ヲ謂フ

第五十二條　船舶ノ噸數ハ之ヲ英噸ニ換算シテ表示スヘシ

第五十三條　船舶ノ噸數ヲ英噸ニ換算スルニ付テハ左ノ換算率ニ依ルヘシ

一　英吉利國、英領印度、英領濠洲、英領加奈陀、英領南阿、英領紐西蘭、英領新嘉坡、英領香港、英領馬來半島、英領錫蘭、英領波斯灣、英領北婆羅洲、英領沙勞越、英領新幾内亞、英領斐濟、英領西印度諸島、英領圭亞那、英領洪都拉斯、英領貝里斯、英領「ホンコン」、英領「ケープ」、英領「ナタール」、英領「トランスバール」、英領「オレンジ」、英領「ローデシア」、英領「ニアサランド」、英領「ゴールドコースト」、英領「シエラレオネ」、英領「ガンビア」、英領「ナイジエリア」、英領「ウガンダ」、英領「ケニア」、英領「ソマリランド」、英領「ザンジバル」、英領「モーリシヤス」、英領「セイシエル」、英領「ソロモン」、英領「ギルバート」、英領「エリス」、英領「フイジー」、英領「トンガ」、英領「ニウエ」、英領「クック」、英領「ニユーヘブリデス」、英領「ピトケアン」、英領「サモア」、英領「ラブアン」、英領「ブルネイ」、英領「サラワク」、英領「ボルネオ」、英領「ヘルゴランド」、英領「ジブラルタル」、英領「マルタ」、英領「キプロス」、英領「ペルシヤ」、英領「ペルシヤ湾」、英領「ペルシヤ灣」、英領「ペルシヤ灣」、英領「ペルシヤ灣

船長ヨリ申請スルトキハ露西亞國ノ船舶積量測度規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シテ其ノ登簿噸數ヲ算定セラルヘシ

●佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關スル件

大正十五年一月二十八日
朝鮮總督府令第七號

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關スル件左ノ通定ム

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關シテハ大正十四年遞信省令第八十六號ニ依ル但シ同令中船舶檢査法施行細則トアルハ朝鮮船舶檢査令施行規則、船舶檢査規程第四號表トアルハ朝鮮船舶檢査規程第四號表、船舶檢査規程第五十八條トアルハ朝鮮船舶檢査規程第六十二條、滿載吃水線トアルハ船舶滿載吃水線法ニ依リ標示シタル滿載吃水線、附錄書式甲、乙（備考欄ヲ除ク）及丙中大正十四年遞信省令第八十六號トアルハ大正十五年朝鮮總督府令第七號トス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關スル件

大正十五年一月二十八日
朝鮮總督府令第八號

佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關スル件左ノ通定ム

佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關シテハ大正十四年遞信省令第八十七號ニ依ル但シ同令中日本トアルハ朝鮮、遞信大臣トアルハ朝鮮總督トス

附　則

本令ハ大正十五年一月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

●巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則

改正　大正一〇年第六五號
大正五年七月二七日
朝鮮總督府令第五七號

巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則左ノ通定ム

第一條　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ所有者ニシテ亞米利加合衆國政府ニ於テ千九百十三年十一月二十一日發布シタル巴拿馬運河船舶測度規則又ハ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依ル船舶ノ測度及噸數證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ附錄書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第二條　前條ノ申請ヲ爲ス者ハ測度ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第三條　管海官廳ニ於テ第一條ノ申請ヲ受ケタルトキハ巴拿馬運河噸數證書ニ在リテハ檢査官吏ヲシテ巴拿馬運河船舶測度規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製セシメ、蘇士運河噸數證書ニ在リテハ管海官廳ニ於テ蘇士運河會社ノ通航規則ニ依リ船舶ノ測度ヲ行ヒ噸數證書ヲ調製シ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ檢査官吏又ハ管海官廳ハ當該船舶ノ船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ申請者ヨリ提出セシムルコトヲ得

第四條　噸數證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲改測及證書ノ書換ヲ要スルモノト認ムルトキハ船舶所有者ハ附錄書式ノ申請書ヲ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第二條及第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　噸數證書ニ記載シタル事項中改測ニ關係ナキモノニ變更ヲ生ジタルトキ又ハ噸數證書ヲ毀損シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書換ノ申請書ニ現ニ有スル證書ヲ添附シ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

噸數證書ノ滅失ニ因リ其ノ再交付ヲ申請セムトスルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ巴拿馬運河噸數證書ニ在リテハ檢査官吏ヲシテ之ヲ調製セシメ、蘇士運河噸數證書ニ在リテハ管海官廳ニ於テ之ヲ調製シ申請者ニ交付スヘシ

第六條　噸數證書カ不用トナリタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク之ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

噸數證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ但シ前條第二項ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　噸數證書ニ記載シタル事項カ巴拿馬運河官憲又ハ蘇士運河會社ニ依リ變更セラレタルトキハ船舶所有者ハ當該船舶カ朝鮮ニ歸航シタル後遲滯ナク其ノ旨ヲ管海官廳ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ届出ト同時ニ噸數證書又ハ其ノ寫ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ巴拿馬運河噸數證書又ハ其ノ寫ニ在リテハ檢査官吏ヲシテ之ヲ查閱セシメ、蘇士運河噸數證書又ハ其ノ寫ニ在リテハ管海官廳之ヲ查閱シ噸數證書ニ付テハ查閱後遲滯ナク船舶所有者ニ返還スヘシ

第八條　船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄測度手數料表ニ定ムル測度手數料ヲ納付スヘシ

申請人ノ都合ニ依リ測度ノ申請ヲ取下ケタル場合ト雖測度著手後ナルトキハ測度手數料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ

第九條　噸數證書ノ交付、書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付四圓ノ手數料ヲ納付スヘシ

第十條　前二條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スヘシ

第十一條　本令ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳及測度執行地ハ之ヲ公示ス

特別ノ事由アルトキハ船舶所有者ハ其ノ事由ヲ疏明シ測度執行地外ニ於テ船舶ノ測度又ハ改測ヲ受クルコトヲ得

第十二條　測度執行地外ニ於テ測度又ハ改測ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者ハ檢査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

朝鮮船舶令施行規則第五十四條又ハ朝鮮船舶檢査令施行規則第八十二條ノ場合ニ於テ出張シタル檢査官吏ノ測度又ハ改測ヲ受クルトキハ前項ノ金額ハ相互ニ之ヲ通算ス

附　則

本令ハ大正五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正一〇年朝鮮總督府令第六五號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附錄

測度手數料表

總噸數	船舶種類	測度種類		新規測度又ハ全部改測		一部改測
		汽船及機關ヲ有スル帆船	機關ヲ有セサル帆船	汽船及機關ヲ有スル帆船	機關ヲ有セサル帆船	機關ヲ有セサル帆船
二十噸以上五十噸未滿		七圓	五圓	三圓	二圓	五百噸以上五圓
五十噸以上百噸未滿		十圓	七圓	五圓	三圓	
百噸以上三百噸未滿		十五圓	十圓	七圓	五圓	
三百噸以上五百噸未滿		二十圓	十五圓	十圓	七圓	
五百噸以上千噸未滿		二十五圓	二十圓	十五圓	十圓	
千噸以上二千噸未滿		三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	
二千噸以上三千噸未滿		四十圓	三十圓	二十五圓	二十圓	
三千噸以上四千噸未滿		五十圓	四十圓	三十圓	二十五圓	
四千噸以上六千噸未滿		六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	
六千噸以上八千噸未滿		七十圓	六十圓	四十五圓	三十五圓	
八千噸以上一萬噸未滿		八十圓	七十圓	五十圓	三十五圓	
一萬噸以上		百圓	八十圓	六十圓	四十圓	

備　考

一　量噸甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ之ヲ全部改測ト看做シ本表ニ規定セル手數料ヲ納付スヘシ

二　第八條第二項ノ場合ニ於テ總噸數ヲ定ムルコト能ハサルトキハ計畫總噸數ニ依リ測度手數料ヲ納付スヘシ

書式

汽（帆）船何丸

巴拿馬（蘇士）運河噸數證書交付（書換）申請書

右巴拿馬及蘇士運河噸數證書交付規則ニ依リ大正　年　月　日某所ニ於テ測度（改測）執行ノ上噸數證書交付（書換）相成度此段及申請候也

年　月　日

住所
所有者　何　某印

管海官廳宛

備　考

第十一條第二項ノ場合ニ於テハ測度執行地ニ於テ檢査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ附記スヘシ

●商法ノ海員名簿、屬具目錄、航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ關スル件

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第七十七號

商法第五百六十二條第一項ノ海員名簿、屬具目錄、航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　海員名簿ハ第一號書式、屬具目錄ハ第二號書式、航海日誌ハ第三號書式、旅客名簿ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

前項ノ書類ハ書式ニ示ス順序ニ依リ之ヲ編綴シ且各頁ニ頁數ヲ附スヘシ但シ其ノ紙數ハ適宜トス

第二條　前條ノ書類ハ書式ニ定メサル事項ヲ記載スル爲欄ヲ設クルコトヲ得

朝鮮沿岸ノミヲ航行スル船舶ニ在リテハ航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ定ムル事項ヲ省略スルコトヲ得

沿海航路ノミヲ航行スル船舶ニ在リテハ旅客名簿ヲ備ヘサルコトヲ得

前三項ノ場合ニ於テハ最寄管海官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　第一條ノ書類ニハ各事項ニ付英譯ヲ附シ又ハ頁ノ上部ニ船舶ノ名稱及船舶所有者ノ氏名（名稱）等ヲ附記シ又ハ記載心得等ヲ揭クルコトヲ得

第一條ノ書類ハ書式ニ定ムル事項ノ位置ヲ變更シテ之ヲ調製スルコトヲ得但シ其ノ順序ヲ變更スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

(一)

海員名簿

番號	船籍港	積量	航路定限	船舶所有者ノ氏名（名稱）及住所
丸				

(二)

官廳記事

備　考

(一)ハ書類ノ前付トス其ノ裏面ハ白紙トスヘシ(一)ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ(一)ニ於テ之ヲ訂正スル餘白ナキ場合ニハ裏面ニ於テ之ヲ訂正スヘシ以下各號書式ノ(一)ニ付テモ亦同シ

積量トアル下ニハ總噸數及登簿噸數、石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ積石數ヲ記入スヘシ以下各號書式ノ(一)ニ付テモ亦同シ

備　考　行數ハ適宜トス以下各書式中行ヲ附シタルモノニ付テモ亦同シ

（一）

第二號樣式

船員手帳

丸　　船

番號	船舶名	船籍港
第　號		

船長氏名及住所

名(名稱)及住所

船舶所有者

氏名

住所

本籍

年　月　日生

（二）

番號	雇入ノ年月日	雇入ノ場所	船舶ノ種類及總噸數	職務	給料	雇入期間	雇入ノ年月日	雇止ノ年月日	雇止ノ事由	雇止ノ場所	雇主ノ署名捺印	公認

（三）

雇入ノ場所	雇入ノ年月日	雇入期間	船名	職務	給料	公認	雇主ノ署名捺印	番號	雇入ノ年月日	雇止ノ年月日	雇止ノ事由	雇止ノ場所	雇主ノ署名捺印	公認

備考

一　雇入ノ場所ハ雇入ノ港ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

二　雇入期間ハ航海ノ種類ニ應シ左ノ如シ

一　定ノ航路ヲ往復スル航海ニ從事スル船舶ニ在リテハ一年ヲ超エサル期間

二　前號ニ掲ケサル航海ニ從事スル船舶ニ在リテハ航海ノ終ニ至ル期間

三　雇入ノ場所ハ雇入ノ港ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

四　雇入ノ年月日ハ船員カ船舶ニ乘組ミ其ノ職務ニ從事スヘキ義務ヲ負フニ至リタル日ヲ謂フ

五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

七　雇止ノ年月日ハ船員カ船舶ヲ離レ其ノ職務ヲ免ルル日ヲ謂フ

八　雇主ノ署名捺印ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二十三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二十四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二十五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二十六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二十七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二十八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二十九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三十　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三十一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三十二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三十三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三十四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三十五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三十六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三十七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三十八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三十九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

四十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

四十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

四十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

四十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

四十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

四十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

四十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

四十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

四十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

四十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

五十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

五十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

五十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

五十三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

五十四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

五十五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

五十六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

五十七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

五十八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

五十九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

六十　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

六十一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

六十二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

六十三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

六十四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

六十五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

六十六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

六十七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

六十八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

六十九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

七十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

七十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

七十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

七十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

七十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

七十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

七十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

七十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

七十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

七十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

八十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

八十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

八十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

八十三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

八十四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

八十五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

八十六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

八十七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

八十八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

八十九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

九十　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

九十一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

九十二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

九十三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

九十四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

九十五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

九十六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

九十七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

九十八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

九十九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百十三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百十四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百十五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百十六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百十七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百十八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百十九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百二十　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百二十一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百二十二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百二十三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百二十四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百二十五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百二十六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百二十七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百二十八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百二十九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百三十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百三十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百三十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百三十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百三十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百三十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百三十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百三十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百三十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百三十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百四十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百四十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百四十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百四十三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百四十四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百四十五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百四十六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百四十七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百四十八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百四十九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百五十　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百五十一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百五十二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百五十三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百五十四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百五十五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百五十六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百五十七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百五十八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百五十九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百六十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百六十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百六十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百六十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百六十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百六十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百六十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百六十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百六十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百六十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百七十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百七十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百七十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百七十三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百七十四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百七十五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百七十六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百七十七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百七十八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百七十九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百八十　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百八十一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百八十二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百八十三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百八十四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百八十五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百八十六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百八十七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百八十八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百八十九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百九十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百九十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百九十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百九十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百九十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百九十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百九十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百九十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

百九十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

百九十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百十　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百十一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百十二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百十三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百十四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百十五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百十六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百十七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百十八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百十九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百二十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百二十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百二十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百二十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百二十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百二十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百二十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百二十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百二十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百二十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百三十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百三十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百三十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百三十三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百三十四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百三十五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百三十六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百三十七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百三十八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百三十九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百四十　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百四十一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百四十二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百四十三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百四十四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百四十五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百四十六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百四十七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百四十八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百四十九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百五十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百五十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百五十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百五十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百五十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百五十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百五十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百五十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百五十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百五十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百六十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百六十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百六十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百六十三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百六十四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百六十五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百六十六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百六十七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百六十八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百六十九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百七十　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百七十一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百七十二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百七十三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百七十四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百七十五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百七十六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百七十七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百七十八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百七十九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百八十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百八十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百八十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百八十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百八十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百八十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百八十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百八十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百八十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百八十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百九十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百九十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百九十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百九十三　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百九十四　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百九十五　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百九十六　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百九十七　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

二百九十八　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

二百九十九　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三百一　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百二　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百三　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三百四　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百五　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百六　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三百七　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百八　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百九　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三百十　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百十一　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百十二　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三百十三　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百十四　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百十五　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三百十六　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百十七　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百十八　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三百十九　雇止ノ事由ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百二十　雇止ノ年月日ハ雇入ノ場所ニ於テ船員ニ交付スヘキ證書ニ記載スヘシ

三百二十一　雇止ノ場所ハ雇入ノ場所ニ同シ

三百二十二　雇止ノ事由ハ雇入ノ

（一）

第四號書式

船舶名簿

船籍　港　　積量

船名　　噸

船舶番號　　定員

船長氏名及住所　　船主氏名及住所　　一等　二等　三等　合計　等　　噸

船籍港

（二）

等級	旅客氏名	國籍	住所	乘船年月日	乘船港	下船年月日	下船港
等			以十二歳未滿五歳	年 月 日		年 月 日	
等			以五歳未滿一歳	年 月 日		年 月 日	
等			未滿一歳	年 月 日		年 月 日	
船員				年 月 日		年 月 日	

（三）

海員氏名	職務	海員氏名	職務

（四）

年月日午時	死亡ノ場所	死亡ノ原因	出生ノ年月日	本籍	死亡者ノ氏名	死亡者ノ戸主ノ氏名	死亡者ノ戸主トノ續柄	日本船舶國籍令ノ年月
年 月 日午時								
年 月 日午時								
年 月 日午時								
年 月 日午時								
年 月 日午時								
年 月 日午時								
年 月 日午時								
年 月 日午時								
年 月 日午時								

（五）

發港	發時	著港	著時	備考
	年 月 日時		年 月 日時	

（六）

番號	發生ノ年月日時ノ場所	記載ノ年月日	事由	備考

番號ノ欄ニハ第一號ヨリ順次ニ記載スヘシ

航海日誌ニハ(三)ノ例ニ依リ記載スヘシ

航海中ノ發生ノ場所ハ緯度及經度ヲ以テ記載スヘシ

備考

コトヲ記載スヘシ

番號ノ欄ニハ第一號ヨリ順次ニ記載スヘシ

（七）

出生、入子出生、入孫出生、入曾孫出生、入玄孫出生、入來、入籍、分家、廢絶家再興、戸主ノ變更、戸主ノ死亡、隱居、國籍喪失、國籍回復、除籍ノ件名簿

件名	父				母				子、出生、入子出生、入孫出生、入曾孫出生、入玄孫出生、入來、入籍、分家、廢絶家再興、戸主ノ變更、戸主ノ死亡、隱居、國籍喪失、國籍回復、除籍ノ件								戸主ノ本籍	戸主ノ族稱	戸主ノ氏名	戸主ノ出生ノ年月日時	戸主ノ出生ノ府縣郡市町村	戸主ノ出生ノ戸籍ノ筆頭者ノ氏名	戸主ノ出生ノ戸籍ノ筆頭者ノ戸主トノ續柄	戸主ノ出生ノ戸籍ノ筆頭者ノ本籍	日本船舶國籍令ノ年月
	本籍	族稱	氏名	出生ノ年月日時	本籍	族稱	氏名	出生ノ年月日時	男女ノ別	出生ノ年月日時	出生ノ府縣郡市町村	出生ノ戸籍ノ筆頭者ノ氏名	出生ノ戸籍ノ筆頭者ノ戸主トノ續柄	出生ノ戸籍ノ筆頭者ノ本籍	日本船舶國籍令ノ年月										

（八）

年月日時	船長又ハ證人ノ氏名	住所	職業	本籍	出生ノ年月日	日本船舶國籍令ノ年月
年 月 日午時	船長					
	證人					
	證人					

備考

各事項中不明ナルモノハ相當欄内ニ不詳ト記載スヘシ

(八)ニ付テモ亦同シ

（九）

年月日時	船長又ハ證人ノ氏名	住所	職業	本籍	出生ノ年月日	日本船舶國籍令ノ年月
年 月 日午時	船長					
	證人					
	證人					

（十）

年月日時	船長又ハ證人ノ氏名	住所	職業	本籍	出生ノ年月日	日本船舶國籍令ノ年月
年 月 日午時	船長					
	證人					
	證人					

（十一）

年月日時	船長又ハ證人ノ氏名	住所	職業	本籍	出生ノ年月日	日本船舶國籍令ノ年月
年 月 日午時	船長					
	證人					
	證人					

（十二）

年月日時	船長又ハ證人ノ氏名	住所	職業	本籍	出生ノ年月日	日本船舶國籍令ノ年月
年 月 日午時	船長					
	證人					
	證人					

（第一號書式甲）　登簿第十五番船舶國籍證書ノ内容ヲ移記シタル旨ノ登記濟證明書

船舶名稱　何丸

船籍港　何港

一　船質　何製

二　船種　何船

三　總噸數　何噸

四　帆裝ノ種類

五　竪帆中桅ヨリ前ノ桁ノ端ニ至ル長サ　何呎何寸

船首ニ於ケル船體ノ深サ　何呎何寸

船尾ニ於ケル船體ノ深サ　何呎何寸

六　船體中央ニ於ケル最大幅　何呎何寸

七　船體最大深サノ位置ヨリ外面ニ至ル垂直線ニ於ケル船體ノ幅　何呎何寸

船尾ノ上甲板ニ於ケル船體ノ幅　何呎何寸

八　總數　何噸

上甲板上ノ艙數　何艙

下甲板上ノ艙數　何艙

船舶所有者ノ住所氏名又ハ名稱及持分

何州離何郡市何街何番地　何某

何某ノ持分　何分之何

右ノ通リ登記濟證書ヲ交付シタルコトヲ證明ス

何年何月何日

何登記所

登記官　何某　印

（第一號書式乙）　登簿第十五番船舶國籍證書ノ内容ヲ移記シタル旨ノ登記濟證明書ノ謄本

船舶名稱　何丸

船籍港　何港

一　船質　何製

二　船種　何船

三　總噸數　何噸

四　帆裝ノ種類

五　竪帆中桅ヨリ前ノ桁ノ端ニ至ル長サ　何呎何寸

船首ニ於ケル船體ノ深サ　何呎何寸

船尾ニ於ケル船體ノ深サ　何呎何寸

六　船體中央ニ於ケル最大幅　何呎何寸

七　船體最大深サノ位置ヨリ外面ニ至ル垂直線ニ於ケル船體ノ幅　何呎何寸

船尾ノ上甲板ニ於ケル船體ノ幅　何呎何寸

八　總數　何噸

上甲板上ノ艙數　何艙

下甲板上ノ艙數　何艙

船舶所有者ノ住所氏名又ハ名稱及持分

何州離何郡市何街何番地　何某

何某ノ持分　何分之何

右ノ通リ登記濟證書ノ謄本ヲ交付シタルコトヲ證明ス

何年何月何日

何登記所

登記官　何某　印

附則

第二十八條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第二十九條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十一條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十二條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十三條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十四條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十五條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十六條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十七條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十八條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第三十九條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十一條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十二條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十三條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十四條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十五條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十六條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十七條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十八條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第四十九條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十一條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十二條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十三條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十四條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十五條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十六條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十七條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十八條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第五十九條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十一條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十二條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十三條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十四條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十五條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十六條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十七條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十八條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第六十九條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十一條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十二條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十三條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十四條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十五條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十六條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十七條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十八條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第七十九條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十一條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十二條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十三條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十四條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十五條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十六條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十七條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十八條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第八十九條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十一條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十二條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十三條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十四條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十五條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十六條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十七條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十八條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第九十九條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百一條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百二條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百三條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百四條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百五條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百六條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百七條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百八條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

第百九條　從來ノ船舶國籍證書ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ハ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ト看做ス

本令施行ノ際現ニ從來ノ船舶國籍證書ヲ有スル者ハ之ヲ施行ノ日ヨリ一箇年ノ間ニ本條ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證

船首樓ノ噸数　何噸何々
船橋樓ノ噸数　何噸何々
船尾樓ノ噸数　何噸何々
甲板室ノ噸数　何噸何々
鉛口ノ超過噸数　何噸何々
機關室ノ噸数　何噸何々
其ノ他ノ場所ノ噸数　何噸何々

九　控除噸数　何噸何々
船員常用室ノ噸数　何噸何々
荷足水船ノ噸数　何噸何々
機關室ノ噸数　何噸何々
帆船ノ帆庫ノ噸数　何噸何々
其ノ他ノ場所ノ噸数　何噸何々

十　登簿噸数　何噸何々
十一　汽機ノ種類及數　單式二聯成、三聯成、四聯成「タービン」、發動機何箇
十二　推進器ノ種類及數　外車又ハ螺旋推進器何箇
十三　造船地　何州廳何郡市何街庄區又ハ何府縣何郡市何町村等

十四　進水ノ年月　何某又ハ何會社
十五　原名及前名　大正又ハ西暦何年何月
十六　所有者ノ住所氏名又ハ名稱及共有ナルトキハ各共有者ノ持分　原名何々、前名何々
十七　船舶管理人ノ住所氏名　何州廳何郡市何街庄區何番地何某又ハ何會社
十八　船價　何州廳何郡市何街庄區何番地何某又ハ何會社
十九　本船ヲ取得シタル場所　何州廳何郡市何街庄區何番地何某
二十　本船前所有者ノ住所氏名　何國（貨買ニ係ルトキハ其ノ代價額）何地（貨買ニ係ルトキハ其ノ見積代價）
二十一　本船前所有者ノ住所氏名

備考

一　帆船（總噸數百噸以上ノ鋼鐵ヲ有スル帆船ヲ除ク）及總噸數百噸未滿ノ汽船ニ在リテハ第八項中「上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數」ノ内譯噸數及第九項中ノ「荷足水船ノ噸數」「帆船ノ帆庫ノ噸數」ヲ記載スルコトヲ要セス

二　船名、住所氏名及名稱ニハ假名ヲ附シ外國ノ名稱ニハ外國文字ヲ附記スヘシ

三　原名ト稱スルハ國籍取得前ニ於ケル最近ノ船名ヲ謂フ

四　件名中事項ナキモノハ斜線ヲ畫シ造船地、造船者、進水ノ年月及原名不明ナルトキハ不詳ト記載スヘシ

（第一號書式乙）（作噸數十五噸未滿ノ西洋形船ニ用ウルモノ）

船舶件名書

汽（帆）船　何丸

一　船籍港　何州廳何郡市何街庄區又ハ何港
二　船質　鋼、鐵、木又ハ木鐵等
三　帆船ノ帆裝　二橋スクーナー、一橋スループ等

（第二號書式）（日本形（支那形）船　何丸（又ハ何々）

一　船籍港　何州廳何郡市何街庄區又ハ何港
二　船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長　何尺何寸何分
三　船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅　何尺何寸何分
四　腰當梁ノ中央ニ於テ其ノ上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深　何尺何寸何分
（支那形船ニ在リテハ中央船梁上面ヨリ船底ニ至ル深ニ改記スヘシ）
五　積石數　何石
六　造船地　何州廳何郡市何街庄區

備考

第一號書式甲ノ備考二、三、四ニ同シ

（第三號書式）（總噸數百噸以上ノ汽船及帆船ニ用ウルモノ）

船舶國籍證書

番號
信號符字
種類
船質
進水ノ年月
造船者
船名
船籍港
造船地
汽機ノ種類及數
推進器ノ種類及數
甲板ノ層數
蔽圍シタル場所ノ噸數
尺度
量
積
總噸數……
上甲板下……
上甲板上蔽圍シタル場所……
控除噸數……
船員常用室……
船首樓……
船橋樓……
荷足水船……
船尾樓……
機關室……
甲板室……
帆船ノ帆庫……
鉛口ノ超過……
其他ノ場所……
機關室……
登簿噸數……
其他ノ場所……
所有者

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年月日

日本帝國
臺灣總督府　印

（第四號書式）（總噸數百噸未滿ノ汽船及第三號書式ノ帆船以外ノ帆船ニ用ウルモノ）

船舶國籍證書

番號
船質
尺度
量
船名
甲板ノ層數
造船者
進水ノ年月
造船地
船籍港
種類
信號符字
積
量甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長　船體最廣部ニ於テ肋骨外面ヨリ外面ニ至ル幅　長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深
船首樓ノ噸数……
船橋樓ノ噸数……
船尾樓ノ噸数……
甲板室ノ噸数……
鉛口ノ超過噸数……
機關室ノ噸数……
其他ノ場所ノ噸数……
登簿噸数……
控除噸数……
船員常用室……
荷足水船……
帆船ノ帆庫……
機關室……
其他ノ場所……
所有者

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年月日

日本帝國
臺灣總督府　印

（第五號書式）（日本形船及支那形船ニ用ウルモノ）

船舶國籍證書

番號
船質
尺度
量
船名
進水ノ年月
造船者
造船地
船籍港
種類
信號符字
積
量甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長　船體最廣部ニ於テ肋骨外面ヨリ外面ニ至ル幅　長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深
總噸數……
上甲板下……
上甲板上蔽圍シタル場所……
控除噸數……
船員常用室……
船首樓……
船橋樓……
荷足水船……
船尾樓……
機關室……
甲板室……
帆船ノ帆庫……
鉛口ノ超過……
其他ノ場所……
機關室……
登簿噸數……
其他ノ場所……
所有者

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年月日

日本帝國
臺灣總督府　印

（第六號書式）（日本形船及支那形船ニ用ウルモノ）

船舶國籍證書

番號
船名
進水ノ年月
造船地
種類
船籍港
尺度
積
船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長……
船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅……
腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深……
積石數……
所有者

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年月日

日本帝國
臺灣總督府　印

備考

支那形船國籍證書ハ尺度及積量ノ欄「腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深」ヲ「中央船梁上面ヨリ船底ニ至ル深」ニ改記スヘシ

七　進水ノ年月　大正何年何月
八　原名及前名　原名何々、前名何々
九　所有者ノ住所氏名又ハ名稱及共有ナルトキハ各共有者ノ持分　何州廳何郡市何街庄區何番地何某又ハ何會社
十　船舶管理人ノ住所氏名　何州廳何郡市何街庄區何番地何某又ハ何會社
十一　船價　何圓（貨買ニ係ルトキハ其ノ代價額）
十二　本船ヲ取得シタル場所　何地（貨買ニ係ルトキハ其ノ見積代價）
十三　本船前所有者ノ住所氏名

備考

一　第四項ノ深ハ船梁ヲ有セサル支那形船ニ在リテハ船舷上端ヨリ船底ニ至ル深ヲ記載スヘシ

二　其ノ他ハ第一號書式甲ノ備考二、三、四ニ同シ

竪一尺五分横八寸五分

竪九寸横七寸

竪七寸五分横五寸五分

（第六號書式）　竪五寸橫三寸五分

第　號

何郡市何街庄區何番地
何　ノ　誰

船籍港　何港

船名ヲ附セサルモノハ漁船艀船倉庫船傳馬船等其所用名ヲ記スヘシ

船名　何ト

船種類　汽船（帆船）（日本形船）（支那形船）

船ノ長　何呎（尺）何々
船ノ幅　何呎（尺）何々
船ノ深　何呎（尺）何々

標札

州廳名
烙印

年月日　廳

備考

汽船竝帆船ナレハ船舶種類ノ次ヘ總噸數何噸何々其次ヘ登簿噸數何噸何々、日本形船竝支那形船ナレハ五十石以上積石數何石ト列記スヘシ

（第七號書式）（西洋形船ニ用ウルモノ）　竪八寸橫六寸

假船舶國籍證書

種類	船質		
船籍港	帆船ノ帆裝		
造船地	汽機ノ種類及數		
造船ノ年月	推進器ノ種類及數		
船名	尺度	積量	總噸數…… 控除噸數…… 登簿噸數……
甲板ノ層數			
所有者			

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス本證書ハ　年　月　日迄效力ヲ有スルモ其以前ニ於テ船籍港ニ到著シタルトキハ直ニ其效力ヲ失フ

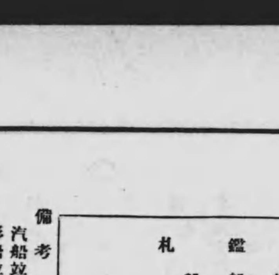
年月日　日本帝國　官廳名印

●臺灣船籍規則ニ依リ船舶ニ掲揚スル帝國國旗雛形

明治三十一年十二月十八日臺灣總督府令第百十二號

明治三十一年律令第四號臺灣船籍規則ニ依リ

大旗ノ圖　説明用ユ



中旗寸法（手當用ユヘキ分）
流一丈
竪七尺
日ノ丸差渡四尺二寸
同先ノ明キ三尺
同乳ノ方明キ二尺八寸

小旗寸法（風雨ノ節用ユヘキ分）
流六尺
竪四尺二寸
日ノ丸差渡二尺五寸
二分
同先ノ明キ一尺八寸
同乳ノ方明キ一尺六寸八分

船籍證書若ハ船鑑札ヲ受ケタル船舶ニ掲揚スル帝國國旗ハ左記ノ雛形ニ倣ヒ調製スヘシ但五十噸未滿ノ西洋形船竝五百石未滿ノ日本形船及支那形船ハ小旗ノミヲ用井ルコトヲ得

本令ニ違フ者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

●臺灣汽船檢查規則施行細則

明治三十二年六月七日律令第十號
改正　明治三四年第五號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣汽船檢查規則勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣汽船檢查規則

第一條　臺灣ニ船籍ヲ有スル汽船ハ此規則ニ依リ檢查ヲ受クヘシ

第二條　汽船檢查ノ場所ハ臺灣總督之ヲ定ム

前項指定以外ノ場所ニ於テ檢查ヲ受ケントスルトキハ臺灣總督ノ特許ヲ受クヘシ

第三條　檢查官吏汽船ヲ檢查シ航行ニ適當ナリト認ムルトキハ本船ノ航路定限旅客定員汽壓制限航行期間ヲ定メ臺灣總督ヨリ其所有者若ハ船長ニ汽船檢查證書ヲ交付スヘシ

第四條　汽船檢查ヲ受ケ檢查證書ヲ受クル以前ニ汽船ヲ航行ノ用ニ供セントスルトキ其所有者又ハ船長ヨリ假證書ノ下付ヲ檢查官吏ニ申請スルコトヲ得

第五條　檢查證書ノ效力ハ一箇年以內トス假證書ノ效力ハ本證書ヲ受有スヘキ期間ヲ斟酌シ二箇月ノ範圍內ニ於テ檢查官吏之ヲ定ム

第六條　船體汽機汽罐其他船舶ノ要部ヲ修理シ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其所有者又ハ船長ヨリ事由ヲ具シ檢查ヲ申請スヘシ

第七條　檢查證書有效期間內ト雖其所有者又ハ船長ニ於テ檢查ヲ受ケントスルトキハ何時ニテモ其申請ヲ爲スコトヲ得

第八條　檢查官吏ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ何時ニテモ汽船ヲ臨檢スルコトヲ得

第九條　第六條第七條第八條ノ場合ニ於テ檢查官吏船體汽機汽罐等ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ修理ヲ命シ又ハ航行ヲ停止スルコトヲ得

第十條　檢查證書若ハ假證書ヲ受有セスシテ汽船ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ檢查證書若ハ假證書ニ記載シタル汽船ノ航路定限航行期間及汽壓制限ヲ超テ航行シタルトキ又ハ航行停止ノ命ニ違反シテ航行シ若ハ第六條ノ檢查ヲ受ケスシテ航行シタルトキハ船長ヲ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

旅客定員ヲ超テ航行シタルトキ又ハ第八條ノ臨檢ヲ拒ミタルトキハ船長ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　船內各室毎ニ等級及定員ヲ記シタル標札ヲ揭クヘシ但十二歲未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三歲以下ハ員外トス

第十二條　檢查申請者ハ船體、汽機、汽罐及屬具ノ檢查ニ必要ナル準備ヲナスヘシ

第十三條　檢查官吏汽船ニ臨檢シタルトキハ檢查申請者ハ船舶國籍證書、船鑑札、汽船檢查證書、檢查手帖等檢查ニ必要ナル書類ヲ其檢閱ニ供スヘシ

第十四條　檢查官吏汽船ニ臨檢シタルトキハ其所有者若ハ船長其指揮ニ從フヘシ

第十五條　汽船檢查證書若ハ假證書ヲ亡失若ハ毀損シタルトキ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ汽船所有者若ハ船長ヨリ其事由ヲ具シ臺灣總督府ニ其再渡若ハ書換ヲ申請スヘシ

汽船檢查證書又ハ假證書記載事項中船長名ノ變更ニ係ルモノハ前項ノ手續ニ依ラシテ汽船檢查證書若ハ假證書ノ裏書ヲ本船所在地ノ地方官廳ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ受ケタル地方官廳ハ新船長ノ海技免狀ノ種類番號及變更ノ年月日ヲ記入シ州廳印押捺ノ上之ヲ申請者ニ返付シ其ノ旨直ニ臺灣總督府ニ報告スヘシ

汽船檢查證書若ハ假證書ヲ受有スル汽船ノ所有權ヲ移轉シタルトキハ新舊所有者ノ連署ヲ以テ又ハ新所有者ヨリ船舶國籍證書、船鑑札若ハ登記ノ謄本其他所有權ノ移轉ヲ證明スヘキ證據書類ヲ添ヘ臺灣總督府ニ該證書ノ書換ヲ申請スヘシ

第一項及第四項ニ依リ新證書ヲ受有シタルトキハ舊證書ヲ返納スヘシ

第十六條　汽船檢查證書ノ下付ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ依リ手數料ヲ納ムヘシ

一　新ニ下付スルモノ　一通　金二圓
二　再渡若ハ書換ニ係ルモノ　一通　金一圓

第十七條　汽船ノ所有者又ハ船長ハ左記ノ場合ニ於テハ其檢查證書若ハ假證書ヲ臺灣總督府ニ返納スヘシ

一　汽船檢查證書若ハ假證書ノ有效期間滿了ノトキ
二　汽船航行ノ用ニ耐ヘサルトキ
三　臺灣船籍ヲ除籍シタルトキ
四　內地ニ船籍ヲ有スル汽船ニシテ臺灣沿岸ヲ航行シ若ハ臺灣ヲ起點ト爲シ外國ニ航行セシモノ其航路ヲ廢止シタルトキ

第十八條　第九條乃至第十五條及第十七條ニ違背シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一號書式

汽船何丸第何回（定期）（臨時）檢查申請書

所有者ノ住所及氏名
船籍港
船質（鋼鐵木若ハ木鐵）
總噸數
登簿噸數
前回ノ航路定限
前回ノ汽壓制限
前回ノ航行期間
前回檢查ノ場所
前回ノ汽罐水壓試驗ノ年月
船長ノ氏名

右汽船何々航路ニ使用仕度且下何港ニ碇泊中ニ有之檢查準備整居候ニ付來何月何日何時臨檢相成度此段申請候也

年　月　日

所有者（船長）
氏　名　印
宿　所

臺灣總督宛

備考　臺灣汽船檢查規則第六條ニ依リ檢查申請スルトキハ其事由書ヲ添付スルヲ要ス

第二號書式（縱一尺三寸　橫九寸三分）

第　號

船名	船籍港	
船ノ種類	總噸數	
	登簿噸數	
航路限定	所有者	汽機種類
		汽罐種類
航行期間		

割印	汽船檢

書證查檢船汽假

目定容積						船	船ノ種類	船名
艙	限定航路		室等上	室等中	室等下			
艙	者有所	汽艙種類	汽艙種類	汽壓制限	船		容積 噸噸數	船籍港
					長			

【明治】年　月　日限リ無效トス

月　日

右檢查ヲ遂ケ【明治】年　月　日ノ檢查濟汽船檢査規則ニ依リ此證書ヲ交付ス但此證書ハ【明治】年　月　日限リ無效トス

年　月　日

右檢査ヲ遂ケ【明治】年　月　日ノ檢查濟汽船檢査規則ニ依リ此證書ヲ交付ス

書證查檢

目定容積						船	船ノ種類	船名
艙	限定航路		室等上	室等中	室等下			
艙	者有所	汽艙種類	汽艙種類	汽壓制限	船		容積 噸噸數	船籍港
					長			

第三號書式（縮一尺九寸）

檢查總噸數

檢查總噸數

檢查總噸數

三　他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリタルトキ
四　正當ノ事由ナクシテ增設航路ヲ許可ノ日ヨリ六十日以内ニ開始セサルトキ
五　公安又ハ風俗ヲ害スルノ廣アリト認メタルトキ
六　本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ營業ニ不適當ト認メタルトキ

第四十二條　船舶職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ本令ニ依ル免狀又ハ免許證ノ使用若ハ第三十條第一項ノ代用ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ
一　正當ノ事由ナクシテ其ノ船舶ヲ遺棄シタルトキ
二　故意又ハ過失ニ因リ船舶ヲ沈沒、破壞シ又ハ船體若ハ機關ノ要部ヲ毀損シタルトキ
三　海難ニ罹リタル船舶、船客又ハ船員ノ正當ノ事由ナクシテ救助セサルトキ
四　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
五　公安又ハ風俗ヲ害シ其ノ他就業セシムルニ不適當ト認メタルトキ
六　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第四十三條　船舶職員以外ノ使用人ニシテ前條第五號又ハ第六號ニ該當スルトキハ那守、支廳長、警察官署長ハ其ノ就業ヲ禁止スルコトヲ得

第四十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
一　第二條、第十一條第二項、第十二條、第十三條、第十五條、第十六條、第十八條、第二十七條但書又ハ第四十三條ニ違反シタル者
二　第九條又ハ第二十八條第一項ノ檢閱若ハ臨檢ヲ拒ミタル者
三　第二十八條第二項又ハ第四十條ノ命令ニ違反シタル者

第四十五條　第四條乃至第八條、第十條、第十一條第一項、第十四條、第十七條、第十九條、第二十五條、第二十六條、第三十三條乃至第三十五條ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十六條　營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタル場合ニ於テハ本令ノ罰則ハ之ヲ法人ニ適用ス

營業ニ關シ船舶乘組員以外ノ營業者ノ代理人其ノ他從業員ニシテ本令ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ營業者ニ適用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前引續キ三年以上發動機船又ハ帆船ニ乘組ミ船長、運轉士又ハ機關士ノ職務ヲ執リタル者及本令施行ノ際現ニ引續キ一年以上發動機船又ハ帆船ノ船長、運轉士又ハ機關士ノ職務ヲ執ル者ニ對シテハ當分ノ內銓衡ノ上必要ナル免狀又ハ免許證ヲ付與スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免狀又ハ免許證ヲ受ケムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日內ニ本籍又ハ本居地、住所、氏名、生年月日ヲ記シ履歷書ヲ添ヘ免狀ニ在リテハ知事又ハ廳長ニ、免許證ニ在リテハ臺灣總督府交通局總長ニ出願スヘシ

別表

總噸數又ハ積石	船舶種類	職員名稱	免許證種類
二百噸以上	發動機船	船長	甲種航海士免許證
		運轉士	乙種航海士免許證
千石以上	帆船	船長	甲種航海士免許證
		運轉士	乙種航海士免許證
二百噸未滿	發動機船	機關長	甲種機關士免許證
		機關士	乙種機關士免許證
二千石未滿	帆船	船長	乙種航海士免許證
百噸未滿	發動機船	機關長	乙種機關士免許證
千石未滿	帆船	船長	乙種航海士免許證

第一號樣式

乘客名簿

乘船年月日	船名	等級	乘船地	降船地	職業	年齡	住所	氏名

第二號樣式

乘客屆

乘船地　降船地　職業　年齡　住所　氏名

年月日

何々船長

氏名　㊞

第三號樣式

第　號

船舶檢查證書

船名

船籍港

第四號樣式

縱一尺一寸

船舶種類	
營業種類	
動力種類	
航路定限	
積載量	
航行期間	自大正　年　月　日 至大正　年　月　日
乘客定員	一等室
	二等室
	三等室

縱八寸

總噸數又ハ積石

右ハ船舶運送營業取締規則第二十條ニ依リ檢查ヲ遂ケ此ノ證書ヲ交付ス

大正　年　月　日

臺灣總督府交通局㊞

第五號樣式

縱一尺一寸

第　號

船舶職員免狀

氏　名

年月日生

右ハ船舶運送營業取締規則　ニ依リ之ヲ授與ス

大正　年　月　日

臺灣總督府交通局總長氏名㊞

縱八寸

第六號樣式

縱一尺一寸

受驗申請書

私儀　種　士試驗相受度此段申請候也

大正　年　月　日

申請者

住所　氏名　㊞

臺灣總督府交通局總長　殿

縱八寸

第七號樣式

履歷書

氏名

年月日生

一海技免狀ヲ受有スルトキハ其ノ種類

一該免狀受有後試驗ヲ受ケタルトキハ其ノ試驗ノ種類及其ノ年月日

一執職ヲ禁止若ハ停止セラレタルトキハ其ノ年月日及停止ノ期間

一修技所ノ名稱、乘組船名、總噸數又ハ登簿噸數、船舶ノ種類、職名、乘船若ハ就業ノ年月日、下船若ハ終業ノ年月日、在船若ハ執業ノ期間

●船舶積量測度ニ關スル件

大正十二年一月一日　臺灣總督府令第五號

船舶積量測度ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　船舶ノ積量測度方法ハ本令ニ規定スルモノノ外大正三年遞信省令第十六號船舶積量測度規程ニ依ル

第二條　支那形回漕船ノ石數ヲ算定スルニハ左ノ規程ニ依ル

防禦甲板下ノ石數ヲ算定スルニハ左ノ方法ニ依ルヘシ

一　船首及船尾船員乘用室ナル境界間ノ防禦甲板下ノ長ヲ測リ左表ニ依リ之ヲ等分スヘシ

防禦甲板下ノ長	等分數
五十尺以下	四
五十尺ヲ超エ百二十尺以下	六
百二十尺ヲ超ユル	八

二　防禦甲板下ノ長ヲ等分シタル後其ノ各分長點及前後兩端ニ於テ該甲板下面ヨリ船底內板ノ上面ニ至ル深ヲ測リ而シテ中央分長點ニ於ケル深十六尺迄ハ四箇、十六尺ヲ越ユルトキハ六箇ニ各深ヲ等分スヘシ

三　各深ヲ等分シタル後其ノ各分深點及上下兩端ニ於テ船內ノ幅ヲ測定スヘシ

四　各分深點ニ於テ幅ヲ測リタル後之ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ奇數ニ當ル幅（上下兩端ハ除ク）ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シ其ノ得數ヲ各分長點ニ於ケル橫截面積トス

五　各分長點ノ橫截面積ヲ測リタル後之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ奇數ニ當ル面積（船首船尾ノ兩端ヲ除ク）ニ二倍シ其ノ和ニ船首船尾ノ面積ヲ加ヘ之ニ分長點ノ間隔三分ノ一ヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

防禦甲板上ノ船舶ノ石數ヲ算定スルニハ該船內ノ高ヲ測リ其ノ高ノ中央ニ於テ該船內側（船首艙用室ヲ除ク）內側ノ長ヲ測リ之ヲ五十尺迄ハ四箇、五十尺ヲ超ユルトキハ六箇ニ等分シ而シテ高ノ中央ニ於テ其ノ各長點及前後兩端ノ幅ヲ測リ之ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅（前後兩端ヲ除ク）ハ二倍シ其ノ和ニ前後兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ四倍シ奇數ニ當ル幅ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シ又之ニ平均ノ高ヲ乘シテ得タル容積ヲ十ニテ除スヘシ

第三條　船首ノ內側ヨリ船尾ノ內側ニ至ル三間未滿ノ日本形船及支那形船ハ積石數ヲ測定スルニ及ハス單ニ該長ヲ測リ其ノ長ノ中央ニ於テ幅及深ヲ測ルモノトス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年府令第五十九號臺灣船積量測度規則ハ之ヲ廢止ス

●佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢查ニ關スル件

大正十五年一月二十九日　臺灣總督府令第八號

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢查ニ關スル件左ノ通相定ム

第一條　佛蘭西國（其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム）ニ航行セムトスル日本船舶カ別種檢查證書ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ヨリ別記第一號樣式ニ依リ管海官廳ニ別種定期檢查ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ船舶檢查手帖ヲ受有スル場合ニ於テハ之ヲ添附スヘシ

別種檢查證書ヲ受有スル船舶ハ其ノ證書ノ有效期間內ト雖繼上ケ別種定期檢查ヲ申請スルコトヲ得

第二條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢查官吏ヲシテ當該船舶ヲ檢查セシメ第三條及第四條ノ規定ニ適合スト認メタルトキハ別記第二號樣式ノ別種檢查證書ヲ交付ス

別種檢查證書ハ船舶ノ航行期間滿了ノ日ヲ以テ其ノ有效期限トス但シ當該船舶カ回航認可證書ヲ受有スル場合ニ於テハ該證書ノ有效期間內仍之ヲ有效トス

第三條　旅客船ノ艙艇及救命設備ハ左ノ各號

第四條　大正十五年一月二十九日以後ニ龍骨ヲ据附クル船舶ノ旅客室、船員室、病室等ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

一　一等及二等ノ旅客室ハ旅客一人ニ付三・五立方「メートル」(一二三・六立方呎)以上ノ容積ヲ要ス但シ此ノ容積ハ算定ニ付テハ寝臺其ノ他附屬品ノ占ムル容積ヲ控除スルコトヲ要セス

二　三等旅客室ハ滿載吃水線ノ直下ノ甲板ヨリ下方ニ設クルコトヲ得ス

三　二港間ノ直航時間カ通常四十八時間ヲ超ユル航海ヲ爲ス船舶ニ於テハ三等旅客室ハ旅客一人ニ付上甲板以上及上甲板直下ノ甲板間ニ在リテハ一・七五立方「メートル」(九七・一立方呎)以上、其ノ他ノ甲板間ニ在リテハ三立方「メートル」(一〇六立方呎)以上ノ容積ヲ要ス

四　三等旅客室ニハ旅客一人ニ付長一・八三「メートル」(一・八三呎)、幅五六〇「センチメートル」(一・八三呎)以上ノ寝臺一箇ヲ備フヘシ

五　船員常用室ハ便所ヲ除キ船員一人ニ付三・五立方「メートル」(一二三・六立方呎)以上ノ容積及一・五平方「メートル」(一六・一平方呎)以上ノ甲板面積ヲ要シ船員寝室ハ船員一人ニ付二・一五立方「メートル」(七五・九立方呎)以上ノ容積及一・一五平方「メートル」(一二・四平方呎)以上ノ甲板面積ヲ要シ船員寝室ニハ各人專用ノ寝臺ヲ備フヘシ

六　第三號ニ掲クル船舶ニシテ船員ヲ含ミ百人ヲ超ユル人員ヲ搭載スルモノニハ病室ヲ上甲板以上又ハ上甲板直下ノ甲板間ニ於テ成ルヘク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル場所ニ設ケ搭載人員二百人迄ハ四十人毎ニ一箇ノ病室用寝臺ヲ備ヘ二百人ヲ超ユルトキハ超過人員六十人毎ニ病室用寝臺一箇ヲ增備スヘシ病室附屬トシテ診察室ニ兼用シ得ヘキ藥局、浴室、便所及前號ノ病室用寝臺數ノ四分ノ一ヲ備フル隔離病室ヲ設クヘシ

七　病室ハ收容人員一人ニ付四立方「メートル」(一四一・三立方呎)以上ノ容積ヲ要ス

八　病室ニハ規定數ノ二分ノ一以上ノ寝臺ヲ常置スヘシ

九　病室用寝臺ハ金屬製ニシテ長一・八三「メートル」(六呎)以上、幅六〇「センチメートル」(二呎)以上ノモノトシ之ヲ據附クルニハ其ノ兩側ニ幅一「メートル」(三・二八呎)以上ノ通路ヲ存スヘシ又病室用寝臺ハ上下ニ重ネテ據附クルコトヲ得ス

十　病室用寝臺ハ金屬製ニシテ長一・八三「メートル」(六呎)以上、幅六〇「センチメートル」(二呎)以上ノモノトシ之ヲ據附クルニハ其ノ兩側ニ幅一「メートル」(三・二八呎)以上ノ通路ヲ存スヘシ又病室用寝臺ハ上下ニ重ネテ據附クルコトヲ得ス

十一　糧食庫及飲料水槽ハ內容物ノ腐敗、汚穢其ノ他使用上不都合ヲ生セサル樣適當ニ設備スヘシ

第五條　別種檢査證書ヲ受有スル船舶カ其ノ證書ノ有效期間內ニ於テ非旅客船ヨリ旅客船ニ變更シタルトキ又ハ旅客船ノ端艇及救命設備若ハ大正十五年一月二十九日以後龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ旅客室、船員室、病室又ハ衞生設備ニ變更ヲ生シタルトキハ第一條ニ掲クル者ハ遲滯ナク別記第三號樣式ニ依リ管海官廳ニ別種臨時檢査ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ申請書ニハ現ニ受有スル別種檢査證書及船舶檢査手帖ヲ受有スル場合ニ於テハ之ヲ添附スヘシ

第六條　前條ノ規定ニ依リ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ當該船舶ヲ檢査セシメ本令ノ規定ニ適合セスト認ムルトキハ別種檢査證書ヲ無效トシ之ヲ廢棄ス又船舶カ非旅客船ヨリ客船ニ變更シタル場合ニ於テ本令ノ規定ニ適合スト認ムルトキハ別種檢査證書ヲ書換交付ス

第七條　第五條ニ掲クル場合ヲ除クノ外別種檢査證書ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ第一條ニ掲クル者ハ遲滯ナク新舊事項ヲ具シ管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ受有スル場合ニ於テハ之ヲ添附スヘシ

第八條　第一條ニ掲クル者別種檢査證書ノ滅失又ハ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

第一條　本令ニ於テ別種檢査證書カ滅失シタル場合ニ於テ其ノ再交付ヲ申請セサルトキハ其ノ滅失ノ旨ヲ管海官廳ニ屆出ツヘシ

第九條　別種檢査證書ヲ無效又ハ不用トナリタルトキハ遲滯ナク管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第十條　大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ第一條ニ掲クル者ヨリ管海官廳ニ申請シ其ノ事實ノ證明ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ受有スル場合ニ於テハ之ヲ添附スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ證明書ハ別記第四號樣式ニ依ル

第十一條　管海官廳ハ別種檢査證書又ハ前條ノ規定ニ依ル證明書ノ交付ヲ受ケムトスル船舶ノ龍骨据附日ヲ認定スルニ當リ申請人ヨシテ必要ナル證憑ヲ提示セシムルコトアルヘシ

第十二條　本令ニ依ル檢査ノ申請人ハ申請ノ際別種定期檢査ニ在リテハ二十圓、別種臨時檢査ニ在リテハ十圓ノ檢査手數料ヲ管海官廳ニ納付スヘシ

檢査手數料ハ申請ノ都合ニ依リ申請ヲ取下ケタル場合ト雖之ヲ返還セス

第十三條　別種檢査證書又ハ第十條ノ證明書ノ交付、書換又ハ再交付ノ申請人ハ申請ノ際證書一通ニ付四圓ノ手數料ヲ管海官廳ニ納付スヘシ

第十四條　前二條ノ規定ニ依ル手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納付スヘシ

手數料トシテ貼附シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スヲ妨ケス

第十五條　本令ノ規定ニ依ル手數料ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ課セス

第十六條　救命艇ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　救命艇ニハ其ノ容積〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ニ付少クモ〇・〇二八立方「メートル」(一立方呎)ノ割合ヲ以テ水密ナル空氣箱ヲ備ヘ若シ空氣

ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

一　別記端艇表中當該船舶ノ總噸數ニ對シ定ムル所ヨリ一段下級ノ總噸數ニ對シ定ムル所ニ從ヒ端艇鉤ヲ有スル端艇ヲ備フルコトヲ要ス

二　端艇鉤ヲ有スル端艇ノ數及容積カ第一號ニ依リ備フヘキ端艇ノ數及容積ニ足ラサルモ現ニ之ヲ備フル船舶ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ノ割合ヲ以テ搭載シ得ルトキハ其ノ不足ハ之ヲ補充スルコトヲ要セス

三　第一號ニ依リ備フヘキ端艇鉤ヲ有スル端艇カ現ニ之ヲ備フル船舶ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ノ割合ヲ以テ搭載シ得サルトキハ其ノ不足ハ之ヲ補充スルコトヲ要セス

第一號ニ依リ備フヘキ端艇鉤ヲ有スル端艇又ハ救命筏ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ救命筏ノ空氣箱容積〇・〇八五立方「メートル」(三立方呎)ハ端艇容積〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ニ相當スルモノトシテ其ノ容積ヲ計算ス

四　第三號ニ依リ補充スヘキ端艇又ハ救命筏ノ容積ハ第一號ニ依リ備フヘキ端艇鉤ヲ有スル端艇ノ容積ト通算シテ總噸數五千噸以上ノ船舶ニ在リテハ第一號ニ依リ備フヘキ端艇ノ一倍四分ノ三以上、總噸數五千噸未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ一倍二分ノ一以上ナルコトヲ要ス但シ端艇及救命筏ノ容積ヲ通算シテ當該船舶ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ノ割合ヲ以テ搭載シ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

五　第一號ニ依リ備フヘキ端艇鉤ヲ有スル端艇ノ數及容積ノ二分ノ一以上ハ第十六條ニ定ムル救命艇ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第一號ニ依リ備フヘキ端艇ノ數及容積ノ二分ノ一以上ハ第十六條ニ定ムル救命艇ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

六　第一號ニ依リ備フヘキ端艇ノ數及容積ノ二分ノ一以上ハ第十六條ニ定ムル救命艇ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

七　第一號ニ依リ備フヘキ端艇ノ數及容積ノ二分ノ一以上ハ第十六條ニ定ムル救命艇ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

八　病室ハ收容人員一人ニ付四立方「メートル」(一四一・三立方呎)以上ノ容積ヲ要ス

九　病室ニハ規定數ノ二分ノ一以上ノ寝臺ヲ常置スヘシ

十　病室用寝臺ハ金屬製ニシテ長一・八三「メートル」(六呎)以上、幅六〇「センチメートル」(二呎)以上ノモノトシ之ヲ據附クルニハ其ノ兩側ニ幅一「メートル」(三・二八呎)以上ノ通路ヲ存スヘシ又病室用寝臺ハ上下ニ重ネテ據附クルコトヲ得ス

十一　糧食庫及飲料水槽ハ內容物ノ腐敗、汚穢其ノ他使用上不都合ヲ生セサル樣適當ニ設備スヘシ

第五條　別種檢査證書ヲ受有スル船舶カ其ノ證書ノ有效期間內ニ於テ非旅客船ヨリ旅客船ニ變更シタルトキ又ハ旅客船ノ端艇及救命設備若ハ大正十五年一月二十九日以後龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ旅客室、船員室、病室又ハ衞生設備ニ變更ヲ生シタルトキハ第一條ニ掲クル者ハ遲滯ナク別記第三號樣式ニ依リ管海官廳ニ別種臨時檢査ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ申請書ニハ現ニ受有スル別種檢査證書及船舶檢査手帖ヲ受有スル場合ニ於テハ之ヲ添附スヘシ

第六條　前條ノ規定ニ依リ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ當該船舶ヲ檢査セシメ本令ノ規定ニ適合セスト認ムルトキハ別種檢査證書ヲ無效トシ之ヲ廢棄ス又船舶カ非旅客船ヨリ客船ニ變更シタル場合ニ於テ本令ノ規定ニ適合スト認ムルトキハ別種檢査證書ヲ書換交付ス

第七條　第五條ニ掲クル場合ヲ除クノ外別種檢査證書ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ第一條ニ掲クル者ハ遲滯ナク新舊事項ヲ具シ管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ受有スル場合ニ於テハ之ヲ添附スヘシ

第八條　第一條ニ掲クル者別種檢査證書ノ滅失又ハ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ

第一條　本令ニ於テ別種檢査證書カ滅失シタル場合ニ於テ其ノ再交付ヲ申請セサルトキハ其ノ滅失ノ旨ヲ管海官廳ニ屆出ツヘシ

第九條　別種檢査證書ヲ無效又ハ不用トナリタルトキハ遲滯ナク管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第十條　大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ第一條ニ掲クル者ヨリ管海官廳ニ申請シ其ノ事實ノ證明ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ申請書ニハ船舶檢査手帖ヲ受有スル場合ニ於テハ之ヲ添附スヘシ

第一項ノ規定ニ依ル證明書ハ別記第四號樣式ニ依ル

第十一條　管海官廳ハ別種檢査證書又ハ前條ノ規定ニ依ル證明書ノ交付ヲ受ケムトスル船舶ノ龍骨据附日ヲ認定スルニ當リ申請人ヨシテ必要ナル證憑ヲ提示セシムルコトアルヘシ

第十二條　本令ニ依ル檢査ノ申請人ハ申請ノ際別種定期檢査ニ在リテハ二十圓、別種臨時檢査ニ在リテハ十圓ノ檢査手數料ヲ管海官廳ニ納付スヘシ

檢査手數料ハ申請ノ都合ニ依リ申請ヲ取下ケタル場合ト雖之ヲ返還セス

第十三條　別種檢査證書又ハ第十條ノ證明書ノ交付、書換又ハ再交付ノ申請人ハ申請ノ際證書一通ニ付四圓ノ手數料ヲ管海官廳ニ納付スヘシ

第十四條　前二條ノ規定ニ依ル手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納付スヘシ

手數料トシテ貼附シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スヲ妨ケス

第十五條　本令ノ規定ニ依ル手數料ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ課セス

第十六條　救命艇ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　救命艇ニハ其ノ容積〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ニ付少クモ〇・〇二八立方「メートル」(一立方呎)ノ割合ヲ以テ水密ナル空氣箱ヲ備ヘ若シ空氣

第號

船番號	船名	所有者	證書有效期間	據附日
		旅客船非旅客船ノ別	年月日	龍骨
			大正十五年一月二十九日（前又ハ以後）	

別種檢査證書

右大正十五年臺灣總督府令第八號ニ依リ檢査ヲ遂ケ同令ノ規定ニ適合スルコトヲ證明ス

年　月　日

管海官廳名印

備考　此ノ證書ハ旅客船ニ在リテハ其ノ端艇及救命設備カ大正十五年臺灣總督府令第八號第三條ノ規定ニ適合スルコト又大正十五年一月二十九日以後龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ其ノ病室、旅客室及船員室竝ニ前等ノ居住設備及衞生設備カ同令第四條ノ規定ニ適合スルコトヲ證明スルモノトス

第三號樣式

別種臨時檢査申請書

汽（帆）船何丸

右大正十五年臺灣總督府令第八號ニ依リ

年　月　日某所ニ於テ檢査相成度此段申請候也

年　月　日

住所
船舶所有者（船舶管理人、船舶借入人又ハ船長）
何　某印

管海官廳宛

第四號樣式（横二七センチメートル（一ヲ記載ス）縦二八センチメートル（二ヲ記載ス））

第　號

船番號	船名

龍骨据附日證書

右大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ船名ノ下ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

年　月　日

管海官廳名印

第十七節　交通　電氣　第二章　運輸　第四款　船舶

第二號樣式（横二七センチメートル（一ヲ記載ス）縦二七センチメートル（二ヲ記載ス））

大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ船名ノ下ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

年　月　日

住所
船舶所有者（船舶管理人、船舶借入人又ハ船長）
何　某印

管海官廳宛

備考

大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ船名ノ下ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第二號樣式（横二七センチメートル（一ヲ記載ス）縦二七センチメートル（二ヲ記載ス））

箱ノ容積不足ナルトキハ「コルク」其他ノ浮泛物ヲ入レタル完全ノ浮袋ヲ以テ之ヲ補フヘシ但シ「コルク」ノ〇・〇三五立方「メートル」(一・二五立方呎)ハ空氣箱ノ〇・〇二八立方「メートル」(一立方呎)ト同效力トス又鋼製救命艇ニ於テハ特ニ艇體ノ重量ニ對シ空氣箱ノ容積ヲ適當ニ增スヘシ

二　木製救命艇ノ空氣箱ハ銅製若ハ黃銅製トシ本令施行以前ニ製造ニ係リ檢査官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

三　鋼製救命艇ニ於テハ空氣箱ヲ亞鉛鍍鋼製ト爲スヘシ但シ救命艇ノ外板ト密接セシメサルトキハ空氣箱ヲ鋼製又ハ黃銅製ト爲スコトヲ得又特ニ保存上及檢査上差支ナキ構造ト爲ストキハ鋼製區畫ヲ以テ空氣箱ニ代用スルコトヲ得

四　空氣箱ハ艇首、艇尾又ハ兩側ニ設置シ其ノ覆板ヲ固著スルニハ銅製若ハ黃銅製ノ螺釘ヲ用ウルヲ要ス

五　救命艇ノ周圍ニハ救命索ヲ備フヘシ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第一號樣式

別種定期檢査申請書

汽（帆）船何丸

右大正十五年臺灣總督府令第八號ニ依リ

年　月　日某所ニ於テ檢査ノ上別種檢査證書交付相成度此段申請候也

年　月　日

住所
船舶所有者（船舶管理人、船舶借入人又ハ船長）
何　某印

管海官廳宛

備考

大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ船名ノ下ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第二號樣式（横二七センチメートル（一ヲ記載ス）縦二七センチメートル（二ヲ記載ス））

●佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關スル件

大正十五年一月二十九日
臺灣總督府令第八號

佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關スル件左ノ通相定メ大正十五年一月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

第一條　佛蘭西國（其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム以下同シ）ノ船舶ノ檢査ヲ行フ場合ニ於テ佛蘭西國政府ノ發給シタル航海許可書ヲ受有スル船舶ニ對シテハ大體ニ於テ耐航性ヲ有シ船員及旅客ノ危險ヲ及ホス虞ナシト認ムルトキハ該證書ノ目的トスル船體、機關及屬具ニ關スル照査ヲ行ハス且如何ナル場合ニ於テモ佛蘭西國ノ法規ニ定ムル以外ノ條件ヲ課セス

第二條　臺灣ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及三等旅客五十人以上ヲ搭載シテ近海航路外ノ港又ハ臺灣總督ノ定ムル地方ニ運送セムトスル佛蘭西國船舶ニ對シテハ前條ノ規定ニ拘ラス糧食、飲料水及衞生狀態ニ關スル檢査ハ之ヲ行フ

●汽船公稱馬力算定方法

明治三十三年十一月六日
遞信省令第百四號

汽船公稱馬力算定方法左ノ通相定ム

公稱馬力算定方法

第一　冷汽器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ汽笛吸錐ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ十ニテ除シタルモノトス但汽笛二箇以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一箇毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合シタルモノトス

第二　冷汽器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ汽笛吸錐ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ三十ニテ除シタルモノトス但汽笛二箇以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一箇毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合シタルモノトス

第三　冷汽器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各汽笛吸錐ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ十ニテ除シタルモノトス但汽笛二箇以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合シタルモノトス

第四　冷汽器ヲ備フル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各汽笛吸錐ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ三十ニテ除シタルモノトス但汽笛二具以上ヲ備フルモノハ本法

端艇表

總噸數	最少數	最容積	總噸數	最少數	最容積
上以未滿		立方呎	上以未滿		立方呎
10000—	16	5500	3500—3750	8	2600
9000—10000	14	5250	3250—3500	8	2500
8500— 9000	14	5100	3000—3250	8	2400
8000— 8500	14	5000	2750—3000	6	2100
7750— 8000	12	4700	2500—2750	6	2050
7500— 7750	12	4600	2250—2500	6	2000
7250— 7500	12	4500	2000—2250	6	1900
7000— 7250	12	4400	1750—2000	6	1800
6750— 7000	12	4300	1500—1750	6	1700
6500— 6750	12	4200	1250—1500	6	1500
6250— 6500	12	4100	1000—1250	4	1200
6000— 6250	12	4000	900—1000	4	1000
5750— 6000	10	3700	800— 900	4	900
5500— 5750	10	3600	700— 800	4	800
5250— 5500	10	3500	600— 700	3	700
5000— 5250	10	3400	500— 600	3	600
4750— 5000	10	3300	400— 500	2	400
4500— 4750	8	3000	300— 400	2	350
4250— 4500	8	2900	200— 300	2	300
4000— 4250	8	2800	100— 200	2	250
3750— 4000	8	2700	— 100	2	200

ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合シタルモノトス

●商法ノ規定ニ掲クル船中備附書類ニ關スル件

大正十二年一月一日
農商務省令第六號

商法第五百六十二條ニ掲クル船中備附書類ニ關シテハ明治三十二年遞信省令第十九號ニ依ル但シ同令中遞信局、管海官廳トアルハ地方官廳トシ第三號書式(三)中七及八ノ項ハ之ヲ削除ス

附　則

本令ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ニ關スル件

大正十四年四月二十一日
勅令第百三十七號

朕關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（樞密、遞信大臣副署）

左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外關東長官ノ許可ヲ受ケシテ內地ト關東州外ノ地トノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲ス船舶ハ關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶タルコトヲ得ス

一　內地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ建造シタル船舶

二　外國ニ於テ建造シ一旦內地、朝鮮又ハ臺灣ニ輸入シタル船舶

三　關東州ニ主タル營業所ヲ有シ主トシテ關東州ニ出入スル物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲ス海上運送業者ノ所有スル船舶

關東長官第一項ノ許可ヲ與ヘムトスルトキハ遞信大臣ニ協議スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ登錄アルモノニハ本令ヲ適用セス

●關東州船籍令

明治四十四年十二月三十日
關東都督府令第三十五號
改正　大正三年第二三號

關東州船籍令左ノ通定ム

關東州船籍令

第一條　左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一　官廳ノ所有ニ屬スル船舶

二　關東州ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三　關東州ニ本店ヲ有スル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ三分ノ二以上合資會社株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ三分ノ二以上株式會社ニ在リテハ役員ノ三分ノ二以上カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四　關東州ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其ノ代表者ノ三分ノ二以上カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

五　關東州ニ住所ヲ有セサル日本臣民又ハ內地、樺太、臺灣、朝鮮ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル第三號ニ記載セル會社若ハ前號ニ記載セル法人ノ所有ニ屬スル船舶ト雖內地、樺太、臺灣、朝鮮ニ於テ船籍港ヲ定メシテ關東州沿岸ヲ航行シ又ハ關東州ヲ起點トシテ內地、樺太、臺灣、朝鮮若ハ外國ニ航行スルモノ

第二條　日本船舶ニ非サレハ日本國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條　船舶法第一條ニ依リ日本船舶タルモノ及本令ニ依リ日本船舶タルモノニ非サレハ關東州不開港場ニ寄港シ又ハ關東州各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ條約若ハ法令ニ別段ノ定アルトキ海難若ハ捕獲ヲ避ケムトスルトキ又ハ關東【都督】ノ特許ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　日本船舶ノ所有者ハ大連又ハ旅順ニ船籍港ヲ定メ港務局ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス但シ內地ニ船籍港ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後海務局ニ船舶ノ登錄ヲ申請スルコトヲ要ス

海務局ハ其ノ登錄ヲ爲シタルトキハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條　船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ其ノ船籍港ニ到著スル迄別內ニ在リテハ海務局ニ內地【樺太、臺灣、朝鮮ニ在リテハ該船舶所在地ノ地方官廳ニ外國ニ在リテハ該船舶所在地若ハ其ノ近傍駐在帝國領事館ニ假船舶國籍證書ノ交付ヲ申請シ船舶國籍證書ニ代用スルコトヲ得

假船舶國籍證書ノ效力ハ海務局ヨリ交付シタルトキハ三箇月地方官廳ヨリ交付シタルトキハ六箇月領事館ヨリ交付シタルトキハ一箇年ヲ以テ限トス但シ引續キ二度以上假船舶國籍證書ノ交付ヲ受ケタル場合ニハ初度ノ假船舶國籍證書ニ記載シタル日附ヨリ起算シ本文ノ期限ヲ經過シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

船舶カ船籍港ニ到達シタルトキハ假船舶國籍證書ノ有效期間滿了前ト雖其ノ效力ヲ失フ

第七條　日本船舶ハ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其ノ名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其ノ他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條　日本船舶ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第九條　日本船舶ノ名稱ハ海務局ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條　船舶所有者カ其ノ船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其ノ積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滯ナク海務局ニ其ノ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條　登錄シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ遲滯ナク其ノ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條　船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十三條　船舶國籍證書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ遲滯ナク其ノ再交付若ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四條　船籍港外ニ於テ前二條ノ事實ヲ生シタルトキハ第六條ニ依リ假船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第十五條　前三條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第十六條　船舶カ滅失若ハ沈沒シタルトキ解撤セラレタルトキ又ハ船籍ヲ喪失シ若ハ第十七條ニ掲クル船舶トナリタルトキハ遲滯ナク抹消ヲ請ヒ且船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六箇月分明ナラサルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消手續ヲ爲ササルトキハ海務局ニ二箇月內ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ尙其ノ手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第十七條　前十三條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及端舟其ノ他艤裝ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ艤裝ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

前項ニ掲クル船舶ノ船籍及其ノ積量ノ測度ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條　本令ノ施行ニ關シテハ本令其ノ他命令ヲ以テ特ニ定ムルモノヲ除クノ外船舶法施行細則ニ依ル

第十九條　海務局ニ於テ申請人ニ交付スヘキ書類左ノ如シ

一　船舶件名書ノ謄本

二　船舶國籍證書

三　假船舶國籍證書

前項各書類ノ書式ハ別記ニ依ル

第二十條　船舶積量ノ測度ニ關シテハ船舶積量測度法及船舶積量測度規程ニ依ル但シ主務大臣ノ職務ハ關東都督之ヲ行フ

第二十一條　日本國旗ヲ掲クルコトヲ得サル船舶ニシテ之ヲ掲ケタルトキハ第八條ノ場合ヲ除クノ外船長ヲ五十圓以上二百圓以下ノ罰金又ハ一箇年以下ノ懲役ニ處ス第三條ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ日本船舶ニシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦同シ

第二十二條　第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキ又ハ第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第九條乃至第十三條第十五條若ハ第十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　本令ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其ノ義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ科料ニ處ス

第二十五條　本令ノ罰則中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ之ヲ適用シ船舶所有者ニ適用スヘキモノハ船舶管理人ニモ之ヲ適用ス

第二十六條　本令ノ罰則ハ船舶所有者カ未成年者若ハ禁治產者ナルトキハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用シ會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ船舶管理ニ關シ未成年者カ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　本令ハ關東州水產組合ノ所有ニ屬スル船舶ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ船舶ニシテ本令ノ適用ヲ受クヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月內ニ本令ニ依リ其ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

附　則（大正三年關東都督府令第二十三號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ方法ニ依リ噸數ヲ以テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ノ積量改測ニ關シテハ船舶積量改測規則ニ依ル但シ管海官廳ノ事務ハ海務局之ヲ行フ

前項ノ改測前ニ於テ關東州船籍令第十條ノ申請ニ因リ積量ヲ改測スル場合ニ於テハ從前ノ例ニ依リ之ヲ測度スルコトヲ得

從前ノ方法ニ依リ測度シタル船舶ノ積量ハ本令ノ測度方法ニ依リ之ヲ改測スル迄本令ニ依リ測度シタルモノト看做ス

（別紙）

船舶件名書

汽（帆）船何丸

一　甲板ノ層數　何層

二　船質　鋼、鐵、木又ハ木鐵等

三　帆船ノ帆裝　三檣バーク、二檣トップスルスクーナー、二檣スクーナー、一檣スループ等

四　總噸數　何噸何々

五　登簿噸數　何噸何々

六　汽機ノ種類及數　單式、二聯成、三聯成、四聯成、「タービン」、發動機何箇

七　推進器ノ種類及數　外車又ハ螺旋推進器何箇

八　進水ノ年月　大正又ハ西曆　年　月

右年月日某所ニ於テ臨檢シタル所前記ノ通ニ有之候也

年月日　所屬官廳　官氏名印

備考

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ船舶法施行細則第十七條ノ二第三項ニ掲クル處ニ依リ本書式中ノ事項ヲ變更又ハ省略スヘシ

（船舶法施行細則第十七條ノ二第一項ニ掲クル船舶ニ用ウルモノ）

縮尺一尺五分横八寸五分

（紋章）

船舶國籍證書

番號			
信號符字			
種類			
船籍港			
造船地			
造船者			
進水ノ年月			
甲板ノ層數			
船名			
船質			
帆裝ノ帆			
積量	總噸數		
	上甲板下	尺	量
	上甲板上蔽圍シタル場所	尺	量
	船首樓	尺	量
	船橋樓	尺	量
	船尾樓	尺	量
	甲板室	尺	量
	舷口ノ超過	尺	量
	機關室	尺	量
	其他ノ場所	尺	量
登簿噸數			
控除噸數	船員常用室	尺	量
	荷足水船	尺	量
	機關室	尺	量
	帆船ノ帆庫	尺	量
	其他ノ場所	尺	量

所有者

汽機ノ種類及數

推進器ノ種類及數

前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス

年月日

關東【都督府】海務局　印

（船舶法施行細則第十七條ノ二第二項ニ規ク船舶ノ檢査ニ關スル手續）

第一條　船舶ノ檢査ヲ受ケムトスル者ハ本令ノ定ムル所ニ依リ檢査ヲ請求スヘシ

第二條　檢査ヲ請求スル者ハ船舶ノ所有者、船舶ノ主タル艤裝ヲ有スル者又ハ船舶ノ主タル艤裝ヲ有スル者ノ所屬ニ係ル船舶ニ在リテハ其ノ

合ニ於テ檢査ヲ受クル爲船舶ヲ航路定限内ノ檢査執行地マテ回航セシムルトキ

七　航路定限外ノ地ニ在ル船舶ヲ航路定限内マテ回航セシムルトキ

八　航路定限變更ノ爲航路定限外ニ回航セシムルトキ

第二十一條　前條ニ依リ認可ヲ受ケムトスル者ハ事由ヲ具シ海務局ニ申請スヘシ

前條各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セムトスルトキハ其ノ旨ヲ申請書ニ附記スヘシ

海務局ハ其ノ申請ヲ適當ト認メタルトキハ第四號書式ノ回航認可證書ヲ交付スヘシ

回航認可證書ノ期間ハ回航ヲ要スル期間ヲ標準トシテ海務局之ヲ定ム

船舶カ目的地ニ到著シタルトキハ回航認可證書ハ有效期間滿了前ト雖其ノ效力ヲ失フ

第二十二條　船舶ニシテ臨時多數ノ兵員、移住民、漁夫又ハ出稼人ヲ運送セムトスルトキハ其ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ハ別種旅客定員證書ノ交付ヲ海務局ニ申請スヘシ但シ附錄第二號表ノ割合ニ依リ計算シタル別種旅客定員ヲ超過セサル入港船舶ニ付テハ其ノ申請ヲ省略スルコトヲ得

海務局ハ船舶ヲ檢査シ附錄第二號表ノ割合ニ依リ旅客定員ヲ定メ第五號書式ノ別種旅客定員證書ヲ申請人ニ交付スヘシ

別種旅客定員證書ノ有效期間ハ船舶ノ現狀ニ應シ海務局之ヲ定ム

第二十三條　船長ハ船舶檢査證書、假證書、回航認可證書又ハ別種旅客定員證書ヲ船内最モ見易キ所ニ揭ケ且常ニ船員室、旅客室ノ區別ヲ證ケ旅客室ノ等級及旅客定員ヲ客室毎ニ揭示スヘシ

旅客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ其ノ積量ニ對スル旅客員數ヲ減スヘシ

第二十四條　船舶ハ旅客ヲ搭載スル場合ニ於テ十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ二年以上五年未滿ノ者ハ四人ヲ以テ旅客定員ノ一人ニ積算シ二年未滿ノ者ハ之ヲ算入セス

船舶ノ所有者、管理人、借入人、郵便吏員及朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ニ於テ檢査ヲ受ケタル船舶ノ航行期間内ニ於テ旅客定員ヲ變更セムトスルトキハ船長ハ事由ヲ具シ海務局ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十五條　船舶ノ航行期間内ニ於テ旅客定員ヲ變更セムトスルトキハ船長ハ事由ヲ具シ海務局ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十六條　檢査官吏ニ於テ安全辯ヲ封鎖シ安全辯ノ鍵ヲ封鎖シ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船長ハ入安辯ノ鍵ヲ封鎖ノ儘船内ニ保管スヘシ

船長ハ已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外安全辯ノ鍵ヲ封鎖ヲ開クコトヲ得ス

安全辯ノ鍵又ハ其ノ封筒ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ船長ニ於テ安全辯ノ鍵ヲ開封シタルトキハ海務局ニ其ノ事由ヲ具シ更ニ安全辯ノ封鎖ヲ申請スヘシ

第二十七條　船舶カ航行期間内ニ於テ航路ヲ變更セムトスルトキハ船長ハ其ノ事由ヲ具シ海務局ニ認可ヲ申請ヲ爲スヘシ

第二十八條　船舶ヲ入渠若ハ上架セムトスルトキ、船體機關ノ要部若ハ重要ナル屬具ニ損傷ヲ生シタルトキ又ハ之ヲ修理變更セムトスルトキ竝汽機汽鑵ヲ取放シ若ハ螺旋軸ヲ拔出シタルトキハ所有者、管理人、借入人又ハ船長ヨリ其ノ旨ヲ海務局ニ届出ツヘシ

第二十九條　定期檢査若ハ臨時檢査ニ於テ左ノ場合ニ該當スル船舶ハ之ヲ入渠又ハ上架セシメ船底若ハ螺旋軸ヲ檢査スヘシ但シ檢査官吏ノ適當ト認ムル證明書ヲ有スル船舶又ハ港灣内ノミヲ航行スル船舶ニ限リ其ノ檢査ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一　製造後十八年未滿ノ鐵鋼船ニシテ前回ノ船底檢査以後二年ニ達シタルトキ

二　鐵製旅客汽船及製造後十八年以上ノ鐵鋼船ニシテ前回ノ船底檢査以後一年六箇月ニ達シタルトキ

三　徑四吋以上ノ螺旋軸ヲ有スル船舶ニシテ前回其ノ軸ヲ拔取リテ檢査シタル後

四　徑四吋未滿ノ螺旋軸ヲ有スル船舶ニシテ前回其ノ軸ヲ拔取リテ檢査シタル後二年ニ達シタルトキ

第三十條　第一條各號ニ揭グル船舶カ内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ外國ニ於テ檢査ヲ受ケタルトキ

第三十一條　船舶ノ所有者、管理人、借入人又ハ船長ハ船舶ノ航行期間又ハ假證書ノ有效期間滿了シタルトキ又ハ本令ニ依リ檢査ヲ受クルコトヲ要セサルモノトナリタルトキハ船舶檢査證書又ハ假證書ヲ遲滯ナク海務局ニ返還スヘシ但シ回航認可證書、別種旅客定員證書ノ有效期間滿了ノトキ又ハ效力ヲ失ヒタルトキ亦同シ

第三十二條　船舶檢査證書、別種旅客定員證書、回航認可證書又ハ假證書ヲ滅失シ又ハ毀損シタル場合ニ於テハ船長ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ海務局ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

回航ノ認可ヲ受ケタル船舶ニシテ其ノ發航前回航認可證書ノ有效期間滿了シタルトキ又ハ回航中有效期間滿了スヘキトキハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十三條　船舶檢査證書、別種旅客定員證書又ハ假證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滯ナク關係書類ヲ添ヘ海務局ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ但シ其ノ變更カ船長ノ交代ニ係ルトキハ部分書換ヲ申請スルコトヲ得

前項但書ノ申請ヲ受ケタルトキハ直ニ船舶檢査證書又ハ假證書ニ記載ノ船長氏名ヲ朱線ニテ拳抹シ其ノ上面ニ新船長ノ氏名及海技免狀ノ種類及變更ノ年月日ヲ記入シタルモノヲ貼附スヘシ

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ舊船舶檢査證書、舊假證書又ハ舊別種旅客定員證書ヲ遲滯ナク海務局ニ返還スヘシ

一　假船舶檢査證書ヲ受ケタル船舶ニシテ船舶檢査證書ノ交付ヲ受ケタルトキ

二　船舶檢査證書、假證書又ハ別種旅客定員證書ノ書換ヲ受ケタルトキ

三　船舶檢査證書又ハ假證書ノ期間滿了、航海又ハ修繕ノ都合ニヨリ第四十一條　本令ハ當分ノ内支那形帆船ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ明治四十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現在スル帆船ハ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ本令ニ依ル檢査ヲ受クヘシ

明治四十年府令第七十三號關東州汽船檢査規則竝明治四十一年府令第十一號別種旅客定員ニ關スル檢査規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ受有スル汽船檢査證書、假證書、回航認可證書、別種旅客定員證書ハ其ノ有效期間中本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス

附　則（大正八年關東廳令第二六號）

本令ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船舶檢査證書又ハ假證書ノ航海定限欄ニ近海航路ト記載シタルモノヲ受有スル船舶ハ近海航路第一區ト記載シタルモノヲ受有スル船舶ハ近海航路第一區ト記載シタルモノト看做ス

附　則（大正九年關東廳令第七八號）

本令ハ大正九年十二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際別種旅客定員證書ヲ受有スルモノハ本令施行後大連ニ入港シタルトキ遲滯ナク其ノ書換ヲ海務局ニ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ書換ヲ申請スル場合ニハ手數料ヲ徵收セス

第一號書式

汽船（帆船）何丸第何回定期檢査申請書

一　所有者ノ住所氏名又ハ名稱　何國何部何村何字何番地　何何　何何何何之誰

二　積量　總噸數　何噸何何　登簿噸數　何噸何何

三　船籍港　何港

四　船長海技免狀種類及氏名　第何號　何船長何之誰

五　代理店　何何會社又ハ何之誰

六　航行セムトスル航路　何灣ヨリ何港ヲ經テ何灣ニ至ル間

第二號書式（竪九寸横一尺三寸）

第　號

船舶檢査證書

割印

本船番號	船種	船名	總噸數又ハ積石數	航路限定	證書有效期間	旅客定員	
						一等室	
						二等室	
						三等室	

信號符字	船籍港	所有者	汽機種類	汽鑵種類	汽壓制限	端艇	船長

右檢査ヲ遂ケ關東州船舶檢査規則ニ依リ本證書ヲ交付ス

【明治】年　月　日

關東廳海務局印

（備考）第三十二條及第三十三條ニ依リ船舶檢査證書ヲ交付スル場合ニ在リテハ其ノ交付年月日ノ下ニ「證書書換」又ハ「再交付」ト朱記スヘシ

第三號書式（竪九寸横一尺三寸）

七　申請ノ事由

八　前回檢査官廳

九　前回航行期間

十　前回船底檢査年月日

十一　前回螺旋軸檢査年月日

右船舶目下何何港ニ（碇船、入渠、上架、据船ノ別）中ニ有之檢査準備整居候間來ル何月何日御臨檢相成度此段申請候也

【明治】年　月　日

右船舶所有者又ハ船長　何之誰

宿所

關東廳海務局御中

（備考）檢査執行地外ニ於テ檢査ヲ受クル場合ニ在リテハ其ノ事由及檢査官吏出張ニ要スル旅費ヲ納付スヘキ旨附記スヘシ

第一號書式（縦一尺三寸　横九寸）

書證　定員檢查　船舶　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第二號書式（縦一尺三寸　横九寸）

書證　定員檢查　旅客　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第三號書式（縦一尺三寸　横九寸）

書證　定員檢查　船舶　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第四號書式（縦一尺三寸　横九寸）

書證　定員檢查　船舶　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第五號書式（縦一尺三寸　横九寸）

書證　定員檢查　船舶　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第一號書式（縦一尺三寸　横九寸）

書證　定員檢查　船舶　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第二號書式（縦一尺三寸　横九寸）

書證　定員檢查　旅客　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第三號書式（縦一尺三寸　横九寸）

書證　定員檢查　船舶　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第四號書式（縦一尺三寸　横九寸六分）

第號

同航海許可證書

船舶所有者住所（所在地）

氏名（名称）

右所有ノ汽船（帆船）船舶法第三條ノ規定ニ依リ日本國ニ於テ船舶ヲ所有スルコトヲ證明ス

（旅客貨物ノ搭載又ハ積荷ノ種類）

（航海ノ區域）

（航海ノ期間）

（其ノ他ノ條件）

明治　年　月　日

（但シ此ノ證書ハ　年　月　日限リ無效）

（発航港ヘ入港ノ旨ヲ記入スヘキコトヲ命ス）

（旅客貨物ノ搭載ヲ許シ又ハ之ヲ禁止スル場合ニ在リテハ其ノ旨ヲ記入スヘキコトヲ命ス）

（備考）

一　旅客ノ定員ハ本表ニ依リ之ヲ定ム

二　一人ニ付キ一平方呎ノ割合ヲ以テ旅客ノ定員ヲ定ムヘキ船舶ニ在リテハ其ノ甲板以上ノ場所ニ於ケル旅客ノ定員ハ上層甲板以上ノ場所ニ於テハ一平方呎ノ割合ヲ以テ下層甲板以下ノ場所ニ於テハ一平方呎半ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム

三　船舶ノ航路ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス旅客ノ定員ヲ減スルコトヲ得

附錄第二號表

別種旅客定員算出表

航路	定航時間	旅客ノ場所	上層甲板以上ノ場所		下層甲板以下ノ場所	
			面積	容積	面積	容積
沿海	二十四時間以上	一等室	十二平方呎	十二立方呎	十平方呎	十立方呎
		二等室	十二平方呎	十二立方呎	十平方呎	十立方呎
		三等室	九平方呎	九立方呎	七平方呎半	七立方呎半
	二十四時間未滿	一等室	九平方呎	九立方呎	七平方呎半	七立方呎半
		二等室	六平方呎	六立方呎	五平方呎	五立方呎
		三等室	四平方呎	四立方呎	三平方呎半	三立方呎半
近海	二十四時間以上	一等室	十二平方呎	十二立方呎	十平方呎	十立方呎
		二等室	十二平方呎	十二立方呎	十平方呎	十立方呎
		三等室	九平方呎	九立方呎	七平方呎半	七立方呎半
	二十四時間未滿	一等室	九平方呎	九立方呎	七平方呎半	七立方呎半
		二等室	六平方呎	六立方呎	五平方呎	五立方呎
		三等室	四平方呎	四立方呎	三平方呎半	三立方呎半

（備考）

一　旅客ノ定員ハ本表ニ依リ之ヲ定ム

二　一人ニ付キ一平方呎ノ割合ヲ以テ旅客ノ定員ヲ定ムヘキ船舶ニ在リテハ其ノ甲板以上ノ場所ニ於ケル旅客ノ定員ハ上層甲板以上ノ場所ニ於テハ一平方呎半ノ割合ヲ以テ下層甲板以下ノ場所ニ於テハ二平方呎ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但シ船舶ノ航路ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス旅客ノ定員ヲ減スルコトヲ得

三　船舶ノ航路ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス旅客ノ定員ヲ減スルコトヲ得

附錄第一號表

旅客定員算出表

旅客ノ場所	上層甲板以上ノ場所		下層甲板以下ノ場所	
	面積	容積	面積	容積
航路	一平方呎ニ付キ	一立方呎ニ付キ	一平方呎半ニ付キ	一立方呎半ニ付キ
遠洋	一等室	一等室	一等及二等室ノ十二平方呎ナル部分ノ數ニ十二立方呎ヲ乘ジタル數ニ依ル	一等及二等室ノ十二立方呎ナル部分ノ數ニ十二立方呎ヲ乘ジタル數ニ依ル
	二等室	二等室	三等室ノ十二平方呎ナル部分ノ數ニ十二立方呎ヲ乘ジタル數ニ依ル	三等室ノ十二立方呎ナル部分ノ數ニ十二立方呎ヲ乘ジタル數ニ依ル
	三等室	三等室	十二平方呎	十二立方呎
沿海	一等室	一等室	九平方呎	九立方呎
	二等室	二等室	六平方呎	六立方呎
	三等室	三等室	四平方呎	四立方呎
近海	一等室	一等室	十二平方呎	十二立方呎
	二等室	二等室	九平方呎	九立方呎
	三等室	三等室	七平方呎半	七立方呎半

（備考）

一　旅客ノ定員ハ本表ニ依リ之ヲ定ム

二　一人ニ付キ一平方呎ノ割合ヲ以テ旅客ノ定員ヲ定ムヘキ船舶ニ在リテハ其ノ甲板以上ノ場所ニ於ケル旅客ノ定員ハ上層甲板以上ノ場所ニ於テハ一平方呎半ノ割合ヲ以テ下層甲板以下ノ場所ニ於テハ二平方呎ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但シ船舶ノ航路ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス旅客ノ定員ヲ減スルコトヲ得

三　船舶ノ航路ニ依リ特ニ必要アリト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス旅客ノ定員ヲ減スルコトヲ得

第號

書證　定員檢查　旅客　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第號

書證　定員檢查　船舶　種別

船舶番号	船名	船籍港	船舶所有者	航路	定員	備考

第三號書式（竪九寸横一尺三寸）

書證並檢船船假

割印	員定客旅			汽船	定航	船名	番本
	三等室	二等室	一等室	電信	限路	船籍港	番號
【明治】年月日	船	端	艙	機關	噸數	存后	
ス右檢查ヲ遂ケ關東州船舶特種檢查規則第二條ニ依リ此ノ證書ヲ交付	長	艇	限壓	種汽	者有所	號字	

（檢查官吏二名以上ナルトキハ連署スルモノトス）

檢查官吏　官氏名印

第四號書式（竪九寸三分横六寸六分）

割印	適航證書
	船舶所有者住所（所在地）
船舶名（名稱）	
右所屬汽（帆）船	
總噸數	丸關東州船舶特種檢查規則第二條ニ依リ航行ヲ適ス
但シ此ノ證書ヲ以テ航行スルコトキハ之ヲ添フルモノトス	
【明治】年月日	交付ス
【明治】年月日	無效トス
關東都督府海務局印	

第五號書式（竪九寸三分横六寸六分）

割印	回航認可證書
	船舶所有者住所（所在地）
船舶名（名稱）	
右所屬汽（帆）船	
物ノ搭載ヲ許シタルトキハ之ヲ添フルモノトス	丸關東州船舶特種檢查規則第二條ニ依リ航行ヲ許ス
【但シ此ノ證書ヲ以テ遠航スルコトキハ其ノ旨ヲ記入ス】	
【明治】年月日	交付ス
【明治】年月日	無效トス
關東都督府海務局印	

●船舶手數料規則

明治四十年七月十六日　關東都督府令第五八號

大正三年勅令第四二號ニ依リ改正　大正四年勅令第一三三號ニ依リ改正　大正九年勅令第四一〇號ニ依リ改正

第一條　船舶手數料ハ左ノ通ニ定ム

種類	區別	手數料
一　船舶檢查證書、適航證書、臨時航行許可證書又ハ回航認可證書ノ交付	總噸數二百噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數二百噸以上五百噸未滿ノ船舶	金四圓
	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金六圓
	總噸數千噸以上二千噸未滿ノ船舶	金八圓
	總噸數二千噸以上ノ汽船	金十圓
二　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ訂正	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
三　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ再交付	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
四　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ書換	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
五　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ裏書	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
六　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ謄本	一頁ニ付	金三圓
七　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ抄本	一頁ニ付	金三圓

第二條　其ノ手數料ハ左ノ通ニ定ム

種類	區別	手數料
一　船舶檢查證書、適航證書、臨時航行許可證書又ハ回航認可證書ノ交付	總噸數二百噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數二百噸以上五百噸未滿ノ船舶	金四圓
	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金六圓
	總噸數千噸以上二千噸未滿ノ船舶	金八圓
	總噸數二千噸以上ノ汽船	金十圓
二　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ訂正	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
三　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ再交付	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
四　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ書換	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
五　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ裏書	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
六　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ謄本	一頁ニ付	金三圓
七　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ抄本	一頁ニ付	金三圓

第三條　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ於テ其ノ檢查ヲ要セサル部分ノ噸數ヲ超ユルトキハ其ノ相當料金ヲ受ケタル部分ノ噸數ニ止ムヘシ

第四條　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ於テ該船舶ノ總噸數カ當該船舶ノ檢查ヲ要セサル噸數ヲ超ユルトキハ其ノ相當料金ヲ受ケタル部分ノ噸數ニ依ル

第五條　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ於テ該船舶ノ總噸數カ當該船舶ノ檢查ヲ要セサル噸數ヲ超ユルトキハ其ノ相當料金ヲ受ケタル部分ノ噸數ニ依ル

第六條　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ於テ該船舶ノ總噸數カ當該船舶ノ檢查ヲ要セサル噸數ヲ超ユルトキハ其ノ相當料金ヲ受ケタル部分ノ噸數ニ依ル

第七條　本令ハ前條ノ場合ヲ除ク外明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六號書式（竪九寸横一尺一寸）

割印	書證員定客旅時臨	第號					
		期有證	路航	者有所	船名		
【明治】年月日	ス右檢查ヲ遂ケ關東州船舶特種檢查規則第二條ニ依リ此ノ證書ヲ交付	間效書					
關東都督府海務局印		員定客旅					
		票	內	口總			

第五號書式（竪九寸三分横六寸六分）

割印	回航認可證書
	船舶所有者住所（所在地）
船舶名（名稱）	
右所屬汽（帆）船	
物ノ搭載ヲ許シタルトキハ之ヲ添フルモノトス	丸關東州船舶特種檢查規則第二條ニ依リ航行ヲ許ス
【但シ此ノ證書ヲ以テ遠航スルコトキハ其ノ旨ヲ記入ス】	
【明治】年月日	交付ス
【明治】年月日	無效トス
關東都督府海務局印	

第四號書式（竪九寸三分横六寸六分）

割印	適航證書
	船舶所有者住所（所在地）
船舶名（名稱）	
右所屬汽（帆）船	
總噸數	丸關東州船舶特種檢查規則第二條ニ依リ航行ヲ適ス
但シ此ノ證書ヲ以テ遠航スルコトキハ其ノ旨ヲ記入ス	
【明治】年月日	交付ス
【明治】年月日	無效トス
關東都督府海務局印	

●關東州船舶檢查規則

明治四十年七月十八日　關東都督府令第一號

大正四年勅令第一三號ニ依リ改正

第一條　關東州船舶檢查規則ニ左ノ通定ム

第二條　其ノ手數料ハ左ノ通ニ定ム

種類	區別	手數料
一　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ交付	總噸數二百噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數二百噸以上五百噸未滿ノ船舶	金四圓
	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金六圓
	總噸數千噸以上二千噸未滿ノ船舶	金八圓
	總噸數二千噸以上ノ汽船	金十圓
二　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ訂正	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
三　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ再交付	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
四　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ書換	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
五　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ裏書	總噸數五百噸以上千噸未滿ノ船舶	金二圓
	總噸數千噸以上ノ汽船	金四圓
六　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ謄本	一頁ニ付	金三圓
七　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ抄本	一頁ニ付	金三圓

第三條　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ於テ其ノ檢查ヲ要セサル部分ノ噸數ヲ超ユルトキハ其ノ相當料金ヲ受ケタル部分ノ噸數ニ依ル

第四條　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ於テ該船舶ノ總噸數カ當該船舶ノ檢查ヲ要セサル噸數ヲ超ユルトキハ其ノ相當料金ヲ受ケタル部分ノ噸數ニ依ル

第五條　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ於テ該船舶ノ總噸數カ當該船舶ノ檢查ヲ要セサル噸數ヲ超ユルトキハ其ノ相當料金ヲ受ケタル部分ノ噸數ニ依ル

第六條　船舶檢查證書、適航證書又ハ臨時航行許可證書ノ交付ヲ受ケタル船舶ニ於テ該船舶ノ總噸數カ當該船舶ノ檢查ヲ要セサル噸數ヲ超ユルトキハ其ノ相當料金ヲ受ケタル部分ノ噸數ニ依ル

第七條　本令ハ前條ノ場合ヲ除ク外明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

種類	甲種船舶檢查證書	乙種船舶檢查證書	丙種船舶檢查證書	丁種船舶檢查證書	戊種船舶檢查證書	己種船舶檢查證書	庚種船舶檢查證書	辛種船舶檢查證書	壬種船舶檢查證書	癸種船舶檢查證書
船舶名										
船舶種類										
造船地										
造船年月										
船舶噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數
船舶長幅及深	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
船舶檢查證書交付年月日										
船舶檢查證書有效期間										
船舶檢查證書交付地										
船舶檢查證書交付官署										
船舶檢查證書交付官吏氏名										
備考										

（竪五寸横三寸未實測）

第二號書式

種類	甲種船舶適航證書	乙種船舶適航證書	丙種船舶適航證書	丁種船舶適航證書	戊種船舶適航證書	己種船舶適航證書	庚種船舶適航證書	辛種船舶適航證書	壬種船舶適航證書	癸種船舶適航證書
船舶名										
船舶種類										
造船地										
造船年月										
船舶噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數
船舶長幅及深	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
船舶適航證書交付年月日										
船舶適航證書有效期間										
船舶適航證書交付地										
船舶適航證書交付官署										
船舶適航證書交付官吏氏名										
備考										

（竪五寸横三寸未實測）

第二號書式

種類	甲種船舶回航認可證書	乙種船舶回航認可證書	丙種船舶回航認可證書	丁種船舶回航認可證書	戊種船舶回航認可證書	己種船舶回航認可證書	庚種船舶回航認可證書	辛種船舶回航認可證書	壬種船舶回航認可證書	癸種船舶回航認可證書
船舶名										
船舶種類										
造船地										
造船年月										
船舶噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數
船舶長幅及深	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
船舶回航認可證書交付年月日										
船舶回航認可證書有效期間										
船舶回航認可證書交付地										
船舶回航認可證書交付官署										
船舶回航認可證書交付官吏氏名										
備考										

（竪五寸横三寸未實測）

第二號書式

種類	甲種船舶臨時航行許可證書	乙種船舶臨時航行許可證書	丙種船舶臨時航行許可證書	丁種船舶臨時航行許可證書	戊種船舶臨時航行許可證書	己種船舶臨時航行許可證書	庚種船舶臨時航行許可證書	辛種船舶臨時航行許可證書	壬種船舶臨時航行許可證書	癸種船舶臨時航行許可證書
船舶名										
船舶種類										
造船地										
造船年月										
船舶噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數
船舶長幅及深	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
船舶臨時航行許可證書交付年月日										
船舶臨時航行許可證書有效期間										
船舶臨時航行許可證書交付地										
船舶臨時航行許可證書交付官署										
船舶臨時航行許可證書交付官吏氏名										
備考										

（竪五寸横三寸未實測）

第二號書式

種類	甲種船舶檢查證書	乙種船舶檢查證書	丙種船舶檢查證書	丁種船舶檢查證書	戊種船舶檢查證書	己種船舶檢查證書	庚種船舶檢查證書	辛種船舶檢查證書	壬種船舶檢查證書	癸種船舶檢查證書
船舶名										
船舶種類										
造船地										
造船年月										
船舶噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數
船舶長幅及深	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
船舶檢查證書交付年月日										
船舶檢查證書有效期間										
船舶檢查證書交付地										
船舶檢查證書交付官署										
船舶檢查證書交付官吏氏名										
備考										

（竪五寸横三寸未實測）

第二號書式

種類	甲種船舶適航證書	乙種船舶適航證書	丙種船舶適航證書	丁種船舶適航證書	戊種船舶適航證書	己種船舶適航證書	庚種船舶適航證書	辛種船舶適航證書	壬種船舶適航證書	癸種船舶適航證書
船舶名										
船舶種類										
造船地										
造船年月										
船舶噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數
船舶長幅及深	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
船舶適航證書交付年月日										
船舶適航證書有效期間										
船舶適航證書交付地										
船舶適航證書交付官署										
船舶適航證書交付官吏氏名										
備考										

（竪五寸横三寸未實測）

第二號書式

種類	甲種船舶回航認可證書	乙種船舶回航認可證書	丙種船舶回航認可證書	丁種船舶回航認可證書	戊種船舶回航認可證書	己種船舶回航認可證書	庚種船舶回航認可證書	辛種船舶回航認可證書	壬種船舶回航認可證書	癸種船舶回航認可證書
船舶名										
船舶種類										
造船地										
造船年月										
船舶噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數
船舶長幅及深	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
船舶回航認可證書交付年月日										
船舶回航認可證書有效期間										
船舶回航認可證書交付地										
船舶回航認可證書交付官署										
船舶回航認可證書交付官吏氏名										
備考										

（竪五寸横三寸未實測）

第二號書式

種類	甲種船舶臨時航行許可證書	乙種船舶臨時航行許可證書	丙種船舶臨時航行許可證書	丁種船舶臨時航行許可證書	戊種船舶臨時航行許可證書	己種船舶臨時航行許可證書	庚種船舶臨時航行許可證書	辛種船舶臨時航行許可證書	壬種船舶臨時航行許可證書	癸種船舶臨時航行許可證書
船舶名										
船舶種類										
造船地										
造船年月										
船舶噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數	總噸數
	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數	淨噸數
船舶長幅及深	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅
	深	深	深	深	深	深	深	深	深	深
船舶臨時航行許可證書交付年月日										
船舶臨時航行許可證書有效期間										
船舶臨時航行許可證書交付地										
船舶臨時航行許可證書交付官署										
船舶臨時航行許可證書交付官吏氏名										
備考										

（竪五寸横三寸未實測）

第三號書式

乙種船鑑札交付申請書

一　船種（遭船、艀舟）船名（船名アラハ）
二　船ノ長　何尺何寸
三　申請ノ事由（新造、外國船購入等）

右船舶ニ對シ乙種船鑑札交付相成度此ノ段申請候也

【明治】年　月　日

住所　所有者　氏　名印

關東都督府海務局御中

第四號書式

（竪四寸横二寸五分木質適宜）

乙種船鑑札

第　號

船ノ長

住所　氏　名

何船何丸

【明治】年　月　日

關東都督府海務局　烙印

●船舶取締規則

大正二年十月十六日　關東都督府令第三十三號

船舶取締規則左ノ通定ム

船舶取締規則

第一條　本令ハ大連港及旅順港以外ノ關東州港灣ニ出入スル船舶ニ之ヲ適用ス

第二條　左ニ掲ケル船舶ハ關東州港灣ニ出入スルコトヲ得

一　總噸數二十噸未滿積石數二百石未滿ノ船舶

二　支那形船舶

第三條　船舶ニシテ入港シタルトキハ直ニ所轄民政署、支署、出張所又ハ警察官吏派出所ニ第一號又ハ第二號樣式ノ著港届ヲ差出スヘシ

第四條　船舶ニシテ出港セムトスルトキハ所轄民政署、支署、出張所又ハ警察官吏派出所ニ第三號又ハ第四號樣式ノ出港許可證ヲ受クルニ非サレハ出港スルコトヲ得ス但シ出港五時間以前ニ出港届ノ手續ヲ了シタルトキハ出港許可證ヲ受ケサルモ妨ケナシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ港外ニ假泊シ檢疫信號ヲ揭ケ警察官吏ノ檢査ヲ經テ其ノ許可ヲ受ケタル後ニ非サレハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客船員ヲ上陸セシメ物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス但シ檢疫信號ノ設備ナキカ又ハ之ヲ揭クルモ應答ナク上陸スルニ非サレハ警察官吏ニ告知スルヲ得サル場合ニ於テ告知ノ爲上陸スルハ此ノ限ニ在ラス

一　現ニ傳染病又ハ之ニ疑ハシキ患者又ハ死者アリタルモノ

二　航海中傳染病又ハ之ニ疑ハシキ患者又ハ死者アリタルモノ

三　傳染病流行地ヲ發シ若ハ其ノ地ヲ經テ來航シ又ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シタル疑アルモノ

檢疫信號ハ晝間ニ在リテハ黃旗ヲ揭ケ夜間ニ在リテハ紅白二燈ヲ上下ニ連揭スルモノトス

檢疫信號ニ對スル應答ハ晝間ニ在リテハ白旗ヲ夜間ニ在リテハ白燈ヲ左右ニ動搖スルモノトス

傳染病トハ虎列剌、赤剌、腸窒扶私、「パラチフス」、痘瘡、發疹窒扶私、猩紅熱、實布垤剌亞、「ペスト」ヲ謂フ

第六條　入港後傳染病患者又ハ其ノ疑似症患者ヲ發生シタル船舶ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第七條　前二條ノ場合ニ於テ當該吏員ハ船舶所在地ニ於テ完全ニ防疫上必要ナル處置ヲ爲スヲ得スト認ムルトキハ其ノ船舶ニ對シ檢疫所其ノ他適當ノ地點ニ廻航ヲ命スルコトヲ得

第八條　當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ船舶ニ臨檢シ又ハ泊地ノ指定變更其ノ他必要ノ事項ヲ命スルコトヲ得

第九條　船舶ニシテ警察官吏ノ救援ヲ要スル場合ハ晝間ニ在リテハ萬國船舶信號ノG旗ヲ揭ケ夜間ニ在リテハ藍火又ハ閃火ヲ示スヘシ

第十條　船舶ニシテ火ヲ失シタルトキハ時鐘若ハ之ニ類似ノ振鳴器ヲ連打シ又ハ汽笛ヲ連吹シ晝間ニ在リテハ萬國船舶信號ノNM旗ヲ揭ケ夜間ハ號火、火箭等ヲ用井見易キ發火信號ヲ爲シ且斷エス紅燈ヲ上下スヘシ

前項ノ外危急ノ場合ニ遭遇シ救助ヲ要スルトキ亦同シ但シ晝間ハ萬國船舶信號ノNC旗ヲ揭クヘシ

第十一條　船舶ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得ルニ非サレハ屍體、武器又ハ爆發物ヲ搭載シ又ハ陸揚スルコトヲ得ス

船舶ニシテ爆發物ヲ搭載シタルトキハ晝間ニ在リテハ赤旗、夜間ニ在リテハ紅燈ヲ揭ケ安全ナル位置ニ碇泊シ警察官吏ノ指揮ヲ受クヘシ

第十二條　第五條第六條第九條及第十條ノ信號ハ西洋形以外ノ船舶ニ在リテハ晝間ハ赤旗、夜間ハ紅燈ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條　船舶ノ碇泊、旅客船員ノ乘降、貨物ノ積卸ハ特ニ定メラレタル地點アルトキハ其ノ地點以外ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條　船舶ハ航路ノ障害ト爲ルヘキ場所ニ碇泊スヘカラス

第十五條　塵芥、灰燼、土砂其ノ他船舶ニ障害ヲ及ホスノ慮アル雜破物、黍稭物其ノ他ノ物件ヲ期間ヲ定メ義務者ヲシテ之ヲ取除キ又ハ破壞セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ義務者其ノ義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ民政署長又ハ支署長ニ於テ之ヲ施行シ又ハ第三者ヲシテ施行セシメ其ノ費用ハ義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條　第七條ニ依リ檢疫所ニ廻航ヲ命シタル船舶ノ消毒其ノ他ノ費用ハ船長又ハ其ノ代理者ヨリ之ヲ納付スヘシ

第十七條　民政署長又ハ支署長ハ船舶ニ危害ヲ及ホスノ慮アル雜破物、黍稭物其ノ他ノ物件ヲ期間ヲ定メ義務者ヲシテ之ヲ取除キ又ハ破壞セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ義務者其ノ義務ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ民政署長又ハ支署長ニ於テ之ヲ施行シ又ハ第三者ヲシテ施行セシメ其ノ費用ハ義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條　本令及本令ニ基キ爲シタル處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

船舶ニ在リテハ前項ノ規定ハ船長又ハ船長ニ代リ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第十九條　當該官吏ハ本令ニ依ル罰金、科料若ハ費用ノ完納又ハ相當擔保物ノ提供アルマテ當該船舶ノ出港ヲ許ササルコトアルヘシ

附　則

第二十條　本令ハ大正三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條　明治三十九年九月府令第七號港灣出入船舶取締規則ハ之ヲ廢止ス

（第一號樣式）

汽船著港届

一　船舶種類及名稱　船　丸
二　國籍及船籍港名　國　港
三　積量（總噸數）積石數　石
四　長及喫水長　呎現在喫水　呎　吋
五　船舶所有者
六　代理店
七　船客員數　名（客ノ乘船地、等級、國籍、住所、身分、職業、男女、氏名、年齢別ハ別冊トシテ記載スヘシ）

內譯

一等船客（男女）　名計
二等船客（男女）　名計
三等船客（男女）　名計
其ノ他ノ船客（男女）　名計
合計（男女）　名計

八　乘組員ノ員數　名
事務員以上ノ船員　名
水火夫雜役夫　名
九　發航地及發航年月日
十　寄港地及著港年月日
十一　爆發物若ハ容易ニ燃燒スヘキ物件搭載ノ有無、若アラハ其ノ品名數量
十二　航海中ニ於ケル海難又ハ危險物ノ發見其ノ他異狀ノ有無
十三　航海中出生、犯罪者ノ有無
十四　航海中寄港中及現在船中ニ傳染病其ノ他ノ患者死者ノ有無、若アラハ其ノ病名
十五　航海中寄港中傳染病患者死者アリタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無
十六　航海中寄港中及現在船中ニ鼠ノ有無
十七　他港ニ於テ檢疫消毒停船ノ有無
十八　飲料水ヲ汲入レ又ハ食料ヲ積入レタル地名
十九　獸類又ハ其ノ皮骨類搭載ノ有無、若アラハ其ノ種類數量及搭載地名
二十　航海中寄港中及現在船中ニ病獸又ハ斃獸ノ有無
二十一　航海中寄港中獸疫ヲ發生シタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無
二十二　積荷中襤褸、古綿、古著、古皮革、古羽毛、古敷物、古麻袋、古紙等ノ有無、若アラハ其ノ搭載地名
二十三　輸入貨物ノ種類噸數（別表ノ通）

右大正　年　月　日午前後　時　分　港ニ著港候間及御届候也

大正　年　月　日

船長　船舶

民政署、支署、出張所、警察官吏派出所宛

（第一號樣式別冊）

汽船

九號

著港年月日　大正　年　月　日午前後　時

船主

船客明細書

乘船地	等級	國籍	族籍	住所	職業	男女	氏名	年齡
	等	國	身分					

（第二號樣式）

帆船著港届

仕出港（發航地）

届出人（船長代理者）

著港日時　大正　年　月　日午　時

一　船名
二　擔數（積量）
三　船主原籍氏名
四　人員　船客（男女）名　便乘者（男女）名　計　名　船員（名）　合計　名

民政署、支署、出張所、警察官吏派出所宛

（第二號樣式）

表物貨入輸

大正　年　月　日

船種　名
船籍　地
國籍
船名

品名	噸數	價格	港積船	摘要
穀類				
食料品				
機械類				
木材				
セメント				
等橋梁築造ノ材料				
綿絲				
綿布				
綿花				
燃料				
雜品				
合計				

（第三號樣式）

汽船出港届

輸入貨物品目	箇數及擔數	價格	備考

一　國籍、船舶、種類及名稱　國船丸
二　仕向港
三　寄港地
四　新乘船客員數　名（船客ノ上陸地、等級、國籍、住所、身分、職業、男女、氏名、年齢別ハ別紙トシテ記載スヘシ）
五　輸出貨物ノ種類噸數（別表ノ通）
右大正　年　月　日午前後　時　分出港候間及御屆候也
大正　年　月　日　船長
民政署、支署、出張所、警察官吏派出所宛

（第三號樣式別册）

表物貨出輸

汽船　九　出港年月日　大正　年　月　日午前後　時
業　船主
名　籍　地
船　種　名
國　籍

上陸地	等級	國籍	族籍身分	住所	職業	男女	氏名	年齡
	等	國						

摘要	港揚陸	價格	噸數	品名
				豆類
				穀物種子
				豆油
				豆粕
				石炭
				雜品
				合計

（第三號樣式別表）

（第四號樣式）

帆船出港屆

仕向港（到著港）
屆出人（船長代理者）

一　船名　出港日時　大正　年　月　日午　時
二　擔數（積量）
三　新乘船人員　船客（男　名　女　名）　計　名
船員（男　名　女　名）　名
民政署、支署、出張所、警察官吏派出所宛

輸出貨物品目	箇數及擔數・價格	備考

（第五號樣式）

番號

甲港許可證

一　國籍、船種、船名
一　船長氏名
一　仕向港
一　寄港地
一　發航地
一　交付年月日
民政署（支署、出張所、警察官吏派出所）御中

●佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ檢査ニ關スル件

大正十五年十月十四日　閣東總令第四十九號　其ノ領事地域及管轄ノ民船ニ付ニ航行スル關東州船舶令ニ依ル日本船舶ノ檢査ハ大正十四年逓信省令第八十六號ニ依ル但シ同令中日本船舶トアルハ關東州船舶令ニ依ル日本船舶、管海官廳トアルハ關東廳海務局トシ大正十四年逓信省令第八十六號トアルハ大正十五年關東廳令第四十九號トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●佛蘭西國船舶ノ檢査ニ關スル件

大正十五年十月十四日　閣東廳令第五十號　其ノ領事地域及管轄ノ民船ニ付船舶ノ檢査ハ大正十四年逓信省令第八十七號ニ依ル但シ同令中日本トアルハ關東州、逓信大臣トアルハ關東長官トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州巴拿馬運河噸數證書交付規則

大正四年九月二十二日　關東都督府令第二十九號

關東州巴拿馬運河噸數證書交付規則左ノ通定ム

關東州巴拿馬運河噸數證書交付規則

第一條　關東州ニ船籍港ヲ定ムル日本船舶ニ對シ巴拿馬運河噸數證書交付方ニ關シテハ本令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外大正四年逓信省令第十號巴拿馬運河噸數證書交付規則ニ依ル

第二條　船舶ノ測度又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ船舶手數料規則附錄船舶積量測度手數料表ニ定ムル測度手數料ヲ納ムヘシ

第三條　噸數證書ノ交付、書換又ハ再交付ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ證書一通ニ付手數料トシテ金四圓ヲ納ムヘシ

第四條　本令ニ依ル測度執行地ハ大連及旅順トシ噸數證書ハ關東【都督府】海務局長署名シテ之ヲ申請者ニ交付ス

第五條　本令ハ日本內地、朝鮮及臺灣ニ船籍港ヲ定ムル船舶及外國船舶ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海事屆出規則ヲ關東州ニ準用

大正九年七月八日　閣東廳令第四十八號

大正九年六月遞信省令第六十一號海事屆出規則ハ之ヲ關東州ニ準用ス

附　則

本令ハ大正九年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル法律

大正十四年十二月二十一日　法律第五十二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御璽、外務、遞信大臣副署）

支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ニシテ合名會社、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ社員ノ二分ノ一以上、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ二分ノ一以上、株式會社ニ在リテハ取締役ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ法人ニ在リテハ代表者ノ二分ノ一以上カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ハ勅令ノ定ムルモノニ限リ船舶法第一條ノ規定ニ拘ラス之ヲ日本船舶トス

前項ノ日本船舶及支那ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶ノ船籍港及積量測度ニ關シテハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル法律ノ施行ニ關スル件

大正十四年十二月二十一日　勅令第三百二十七號

聖支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル法律ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御璽、逓信大臣副署）

第一條　大正十四年法律第五十二號ニ依リテ日本船舶タルコトヲ得ル船舶ハ同法ニ規定スル帝國法人ニシテ日本船舶ヲ所有スルニ適スルコトニ付其ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル領事官ノ認定ヲ受ケタルモノノ所有ニ屬スルモノニ限ル

第二條　前條ノ帝國法人日本船舶ヲ所有スルニ適セサルニ至リタルトキハ其ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル領事官ハ前條ノ認定ヲ取消スコトヲ得

第三條　第一條ノ帝國法人又ハ支那ニ住所ヲ有スル日本臣民ハ其ノ所有スル船舶中總噸數五百噸未滿ニシテ支那ノ湖川港灣ノミヲ航行スルモノニ付支那ニ船籍港ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ所有者ハ其ノ船籍港ヲ管轄スル領事官ニ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ要ス但シ支那外ニ於テ取得シタル船舶ヲ支那ニ於ケル船籍港迄航行セシムルトキハ取得地ヲ管轄スル管海官廳又ハ領事官ニ其ノ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

船籍港ヲ管轄スル領事官ハ管海官廳又ハ他ノ支那駐在領事官ニ船舶ノ積量ノ測度又ハ改測ヲ囑託スルコトヲ得

第四條　前條第一項ノ規定ニ依リテ支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ所有者ハ天災事變其ノ他止ムコトヲ得サル事由ニ因リ支那ノ湖川港灣外ニ航行セシメムトスルトキハ船舶所有者ハ此限ニ在ラス

第二條　本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乘組員ヲ謂フ

第二章　船員手帖

有スルニ適スルモノナルコトヲ認定シタルトキハ之ヲ申請者ニ通知ス

第四條　領事官ハ前條ノ認定ヲ爲スニ當リ之ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第五條　第二條ニ揭クル添附書類ニ記載セラレタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ新ニ記載スヘキ事實アリタルトキハ申請者ハ遲滯ナク其屆出ヲ爲スヘシ

第六條　認定ノ基礎ト爲リタル事項ニ變更アリタルトキ又ハ申請者カ主ナル命令事項ニ違反シタルトキハ管轄領事官ハ前ニ爲シタル認定ヲ取消スコトヲ得

第七條　認定ヲ受ケタル法人ハ每年一回特ニ領事官ノ指定スル書類ヲ提出スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五款　船員

●船員法

明治三十二年三月八日　法律第四十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船員法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御璽、逓信大臣副署）

船員法

第一章　總則
第二章　船員手帖
第三章　船長
第四章　海員
第五章　紀律
第六章　罰則
附　則

第一章　總則

第一條　本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ揭ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條　本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乘組員ヲ謂フ

第二章　船員手帖

第三條　日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

申請人ハ戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其地ノ管海官廳カ戸籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限ニ在ラス

一　氏名
二　本籍地
三　身分
四　出生ノ年月日

第四條　未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ揭ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス

第五條　船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條　外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到著シタルトキハ其到著ノ日ヨリ一个月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條　船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ揭ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ揭ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到著シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條　第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滯ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

船員手帖カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滯ナク其書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條　船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到著シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條　其他海員ヲ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十七條　懲戒ハ左ノ四種トス

一　譴禁
二　上陸禁止
三　加役
四　減給

第三十八條　譴禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス

上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス

加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス

減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條　前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第四十條　懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條　海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條　海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條　船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乘船ヲ强制スルコトヲ得

第四十五條　船長ノ命ニ服從セサル者アルトキハ船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章　罰則

第四十六條　詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ罰金ヲ附加ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ

第四十七條　第二十九條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條　虚僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ【重禁錮】ニ處シ【四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加】ス

公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ增減、變換シテ行使シタル者亦同シ

第四十九條　左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ揭ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ

二　船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ

三　船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ揭ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虚僞ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十條　左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船長カ商法第五百六十一條ノ檢査ヲ爲サシテ發航ヲ爲シタルトキ

二　船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セシテ船舶ヲ去リタルトキ

三　船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四　船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條　船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

第五十三條　船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一日以上一年以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

第五十六條　第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲サニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條　船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ遂還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條　船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條　海員カ雇入期間中脫船シタルトキハ船長ハ遲滯ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條　海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條　海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作リ之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條　海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節　紀律

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

一　海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ
二　海員カ其職務ヲ怠リタルトキ
三　海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ
四　海員カ暗爭シタルトキ
五　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ
六　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ
七　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ
八　海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ
九　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ
十　海員カ酷酎シテ事ヲ省セサルトキ

本ニ到著シタル後遲滯ナク船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條　第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條　船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク管海官廳ニ其船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章　船長

第十三條　船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條　船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ揭ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條　船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條　日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到著シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閱ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一　豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
二　人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
三　衝突其他ノ海難カ生シタルトキ
四　船舶カ捕獲セラレタルトキ
五　船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

第十八條　船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ揭ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作リ其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條　船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條　船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ救護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條　船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條　海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺產ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十三條　外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乘込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滯ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條　船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

第五十三條　船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一日以上一年以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ【重禁錮】ニ處ス

第五十六條　第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲サニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條　船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ遂還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條　船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

ル日數ノ二倍ニ相當スル日數ヲ加フ

第九條　第六條ノ船員ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ船舶ヲ去ルコトヲ得

一　船舶ノ滅失、沒收又ハ解放ノ場合

二　船舶ノ修繕ノ爲ニ航海ヲ繼續スルコト能ハサル場合

三　船舶ノ賣却ノ場合

四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ破損シタル場合

五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

二十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

三十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

四十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

五十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

六十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

七十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

八十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

九十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百二十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百三十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百四十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百五十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百六十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百七十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十二　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十三　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十四　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十五　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十六　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十七　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十八　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百八十九　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百九十　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百九十一　船舶ノ航海ヲ繼續スルコト能ハサル程度ニ於テ船舶ニ必要ナル修繕ヲ爲ス爲ニ船舶ヲ去ルコトヲ要スル場合

百九十二　船舶ノ航海

廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十四條　第十九條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章　海員

第二十五條　海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書

二　被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條　海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一　甲板部海員

第二　機關部海員

第三　事務部海員

同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條　當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條　海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條　被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十條　船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十一條　船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員雇入契約ノ更新ノ公認ヲ申請スヘシ

第三十二條　船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員雇入期間カ滿了シタルトキ

二　海員カ死亡シタルトキ

三　海員雇入契約ヲ解除シタルトキ

四　海員雇入契約カ終了シタルトキ

五　雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十四條　海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ揭ケル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第四號書式ノ申請書

二　被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

三　海員雇入契約ヲ終了シタルトキ

四　雇入年月日

五　職務

六　雇止年月日

七　雇止事由

八　雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作リ署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止ノ公認ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第三十五條　船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請セントスルトキハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第六號書式ノ申請書

二　契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第三十六條　被雇者總員又ハ船員法第二十七條第一項但書ノ場合ニ在リテハ出頭シタル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタル年月日竝當事者ノ一方出頭セスシテ公認ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十七條　船員法第三十條第一項ニ依リ雇止ノ公認ヲ申請スル者ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十八條　管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當事者雙方ヲ呼出シタルトキハ當事者ノ爭ニ關シ各申立ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テ申請者ノ相手方ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條　管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請ヲ理由アリトスルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項、船員法第三十條ニ依リ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十條　海員雇入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ更新ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中更新ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第五號書式ノ申請書

二　第二十五條第二號ノ書類

三　第三十四條第二號ノ書類

第四十一條　海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第六號書式ノ申請書

二　契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第四十二條　海員雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ揭ケル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第四號書式ノ申請書

二　被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條　第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二　管海官廳アラサル港ニ於テ雇止メラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一　雇入年月日

二　職務

三　雇止年月日

四　雇止事由

五　雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作リ署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止ノ公認ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第三十六條　海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書

二　被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條　海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一　甲板部海員

第二　機關部海員

第三　事務部海員

同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條　當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條　海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條　被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十條　船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十一條　船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員雇入契約ノ更新ノ公認ヲ申請スヘシ

第三十二條　船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員雇入期間カ滿了シタルトキ

二　海員カ死亡シタルトキ

三　海員雇入契約ヲ解除シタルトキ

四　海員雇入契約カ終了シタルトキ

五　雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十四條　海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ揭ケル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第四號書式ノ申請書

二　被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條　第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二　管海官廳アラサル港ニ於テ雇止メラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一　雇入年月日

二　職務

三　雇止年月日

四　雇止事由

五　雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作リ署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止ノ公認ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第三十六條　海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書

二　被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條　海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一　甲板部海員

第二　機關部海員

第三　事務部海員

同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條　當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條　海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條　被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十條　船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十一條　船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員雇入契約ノ更新ノ公認ヲ申請スヘシ

第三十二條　船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員雇入期間カ滿了シタルトキ

二　海員カ死亡シタルトキ

三　海員雇入契約ヲ解除シタルトキ

四　海員雇入契約カ終了シタルトキ

五　雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十四條　海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ揭ケル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第四號書式ノ申請書

二　被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條　第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二　管海官廳アラサル港ニ於テ雇止メラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一　雇入年月日

二　職務

三　雇止年月日

四　雇止事由

五　雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作リ署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止ノ公認ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第三十六條　海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書

二　被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト證ムルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ爲ス

第四十四條　船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セントスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘテ海員名簿ニ記載シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第七號書式ノ申請書

二　第二十五條第二號ノ書類

三　被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條　第二十七條及第二十八條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用シ但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス

第四十六條　船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタル旨ヲ記載シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第四十七條　第十六條第一項ノ規定ハ欄外ニ記載ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條　第十六條第一項ノ規定ハ欄外ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　第十六條第一項ノ規定ハ欄外ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十條　第十六條第一項ノ規定ハ欄外ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條　第十六條第一項ノ規定ハ欄外ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條　本則ハ船員法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條　從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ被雇者(海員)氏名ノ欄ニ署名捺印スヘシ

第五十四條　前條ノ場合ニ於テハ雇者ハ明治年月日雇主ト記載シタル下、被雇者ハ被雇者(海員)氏名ノ欄ニ署名捺印スヘシ

第五十五條　從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ本則施行前ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル者ナルト否トヲ問ハス雇止ノ事由、場所及年月日ヲ之ニ記載スヘシ

第五十六條　前條ノ規定ハ從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セントスルトキニ之ヲ準用ス

第五十七條　前二條ノ場合ニ於テ當事者ナシテ署名捺印セシムルニハ各條ノ記載ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲サシムヘシ

第五十八條　海員ノ雇止、雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ニ關シ第三十六條第三十九條、第四十二條又ハ第四十六條ニ依リ管海官廳ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ認證ヲ受ケヘキ事項ヲ船員手帖ニ記載シテ提出シ公認アリタル海員名簿、船長ニ於テ證明シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第五十九條　前二條ノ場合ニ於テ當事者ナシテ署名捺印セシムルニハ次行ニ之ヲ爲サシムヘシ

第六十條　從來ノ海員名簿ニシテ二葉以上ノ用紙ヲ綴合セタルモノニハ管海官廳ニ於テ公認ヲ爲シ且其各葉ニ契印スヘシ

第六十一條　第四章中海員名簿ニ關スル規定ハ前六條ニ於テ特ニ明文ヲ揭ケル場合ヲ除ク外從來ノ海員名簿ニ付テモ之ヲ準用ス

第六十二條　最後ノ雇止ノ公認アリタルコトヲ證スル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ハ船員法施行後六个月間ニ雇入ノ公認ヲ受クル場合及該期間滿了後初メテ雇入ノ公認ヲ受クル場合ニ雇者ヨリ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ニハ管海官廳ニ於テ雇入ノ公認ヲ爲シタル旨ヲ其裏面ニ公認ノ年月日及船舶ノ名稱ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付スヘシ

第四十一條　海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第六號書式ノ申請書

二　契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第四十二條　海員雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ揭ケル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第四號書式ノ申請書

二　被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條　第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二　管海官廳アラサル港ニ於テ雇止メラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一　雇入年月日

二　職務

三　雇止年月日

四　雇止事由

五　雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作リ署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止ノ公認ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第三十六條　海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書

二　被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條　海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一　甲板部海員

第二　機關部海員

第三　事務部海員

同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條　當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條　海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條　被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十條　船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十一條　船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員雇入契約ノ更新ノ公認ヲ申請スヘシ

第三十二條　船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員雇入期間カ滿了シタルトキ

二　海員カ死亡シタルトキ

三　海員雇入契約ヲ解除シタルトキ

四　海員雇入契約カ終了シタルトキ

五　雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十四條　海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ揭ケル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第四號書式ノ申請書

二　被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條　第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二　管海官廳アラサル港ニ於テ雇止メラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一　雇入年月日

二　職務

三　雇止年月日

四　雇止事由

五　雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作リ署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止ノ公認ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第三十六條　海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書

二　被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

(別表)

第一號書式(用紙美濃判)

船員手帖交付申請書

船員手帖ノ番號	氏名印

本籍地

身分

船員手帖交付ノ年月日

男女別	出生ノ年月日

備考

氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ

身分欄ニハ戸主家族ノ別、家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ

船員手帖ノ番號及同交付年月日欄ハ管海廳ニ於テ記載スルモノナルニ付申請人ハ何等記載ヲ要セス

男女別欄ニハ男子ナルトキハ記入ニ及ハス

第二號書式

【明治】　年　月　日交付

第　號

船員手帖

（管海官廳名印）

氏名	
本籍地	
身分	
出生ノ年月日	

積量	
職務	給料
雇入期間	雇入地
雇入年月日	雇止地
【明治】　年　月　日	【明治】　年　月　日
公認年月日	公認年月日
【明治】　年　月　日	【明治】　年　月　日

航路又ハ航路定限

船長氏名

右雇入公認アリタルコトヲ認證ス

【明治】　年　月　日

（管海官廳名印）

雇入契約ノ變更又ハ更新

雇止事由

雇止年月日

【明治】　年　月　日

公認年月日

【明治】　年　月　日

右雇止公認アリタルコトヲ認證ス

【明治】　年　月　日

（管海官廳名印）

履歷

備考

一船員手帖ノ寸法ハ竪五寸横三寸五分トス

一第四頁第五頁ハ第三頁ニ同シク第八頁乃至第七十五頁ハ順次第六頁第七頁ニ同シク第七十七頁ハ第七十六頁ニ同シ

第三號書式（用紙美濃判）

年　月　日

（管海官廳名）　御中

海員雇入公認申請書

雇者（氏名印）

船舶番號	船種船名	船舶使用ノ目的	航路又ハ航路定限	總噸數	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
第　號	船　丸				

乘組員	甲板部	機關部	事務部	計
雇入年月日	年　月　日	雇入地		
被雇者氏名	船員手帖番號	職務	海技免狀種類	給料	雇入期間	職業紹介ヲ爲シタル者ノ氏名又ハ名稱
	第　號					
計	人	人	人	人		
實數	人	人	人	人		

（備考）

海員名簿ニ飲食物又ハ其ノ代料ニ關スル記事及特別契約條項ヲ記載シタルトキハ其ノ寫ヲ添付スヘシ

船員手帖ノ番號欄ニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ所在地ヲ其ノ番號ニ冠付シ之ヲ記載スヘシ例ヘハ東京ノ管海官廳ニテ交付シタル第一號ノ船員手帖ニハ東京第一號ト記載スルカ如シ第四號乃至第七號及第九號乃至第十三號書式ニ付テモ亦同シ

雇者氏名ノ肩書ニハ船舶所有者又ハ船長ト記載シ若シ代理人ナルトキハ其ノ職名又ハ職業名ヲ記載スヘシ例ヘハ船長何某代理人運轉士何某ト記載スルカ如シ第四號乃至第七號書式ニ付テモ亦同シ

船舶使用ノ目的欄ニハ船舶ノ用途例ヘハ旅客船貨物船貨客船漁船等ノ區別ヲ記載スヘシ

第九號及第十二號書式ニ付テモ亦同シ

職業紹介ヲ爲シタル者ノ氏名又ハ名稱欄ニハ無料船員職業紹介所ノ取扱ナルトキハ其ノ所在地名ヲ冠付シテ略記スヘシ例ヘハ日本海員掖濟會東京船員職業紹介所ノ紹介ナルトキハ「東京掖濟會」トスルカ如シ有料又ハ其ノ他ノ場合ニ於テハ必ス氏名ヲ記載スヘシ

第四號書式（用紙美濃判）

年　月　日

雇者（氏名印）

（管海官廳名）　御中

海員雇止公認申請書

二

三

六

船種船名　船　丸　船籍港

第五號書式（用紙美濃判）

| 數實員組乘 | | |

第十三號書式（用紙美濃判）

年　月　日　（氏　名印）

（管海官廳名）　御中

船舶番號	船種船名	下船年月日	下船地
第　號	船　丸	年　月　日	
乘船年月日	船員手帖番號	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	
年　月　日	第　號		

（明治三十二年六月十六日逓信省告示第百七十七號改正　明治三十三年第二二七號、四三年第四五七號　大正二年第五〇六號）

船員法施行細則第五十條第一項ノ規定ニ依リ同則第四十九條第一項第二號乃至第六號ノ手數料ヲ納付スヘキ場所左ノ如シ

一　遞信局
二　遞信局海事部出張所
三　收入印紙ヲ以テ手數料ヲ納付スヘキ成規アル帝國領事館

●船員手帖引換規則

（大正十二年十月九日逓信省令第七十三號改正　大正一四年第八一號）

船員手帖引換規則左ノ通定ム

第一條　現ニ船員手帖ヲ受有スル者本令施行ノ日ヨリ大正十三年十月三十一日迄ニ其ノ船員手帖ニ就キ證ヲ受クルトキハ當該管海官廳ニ於テ之ト引換ニ新ナル船員手帖ヲ交付ス

現ニ船員手帖ヲ受有スル者前項ノ規定ニ依リ船員手帖ノ引換ヲ受ケサルトキハ前項ノ期間後大正十五年十月三十一日迄ニ最寄管海官廳ニ其ノ船員手帖ヲ提出シ之ト引換ニ新ナル船員手帖ノ交付ヲ受クヘシ

前二項ニ於テ管海官廳ト稱スルハ內地ニ於ケル管海官廳ヲ謂フ

第二條　船員手帖ヲ受有スル者前條ノ規定ニ依リ大正十五年十月三十一日迄ニ引換ノ手續ヲ爲ササルトキハ其ノ船員手帖ハ之ヲ無效トス

第三條　第一條ノ規定ニ依リ提出シタル船員手帖ハ相當期間後受有者ニ之ヲ還付ス

第四條　第一條ノ規定ニ依リ船員手帖ヲ提出シタル者ハ其ノ提出中ニ限リ左ニ揭クル事項ノ證明ヲ遞信省ニ申請スルコトヲ得

一　海員ノ雇入、雇止、雇入契約更新及雇入契約變更ノ公認

二　船長ノ就職及退職ノ認證

前項ノ申請ヲ爲スニハ原船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱、船員手帖ノ番號及證明ヲ受ケムトスル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ

第五條　本令ニ依ル船員手帖ノ交付及證明ハ之ヲ無料トス

附　則

本令ハ大正十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス。

●船員手帖ノ交付訂正又ハ書換等ニ關スル手數料ノ件

（明治三十二年六月十日逓信省令第二百四十三號）

左ノ船員手帖ノ交付、訂正又ハ書換等ニ關スル手數料ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

（內務、遞信大臣副署）

船員手帖ノ交付、訂正又ハ書換其ノ他船員法ノ規定ニ依リ認證、公認又ハ公認ノ認證ヲ申請スル者ハ遞信大臣ノ定ムル所ニ從ヒ手數料ヲ管海官廳ニ納付スヘシ

船員手帖ノ交付又ハ書換ニ關スル手數料ヲ除ク外前項ノ手數料ハ市町村長ニ於テ管海官廳ノ事務ヲ行フ場合ニ在リテハ市町村ノ收入ト又戶長又ハ之ニ準スヘキ者管海官廳ノ事務ヲ行フ場合ニ在リテ國庫ヨリ其ノ役場ノ經費ヲ支辨セサルトキ亦同シ

●船員證明規則

（明治三十七年十月六日逓信省令第五十一號）

船員證明規則左ノ通相定メ明治三十七年八月一日ヨリ施行ス

船員證明規則

第一條　船員手帖ヲ受有シタル者カ之ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ニ揭クル事項ノ證明ヲ遞信省ニ申請スルコトヲ得

一　海員雇入ノ公認
二　海員雇止ノ公認
三　海員雇入契約更新ノ公認
四　海員雇入契約變更ノ公認
五　船長就職ノ認證（明治三十七年八月一日後ノ認證ニ限ル）
六　船長退職ノ認證（明治三十七年八月一日後ノ認證ニ限ル）

前項ノ申請ヲ爲スニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱、船員手帖ノ番號及證明ヲ受ケントスル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ但記載スヘキ事項不明ナルトキハ、其旨ヲ記載スヘシ

第二條　前條ノ證明ヲ申請スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　海員雇入ノ公認　每一件　十錢
二　海員雇止ノ公認　每一件　十錢
三　海員雇入契約更新ノ公認　每一件　十錢
四　海員雇入契約變更ノ公認　每一件　十錢
五　船長就職ノ認證　每一件　四十錢
六　船長退職ノ認證　每一件　四十錢

手數料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シ消印ヲ爲サシテ之ヲ納付スヘシ但申請者ノ便宜上消印ヲ爲サシテ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條　第一條ノ證明ヲ申請スル者ハ手數料ノ外郵送料ニ相當スル郵便切手ヲ納付シテ證明書ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

●船員法第二十三條ノ規定ニ依ル送還費用ノ償還ニ關スル件

（明治三十三年十二月二十八日勅令第四百十五號）

船員法第二十三條ノ規定ニ依ル送還費用ノ償還ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（遞信大臣副署）

第一條　船員法第二十三條第一項ノ規定ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還シタル船長ハ本令ノ定ムル所ニ從ヒ送還費用ヲ負擔スル者ニ對シ其ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二條　送還費用ハ被送還者ノ負擔トシ被送還者ヨリ償還ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

扶養義務者ニ對スル送還費用償還請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ費用ノ償還ヲ爲シタル者ハ民法第九百五十五條及第九百五十六條ノ規定ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三條　被送還者ノ扶養義務者ヨリ送還費用ノ償還ヲ得サルトキハ該費用ハ被送還者ノ住所地府縣、其ノ住所地ナキトキ又ハ住所地分明ナラサルトキハ其ノ到著地府縣ノ負擔トス

第四條　前條ノ場合ニ於テ被送還者ノ住所地又ハ到著地臺灣、【北海道又ハ沖繩縣】ニ屬スルトキハ當分ノ內國庫ニ於テ送還費用ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依リ國庫ニ於テ送還費用ヲ負擔スル場合ニ於テモ船長ハ送還費用ノ請求書ヲ臺灣總督府【北海道廳又ハ沖繩縣廳】ニ提出スヘシ

第五條　本令ニ於テ送還費用ト稱スルハ公使、領事又ハ貿易事務官ニ於テ被送還者ヲ送還スルニ適當ナリト認メタル客室ノ等級ニ相當スル運送賃ヲ謂フ

附　則

本令ハ明治三十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●管海官廳ノ事務ヲ行ハシムル市町村長戶長及之ニ準スヘキ者ヲシテ管海官廳ノ事務ヲ行ハシム

（明治三十二年六月十二日逓信省令第二十六號改正　明治三二年第四〇號、三三年第五四號、第二五號、第七九號、三四年第六號、第二八號、三五年第六三號、三六年第五〇號、三七年第八號、第二九號、三九年第三二號、四〇年第二六號、第五四號、四一年第五三號、四三年第一五號、四四年第二八號、四五年第一九號　大正元年第二五號、二年第三號、第一二號、五年第七號、六年第四九號、七年第二號、第一八號、第五四號、第五六號、八年第二號、第八三號、第九五號、九年第一〇號、第六二號、一〇年第二一號、第二九號、第三七號、第四七號、第五一號、一二年第四〇號、第四四號、第五一號、第五四號、第五六號、一三年第四號、第五號、第一七號、第二三號、第六〇號、第六一號、一四年第五五號、第二二號、第四六號、第八二號、一五年第五號、第七號、第一二號、第二〇號　昭和二年第一號、第二〇號）

船員法第七十九條ノ規定ニ依リ左ノ市町村長戶長及之ニ準スヘキ者ヲシテ管海官廳ノ事務ヲ行ハシム

北海道　岩內郡岩內町長　天鹽郡天鹽町長　宗谷郡稚內村長　室蘭市長　根室郡根室町長　釧路市長　花咲郡晶川町長　函館市長　爾志郡鷲泊町長　加佐郡無鳥町長　三浦郡三崎町長　足柄下郡眞鶴村外二箇村組合長　三原郡福良町長　津名郡江井町長　赤穗郡坂越村長　城崎郡港村長　佐世保市長　西彼杵郡崎戶村長　下縣郡今屋敷町外十町村戶長（嚴原）　上縣郡佐須奈村長　北松浦郡山口村長　中頸城郡直江津町長　佐渡郡兩津町長　千葉縣　佐渡郡小木町長　海上郡銚子町長　安房郡館山町長　茨城縣　那珂郡湊町長　久慈郡久慈町長　四日市市長　度會郡大湊町長　三重縣　志摩郡鳥羽町長　志摩郡的矢村長　南牟婁郡長　和歌山縣　海草郡雜賀村長　海草郡濱中村長　日高郡白崎村長　東牟婁郡新宮町長　東牟婁郡勝浦村長　西牟婁郡串本町長　西牟婁郡田邊町長　德島縣　板野郡撫養町長　德島市長　勝浦郡小松島町長　那賀郡橘町長　海部郡三穗田町長　伸多度郡多度津町長　香川縣　綾歌郡坂出町長　仲多度郡多度津町長　愛媛縣　越智郡波止濱【村長】　溫泉郡西中島村長　宇和島市長　南宇和郡東外海村長　西宇和郡川之石村長　高知縣　長岡郡三里村長　高岡郡須崎町長　安藝郡甲浦村長　幡多郡下田村長　福岡縣　【遠賀郡】若松【町長】　戶畑市長　門司市長　福岡市長　三潴郡大川町長　北海部郡佐賀關町長　北海部郡青江村長　南海部郡佐伯町長　東松浦郡唐津町長　東松浦郡唐津村長　東松浦郡西山代村長　西松浦郡呼子村長　小城郡芦刈村長　佐賀縣　杵土郡三角【村長】　天草郡阿村長　熊本縣　東臼杵郡細島町長　東臼杵郡東海村長　宮崎郡赤江村長　南那珂郡油津町長　兒湯郡美々津町長　宮崎縣　鹿兒島縣　川邊郡枕崎町長　大島郡名瀨村長　大島郡東方村長　沖繩縣　那覇市長

●船員ノ最低年齡及健康證明書ニ關スル法律

（大正十二年三月三十日法律第三十五號）

船員帝國議會ノ協賛ヲ經タル船員ノ最低年齡及健康證明書ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（內務、遞信大臣副署）

第一條　本法ハ勤令ノ定ムル場合ヲ除クノ外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス

第二條　十四歲未滿ノ者ハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル船舶又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ教習船ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條　十八歲未滿ノ者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ船舶內勞働ニ適スルコトヲ證明シ且醫師ノ署名シタル健康證明書ヲ有スルニ非サレハ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得但シ緊急已ムヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ健康證明書ヲ有セサル者ヲ使用シタルトキハ船長ハ最初ニ到著シタル港ニ於テ前項ノ健康證明書ヲ得シムルノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ引續キ使用スルコトヲ得ス

第一項ノ健康證明書ノ有效期間ハ之ヲ一年トス航海中其ノ期間滿了スルトキハ該航海ノ終了迄其ノ效力ヲ有スルモノト看做ス

前三項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル場合ニ之ヲ適用セス

第四條　十八歲未滿ノ者ヲ船員トシテ使用スル場合ニ於テハ船長ハ其ノ本籍、氏名及生年月日ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ船舶內ニ備附クルコトヲ要ス但シ十六歲以上ノ者ニ付テハ勤令ノ定ムル所ニ依リ右名簿ヲ調製セサルコトヲ得

第五條　當該官吏ハ船舶ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第六條　船員、船員タラムトスル者、船舶所有者又ハ船長ハ船員タラムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第七條　第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル船舶所有者又ハ船長ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ該當スル者未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ其ノ者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ

適用ス

第一項ノ規定ニ該當スル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサル爲ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八條　第四條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　本法ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人ニ、船舶賃貸借ノ場合ニ於テハ船舶賃借人ニ之ヲ適用ス

第十條　本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際十四歳未滿ノ者ハ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

本法施行ノ際十八歳未滿ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付雇入期間ノ滿了迄第三條ノ規定ハ之ヲ適用セス雇入期間滿了ノ際航海中ノ者ニ付テハ該航海ノ終了迄之ヲ適用セス

（大正十二年勅令第四百八十一號ヲ以テ同年十二月十五日ヨリ施行）

●大正十二年法律第三十五號　行ニ關スル件

（昭和二年二月二十四日法律第二號）

大正十二年一月二十日勅令第四百八十二號

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル大正十二年法律第三十五號中改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、遞信大臣副署）

大正十二年法律第三十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ニ左ノ題名ヲ附ス

船員最低年齡法

第二條ノ二　十八歳未滿ノ者ハ石炭夫又ハ火夫トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十八歳以上ノ者ヲ雇入ルルコト能ハサル港ニ於テハ十六歳以上ノ者ニ限リ之ヲ雇入レ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ十八歳以上ノ者一人ニ代ヘ十六歳以上ノ者二人ヲ雇入ルルコトヲ要ス

專ラ日本各港間ヲ航行スル船舶ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス主務大臣ノ定ムル所ニ依リ十六歳以上ノ者ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ十六歳以上ノ者ヲ使用スルニ付テハ其ノ者ノ親權者又ハ後見人ノ書面ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第一條　大正十二年一月二十日勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際十八歳未滿ノ者ヲ石炭夫又ハ火夫トシテ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セス

●大正十二年法律第三十五號施行ニ關スル件

（大正十二年一月二十日勅令第四百八十二號）

脫大正十二年法律第三十五號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、遞信大臣副署）

第一條　大正十二年法律第三十五號第三條ノ規定ハ漁業ニ從事スル船舶又ハ總噸數二十噸未滿若ハ積石數二百石未滿ノ船舶ノ船員ニ之ヲ適用セス

第二條　大正十二年法律第三十五號第四條ニ定ムル名簿ハ漁業ニ從事スル船舶又ハ總噸數二十噸未滿若ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニ在リテハ十六歳以上ノ船員ニ付之ヲ調製スルコトヲ要ス

第三條　大正十二年法律第三十五號ハ同法第三條及第四條ノ規定ヲ除クノ外總噸數三十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ漁業ニ從事スル船舶ノ船員ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ大正十二年法律第三十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大正十二年法律第三十五號施行規則

（大正十二年一月二十日遞信省令第九十六號）

大正十二年法律第三十五號施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、內務、遞信大臣副署）

第一條　大正十二年法律第三十五號施行規則左ノ通定ム

大正十二年法律第三十五號施行規則

第一條　大正十二年法律第三十五號第二條第二項ニ依ル認可ヲ受ケムトスルトキハ教習船ニ於テ教習ヲ爲サシメムトスル者ヨリ其ノ住所又ハ主タル事務所所在地（船舶ノ所在地ニ在リテハ其ノ所在地）ヲ管轄スル遞信局長ニ左ノ事項ヲ記載セル申請書ヲ提出スヘシ

一　申請者ノ氏名又ハ名稱及其ノ住所又ハ主タル事務所所在地（船舶ノ所在地ニ在リテハ其ノ所在地）

二　教習船ノ種類、船名、總噸數、船籍港及所有者ノ氏名又ハ名稱

三　教習ノ目的

四　教習生ノ員數竝十四歳未滿ノ教習生ノ氏名、本籍及年齡

五　十四歳未滿ノ教習生ニ爲サシムル作業ノ種類、方法及期間竝其ノ作業ヲ爲サシムル教習船ノ豫定航路

六　船舶職員及教員ノ氏名、資格及分擔職務又ハ學科

遞信局長ハ前項ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ附シ之ヲ認可スヘシ

遞信局長ハ申請ニ依リ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二條　前條ノ認可ヲ受ケタル者同條第一項第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ所轄遞信局長ノ認可ヲ受ケヘシ但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ豫メ認可ヲ受クルコト能ハサルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ所轄遞信局長ノ追認ヲ受ケヘシ

前條第一項第一號乃至第四號又ハ第六號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ同條ノ認可ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク所轄遞信局長ニ届出ツヘシ

第三條　大正十二年法律第三十五號第三條ノ健康證明書ハ別表健康檢査合格標準ニ依リ作成シタルモノナルコトヲ要ス

第四條　船長ハ船員トシテ使用スル十八歳未滿ノ者ヲシテ健康證明書ヲ提出セシメ其ノ使用中之ヲ保管スヘシ

第五條　船長ハ大正十二年法律第三十五號第三條第一項但書ノ規定ニ依リ船員トシテ使用セル者ヲシテ健康證明書ヲ得シムル爲該證明書ヲ受クルニ適當ナル最初ノ到著港ニ於テ必要ナル一切ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第六條　■名簿（少年船員名簿ト稱ス）ハ第一號書式ニ依ル少年船員名簿ノ記載事項ハ常ニ之ヲ整理シ現狀ニ適合セシムヘシ

第七條　船長ハ其ノ保管ニ係ル健康證明書ヲ少年船員名簿ニ記載セル船員ノ氏名順ニ依リ整理補綴スヘシ

第八條　大正十二年法律第三十五號第五條ノ證票（船舶臨檢證票ト稱ス）ハ第二號書式ニ依ル船舶臨檢證票ハ船長又ハ其ノ代理人ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第九條　管海官廳又ハ船員法ニ依リ指定セラレタル市町村長ハ十八歳未滿ノ船員ノ雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ第三條ノ健康證明書ヲ呈示セシムヘシ

第十條　船長ハ雇入ノ公認ヲ受クルヲ要セサル十六歳未滿ノ船員ヲ使用シタルトキハ其ノ氏名、本籍及年齡ヲ其ノ乘組メル船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ届出ツヘシ

附　則

本令ハ大正十二年法律第三十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年法律第三十五號附則第二項ノ規定ニ依リ十四歳未滿ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ其ノ氏名、本籍及年齡ヲ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ其ノ船員ノ乘組メル船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ届出ツヘシ

大正十二年法律第三十五號附則第三項ノ規定ニ依リ同法第三條ノ規定ニ依ラシテ十八歳未滿ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ其ノ氏名、本籍、年齡、雇入期間竝乘組船舶ノ名稱及航海終了豫定期日ヲ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ其ノ船員ノ乘組メル船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ届出ツヘシ

第一號書式

少年船員名簿

氏名	本籍	生年月日

第二號書式（表）

第貳號

官氏名

船舶臨檢證票

遞信省

（裏）

大正十二年法律第三十五號第五條ニ當該官吏ハ船舶ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ（總理、內務、遞信大臣副署）

第八條　第四條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

（別表）

健康檢査合格標準

檢査項目	合格標準
一、視力	萬國視力表ヲ五米突ノ距離ニ於テ一眼ハ〇・三號他眼ハ〇・二號ヲ明視シ得ルモノ
二、聽覺	一尺ノ距離ニ於テ兩耳共ニ普通ノ談話ヲ聽取シ得ルモノ
三、體格	甚シキ身體ノ薄弱、著シキ胸廓發育ノ不良、畸形、四肢ノ運動障害其ノ他船舶內勞働ニ堪エスト認メラルルモノニ非サルモノ
四、疾病	肺、肋膜及心臟ノ疾患、精神異常、腦氣竝各種傳染性疾患ヲ有セサルモノ

備　考

一　全項目ヲ通シ合格標準以上ノモノナルトキハ合格トシ一項目ニテモ合格標準以下ノモノアルトキハ不合格トス

二　合格セル者ニ附與スル健康證明書ニハ被檢者ノ氏名、本籍及生年月日、檢査ノ年月日竝醫師ノ氏名及住所ヲ記載スルノ外本健康檢査合格標準ニ合格シタル旨ヲ附記スルコトヲ要ス

●船舶職員法

（明治二十九年四月七日法律第六十八號）

改正　明治三八年第六九號

脫帝國議會ノ協賛ヲ經タル船舶職員法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（總理、遞信大臣副署）

船舶職員法

第一條　日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲシテ乘組マシムヘシ但シ船舶檢査法第一條各號ニ揭ケル船舶ハ此ノ限ニ在ラス

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條　海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條　海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長
甲種一等運轉士
甲種二等運轉士
乙種船長
乙種一等運轉士
乙種二等運轉士
丙種船長
丙種運轉士
機關長
一等機關士
二等機關士
三等機關士

遞信大臣ハ海技免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與スルコトヲ得

第四條　各船舶ニ乘組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第一號表ニ定ムル免狀ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得

第五條　海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試驗規程ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乘組シ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ試驗規程ニ合格スト認ムル者ニハ試驗ヲ用ヒス

第六條　左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タルコト公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者

二　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

三　瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者

四　海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第七條　左ニ揭クル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

一　外國各港間ノミヲ航行スル船舶

二　漁獵其ノ他特殊ノ目的ニ專用スル船舶

三　特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條　此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乘組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶賃貸借ノ場合ニ於テハ賃借人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シテ船舶職員ト爲リタル者、海技免狀ノ行使ノ假停止若ハ差押中其ノ職務ヲ執リタル者又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第九條　前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ【穀罪倶發】ノ例ヲ用ヒス

前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ賃借人カ法人ナルトキハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ船舶ノ管理ニ關シ未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條ノ二　此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ船舶檢査法第十七條ニ揭ケル外國船舶ニ準用スルコトヲ得

附　則

第十條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條　明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條　明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム

前項ニ揭ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテノ之ニ代用スルコトヲ得

第十三條　此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五十石以上ノ帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條　遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乘組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歳以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ヲ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乘組マシメサルコトヲ得

第一號表

船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	定員

技免狀ヲ受ケントスル者管海官廳ニ於テ體格檢査ヲ受クルコト能ハサルトキハ該官廳ノ定ムル體格檢査例規ニ依リ相當醫師ノ檢査ヲ受ケ其成績書ヲ添ヘ該官廳ニ於テ檢査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ疏明シテ前條ノ體格檢査ノ執行ニ代フルコトヲ申請スルコトヲ得

管海官廳ハ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ體格檢査成績書ニ依リ申請人ノ體格ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ體格檢査ニ合格シタル者ト看做スコトヲ得

第十四條　逓信省ニ於テ第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ海技免狀原簿ニ登錄シ第三號書式ノ海技免狀ヲ申請人ニ授與ス

一　海技免狀ノ種類
二　氏名
三　本籍地及族稱（外國人ナルトキハ國籍）
四　出生ノ年月日
五　船舶職員試驗又ハ體格檢査ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
六　合格ノ年月日

第十五條　海技免狀ヲ受有スル者第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ現ニ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ審判ノ繼續ノ決定又ハ確定裁決ヲ受クルマテ之ヲ停止ス

前項ノ確定裁決ニ依リ免狀行使ヲ停止セラレタルトキハ尙其執行處分ヲ終ルマテ登錄ヲ停止シ又免狀行使ヲ禁止セラレタルトキハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス

第十六條　第十四條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ當該免狀ヲ受有スル者ハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ第四號書式ノ書面ヲ逓信省ニ差出シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

時ニ爲ストキハ該申請ノ内一件ニ對スル手數料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第十六條ニ依リ變更ノ登錄ノ申請ヲ爲シ海技免狀ノ書換交付ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申請ヲ爲ストキハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第二十八條　第十一條第十二條第一項第三項第十六條第一項第二十二條第二十四條又ハ第二十六條第一項ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル納付書ヲ申請書ニ添付スヘシ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

第六章　雜則

第二十九條　海技免狀ヲ受有スル者公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキハ其裁判確定後遲滯ナク本人又ハ該免狀ヲ保管スル者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ海技免狀ヲ逓信省ニ差出スヘシ

一　公權停止ノ理由
二　公權停止ノ期間
三　裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル海技免狀ハ公權停止ノ期間逓信省之ヲ保管シ期間滿了ノ後之ヲ還付ス

第三十條　第十六條第一項第十八條第十九條第三項第二十條第二十一條第一項第二十二條第二十四條第二十六條第一項又ハ第二十九條第一項ニ依リ申請書又ハ海技免狀ヲ逓信省ニ差出スニハ最寄管海官廳ヲ經由スルコトヲ得

第三十一條　海技免狀ハ本則ノ規定ニ依リ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノ事由發生シタルトキヨリ、之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生シタルトキヨリ、第十八條第一項各號及第十九條第一項第二號第三號第四號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ、滅失シタル場合ニハ滅失ノトキヨリ其效力ヲ失フ

第三十二條　海技免狀ヲ受有スル者ハ當該官吏又ハ公吏ノ要求アルトキハ之ヲ其檢閱ニ供スヘシ

第七章　罰則

第三十三條　第十六條第十八條第二十一條第一項第二項第二十二條第二十四條第二十九條第一項第三十二條ニ違背シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十四條　本則ハ明治三十八年法律第六十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十五條　明治三十二年月逓信省令第四十七號海技免狀取扱規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十六條　本則施行前ニ第十六條第十八條又ハ第二十四條ニ該當シ未タ其手續ヲ爲ササル者ハ本則施行ノ日ヨリ起算シ各條ニ記載スル期間ニ本則ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ

本則施行前ニ第二十一條第一項第二項第二十二條又ハ第二十九條第一項ニ該當スル者ニモ亦之ヲ適用ス

第三十七條　外國ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニハ當分ノ内日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第三十七條ノ二　第四條、第七條及第三十七條ノ規定ハ日本船舶カ朝鮮、臺灣若ハ樺太ノ各港間ノミヲ航行シ又ハ内地ト朝鮮、臺灣若ハ樺太トノ間ヲ航行スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　明治三十八年法律第六十九號施行ノ際現在スル發動機船ハ明治三十八年十月一日ヨリ船舶職員法ニ依リテ職員ヲ乘組マシムヘシ

附　則（大正十三年逓信省令第三十九號）

本令中第八條ノ規定ハ大正十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令中第一號表及第三號表ハ大正十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年月逓信省令第二號別表第一號表又ハ第三號表ニ依リ船舶ニ其ノ職員トシテ乘組ミ本令施行ノ際現ニ就職中ニシテ第四項又ハ第六項ノ扁出ヲ爲シタル者ハ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ執ル期間内ニ限リ前項ノ規定ニ拘ラス同別表ニ依リ引續キ就職スルコトヲ得本令施行後一時下船シ其ノ翌日ヨリ起算シ三十日以内ニ同一船舶ニ於テ同一ノ職ニ復スル者ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依リ船舶職員トシテ引續キ就職セムトスル者ハ大正十四年十二月三十一日迄ニ又復職セムトスル者ハ其ノ都度左ニ揭クル事項ヲ記載セル書面二通ニ就退職ノ期日ヲ證スル船員手帖其ノ他ノ證憑（復職セムトスル場合ニハ滅失ノトキヨリ其效力ヲ失フ）ヲ添附シ管海官廳ニ扁出ノ證明書ヲモ合セテ之ヲ本令施行ノ際ニ於ケル其ノ旨證明ヲ受クヘシ

一　船舶番號、船種及船名
二　總噸數
三　航路定限
四　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
五　職名
六　海技免狀ノ種類及番號
七　就退職年月日（就職ノ扁出ニハ逓職年月日ノ記載ヲ要セス）
八　扁出ノ事由

第三項ノ規定ニ依リ就職又ハ復職シタル者下船シタルトキハ遲滯ナク管海官廳ニ其ノ旨扁出ツヘシ

管海官廳ニ於テ航路ノ狀況其ノ他正當ノ事由ニ依リ第四項ニ定ムル期日迄ニ扁出ヲ爲スコト能ハサリシモノト認ムル場合ニ限リ期日後ト雖扁出ヲ受理スルコトヲ得

別表

第一號表

航路	船種	總噸數	職員名稱	免狀種類定員
遠洋航路	汽船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士 一
			機關長	乙種二等運轉士 一
		五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士 一
			一等運轉士	甲種一等運轉士 一
			機關長	甲種二等運轉士 一
			一等機關士	乙種一等運轉士 一
	帆船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士 一
		五百噸未滿	一等運轉士	甲種二等運轉士 一
近海航路	汽船	百噸未滿	船長	乙種二等運轉士 一
			機關長	乙種二等機關士 一
		二百噸未滿	船長	乙種一等運轉士 一
			機關長	乙種一等機關士 一
		五百噸未滿	船長	乙種一等運轉士 一
			一等運轉士	乙種二等運轉士 一
			機關長	乙種一等機關士 一
			一等機關士	乙種二等機關士 一

第二號表

變更ノ登錄ヲ申請スル者ハ登錄事項ノ變更ニ關スル戸籍ノ際本若ハ抄本、外國人ニ在テハ本國領事ノ證明書ヲ申請書ニ添付スヘシ

逓信省ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ當該免狀ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク該免狀ヲ逓信省ニ返還スヘシ

第二十條　海技免狀ヲ受有スル者高等免狀ニ對スル登錄ヲ受ケタルトキハ下等免狀ニ對スル登錄ハ逓信省ニ於テ之ヲ抹消ス但該高等免狀ノ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

效力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ヲ受有スル者效力ニ制限ヲ加ヘサル同種ノ免狀ニ對スル登錄ヲ受ケタルトキハ效力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ニ對スル登錄ハ逓信省ニ於テ之ヲ抹消ス

第二十一條　海技免狀ヲ受有スル者第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ現ニ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ審判ノ繼續ノ決定又ハ確定裁決ヲ受クルマテ之ヲ停止ス

前項ノ確定裁決ニ依リ免狀行使ヲ停止セラレタルトキハ尙其執行處分ヲ終ルマテ登錄ヲ停止シ又免狀行使ヲ禁止セラレタルトキハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス

第二十二條　海技免狀ヲ受有スル者第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ現ニ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ審判ノ繼續ノ決定又ハ確定裁決ヲ受クルマテ之ヲ停止ス

前項ノ確定裁決ニ依リ免狀行使ヲ停止セラレタルトキハ尙其執行處分ヲ終ルマテ登錄ヲ停止シ又免狀行使ヲ禁止セラレタルトキハ登錄ノ申請ハ之ヲ却下ス

第二十三條　逓信省ニ於テ前二條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登錄ヲ訂正シ又ハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

逓信省ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ當該免狀ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ逓滯ナク該免狀ヲ逓信省ニ返還スヘシ

第二十四條　海技免狀ヲ受有スル者左ノ各號ニ該當スルトキハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ逓信省ニ差出シテ抹消ノ登錄ヲ申請スヘシ

一　公權ヲ剝奪セラレタルトキ
二　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三　船舶職員法第六條第三號ノ事項ニ該當シタルトキ
四　免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレ其裁決確定シタルトキ
五　船舶職員試驗規程ノ規定ニ依リ合格無效トナリタルトキ
六　廢業シタルトキ

海技免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添付シテ之ヲ逓信省ニ返還スヘシ若シ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ屆出ツヘシ

第二十五條　逓信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ之ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

第二十六條　行政區劃ノ變更アリタルトキハ海技免狀ヲ受有スル者ハ其事由ヲ記載シタル書面ヲ逓信省ニ差出シテ海技免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第二十七條　本則ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　第十二條第一項ニ依リ體格檢査ヲ申請スルトキ　二十錢
二　第二十二條ニ依リ海技免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏免狀受有者ノ過失ニ出タルトキ　一圓
三　海技免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ　一圓
四　前條第一項ニ依リ海技免狀ノ書換ヲ申請スルトキ　一圓

前項第二號乃至第四號ノ申請ヲ二件以上同ニ之ヲ準用ス

第二十三條　逓信省ニ於テ前二條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登錄ヲ訂正シ又ハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

第十七條　逓信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登錄ヲ爲シ必要ノ場合ニハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

前項ノ免狀ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ逓信省ニ返還スヘシ

第十八條　海技免狀ヲ受有スル者左ノ各號ニ該當スルトキハ其事實アリタル日又ハ其事由ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ逓信省ニ差出シテ抹消ノ登錄ヲ申請スヘシ

一　公權ヲ剝奪セラレタルトキ
二　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三　船舶職員法第六條第三號ノ事項ニ該當シタルトキ
四　免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレ其裁決確定シタルトキ
五　船舶職員試驗規程ノ規定ニ依リ合格無效トナリタルトキ
六　廢業シタルトキ

海技免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添付シテ之ヲ逓信省ニ返還スヘシ若シ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ屆出ツヘシ

第十九條　逓信省ハ左ノ場合ニ於テ抹消ノ登錄ヲ爲ス

一　前條ノ申請ヲ受ケタルトキ
二　抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ
三　許僞ノ所爲ヲ以テ海技免狀ヲ受ケタル

第三號表

航路	船種	總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類	定員
近海航路	汽船	二百噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士	一
		千噸未滿	船長	乙種船長	甲種一等運轉士 總噸數五百噸未滿ノ汽船ニ限リ	一
			機關長	一等機關士	二等機關士 總噸數五百噸未滿ノ汽船ニ限リ	一
			一等機關士	二等機關士	三等機關士	一
		千噸以上	一等運轉士	甲種一等運轉士	乙種船長但シ總噸數二千噸未滿ノ汽船ニ限リ乙種一等運轉士	一
			二等運轉士	甲種二等運轉士		一
沿海航路	汽船	五百噸未滿	船長	丙種船長	甲種一等運轉士	一
		五百噸以上	一等運轉士 二等運轉士	甲種一等運轉士 甲種二等運轉士	丙種船長 丙種船長	一
		二百噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士	一
		五百噸未滿	機關長	一等機關士	二等機關士	一
		五百噸以上	船長	乙種船長	甲種一等運轉士	一
	帆船	二百噸以上	船長	丙種船長	甲種一等運轉士	一

（第一號書式）

海技免狀原簿登錄申請書

一　海技免狀ノ種類
二　氏名（假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）
三　本籍地及族稱
四　出生ノ年月日
五　船舶職員試驗（體格檢査）ヲ行ヒタル
　　管海官廳ノ名稱
六　合格ノ年月日
右海技免狀原簿ニ登錄ノ上海技免狀授與相成度船舶職員法施行細則第十一條（第十二條第三項）ニ依リ此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　　名　印
現住所

（第二號書式）　遞信大臣宛

體格檢査申請書

船舶職員法第五條第二項ニ依リ歷書、證明書及戶籍謄本（抄本）相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　　名　印
現住所

管海官廳宛

（第三號書式）

花紋

第　號

道府縣華士族平民（外國人ニ在テハ國籍）
氏　名
明治　年　月　日生ノ年月日

（紋章）

（免狀種類）免狀

明治　年法律第　號船舶職員法ニ依リ之ヲ授與ス

明治　年　月　日

遞信大臣　爵　氏　　名　印

免狀授與申請致度候間體格檢査執行相成度依テ履

備考

一　效力ニ制限ヲ加ヘ授與スル免狀ニハ其效力ヲ記載ス
一　海技免狀ノ寸法ハ竪九寸橫一尺二寸トス
一　甲種船長、甲種一等運轉士、甲種二等運轉士、機關長及一等機關士ノ免狀ハ其裏面ニ英譯文ヲ附ス
一　前項ニ揭クル免狀ノ紋章ハ菊章トシ其他ノ免狀ノ紋章ハ桐章トス

（第四號書式）

海技免狀原簿變更登錄（訂正）申請書

一　海技免狀ノ番號
二　海技免狀ノ種類

三　登錄ノ年月日
四　氏名（假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）（新朱書）（舊朱書）
五　本籍地及族稱（新朱書）（舊朱書）
六　出生ノ年月日

右何年何月何日（變更、訂正ノ事由ヲ記載ス）ニ依リ前記朱書ノ通變更ニ付變更登錄（訂正）相成度戶籍謄本（抄本）竝登錄稅（手數料）相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　　名　印
現住所

遞信大臣宛

（第五號書式）

海技免狀再交付申請書

一　海技免狀ノ番號
二　海技免狀ノ種類
三　登錄ノ年月日
四　氏名（假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）
五　本籍地及族稱
六　出生ノ年月日

右何年何月何日（流失、遺失、紛失、毀損等ノ事由ヲ記載ス）ニ付再交付相成度手數料相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　　名　印
現住所

遞信大臣宛

●船舶職員法準用ノ件

大正元年十月十日
勅令第三十一號

脫船舶職員法準用ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（大正二年勅令第二十一號、遞信省令第六十五號ニ依リ遞信大臣ニ改正）

船舶職員法ハ日本ノ沿岸又ハ湖川港內ノミヲ航行スル外國船舶ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●海技免狀再交付ニ關スル件

大正十二年九月二十一日
遞信省令第六十五號

海技免狀再交付ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　海技免狀受有者カ船舶職員試驗受驗申請ノ際提出シ又ハ法令ニ基キ返上ケラレタル海技免狀ニシテ高等海員審判所、東京遞信局又ハ東京地方海員審判所ニ於テ保管中燒失セルモノト認メラルルトキハ船舶職員法施行細則第二十四條ニ定ムル書面ニ準シ當該管海官廳又ハ海員審判所ヲ經由シ遞信省ニ届出ツヘシ

遞信省ニ於テ前項ノ届出ヲ正當ト認ムルトキハ其ノ官階又ハ校名竝證格檢査ヲ行ヒタル管海官廳及合格年月日

四海技免狀原簿登錄ノ年月日

前項第四號ニ揭クル事項ヲ届出ツルコト能ハサルトキハ當該海技免狀（再交付ノ海技免狀ヲ除ク）ニ揭クル事項ヲ届出ツルコトヲ得

第二條　甲種船長免狀（汽船ニ限リ效力ヲ有スルモノヲ除ク）、各甲種運轉士免狀、乙種一等運轉士免狀、乙種二等運轉士免狀（瀨川港內ニ限リ效力ヲ有スルモノヲ除ク）又ハ丙種船長免狀ヲ受有スル者ハ大正十四年九月三十日迄ニ最寄管海官廳ヲ經由シ遞信大臣ニ當該海技免狀寫ヲ添ヘ左ノ事項ヲ届出ツヘシ

一　氏名、出生ノ年月日、本籍及族稱
二　海技免狀ノ種類及番號（假海技免狀規則ニ依リ發給セラレタルモノナルトキハ其ノ旨明示スヘシ以下之ニ倣フ）

三　船舶職員法第五條第一項ノ規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者ニ在リテハ其ノ試驗官廳及合格年月日（商船學校、水產講習所又ハ水產學校卒業生ニ在リテハ其ノ校名及卒業年月日）、同條第二項ノ規定ニ依リ試驗ヲ受ケサルモノニシテ海軍艦船乘組ミタル者又ハ商船學校卒業生ニ在リテハ其ノ官階又ハ校名竝證格檢査ヲ行ヒタル管海官廳及合格年月日

四海技免狀原簿登錄ノ年月日

前項第四號ニ揭クル事項ヲ届出ツルコト能ハサルトキハ當該海技免狀（再交付ノ海技免狀ヲ除ク）ニ揭クル事項ヲ届出ツルコトヲ得

第一條　海技免狀受有者カ船舶職員試驗受驗申請ノ際提出シ又ハ法令ニ基キ返上ケラレタル海技免狀ニシテ高等海員審判所、東京遞信局又ハ東京地方海員審判所ニ於テ保管中燒失セルモノト認メラルルトキハ船舶職員法施行細則第二十四條ニ定ムル書面ニ準シ當該管海官廳又ハ海員審判所ヲ經由シ遞信省ニ届出ツヘシ

遞信省ニ於テ前項ノ届出ヲ正當ト認ムルトキハ其ノ官階又ハ校名竝證格檢査ヲ行ヒタル管海官廳及合格年月日（商船學校、水產講習所又ハ水產學校卒業生ニ在リテハ其ノ校名及卒業年月日）、同條第二項ノ規定ニ依リ試驗ヲ受ケサルモノニシテ海軍艦船乘組ミタル者又ハ商船學校卒業生ニ在リテハ其ノ官階又ハ校名竝證格檢査ヲ行ヒタル管海官廳及合格年月日

第二條　甲種船長免狀（汽船ニ限リ效力ヲ有スルモノヲ除ク）、各甲種運轉士免狀、乙種一等運轉士免狀、乙種二等運轉士免狀（瀨川港內ニ限リ效力ヲ有スルモノヲ除ク）又ハ丙種船長免狀ヲ受有スル者ハ大正十四年九月三十日迄ニ最寄管海官廳ヲ經由シ遞信大臣ニ當該海技免狀寫ヲ添ヘ左ノ事項ヲ届出ツヘシ

一　氏名、出生ノ年月日、本籍及族稱
二　海技免狀ノ種類及番號（假海技免狀規則ニ依リ發給セラレタルモノニ在リテハ最初ノモノ）

三　船舶職員法第五條第一項ノ規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者ニ在リテハ其ノ試驗官廳及合格年月日（商船學校、水產講習所又ハ水產學校卒業生ニ在リテハ其ノ校名及卒業年月日）、同條第二項ノ規定ニ依リ試驗ヲ受ケサルモノニシテ海軍艦船乘組ミタル者又ハ商船學校卒業生ニ在リテハ其ノ官階又ハ校名竝證格檢査ヲ行ヒタル管海官廳及合格年月日

四海技免狀原簿登錄ノ年月日

前項第四號ニ揭クル事項ヲ届出ツルコト能ハサルトキハ當該海技免狀（再交付ノ海技免狀ヲ除ク）ニ揭クル事項ヲ届出ツルコトヲ得

第三條　第一條第一項ニ揭クル者ノ受有スル當該海技免狀原簿登錄ノ年月日不明ナルトキハ同條第二項ニ依リ届出アタル雇入年月日、該雇入年月日不明ナルトキハ假海技免狀規則ニ依リ發給セラレタル海技免狀發給ノ年月日ニ於テ海技免狀原簿ニ登錄シタルモノト推定ス

第四條　正當ノ理由ナクシテ第一條ノ規定ニ依ル届出ヲ僞ササル者ノ爲ス船舶職員法施行細則ノ規定ニ依ル變更ノ登錄申請、登錄ノ訂正申請又ハ海技免狀ノ再交付若ハ書換申請ハ之ヲ受理セサルコトヲ得

第五條　第一條ノ規定ニ依ル届出ヲ僞シタル者船舶職員法施行細則第二十四條ノ規定ニ依リ海技免狀ノ再交付ヲ申請スル場合ニハ大正十二年遞信省令第六十五號第二條ノ規定ヲ適用セス

第六條　本令ハ假海技免狀規則ニ依リ發給スル海技免狀ニシテ登錄ノ年月日ヲ記載セサルモノヲ受有スル者ヲ除クノ外大正十二年九月一日以後ニ發給スル海技免狀ヲ受有スル者竝其ノ使用者タル船舶所有者、船舶管理人及船舶賃借人ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●船舶職員試驗規程

大正十三年九月二十七日
遞信省令第四十號

船舶職員試驗規程左ノ通定ム

船舶職員試驗規程

第一章　總則

第一條　船舶職員試驗ハ左ノ三十六種トス

小形船丙種運轉士試驗
漁船丙種運轉士試驗
丙種運轉士試驗
丙種船長試驗
湖川港乙種二等運轉士試驗
湖川港乙種一等運轉士試驗
小形船乙種二等運轉士試驗
漁船乙種二等運轉士試驗
漁船乙種一等運轉士試驗
乙種二等運轉士試驗
乙種一等運轉士試驗
乙種船長試驗
漁業帆船甲種二等運轉士試驗
漁業帆船甲種一等運轉士試驗
漁業汽船甲種二等運轉士試驗
漁業汽船甲種一等運轉士試驗
漁船甲種二等運轉士試驗
漁船甲種一等運轉士試驗
帆船甲種二等運轉士試驗
帆船甲種一等運轉士試驗
帆船甲種船長試驗
汽船甲種二等運轉士試驗
汽船甲種一等運轉士試驗
汽船甲種船長試驗
甲種二等運轉士試驗
甲種一等運轉士試驗
甲種船長試驗
發動機船三等機關士試驗
湖川港三等機關士試驗
三等機關士試驗
發動機船二等機關士試驗
二等機關士試驗
發動機船一等機關士試驗
一等機關士試驗
發動機船機關長試驗
機關長試驗

第二條　船舶職員試驗ハ別ニ告示スル試驗ノ場所及期日ニ於テ管海官廳定期ニ之ヲ執行シ臨時試驗ヲ執行スル必要アルトキハ試驗ノ場所及期日ヲ隨時告示ス

第三條　本令ニ規定スル乘船期間ヲ計算スルニハ乘船ノ翌日ヨリ之ヲ起算シ末日ハ終了ニ至ラサルモノヲ算入ス

月又ハ年ヲ以テ定ムル乘船期間ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算シ月又ハ年ノ始メヨリ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於ケル起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月又ハ年ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了スルモノトス

乘船期間ヲ計算スルニハ一月ニ滿タサル乘船日數ハ之ヲ合算シ三十日ニ滿ツルトキ一月トシ又一年ニ滿タサル乘船月數ハ之ヲ合算シ十二月ニ滿ツルトキ一年トス

第二章　受驗資格

第四條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗期日ノ前日迄ニ年齡滿二十年ニ達シ試驗ノ種類ニ應シ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

同一ノ試驗ニ對シ規定ノ乘船期間ニ達セサル二以上ノ履歷ヲ有スルトキハ之ヲ其ノ一ニ通算スルコトヲ得但シ規定乘船期間ノ年數ヲ異ニスルモノヲ通算スル場合ニ在リテハ各規定乘船期間ノ比例ニ依リ其ノ一方ニ換算シテ之ヲ通算スルモノトス

第五條　高等ノ免狀ニ對スル受驗履歷ハ下等ノ免狀ニ對スル受驗履歷、高等ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ下等ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷又高等ノ職ヲ執リタル履歷ハ下等ノ職ヲ執リタル履歷トシテ之ヲ認ムルコトヲ得

總噸數百噸以上ノ機關ヲ有セサル繼帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間横帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得

機關部員ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

同一ノ試驗ニ對シ規定ノ乘船期間ニ達セサル二以上ノ履歷ヲ有スルトキハ之ヲ其ノ一ニ通算スルコトヲ得但シ規定乘船期間ノ年數ヲ異ニスルモノヲ通算スル場合ニ在リテハ各規定乘船期間ノ比例ニ依リ其ノ一方ニ換算シテ之ヲ通算スルモノトス

第六條　遞信大臣ハ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國各港間ヲ航行スル船舶ニ乘組ミタル履歷ヲ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ニ相當スルモノトシテ認定スルコトヲ得

上海漢口間ヲ航行スル汽船ニ乘組ミタル期間ハ別表受驗履歷表ニ揭クル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル遠洋航路ヲ航行スル汽船ニ乘組ミタルモノト看做ス

第七條　遞信大臣ハ朝鮮、臺灣、樺太若ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶又ハ外國船舶ニ乘組ミタル履歷ヲ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ニ相當スルモノトシテ認定スルコトヲ得

第八條　朝鮮總督府ノ海技免狀又ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル外國政府ノ海技免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ日本政府ノ相當海技免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ト看做ス

第九條　朝鮮總督府又ハ外國政府ノ海技免狀ヲ受有スル者ハ遞信大臣ノ認定スル所ニ依リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十條　遞信大臣ノ適當ト認ムル商船學校、水產學校又ハ水產講習所ニ在リテ航海科、機關科、漁撈科若ハ遠洋漁業科ヲ卒業シタル者又ハ其ノ在學中ノ乘船期間別表受驗履歷表ニ揭クル乘船期間ニ達セサルモ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十一條　遞信大臣ノ適當ト認ムル機關工場ニ於テ汽機、汽鑵ノ製造又ハ修繕ニ從事シタル期間ハ機關部員ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歷表ニ揭クル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル遠洋機關運轉ニ從事シタルモノトシテ之ヲ乘船期間ニ換算スルコトヲ得

前項ニ定ムル機關工場ニ於ケル期間ノ計算ニ付テハ第三條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　前二條ニ規定スル遞信大臣ノ適當ト認ムル商船學校、水產學校、水產講習所又ハ機關工場ハ別ニ之ヲ告示ス

第十三條　左ニ揭クル履歷ハ第四條ニ規定スル受驗履歷トシテ之ヲ認ムルコトヲ得ス

一　倉庫船又ハ繫留船ニ乘組ミタル履歷

二　年齡十四年未滿ノ履歷

三　試驗期日ヨリ遡リ十年ヲ超エル前ノ履歷

四　主トシテ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事セサル職務ノ履歷

第三章　受驗申請

第十四條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ定期試驗ニ在リテハ試驗期日ヨリ十二日前迄ニ又臨時試驗ニ在リテハ試驗期日五日前迄ニ試驗ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類及手札形寫眞（最近撮影ニ係ル無帽半身ノモノニ限ル）ヲ添附シ第一號書式ノ申請書ヲ提出スヘシ

一　戶籍謄本

二　船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ市區町村長其ノ他當該官公吏ノ證明書

三　海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫

四　商船學校、水產學校又ハ水產講習所ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫

前項第二號ニ揭クル書類ハ外國人ニ在リテハ本國領事ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十五條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ左ニ揭クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ其ノ受驗履歷ヲ證明スヘシ

一　商船ニ乘組ミタル履歷ハ船員手帳若ハ之ニ準スヘキモノ又ハ船員證明規則ニ依ル證明書

二　海軍艦船艇又ハ官公署ノ所屬船ニ乘組ミタル履歷ハ當該官公署ノ辭令書若ハ證明書又ハ當該官公吏ノ證明書

三　前各號ノ一ニ依リ難キ者ノ乘船履歷ハ船舶所有者又ハ船長ノ證明書

四　機關工場、商船學校、水產學校又ハ水產講習所ニ在リタル履歷ハ當該工場、學校又ハ講習所ノ證明書、卒業證書又ハ修業證書

五　海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ當該免狀

第十六條　受驗申請ハ同時ニ二種以上ノ試驗ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

第四章　試驗ノ執行

第十七條　船舶職員試驗ハ體格檢查及學術試驗トシ學術試驗ハ筆記試驗及口述試驗トス但シ本令ニ別段ノ定アル場合ノ外此ノ限ニ在ラス

體格檢查ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス但シ體格檢查ニ於テ甲種合格ニ該當シタル者體格檢查ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ再ヒ同一管海官廳ニ同種ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ其ノ認定ニ依リ體格檢查ヲ省略スルコトヲ得

筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十八條　小形船丙種運轉士試驗、漁船丙種運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗、小形船乙種二等運轉士試驗、漁船乙種二等運轉士試驗、發動機船三等機關士試驗及湖川港三等機關士試驗ニハ筆記試驗ヲ執行セス

第十九條　學術試驗ニ於テ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セサリシ者筆記試驗ニ合格シタル日ヨリ六月内ニ同一管海官廳ニ同種ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ一回ヲ限リ筆記試驗ヲ免除ス

第二十條　受驗手數料ハ體格檢查手數料及學術試驗手數料トシ別表受驗手數料表ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條　受驗申請ヲ受理セラレタル者ニ對シテハ遞信大臣ノ認定スル所ニ依リ筆記試驗ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當スル學校又ハ講習所ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十二條　體格檢查ハ別表體格檢查標準表ニ依リ學術試驗ハ別表學術試驗科目表ニ依リ之ヲ執行ス

第二十三條　體格檢查ハ別表體格檢查標準表ニ依リ學術試驗ハ別表學術試驗科目表ニ依リ之ヲ執行ス

第二十四條　體格檢查ハ試驗ノ場所ニ別段ノ揭示ヲ爲ササル限リ試驗ノ初日ニ於テ之ヲ執行ス但シ當日終了セサルトキハ次日ニ之ヲ續行ス

第二十五條　學術試驗ヲ執行スル期日ハ筆記試驗ニ在リテハ試驗ノ場所ニ之ヲ揭示シ口述試驗ニ在リテハ受驗人ニ之ヲ通知ス

第二十六條　船舶職員試驗ノ執行ニ關スル手續ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メ試驗ノ場所ニ揭示ス

第二十七條　試驗執行中ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實ヲ發見シタルトキハ當該受驗人ニ付直ニ其ノ試驗ヲ停止スヘシ

一　受驗資格ナキコト

二　受驗禁止中ナルコト

三　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト

受驗人前條ノ手續ニ違背シタルトキハ當該受驗人ニ付其ノ試驗ヲ停止スルコトアルヘシ

前各項ノ規定ニ依リ試驗ヲ停止シタルトキ又ハ試驗執行後第一項各號ノ一ニ該當スル事實アリタルコトヲ發見シタルトキハ管海官廳ハ當該受驗人ニ付試驗ノ全部又ハ一部ヲ無效トスコトヲ得

第二十四條　試驗ニ合格シタルトキハ其ノ旨ヲ受驗人ニ通知ス

第二十五條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ付テハ管海官廳ハ六月以上三年以下ノ期間ヲ定メ受驗ヲ禁止スルコトヲ得

第六章　受驗手數料

第二十六條　受驗手數料ハ體格檢查手數料及學術試驗手數料トシ別表受驗手數料表ノ定ムル所ニ依ル

別表

受驗履歷表

試驗ノ種類	乘組船舶	乘船期間	受有免狀ノ種類	勤務ノ種類
小形船丙種運轉士試驗	航洋帆船	四年以上	—	運航
漁船丙種運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、漁業帆船	三年以上 四年以上 四年以上	運航同 運航同 運航同	
丙種運轉士試驗	一、二、二十噸以上ノ航洋帆船 二、二十噸以上ノ航洋帆船	四年以上 一年以上	運航 船長	
丙種船長試驗	一、二、百噸以上ノ航洋帆船 二、三、百噸以上ノ航洋帆船	一年以上 同	小形船丙種運轉士免狀 一等運轉士	
湖川港乙種二等運轉士試驗	免狀ヲ受ケムトスル湖川港内ヲ航行スル汽船	二年以上	運航	
湖川港乙種一等運轉士試驗	免狀ヲ受ケムトスル湖川港内ヲ航行スル百噸以上ノ汽船	一年以上	湖川港乙種二等運轉士免狀	船長
小形船乙種二等運轉士試驗	一、汽船又ハ帆船 二、汽船又ハ帆船 三、機關ヲ有スル帆船	三年以上 二年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
小形船乙種一等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル帆船	三年以上 二年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
漁船乙種二等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル漁業帆船	三年以上 二年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
漁船乙種一等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル漁業帆船	三年以上 二年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
乙種二等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル漁業帆船	三年以上 二年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
乙種一等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル漁業帆船	三年以上 二年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
乙種船長試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル漁業帆船	三年以上 二年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
漁業帆船甲種二等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
漁業帆船甲種一等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
漁業汽船甲種二等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
漁業汽船甲種一等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
漁船甲種二等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
漁船甲種一等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
帆船甲種二等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
帆船甲種一等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
帆船甲種船長試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
汽船甲種二等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
汽船甲種一等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
汽船甲種船長試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業汽船 三、機關ヲ有スル帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
甲種二等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
甲種一等運轉士試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
甲種船長試驗	一、航洋帆船 二、航洋漁業帆船 三、漁業帆船	三年以上 一年以上 一年以上	運航同 運航同 船長同	
湖川港三等機關士試驗	湖川港乙種二等運轉士ニ合格シタル者	一年以上	湖川港乙種二等運轉士免狀	機關長
發動機船機關長試驗	湖川港乙種一等運轉士ニ合格シタル者	一年以上	湖川港乙種一等運轉士免狀	機關長
三等機關士試驗	小形船丙種運轉士試驗ニ合格シタル者	一年以上	小形船丙種運轉士免狀	機關長
發動機船二等機關士試驗	漁船丙種運轉士試驗ニ合格シタル者	一年以上	漁船丙種運轉士免狀	機關長
二等機關士試驗	丙種運轉士試驗ニ合格シタル者	一年以上	丙種運轉士免狀	機關長
發動機船一等機關士試驗	小形船乙種二等運轉士試驗ニ合格シタル者	一年以上	小形船乙種二等運轉士免狀	機關長
一等機關士試驗	漁船乙種二等運轉士試驗ニ合格シタル者	一年以上	漁船乙種二等運轉士免狀	機關長
發動機船機關長試驗	乙種二等運轉士試驗ニ合格シタル者	一年以上	乙種二等運轉士免狀	機關長
機關長試驗	乙種一等運轉士試驗ニ合格シタル者	一年以上	乙種一等運轉士免狀	機關長

附　則

本令ハ大正十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年遞信省令第二十一號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治三十八年遞信省令第二十一號船舶職員試驗規程ニ定ムル受驗履歷ニ適合スル履歷ヲ有スル者ハ本令第四條ノ規定ニ拘ラス本令施行後二年間ヲ限リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

本令施行前ニ執行シタル定期試驗ニ於テ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セサリシ者筆記試驗ノ定期試驗ニ於テ同種ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ筆記試驗ヲ免除ス

漁船乙種一等運轉士試驗	一、航洋船舶ノ航洋漁業汽船ニ、五十噸以上ノ航洋漁業汽船ニ、百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	四年以上	一年以上	漁船乙種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
乙種二等運轉士試驗	一、汽船ニ、十噸以上ノ汽船	同	三年以上	一年以上	小形船乙種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	三等運轉士
乙種一等運轉士試驗	一、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、五十噸以上ノ航洋汽船ニ、百噸以上ノ航洋汽船	同	四年以上	一年以上	乙種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
乙種船長試驗	一、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、二百噸以上ノ航洋汽船ニ、五十噸以上ノ航洋汽船	同	一年以上	一年以上	乙種一等運轉士免狀	同	運航	同	一等運轉士
漁業帆船甲種二等運轉士試驗	一、航洋漁業帆船ニ、百噸以上ノ航洋漁業帆船	同	一年以上	一年以上	漁業帆船甲種二等運轉士免狀	同	運航	同	船長
漁業帆船甲種一等運轉士試驗	一、遠洋航路ヲ航行スル漁業帆船又ハ百噸以上ノ近海航路若ハ沿海航路ヲ航行スル漁業帆船	同	一年以上	一年以上	漁業帆船甲種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
漁業汽船甲種二等運轉士試驗	一、航洋漁業汽船ニ、百噸以上ノ航洋漁業汽船ニ、五百噸以上ノ航洋漁業汽船ニ、百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	四年以上	一年以上	漁業汽船甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
漁業汽船甲種一等運轉士試驗	一、百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	四年以上	一年以上	漁業汽船甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
漁船甲種二等運轉士試驗	一、航洋漁業帆船ニ、百噸以上ノ航洋漁業帆船内一、百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	四年以上	一年以上	漁船甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
漁船甲種一等運轉士試驗	一、百噸以上ノ航洋漁業帆船ニ、二百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	一年以上	一年以上	漁船甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
帆船甲種二等運轉士試驗	一、二十噸以上ノ大航洋帆船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船ニ、二十噸以上ノ大航洋帆船	同	四年以上	一年以上	帆船甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
帆船甲種一等運轉士試驗	一、遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、百噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	帆船甲種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
甲種船長試驗	一、二、百噸以上ノ航洋汽船ニ、遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、百噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
三、	五百噸以上ノ航洋汽船	同	二年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
六、	横装置ノ大航洋帆船	同	二年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
三、	五百噸以上ノ航洋汽船ニ、千噸以上ノ航洋帆船	同	二年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
六、	横装置ノ大航洋帆船	同	二年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
三、	千噸以上ノ航洋汽船	同	三年以上	一年以上	丙種運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
六、	横装置ノ大航洋帆船	同	三年以上	一年以上	丙種運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
発動機船三等機關士試驗	発動機船		一年六月以上						
湖川港三等機關士試驗	汽船		二年以上						
三等機關士試驗			三年以上						
発動機船二等機關士試驗	一、二十噸以上ノ航洋発動機船		二年六月以上						
二等機關士試驗	一、二、百噸以上ノ航洋汽船ニ、五十噸以上ノ航洋汽船		三年以上	一年以上	発動機船三等機關士免狀		機關運轉長		
発動機船等機關士試驗	一、二、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、三、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、四、百噸以上ノ航洋発動機船		三年以上	一年以上	発動機船二等機關士免狀		機關運轉長		
一等機關士試驗	一、五百噸以上ノ航洋汽船		四年以上	一年以上	発動機船一等機關士免狀		機關運轉士		
二、	百噸以上ノ航洋汽船		二年以上	同	二等機關士免狀		機關運轉士		
三、	千噸以上ノ航洋汽船		同	同	一等機關士免狀		機關運轉士		
発動機船等機關長試驗	一、二、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、三、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、四、千噸以上ノ航洋発動機船		二年以上	同	発動機船一等機關士免狀		機關運轉士		

甲種船長試驗	一、二、百噸以上ノ航洋汽船ニ、遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、百噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
三、	五百噸以上ノ航洋汽船	同	二年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
六、	横装置ノ大航洋帆船	同	二年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
三、	千噸以上ノ航洋汽船	同	三年以上	一年以上	丙種運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
六、	横装置ノ大航洋帆船	同	三年以上	一年以上	丙種運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
発動機船三等機關士試驗	発動機船		一年六月以上						
湖川港三等機關士試驗	汽船		二年以上						
三等機關士試驗			三年以上						
発動機船二等機關士試驗	一、二十噸以上ノ航洋発動機船		二年六月以上						
二等機關士試驗	一、二、百噸以上ノ航洋汽船ニ、五十噸以上ノ航洋汽船		三年以上	一年以上	発動機船三等機關士免狀		機關運轉長		
発動機船等機關長試驗	一、二、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、三、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、四、千噸以上ノ航洋発動機船		二年以上	同	発動機船二等機關士免狀		機關運轉長		
一等機關士試驗	一、五百噸以上ノ航洋汽船		四年以上	一年以上	発動機船一等機關士免狀		機關運轉士		
二、	百噸以上ノ航洋汽船		二年以上	同	二等機關士免狀		機關運轉士		
三、	千噸以上ノ航洋汽船		同	同	一等機關士免狀		機關運轉士		
発動機船等機關長試驗	一、二、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、三、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、四、千噸以上ノ航洋発動機船		二年以上	同	発動機船一等機關士免狀		機關運轉士		

備考

一、船舶ノ噸数ハ總噸数ヲ以テ示シ石数ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ十石ヲ以テ一噸ニ換算ス

二、航洋船舶トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船及帆船、航洋汽船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船、航洋帆船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ヲ謂ヒ、航洋漁業汽船及航洋漁業帆船亦之ニ準ス

三、横帆装置ノ帆船ニハ「トップスル、スクーナー」装置ノモノヲ包含セス

四、受有免狀ノ種類中小形船丙種運轉士免狀ハ効力ヲ沿海航路ノ航路定限ト爲ス總噸数五十噸未滿ノ帆船ニ限リタル丙種運轉士免狀、湖川港ノ三字ヲ冠シタルハ効力ヲ一定區域ノ湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限リタルモノ、漁船ノ二字ヲ冠シタルハ効力ヲ漁船ニ限リタルモノ、小形船乙種二等運轉士免狀トアルハ効力ヲ沿海航路若ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス總噸数三十噸未滿ノ汽船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀、漁業帆船ノ四字ヲ冠シタルハ効力ヲ漁業帆船ニ限リタルモノ、漁業汽船ノ四字ヲ冠シタルハ効力ヲ漁業汽船ニ限リタルモノ、帆船ノ二字ヲ冠シタルハ効力ヲ帆船ニ限リタルモノ、汽船ノ二字ヲ冠シタルハ効力ヲ汽船ニ限リタルモノ又發動機船ノ四字ヲ冠シタルハ効力ヲ發動機船ニ限リタルモノヲ指稱ス

別表

體格檢查標準表

檢查項目	合格 甲種	合格 乙種
眼ノ現狀	眼瞼下垂、顆粒性結膜炎、斜視、角膜、虹彩及網膜諸病ナキモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
視力	兩眼共ニ〇、六號ヲ明視シ得ルモノ（五米突ノ距離ニ於ケル萬國視力表ニ依ル）	甲板部員試驗ニ於テハ一眼ハ〇、六號他眼ハ〇、四號ヲ明視シ得ルモノ　機關部員試驗ニ於テハ一眼ハ〇、四號他眼ハ〇、三號ヲ明視シ得ルモノ
辨色	完全ナルモノ	紅綠盲及青黃盲ニ非サル色弱ナルモノ
耳ノ現狀	內外聽道ノ疾病特ニ鼓膜穿孔耳漏ノ片又ハ兩耳々聾ナキモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
聽力	兩耳共ニ二尺以上ノ距離ニ於テ明瞭ニ呼時音ヲ聽取シ得ルモノ	兩耳共ニ一尺以上一尺距離ニ於テ明瞭ニ呼時音ヲ聽取シ得ルモノ
體格	身體薄弱、胸隔扁平ニシテ勞瘵ノ徵候、畸形、指趾等ノ缺損、四肢運動ノ不自由ナキモノ	上欄揭記ノ障碍アルモ輕微ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ
疾病	心肺ノ疾患、心悸亢進、聲音ノ嘶啞、肋膜炎後ノ障碍、精神異常、言語障碍、喃吃其ノ他著シキ疾病ナキモノ	上欄揭記ノ疾病アルモ輕症ニシテ執務上差支ナシト認メ得ルモノ

備考　機關部員試驗ニハ辨色檢查ヲ行ハス

漁船乙種一等運轉士試驗	一、航洋船舶ノ航洋漁業汽船ニ、五十噸以上ノ航洋漁業汽船ニ、百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	四年以上	一年以上	漁船乙種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
乙種二等運轉士試驗	一、汽船ニ、十噸以上ノ汽船	同	三年以上	一年以上	小形船乙種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	三等運轉士
乙種一等運轉士試驗	一、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、五十噸以上ノ航洋汽船ニ、百噸以上ノ航洋汽船	同	四年以上	一年以上	乙種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
乙種船長試驗	一、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、二百噸以上ノ航洋汽船ニ、五十噸以上ノ航洋汽船	同	一年以上	同	乙種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
漁業帆船甲種二等運轉士試驗	一、航洋漁業帆船ニ、百噸以上ノ航洋漁業帆船	同	一年以上	一年以上	漁業帆船甲種二等運轉士免狀	同	運航	同	船長
漁業帆船甲種一等運轉士試驗	一、遠洋航路ヲ航行スル漁業帆船又ハ百噸以上ノ近海航路若ハ沿海航路ヲ航行スル漁業帆船	同	一年以上	一年以上	漁業帆船甲種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
漁業汽船甲種二等運轉士試驗	一、航洋漁業汽船ニ、百噸以上ノ航洋漁業汽船ニ、五百噸以上ノ航洋漁業汽船ニ、百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	四年以上	一年以上	漁業汽船甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
漁業汽船甲種一等運轉士試驗	一、百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	四年以上	一年以上	漁業汽船甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
漁船甲種二等運轉士試驗	一、百噸以上ノ航洋漁業帆船ニ、百噸以上ノ航洋漁業汽船内一、百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	四年以上	一年以上	漁船甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
漁船甲種一等運轉士試驗	一、百噸以上ノ航洋漁業帆船ニ、二百噸以上ノ航洋漁業汽船	同	一年以上	同	漁船甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
帆船甲種二等運轉士試驗	一、二十噸以上ノ大航洋帆船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船ニ、二十噸以上ノ大航洋帆船	同	四年以上	一年以上	帆船甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
帆船甲種一等運轉士試驗	一、遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、百噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	帆船甲種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
甲種船長試驗	一、二、百噸以上ノ航洋汽船ニ、遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、百噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
三、	五百噸以上ノ航洋汽船	同	二年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
六、	横装置ノ大航洋帆船	同	二年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
三、	千噸以上ノ航洋汽船	同	三年以上	一年以上	丙種運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
六、	横装置ノ大航洋帆船	同	三年以上	一年以上	丙種運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
発動機船三等機關士試驗	発動機船		一年六月以上						
湖川港三等機關士試驗	汽船		二年以上						
三等機關士試驗			三年以上						
発動機船二等機關士試驗	一、二十噸以上ノ航洋発動機船		二年六月以上						
二等機關士試驗	一、二、百噸以上ノ航洋汽船ニ、五十噸以上ノ航洋汽船		三年以上	一年以上	発動機船三等機關士免狀		機關運轉長		
発動機船等機關長試驗	一、二、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、三、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、四、千噸以上ノ航洋発動機船		二年以上	同	発動機船二等機關士免狀		機關運轉長		
一等機關士試驗	一、五百噸以上ノ航洋汽船		四年以上	一年以上	発動機船一等機關士免狀		機關運轉士		
二、	百噸以上ノ航洋汽船		二年以上	同	二等機關士免狀		機關運轉士		
三、	千噸以上ノ航洋汽船		同	同	一等機關士免狀		機關運轉士		
発動機船等機關長試驗	一、二、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、三、百噸以上ノ航洋発動機船ニ、四、千噸以上ノ航洋発動機船		二年以上	同	発動機船一等機關士免狀		機關運轉士		

甲種一等運轉士試驗	一、二、千噸以上ノ航洋汽船ニ、遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、千噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
三、	五百噸以上ノ航洋汽船	同	二年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
六、	横帆装置ノ大航洋帆船	同	二年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	二等運轉士
甲種二等運轉士試驗	一、二十噸以上ノ大航洋帆船又ハ百噸以上ノ大航洋汽船	同	四年以上	一年以上	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
内、	百噸以上ノ横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
汽船甲種船長試驗	一、一、百噸以上ノ航洋汽船ニ、五百噸以上ノ航洋汽船	同	一年以上	同	汽船甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
三、	二、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、五百噸以上ノ大航洋汽船	同	二年以上	同	乙種船長免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
四、	三、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、五百噸以上ノ大航洋汽船	同	二年以上	同	乙種船長免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
汽船甲種船長試驗	一、一、百噸以上ノ航洋汽船ニ、五百噸以上ノ航洋汽船	同	一年以上	同	汽船甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
二、	二、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、五百噸以上ノ大航洋汽船	同	二年以上	同	乙種船長免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
四、	三、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、五百噸以上ノ大航洋汽船	同	二年以上	同	乙種船長免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
五、	四、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、千噸以上ノ大航洋汽船	同	二年以上	同	乙種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
三、	五、三百噸以上ノ航洋汽船ニ、千噸以上ノ航洋汽船	同	二年以上	同	乙種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
四、	五、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、千噸以上ノ航洋汽船	同	二年以上	同	乙種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
五、	三、三百噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
六、	五百噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
七、	千噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
八、	遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
九、	五百噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
十、	千噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
一、	二、百噸以上ノ航洋汽船ニ、二十噸以上ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
二、	二、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
三、	千噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
四、	遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、千噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
五、	五百噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
六、	横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
甲種一等運轉士試驗	一、二、千噸以上ノ航洋汽船ニ、遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、千噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
三、	遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、千噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
四、	五百噸以上ノ航洋汽船ニ、千噸以上ノ大航洋帆船	同	二年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
甲種二等運轉士試驗	一、二十噸以上ノ大航洋帆船又ハ百噸以上ノ大航洋汽船	同	四年以上	一年以上	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
内、	百噸以上ノ横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
汽船甲種船長試驗	一、一、百噸以上ノ航洋汽船ニ、五百噸以上ノ航洋汽船	同	一年以上	同	汽船甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
二、	二、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、五百噸以上ノ大航洋汽船	同	二年以上	同	乙種船長免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
四、	三、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、五百噸以上ノ大航洋汽船	同	二年以上	同	乙種船長免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
五、	四、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、千噸以上ノ大航洋汽船	同	二年以上	同	乙種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
三、	五、三百噸以上ノ航洋汽船ニ、千噸以上ノ航洋汽船	同	二年以上	同	乙種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
四、	五、五百噸以上ノ航洋汽船ニ、千噸以上ノ航洋汽船	同	二年以上	同	乙種一等運轉士免狀	同	運航	同	船長
五、	三、三百噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
六、	五百噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
七、	千噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
八、	遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
九、	五百噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
十、	千噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種一等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
一、	二、百噸以上ノ航洋汽船ニ、二十噸以上ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
二、	二、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
三、	千噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
四、	遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ、千噸以上ノ航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
五、	五百噸以上ノ航洋汽船ニ、横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士
六、	横帆装置ノ大航洋帆船	同	一年以上	同	甲種二等運轉士免狀	同	運航船長	同	一等運轉士

別表

學術試驗科目表

一　航海術
　手用測深具及手用測程具ノ取扱
　海圖ノ說明及用法
　羅針儀ノ說明及用法
　船位ノ測定
二　運用術
　推進器及舵ノ作用
　船燈及救命具ノ取扱
　帆船ノ運用
　海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護貨物取扱ノ大要
三　法規
　海上衝突豫防法
　船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶檢查法、船舶滿載吃水線法及各附屬法規竝地方取締規則中須知事項
　日誌取扱
漁船丙種運轉士試驗
一　航海術
　手用測深具及手用測程具ノ取扱
　海圖ノ說明及用法
　羅針儀ノ說明及用法
　船位ノ測定
二　運用術
　推進器及舵ノ作用
　船燈及救命具ノ取扱
　當直ニ關スル心得
　帆ノ取扱
　各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用
　海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護海上氣象學ノ大意
　晴雨計ノ用法、日本近海ニ於ケル氣壓及風ノ大要
三　法規
　海上衝突豫防法
　船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶檢查法及各附屬法規竝地方取締規則中須知事項
　日誌取扱
漁船乙種二等運轉士試驗
一　航海術
　手用測深具及手用測程具ノ取扱
　海圖ノ說明及用法
　羅針儀ノ說明及用法
　船位ノ測定
二　運用術
　推進器及舵ノ作用
　船燈及救命具ノ取扱
　當直ニ關スル心得
　海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護
　海上氣象學ノ大意
　晴雨計ノ用法、日本近海ニ於ケル氣壓及風ノ大要
三　法規
　海上衝突豫防法
　船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶檢查法及各附屬法規竝地方取締規則中須知事項
　日誌取扱
丙種運轉士試驗
一　國語
　書取、作文、解釋
二　數學
　算術
　四則應用
三　航海術
　航用器具ノ取扱及矯正
　手用測深具、測程機械
　海圖ノ說明及用法
　航路標識ノ大要
　潮汐ノ大要
　羅針儀ノ說明及用法
　羅針自差測定竝羅針自差表ノ作成及用法
　推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
　針路改正法、物標距離測定法
四　運用術
　船體要部ノ構造竝主要機具ノ取附及配置
　錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
　吃水ノ說明
　推進器及舵ノ作用
　船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存
　當直ニ關スル心得
　帆ノ取扱
　各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用
　繞橋、帆架、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
　錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
　吃水ノ說明
　推進器及舵ノ作用
　船舶ノ修繕及保存ノ大要
　船橙、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存
　當直ニ關スル心得
　帆ノ取扱
　各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用
　船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置
　海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護
　海上氣象學
　晴雨計及寒暖計ノ說明及用法、日本近海ニ於ケル氣温、氣壓、風、海水及海流ノ大要
　萬國船舶信號旗ノ說明及用法、船舶信號、潮時信號、氣象信號
　羅針儀ノ說明及用法
　羅針自差測定竝羅針自差表ノ作成及用法
　推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
　針路改正法、物標距離測定法
五　法規及商事實務
　海上衝突豫防法
　商法海商編中船員ニ關スル事項
　船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶檢查法、船舶滿載吃水線法及各附屬法規竝地方取締ニ關スル法規中須知事項
　救急醫術ノ大要
　各種貨物ノ船積及引渡
　甲板及船側諸口ノ水密閉鎖
　貨物取扱
　船舶ノ運用
　帆船ノ運用
　海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護貨物取扱ノ大要
　日誌取扱
丙種船長試驗
丙種運轉士試驗科目ヲ合セ
一　數學
　算術
　比、比例、步合算
二　航海術
　航用器具ノ取扱及矯正
　六分儀、人工地平儀、測深機械
　潮時算法
　推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
　緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法
　天測ニ依ル船位ノ測定
　太陽子午線高度緯度法
　天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定
　太陽出沒方位法
三　運用術
　運轉自由ヲ得サル帆船ノ取扱
　假舵及救命筏ノ組立及用法
　海錨ノ組立及用法竝撒油鎭浪法
　海上氣象學
　日本近海ニ於ケル氣温、氣壓、風、海水、海流、氷流及氷塊
乙種一等運轉士試驗
一　國語
　書取、作文、解釋
二　數學
　算術
　四則應用
三　航海術
　航用器具ノ取扱及矯正
　手用測深具、測程機械
　海圖ノ說明及用法
　航路標識ノ大要
　潮汐ノ大要
　羅針儀ノ說明及用法
　羅針自差測定竝羅針自差表ノ作成及用法
　推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
　針路改正法、物標距離測定法
四　運用術
　船體要部ノ構造竝主要機具ノ取附及配置
　錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
　吃水ノ說明
　推進器及舵ノ作用
　船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存
　當直ニ關スル心得
　各種ノ天候及場所ニ於ケル汽船ノ運用
　船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置
　海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護
　海上氣象學
　晴雨計及寒暖計ノ說明及用法、日本近海ニ於ケル氣温、氣壓、風、海水及海流ノ大要
　萬國船舶信號旗ノ說明及用法、船舶信號、氣象信號
　羅針儀ノ說明及用法
　羅針自差測定竝羅針自差表ノ作成及用法
　推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
　針路改正法、物標距離測定法
五　法規及商事實務
　海上衝突豫防法
　商法海商編中船員ニ關スル事項
　船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶檢查法、船舶滿載吃水線法及各附屬法規竝地方取締ニ關スル法規中須知事項
　救急醫術ノ大要
　各種貨物ノ船積及引渡
　甲板及船側諸口ノ水密閉鎖
　貨物取扱
　船舶ノ運用
　帆船ノ運用
　海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護貨物取扱ノ大要
　日誌取扱
乙種二等運轉士試驗
一　國語
　書取、作文、解釋
二　數學
　算術
　四則應用
三　航海術
　航用器具ノ取扱及矯正
　手用測深具、測程機械
　海圖ノ說明及用法
　航路標識ノ大要
　潮汐ノ大要
　羅針儀ノ說明及用法
　羅針自差測定竝羅針自差表ノ作成及用法
　推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
　針路改正法、物標距離測定法
四　運用術
　船體要部ノ構造竝主要機具ノ取附及配置
　錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
　吃水ノ說明
　推進器及舵ノ作用
　船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存
　當直ニ關スル心得
　帆ノ取扱
　各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用
　繞橋、帆架、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
　錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
　吃水ノ說明
　推進器及舵ノ作用
　船舶ノ修繕及保存ノ大要
　船橙、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存
　當直ニ關スル心得
　帆ノ取扱
　各種ノ天候及場所ニ於ケル帆船ノ運用
　船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置
　海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護
　海上氣象學
　晴雨計及寒暖計ノ說明及用法、日本近海ニ於ケル氣温、氣壓、風、海水及海流ノ大要
　萬國船舶信號旗ノ說明及用法、船舶信號、氣象信號
　羅針儀ノ說明及用法
　羅針自差測定竝羅針自差表ノ作成及用法
　推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
　針路改正法、物標距離測定法
五　法規及商事實務
　海上衝突豫防法
　商法海商編中船員ニ關スル事項
　船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶檢查法、船舶滿載吃水線法及各附屬法規竝地方取締ニ關スル法規中須知事項
　救急醫術ノ大要
　各種貨物ノ船積及引渡
　甲板及船側諸口ノ水密閉鎖
　貨物取扱
　船舶ノ運用
　帆船ノ運用
　海難ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護貨物取扱ノ大要
　日誌取扱
丙種運轉士試驗科目ヲ合セ
一　數學
　算術
　比、比例、步合算
二　航海術
　航用器具ノ取扱及矯正
　六分儀、人工地平儀、測深機械、測程機械
　潮時算法
　推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
　緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法
　天測ニ依ル船位ノ測定
　太陽子午線高度緯度法
　天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定
　太陽出沒方位法
三　運用術
　運轉自由ヲ得サル帆船ノ取扱
　假舵及救命筏ノ組立及用法
　海錨ノ組立及用法竝撒油鎭浪法
　海上氣象學
　日本近海ニ於ケル氣温、氣壓、風、海水、海流、氷流及氷塊
乙種一等運轉士試驗科目ヲ合セ
一　數學
　算術
　全體
二　航海術
　術語界說
　航用器具ノ取扱
　時辰儀、三杆分度儀
　羅針儀ノ據附
　羅針自差分解竝羅針自差曲線圖ノ作製及用法
　羅針儀矯正
　天測ニ依ル船位ノ測定
　太陽時辰儀經度法
　天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定
　太陽高度方位法、太陽時辰方位法（表使用）
三　運用術
　囑數ノ種別
　操舵ト囘轉圈
　船舶洋上橫附
　運轉自由ヲ得サル汽船ノ取扱
　短艇演習及防火演習
　假舵及救命筏ノ組立及用法
　海錨ノ組立及用法竝撒油鎭浪法
　海上氣象學
　日本近海ニ於ケル氷流及氷塊
　貨物取扱
　扛重裝置竝圓材、鐵鎖、鋼鋼索ノ支持力及保存
　重量物ノ船積及引渡、貨物ノ船積及按配
四　法規及商事實務
　船荷證券ニ關スル事項
　甲種二等運轉士試驗
一　國語
　書取、作文、解釋
二　英語
　航海曆、海圖及水路誌ヲ了解シ得ル程度
三　數學
　算術
　全體
　幾何
　平面（圓錐）
　三角
　平面、對數
四　航海術
　術語界說
　磁氣及音
　航用器具ノ取扱及矯正
　海圖ノ說明及用法
　航路標識ノ大要
　潮汐及算法

羅針儀ノ說明及用法
羅針自差測定竝羅針自差表ノ作成及用法
推測ニ依ル船位、針路及航程ノ測定
物標距離測定法、緯線航法、中分緯度航法、漸長緯度航法、流潮航法、航海日誌算法
天測ニ依ル船位ノ測定
太陽子午線高度緯度法、太陽時辰儀經度法
天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定
太陽出沒方位法、太陽高度方位法、太陽時辰方位法
時辰儀違差ノ測定
太陽高度、報時信號

五　運用術

太陽高度、報時信號
船體要部ノ構造竝主要機具ノ取附及配置
檣橋、帆架、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
錨、錨鎖、索具其ノ他屬具ノ取扱及保存
吃水ノ說明
推進器及舵ノ作用
船燈、信號火器及救命具ノ設備、取扱及保存
出入港ノ心得
當直ニ關スル心得
出入港準備作業
帆ノ取扱
各種ノ天候及場所ニ於ケル船舶ノ運用
船具ノ破損其ノ他不慮ノ事變ニ對スル處置
海藻ノ場合ニ於ケル人命及船舶ノ救護
短艇ノ艤裝、取扱及保存
海上氣象學
氣象學ノ大要
信號
萬國船舶信號、氣象信號、船舶通航信號、潮時信號
貨客取扱
旅客及客室ニ關スル心得、甲板及船側諸口ノ水密閉鎖
紅重裝置竝圓材、鐵鎖、鋼索ノ支持力及保存
各種貨物ノ船積及引渡

救急醫術ノ大要
法規及商事實務
海上衝突豫防法
商法海商編中船員ニ關スル事項
船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶檢査法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶檢査法、船舶艤裝吃水線法及各附屬法規竝稅關檢疫及水路取締ニ關スル法規中須知事項
出入港ノ際必要ナル書類
日誌取扱
漁業帆船甲種二等運轉士試驗、漁業汽船甲種二等運轉士試驗、漁船甲種二等運轉士試驗及汽船甲種二等運轉士試驗
漁業帆船甲種二等運轉士試驗、漁業汽船甲種一等運轉士試驗、漁船甲種一等運轉士試驗及汽船甲種一等運轉士試驗
漁業帆船甲種二等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學竝運用術中汽船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁業汽船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學竝運用術中橫帆裝置ノ帆船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、帆船甲種一等運轉士試驗科目ハ運用術中汽船ニ關スル事項ヲ又汽船甲種一等運轉士試驗科目ハ運用術中橫帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ甲種一等運轉士試驗科目中ヨリ除キタルモノトス
甲種船長試驗
甲種一等運轉士試驗

英語

簡單ナル契約書類及商事通信ヲ了解シ得ル程度

二　航海術

羅針儀ノ檢査、修正
大圈航法ノ大要及大圈圖用法
天測ニ依ル船位ノ測定
恆星又ハ行星近午緯度法、恆星又ハ行星時辰儀經度法、太陰子午線高度緯度法、天體ノ推算高度ト實測高度及眞方位トニ依ル經緯度法
天測ニ依ル天象ノ眞方位及羅針自差ノ測定
恆星又ハ行星時辰方位法
世界ニ於ケル主要航路

三　運用術

船舶ノ修繕及保存ノ大要
下檣建設其ノ他圓材ノ取扱
假舵及救命筏ノ組立及用法

海錨ノ組立及用法竝撒油鎭浪法
曳船
海上氣象學
貿易風、信風、颶風、海流、氷流及氷塊

貨物取扱

重量物ノ船積及引渡、貨物ノ船積及按配

漁業帆船甲種一等運轉士試驗、漁業汽船甲種一等運轉士試驗、漁船甲種一等運轉士試驗、帆船甲種一等運轉士試驗及汽船甲種一等運轉士試驗
漁業帆船甲種一等運轉士試驗、漁業汽船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學竝運用術中汽船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁業汽船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學竝運用術中橫帆裝置ノ帆船及貨客取扱ニ關スル事項ヲ、漁船甲種一等運轉士試驗科目ハ國語、英語、數學及運用術中貨客取扱ニ關スル事項ヲ、帆船甲種一等運轉士試驗科目ハ運用術中汽船ニ關スル事項ヲ又汽船甲種一等運轉士試驗科目ハ運用術中橫帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ甲種一等運轉士試驗科目中ヨリ除キタルモノトス

甲種一等運轉士試驗

英語

船舶ノ修繕及荷役ニ關スル書類ヲ了解シ得ル程度

二　航海術

羅針儀據附
羅針自差分解竝羅針自差曲線圖ノ作成及用法
天測ニ依ル船位ノ測定
太陽近午緯度法、太陽兩高度經緯度法、一定ノ時間ニ於テ子午線ヲ經過スヘキ星ノ名及經過時ノ推算、恆星又ハ行星子午線高度緯度法、極星緯度法

三　運用術

船舶ノ修繕及保存ノ大要
下檣建設其ノ他圓材ノ取扱
假舵及救命筏ノ組立及用法

海上衝突豫防法
船舶洋上橫附運轉自由ヲ得サル船舶ノ取扱
短艇演習及訪火演習

四　法規及商事實務

商法海商編
船舶經濟ノ大要
帆船甲種船長試驗及汽船甲種船長試驗
帆船甲種船長試驗科目ハ運用術中汽船ニ關スル事項ヲ又汽船甲種船長試驗科目ハ運用術中橫帆裝置ノ帆船ニ關スル事項ヲ甲種船長試驗科目中ヨリ除キタルモノトス

發動機船三等機關士試驗

機關術

瓦斯發動機及石油發動機ニ於ケル發動及取扱
油類ノ貯藏及瓦斯漏洩ニ關スル注意
氣室、燃燒室、諸辯及諸氣口ノ構造
點火ノ裝置
發動ノ遲滯其ノ他發動機ノ故障又ハ不慮ノ事變ヲ生シタルトキノ處置
防水及防火ノ注意
寒暖計、輕比重計及驗壓器ノ效用及取扱

二　法規

船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶檢査法及各附屬法規中須知事項
湖川港三等機關士試驗

一　機關術

汽機、汽鑵及附屬具ノ效用及取扱
停止及運轉中ノ汽機、汽鑵ニ對スル注意
汽機、汽鑵ニ故障又ハ不慮ノ事變ヲ生シタルトキノ處置
給水及水鹽ニ關スル諸管ノ配置竝之ニ對スル注意
防水及防火ノ裝置竝之ニ對スル注意
汽機、汽鑵其ノ他一般ノ腐蝕豫防ニ關スル注意
石炭ノ積込及貯藏ニ關スル注意
操舵機、揚錨機、揚貨機ノ構造及取扱
驗壓器、驗空器、驗鹽器、寒暖計、晴雨計及電令器ノ構造及取扱

四　法規

船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶檢査法及各附屬法規中須知事項
發動機船二等機關士試驗
發動機船三等機關士試驗科目ヲ合セ

一　國語

書取、作文、解釋

二　數學

算術（開方ヲ除ク）

三　機關術

瓦斯發動機及石油發動機ノ種別、構造及取扱
燃料ノ種別、性質及貯藏
吸錆、軸受其ノ他滑動部ニ於ケル摩擦及各部ノ調整
調速及反轉ノ裝置
小形汽鑵ノ取扱及應急處置
驗壓器、驗鹽器、寒暖計及比重計ノ構造及取扱
淦水及油艙ニ通スル諸管ノ配置竝之ニ對スル注意

四　法規

商法海商編中船員ニ關スル事項
船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶檢査法及各附屬法規中須知事項
發動機船二等機關士試驗科目ヲ合セ

一　數學

算術
全體
代數
二次方程式迄
幾何
平面（多角形迄）

二　物理

物體
物質、物性、密度、重力、引力
運動及力
運動、運動量、速度、加速度、力竝力ノ作用反作用、釣合及能率
熱
溫度及熱、膨脹、融解及凝固、氣化及液化、熱ノ仕事當量

三　機關術

各種ノ汽機、內燃機關、汽鑵及附屬具ノ構造及取扱
汽機、內燃機關、汽鑵各部ニ於ケル故障及損傷ノ原因竝之ニ對スル處置、修繕及豫防
各種喞筒ノ構造及取扱
發電機、電動機、蒸餾器、給水加熱器、給水濾過器、通風機、整速器ノ構造及取扱
石炭ノ自然燃燒、瓦斯ノ發生及爆發ニ對スル注意
液體燃料ノ積込、貯藏及取扱ニ對スル注意
發動機船機關長試驗
發動機船一等機關士試驗科目ヲ合セ

英語

機關術語及機關士ノ職務ニ關スル簡單ナル書籍ヲ了解シ得ル程度

二　數學

代數
二項法迄
幾何
平面
三角
平面

三　物理及力學

磁氣
磁石ノ作用、磁氣感應、地球磁氣
電氣
帶電體、電氣感應、電位、電流及電池、電氣抵抗、電流ト熱、電流ノ磁氣作用、感應電流

力學

重心、簡單ナル機械、摩擦、液體、氣體、運動ノ法則、重力ニ基ク運動、圓運動、仕事エネルギー

四　製圖

氣械ノ局部

五　機關術

四　法規

船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶檢査法及各附屬法規中須知事項
發動機船二等機關士試驗
發動機船三等機關士試驗科目ヲ合セ

一　國語

書取、作文、解釋

二　數學

算術（開方ヲ除ク）

三　機關術

瓦斯發動機及石油發動機ノ種別、構造及取扱
燃料ノ種別、性質及貯藏
吸錆、軸受其ノ他滑動部ニ於ケル摩擦及各部ノ調整
調速及反轉ノ裝置
小形汽鑵ノ取扱及應急處置
驗壓器、驗鹽器、寒暖計及比重計ノ構造及取扱
淦水及油艙ニ通スル諸管ノ配置竝之ニ對スル注意

四　法規

商法海商編中船員ニ關スル事項
船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶檢査法及各附屬法規中須知事項
發動機船二等機關士試驗科目ヲ合セ

一　數學

算術
全體
代數
二次方程式迄
幾何
平面（多角形迄）

二　物理

物體
物質、物性、密度、重力、引力
運動及力
運動、運動量、速度、加速度、力竝力ノ作用反作用、釣合及能率
熱
溫度及熱、膨脹、融解及凝固、氣化及液化、熱ノ仕事當量

三　機關術

各種ノ汽機、內燃機關、汽鑵及附屬具ノ構造及取扱
汽機、內燃機關、汽鑵各部ニ於ケル故障及損傷ノ原因竝之ニ對スル處置、修繕及豫防
各種喞筒ノ構造及取扱
發電機、電動機、蒸餾器、給水加熱器、給水濾過器、通風機、整速器ノ構造及取扱
石炭ノ自然燃燒、瓦斯ノ發生及爆發ニ對スル注意
液體燃料ノ積込、貯藏及取扱ニ對スル注意
發動機船機關長試驗
發動機船一等機關士試驗科目ヲ合セ

英語

機關術語及機關士ノ職務ニ關スル簡單ナル書籍ヲ了解シ得ル程度

二　數學

代數
二項法迄
幾何
平面
三角
平面

三　物理及力學

磁氣
磁石ノ作用、磁氣感應、地球磁氣
電氣
帶電體、電氣感應、電位、電流及電池、電氣抵抗、電流ト熱、電流ノ磁氣作用、感應電流

力學

重心、簡單ナル機械、摩擦、液體、氣體、運動ノ法則、重力ニ基ク運動、圓運動、仕事エネルギー

四　製圖

氣械ノ局部

五　機關術

內燃機關各部ノ構造ト其ノ安全、耐久又ハ經濟トノ關係

燃料及通風

水、油及皮殼ノ性質竝取扱

指壓器、指壓圖及トーションメーター

(一)　內燃機關ノ材料及其ノ強力

冷藏機及水力機ノ構造及取扱

機關長試驗

一　等機關士試驗科目ヲ合セ

英語

機關術語及機關士ノ職務ニ關スル簡單ナル書籍ヲ了解シ得ル程度

二　數學

代數
二項法迄
幾何
平面
三角
平面

三　物理及力學

磁氣
磁石ノ作用、磁氣感應、地球磁氣

電氣

帶電體、電氣感應、電位、電流及電池、電氣抵抗、電流ト熱、電流ノ磁氣作用、感應電流

力學

重心、簡單ナル機械、摩擦、液體、氣體、運動ノ法則、重力ニ基ク運動、仕事エネルギー

四　製圖

汽機ノ局部

五　機關術

汽機、內燃機關、汽鑵各部ノ構造ト其ノ安全、耐久又ハ經濟トノ關係

燃料及通風

水、油及皮殼ノ性質竝取扱

指壓器、指壓圖及トーションメーター

(一)　汽機、內燃機關、汽鑵ノ材料及其ノ強力冷藏機及水力機ノ構造及取扱

別表

受驗手數料表

試驗ノ種類	手數料額
體格檢查手數料	二十錢
各種試驗手數料	二十錢

（第一號書式）（表）

受驗申請書

（試驗ノ種類）試驗相受度就テハ履歴書、受驗資格ニ關スル證明書及戸籍謄本（抄本ノ相添此段申請候也

年　月　日

殿

現住所　申請人　氏　名　印

學術試驗手數料	小形船丙種運轉士試驗、漁船丙種運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗、小形船乙種二等運轉士試驗、漁船乙種二等運轉士試驗、湖川港三等機關士試驗	一圓
	丙種運轉士試驗、乙種二等運轉士試驗、湖川港乙種一等運轉士試驗、漁船乙種一等運轉士試驗、三等機關士試驗、發動機船二等機關士試驗	二圓
	丙種船長試驗、乙種一等運轉士試驗、漁業帆船甲種二等運轉士試驗、漁業汽船甲種二等運轉士試驗、汽船甲種二等運轉士試驗、漁業帆船甲種一等運轉士試驗、漁船甲種一等運轉士試驗、二等機關士試驗	三圓
	乙種船長試驗、帆船甲種一等運轉士試驗、發動機船二等機關士試驗、甲種一等運轉士試驗、汽船甲種一等運轉士試驗、一等機關士試驗	五圓
	帆船甲種船長試驗、漁業汽船甲種船長試驗、甲種船長試驗、發動機船機關長試驗	七圓

（第二號書式）

今般　付書　納

試驗申請候ニ付テハ體格檢査（又ハ學術試驗）手數料金　ニ相當スル收入印紙左ニ貼用ノ上納付候也

大正　年　月　日

遞信局長　殿

	月　日	月　日	月　日	月　日	月　日
期間合計　年　月　日	年	年	年	年	年

備考

一、氏名ニハ假名ニテ傍訓スヘシ

一、船舶種類ノ欄内ニハ汽船、帆船ノ別但シ甲板部ノ受驗人ニ在リテ帆船ノ場合ニハ機關ノ有無及帆裝ノ種類横帆裝置ナルトキハ其ノ旨又機關部ノ受驗申請人ニ在リテハ汽機ノ種類發動機ナルトキハ其ノ旨記載スヘシ

一、履歴書ニハ中數ノミ效力ヲ有スルモノハ期間合計ヲ他ノ全數ノモノト區別スヘシ

（第一號書式）（表）

海技免狀ヲ受有スルトキハ其ノ種類、番號及該免狀ニ對スル試驗ノ場所、年月日	番號	免狀		年月日
該免狀ノ全部又ハ一部ノ效力ヲ停止セラレタルトキハ其ノ年月日及停止ノ期間	同上	年月日停止	停止期間	年　月間
該免狀受有後又ハ海技免狀ヲ受有セサルモ既ニ試驗ヲ受ケタルトキハ其ノ試驗種類場所、年月日及不成立若ハ不合格ノ事由	受驗種類	受驗場所	年月日	不合格又ハ不成立ノ事由
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	

（裏）

履歷書

氏名		出生ノ年月日	族稱	本籍地
船名若ハ修技所ノ名稱	總噸數若ハ積石數	船舶種類船主氏名若ハ航路修技所ノ名	乘船若ハ就業ノ年月日	下船若ハ終業ノ年月日
			年月日	年月日
			年月日	年月日
			年月日	年月日
			年月日	年月日
			年月日	年月日
			年月日	年月日
			年月日	年月日
			年月日	年月日
			年月日	年月日

●水夫適任證書交付規則

大正五年二月二十八日遞信省令第十二號改正　大正七年第二三號、九年第一〇八號

水夫適任證書交付規則左ノ通定ム

水夫適任證書交付規則

第一條　亞米利加合衆國諸港ニ出入セムトスル日本船舶ノ船員ハ千九百十五年三月四日ノ亞米利加合衆國海員法ニ依ル水夫適任證書ノ交付ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ亞米利加合衆國諸港ニ出入セムトスル日本船舶ノ船員ト爲ラムトスル者ニ之ヲ準用ス

第二條　水夫適任證書ハ左ニ揭ル資格ノ一ヲ有シ且體格檢査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス

一　總噸數百噸以上ノ沿海航路以上ノ船舶ニ乘組ミ三年以上甲板部員トシテ執務シ年齡滿十九年以上ナルコト

二　沿海航路以上ノ船舶ニ乘組ミ一年以上甲板部員トシテ執務シ且船舶ノ運用ニ關スル試驗ニ合格シタルコト

遊覽船、捕鯨船又ハ無甲板漁船ニ乘組ミタル期間ハ前項第一號ノ期間ニ算入セス

第一項第二號ノ試驗ハ羅針盤方位、船證、霧中信號、航路信號、機關傳令、結索、端艇ノ卸方及操縱、航海用語竝操舵ニ關スル要領ニ付之ヲ行フ

第三條　水夫適任證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請者ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ本籍地、出生年月日及乘船履歷ヲ證明スヘシ

第三條ノ二　第一條第二項ノ規定ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ規定ニ依ル外其ノ乘組マムトスル船舶ノ所有者、管理人又ハ借入人ノ發出シタル書面ニ依リ當該船舶ノ船員ト爲ラムトスル者ナル旨ヲ證明スヘシ

第四條　水夫適任證書ハ第二號書式ニ依ルトキハ其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之カ書換ヲ申請スヘシ

水夫適任證書ヲ用ヒタリタルトキハ遲滯ナク該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第六條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　第二條第一項第一號ノ資格ニ依ル水夫適任證書ノ交付ヲ受ケムトスル者

夫適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ　一圓

二　第二條第一項第二號ノ資格ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ　二圓

三　水夫適任證書ノ再交付又ハ書換ヲ申請スルトキ　五十錢

手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

第一號書式

（表）

水夫適任證書交付申請書

水夫適任證書下附相受度候ニ付テハ履歷書相添ヘ此段及申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印

通知ヲ受クヘキ場所

（管海官廳）

御中

（裏）

履歷書

氏名		本籍地
出生年月日		
船員手帖番號		
船種船名	總噸數又ハ積石數	就路定限	職名	乘船年月日	下船年月日	在船期間
---	---	---	---	---	---	---
				年月日	年月日	年　月　日
				年月日	年月日	年　月　日
				年月日	年月日	年　月　日
				年月日	年月日	年　月　日
				年月日	年月日	年　月　日
期間合計　年　月　日						

（備考）　裏面ニ英譯ヲ附記ス第二號書式乙ニ付テモ亦同シ

第二號書式甲（第二條第一項第一號ノ資格ニ依リ交付スルモノ）

第　號

水夫適任證書

本籍地

氏名

出生年月日

右者水夫適任證書交付規則第七條ノ規定ニ依ル事務ヲ行フ管海官廳左ノ通定メ本月十五日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年月　遞信省告示第百三十五號ハ本月十五日ヨリ之ヲ廢止ス

一　水夫適任證書交付規則第二條第一項第一號ノ規定ニ依リ水夫適任證書ヲ交付スル場合

東京遞信局　大阪遞信局

熊本遞信局　札幌遞信局

二　同規則第二條第一項第一號及第二號ノ規定ニ依リ水夫適任證書ヲ交付スル場合

東京遞信局海軍部横濱出張所

大阪遞信局海事部神戸出張所

●海員懲戒法

明治二十九年四月七日　法律第六十九號

（施行ノ件ハ大正十年勅令第百十一號ヲ以テ海員懲戒法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム）

第一章　總則

第一條　海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

一　正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

二　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ間ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈沒セシメタルトキ

三　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ

四　海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乘組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

五　海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乘組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

六　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七　亂酔粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ三種トス

一　免狀行使ノ禁止

二　免狀行使ノ停止

三　譴責

第三條　前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條　免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條　海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一　確定裁決

二　時效

第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條　時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條　海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章　海員審判所ノ組織及管轄

第八條　海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

地方海員審判所ハ【船舶司檢所】ニ置キ高等海員審判所ハ遞信省ニ置ク

第九條　海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク

審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員竝其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　地方海員審判所ノ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所ノ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條　地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繋場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス

第十三條　地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ノ審判長ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘシ

高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便益ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所ノ管轄權ニ屬ス

第十四條　高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一　權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得サルトキ

二　二以上ノ地方海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セストノ疑ヒアルトキ

第三章　審判前ノ手續

第十五條　【船舶司檢所司檢官、同司檢官補】、警察官吏、市町村長【及浦役人】ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十六條　領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十七條　理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ又必要ニ應シ實地臨檢スルコトヲ得

第十八條　理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ

第十九條　理事官審判ニ付スヘキ事實アリタル前項ノ申立ヲ爲ストキハ證憑其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第四章　地方海員審判所ノ審判

第二十條　地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

第二十一條　地方海員審判所ニ於テ下調ヲ終リタル時ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十二條　下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

第二十三條　審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

第二十四條　審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　審判官ハ證人正當ノ理由アリテ出頭セサルトキハ受命審判官ヲシテ其ノ住所ニ於テ之ヲ訊問セシムルコトヲ得

第二十六條　審判官ハ證人又ハ鑑定人ニ對シ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第二十七條　審判官ハ證人ニ對シ其ノ知リ居ル事項ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ訊問スルコトヲ得

第二十八條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第二十九條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十一條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十二條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十三條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十四條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十五條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十六條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十七條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十八條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第三十九條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十一條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十二條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十三條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十四條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十五條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十六條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十七條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十八條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第四十九條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十一條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十二條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十三條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十四條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十五條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十六條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十七條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十八條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第五十九條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十一條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十二條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十三條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十四條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十五條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十六條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十七條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十八條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第六十九條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十一條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十二條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十三條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十四條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十五條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十六條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十七條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十八條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十九條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十一條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十二條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十三條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十四條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十五條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十六條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十七條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十八條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第八十九條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十一條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十二條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十三條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十四條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十五條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十六條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十七條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十八條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第九十九條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

第百條　審判官ハ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得但シ法律ニ特別ノ規定アルトキハ此ノ限ニアラス

ノ爲呼出サレンタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條　證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル海員審判所ニ呼出サレタル者ニ對シ其ノ地若ハ爾後始メテ到著シタル地ノ【船舶司檢所、同支所】、警察署、警察分署、市町村役場【若ハ浦役場】外國ニ在テハ領事館若ハ【貿易事務館】ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

一　其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

二　自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈沒セシメタルトキ

三　人ヲ殺傷シタルトキ

四　海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ

五　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

六　亂酔粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條　第一條各號ノ事項ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ若ハ其ノ事實アリト思料シタル者ハ其ノ所在地ニ於テ第一條ニ揭ケル官廳若ハ公署ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第三條　第一條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第四條　本令ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第五條　明治二十六年遞信省令第五號海難取調手續、明治二十八年遞信省令第一號外國航海中海難屆出手續ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●水先法

明治三十二年三月十四日
法律第六十三號

第一條　海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ニ揭ケル事項ニ該當シタルトキハ當該船長、船長不在ナルトキハ代理者ニ於テ其ノ地若ハ爾後始メテ到著シタル地ノ【船舶司檢所、同支所】、警察署、警察分署、市町村役場【若ハ浦役場】外國ニ在テハ領事館若ハ【貿易事務館】ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

一　取調ヲ受ケタル者ノ住所、氏名、職業及年齡

二　船舶ノ名稱、種類、登簿噸數及公稱馬力竝其ノ所有者ノ住所及氏名

三　船舶職員ノ住所、氏名竝其ノ受有スル海技免狀ノ種類及番號

四　發航地、到達地竝事件ヲ惹起シタル場所及年月日時

五　事件ノ顚末

六　發航以後事件ヲ惹起シタル迄ノ天候、航路、遭力及船舶職員、航取、看守ノ當直時間竝其ノ氏名

七　船舶損傷ノ箇所竝其ノ再用ノ適否

八　船客乘組員ノ負傷竝其ノ死傷ノ有無

九　貨物ノ種類、數量竝其ノ損害ノ有無

十　人命、船舶及貨物救護ノ方法

十一　航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及其ノ航路ニ於ケル自差

十二　使用シタル海圖ノ種類及番號

十三　航海日誌ノ存否

十四　取調ヲ受ケタル者何日其ノ地ヲ去リ何地ニ到ルヘキコト

調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ取調ヲ爲シタル者之ニ署名捺印シ其ノ所屬官廳若ハ公署ノ印ヲ捺シ且各毎葉ニ契印スヘシ

●海員審判所裁決正本謄本抄本及被審人陳述書謄本下付手數料

明治四十二年三月一日
遞信省令第四號

海員審判所ノ裁決ノ正本謄本抄本又ハ被審人陳述書ノ謄本下付手數料ノ件左ノ通定メ本日ヨリ之ヲ施行ス

被審人又ハ赤判利害關係人ニ於テ裁決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルトキハ其ノ用紙一枚ニ付五錢ノ手數料ヲ納ムヘシ被審人カ其ノ陳述書ノ謄本ヲ求ムルトキ亦同シ

前項ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ納ムヘシ

●海難其他ノ事實屆出方

明治三十年六月二十六日
遞信省令第十九號

海難其ノ他ノ事實屆出ノ件左ノ通定ム

第一條　海技免狀ヲ受有スル者海難ヲ發見シタルトキハ遲滯ナク其ノ事實ヲ詳記シ最寄ノ帝國領事官又ハ帝國領事官ナキ地ニ在テハ其ノ地ノ警察官吏ニ屆出ツヘシ

第二條　前條ノ屆出ヲ受ケタル帝國領事官又ハ警察官吏ハ速ニ其ノ事實ヲ調査シ且ツ屆出人ニ對シ必要ノ質問ヲ爲シ其ノ陳述ヲ記載シタル書面ニ屆出人ヲシテ署名捺印セシムヘシ

第三條　帝國領事官又ハ警察官吏ハ前條ノ書面ニ屆出人ノ海技免狀ヲ添ヘ成ルヘク速ニ之ヲ帝國領事官ニ送付スヘシ

第四條　帝國領事官ハ前條ノ書面ニ依リ又ハ自ラ調査シタル事實ニ付必要ト認ムルトキハ屆出人ニ對シ更ニ質問ヲ爲シ又ハ證憑ヲ集取スヘシ

第五條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第八條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第九條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十一條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十二條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十三條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十四條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十五條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十六條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十七條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十八條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第十九條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十一條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十二條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十三條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十四條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十五條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十六條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十七條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十八條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第二十九條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十一條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十二條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十三條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十四條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十五條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十六條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十七條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十八條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第三十九條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十一條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十二條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十三條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十四條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十五條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十六條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十七條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十八條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第四十九條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十一條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十二條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十三條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十四條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十五條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十六條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十七條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十八條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第五十九條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十一條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十二條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十三條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十四條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十五條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十六條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十七條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十八條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第六十九條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十一條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十二條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十三條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十四條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十五條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十六條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十七條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十八條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第七十九條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第八十條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第八十一條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

第八十二條　帝國領事官ハ海難ニ關シ其ノ事實ヲ調査シタル後ニ非サレハ屆出人ニ對シ其ノ海技免狀ヲ返付スヘカラス

**

込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ

第十二條　水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ

第十三條　水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第十四條　水先人ハ水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案内料ヲ請求スル權利ヲ有ス前條但書ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第十五條　水先案内料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條　水先人ハ水先修業生一名ニ限リ水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ之ヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十七條　水先區、水先旗ノ標式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及艤裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

水先人組合ハ規約ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ海員審判所ハ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス

一　過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈沒セシメタルトキ

二　過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ

三　業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ

四　瘋癈、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ依リ懲戒ニ付スヘキ事項ニ違反シタルトキ亦同シ

第二十條　前條ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ノ管轄ハ其ノ水先人ノ住所ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

前項ノ事件海員懲戒法ノ規定ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ト關聯スルトキハ前項ノ管轄ハ海員懲戒法ニ依ル事件ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

第二十一條　水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ【重禁錮】ニ處シ又ハ五十圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス

水先人ニアラサル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營ミタル者及之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタル者

二　第八條第二項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

三　第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授受シタル者

四　水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五　詐僞ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者

六　水路ノ嚮導ヲ要求セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者

七　水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲシテ水路ヲ嚮導セシメス又ハ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者

八　水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者

第二十四條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第五條第六條第十條第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者

二　水先人ヲ要招スル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ト誤認シ易キ信號ヲ爲シタル者

三　水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者

四　第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ艤裝セス又ハ水先船免狀ヲ有セスシテ水先船ヲ使用シタル者

五　水先人ニアラスシテ水先旗若ハ之ト誤認シ易キ旗ヲ船舶ニ揭揚シ又ハ海上衝突豫防法第八條ノ點燈及信號ヲ爲シタル者

六　水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ艤裝セタル水先船免狀ヲ有セスシテ水先船ヲ使用シタル者

第二十五條　船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先區ノ水先案内料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　水路ヲ嚮導セシメサレハ就行危險ナル場合ニ於テ水先人ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルモノナルトキハ前條及第二十三條第八號ノ規定ヲ適用セス

第二十七條　此ノ法律中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

附　則

第二十八條　此ノ法律施行ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　明治十一年第三十七號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十條　明治十一年第三十七號布告ニ依リ水先免狀ハ主務大臣ノ定ムル水先區ニ從ヒ此ノ法律ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換ス

前項ノ交換ヲ了スルマテハ舊水先免狀ハ該免狀ニ記載スル水先區中此ノ法律ニ依リテ定メタル水先區ニ該當スル部分ニ限リ之ヲ代用スルコトヲ得

舊水先免狀ヲ有スル者第三條ノ各號ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三十一條　此ノ法律施行前ヨリ其ノ施行後マテ引續キ水路ヲ嚮導スル場合ニ於テハ水先案内料ハ明治十一年第三十七號布告ニ依リテ之ヲ算定スヘシ

第三十二條　第十九條第二十條及第二十一條ノ規定ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ亦之ヲ適用ス

一　明治十一年第三十七號布告ニ依リテ審問ヲ要スルモノニシテ此ノ法律ニ依リ懲戒スヘキ行爲ヲ此ノ法律施行前ニ發生シ其ノ施行後ニ至リテ發覺シタルトキ

二　前號ノ行爲ヲ此ノ法律施行ノ際審問中ナルトキ

第三十三條　此ノ法律施行後五年間ヲ限リ主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間滿了ノ後ト雖其ノ效力ヲ失フコトナシ

（明治三十二年勅令第三百五十六號ヲ以テ同年八月四日ヨリ施行）

●水先法施行細則

明治三十二年七月二十九日
遞信省令第三十三號

改正　明治三七年第四五號、四一年第一一號
大正三年第三三號、五年第四一號、八年第九八號、一二年第七五號

水先法施行細則左ノ通定ム

第一章　登錄及免狀

第一條　水先人試驗ニ合格シタル者ハ試驗ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ水先區ノ名稱、本籍地、出生ノ年月日及合格ノ年月日ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登錄ヲ申

請スヘシ

第二條　遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ水先人名簿ニ登錄シ第一號書式ノ水先免狀ヲ申請人ニ授與ス

一　水先區ノ名稱

二　氏名

三　本籍地

四　出生ノ年月日

五　試驗ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱

六　合格ノ年月日

第三條　前條第二號及第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ抹消ノ登錄ヲ申請スヘシ

一　日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ

二　滿六十年ニ達シタルトキ

三　水先法第三條第二號乃至第五號ノ事項ニ該當シタルトキ

四　水先人試驗規程ノ規定ニ依リ試驗無效トナリタルトキ

五　廢業シタルトキ

水先人失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ現ニ水先免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ水先免狀ヲ申請書ニ添附シテ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ但水先法第三條第五號ノ事項ニ該當シ抹消ノ登錄ヲ申請スル場合ハ此限ニアラス

遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ抹消ノ登錄ヲ爲ス

遞信省ハ左ノ場合ニ於テハ抹消ノ登錄ヲ爲ス

一　抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間内ニ之ヲ爲ササルトキ

二　詐僞ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ

三　海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

四　水先免狀ノ水先區カ新ニ授與スル水先免狀ノ水先區ニ包含セラルルニ至リタルトキ

遞信省ハ前項ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ當該免狀ノ受有者又ハ保管者ニ之ヲ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク該免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第六條ノ二　遞信省ハ於テ水先人水先法第三條第四號ノ事項ニ該當スルヤ否ヤヲ決定スル必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ其體格檢査ヲ執行ス

第七條　水先人ニ於テ登錄ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ水先人ニ通知スル前二項ノ規定ハ水先免狀ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條　水先免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ

水先免狀ノ再交付ヲ申請スル者ハ手數料一圓ヲ納付スヘシ

第九條　遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ水先免狀ヲ水先人ニ交付ス

水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ但水先免狀滅失シタル場合ハ此限ニアラス

第十條　第一條第三條又ハ第八條ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第十一條　第三條第一項第五條第一項第二項第七條第一項又ハ第八條第一項ニ依リ申請書ヲ遞信省ニ差出スニハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第十二條　水先人公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキハ其裁判確定後遲滯ナク本人又ハ水先免狀ノ保管者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ水先免狀ヲ前條ノ管海官廳ニ提出スヘシ

一　公權停止ノ理由

二　公權停止ノ期間

三　裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル水先免狀ハ公權停止ノ期間内管海官廳之ヲ保管シ期間滿了ノ後之ヲ水先人ニ還付ス

第二章　水先區

第十三條　水先區ハ左ノ八種トス

一　東京灣水先區　安房國洲ノ崎ヨリ相模國城ヶ島西端ヲ經テ諸磯埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

一ノ二　隅田川水先區　武藏國品川舊第三砲臺ヨリ品川挂燈浮標ヲ經テ洲埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

二　和泉灘水先區　紀伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線及淡路國江埼ヨリ播磨國明石川口ノ西岸ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

三　紀伊國田倉埼ヨリ淡路國生石鼻ニ引キタル線、淡路國潮埼ヨリ阿波國大磯埼ニ引キタル線、伊豫國佐田岬ヨリ高島ヲ經テ豐後國地蔵埼ニ引キタル線及長門國網代埼ヨリ筑前國岩屋埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

下關水先區　豐前國部埼ヨリ北東ニ引キタル線及筑前國岩屋埼ヨリ長門國網代埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

長崎港水先區　肥前國福田埼ヨリ伊王島北端ニ引キタル線及同國沖ノ島南端ヨリ香燒島南端ヲ經テ深堀ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

島原灣水先區　肥前國國埼ヨリ肥後國鵜瀬埼ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

三角港ヲ包含セシム

七　函館港水先區　渡島國尾花岬ヨリ葛登支岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

第十三條ノ二　二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者ハ專屬水先區トシテ其内ノ一區ヲ選定シ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

第三章　水先案内料

第十四條　水先案内料ハ總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ喫水十呎又ハ十呎未滿ノ船舶ニ付キテハ第一號表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若クハ千噸未滿又ハ喫水一呎若クハ一呎未滿ヲ增ス毎ニ同表ニ定ムル額ニ百分ノ六ヲ加フ

第十五條　前條ニ於テ喫水ト稱スルハ各水先區ニ付キ水先人水路ヲ嚮導スル爲メ船舶ニ乘込ミタルトキヨリ其嚮導ヲ終ルマテノ間ニ於テ船首又ハ船尾ノ有シタル最深ノ喫水ヲ謂フ

第十六條　水先人第一號表ニ揭クル各航路ノ一部ヲ嚮導シタルトキハ其水先案内料ハ全部ニ對スル水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

第十七條　水先人ハ水路嚮導中海難其他不可抗力ニ依リ第一號表ニ揭クル各航路ノ全部ヲ嚮導スルコト能ハサルトキハ水先案内料ハ嚮導シタル里程ノ割合ニ應スヘキモノトス

第四章　水先旗及水先信號

第十八條　水先旗ハ第一號樣式ニ依ル

第十九條　水先旗ハ水先法第六條ノ場合ニ於テハ檣頭、旗竿又ハ帆ノ上部其他見易キ所ニ之ヲ揭揚スヘシ

第二十條　水先旗汚染又ハ毀損シテ水先旗ノ效ヲ失フノ虞アルトキハ新ニ之ヲ調製スヘシ

第二十一條　水先法第七條ノ水先信號ハ晝間ニ在リテハ第一號若クハ第二號ヲ用ヒ又ハ之ヲ併用シ夜間ニ在リテハ第三號若クハ第四號ヲ用ヒ又ハ之ヲ併用シテ爲スヘシ

一　萬國普通信號書ニ揭クル水先信號ヲ表示スルコト

二　前檣ニ船首旗又ハ國旗ヲ揭揚スルコト

三　十五分間毎ニ青色焰光ヲ發射スルコト

四　須臾ノ間隙ヲ以テ凡ソ一分間亮明ノ白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ表示スルコト

第五章　水先船ハ左ノ條件ヲ具備スヘシ

一　船體ノ外部ハ黒色ト爲スコト

二　船側及大帆ノ上部ニ於テ水先船タルコトヲ明瞭ニ表示スルコト

第二十三條　水先人水先船ヲ使用スルトキハ水先船免狀ヲ受有スヘシ

第二十四條　水先人水先船免狀ヲ受有セントスルトキハ水先船ノ種類、名稱、艇具ノ裝置、長、幅、深及積量ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

水先船水先人ノ所有ニ屬セサルトキハ其所有者ハ前項ノ申請書ニ連署スヘシ

第二十五條　管海官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ水先船ヲ檢査セシメ適當ト認ムルトキハ第二號書式ノ水先船免狀ヲ授與ス

第二十六條　水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ差出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　水先船免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ差出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ差出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　水先船免狀ヲ受有セントスルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ水先船免狀ヲ水先人ニ交付ス

第二十六條第二十六條又ハ第二十七條ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ手數料ヲ納付スヘシ

第十條ノ規定ハ前項ノ手數料ヲ納付スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　管海官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラストト認ムルトキハ其使用ヲ停止シテ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ヲ使用シ又ハ其修理若クハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其效力ヲ失フ

第三十條　水先船使用スヘカラサルニ至リタルトキ又ハ其使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第三十一條ノ二　本章ニ於テ管海官廳ニ關スル水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ謂フ

第六章　水先法令書

第三十一條　水先法令書ハ遞信省ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

第三十二條　水先法令ニ改正アリタルトキハ遞信省ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十三條　水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ

水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

第三十三條ノ二　第五條ニ依リ抹消ノ登錄ヲ申請スルトキ又ハ第六條第三項ニ依リ抹消登錄ノ通知ヲ受ケタルトキハ水先免狀ヲ共ニ水先法令書ヲ返還スヘシ

第十二條ニ依リ水先免狀ヲ管海官廳ニ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

水先人海員審判所ニ於テ水先免狀行使ノ停止ヲ言渡サレ又ハ免狀ヲ海員審判所ニ差出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ水先法令書ハ管海官廳又ハ海員審判所ノ之ヲ保管シ公權停止若クハ免狀行使ノ停止期間滿了ノ後之ヲ還付ス

第三十四條　第八條第一項第九條及第十一條ノ規定ハ水先法令書ニ之ヲ準用ス

第三十五條　水先法令書ハ遞信省ノ印ヲ捺シタルモノニアラサレハ其效ヲ有セス

第七章　水路標識ノ證明

第三十六條　水先人水路ノ標導ヲ終リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ得ヘキ樣調製シタル書面ニ署名捺印シテ之ヲ船長ニ提出スヘシ

一　船舶ノ名稱、國籍、所有者、積量及喫水

二　水路ヲ標導シタル區域

三　水路ノ標導ヲ始メ及ヲ終リタル日時

四　水先案內料ノ額

船長ハ前項ノ書面ニ前項ノ事項ヲ記入シ且署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付スヘシ若シ支字ヲ削除、訂正又ハ挿入シタルトキハ之ニ認印スヘシ

水先人水先法第十三條但書ノ規定ニ依リ二歳以上ノ船舶ノ水路ヲ標導シタルトキハ各船ノ船長ハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサリシ船舶ノ船長ハ其事由ヲ前項ノ書面ニ附記スヘシ

第三十七條　水先法第十六條ニ依リ水先人水先修業生ヲ伴ヒ乘船シタルトキハ水先人ハ水先修業生ヲシテ前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ記載シ得ヘキ樣調製シタル書面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ提出スヘシ

船長ハ前條第二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付スヘシ

第三十八條　水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ其修業ニ關スル證明書ヲ交付ス

第八章　水先人組合

第三十九條　水先人組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合員トス但二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者ハ專屬水先區ノ組合員トス

第四十條　遞信大臣ニ於テ水先人組合ヲ設クヘキコトヲ命シタルトキハ當該水先區ノ水先人ヲ指名シ創立委員ヲ命ス

第四十一條　創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先區ノ水先人ノ會議ニ附スヘシ

創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ添ヘ會日及會場ヲ通知スヘシ

組合規約ハ當該水先區ノ水先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

水先人ハ代理人ヲ以テ意見ヲ表示スルコト

第四十二條　會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス若クハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ規約ノ成案ニ同意シタルモノト看做ス

第四十三條　組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク其成案ヲ遞信大臣ニ差出シ其認可ヲ申請スヘシ

第四十四條　第四十一條ノ場合ニ於テ意見數說ニ分レ定數ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ遞信大臣ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十五條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱

二　組合長其他組合ノ役員ニ關スルコト

三　組合員ノ營業ニ關スルコト

四　組合ノ風紀秩序ニ關スルコト

五　組合ノ會計ニ關スルコト

六　組合ノ會議ニ關スルコト

七　水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八　其他組合ニ關シ必要ナルコト

第四十六條　水先人組合ニ組合副長又ハ其他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合副長其他組合ノ役員ハ組合員ノ選舉ニ依リ上任シ其任期ハ三年以内トス

組合長組合副長ノ內一人ハ組合員以外ノ者ヲ選舉スルコトヲ得

第四十七條　組合長ハ本則及組合規約ニ依リ其職務ニ關セシメタル事務ヲ行フ

組合副長又ハ其他ノ役員ハ組合長ヲ補佐シ其事故ニ依リ職務ヲ行フ能ハサル場合ニハ之ヲ代理ス

第四十八條　遞信大臣組合規約ヲ認可シタルトキハ其旨ヲ創立委員ニ通達ス

創立委員ハ前項ノ通達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ組合長其他組合ノ役員ノ選舉ヲ行ヒ其上任確定シタルトキハ遲滯ナク其氏名ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

創立委員ノ職務ハ前項ノ屆出ヲ爲スニ依リテ得

第四十九條　組合長ハ上任後遲滯ナク組合ノ事務所ヲ定ムヘシ

組合長ハ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日以内ニ其所在地ヲ遞信省ニ屆出ツヘシ事務所ノ所在地ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五十條　組合規約ヲ變更セントスルトキハ組合長ハ其成案及變更ヲ要スル事由ヲ具シ遞信大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十一條乃至第四十四條ノ規定ハ組合規約ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條　組合長其他組合ノ役員ヲ交迭シタルトキハ新任者ノ氏名及交迭ノ事由ヲ具シ之ヲ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ハ組合長ヨリ之ヲ爲スヘシ但組合長ノ交迭シタル場合ニ在リテハ新舊組合長ノ連署ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五十二條　組合長ハ毎年一月前一年間ニ於ケル組合員ノ營業ニ關スル狀況及組合ノ會計ニ關スル事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

第五十三條　第四十九條第二項第五十條第一項第五十一條第一項及第五十二條ノ申請、屆出又ハ報告ヲ爲スニハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第五十四條　遞信大臣ハ組合規約ノ改正ヲ命シ必要ト認ムルトキハ其事項ヲ組合ニ諮問シ組合會議ヲ開クヘキコトヲ命シ又ハ當該官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨視セシムルコトヲ得

第五十五條　水先人第四十五條第三號又ハ第四號ニ依リ組合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フ

水先人前項ノ所爲アリタルトキハ組合長ハ組合ノ事務所ヲ管轄スル管海官廳ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十六條　前條第二項ノ申告ヲ爲ス場合ニハ成ルヘク證憑及事實參考トナルヘキ事物ヲ提出スヘシ

第九章　雜則

第五十七條　水先人其業務ニ從事スルニ當リ海難ニ罹リタルトキハ遲滯ナク管海官廳又ハ警察官署ニ其始末ヲ屆出ツヘシ

第五十八條　船長ハ其使用シタル水先人水先法第十九條第一項ノ各號ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關室日誌ノ寫ヲ添ヘ前條ノ官廳又ハ官署ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十九條　水先人其業務ヲ開始セントキハ當該水先區內應招ニ便宜ノ場所ニ事務所ヲ定メ之ヲ遞信省ニ屆出ツヘシ

水先人事務所ヲ變更シタルトキハ其事實アリタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ遞信省ニ屆出ツヘシ

水先人組合ノ成立シタルトキハ組合ノ事務所ヲ以テ各組合員ノ事務所ト爲スヘシ

第五十九條ノ二　二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者其專屬水先區ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク遲信大臣ニ屆出ツヘシ

第五十九條ノ三　水先人其業務以外ノ業務ニ從事セントスルトキハ又ハ二月以上其業務ヲ休止セントスルトキハ其事由ヲ具シ遲信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第六十條　水先人水先區ニ於テ左ノ事項アルコトヲ認メタルトキハ直ニ其狀況ヲ遲信省ニ報告スヘシ

一　航路、航路標識ニ異變アルコト

二　航路ノ妨害トナルヘキモノノ存在スルコト

三　其他航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第六十一條　水先人ハ毎年一月前一年間ニ於テ水路ヲ標導シタル船舶ニ關シ第三十六條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第五條第一項各號ニ該當シ抹消ノ登錄ヲ申請スル者ニ在リテハ其際前回報告以後ニ於ケル前項ノ書面ヲ該抹消登錄申請書ト共ニ差出スヘシ第五條第二項ニ該當シ抹消ノ登錄ヲ申請スル者亦同シ

第六條第三項ニ依リ抹消登錄ノ通知ヲ受ケタル者ハ水先免狀ト共ニ前項ノ書面ヲ差出スヘシ

前三項ノ書面ニハ第三十六條第二項ノ書面ヲ添附スヘシ

第六十一條ノ二　第五十九條及第五十九條ノ二乃至第六十一條ノ屆出又ハ許可申請ヲ爲シ若クハ書面ヲ差出スニハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第四十九條及第五十九條ノ屆出又ハ第六十條ノ報告ハ港務部ニモ之ヲ爲スヘシ

港務部ニ在リテハ當該

第十章　罰則

第六十二條　第三條第四條第二項第五條第六條第四項第七條第一項及第三項第八條第一項第九條第二項第十二條第一項第十三條ノ二第十九條第二十條第二十六條第二十七條第一項第三十條第三十三條第三十五條ノ二第一項乃至第三項第三十四條第三十六條乃至第三十八條第四十一條第一項第四十三條第四十四條第四十八條第二項第四十九條乃至第五十二條第五十五條第二項第五十七條乃至第五十九條第一項第二項第五十九條ノ二乃至第六十一條又ハ第六十一條ノ二第二項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第六十三條　本則ハ水先法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條　水先法第三十條第一項ニ依リ同法ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換スヘキ舊水先免狀ヲ有スル者ハ同法施行ノ日ヨリ六十日以內ニ其住所ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由シ舊免狀ノ交換ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ事項ヲ記載シ第一號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長第二號乃至第四號ノ事項ニ付テハ戶籍吏、外國人ニ在リテハ第一號乃至第四號ノ事項ニ付キ本國領事ノ證明ヲ受ケタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

一　水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セサルコト

二　氏名

三　本籍地

四　出生ノ年月日

【明治】年　月　日登錄

（水先區ノ名稱）水先區水先免狀

明治三十二年法律第六十三號水先法ニ依リ之ヲ授與ス

【明治】年　月　日

遞信大臣爵　氏　名　印

（備考）

水先免狀ハ竪八寸橫一尺一寸トシ裏面ニ英譯文ヲ附記ス

菊章

第　號

氏　名

出生ノ年月日

第二號書式

種類名稱		
水先綱具ノ裝置	長	
水先船積量	幅	
	深	

水先人（氏名）ノ申請ニ依リ此免狀ヲ授與ス

【明治】年　月　日　　管海官廳印

免狀

（備考）水先船ハ竪一尺一寸横八寸トス

第一號表

水先區	航路	汽船水先案内料	
東京灣水先區境界線ヨリ横濱錨地マテ 又ハ横濱錨地ヨリ東京灣水先區境界線マテ		四五	四五
東京灣水先區境界線ヨリ隅田川水先區境界線マテ 又ハ隅田川水先區境界線ヨリ東京灣水先區境界線マテ		六〇	
東京灣及隅田川	東京灣水先區境界線ヨリ隅田川錨地マテ 又ハ隅田川錨地ヨリ東京灣水先區境界線マテ	七五	
	横濱錨地ヨリ隅田川水先區境界線マテ 又ハ隅田川水先區境界線ヨリ横濱錨地マテ	三〇	
	横濱錨地ヨリ隅田川錨地マテ 又ハ隅田川錨地ヨリ横濱錨地マテ	四五	
	友ケ島水道ヨリ神戸錨地マテ 又ハ神戸錨地ヨリ友ケ島水道マテ	二五	
	隅田川水先區境界線ヨリ隅田川錨地マテ 又ハ隅田川錨地ヨリ隅田川水先區境界線マテ	三五	
	友ケ島水道ヨリ大阪錨地マテ 又ハ神戸錨地ヨリ友ケ島水道マテ	三五	
	友ケ島水道ヨリ大阪錨地マテ 又ハ大阪錨地ヨリ友ケ島水道マテ	四五	
	神戸錨地ヨリ大阪錨地マテ 又ハ大阪錨地ヨリ神戸錨地マテ	三〇	
和泉灘、内海及下關	神戸錨地ヨリ門司若クハ下關錨地マテ 又ハ門司若クハ下關錨地ヨリ神戸錨地マテ	一三〇	
	神戸錨地ヨリ内海水先區西境界線マテ 又ハ内海水先區西境界線ヨリ神戸錨地マテ	一四〇	
	神戸錨地ヨリ若松錨地マテ 又ハ若松錨地ヨリ神戸錨地マテ	一五〇	
	門司、下關若クハ若松錨地ヨリ下關水先區西境界線マテ 又ハ下關水先區西境界線ヨリ若松、下關若クハ門司錨地マテ	三五	
	門司若クハ下關錨地ヨリ若松錨地マテ 又ハ若松錨地ヨリ下關若クハ門司錨地マテ	五〇	
	門司若クハ下關錨地ヨリ下關水先區東境界線マテ 又ハ下關水先區東境界線ヨリ下關若クハ門司錨地マテ	三五	
	下關水先區東境界線ヨリ若松錨地マテ 又ハ若松錨地ヨリ下關水先區東境界線マテ	五五	
下關水先區西境界線ヨリ下關水先區東境界線マテ 又ハ下關水先區東境界線ヨリ下關水先區西境界線マテ		五〇	
豐後水道北口ヨリ下關水先區東境界線マテ 又ハ下關水先區東境界線ヨリ豐後水道北口マテ		六五	
豐後水道北口ヨリ神戸錨地マテ 又ハ神戸錨地ヨリ豐後水道北口マテ		一三〇	
長崎港	水先區境界線ヨリ港内錨地マテ 又ハ港内錨地ヨリ水先區境界線マテ	三〇	
	水先區境界線ヨリ口ノ津錨地マテ 又ハ口ノ津錨地ヨリ水先區境界線マテ	二五	
島原海灣	水先區境界線ヨリ三角錨地マテ 又ハ三角錨地ヨリ水先區境界線マテ	三五	
	水先區境界線ヨリ三池錨地マテ 又ハ三池錨地ヨリ水先區境界線マテ	五五	
	水先區境界線ヨリ住ノ江錨地マテ 又ハ住ノ江錨地ヨリ水先區境界線マテ	八五	
函館港	水先區境界線ヨリ港内錨地マテ 又ハ港内錨地ヨリ水先區境界線マテ	三〇	

備考

帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ機關ヲ使用スルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

第一號樣式

四尺五寸

白

赤

一尺五寸

一尺五寸

●水先人試驗規程

明治三十二年七月二十九日　逓信省令第三四號

改正　明治三九年第二二號、四三年第四五號、大正二年第六四號、三年第三四號、九年第八一號、一二年第七六號、一三年第四一號

水先人試驗規程左ノ通定ム

水先人試驗ハ逓信大臣ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ行フ

逓信大臣ハ試驗期日三十日前迄ニ試驗ヲ行フ管海官廳ノ名稱、試驗期日水先區ノ名稱及採用員數ヲ告示ス

第二條　水先法第三條又ハ第四條ニ該當スル者ハ水先人試驗ヲ受クルコトヲ得

一　二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ且六月以上試驗ヲ受ケントスル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

二　二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ二十回以上試驗ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタルコト

三　二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ其間ニ於テ十回以上試驗ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シ且三月以上同水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

隅田川水先區、長崎港水先區又ハ函館港水先區ノ水先人試驗ニ付テハ前項ノ水先修業生實務練習期間ヲ第一號ノ場合ニ於テハ三月以上、第三號ノ場合ニ於テハ一月半以上トス

第三條　左ニ揭ル履歴ノ一ヲ有スル者ハ水先人試驗ヲ受クルコトヲ得

一　二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ且六月以上試驗ヲ受ケントスル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

二　二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ二十回以上試驗ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタルコト

三　二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ其間ニ於テ十回以上試驗ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シ且三月以上同水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

隅田川水先區、長崎港水先區又ハ函館港水先區ノ水先人試驗ニ付テハ前項ノ水先修業生實務練習期間ヲ第一號ノ場合ニ於テハ三月以上、第三號ノ場合ニ於テハ一月半以上トス

第四條　水先人試驗ヲ受ケントスル者ハ試驗期日七日前（休暇日ヲ算入セス）迄ニ其履歴書及身分書ヲ添ヘ受驗申請書ヲ試驗ヲ行フ管海官廳ニ差出スヘシ

第五條　履歴ハ左ニ揭ル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

一　商船ニ乘組ミタル履歴　船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書

二　海軍艦船其他官廳所屬船ニ乘組ミタル履歴　當該官廳又ハ艦船ノ辭令書又ハ證明書

三　水先修業生タリシ履歴　當該水先人及船長ノ證明書

四　試驗ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタル履歴航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書

第六條　身分書ニハ左ノ事項ヲ記載シ第一號乃至第三號ノ事項ニ付テハ戸籍吏、第四號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長ノ證明ヲ受クヘシ

一　氏名

二　本籍地

三　出生ノ年月日

四　●水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セサルコト

第七條　水先人試驗ハ體格檢査及學術試驗トス體格檢査ニ合格シタル者ニアラサレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第八條　學術試驗ハ試驗官吏ノ見込ニ依リ筆記試驗又ハ口述試驗トシ左ノ事項ニ就キ之ヲ行フ

一　英語

二　航路標識、潮流、地勢、水路、港灣、錨地及危險物ノ說明

三　船舶ノ操縱及運航方法

四　羅針差違ノ檢定方法

五　船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其他水先人本分ノ職務ニ關スル法規

筆記試驗及口述試驗ヲ併セ行フ場合ニハ筆記試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第九條　受驗申請人ハ手數料トシテ體格檢査ニ付テハ一圓、學術試驗ニ付テハ水先區一區每ニ左ノ金額ヲ納付スヘシ

内海水先區水先人試驗　十五圓

其他ノ水先區水先人試驗　十圓

第十條　船舶職員試驗規程第三條、第二十條前段、第二十一條乃至第二十五條、第二十七條及第二十八條ノ規定ハ水先人試驗ニ之ヲ準用ス

第十條ノ二　學術試驗ノ成績ハ試驗官吏ニ於テ受驗人カ當該水先區ノ航海ニ從事シタル經歷ノ多少ヲモ參考シテ之ヲ定ム

附則

第十一條　此規程ハ水先法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海事代願人取締規則

明治四十一年十二月九日　逓信省令第五十二號

改正　明治四三年第四七號、大正二年第六二號

海事代願人取締規則

第一條　海事代願人ハ他人ノ委任ニ因リ管海官廳ニ對シ海事ニ關スル申請其他ノ手續ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

本則ニ於テ管海官廳ト稱スルハ海事代願人カ業務ヲ行フ地ヲ管轄スル逓信局又ハ逓信局海事部出張所ヲ謂フ

第二條　海事代願人ハ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ

管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ海事代願人カ取扱ハントスル業務事項ニ關シ試驗ヲ行フコトアルヘシ

第三條　海事代願人ハ左ニ揭ル書類ヲ管海官廳ニ差出シ許可ヲ申請スヘシ

一　申請書

二　履歷書

三　戸籍謄本

四　第四條第二號及第三號ニ該當セサルコトヲ證スル書面

申請書ニハ左ニ揭ル事項ヲ記載スヘシ

一　氏名

二　本籍地

三　住所

四　出生ノ年月日

五　事務所及出張所ノ名稱及所在地

六　取扱ハントスル業務事項

法人カ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ定款及代表者ノ氏名書ヲ管海官廳ニ差出シ申請書ニハ法人ノ名稱及前項第五號並ニ第六號ノ事項ヲ記載スヘシ

第四條　左ニ揭ル者ハ前條ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

一　未成年者

二　六年以上ノ懲役若クハ禁錮之ヨリ重キ刑又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權セサル者及六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行ヲ終ラス又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ラサル者

三　家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四　本則ノ規定ニ依リ許可ヲ取消サレタル者

第五條　海事代願人其業務事項ヲ增加シ又ハ之ヲ變更セントスルトキハ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　海事代願人ハ手數料其他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス業務ノ取扱上委任者ヨリ受クル報酬ニ關スル規程ヲ定メ管海官廳ノ許可ヲ受クヘシ其之ヲ變更セントスル場合亦同シ

海事代願人ハ許可ヲ受ケタル範圍ヲ超エテ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　海事代願人ハ許可ヲ受ケタル報酬ニ關スル規程ヲ事務所及出張所ニ於テ最モ見エ易キ場所ニ公示スヘシ

第八條　海事代願人ハ業務ノ取扱上使用スル印鑑ヲ管海官廳ニ屆出ツヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第九條　海事代願人ハ事件簿ヲ事務所及出張所ニ備ヘ左ニ揭ル事項ヲ之ニ記載スヘシ

一　件名

二　委任者ノ氏名又ハ名稱及住所

三　業務取扱ノ年月日及要旨

四　委任者ヨリ受ケタル報酬ノ額

海事代願人ハ事件簿ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ起算シ三箇年間之ヲ保存スヘシ

管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ海事代願人ノ事務所又ハ出張所ニ臨檢セシムルコトヲ得

海事代願人ハ管海官廳又ハ臨檢官吏ノ命令ニ因リ何時ニテモ事件簿ヲ提出シテ其檢閱ニ供スヘシ

第十條　第三條第二項第一號乃至第五號ニ揭ケル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ業務事項ヲ減シタルトキハ海事代願人ハ遲滯ナク之ヲ管海官廳ニ屆出ツヘシ法人カ海事代願人タル場合ニ於テ其定款又ハ代表者ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第十一條　管海官廳ニ於テ海事代願人左ニ掲クル場合ニ該當スルモノト認ムルトキハ期間ヲ限リ其業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトヲ得

一　本則ノ規定ニ違背シタルトキ

二　業務ノ取扱上犯罪又ハ不都合ノ所爲アリタルトキ

三　品行不良其他ノ事由ニ因リ業務ノ取扱ニ不適當ナルトキ

四　第四條第二號又ハ第三號ニ該當シタルトキ

第十二條　海事代願人廢業若クハ死亡シタルトキ又ハ行衞不明ト爲リタルトキハ廢業ノ場合ニハ本人、其他ノ場合ニハ其家族又ハ戸主ヨリ遲滯ナク之ヲ管海官廳ニ屆出ツヘシ

法人カ海事代願人タル場合ニ於テ解散シタルトキハ其清算人ヨリ遲滯ナク之ヲ管海官廳ニ屆出ツヘシ

第十三條　管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ海事代願人ヲシテ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

海事代願人組合ハ管海官廳ノ認可ヲ經テ規約ヲ定ムヘシ

附　則

第十四條　本則ハ明治四十二年一月十日ヨリ之ヲ施行ス

●船員職業紹介法

大正十一年四月十一日
法律第三十八號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船員職業紹介法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（御璽、國璽、大臣副署）

船員職業紹介法

第一條　本法ハ命令ノ定ムル場合ヲ除クノ外沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル船舶ニ乘組ムヘキ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用ス

本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲クル者以外ノ船員ノ職業紹介ニ之ヲ適用スルコトヲ得

第二條　船員職業紹介事業ヲ行ハムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　船員職業紹介ニ關シ必要アリト認ムルトキハ政府ニ於テ職業紹介事業ヲ行フコトヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル補助金ヲ支給シテ公益ヲ目的トスル法人其ノ他ノ團體ヲシテ職業紹介事業ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條　船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其ノ報酬トシテ手數料其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第五條　船員職業紹介事業ノ管理及連絡統一ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ船員職業紹介委員會ヲ置ク　遞信大臣之ヲ監督ス

船員職業紹介委員會ノ組織及職務權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　船員職業紹介事業ハ遞信大臣之ヲ監督ス

監督官廳ハ船員職業紹介事業ノ監督上必要ナル場合ニ於テハ業務ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシメ、書類帳簿ヲ檢シ及實地ニ就キ業務又ハ會計ヲ檢閱スルコトヲ得

第八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ハ一圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ船員職業紹介事業ヲ行ヒタル者

二　船員職業紹介ヲ爲シ其ノ報酬トシテ手數料其ノ他ノ財産上ノ利益ヲ受ケ又ハ他人ヲシテ受ケシメタル者

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ船員職業紹介ヲ爲ス者强請シテ職業ノ紹介ヲ爲シタルトキ亦前項ノ例ニ同シ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ無料ノ船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ本法施行後二月以内ニ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

本法施行ノ際現ニ有料又ハ營利ヲ目的トスル船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ內其ノ事業ヲ繼續スルコトヲ得

船員職業紹介法ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス（大正十一年勅令第四百九十七號）

●船員職業紹介法施行規則

大正十一年十一月十八日
遞信省令第六十五號

船員職業紹介法施行規則左ノ通定ム

船員職業紹介法施行規則

第一章　總則

第一條　本令ニ於テ職業紹介ト稱スルハ就職ノ媒介及求人又ハ求職ノ告知ヲ謂フ

第二條　本令ニ於テ所轄管海官廳ト稱スルハ船員職業紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局又ハ遞信局海事部出張所ヲ謂フ

第三條　遞信大臣ハ船員ノ職業紹介ヲ行フ者ニ對シ業務ノ統一竝求人及求職ノ調節ニ關シ必要ナル事項ヲ命シ又ハ管海官廳ヲシテ命セシムルコトアルヘシ

第二章　無料職業紹介

第四條　船員職業紹介法第二條及附則第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ニ履歷書及戸籍謄本ヲ添ヘ主タル船員職業紹介所ノ所轄管海官廳ヲ經由シ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

一　氏名又ハ名稱、本籍及住所

二　船員職業紹介所ノ所在地

三　船員職業紹介所ノ設備開所豫定年月日

四　船員職業紹介ニ關スル諸規程

法人又ハ團體ニ在リテハ前項ノ申請書ニ定款又ハ之ニ準スヘキ約款、事業成績、資產ノ狀況竝理事其ノ他ノ代表者ノ氏名、本籍、住所及履歷ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

遞信大臣ハ必要ナシト認ムルトキハ前二項ニ揭クル書類ノ全部又ハ一部ノ添附ヲ免除スルコトアルヘシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ船員職業紹介事業ノ經營ヲ許可セス船員職業紹介所設置ノ必要ヲ認メサルトキ亦同シ

一　禁治產者及準禁治產者

二　犯罪ニ因リ刑ニ處セラレ改悛ノ狀ナシト認ムル者

三　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

四　其ノ他船員職業紹介事業ヲ行フニ適セスト認メタル者

船員職業紹介事業經營ノ許可ヲ受ケタル者前項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ許可ヲ取消ス

第六條　船員職業紹介事業ヲ行フ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ期間ヲ限リ事業經營ノ停止ヲ命シ又ハ事業經營ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ法人又ハ團體ニ在リテハ理事其ノ他ノ代表者カ第一號又ハ第二號ニ該當スル場合亦同シ

一　船員職業紹介ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

二　事業ノ經營上不正ノ所爲アリト認ムルトキ

三　許可ヲ受ケタル後三月內ニ事業ヲ開始セス又ハ引續キ三月以上事業ヲ休止シタルトキ

第七條　船員職業紹介事業ヲ行フ者紹介所ノ設備ヲ變更シ又ハ紹介所ヲ增設セムトスルトキハ豫メ紹介所ノ所在地又ハ紹介所ヲ增設セムトスル地ヲ管轄スル遞信局長ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ遲滯ナク紹介所毎ニ其ノ從業者ノ氏名、住所及履歷ヲ記載シタル書面ニ戸籍謄本ヲ添ヘ所轄管海官廳ニ屆出ツヘシ

第九條　遞信局長ハ船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ不適當ト認ムルトキハ船員職業紹介事業ノ經營ヲ許可セス又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

船員職業紹介事業ノ經營ヲ許可セス船員職業紹介所設置ノ必要ヲ認メサルトキ亦同シ

一　禁治產者及準禁治產者

二　犯罪ニ因リ刑ニ處セラレ改悛ノ狀ナシト認ムル者

三　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

四　其ノ他船員職業紹介事業ヲ行フニ適セスト認メタル者

船員職業紹介事業經營ノ許可ヲ受ケタル者前項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ許可ヲ取消ス

第六條　船員職業紹介事業ヲ行フ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ期間ヲ限リ事業經營ノ停止ヲ命シ又ハ事業經營ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ法人又ハ團體ニ在リテハ理事其ノ他ノ代表者カ第一號又ハ第二號ニ該當スル場合亦同シ

一　船員職業紹介ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

二　事業ノ經營上不正ノ所爲アリト認ムルトキ

三　許可ヲ受ケタル後三月內ニ事業ヲ開始セス又ハ引續キ三月以上事業ヲ休止シタルトキ

第七條　船員職業紹介事業ヲ行フ者紹介所ノ設備ヲ變更シ又ハ紹介所ヲ增設セムトスルトキハ豫メ紹介所ノ所在地又ハ紹介所ヲ增設セムトスル地ヲ管轄スル遞信局長ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ遲滯ナク紹介所毎ニ其ノ從業者ノ氏名、住所及履歷ヲ記載シタル書面ニ戸籍謄本ヲ添ヘ所轄管海官廳ニ屆出ツヘシ

第九條　遞信局長ハ船員職業紹介事業ノ經營ニ關シ不適當ト認ムルトキハ船員職業紹介事業ノ經營ヲ許可セス又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

事業ヲ行フ者ニ對シ從業者ノ解任ヲ命シ又ハ設備ノ改善ニ關シ必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十條　船員職業紹介事業ヲ行フ者第四條第一項第四號ノ諸規程ヲ變更セムトスルトキハ所轄管海官廳ヲ經由シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

船員職業紹介事業ヲ行フ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本人（第三號ノ場合ニハ其ノ家族又ハ戸主、第四號ノ場合ニハ其ノ清算人）ヨリ遲滯ナク所轄管海官廳ヲ經由シ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

一　第四條第一項第一號乃至第三號ニ揭クル事項、定款、約款又ハ理事其ノ他ノ代表者、其ノ氏名、本籍、住所ニ變更ヲ生シタルトキ

二　廢業シタルトキ

三　死亡シタルトキ

四　法人解散シタルトキ

第十一條　船員職業紹介事業ヲ行フ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ遲滯ナク所轄管海官廳ニ屆出ツヘシ

船員職業紹介事業ヲ行フ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本人（第三號ノ場合ニハ其ノ家族又ハ戸主、第四號ノ場合ニハ其ノ清算人）ヨリ遲滯ナク所轄管海官廳ヲ經由シ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

一　第四條第一項第一號乃至第三號ニ揭クル事項、定款、約款又ハ理事其ノ他ノ代表者、其ノ氏名、本籍、住所ニ變更ヲ生シタルトキ

二　廢業シタルトキ

三　死亡シタルトキ

四　法人解散シタルトキ

第十一條　船員職業紹介事業ヲ行フ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ遲滯ナク所轄管海官廳ニ屆出ツヘシ

一　一月以上引續キ休業セムトスルトキ

二　從業者ヲ解任シタルトキ

第十二條　船員職業紹介事業ヲ行フ者外國船舶ニ對シ船員ノ職業紹介ヲ爲シタル場合ニ於テ就職者ヲ日本人ナルトキハ當該船舶所有者又ハ船長ヲシテ左ノ事項ヲ記載シタル書面ニ通ヲ作成セシメ乘船前ニ一通ハ之ヲ就職者ニ交付シ一通ハ之ヲ所轄管海官廳ニ差出スヘシ

一　船種、船名及總噸數

二　船籍港及就職期間中就行區域

三　船舶所有者及船長ノ氏名又ハ名稱竝國籍

四　就職者ノ氏名、年齡、本籍及住所

五　就職者ノ職務、給料及手當ノ額竝食料

二　簡易ナル取極

六　乘船地、乘船年月日及就職期間

七　契約ノ解除及終了ノ原因竝此等ノ場合ニ於ケル當事者間ノ權利及義務

八　乘船地以外ノ地ニ於テ下船スル場合ノ送還ニ關スル取極

九　其ノ他契約ノ內容ヲ明ニシ得ヘキ事項

就職者未成年者ナルトキハ法定代理人ノ就職許可書ヲ徵シ之ヲ管海官廳ニ差出スヘキ前項ノ書面ニ添附スヘシ

第一項ノ書面外國語ヲ以テ作成セラレタルトキハ日本語ノ譯文ヲ附スヘシ

第十三條　船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス事實ヲ虛僞シテ船員タルヘキコトヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムルコトヲ得ス

第十四條　船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ船員ノ下船又ハ雇傭契約ノ廢棄ヲ勸誘シ又ハ勸誘セシムルコトヲ得ス

第十五條　船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ求人者又ハ求職者ト金品ノ授受貸借ヲ爲シ、求人者又ハ求職者ニ代リ金品ヲ授受シ又ハ求職者ノ所持スル物品ヲ買受ケ、擔保トシテ受取リ若ハ賃入賣却ノ周旋ヲ爲スヘカラス但シ職業紹介所轄管海官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル業務ヲ爲スコトヲ得ス但シ豫メ其ノ業務ヲ行ハムトスル地ヲ管轄スル遞信局長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　兩替

二　質屋

三　酒類販賣

四　日用品ノ販賣

五　飮食店、宿泊所其ノ他類似ノ業務

船員職業紹介事業ヲ行フ者及其ノ從業者ハ前項各號ノ業務ヲ爲ス者ト通謀シテ利ヲ圖ルコトヲ得ス

第十七條　船員職業紹介事業ニ從事スル者ハ故ナク其ノ業務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ祕密ヲ漏泄スルコトヲ得ス

第十八條　船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ正當ノ事由ナクシテ紹介ノ申込ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條　二箇以上ノ紹介所ニ紹介ノ申込ヲ爲ス者ハ其ノ旨申出ツヘシ

第二十條　船員ノ職業紹介ハ申込ノ順序ニ依ル但シ正當ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　紹介ノ申込ハ申込ノ日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第二十二條　船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ求人票及求職票ヲ備ヘ取扱ノ都度遲滯ナク之カ記入ヲ爲スヘシ

就職ノ契約成立シタル者ノ求人票及求職票ハ最後記入ノ日ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

求人票及求職票ノ書式ハ別表ニ依ル

第二十三條　船員職業紹介事業ヲ行フ者ハ毎月十日、二十日及末日ニ其ノ旬中ノ記入ニ係ル求人票及求職票ノ寫ヲ紹介所毎ニ取纏メ翌旬第三日迄ニ所轄管海官廳ニ提出スヘシ但シ既ニ提出濟ノ票ニシテ記入ニ變更ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三章　有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介

第二十四條　船員職業紹介法附則第三項ノ規定ニ該當スル者（以下單ニ營業者ト稱スル）其ノ業務ヲ繼續セムトスルトキハ船員職業紹介法施行後二月內ニ紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ許可ヲ申請スヘシ

前項許可ノ申請ニ付テハ未成年者ニ在リテハ法定代理人、妻ニ在リテハ夫ノ連書ヲ要ス

遞信局長第一項ノ申請ニ基キ許可ヲ與フル場合ニ於テハ之ニ期間ヲ附スヘシ

遞信局長ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

營業者ハ第一項ノ許可ノ申請ニ對シ許否ノ決定アル迄其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

第二十五條　營業者ハ手數料ヲ定メ船員職業紹介法施行後遲滯ナク紹介所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ許可ヲ申請スヘシ

遞信局長必要アリト認ムルトキハ手數料ヲ定メ又ハ其ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十六條　營業者ハ求職者ニ手數料ノ半額ヲ超ユル額ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

第二十七條　營業者ハ就職ノ契約成立シタル後ニ非サレハ手數料ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十八條　營業者ハ手數料ヲ紹介所ニ於テ見易キ所ニ掲示スヘシ

第二十九條　營業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス遞信局長ノ定メ又ハ認可シタル手數料ヲ超エテ財產上ノ利益ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條　有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外前章ノ規定ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表ノ一）

（表）

		求人票	番號	
求人者	氏名（又ハ名稱）			
	住所（又ハ所在地）			
	道筋電話			
雇入ノ條件	船種船名	船　丸	總噸數（又ハ積石數）	
	航路定限		本船ノ用途	
	職務			
	人員	男　女		
	年齢			
	海技免狀ノ種類			
	教育程度			
	經驗技能			
	雇入期間			
	給料	月給　日給		
	食料			
	手當			
備考	（記入事項） （一）他ノ紹介所ニ申込ヲ爲シタル場合ハ其ノ紹介所名 （二）手數料 （三）其ノ他參考トナルヘキ事項			
申込年月日	大正　年　月　日	取扱者印		

（備考）一、紙質强靱ナルモノ
二、縱六寸五分橫四寸五分

（裏）

就職年月日	就職者氏名	求職票番號	記事
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			
年　月　日			

（別表ノ二）

（表）

		求職票	番號	
氏名		生年月日	年　月　日	
現住所				
本籍及身分				
就職同意者氏名、住所及本人トノ關係				
前雇主ノ氏名（又ハ名稱）				
前職務				
前給料				
海技免狀ノ種類				
船員手帖番號				
水夫適任證書				
經驗技能		教育程度		
失業日時及原因				
扶養家族配偶				
希望條件	職務給料			
	其他			
備考	（記入事項） （一）他ノ紹介所ニ申込ヲ爲シタル場合ハ其ノ紹介所名 （二）手數料 （三）其ノ他參考トナルヘキ事項			
申込年月日	大正　年　月　日	取扱者印		

（備考）一、紙質强靱ナルモノ
二、縱六寸五分橫四寸五分

（裏）

就職顚末			
船舶番號		船種船名	船　丸
總噸數（又ハ積石數）		航路定限	
本船ノ用途			
求人者ノ住所氏名（又ハ名稱）及求人票番號			
職務			
給料			
食料			
手當			
雇入年月日			
雇入期間			
備考			

●船員職業紹介法第三條ニ依ル補助金支給ニ關スル件

大正十一年十月十八日
勅令第四百九十六號

船員職業紹介法第三條ニ依ル補助金支給ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密、總理）

船員職業紹介法第三條第二項ノ規定ニ依ル補助金ノ額ハ當該船員職業紹介事業ニ要スヘキ經常費ヲ限度トシ豫算ノ範圍内ニ於テ遞信大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ船員職業紹介法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●船員職業紹介所紹介就職者運賃割引證交付規程

大正十二年十二月二十七日
遞信省告示第千八百二十七號
改正　大正十三年遞一四七二號
改正　大正一三年遞一四七二號

船員職業紹介所紹介就職者運賃割引證交付規程左ノ通定ム

船員職業紹介所紹介就職者運賃割引證交付規程

第一條　船員職業紹介法ニ依ル無料職業紹介所ノ紹介ニ依リ就職ノ爲現在地ヨリ就職地ヘ旅行セムトスル者ニシテ左ノ各號ニ該當スルトキハ當該職業紹介所ヲ管轄スル管海官廳ニ就職者旅客運賃割引證（以下單ニ割引證ト稱ス）ノ交付ヲ申請スルコトヲ得但シ小兒ハ此ノ限ニ在ラス

一　常傭ニ依ル一時ノ出稼ニ非サルトキ

二　三月以上船員トシテ就職セムトスルトキ

三　賃金又ハ俸給及之ニ準スヘキモノノ月收百圓未滿ノトキ

前項ノ割引證ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ紹介ヲ爲シタル船員職業紹介所ノ發行シタル第一號書式ノ就職證明書ヲ添ヘ書面又ハ口頭ヲ以テ申請ヲ爲スヘシ

第二條　割引證ヲ携帶スル者ハ鐵道省所管鐵道汽船及之ト連帶運輸ヲ爲ス鐵道汽船三等ニ限リ賃金ノ五割引ヲ以テ乘車船スルコトヲ得但シ急行列車又ハ急行汽船ニ乘車船スルコトヲ得ス

第三條　割引證ハ運賃ノ割引ヲ受クルヲ要セサル船員ハ乘船又ハ下船ノ日ヨリ十四日以内ニ第十二號又ハ第十三號書式ニ依リ最寄管海官廳ニ届出ヲ爲スヘシ但シ船長鐵職又ハ退職ノ認證ヲ申請シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ乘船若ハ下船ノ届出又ハ退職認證ノ申請ヲ爲ササルトキハ第一項ノ期間ハ船員手帖交付ノ日又ハ最後乘船ノ届若ハ最後就職認證ノ申請書ニ掲クル乘船若ハ就職ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條　船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ之ヲ最寄管海官廳ノ檢閲ニ供シタル後新船員手帖ノ交付ヲ申請スヘシ

第十二條　本章ニ規定スル申請ハ朝鮮ニ於テハ鐵道海官廳ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條　船員手帖ノ樣式ハ第二號書式ニ依ル

第十四條　船員手帖ヲ受有スル者カ之ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ニ掲ケル事項ノ證明ヲ朝鮮總督府遞信局長官ニ申請スルコトヲ得

一　海員雇入ノ公認

二　海員雇止ノ公認

三　海員雇入契約更新ノ公認

四　海員雇入契約變更ノ公認

五　船長就職ノ認證

六　船長退職ノ認證

前項ノ申請ヲ爲スニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱、船員手帖ノ番號及證明ヲ受ケムトスル事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ但シ記載スヘキ事項不明ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第三章　船長

第十五條　船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滯ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第十六條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ事實ノ發生後遲滯ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實發生ノ年月日時、場所及顚末其ノ他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一　豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二　人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三　衝突其ノ他ノ海蝕ヲ慣リタルトキ

四　豫定セサル港ニ寄港シタルトキ

五　船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲船長カ船舶ヲ去リタルトキ

六　海員ヲ懲戒シタルトキ

七　船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ

八　船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルトキ

九　船中ニ於テ犯罪アリタルトキ

十　船中ニ於テ出生アリタルトキ

十一　船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺產ヲ處分シタルトキ

十二　前各號ニ揭ケタル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事件發生シタルトキ

第十七條　船長ハ旅客乘船シタルトキハ其ノ乘船後、下船シタルトキハ其ノ下船後遲滯ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ

第十八條　本章ニ揭クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ欄外ニ其ノ旨及字數ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣抹消スヘシ

第十九條　管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閲ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閲ヲ爲シタル旨及檢閲ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス

第二十條　船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ

●朝鮮船員令施行規則

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第七十五號
改正　大正一三年第四號

朝鮮船員令施行規則左ノ通定ム

朝鮮船員令施行規則

第一章　總則

第一條　朝鮮船員令又ハ本令ノ規定ニ依ル申請ハ特ニ明文ヲ揭クル場合ヲ除クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二條　代理人ニ依リテ前條ノ申請ヲ爲ストキハ代理人ハ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三條　船員法及本令中最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ト稱スルハ最初ニ到著シタル管海官廳アル港ノ管海官廳ヲ謂フ

第四條　本令第二章乃至第四章ノ事務ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ休暇日ト雖之ヲ行フコトアルヘシ

第二章　船員手帖

第五條　船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請セムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

前項ノ申請者ハ船員法第三條第二項ニ揭ケタル事項ヲ證スル戶籍又ハ民籍ノ際本若ハ抄本其ノ他ノ公正證書ヲ申請書ニ添附スヘシ

第六條　未成年者ハ前條ノ規定ニ從フノ外左ノ事項ヲ記載シ法定代理人ノ署名捺印シタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

一　未成年者ノ氏名及本籍地

二　船員ト爲ルコトヲ許シタル旨

三　船員ト爲ルコトヲ許シタル年月日

四　法定代理人ノ本籍地及住所

第七條　船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セムトスル者ハ船員手帖ニ訂正ヲ要スル事項ヲ證スル戶籍又ハ民籍ノ際本若ハ抄本其ノ他ノ公正證書ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

第八條　船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帖ヲ交付又ハ書換ヲ申請スル場合ニハ第十一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出シ且書換ヲ申請スル場合ニハ船員手帖ヲモ提出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此ノ限ニ在ラス

海員雇入期間中第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ船長連署スルコトヲ要ス

第八條ノ二　船員手帖ニ新ニ撮影シタル自己ノ寫眞（名刺形又ハ手札形（單一版）半身、脫帽、縣紙ナキモノ）ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テハ船員手帖ニ前項ノ寫眞ヲ貼附シ年月日ヲ記載シタル後之ヲ當該受有者ニ還付ス

前二項ノ規定ハ船員手帖ニ貼附シタル寫眞カ滅失若ハ毀損シ又ハ貼附ノ日ヨリ十年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返還セムトスル者ハ其ノ事由ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ船員手帖ヲ提出スヘシ

第十條　雇入期間中行衞不明ト爲リタル海員ノ雇止ヲ爲シタル者ハ其ノ雇止ニ公認ヲ申請シタル管海官廳ニ該海員ノ船員手帖ヲ提出スヘシ若之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

他人ノ船員手帖ヲ保管スル者該船員手帖受有者ノ所在不分明ニシテ之ヲ本人ニ還付スルコト能ハサルトキハ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船員手帖ヲ受領シタル管海官廳ハ受領ノ日ヨリ一年内ニ本人又ハ代理人ヨリ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ廢棄スヘシ

第十條ノ二　海員カ最後雇止ノ公認ヲ受ケタル日ヨリ引續キ三年間雇入ノ公認ヲ受ケサルトキハ其ノ受有スル船員手帖ハ之ヲ無效トス雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員カ最後下船ノ日ヨリ引續キ三年間乘船セサルトキ亦同シ

●朝鮮船員令施行規則

手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請セムトスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出シ且書換ヲ申請スル場合ニハ船員手帖ヲモ提出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此ノ限ニ在ラス

海員雇入期間中第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ船長連署スルコトヲ要ス

第八條ノ二　船員手帖ニ新ニ撮影シタル自己ノ寫眞（名刺形又ハ手札形（單一版）半身、脫帽、縣紙ナキモノ）ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テハ船員手帖ニ前項ノ寫眞ヲ貼附シ年月日ヲ記載シタル後之ヲ當該受有者ニ還付ス

前二項ノ規定ハ船員手帖ニ貼附シタル寫眞カ滅失若ハ毀損シ又ハ貼附ノ日ヨリ十年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條　船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返還セムトスル者ハ其ノ事由ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ船員手帖ヲ提出スヘシ

第十條　雇入期間中行衞不明ト爲リタル海員ノ雇止ヲ爲シタル者ハ其ノ雇止ニ公認ヲ申請シタル管海官廳ニ該海員ノ船員手帖ヲ提出スヘシ若之ヲ提出スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ疏明スヘシ

他人ノ船員手帖ヲ保管スル者該船員手帖受有者ノ所在不分明ニシテ之ヲ本人ニ還付スルコト能ハサルトキハ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船員手帖ヲ受領シタル管海官廳ハ受領ノ日ヨリ一年内ニ本人又ハ代理人ヨリ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ廢棄スヘシ

第十條ノ二　海員カ最後雇止ノ公認ヲ受ケタル日ヨリ引續キ三年間雇入ノ公認ヲ受ケサルトキハ其ノ受有スル船員手帖ハ之ヲ無效トス雇入雇止ノ公認ヲ受クルヲ要セサル船員カ最後下船ノ日ヨリ引續キ三年間乘船セサルトキ亦同シ

第十一條　船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ之ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

第十二條　本章ニ規定スル申請ハ朝鮮ニ於テハ鐵道海官廳ニ之ヲ爲スヘシ

第十三條　船員手帖ノ樣式ハ第二號書式ニ依ル

第十四條　船員手帖ヲ受有スル者カ之ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ニ揭ケル事項ノ證明ヲ朝鮮總督府遞信局長官ニ申請スルコトヲ得

一　海員雇入ノ公認

二　海員雇止ノ公認

三　海員雇入契約更新ノ公認

四　海員雇入契約變更ノ公認

五　船長就職ノ認證

六　船長退職ノ認證

前項ノ申請ヲ爲スニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱、船員手帖ノ番號及證明ヲ受ケムトスル事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スヘシ但シ記載スヘキ事項不明ナルトキハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第三章　船長

第十五條　船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備ヘタルトキ遲滯ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第十六條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ事實ノ發生後遲滯ナク書式ニ從ヒ航海日誌ニ事實發生ノ年月日時、場所及顚末其ノ他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一　豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二　人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三　衝突其ノ他ノ海蝕ヲ慣リタルトキ

四　豫定セサル港ニ寄港シタルトキ

五　船舶ニ急迫ノ危險アリタル爲船長カ船舶ヲ去リタルトキ

六　海員ヲ懲戒シタルトキ

七　船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ

八　船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルトキ

九　船中ニ於テ犯罪アリタルトキ

十　船中ニ於テ出生アリタルトキ

十一　船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺產ヲ處分シタルトキ

十二　前各號ニ揭ケタル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事件發生シタルトキ

第十七條　船長ハ旅客乘船シタルトキハ其ノ乘船後、下船シタルトキハ其ノ下船後遲滯ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ

第十八條　本章ニ揭クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ欄外ニ其ノ旨及字數ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ樣抹消スヘシ

第十九條　管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閲ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閲ヲ爲シタル旨及檢閲ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス

第二十條　船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ

行證明書ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人ニ使用スルコトヲ得ス

第四條　割引證ハ發行ノ日ヨリ一月ヲ經過シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

第五條　割引乘車船券ヲ購求スル場合ハ鐵道係員ニ割引證ヲ提出スヘシ

第六條　乘車船賃ノ割引ヲ受クル者ハ管海官廳ニ於テ發行シタル就職者旅行證明書ヲ携帶シ何時ニテモ管海官廳職員又ハ鐵道係員ノ請求アルトキハ之ヲ呈示スヘシ

第七條　管海官廳職員割引證又ハ就職者旅行證明書ヲ記名人以外ノ者ニ於テ携帶セルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ同敎スルコトヲ得

第八條　割引證又ハ就職者旅行證明書ハ已ムヲ得サル事由ニ依リ亡失又ハ毀損シタル場合ノ外再ヒ之ヲ交付セス

割引證又ハ就職者旅行證明書ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク交付ヲ受ケタル管海官廳ニ届出ツヘシ

第九條　就職者旅行證明書ノ交付ヲ受ケタル者就職地ニ到著シタルトキ其ノ他之カ必要ナキニ至リタルトキハ遲滯ナク交付ヲ受ケタル管海官廳ニ之ヲ返付スヘシ割引證ノ交付ヲ受ケタル者其ノ必要ナキニ至リタルトキ亦同シ

第十條　割引證ハ第二號書式ニ依リ就職者旅行證明書ハ第三號書式ニ依ル

第十一條　本規程ニ於テ管海官廳ト稱スルハ遞信局又ハ遞信局海事部出張所ヲ謂フ

附　則

本規程ハ大正十三年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

就職證明書

本　籍　何
生年月日　某

右ハ當紹介所ニ於テ何地ニ於ケル何々（船主、船種、船名、職名等）ニ紹介シタル者ナルコトヲ證明ス

年　月　日

船員職業紹介所長氏名印

第二號書式

表

第　號

就職者旅客運賃割引證

乘車人
氏名年齢　當　年

乘車船區間　自　至　　驛　驛

乘車船等級割引率　三等五割

大正　年　月　日發行

所　在　地

遞信局海事部長又ハ同出張所長氏名印

三寸

裏

注意

一本證ニ依リ運賃ノ割引ヲ受クル者ハ所定ノ就職者旅行證明書ヲ携帶シ鐵道係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スヘキモノトス

二本證ハ職業紹介所ノ紹介ニ依リ就職スル者（別ニ定ムルモノヲ除ク）ニ限リ使用シ得ルモノニシテ番號、乘車船區間、使用者ノ氏名年齢、發行日附ハ發行者之ヲ記入シテ交付スルモノトス

三本證ハ記名人以外ノ者之ヲ使用スルコトヲ得サルモノトス

四本證ニ依リ賻粮シタル割引券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用シ得サルモノトス

五本證ニ依リ運賃ノ割引ヲ受ケタル者ハ急行列車ニ乘車スルコトヲ得サルモノトス

六本證ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ一箇月トス

四寸

備考　中央上部ニ遞信省ノ印ヲ押捺シアリ

第三號書式

就職者旅行證明書

本　籍　何
生年月日　某

右ハ何紹介所ニ於テ何地何々（船主、船種、船名、職名等）ニ紹介シタル者ナルコトヲ證明ス

年　月　日

船員職業紹介所長氏名印

二寸

表

裏

●朝鮮船員令

大正三年四月七日
勅令第九號

朝鮮船員令ヲ明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮船員令

第一條　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ船員ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外船員法ニ依ル但シ同法中日本ト朝鮮、主務大臣トアルハ朝鮮總督トス

第二條　外國ニ駐在スル外交官又ハ領事官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ朝鮮ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還費用ノ償還ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第三條　內地ノ管海官廳ニ於テ交付シタル船員手帖ハ本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際船員ニシテ第三條ノ船員手帖ヲ有セサル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スヘシ

左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スヘシ

一　船舶ノ番號、種類及名稱
二　船籍港
三　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
四　船長ノ氏名、住所竝海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ機關長ノ氏名、住所竝海技免狀ノ種類
五　船舶ノ發航港及到達港竝報告スヘキ事實ノ發生シタル場所及年月日時
六　報告スヘキ事實ノ顚末

第二十一條　報告書ノ認證ハ認證ヲ爲シタル旨及認證ノ年月日ヲ報告書ニ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス

第二十二條　海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ遲滯ナク上級海員二人以上ノ立會ヲ以テ其ノ遺產ヲ取調ヘ遺產目錄ヲ作ルヘシ

遺產目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺產ノ取調ニ立會ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス

一　死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日時
二　遺產ノ品名及各品ノ數量、若金錢ナルトキハ其ノ金額
三　遺產目錄ヲ作リタル年月日

第二十三條　前條ノ場合ニ於テ船長ハ遺產目錄ヲ作リタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキ場合又ハ航行中之ヲ作リタル場合ニ在リテハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ遺產目錄ヲ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ遺產目錄ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ其ノ管海官廳又ハ其ノ指定スル管海官廳ニ遺產ヲ差出スヘキコトヲ船長ニ命スルコトヲ得

第二十四條　朝鮮船員令第二條第一項ニ依リ日本臣民ヲ送還スヘキコトヲ命セラレタル船長カ外交官又ハ領事官ノ指定シタル港ニ到著シタルトキハ其ノ港ニ於ケル警察署（警察分署ニ在リテハ警察署ノ事務ヲ取扱フ警察分署、憲兵分隊、憲兵分遣所又ハ憲兵分隊長ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊長ヲ含ム以下同シ）ニ送還ノ事由ヲ疏明シ被送還者ヲ引渡スヘシ

前項ニ依リ被送還者ヲ引渡シタル船長カ被送還者ヨリ送還費用ノ償證ヲ得サルトキハ被送還者ノ氏名、出生年月日、出生地、身分、本籍地、住所、扶養義務者ノ氏名、住所及送還ノ事實ヲ記載シタル書面ヲ作リ之ヲ被送還者ヲ引渡シタル警察署ニ提出シテ其ノ證明ヲ申請スルコトヲ得

第二十五條　船長カ就職又ハ退職ノ認證ヲ申請セムトスルトキハ就職ノ場合ニ在リテハ第九號書式、退職ノ場合ニ在リテハ第十號書式ニ依リ申請書ニ就職又ハ退職及其ノ年月日ヲ證スル書面ヲ添ヘテ船員手帖ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

就職ノ認證ヲ申請セムトスル場合ニハ船長前項ノ規定ニ從フノ外其ノ海技免狀ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十六條　第二十一條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章　海員

第二十七條　海員雇入ノ公認ヲ申請セムトスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第三號書式ノ申請書
二　被雇者海技免狀ヲ受有スルトキハ其ノ免狀

第二十八條　海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

一　甲板部海員
二　機關部海員
三　事務部海員
四　同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十九條　當事者代理人ニ依リテ海員雇入ノ公認ヲ受ケムトスルトキハ其ノ理由ヲ記載シ且其ノ權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十條　海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十八條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十八條ノ順序ニ依ル

第三十一條　被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十七條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十二條　船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セムトスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十三條　船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セムトスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員手帖ニ現在ノ契約條項其ノ他ノ事項ヲ記載シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十四條　船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其ノ雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員雇入期間カ滿了シタルトキ
二　海員カ死亡シタルトキ
三　海員雇入契約ヲ解除シタルトキ
四　海員雇入契約カ終了シタルトキ
五　雇入期間中ニ船員カ朝鮮船員令ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十六條　海員雇止ノ公認ヲ申請セムトスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ揭ケタル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中其ノ事實發生當時ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　船員手帖
二　雇者ノ證明書

第三十七條　雇者カ海員ノ雇入ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第三十八條　雇者カ海員ノ雇入ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第三十九條　雇者カ海員ノ雇入ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十一條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十二條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十三條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十四條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十五條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十六條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十七條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十八條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十九條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十一條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十二條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十三條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十四條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十五條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十六條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十七條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十八條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十九條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第六十條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

ハ當事者ノ爭ニ關シ各由立ヲ爲サシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請者ノ相手方ハ其ノ申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ提出スヘシ

第四十二條　管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請ヲ理由アリトスルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中變更ヲ爲シタルトキハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第六號書式ノ申請書
二　契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ受有スルトキハ其ノ免狀

第四十五條　第二十八條乃至第三十一條ノ規定ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條ノ書類ノ更新又ハ變更ノ公認アリタルトキハ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十六條　海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請セムトスルトキハ海員ハ船員手帖ノ相當欄ニ更新又ハ變更ノ年月日、場所及其ノ要旨ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第四十七條　海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セムトスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ更新又ハ變更ノ公認ヲ爲シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第五號書式ノ申請書
二　第二十七條第二號ノ書類
三　第四十四條第二號ノ書類

第四十四條　海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セムトスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第五號書式ノ申請書
二　第二十七條第二號ノ書類
三　第四十四條第二號ノ書類

第四十五條　第二十八條乃至第三十一條ノ規定ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條第二號及第三號ノ書類又ハ前條ノ書類ハ更新又ハ變更ノ公認アリタルトキハ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十六條　海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請セムトスルトキハ海員ハ船員手帖ノ相當欄ニ更新又ハ變更ノ年月日、場所及其ノ要旨ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第四十七條　海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セムトスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ更新又ハ變更ノ公認ヲ爲シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第五號書式ノ申請書
二　第二十七條第二號ノ書類
三　第四十四條第二號ノ書類

第四十八條　船員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ原手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ認證ヲ受クヘキ事項ヲ船員名簿、船長ニ於テ證明シタル海員名簿ノ謄本、毀損シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ認證ヲ爲ス

第四十九條　船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セムトスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘテ海員名簿ヲ作リタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中之ヲ作リタル場合ニ在リテハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第七號書式ノ申請書
二　第二十七條第二號ノ書類
三　被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其ノ手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シタル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其ノ他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名之ニ記載スヘシ

第二十八條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十條　第二十九條及第三十條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テ前條ノ申請及公認ニ之ヲ準用ス但シ原管海官廳ニ前條ノ海員名簿又ハ船長ノ證明書ニ依リ船員手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ船員手帖ニ公認ノ認證ノ年月日及第三十三條、第三十四條又ハ第三十八條ノ場合ニ於テハ公認ノ認證ノ事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其ノ他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

第五十一條　船員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ原手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ認證ヲ受クヘキ事項ヲ船員名簿、船長ニ於テ證明シタル海員名簿ノ謄本、毀損シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ認證ヲ爲ス

第五十二條　船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セムトスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘテ海員名簿ヲ作リタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中之ヲ作リタル場合ニ在リテハ其ノ後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　第七號書式ノ申請書
二　第二十七條第二號ノ書類
三　被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其ノ手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シタル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其ノ他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名之ニ記載スヘシ

第二十八條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十三條　船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セムトスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シタル場合ニ在リテハ被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十七條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第五十四條　船員法第三十五條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セムトスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十三條　船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セムトスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員手帖ニ現在ノ契約條項其ノ他ノ事項ヲ記載シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十四條　船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其ノ雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ遲滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一　海員雇入期間カ滿了シタルトキ
二　海員カ死亡シタルトキ
三　海員雇入契約ヲ解除シタルトキ
四　海員雇入契約カ終了シタルトキ
五　雇入期間中ニ船員カ朝鮮船員令ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十六條　海員雇止ノ公認ヲ申請セムトスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ揭ケタル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳、其ノ港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中其ノ事實發生當時ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一　船員手帖
二　雇者ノ證明書

第三十七條　雇者カ海員ノ雇入ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第三十八條　雇者カ海員ノ雇入ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第三十九條　雇者カ海員ノ雇入ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十一條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十二條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十三條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十四條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十五條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十六條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十七條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十八條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第四十九條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十一條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十二條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十三條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十四條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十五條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十六條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十七條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十八條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第五十九條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

第六十條　船員法第十條ノ規定ニ依リ雇者カ船員手帖ヲ保管スル場合ニ於テハ其ノ雇入ノ年月日ヲ船員手帖ニ記載シ雇者ニ署名ヲ爲サシムヘシ

七　海員雇入又ハ雇止ノ公認ノ證明
一件ニ付　十錢
八　海員雇入契約更新又ハ變更ノ公認ノ證明
一件ニ付　十錢
九　船長就職又ハ退職ノ認證ノ證明
一件ニ付　四十錢

外國ニ於テ手數料ヲ納付スヘキトキハ其ノ額ハ左ノ規定ニ依ル

一　報告書ノ認證　一通ニ付　二圓
二　船長就職又ハ退職ノ認證　一件ニ付　四十錢
三　公認　被雇者一人ニ付　二十錢

但シ船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ被雇者一人ニ付　十錢

四　公認ノ認證　一件ニ付　十錢

前二項ノ手數料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前二項ニ定ムル額ノ二倍トス

第五十六條　前條ノ手數料ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外第八號書式ノ手數料納付書ニ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セス

第六章　罰則

第五十七條　第十五條、第二十二條、第一項、第二十三條第一項又ハ第三十四條第一項、第三十三條第二項又ハ第三十四條ニ違反シタル者、第二十三條第二項ノ命令ニ違反シテ管海官廳ニ遺產ヲ差出ササル者又ハ第二十八條第二項ニ定メタル證明書ノ交付又ハ公認ノ通知ヲ爲ササル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五十八條　船長カ朝鮮船員令第二條第一項ノ規定ニ違反シ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ朝鮮船員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（書式略ス）

●朝鮮船員令第二條ノ規定ニ依ル送還費用償還ノ件

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第七十六號

朝鮮船員令第二條ノ規定ニ依ル送還費用償還ノ件左ノ通定ム

第一條　朝鮮船員令第二條ノ規定ニ依リ日本臣民ヲ朝鮮ニ送還シタル船長ハ送還費用ヲ負擔スル者ニ對シ其ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二條　本令ニ於テ送還費用ト稱スルハ外交官又ハ領事官カ被送還者ヲ送還スルニ適當ナリト認メタル客室ノ等級ニ相當スル運賃ヲ謂フ

第三條　送還費用ハ被送還者ノ負擔トシ被送還者ヨリ償還ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス扶養義務者ニ對スル送還費用償還ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ費用ノ償還ヲ爲シタル者ハ朝鮮民事令ノ規定ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四條　前條第一項ノ規定ニ依リ送還費用ノ償還ヲ得サルトキハ當分ノ內國庫ニ於テ之ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ船長ハ送還費用ノ請求書ヲ朝鮮總督府ニ提出スヘシ

前項ノ請求書ニハ朝鮮船員令施行規則第二十五條第二項ノ書類ヲ添附スヘシ

附　則

本令ハ朝鮮船員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶職員令

大正三年四月七日
勅令第十號

朝鮮船舶職員令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮船舶職員令

第一條　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ職員ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外船舶職員法ニ依ル但シ同法中遞信大臣トアルハ朝鮮總督トス

第二條　遞信大臣ノ授與シタル海技免狀ハ本令ニ依リ授與シタルモノト看做ス

第三條　本令ハ朝鮮船員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶職員令施行規則

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第七十九號
改正　大正五年第八〇號、八年第一五五號、九年第一四號、一四年第八八號

朝鮮船舶職員令施行規則左ノ通定ム

朝鮮船舶職員令施行規則

第一章　總則

第一條　船舶職員法第一號表ニ掲クル航路ノ區域ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外朝鮮船舶檢查令施行規則第五十二條乃至第五十五條ノ規定ニ依リ、船舶ノ種別ハ朝鮮船舶令施行規則第一條及第二條ノ規定ニ依ル

本令ニ於テ船舶所有者ト稱スルハ船舶管理人又ハ船舶賃借人ヲ包含シ漁船ト稱スルハ朝鮮船舶檢查令施行規則第二條第二項ノ船舶ヲ謂フ

第二條　總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ限リ第一號表ニ依リ其ノ職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

第三條　機關ヲ有スル帆船ハ第二號表ニ依リ機關部職員ヲ乘組マシムルヘシ

第四條　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ其ノ航路近海航路、沿海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ朝鮮總督ノ指定ヲ受ケ其ノ航路ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

外國ノ湖川港內ハ平水航路トス

第五條　第二條及第三條ニ規定スルモノヲ除ク外船舶職員法第七條第二號及第三號ニ該當スル船舶ニ在リテハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲クル職員ヲ減シ又ハ他ノ海技免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第六條　前二條ニ依リ朝鮮總督ノ指定又ハ認可ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者ヨリ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出シ指定書又ハ認可書ノ交付ヲ受クヘシ

一　船舶ノ種類、名稱、積量總噸數及速力

二　特殊ノ船舶ナルトキハ其ノ構造

三　就行ノ目的及期限

四　就行スヘキ區域及里程

五　乘組マシメムトスル船舶職員ノ名稱及海技免狀ノ種類（第四條ニ依リ指定申請ノ場合ニハ之ヲ要セス）

六　申請ノ事由

第七條　左ノ場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本令ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメサルコトヲ得

一　外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ內地又ハ朝鮮ノ到達港迄回航スルトキ

二　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ

三　內地又ハ朝鮮ト外國トノ間ヲ航行スル船舶外國ノ港ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ內地又ハ朝鮮ノ到達港迄回航スルトキ

四　平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ當該國ノ法令ニ依リ相當免狀ヲ受有スル者所有者又ハ船長ヨリ海技免狀ヲ受有スル者ヲ雇入レ難キ事由ヲ具シ領事官ノ認可ヲ受ケテ和當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシメ第七號ノ場合ニ於テハ其ノ地ヲ管轄スル管海官廳、外國ニ在リテハ領事官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

朝鮮船舶檢查令施行規則第三十四條又ハ第三十六條ニ依リ船舶ヲ回航セムトスル者日本船舶ニシテ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港內ノミヲ航行シ又ハ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港內ノ地ニ航行スルモノ及朝鮮船舶檢查令第四條ニ掲クル外國船舶ニ之ヲ準用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際海技免狀ヲ受有セシテ現ニ船舶職員ノ職務ヲ執ル二十歲以上ノ者ニハ試驗ヲ用キシテ本令施行ノ日ヨリ三年ヲ限リ效力ヲ有スル相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

●朝鮮船舶職員令施行規則

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第七十九號
改正　大正五年第八〇號、八年第一五五號、九年第一四號、一四年第八八號

朝鮮船舶職員令施行規則左ノ通定ム

朝鮮船舶職員令施行規則

第一章　總則

第一條　船舶職員法第一號表ニ掲クル航路ノ區域ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外朝鮮船舶檢查令施行規則第五十二條乃至第五十五條ノ規定ニ依リ、船舶ノ種別ハ朝鮮船舶令施行規則第一條及第二條ノ規定ニ依ル

本令ニ於テ船舶所有者ト稱スルハ船舶管理人又ハ船舶賃借人ヲ包含シ漁船ト稱スルハ朝鮮船舶檢查令施行規則第二條第二項ノ船舶ヲ謂フ

第二章　船舶職員

第二條　總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ限リ第一號表ニ依リ其ノ職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

第三條　機關ヲ有スル帆船ハ第二號表ニ依リ機關部職員ヲ乘組マシムルヘシ

第四條　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ其ノ航路近海航路、沿海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ朝鮮總督ノ指定ヲ受ケ其ノ航路ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

外國ノ湖川港內ハ平水航路トス

第五條　第二條及第三條ニ規定スルモノヲ除ク外船舶職員法第七條第二號及第三號ニ該當スル船舶ニ在リテハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲クル職員ヲ減シ又ハ他ノ海技免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第六條　前二條ニ依リ朝鮮總督ノ指定又ハ認可ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者ヨリ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出シ指定書又ハ認可書ノ交付ヲ受クヘシ

一　船舶ノ種類、名稱、積量總噸數及速力

二　特殊ノ船舶ナルトキハ其ノ構造

三　就行ノ目的及期限

四　就行スヘキ區域及里程

五　乘組マシメムトスル船舶職員ノ名稱及海技免狀ノ種類（第四條ニ依リ指定申請ノ場合ニハ之ヲ要セス）

六　申請ノ事由

第七條　左ノ場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本令ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメサルコトヲ得

一　外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ內地又ハ朝鮮ノ到達港迄回航スルトキ

二　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ

三　內地又ハ朝鮮ト外國トノ間ヲ航行スル船舶外國ノ港ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ內地又ハ朝鮮ノ到達港迄回航スルトキ

四　平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ當該國ノ法令ニ依リ相當免狀ヲ受有スル者所有者又ハ船長ヨリ海技免狀ヲ受有スル者ヲ雇入レ難キ事由ヲ具シ領事官ノ認可ヲ受ケテ和當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシメ第七號ノ場合ニ於テハ其ノ地ヲ管轄スル管海官廳、外國ニ在リテハ領事官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

朝鮮船舶檢查令施行規則第三十四條又ハ第三十六條ニ依リ船舶ヲ回航セムトスル者日本船舶ニシテ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港內ノミヲ航行シ又ハ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港內ノ地ニ航行スルモノ及朝鮮船舶檢查令第四條ニ掲クル外國船舶ニ之ヲ準用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際海技免狀ヲ受有セシテ現ニ船舶職員ノ職務ヲ執ル二十歲以上ノ者ニハ試驗ヲ用キシテ本令施行ノ日ヨリ三年ヲ限リ效力ヲ有スル相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

●朝鮮船員令第二條ノ規定ニ依ル送還費用償還ノ件

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第七十六號

朝鮮船員令第二條ノ規定ニ依ル送還費用償還ノ件左ノ通定ム

第一條　朝鮮船員令第二條ノ規定ニ依リ日本臣民ヲ朝鮮ニ送還シタル船長ハ送還費用ヲ負擔スル者ニ對シ其ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二條　本令ニ於テ送還費用ト稱スルハ外交官又ハ領事官カ被送還者ヲ送還スルニ適當ナリト認メタル客室ノ等級ニ相當スル運賃ヲ謂フ

第三條　送還費用ハ被送還者ノ負擔トシ被送還者ヨリ償還ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス扶養義務者ニ對スル送還費用償還ノ請求ハ扶養義務者中ノ何人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ費用ノ償還ヲ爲シタル者ハ朝鮮民事令ノ規定ニ依リ扶養ノ義務ヲ履行スヘキ者ニ對シ求償ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四條　前條第一項ノ規定ニ依リ送還費用ノ償還ヲ得サルトキハ當分ノ內國庫ニ於テ之ヲ負擔ス

前項ノ場合ニ於テ船長ハ送還費用ノ請求書ヲ朝鮮總督府ニ提出スヘシ

前項ノ請求書ニハ朝鮮船員令施行規則第二十五條第二項ノ書類ヲ添附スヘシ

附　則

本令ハ朝鮮船員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶職員令

大正三年四月七日
勅令第十號

朝鮮船舶職員令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮船舶職員令

第一條　朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ職員ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外船舶職員法ニ依ル但シ同法中遞信大臣トアルハ朝鮮總督トス

第二條　遞信大臣ノ授與シタル海技免狀ハ本令ニ依リ授與シタルモノト看做ス

第三條　本令ハ朝鮮船員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶職員令施行規則

大正三年五月三十一日
朝鮮總督府令第七十九號
改正　大正五年第八〇號、八年第一五五號、九年第一四號、一四年第八八號

朝鮮船舶職員令施行規則左ノ通定ム

朝鮮船舶職員令施行規則

第一章　總則

第一條　船舶職員法第一號表ニ掲クル航路ノ區域ハ本令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外朝鮮船舶檢查令施行規則第五十二條乃至第五十五條ノ規定ニ依リ、船舶ノ種別ハ朝鮮船舶令施行規則第一條及第二條ノ規定ニ依ル

本令ニ於テ船舶所有者ト稱スルハ船舶管理人又ハ船舶賃借人ヲ包含シ漁船ト稱スルハ朝鮮船舶檢查令施行規則第二條第二項ノ船舶ヲ謂フ

第二章　船舶職員

第二條　總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ限リ第一號表ニ依リ其ノ職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

第三條　機關ヲ有スル帆船ハ第二號表ニ依リ機關部職員ヲ乘組マシムルヘシ

第四條　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ其ノ航路近海航路、沿海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ朝鮮總督ノ指定ヲ受ケ其ノ航路ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

外國ノ湖川港內ハ平水航路トス

第五條　第二條及第三條ニ規定スルモノヲ除ク外船舶職員法第七條第二號及第三號ニ該當スル船舶ニ在リテハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲クル職員ヲ減シ又ハ他ノ海技免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第六條　前二條ニ依リ朝鮮總督ノ指定又ハ認可ヲ受ケムトスルトキハ船舶所有者ヨリ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ朝鮮總督ニ提出シ指定書又ハ認可書ノ交付ヲ受クヘシ

一　船舶ノ種類、名稱、積量總噸數及速力

二　特殊ノ船舶ナルトキハ其ノ構造

三　就行ノ目的及期限

四　就行スヘキ區域及里程

五　乘組マシメムトスル船舶職員ノ名稱及海技免狀ノ種類（第四條ニ依リ指定申請ノ場合ニハ之ヲ要セス）

六　申請ノ事由

第七條　左ノ場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本令ニ定ムル船舶職員ノ全部又ハ一部ヲ乘組マシメサルコトヲ得

一　外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ內地又ハ朝鮮ノ到達港迄回航スルトキ

二　外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ

三　內地又ハ朝鮮ト外國トノ間ヲ航行スル船舶外國ノ港ニ於テ船舶職員ニ缺員ヲ生シ內地又ハ朝鮮ノ到達港迄回航スルトキ

四　平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミヲ航行スル船舶ニシテ當該國ノ法令ニ依リ相當免狀ヲ受有スル者所有者又ハ船長ヨリ海技免狀ヲ受有スル者ヲ雇入レ難キ事由ヲ具シ領事官ノ認可ヲ受ケテ和當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシメ第七號ノ場合ニ於テハ其ノ地ヲ管轄スル管海官廳、外國ニ在リテハ領事官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

朝鮮船舶檢查令施行規則第三十四條又ハ第三十六條ニ依リ船舶ヲ回航セムトスル者日本船舶ニシテ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港內ノミヲ航行シ又ハ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港內ノ地ニ航行スルモノ及朝鮮船舶檢查令第四條ニ掲クル外國船舶ニ之ヲ準用スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際海技免狀ヲ受有セシテ現ニ船舶職員ノ職務ヲ執ル二十歲以上ノ者ニハ試驗ヲ用キシテ本令施行ノ日ヨリ三年ヲ限リ效力ヲ有スル相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

各高等ノ免狀トス

機關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ、一等機關士免狀ハ二等機關士免狀及三等機關士免狀ニ對シ二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

同種免狀ニシテ效力ニ制限ヲ加ヘサルモノハ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノニ對シ、效力ニ制限ヲ加ヘタル汽船ニ限リタルモノハ效力ヲ漁業汽船ニ限リタルモノニ對シ、效力ヲ帆船ニ限リタルモノハ效力ヲ漁業帆船ニ限リタルモノニ對シ各高等ノ免狀トス

第十條　免狀ノ代用ニ付テハ前條ノ外第三號表ノ定ムル所ニ依ル

第四章　登錄

第十一條　船舶職員法第五條第一項ニ依リ海技免狀ヲ受ケムトスル者ハ船舶職員試驗ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ登錄ヲ申請スヘシ

第十二條　船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケムトスル者ハ船舶職員試驗ヲ執行スル管海官廳ニ左ノ書類ヲ提出シ體格檢查ヲ申請スヘシ

一　戶籍若ハ民籍ノ謄本及船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ證明書

二　海軍艦船ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シタル者ハ海上勤務ノ履歷書、最後任官ノ辭令書ノ寫

三　商船學校全科卒業生ハ卒業證書ノ寫

四　海技免狀ヲ受有スル者ハ船舶職員試驗ヲ受ケタル後ノ乘組履歷書

五　前項第三號ノ履歷書ニ付テハ相當證明書、同試驗令書ノ寫第四號ノ卒業證書ノ寫ニ付テハ各原本、第五號ノ乘船履歷書ニ付テハ朝鮮船舶職員試驗規則第十三條ニ依ル證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

體格檢查ヲ受ケ合格シタル者ハ之ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ登錄ヲ申請スヘシ

第十三條　船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケムトスル者管海官廳ニ於テ體格檢查ヲ受ケ合格シタル者ニ對シ、一等機關士免狀ニ對シテハ二等機關士免狀及三等機關士免狀ニ對シ二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

同種免狀ニシテ效力ニ制限ヲ加ヘサルモノハ效力ニ制限ヲ加ヘタルモノニ對シ、效力ヲ汽船ニ限リタルモノハ效力ヲ漁業汽船ニ限リタルモノニ對シ、效力ヲ帆船ニ限リタルモノハ效力ヲ漁業帆船ニ限リタルモノニ對シ各高等ノ免狀トス

第十四

ス

第二十六條　行政區畫ノ變更アリタルトキハ海技免狀ヲ受有スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ海技免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第十六條第二項ノ規定及第十七條ノ規定ハ前項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五章　手數料

第二十七條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　第十二條第一項ニ依リ體格檢査ヲ申請スルトキ　二十錢

二　第二十二條ニ依リ海技免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀ヲ受有スル者ノ過失ニ出テタルトキ　一圓

三　海技免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ　一圓

四　前條第一項ニ依リ海技免狀ノ書換ヲ申請スルトキ　一圓

前項第二號乃至第四號ノ申請ヲ二件以上同時ニ爲ストキハ該申請ノ內一件ニ對スル手數料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第十六條ニ依リ變更ノ登錄ノ申請ヲ爲シ海技免狀ノ書換交付ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申請ヲ爲ストキハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第二十八條　第十一條、第十二條、第一項第三項、第十六條第一項、第二十二條、第二十四條又ハ第二十六條第一項ノ申請ヲ爲ス者ハ登錄稅又ハ手數料ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シタル納付書ヲ申請書ニ添附スヘシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セス

第六章　雜則

第二十九條　海技免狀ヲ受有スル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ裁判確定後遲滯ナク本人又ハ該免狀ヲ保管スル者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ海技免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

一　罪名、刑名及裁判確定ノ年月日

二　刑ノ執行ヲ受クヘキ期間又ハ其ノ執行猶豫期間

三　判決ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル海技免狀ハ朝鮮總督府遞信局之ヲ保管シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後之ヲ還付ス

第三十條　第十六條第一項、第十八條、第十九條第三項、第二十條第四項、第二十一條第一項、第二十二條、第二十四條、第二十六條第一項又ハ第二十九條第一項ニ依リ申請書又ハ海技免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スルニハ最寄管海官廳ヲ經由スルコトヲ得

第三十一條　海技免狀ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノトキヨリ、之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生シタルトキヨリ、第十八條第一項各號及第十九條第一項第二號乃至第四號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ、滅失シタル場合ニハ滅失ノトキヨリ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條　海技免狀ヲ受有スル者ハ當該官吏ノ要求アルトキハ之ヲ其ノ檢閱ニ供スヘシ

第七章　罰則

第三十三條　第十六條第一項、第十八條第一項第二項、第二十一條第一項、第二十二條、第二十四條、第二十九條第一項ニ違反シタル者、前條ニ規定スル檢閱ヲ拒ミタル者又ハ本令ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ朝鮮船舶職員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

外國ノ湖川港內ノミヲ航行スル船舶ニハ當分ノ內領事官ノ認可ヲ受ケ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

朝鮮船舶職員令附則第二項ニ該當スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ニ本令ニ依リ體格檢査ヲ受ケ海技免狀ノ交付ヲ申請スヘシ

第一號表

航路種類	船舶	總噸數	職員名稱	免狀種類
遠洋航路	汽船	二百噸未滿	機關長	甲種二等運轉士
		五百噸未滿	一等機關士	甲種一等運轉士
	帆船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士
		五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士
近海航路	汽船	百噸未滿	機關長	乙種二等機關士
		二百噸未滿	機關長	乙種一等機關士
		五百噸未滿	一等機關士	甲種二等機關士
	帆船	二百噸未滿	船長	甲種二等運轉士
		五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士

第二號表

總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
二百噸未滿	機關長	三等機關士	一
千噸未滿	機關長	二等機關士	一
千噸以上	機關長	一等機關士	一

第三號表

航路種類	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	代用免狀種類
近海航路	汽船	二百噸未滿	機關長	二等機關士	三等機關士
		千噸未滿	機關長	一等機關士	二等機關士
		千噸以上	機關長	一等機關士	甲種一等運轉士（總噸數五百噸未滿ノ汽船ニ限リ二等機關士）
	帆船	五百噸未滿	船長	乙種船長	甲種二等運轉士（總噸數五百噸未滿ノ汽船ニ限リ二等機關士）
		千噸以上	船長	甲種船長	甲種一等運轉士（但シ總噸數二千噸未滿ノ汽船ニ限リ乙種一等運轉士）
		千噸以上	船長	丙種船長	甲種一等運轉士

第一號書式

海技免狀原簿登錄申請書

一　海技免狀ノ種類

二　氏名（片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）

三　本籍地及族稱

四　出生年月日

五　船舶職員試驗（體格檢查）ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱

六　合格ノ年月日

右海技免狀原簿ニ登錄ノ上海技免狀授與相成度朝鮮船舶職員令施行規則第十一條（第十二條第三項又ハ附則第三項）ニ依リ此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印

現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第二號書式

體格檢查申請書

船舶職員法第五條第二項（朝鮮船舶職員令附則第二項）ニ依リ檢查執行相成度依テ履歷書、證明書及戶籍（民籍）ノ謄本相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印

現住所

管海官廳宛

第三號書式

第十七號

花紋

第　號

本籍族稱
（外國人ニ在リテハ國籍）
氏　名
出生年月日

大正　年　月　日登錄

（免狀種類）免狀

大正三年制令第十號朝鮮船舶職員令ニ依リ之ヲ授與ス

大正　年　月　日

朝鮮總督伯爵　名印

第四號樣式

海技免狀原簿變更登錄（訂正）申請書

一　海技免狀ノ番號

二　海技免狀ノ種類

三　登錄ノ年月日

四　氏名（片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）　舊（朱書）

五　本籍地及族稱　新（朱書）　舊

六　出生年月　新（朱書）　舊

右何年何月何日（變更、訂正ノ事由ヲ記載ス）ニ依リ前記朱書ノ通變更登錄（訂正）相成度戶籍（民籍）謄本（抄本）竝登錄稅（手數料）何圓相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印

現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第五號書式

海技免狀再交付申請書

一　海技免狀ノ番號

二　海技免狀ノ種類

三　登錄ノ年月日

四　氏名（片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）

備考

一　效力ニ制限ヲ加ヘ終興スル免狀ニハ其ノ效力ヲ記載ス

一　海技免狀ノ寸法ハ竪九寸橫一尺二寸トス

一　甲種船長、甲種一等運轉士、甲種二等運轉士、機關長及一等機關士ノ免狀ハ其ノ裏面ニ英譯文ヲ附ス

一　前項ニ揭クル免狀ノ紋章ハ菊章トシ其ノ他ノ免狀ノ紋章ハ桐章トス

五　本籍地及族稱
六　出生年月日

右何年何月何日（滅失、遺失、紛失、毀損等ノ事由ヲ記載ス）ニ付再交付相成度手數料何圓相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

●船舶職員ノ代用海技免狀行使ノ特例ニ關スル件

大正十四年十二月七日
朝鮮總督府令第百十二號

船舶職員ノ代用海技免狀行使ノ特例ニ關スル件左ノ通定ム

大正九年朝鮮總督府令第十四號別表第一號表又ハ第三號表ニ依リ船舶ニ其ノ職員トシテ乘組ミ本令施行ノ際ニ就職中ノ者ハ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ執ル期間內ニ限リ大正十四年朝鮮總督府令第五十八號ノ規定ニ拘ラス同別表ニ依リ引續キ就職スルコトヲ得本令施行後一時下船シ其ノ翌日ヨリ起算シ三十日以內ニ同一船舶ニ於テ同一ノ職ニ復スル者亦同シ

前項ノ規定ニ依リ船舶職員トシテ引續キ就職セムトスル者ハ大正十四年十二月三十一日迄ニ又復職セムトスル者ハ其ノ都度左ニ揭クル事項ヲ記載シタル書面二通ニ就退職ノ期日ヲ證スル船員手帖其ノ他ノ證憑（復職セムトスルヲ添付シ管海官廳ニ屆出テ其ノ旨證明ヲ受クヘシ

一　船舶番號、船種及船名
二　總噸數
三　航路定限
四　船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
五　職名
六　海技免狀ノ種類及番號
七　就退職年月日（就職屆出ニハ退職年月日ノ記載ヲ要ス）
八　屆出ノ事由

第一項ノ規定ニ依リ就職又ハ復職シタル者下船シタルトキハ還滯ナク管海官廳ニ其ノ旨屆出ツヘシ

管海官廳ニ於テ航路ノ狀況其ノ他正當ノ事由ニ依リ第二項ニ定ムル期日迄ニ屆出ヲ爲スコト能ハサリシモノト認ムル場合ニ限リ期日後ト雖屆出ヲ受理スルコトヲ得

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶職員令準用方

大正四年十月二十日
朝鮮總督府令第百十號

朝鮮船舶職員令ハ內地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ニシテ朝鮮ノ浩岸若ハ湖川港內ノミヲ航行シ又ハ朝鮮ヲ起點トシテ朝鮮外ノ地ニ航行スルモノ及湖川港內ノミヲ航行スル外國船舶ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮船舶職員試驗規則

大正十四年五月十六日
朝鮮總督府令第五十九號

朝鮮船舶職員試驗規則左ノ通定ム

第一章　總則

第一條　船舶職員試驗ハ左ノ三十六種トス

小形船丙種運轉士試驗
漁船丙種運轉士試驗
丙種運轉士試驗
丙種船長試驗
湖川港乙種二等運轉士試驗
湖川港乙種一等運轉士試驗
小形船乙種二等運轉士試驗
漁船乙種二等運轉士試驗
漁船乙種一等運轉士試驗
乙種二等運轉士試驗
乙種船長試驗
漁業帆船甲種二等運轉士試驗
漁業帆船甲種一等運轉士試驗
漁業汽船甲種二等運轉士試驗
漁業汽船甲種一等運轉士試驗
漁船甲種二等運轉士試驗
漁船甲種一等運轉士試驗
帆船甲種二等運轉士試驗
帆船甲種一等運轉士試驗
帆船甲種船長試驗
汽船甲種二等運轉士試驗
汽船甲種一等運轉士試驗
汽船甲種船長試驗
甲種二等運轉士試驗
甲種一等運轉士試驗
甲種船長試驗
發動機船三等機關士試驗
湖川港三等機關士試驗
三等機關士試驗
發動機船二等機關士試驗
二等機關士試驗
發動機船一等機關士試驗
一等機關士試驗
發動機船機關長試驗
機關長試驗

第二條　船舶職員試驗ハ別ニ告示スル試驗ノ場所及期日ニ於テ管海官廳定期ニ之ヲ執行ス

臨時試驗ヲ執行スル必要アルトキハ試驗ノ場所及期日ハ隨時之ヲ告示ス

第三條　本令ニ規定スル乘船期間ヲ計算スルニハ乘船ノ翌日ヨリ之ヲ起算シ末日ハ終了月又ハ年ヲ以テ定ムル乘船期間ハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算シ月又ハ年ノ始ヨリ起算セサルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於ケル起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス但シ最後ノ月又ハ年ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ滿了スルモノトス

乘船期間ヲ計算スルニハ一月ニ滿タサル乘船日數ハ之ヲ合算シ三十日ニ滿ツルトキハ之ヲ一月トシ一年ニ滿タサル乘船月數ハ之ヲ合算シ十二月ニ滿ツルトキハ之ヲ一年トス

第二章　受驗資格

第四條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗期日ノ前日迄ニ年齡滿二十年ニ達シ試驗ノ種類ニ應シ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

同一ノ試驗ニ對シ規定ノ乘船期間ニ達セサル二以上ノ履歷ヲ有スルトキハ之ヲ其ノ一ニ通算スルコトヲ得但シ規定乘船期間ノ年數ヲ異ニスルモノヲ通算スル場合ニ在リテハ各規定乘船期間ノ年數ノ比例ニ依リ其ノ一方ニ換算シテ之ヲ通算スルモノトス

第五條　高等ノ免狀ニ對スル受驗履歷トシテ、高等ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ下等ノ職ヲ執リタル履歷ハ下等ノ免狀ニ對スル受驗履歷トシテ、高等ノ職ヲ執リタル履歷トシテ之ヲ認ムルコトヲ得

總噸數百噸以上ノ機關ヲ有セサル縱帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間橫帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得

機關部員ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歷表ニ揭クル航洋汽船又ハ汽船ニハ發動機船ヲ包含セス但シ同表ニ揭クル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄ハ汽船ニ乘組タル期間ヲ發動機船ニ乘組ミタルモノトシテ、發動機船ニ乘組ミタル期間ヲ汽船ニ乘組ミタルモノトシテ換算スルコトヲ得

湖川港三等機關士試驗及三等機關士試驗ニ對スル受驗履歷ニ付テハ火夫トシテ勤務シタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間機關運轉ニ從事シタルモノトシテ之ヲ換算シタル期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

機關ヲ有スル帆船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ機關部員ノ試驗ニ在リテハ其ノ乘船期間ノ二分ノ一ニ相當スル期間該船舶ノ總噸數ノ二分ノ一ニ相當スル汽船又ハ發動機船ニ乘組ミタルモノトシテ計算ス但シ此ノ場合ヲ合算シ十二月ニ滿ツルトキハ之ヲ一年トス

第二章　受驗資格

第四條　船舶機員試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗期日ノ前日迄ニ年齡滿二十年ニ達シ試驗ノ種類ニ應シ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ノ一ヲ有スルコトヲ要ス

同一ノ試驗ニ對シ規定ノ乘船期間ニ達セサル二以上ノ履歷ヲ有スルトキハ之ヲ其ノ一ニ通算スルコトヲ得但シ規定乘船期間ノ年數ヲ異ニスルモノヲ通算スル場合ニ在リテハ各規定乘船期間ノ年數ノ比例ニ依リ其ノ一方ニ換算シテ之ヲ通算スルモノトス

第五條　高等ノ免狀ニ對スル受驗履歷ハ下等ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ下等ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷トシテ、高等ノ免狀ヲ執リタル履歷ハ下等ノ職ヲ執リタル履歷トシテ之ヲ認ムルコトヲ得

總噸數百噸以上ノ機關ヲ有セサル縱帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間橫帆裝置ノ近海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ニ乘組ミタルモノトシテ之ヲ換算スルコトヲ得

機關部員ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歷表ニ揭クル航洋汽船又ハ汽船ニハ發動機船ヲ包含セス但シ同表ニ揭クル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄ハ汽船ニ乘組タル期間ヲ發動機船ニ乘組ミタルモノトシテ、發動機船ニ乘組ミタル期間ヲ汽船ニ乘組ミタルモノトシテ換算スルコトヲ得

湖川港三等機關士試驗及三等機關士試驗ニ對スル受驗履歷ニ付テハ火夫トシテ勤務シタル期間ハ其ノ二分ノ一ノ期間機關運轉ニ從事シタルモノトシテ之ヲ換算シタル期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

機關ヲ有スル帆船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ機關部員ノ試驗ニ在リテハ其ノ乘船期間ノ二分ノ一ニ相當スル期間該船舶ノ總噸數ノ二分ノ一ニ相當スル汽船又ハ發動機船ニ乘組ミタルモノトシテ計算ス但シ此ノ場合

ニ於テハ第三項但書ノ規定ヲ準用ス

第六條　朝鮮總督ハ內地、臺灣、樺太、關東州又ハ外國各港間ヲ航行スル船舶ニ乘組ミタル履歷ヲ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ニ相當スルモノトシテ認定スルコトヲ得

上海漢口間ヲ航行スル汽船ニ乘組ミタル期間ハ別表受驗履歷表ニ揭クル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄沿海航路ヲ航行スル汽船ニ乘組ミタルモノト看做ス

第七條　朝鮮總督ハ內地、臺灣、樺太若ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶又ハ外國船舶ニ乘組ミタル履歷ヲ別表受驗履歷表ニ揭クル履歷ニ相當スルモノトシテ認定スルコトヲ得

第八條　朝鮮總督ノ適當ト認ムル外國政府ノ海技免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ朝鮮總督府ノ相當海技免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス

第九條　外國政府ノ海技免狀ヲ受有スル者ハ朝鮮總督ノ認定スル所ニ依リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十條　朝鮮總督ノ適當ト認ムル商船學校、海員養成所、水產學校又ハ水產講習所ニ在リテ航海科、機關科、漁撈科若ハ遠洋漁業科ヲ卒業シタル者又ハ遠洋漁業ノ講習科ヲ修業シタル者ハ其ノ在學中ノ乘船期間別表受驗履歷表ニ揭クル乘船期間ニ達セサルモ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第十一條　朝鮮總督ノ適當ト認ムル機關工場ニ於テ汽罐、汽鎚ノ製造又ハ修結ニ從事シタル期間ハ機關部員ノ試驗ニ在リテハ別表受驗履歷表ニ揭クル乘船期間ノ二分ノ一ニ達スル迄機關運轉ニ從事シタルモノト看做ス

朝鮮總督ノ認定スル所ニ依リ筆記試驗ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當スル學校、養成所又ハ講習所ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十條　體格檢查ハ別表體格檢查標準表ニ依リ、學術試驗ハ別表學術試驗科目表ニ依リ之ヲ執行ス

第二十一條　體格檢查ハ試驗ノ場所ニ別段ノ揭示ヲ爲ササル限リ試驗ノ初日ニ於テ之ヲ

第十三條　左ニ揭クル履歷ハ第四條ニ規定スル受驗履歷トシテ之ヲ認ムルコトヲ得ス

一　倉庫船又ハ繫留船ニ乘組ミタル履歷
二　年齡十四年未滿ノ履歷
三　試驗期日ヨリ遡リ十年ヲ超ユル前ノ履歷
四　主トシテ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事セサル職務ノ履歷

第三章　受驗申請

第十四條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ定期試驗ニ在リテハ試驗期日十二日前迄ニ臨時試驗ニ在リテハ試驗期日五日前迄ニ試驗ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類及手札形寫眞（最近撮影ニ係ル無帽ノモノニ限ル）ヲ添附シ第一號書式ノ申請書ヲ提出スヘシ

一　戶籍謄本又ハ戶籍抄本
二　船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ府尹、面長、其ノ他當該官公吏ノ證明書
三　海技免狀ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫
四　商船學校、海員養成所、水產學校又ハ水產講習所ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ニ在リテハ其ノ寫

前項第二號ニ揭クル書類ハ外國人ニ在リテハ其ノ本國領事ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十五條　船舶職員試驗ヲ受ケムトスル者ハ左ニ揭クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ其ノ受驗履歷ヲ證明スヘシ

一　商船ニ乘組ミタル履歷ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書
二　海軍艦船艇又ハ官公署ノ所屬船ニ乘組ミタル履歷ハ當該官公署ノ辭令書若ハ證明書又ハ當該官公吏ノ證明書
三　前各號ノ一ニ依リ難キ者ハ乘船履歷ハ船舶所有者又ハ船長ノ證明書

四　第十條又ハ第十一條ニ認定スル機關工場、商船學校、海員養成所、水產學校又ハ別ニ之ヲ告示ス

第十六條　受驗申請ハ同時ニ二種以上ノ試驗ニ付之ヲ爲スコトヲ得ス

第四章　試驗ノ執行

第十七條　船舶職員試驗ハ體格檢查及學術試驗トシ學術試驗ハ筆記試驗及口述試驗トス但シ本令ニ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

體格檢查ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス

筆記試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十八條　小形船丙種運轉士試驗、漁船丙種運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗、湖川港乙種一等運轉士試驗、小形船乙種二等運轉士試驗、漁船乙種二等運轉士試驗、發動機船三等機關士試驗及湖川港三等機關士試驗ニハ筆記試驗ヲ執行セス

第十九條　學術試驗ニ於テ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セサリシ者筆記試驗ニ合格シタル日ヨリ六月內ニ同種ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ一回ヲ限リ筆記試驗ヲ免除ス

第十條ニ規定スル學校、養成所又ハ講習所ニ於テ卒業又ハ修業シタル者ニ對シテハ朝鮮總督ノ認定スル所ニ依リ筆記試驗ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ該當スル學校、養成所又ハ講習所ハ別ニ之ヲ告示ス

第二十條　體格檢查ハ別表體格檢查標準表ニ依リ、學術試驗ハ別表學術試驗科目表ニ依リ之ヲ執行ス

第二十一條　體格檢查ハ試驗ノ場所ニ別段ノ揭示ヲ爲ササル限リ試驗ノ初日ニ於テ之ヲ

執行ス但シ當日終了セサルトキハ次日ニ之ヲ續行ス

學術試驗ヲ執行スル期日ハ筆記試驗ニ在リテハ試驗ノ場所ニ之ヲ揭示シ口述試驗ニ在リテハ受驗人ニ之ヲ通知ス

第二十二條　船舶職員試驗ノ執行ニ關スル手續ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メ試驗ノ場所ニ揭示ス

第二十三條　試驗執行中ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實ヲ發見シタルトキハ當該受驗人ニ付直ニ其ノ試驗ヲ停止スヘシ

一　受驗禁止中ナルコト
二　受驗資格ナキコト
三　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタルコト

受驗人前條ノ手續ニ違背シタルトキハ當該受驗人ニ付其ノ試驗ヲ停止スルコトアルヘシ

前各項ノ規定ニ依リ試驗ヲ停止シタルトキ又ハ試驗執行後第一項各號ノ一ニ該當スル事實アリタルコトヲ發見シタルトキハ管海官廳ハ當該受驗人ニ付試驗ノ全部又ハ一部ヲ無效ト爲スコトヲ得

第二十四條　試驗ニ合格シタルトキハ其ノ旨ヲ受驗人ニ通知ス

第五章　受驗禁止

第二十五條　試驗ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ニ付テハ管海官廳ハ六月以上三年以下ノ期間ヲ定メ受驗ヲ禁止スルコトヲ得

第六章　受驗手數料

第二十六條　受驗手數料ハ體格檢查手數料及學術試驗手數料トシ別表受驗手數料表ノ定ムル所ニ依ル

體格檢查手數料ハ受驗申請受理セラレタルトキ、學術試驗手數料ハ體格檢查ニ合格シタルトキニ直ニ納付スヘシ

第二十七條　受驗手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ第二號書式ノ納付書ニ貼用シ之ヲ納付スヘシ

第二十八條　既納ノ受驗手數料ハ事由ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス

附　則

本令ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第八十號朝鮮船舶職員試驗規則ハ之ヲ廢止ス

大正三年朝鮮總督府令第八十號朝鮮船舶職員試驗規則ニ定ムル受驗履歷ニ適合スル履歷ヲ有スル者ハ本令第四條ノ規定ニ拘ラス大正十五年九月三十日迄ヲ限リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

本令施行前ニ執行シタル定期試驗ニ於テ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セサリシ者筆記試驗ニ合格シタル日ヨリ六月內ニ同種ノ受驗申請ヲ爲シタルトキハ本令ニ依ル筆記試驗ヲ免除ス

別表

（別表略ス）

●水夫適任證書交付規則

大正五年五月三十日　朝鮮總督府令第四十三號
改正　大正一〇年第二八號

水夫適任證書交付規則左ノ通定ム

水夫適任證書交付規則

第一條　亞米利加合衆國諸港ニ出入セムトスル朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ船員ニシテ千九百十五年三月四日ノ亞米利加合衆國海員法ニ依ル水夫適任證書ヲ受有セムトスル者ハ其ノ交付ヲ管海官廳ニ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ハ亞米利加合衆國諸港ニ出入セムトスル朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ船員ト爲ラムトスル者ニ之ヲ準用ス

第二條　水夫適任證書ハ左ニ揭クル資格ノ一ヲ有シ且體格檢査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス

一　總噸數百噸以上ノ沿海航路以上ノ船舶ニ乘組ミ三年以上甲板部員トシテ執務シ年齡滿十九年以上ナルコト

二　沿海航路以上ノ船舶ニ乘組ミ一年以上甲板部員トシテ執務シ且船舶ノ運用ニ關スル試驗ニ合格シタルコト

遊覽船、捕鯨船又ハ無甲板漁船ニ乘組ミタル期間ハ前項第一號ノ期間ニ算入セス

第一項第二號ノ試驗ハ羅針盤方位、船燈、霧中信號、航路信號、機關傳令、結索、繩艇ノ卸方及操縱、航海用語竝操舵ニ關スル要領ニ付之ヲ行フ

第三條　水夫適任證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請者ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シ本籍地、出生年月日及乘船履歷ヲ證明スヘシ

第三條ノ二　第一條第二項ノ規定ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ規定ニ依ル外其ノ乘組マムトスル船舶ノ所有者、管理人又ハ借入人ノ發出シタル書面ニ依リ當該船舶ノ船員ト爲ラムトスル者ナル旨ヲ證明スヘシ

第四條　水夫適任證書ハ第二號書式ニ依ル

第五條　水夫適任證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之カ書換ヲ申請スルコトヲ得

水夫適任證書ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之カ書換ヲ申請スヘシ

水夫適任證書不用ト爲リタルトキハ遲滯ナク該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第六條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　第二條第一項第一號ノ資格ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ　一圓

二　第二條第一項第二號ノ資格ニ依リ水夫適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ　二圓

三　水夫適任證書ノ再交付又ハ書換ヲ申請スルトキ　五十錢

第一號書式（表）

水夫適任證書交付申請書

水夫適任證書交付申請書

年　月　日

申請人　氏　　名印

通知ヲ受クヘキ場所

管海官廳宛

（裏）

履歷書

氏名		本籍地	
出生年月日			
船員手帖番號			
船種船名	總噸數又ハ積石數	航路定限	職名	乘船年月日	下船年月日	在船期間
期間合計				年月日	年月日	

備考　氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ

第二號書式甲（第二條第一項第一號ノ資格ニ依リ交付スルモノ）

第　號

水夫適任證書

本籍地

氏　　名

出生年月日

右者水夫適任證書交付規則ニ依リ成規ノ履歷ヲ有シ且視力、聽力其ノ他ノ體格檢査ニ合格ス仍テ航洋船ノ水夫ニ適スル者ト認メ此ノ證書ヲ附與ス

年　月　日

管海官廳名印

備考　裏面ニ英譯ヲ附記ス第二號書式乙ニ付テモ亦同シ

第二號書式乙（第二條第一項第二號ノ資格ニ依リ交付スルモノ）

第　號

水夫適任證書

本籍地

氏　　名

出生年月日

右者水夫適任證書交付規則ニ依リ成規ノ履歷ヲ有シ且視力、聽力其ノ他ノ體格檢査及船舶ノ運用ニ關スル試驗ニ合格ス仍テ航洋船ノ水夫ニ適スル者ト認メ此ノ證書ヲ附與ス

年　月　日

管海官廳名印

●朝鮮海員懲戒令

大正三年四月七日　制令第十一號

朝鮮海員懲戒令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮海員懲戒令

第一章　總則

第一條　海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

一　正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ放棄シタルトキ

二　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈沒セシメタルトキ

三　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ

四　海難ニ罹リ船舶又ハ船客乘組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

五　海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乘組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

六　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七　亂酔粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ三種トス

一　免狀行使ノ禁止

二　免狀行使ノ停止

三　譴責

第三條　前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條　免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條　海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一　裁決ニ時效

二　第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條　時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條　海員審判所ノ審判ニ關シ本令ニ規定ナキモノニ付テハ朝鮮刑事令ヲ準用ス

第二章　審判前ノ手續

第八條　海事官吏、地方官又ハ警察官吏若ハ其ノ職務ヲ行フ者審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ知リタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ理事官ニ報告スヘシ

第九條　理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ知リタルトキハ證憑ヲ集取シ必要ニ應シ實地臨檢ヲ爲スコトヲ得

第十條　理事官ハ審判ノ開始ヲ海員審判所ニ申立ツヘシ

前項ノ申立ヲ爲ストキハ證憑其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第三章　審判

第十一條　海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス其ノ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條　海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第十三條　下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人鑑定人ヲ呼出シ通事ヲ命シ又ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第十四條　被審人又ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ勾引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス

第十五條　被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第十六條　被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

第十七條　受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判長ニ差出シ審判長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日內ニ意見ヲ附シ其ノ書類ヲ審判長ニ還付スヘシ

第十八條　海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ審判ヲ閉鎖スヘシ

第十九條　審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十條　第十三條乃至第十六條ノ規定ハ審判ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス

審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言行ヲ爲ス者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第二十二條　被審人又ハ證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人又ハ證人ヲ訊問スルコトヲ得

第二十三條　理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十四條　被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第二十五條　海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ因リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第二十六條　刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス

被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決確定スル迄審判ヲ中止スヘシ

第二十七條　理事官及被審人ハ本案ノ裁決ア立ヲ爲スコトヲ得

ル迄何時ニテモ審判ヲ行フヘカラサルノ申海員審判所ハ職權ヲ以テ審判ヲ行フヘカラ

サルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第二十九條　裁決及裁決始末書ノ原本ハ海員審判所之ヲ保存スヘシ

第四章　執行處分

第三十條　懲戒ハ裁決言渡ノ後之ヲ執行ス

第三十一條　免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ之ヲ朝鮮總督府ニ送付スヘシ

免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ禁止又ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無效ト爲シ其ノ旨公示スヘシ

第五章　罰則

第三十二條　證人、鑑定人又ハ通事正當ノ理由ナクシテ海員審判所又ハ受命審判官ノ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十三條　證人虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキ又ハ鑑定人若ハ通事虛僞ノ鑑定若ハ通譯ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ免ス

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

●海難其ノ他ノ事故届出ニ關スル件

大正三年五月三十一日　朝鮮總督府令第八十二號

海難其ノ他ノ事故届出ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ代理者ニ於テ其ノ地若其ノ地ニ届出ヲ爲スコト能ハサル事由アルトキハ爾後最初ニ到著シタル地ノ管内官廳、警察署（警察分署ノ事務ヲ取扱フ警官駐在所及警官分駐所ヲ含ム以下同シ）又ハ面事務所ニ之ヲ届出ツヘシ

一　船舶ヲ放棄シタルトキ

二　船舶カ沈沒又ハ顚覆シタルトキ

三　船舶カ乘揚ケタルトキ

四　船舶カ衝突シタルトキ

五　船内ニ於テ火災アリタルトキ

六　機關ノ要部カ毀損シタルトキ

七　人ノ死傷アリタルトキ

八　船舶カ捕獲セラレタルトキ

九　海難ニ際リ救助ヲ求ムル船舶ヲ認メ又ハ他ノ船舶若ハ人命ヲ救助シタルトキ

十　船舶ニ搭載シタル貨物ニ著シキ損害生シタルトキ

十一　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

十二　亂酔粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

十三　前各號ノ外船舶カ海難ニ罹リ又ハ著シキ事故アリタルトキ

第二條　前條第一項各號ニ該當スル事實ヲ認知シタル者ハ其ノ旨管海官廳、警察署又ハ面事務所ニ申告スヘシ

第三條　海技免狀ヲ受有スル者ヲ乘組マシメタル船舶ノ存否カ六月間分明ナラサルトキハ該船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶賃借人ハ該船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ遲滯ナク其ノ顚末ヲ届出ツヘシ

第四條　第一條ノ届出ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ届出者署名捺印スヘシ但シ書面ヲ提出スルコト能ハサル事由アルトキハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

一　船舶ノ種類、番號及名稱

二　船籍港

三　船舶所有者ノ住所、氏名又ハ名稱

四　船舶ノ總噸數又ハ積石數竝航路定限、航行期間及船舶檢査證書ヲ交付セル官廳

五　船長及事實發生ノ當時當直セル船員ノ職、氏名、年齡、本籍族稱、住所竝其ノ海技免狀ノ種類、番號

六　發航地、寄航地、到達地及事實發生ノ場所竝年月日時

七　事實發生當時ノ天候、風位、風力及潮流

八　事實ノ顚末

前項各號中届出ノ事實ニ關係ナキ事項ハ適宜記載ヲ省略スヘシ

第五條　第一條ノ届出ハ内地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ在リテハ其ノ地ヲ管轄スル管海官廳、警察署、警察分署又ハ市町村役場、外國ニ在リテハ最寄領事館ニ之ヲ爲スヘシ

第六條　第一條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮水先令

大正四年九月二十一日　制令第五號

朝鮮水先令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

朝鮮水先令

第一條　朝鮮ニ於ケル水先人ニ關シテハ水先法第二十條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中海員懲戒法トアルハ朝鮮總督、海員審判所トアルハ朝鮮總督府海員審判所トス

第二條　朝鮮總督ハ水先人六十年ヲ超ユルモ其ノ業務ヲ督ムニ適スト認ムルトキハ五年以内ノ效力ヲ附シタル水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

附　則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

本令施行ノ際現ニ船舶ノ水路嚮導ノ業務ニ從事スル者ニハ試驗ヲ用ヰスシテ特定ノ水先區ニ限リ效力ヲ有スル水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

（大正四年朝鮮總督府令第百號）ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

●朝鮮水先令施行規則

大正四年十月一日　朝鮮總督府令第百二號
（改正　大正五年第八二號、九年第一三年第五九號）

朝鮮水先令施行規則左ノ通定ム

朝鮮水先令施行規則

第一章　登錄及免狀

第一條　水先人試驗ニ合格シタル者ハ試驗ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シヲ水先人名簿ニ登錄ヲ申請スヘシ

第二條　朝鮮水先令第二條ニ依リ水先免狀ヲ受有セムトスル者ハ第二號書式ノ書面ニ業務ヲ督ムニ適スト認ムルニ足ルヘキ事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ體格檢査ヲ申請スヘシ

朝鮮總督府遞信局ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認メ體格檢査ヲ執行シ業務ヲ督ムニ適スト認ムルトキハ其ノ業務ヲ督ミ得ヘキ期間ヲ定メ之ヲ申請人ニ通知ス

申請人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ニ準シ水先人名簿ニ登錄ヲ申請スヘシ

第三條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ第一條又ハ前條第三項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ水先人名簿ニ登錄シ第三號書式ノ水先免狀ヲ申請人ニ授與ス

一　水先區ノ名稱

二　氏名

三　本籍地及族稱

四　出生年月日

五　水先人試驗又ハ體格檢査ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱

六　合格ノ年月日

七　水先免狀效力期間

第一條ノ申請ニ依ル場合ハ第七號ノ事項ハ登錄ヲ要セス

申請人前條第三項ノ申請ニ依リ免狀ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ

第四條　前條第一項第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該免狀ヲ受有スル者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ第四號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ變更ノ登錄ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ登錄事項ノ變更ニ關スル戸籍又ハ民籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添附スヘシ

第五條　朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登錄ヲ爲シ必要ノ場合ニハ水先免狀ヲ書換ヘシテ之ヲ申請人ニ交付ス

第三條第三項ノ規定ハ前項ノ免狀ヲ受クル場合ニハ之ヲ準用ス

第六條　水先免狀ヲ受有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ抹消ノ登錄ヲ申請スヘシ

一　日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ

二　滿六十年ニ達シタルトキ又ハ水先免狀ノ效力期間滿了シタルトキ

三　死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキ

四　家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五　瘋癲白痴又ハ身體不具若ハ羸弱ニシテ業務ヲ瞥ムニ不適當ト爲リタルトキ

六　朝鮮總督府海員審判所ニ於テ免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレタルトキ

七　朝鮮水先人試驗規則ノ規定ニ依リ合格無效ト爲リタルトキ

八　廢業シタルトキ

水先免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ第一項第六號ニ該當スル場合ヲ除クノ外水先免狀ヲ申請書ニ添ヘテ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第七條　朝鮮總督府遞信局ハ左ノ各號ノ場合ニ於テ抹消ノ登錄ヲ爲ス

一　前條ノ申請ヲ正當ト認メタルトキ

二　抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ

三　詐欺ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコトヲ知リタルトキ

四　朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

朝鮮總督府遞信局第二條第三項ノ規定ニ依リ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

第七條　朝鮮總督府遞信局ハ左ノ各號ノ場合ニ於テ抹消ノ登錄ヲ爲ス

一　前條ノ申請ヲ正當ト認メタルトキ

二　抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ

三　詐欺ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコトヲ知リタルトキ

四　朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

朝鮮總督府遞信局第二條第三項ノ規定ニ依リ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

ニ交付ス

第三條第三項ノ規定ハ前項ノ免狀ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　水先免狀ヲ受有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ抹消ノ登錄ヲ申請スヘシ

一　日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ

二　滿六十年ニ達シタルトキ又ハ水先免狀ノ效力期間滿了シタルトキ

三　死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキ

四　家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五　瘋癲白痴又ハ身體不具若ハ羸弱ニシテ業務ヲ瞥ムニ不適當ト爲リタルトキ

六　朝鮮總督府海員審判所ニ於テ免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレタルトキ

七　朝鮮水先人試驗規則ノ規定ニ依リ合格無效ト爲リタルトキ

八　廢業シタルトキ

水先免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ第一項第六號ニ該當スル場合ヲ除クノ外水先免狀ヲ申請書ニ添ヘテ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第七條　朝鮮總督府遞信局ハ左ノ各號ノ場合ニ於テ抹消ノ登錄ヲ爲ス

一　前條ノ申請ヲ正當ト認メタルトキ

二　抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ

三　詐欺ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコトヲ知リタルトキ

四　朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

朝鮮總督府遞信局第二條第三項ノ規定ニ依リ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ第一項第六號ニ該當スル場合ヲ除クノ外水先免狀ヲ申請書ニ添ヘテ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第七條　朝鮮總督府遞信局ハ左ノ各號ノ場合ニ於テ抹消ノ登錄ヲ爲ス

一　前條ノ申請ヲ正當ト認メタルトキ

二　抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ

三　詐欺ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコトヲ知リタルトキ

四　朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

朝鮮總督府遞信局第二條第三項ノ規定ニ依リ水先免狀ヲ無效ト爲シタルトキ

第三十一條　管海官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラス認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止シ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ヲ使用シ又ハ其ノ修理若ハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條　前條第二項ニ依リ水先船免狀ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ水先船ノ使用スヘカラサルニ至リタルトキ若ハ其ノ使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第六章　水先法令書

第三十三條　水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

第三十四條　水先法令ニ改正アリタルトキハ朝鮮總督府遞信局ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十五條　水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ

水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

第三十六條　第六條又ハ第七條第四項ニ依リ水先免狀ヲ返還スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

第十四條第一項ニ依リ水先免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

水先人朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀行使ノ停止ヲ言渡サレ該免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條　第十一條及第十二條ノ規定ハ水先法令書滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局サルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十八條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱

二　組合長其ノ他組合ノ役員ニ關スルコト

三　組合員ノ資業ニ關スルコト

四　組合ノ會計ニ關スルコト

五　組合ノ風紀秩序ニ關スルコト

六　組合ノ會議ニ關スルコト

七　水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八　前各號ノ外組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

第四十九條　水先人組合ニハ組合長一人ヲ置クヘシ

水先人組合ニ組合副長其ノ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長其ノ他組合ノ役員ハ組合員之ヲ互選シ其ノ任期ハ三年内トス

組合長、組合副長ノ内一人ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ朝鮮總督府遞信局長官ノ認可ヲ受ケ組合員ニ非サル者ヲ選任スルコトヲ得

第五十條　組合長ハ本令及組合規約ニ依リ其ノ職務ニ屬スル事務ヲ行フ

一　前檣ニ船首旗又ハ國旗ヲ揭揚スルコト

二　萬國普通信號書ニ揭クル水先信號ヲ表示スルコト

三　十五分間毎ニ青色焰光ヲ發射スルコト

四　須臾ノ間隙ヲ以テ凡ソ一分間亮明ノ白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ表示スルコト

第五章　水先船ノ免狀及艤裝

第二十五條　水先船ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　船體ノ外部ハ黑色ト爲スコト

二　船側及大帆ノ上部ニ水先船タルコトヲ明瞭ニ表示スルコト

第二十六條　水先船免狀ヲ受有スヘシ

水先船免狀ヲ受有スヘシ

第二十七條　水先人水先船免狀ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ニ提出スヘシ

一　船舶ノ種類、名稱

二　網具ノ裝置

三　積量

四　長、幅、深

五　所有者ノ住所及氏名若ハ名稱

水先人ト船舶所有者ト異ナル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ所有者ノ連署ヲ要ス

第二十八條　管海官廳ニ於テ前條第一項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ當該官吏ヲシテ船舶ヲ檢查セシメ適當ト認ムルトキハ第六號書式ノ水先船免狀ヲ授與ス

第二十九條　水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　水先船免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其ノ事實ヲ知リタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ再交付ヲ申請スヘシ

第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　管海官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラス認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止シ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ヲ使用シ又ハ其ノ修理若ハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條　前條第二項ニ依リ水先船免狀ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ水先船ノ使用スヘカラサルニ至リタルトキ若ハ其ノ使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第六章　水先法令書

第三十三條　水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

第三十四條　水先法令ニ改正アリタルトキハ朝鮮總督府遞信局ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十五條　水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ

水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

第三十六條　第六條又ハ第七條第四項ニ依リ水先免狀ヲ返還スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

第十四條第一項ニ依リ水先免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

水先人朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀行使ノ停止ヲ言渡サレ該免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條　第十一條及第十二條ノ規定ハ水先法令書滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局サルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十八條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱

二　組合長其ノ他組合ノ役員ニ關スルコト

三　組合員ノ資業ニ關スルコト

四　組合ノ會計ニ關スルコト

五　組合ノ風紀秩序ニ關スルコト

六　組合ノ會議ニ關スルコト

七　水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八　前各號ノ外組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

第四十九條　水先人組合ニハ組合長一人ヲ置クヘシ

水先人組合ニ組合副長其ノ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長其ノ他組合ノ役員ハ組合員之ヲ互選シ其ノ任期ハ三年内トス

組合長、組合副長ノ内一人ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ朝鮮總督府遞信局長官ノ認可ヲ受ケ組合員ニ非サル者ヲ選任スルコトヲ得

第五十條　組合長ハ本令及組合規約ニ依リ其ノ職務ニ屬スル事務ヲ行フ

組合副長其ノ他ノ役員ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

第五十一條　朝鮮總督組合規約ヲ認可シタルトキハ其ノ旨ヲ創立委員ニ通達ス

創立委員ハ前項ノ通達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ組合長其ノ他組合ノ役員ノ選舉ヲ行ヒ其ノ就任確定シタルトキハ遲滯ナク其ノ氏名ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

創立委員ノ職務ハ前項ノ報告ヲ以テ終了トス

第五十二條　組合長ハ就任後遲滯ナク組合ノ事務所ヲ定ムヘシ

組合長ハ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日内ニ其ノ所在地ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五十三條　組合規約ヲ變更セムトスルトキハ組合長ハ變更ヲ要スル事由ヲ具シ其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可ヲ申請スヘシ

第四十四條、第四十五條及第四十七條ノ規定ハ組合規約ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條　組合長其ノ他組合ノ役員交迭シタルトキハ組合長ハ其ノ事由ヲ具シ新任者ノ氏名ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但シ組合長交迭ノ場合ニ在リテハ新組合長ノ連署ヲ要ス

第五十五條　組合長ハ毎年一月前一年間ニ於ケル組合員ノ營業ニ關スル狀況及組合ノ會計ニ關スル事項ヲ朝鮮總督府遞信局ニ報告スヘシ

第五十六條　朝鮮總督ハ組合規約ノ改正ヲ命シ、水路繙導ニ關スル事項ヲ組合ニ諮問シ、必要ト認ムルトキハ其ノ事項ヲ審議ス

ル爲組合會議ヲ開クヘキコトヲ命シ又ハ當該官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨席セシムルコトアルヘシ

第五十七條　水先人第四十八條第三號又ハ第四號ニ依リ組合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ朝鮮總督府海員審判所ノ裁決ヲ以テ譴戒ヲ加フ

水先人前項ノ所爲アリタルトキハ組合長ハ組合會議ノ決議ヲ經テ過怠金ヲ徵收シ又ハ其ノ除名ヲ朝鮮總督ニ請求スヘシ

第七章　水路繙導ノ證明

第五十八條　前條第二項ノ申告ニハ證憑及事實參考ト爲ルヘキ資料ヲ提出スヘシ

第五十九條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　體格檢查ヲ申請スルトキ　五十錢

二　第九條第一項ニ依リ水先免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀ヲ受有スル者ノ過失ニ出テタルトキ　一圓

三　第十一條ニ依リ水先免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ　一圓

四　第十三條第一項ニ依リ水先免狀ノ書換ヲ申請スルトキ　一圓

五　第二十七條第一項ニ依リ水先船免狀ノ交付ヲ申請スルトキ　一圓

六　第二十九條第一項ニ依リ水先船免狀ノ書換ヲ申請スルトキ　一圓

七　第三十條第一項ニ依リ水先船免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ　一圓

八　第三十七條ニ依リ水先法令書ノ再交付ヲ申請スルトキ　二圓

前項第二號乃至第四號ノ申請ヲ二件以上同時ニ爲シ又ハ第六號第七號ノ申請ヲ同時ニ爲ストキハ免狀毎ニ一件ニ對スル手數料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第四條ニ依リ變更ノ登錄申請ヲ爲シ水先免狀ノ書換交付ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申請ヲ爲ストキハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第六十七條　水先人ハ毎年一月前一年間ニ於テ水路ヲ繙導シタル船舶ニ關シ第三十九條第一項第一號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

第六條第一項各號ノ一又ハ第二項ニ該當シ抹消ノ登錄ヲ申請スル者ニ在リテハ其ノ際前回報告以後ニ於ケル前項ノ書面ヲ該抹消登錄申請書ト共ニ提出スヘシ

第七條第三項ニ依リ抹消登錄ノ通知ヲ受ケタル者ハ水先免狀ト共ニ前回報告以後ニ於ケル第一項ノ書面ヲ提出スヘシ

リ海難ニ罹リタルトキハ遲滯ナク管海官廳又ハ警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六十二條　船長ハ其ノ使用シタル水先人水先法第十九條第一項ノ各號ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關日誌ノ寫ヲ添ヘ前條ノ官廳又ハ官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第六十三條　水先人ハ其ノ業務ヲ開始セムトスルトキハ當該水先區内ノ應招ニ便宜ナル場所ニ事務所ヲ定メ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

水先人事務所ヲ變更シタルトキハ十日内ニ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

水先人組合成立シタルトキハ組合ノ事務所ヲ以テ各組合員ノ事務所ト爲スヘシ

第六十四條　二區以上ノ水先區水先免狀ヲ受有スル者其ノ專屬水先區ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

第六十五條　水先人其ノ業務以外ノ業務ニ從事セムトスルトキ又ハ結氷期ヲ除キ二月以上其ノ業務ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六十六條　水先人水先區ニ於テ左ノ各號ノ事項ヲ認メタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ朝鮮總督府遞信局ニ報告スヘシ

一　航路、航路標識ニ異變アルコト

二　航路ノ妨害ト爲ルヘキモノノ存在スルコト

三　前二號ノ外航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第六十七條　水先人ハ毎年一月前一年間ニ於テ水路ヲ繙導シタル船舶ニ關シ第三十九條第一項第一號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

第六條第一項各號ノ一又ハ第二項ニ該當シ抹消ノ登錄ヲ申請スル者ニ在リテハ其ノ際前回報告以後ニ於ケル前項ノ書面ヲ該抹消登錄申請書ト共ニ提出スヘシ

第七條第三項ニ依リ抹消登錄ノ通知ヲ受ケタル者ハ水先免狀ト共ニ前回報告以後ニ於ケル第一項ノ書面ヲ提出スヘシ

管海官廳ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第五十八條　前條第二項ノ申告ニハ證憑及事實參考ト爲ルヘキ資料ヲ提出スヘシ

第九章　手數料

第五十九條　本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　體格檢查ヲ申請スルトキ　五十錢

二　第九條第一項ニ依リ水先免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀ヲ受有スル者ノ過失ニ出テタルトキ　一圓

三　第十一條ニ依リ水先免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ　一圓

四　第十三條第一項ニ依リ水先免狀ノ書換ヲ申請スルトキ　一圓

五　第二十七條第一項ニ依リ水先船免狀ノ交付ヲ申請スルトキ　一圓

六　第二十九條第一項ニ依リ水先船免狀ノ書換ヲ申請スルトキ　一圓

七　第三十條第一項ニ依リ水先船免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ　一圓

八　第三十七條ニ依リ水先法令書ノ再交付ヲ申請スルトキ　二圓

前項第二號乃至第四號ノ申請ヲ二件以上同時ニ爲シ又ハ第六號第七號ノ申請ヲ同時ニ爲ストキハ免狀毎ニ一件ニ對スル手數料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第四條ニ依リ變更ノ登錄申請ヲ爲シ水先免狀ノ書換交付ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申請ヲ爲ストキハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第十章　雜則

第六十一條　水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ前檣ニ船首旗又ハ國旗ヲ揭揚スルコト

三　十五分間毎ニ青色焰光ヲ發射スルコト

四　須臾ノ間隙ヲ以テ凡ソ一分間亮明ノ白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ表示スルコト

第五章　水先船ノ免狀及艤裝

第二十五條　水先船ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　船體ノ外部ハ黑色ト爲スコト

二　船側及大帆ノ上部ニ水先船タルコトヲ明瞭ニ表示スルコト

第二十六條　水先船免狀ヲ受有スヘシ

水先船免狀ヲ受有スヘシ

第二十七條　水先人水先船免狀ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ニ提出スヘシ

一　船舶ノ種類、名稱

二　網具ノ裝置

三　積量

四　長、幅、深

五　所有者ノ住所及氏名若ハ名稱

水先人ト船舶所有者ト異ナル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ所有者ノ連署ヲ要ス

第二十八條　管海官廳ニ於テ前條第一項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ當該官吏ヲシテ船舶ヲ檢查セシメ適當ト認ムルトキハ第六號書式ノ水先船免狀ヲ授與ス

第二十九條　水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　水先船免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其ノ事實ヲ知リタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ再交付ヲ申請スヘシ

第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　管海官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラス認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止シ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ヲ使用シ又ハ其ノ修理若ハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十二條　前條第二項ニ依リ水先船免狀ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ水先船ノ使用スヘカラサルニ至リタルトキ若ハ其ノ使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第六章　水先法令書

第三十三條　水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

第三十四條　水先法令ニ改正アリタルトキハ朝鮮總督府遞信局ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十五條　水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ

水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

第三十六條　第六條又ハ第七條第四項ニ依リ水先免狀ヲ返還スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

第十四條第一項ニ依リ水先免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

水先人朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀行使ノ停止ヲ言渡サレ該免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第十四條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十七條　第十一條及第十二條ノ規定ハ水先法令書滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條　水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局サルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スヘシ

第七章　水路繙導ノ證明

第三十九條　水先人水路ノ繙導ヲ終リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ得ヘキ樣調製シタル書面ニ署名捺印シテ之ヲ船長ニ交付スヘシ

一　船舶ノ名稱、國籍、所有者、積量及喫水

二　水路ヲ繙導シタル區域

三　水路ノ繙導ヲ始メ及之ヲ終リタル日時

四　水先案内料ノ額

船長ハ前項ノ書面ニ其ノ事項ヲ記入シ且署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付スヘシ其ノ文字ヲ削除、訂正又ハ挿入シタルトキハ之ニ認印スヘシ

水先人水先法第十三條但書ノ規定ニ依リ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ繙導シタルトキハ各船ノ船長ニ對シ第一項ノ書面ヲ交付シ各船ノ船長ハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ運航ノ自由ヲ得又ハ水先人ヲ得ル能ハサリシ船舶ノ船長ハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

第四十條　水先法第十六條ニ依リ水先人水先修業生ヲ伴ヒ乘船シタルトキハ水先人ハ水先修業生ヲシテ前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ記載シ得ヘキ樣調製シタル書面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ交付スヘシ

船長ハ前條第二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ記入及署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付スヘシ

第四十一條　水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ其ノ修業ニ關スル證明書ヲ交付スヘシ

第八章　水先人組合

第四十二條　水先人組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合區トス

二區以上ノ水先區水先免狀ヲ受有スル者ハ專屬水先區ノ組合員トス

第四十三條　朝鮮總督水先人組合ヲ設ケシメムトスルトキハ當該水先區ノ水先人ノ内ヨリ創立委員ヲ命ス

第四十四條　創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先區ノ水先人ノ會議ニ付スヘシ

創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ添ヘ會日時及會場ヲ通知スヘシ

組合規約ハ當該水先區ノ水先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

水先人ハ代理人ヲ以テ意見ヲ表示スルコトヲ得

第四十五條　會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス又ハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ規約ノ成案ニ同意シタルモノト看做ス

第四十六條　組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可ヲ申請スヘシ

第四十七條　第四十四條第三項ノ場合ニ於テ意見敵認ニ分レ定數ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十八條　組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱

二　組合長其ノ他組合ノ役員ニ關スルコト

三　組合員ノ資業ニ關スルコト

四　組合ノ會計ニ關スルコト

五　組合ノ風紀秩序ニ關スルコト

六　組合ノ會議ニ關スルコト

七　水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八　前各號ノ外組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

第四十九條　水先人組合ニハ組合長一人ヲ置クヘシ

水先人組合ニ組合副長其ノ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長其ノ他組合ノ役員ハ組合員之ヲ互選シ其ノ任期ハ三年内トス

組合長、組合副長ノ内一人ハ特別ノ事由アル場合ニ限リ朝鮮總督府遞信局長官ノ認可ヲ受ケ組合員ニ非サル者ヲ選任スルコトヲ得

第五十條　組合長ハ本令及組合規約ニ依リ其ノ職務ニ屬スル事務ヲ行フ

第二號書式　水先人名簿登錄申請書

一　水先區ノ名稱
二　氏名(片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ)
三　本籍地及族稱
四　出生年月日
五　水先人試驗(體格檢查)ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
六　合格ノ年月日
七　水先免狀有效期間

右水先人名簿ニ登錄ノ上水先免狀授與相成度朝鮮水先令施行規則第一條(第二條第三項、附則第二項)ニ依リ登錄稅相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

備考

第一條ニ依ル申請ニハ第七號ノ事項ノ記載ヲ要セス附則第二項ノ申請人ニシテ六十年未滿ナルトキ亦同シ

第二號書式　體格檢查申請書

朝鮮水先令第二條(附則第二項)ニ依リ何水先區水先免狀授與申請致度候間體格檢查執行相成度依テ履歷書證明書及戶籍(民籍)ノ謄本相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名印
現住所

第三號書式

第　號

本籍　族稱
氏　名
出生年月日

何水先區水先免狀

年　月　日登錄

朝鮮總督府遞信局

朝鮮水先令ニ依リ之ヲ授與ス

年　月　日

朝鮮總督府遞信局宛

朝鮮總督臂氏名印

備考

一　效力ニ期間ノ制限ヲ加ヘ授與スル免狀ニハ其ノ效力期間ヲ記載ス
二　水先免狀ハ竪八寸橫一尺一寸トシ裏面ニ英譯文ヲ附記ス

第四號書式　水先人名簿變更登錄(訂正)申請書

一　水先免狀ノ番號
二　水先區ノ名稱
三　登錄ノ年月日
四　氏名(片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ)
五　本籍地及族稱
六　出生年月日

右年月日(變更、訂正ノ事由)ニ依リ前記朱書ノ通變更ニ付變更登錄(訂正)相成度戶籍(民籍)謄本(抄本)竝登錄稅(手數料)相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第五號書式　水先免狀再交付申請書

一　水先免狀ノ番號
二　水先區ノ名稱
三　登錄ノ年月日
四　氏名(片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ)
五　本籍地及族稱
六　出生年月日

右年月日(流失、遺失、紛失、毀損等ノ事由)ニ付再交付相成度手數料相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名印
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第六號書式

水先免狀	種類	名稱	
	船積量	船具ノ裝置	長
			幅
			深

水先人(氏名)ノ申請ニ依リ此ノ免狀ヲ授與ス

年　月　日

管海官廳印

備考　水先船免狀ハ竪一尺一寸橫八寸トス

(別表)

水先區	航路	汽船水先案內料
鴨綠江	東水道水先區境界線ヨリ多獜島鎭地迄	三〇圓
	又ハ多獜島鎭地ヨリ東水道水先區境界線迄	
	東水道水先區境界線ヨリ龍岩浦鎭地迄	七五
	又ハ龍岩浦鎭地ヨリ東水道水先區境界線迄	
	東水道水先區境界線ヨリ三道浪頭鎭地迄	一〇〇
	又ハ三道浪頭鎭地ヨリ東水道水先區境界線迄	
	東水道水先區境界線ヨリ安東縣鎭地迄	一一〇
	又ハ安東縣鎭地ヨリ東水道水先區境界線迄	
	多獜島鎭地ヨリ龍岩浦鎭地迄	八五
	又ハ龍岩浦鎭地ヨリ多獜島鎭地迄	
	多獜島鎭地ヨリ三道浪頭鎭地迄	五〇
	又ハ三道浪頭鎭地ヨリ多獜島鎭地迄	
	多獜島鎭地ヨリ安東縣鎭地迄	七〇
	又ハ安東縣鎭地ヨリ多獜島鎭地迄	
	龍岩浦鎭地ヨリ三道浪頭鎭地迄	八五
	又ハ三道浪頭鎭地ヨリ龍岩浦鎭地迄	
	龍岩浦鎭地ヨリ安東縣鎭地迄	三〇
	又ハ安東縣鎭地ヨリ龍岩浦鎭地迄	
	三道浪頭鎭地ヨリ安東縣鎭地迄	四〇
	又ハ安東縣鎭地ヨリ三道浪頭鎭地迄	
	西水道水先區境界線ヨリ大東溝鎭地(新區ヲ含ム)迄	二〇
	又ハ大東溝鎭地ヨリ西水道水先區境界線迄	三五
	西水道水先區境界線ヨリ龍岩浦鎭地迄	三五
	又ハ龍岩浦鎭地ヨリ西水道水先區境界線迄	六五
	西水道水先區境界線ヨリ三道浪頭鎭地迄	八五
	又ハ三道浪頭鎭地ヨリ西水道水先區境界線迄	
	西水道水先區境界線ヨリ安東縣鎭地迄	一〇〇
	又ハ安東縣鎭地ヨリ西水道水先區境界線迄	
	大東溝鎭地ヨリ龍岩浦鎭地迄	三五
	又ハ龍岩浦鎭地ヨリ大東溝鎭地迄	
	大東溝鎭地ヨリ三道浪頭鎭地迄	五五
	又ハ三道浪頭鎭地ヨリ大東溝鎭地迄	
	大東溝鎭地ヨリ安東縣鎭地迄	七〇
	又ハ安東縣鎭地ヨリ大東溝鎭地迄	
	水先區境界線ヨリ獐南浦鎭地迄	五五
	又ハ獐南浦鎭地ヨリ水先區境界線迄	
大同江	水先區境界線ヨリ兼二浦鎭地迄	八五
	又ハ兼二浦鎭地ヨリ水先區境界線迄	
	獐南浦鎭地ヨリ兼二浦鎭地迄	四〇
	又ハ兼二浦鎭地ヨリ獐南浦鎭地迄	
	水先區境界線ヨリ保山鎭地迄	三五
	又ハ保山鎭地ヨリ水先區境界線迄	
	獐南浦鎭地ヨリ保山鎭地迄	一〇〇
	又ハ保山鎭地ヨリ獐南浦鎭地迄	
仁川港	水先區南境界線ヨリ港內鎭地迄	六〇
	又ハ港內鎭地ヨリ水先區南境界線迄	
群山港	水先區境界線ヨリ港內鎭地迄	七〇
	又ハ港內鎭地ヨリ水先區境界線迄	
木浦港	北水道水先區境界線若ハ南水道水先區境界線ヨリ港內鎭地迄	五五
	又ハ港內鎭地ヨリ北水道水先區境界線若ハ南水道水先區境界線迄	
	東水道水先區境界線ヨリ港內鎭地迄	七〇
	又ハ港內鎭地ヨリ東水道水先區境界線迄	
釜山港	釜山港東口水先區境界線ヨリ港內鎭地迄	三〇
	又ハ港內鎭地ヨリ釜山港東口水先區境界線迄	
	釜山港西口水先區境界線ヨリ港內鎭地迄	一五
	又ハ港內鎭地ヨリ西口水先區境界線迄	
元山港	水先區境界線ヨリ港內鎭地迄	三五
	又ハ港內鎭地ヨリ水先區境界線迄	

備考

一　帆船水先案內料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案內料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ機關ヲ使用スルトキハ帆船水先案內料ノ範圍內ニ於テ船長ト協定スヘシ

二　鴨綠江水先區ニ於ケル帆船ノ水路嚮導ニハ曳船ヲ使用ス但シ本表水先案內料ニハ別記樣式(調略ス)

●朝鮮水先人試驗規則

大正四年十月一日朝鮮總督府令第百三號改正　大正一三年第六〇號、一四年第六〇號

朝鮮水先人試驗規則左ノ通定ム

第一條　水先人試驗ハ朝鮮總督ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ行フ

試驗ヲ行フ管海官廳、試驗期日、水先區ノ名稱及水先人ノ員數ハ試驗期日三十日前迄ニ之ヲ告示ス

第二條　試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ且六月以上試驗ヲ受ケムトスル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

二　二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ二十回以上試驗ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シタルコト

三　二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ其ノ間ニ於テ十回以上試驗ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シ且三月以上同水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

水先法第三條又ハ第四條ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第三條　水先人試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗期日七日前迄ニ試驗ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類ヲ提出スヘシ

一　第一號書式ノ申請書
二　戶籍謄本又ハ戶籍抄本
三　水先法第三條第二號第三號及第四條第一號ニ該當セサルコトノ證明書
四　海技免狀又ハ水先免狀ヲ受有スル者ハ其ノ寫
五　商船學校、水產講習所又ハ水產試驗場ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ハ其ノ寫

第四條　受驗申請人ハ左ニ揭クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シテ履歷ヲ證明スヘシ

一　商船ニ乘組ミタル履歷ハ船長ノ就職、退職ノ認證又ハ之ニ準スヘキ證明書
二　海軍艦船又ハ官公署ノ所屬船ニ乘組ミタル履歷ハ當該官公署ノ辭令書、證明書若ハ當該官公吏ノ證明書
三　水先修業生タリシ履歷ハ當該水先人及船長ノ證明書
四　試驗ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シタル履歷ハ航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書

第五條　受驗申請人ハ體格檢查ニ付テハ五十錢、學術試驗ニ付テハ水先區一區每ニ七圓ノ手數料ヲ納付スヘシ

第六條　試驗ハ體格檢查及學術試驗トス體格

●臺灣汽船職員規則

明治三十四年九月二十八日
律令第十一號
改正　明治三八年第一二號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣汽船職員規則勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ發布ス

臺灣汽船職員規則

第一條　臺灣ニ船籍ヲ有スル汽船職員ハ海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

汽船職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條　海技免狀ハ左ノ十種トス

甲種船長
甲種一等運轉士
甲種二等運轉士
乙種船長
乙種一等運轉士
乙種二等運轉士
機關長
一等機關士
二等機關士
三等機關士

第三條　海技免狀ハ船員試驗規程ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シ且船員名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書若クハ外國政府ノ海技免狀ヲ有シ臺灣總督ニ於テ船員試驗規程ニ合格スト認メタル者ニハ試驗ヲ用ヒスシテ相當ノ海技免狀ヲ授與ス

第四條　削除

第五條　汽船所有者、汽船管理人若ハ汽船借入人ハ臺灣總督ニ於テ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外別表ニ從ヒ相當ノ海技免狀ヲ受有スル職員ヲ其ノ汽船ニ乘組マシムヘシ

別表ニ定ムル免狀ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得

第六條　左ノ事項ニ該當スルトキハ汽船職員トシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

一　公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者
二　家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
三　執職ヲ禁止セラレタル者若ハ執職停止中ノ者

第七條　左ニ揭クル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ニ違背シタル者
二　第六條ニ違背シタル者又ハ相當ノ海技免狀ヲ受有セスシテ汽船職員ノ職務ヲ行ヒタル者
三　海技免狀ヲ貸與シ之ヲ行使セシメタル者
四　執職ノ假停止ヲ受ケ汽船職員トシテ其ノ職務ヲ行ヒタル者

第八條　汽船所有者、汽船管理人又ハ汽船借入人第五條ニ違背シタル場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第七十九條ノ規定ニ依リ其ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其ノ法定代理人ヲ罰ス

會社其ノ他ノ法人第五條ニ違背シタルトキハ其ノ代表者又ハ清算人ヲ罰ス

第九條　此ノ規則ニ定メタルモノノ外必要ナル規程ハ臺灣總督之ヲ定ム

附　則

第十條　船舶法第一條ニ依リ日本船舶タル汽船ニシテ臺灣ノ沿岸若ハ河港ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トシ外國ニ航行スルモノハ此ノ規則ニ從ヒ汽船職員ヲ乘組マシムヘシ

前項ノ規定ハ臺灣ノ沿岸若クハ河港ヲ航行スル外國汽船ニモ之ヲ適用ス

第十一條　船舶職員法ニ依リ海技免狀ヲ有スル者ハ此ノ規則ニ於ケル相當ノ汽船職員タルコトヲ得

第十二條　此ノ規則施行ノ際現ニ汽船職員トシテ其ノ職務ニ從事スル者ハ此ノ規則施行ノ日ヨリ六箇月間ニ限リ海技免狀ヲ受有セスシテ其ノ職務ヲ行フコトヲ得

第十三條　此ノ規則ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行ス

（別表）

航路定限	總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
遠洋航路汽船	五百噸未滿	船長	甲種一等運轉士	一
		機關長	甲種一等機關士	一
	五百噸以上	船長	甲種一等運轉士	一
		機關長	甲種二等運轉士	一
		一等機關士	甲種一等機關士	一
近海航路汽船	二百噸未滿	船長	乙種一等運轉士	一
		機關長	乙種一等機關士	一
		一等機關士	乙種二等機關士	一
沿海航路汽船	千噸未滿	船長	乙種二等運轉士	一
		機關長	乙種二等機關士	一
		一等機關士	乙種三等機關士	一
	千噸以上	船長	甲種二等運轉士	一
		機關長	甲種二等機關士	一
		一等機關士	甲種一等機關士	一

●臺灣汽船職員規則施行細則

沿海航路汽船	百噸未滿	船機關長	乙種二等運轉士
	二百噸未滿	船機關長	乙種一等運轉士
	五百噸未滿	船機關長	乙種一等運轉士
	五百噸以上	船機關長	甲種二等運轉士
平水汽船	二百噸未滿	船機關長	乙種二等運轉士
	二百噸以上	船機關長	乙種一等運轉士

明治三十八年十月二十六日
臺灣總督府令第七十八號
改正　大正九年第一〇九號、一〇年第八一號

臺灣汽船職員規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣汽船職員規則施行細則

第一條　臺灣汽船職員規則ニ規定スル海技免狀ハ高等ノ免狀ヲ以テ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種一等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種船長免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種一等運轉士免狀ハ乙種二等運轉士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

機關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ、一等機關士免狀ハ二等機關士及三等機關士免狀ニ對シ、二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

第二條　近海航路汽船ニ於テハ乙種船長免狀チ以テ各甲種運轉士免狀ニ、乙種一等運轉士免狀チ以テ甲種二等運轉士免狀ニ、沿海航路汽船ニシテ總噸數二百噸未滿ノモノニ於テハ乙種二等運轉士免狀チ以テ乙種一等運轉士、三等機關士免狀チ以テ二等機關士免狀ニ、平水航路汽船ニ於テハ乙種二等運轉士免狀チ以テ乙種一等運轉士免狀ニ代用スルコトヲ得

第三條　左ノ場合ニ於テハ臺灣汽船職員規則第五條ニ定ムル汽船職員ノ全部又ハ一部チ乘組マシメサルコトヲ得

一　外國ニ於テ所有權チ取得シタル汽船チ臺灣ノ到達港マテ回航スルトキ
二　臺灣ト外國トノ間チ航行スル汽船外國ノ港ニ於テ汽船職員ニ缺員チ生シ臺灣ノ到達港マテ回航スルトキ
三　外國ノ湖川港內又ハ各港間ノミチ航行スル汽船ニシテ當該外國政府ノ法規ニ依リ相當免狀チ有スル者チ乘組マシメタルトキ又ハ日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可チ受ケ相當ノ技能チ有スル者チ乘組マシメタルトキ
四　就行中汽船職員ニ缺員チ生シタルトキ
五　他船ニ引カレテ航行スルトキ
六　汽船チ運航ノ用ニ供セサルトキ

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ汽船所有者又ハ船長ハ海技免狀チ受有スル者チ雇入レ難キ事由チ具シ日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可チ受ケ相當ノ技能チ有スル者チ乘組マシムルヘシ

第四條　臺灣汽船職員規則第三條第一項ニ依リ海技免狀チ受ケントスル者ハ別記第一號書式ノ書面チ臺灣總督府ニ差出シテ登錄チ申請スヘシ

第五條　臺灣汽船職員規則第三條第二項ニ依リ海技免狀チ受ケントスル者ハ臺灣總督府ニ左ノ書類チ差出シテ體格檢查チ申請スヘシ

一　別記第二號書式ノ申請書
二　身分書（臺灣汽船職員試驗規程第五條ノ規定ニ依ル）
三　海軍艦船艇ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シタル者ハ海上勤務ノ履歷書最後任官ノ辭令書ノ寫
四　商船學校全科卒業生ハ卒業證書ノ寫
五　海技免狀チ有スル者ハ該免狀ノ寫及該免狀受有後ノ乘船履歷書

前項ノ履歷書ニ付テハ相當證明書辭令書卒業證書又ハ外國政府ノ海技免狀寫ニ付テハ各原本チ檢閱ニ供スヘシ

體格檢查チ受ケ合格シタル者ハ別記第一號書式ノ書面チ臺灣總督府ニ差出シテ登錄チ申請スヘシ

第六條　臺灣總督府ニ於テ第四條又ハ前條第三項ノ申請チ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ船員名簿ニ登錄シ別記第三號書式ノ海技免狀チ申請人ニ授與ス

一　海技免狀ノ種類
二　氏名
三　本籍地及族稱（外國人ナルトキハ國籍）
四　出生ノ年月日
五　合格ノ年月日

第七條　海技免狀チ受有スル者第四條又ハ第五條第三項ノ申請チ爲シタル場合ニ於テ現ニ懲戒審理開始ノ決定チ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ口頭帝間ニ付セストノ決定又ハ評決言渡チ受クルマテノ間チ停止ス

前項評決ニ依リ執職チ停止セラレタルトキハ尙其ノ處分チ終ルマテ登錄チ停止シ執職チ禁止セラレタルトキハ登錄ノ申請ハ之チ却下ス

第八條　第六條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更チ生シタルトキハ免狀受有者ハ其ノ事實チ知リタル日又ハ其ノ事實アリタル日ヨリ三十日以內ニ變更ニ係ル新舊事項チ記載シタル書面チ臺灣總督府ニ差出シ海技免狀ノ書換チ申請スヘシ

第五條　臺灣汽船職員規則第三條第二項ニ依リ海技免狀チ受ケントスル者ハ臺灣總督府ニ左ノ書類チ差出シテ體格檢查チ申請スヘシ

一　履歷書
二　身分書（臺灣汽船職員試驗規程第五條ノ規定ニ依ル）
三　海軍艦船艇ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シタル者ハ海上勤務ノ履歷書最後任官ノ辭令書ノ寫
四　商船學校全科卒業生ハ卒業證書ノ寫
五　海技免狀チ有スル者ハ該免狀ノ寫及該免狀受有後ノ乘船履歷書

前項ノ履歷書ニ付テハ相當證明書辭令書卒業證書又ハ外國政府ノ海技免狀寫ニ付テハ各原本チ檢閱ニ供スヘシ

體格檢查チ受ケ合格シタル者ハ別記第一號書式ノ書面チ臺灣總督府ニ差出シテ登錄チ申請スヘシ

第六條　臺灣總督府ニ於テ第四條又ハ前條第三項ノ申請チ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ船員名簿ニ登錄シ別記第三號書式ノ海技免狀チ申請人ニ授與ス

一　海技免狀ノ種類
二　氏名
三　本籍地及族稱（外國人ナルトキハ國籍）
四　出生ノ年月日
五　合格ノ年月日

第七條　海技免狀チ受有スル者第四條又ハ第五條第三項ノ申請チ爲シタル場合ニ於テ現ニ懲戒審理開始ノ決定チ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ口頭帝間ニ付セストノ決定又ハ評決言渡チ受クルマテノ間チ停止ス

前項評決ニ依リ執職チ停止セラレタルトキハ尙其ノ處分チ終ルマテ登錄チ停止シ執職チ禁止セラレタルトキハ登錄ノ申請ハ之チ却下ス

第八條　第六條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更チ生シタルトキハ免狀受有者ハ其ノ事實チ知リタル日又ハ其ノ事實アリタル日ヨリ三十日以內ニ變更ニ係ル新舊事項チ記載シタル書面チ臺灣總督府ニ差出シ海技免狀ノ書換チ申請スヘシ

第九條　海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ免狀受有者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實チ知リタル日ヨリ十日以內ニ其ノ事由チ記載シタル書面チ臺灣總督府ニ差出シ其ノ再交付チ申請スヘシ

第十條　臺灣總督府ニ於テ第八條又ハ前條ノ申請チ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀チ申請人ニ交付ス

申請人前項ノ免狀チ受クルトキハ之ト引換ニ舊免狀チ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十一條　海技免狀チ受有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實チ知リタル日ヨリ十日以內ニ其ノ事由チ記載シタル書面チ臺灣總督府ニ差出シテ登錄ノ抹消チ申請スヘシ

一　公權チ剝奪セラレタルトキ
二　家資分散又ハ破產ノ宣告チ受ケタルトキ
三　疾病又ハ身體不具ノ爲執職ニ不適當トナリタルトキ
四　執職チ禁止セラレタルトキ
五　汽船職員試驗規程ノ規定ニ依リ合格無效トナリタルトキ
六　廢業シタルトキ

海技免狀チ受有スル者失踪ノ宣告チ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀チ保管スル者ニ於テ前項ノ手續チ爲スヘシ

登錄ノ抹消チ申請スル者ハ海技免狀チ申請書ニ添附シテ之チ臺灣總督府ニ返還スヘシ

若之チ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由チ屆出ヘシ

第十二條　臺灣總督府ハ左ノ場合ニ於テ登錄ノ抹消チ爲ス

一　前條ノ申請チ受ケタルトキ
二　登錄ノ抹消チ申請スヘキ者規定ノ期間ニ之チ爲ササルトキ
三　詐僞ノ所爲テ以テ海技免狀チ受ケタルコト發覺シタルトキ

【戶籍吏】外國人ナルトキハ本國領事ヨリ其ノ變更セル事實ノ證明チ受ケ之チ申請書ニ添附スヘシ

第九條　海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ免狀受有者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實チ知リタル日ヨリ十日以內ニ其ノ事由チ記載シタル書面チ臺灣總督府ニ差出シテ登錄ノ抹消チ申請スヘシ

一　公權チ剝奪セラレタルトキ
二　家資分散又ハ破產ノ宣告チ受ケタルトキ
三　疾病又ハ身體不具ノ爲執職ニ不適當トナリタルトキ
四　執職チ禁止セラレタルトキ
五　汽船職員試驗規程ノ規定ニ依リ合格無效トナリタルトキ
六　廢業シタルトキ

海技免狀チ受有スル者失踪ノ宣告チ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀チ保管スル者ニ於テ前項ノ手續チ爲スヘシ

登錄ノ抹消チ申請スル者ハ海技免狀チ申請書ニ添附シテ之チ臺灣總督府ニ返還スヘシ

若之チ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由チ屆出ヘシ

第十二條　臺灣總督府ハ左ノ場合ニ於テ登錄ノ抹消チ爲ス

一　前條ノ申請チ受ケタルトキ
二　登錄ノ抹消チ申請スヘキ者規定ノ期間ニ之チ爲ササルトキ
三　詐僞ノ所爲テ以テ海技免狀チ受ケタルコト發覺シタルトキ

臺灣總督府ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ登錄ノ抹消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨該免狀ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク該免狀ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十三條　海技免狀ヲ受有スル者高等免狀ニ對スル登錄ヲ受ケタルトキハ下等免狀ニ對スル登錄ハ臺灣總督府ニ於テ之ヲ抹消ス前項ノ場合ニ於テ下等免狀ハ高等免狀ト引換ニ之ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十四條　海技免狀ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノトキヨリ之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生シタルトキヨリ第十一條第一項各號及第十二條第一項第二號第三號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ滅失シタル場合ニハ滅失ノトキヨリ其ノ效力ヲ失フ

第十五條　申請者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　第四條又ハ第五條第三項ニ依リ登錄ヲ申請スルトキ　二圓

二　第五條第一項ニ依リ體格檢査ヲ申請スルトキ　二十錢

三　第八條第一項又ハ第九條ニ依リ海技免狀ノ書換又ハ再交付ヲ申請スルトキ　一圓

第十六條　第八條第一項、第九條、第十條第二項、第十一條、第十二條第三項及第十三條第二項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ第八條第九條又ハ第十一條ニ該當セル者ハ本令施行ノ日ヨリ起算シ各條ニ記載スル期間ニ本令ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ

第十六條ノ罰則ハ前項ニ違背シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

（別記）

第一號書式

船員名簿登錄申請書

一　海技免狀ノ種類

二　氏名、（假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ）

三　本籍及族稱（外國人ナルトキハ國籍）

四　出生ノ年月日

五　合格ノ年月日

右船員名簿ニ登錄ノ上海技免狀授與相成度

臺灣汽船職員規則施行細則第四條（第五條第三項）ニ依リ此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印

現住所

第二號書式

體格檢査申請書

臺灣汽船職員規則第三條第二項ニ依リ

免狀授與申請致度候間體格檢査執行相

成度履歷書身分書等相添此段申請候也

年　月　日

申請人　氏　名　印

現住所

第三號書式

花紋

第　號

道府縣州廳華士族平民

（外國人ニ在リテハ國籍）

氏　名

出生ノ年月日

【明治】年　月　日登錄

（免狀種類）免狀

明治三十四年律令第十一號臺灣汽船職員規則ニ依リ之ヲ授與ス

【明治】年　月　日

臺灣總督爵氏名印

印刷

（紋書）

備　考

一　海技免狀ノ寸法ハ竪九寸橫一尺二寸トス

●臺灣汽船職員試驗規程

明治三十四年九月二十八日
臺灣總督府令第五十八號

改正　明治三四年第一〇〇號、三五年第八四號、三六年第七〇號
大正九年第一〇七號、一〇年第八〇號

第一章　受驗申請

第一條　臺灣汽船職員規則ニ依リ海技免狀ヲ受有セントスル者ハ此規程ニ從ヒ試驗ヲ受クヘシ

第二條　試驗ハ臺灣總督府ニ於テ每年二月十五日、五月十五日、八月十五日及十一月十五日之ヲ執行ス但シ當日休暇日ナルトキハ之ヲ繰下ク

前項ノ定日外ニ臨時試驗ヲ執行スルノ必要アリト認ムルトキハ期日ヲ定メ之ヲ告示ス

第三條　試驗ヲ受ケントスル者ハ試驗期日七日前（休暇日ヲ算入セス）迄ニ其ノ履歷書、身分書及海技免狀受有者ニ在テハ海技免狀ノ寫ヲ添ヘ受驗申請書ヲ臺灣總督府ニ差出スヘシ

臨時試驗ヲ受ケントスル者ハ試驗期日三日前（休暇日ヲ算入セス）迄ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　履歷ハ左ニ揭ク書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

一　商船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ當該官吏公吏ノ證明書

二　海軍艦船艇其ノ他官廳所屬船ニ乘組ミタル履歷ニ付テハ當該官廳若クハ艦船艇ノ辭令書若クハ證明書

三　學校若クハ工場ニアリタル履歷ニ付テハ當該學校若クハ工場ノ卒業證書若クハ證明書

第五條　身分書ニハ左ノ事項ヲ記載シ本島人ニ在テハ本人居住地ノ郡守、支廳長、警察署長又ハ警察分署長內地人ニ在テハ本籍地ノ【戶籍吏】外國人ニ在テハ本國領事ノ證明ヲ受クヘシ

一　原籍地、身分及氏名

二　生年月日

三　臺灣汽船職員規則第六條第一號及第二號ニ揭クル事項ニ該當セサルコト

第六條　受驗申請者ハ體格檢査ニ付テハ二十錢學術試驗ニ付テハ其ノ試驗ノ種類ニ從ヒ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

甲種船長　五圓

甲種一等運轉士　三圓

甲種二等運轉士　二圓

乙種船長　二圓

乙種一等運轉士　二圓

乙種二等運轉士　一圓

機關長　五圓

一等機關士　三圓

二等機關士　二圓

三等機關士　一圓

第七條　體格檢査手數料ハ受驗申請書ト倶ニ納メ學術試驗手數料ハ學術試驗開始ニ先チテ納ムヘシ

前項既納手數料ハ事故ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス

第二章　受驗履歷

第八條　年齡二十年以上ニシテ左ニ揭クル履歷ノ一ヲ有シ臺灣汽船職員規則第六條ノ各項ニ該當セサル者ニアラサレハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

甲種船長試驗

一　甲種一等運轉士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ一等運轉士ノ職チ執リタルコト

二　乙種船長ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ一等運轉士ノ職チ執リタルコト

甲種一等運轉士試驗

甲種二等運轉士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ二等運轉士ノ職チ執リタルコト

甲種二等運轉士試驗

一　甲種二等運轉士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ一年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

四年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

第十七條　受驗人左ニ揭クル場合ニ於テハ其ノ試驗ハ成立セサルモノトス

一　定期ノ日時ニ出場セサルトキ

二　試驗チ了ラスシテ退場シタルトキ

三　第十四條ノ期間內ニ答チ爲サヽルトキ

四　第十五條ノ處分チ受ケタルトキ

第十八條　受驗人試驗ニ合格シタルトキハ別記書式ノ合格證書チ付與ス

第十九條　合格證書チ付與シタル後試驗官吏ニ於テ第十五條ノ處分チ受クヘキ行爲アリタルコトチ發見スルトキハ其ノ合格證書チ無效トスヘシ

第二十條　體格檢査ニ合格セサル者ハ受驗ノ日ヨリ三箇月チ經過スルニアラサレハ試驗チ受クルコトチ得ス

第二十一條　同種免狀ニ對スル筆記試驗ニ合格セサルコト若クハ筆記試驗成立セサルコト三箇月間ニ於テ二回ニ及ヒタル者ハ最後受驗ノ日ヨリ三箇月チ經過スルニアラサレハ下等免狀ニ對スルノ外試驗チ受クルコトチ得ス

第二十二條　同種免狀ニ對スル口述試驗ニ合格セサルコト若クハ口述試驗成立セサルコト二回ニ及ヒタル者ハ最後受驗ノ後三箇月間實地運航ニ從事シタル履歷チ有スルニアラサレハ下等免狀ニ對スルノ外試驗チ受クルコトチ得ス

前項ノ履歷ニ關シテハ第四條第八條及第十二條ノ規定チ適用ス

附　則

裝置ノ帆船又ハ一年以上ハ汽船ニ乘組ミタルコト

二　臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上二年以上汽船ノ運航ニ從事シタルコト

機關長試驗

一　等機關士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ一等機關士ノ職チ執リタルコト

二　一等機關士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ一等機關士ノ職チ執リタルコト

三　二等機關士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

四　臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運航ニ從事シタルコト

乙種二等運轉士試驗

三年以上汽船ノ運航ニ從事シタルコト

二　臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上二年以上汽船ノ運航ニ從事シタルコト

機關長試驗

一　等機關士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ一等機關士ノ職チ執リタルコト

二　一等機關士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

三　二等機關士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

四　一等機關士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

乙種一等運轉士試驗

四年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運航ニ從事シタルコト

二　乙種二等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ運轉士ノ名義チ以テ其ノ運航ニ從事シタルコト

三　乙種二等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ船長ノ職チ執リタルコト

四　臺灣總督ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運航ニ從事シタルコト

乙種二等運轉士試驗

一　等機關士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ運轉士ノ名義チ以テ其ノ運航ニ從事シタルコト

二　乙種二等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ船長ノ職チ執リタルコト

三　二等機關士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

四　一等機關士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

乙種一等運轉士試驗

四年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運航ニ從事シタルコト

二　乙種二等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ運轉士ノ名義チ以テ其ノ運航ニ從事シタルコト

三　乙種二等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ船長ノ職チ執リタルコト

四　乙種一等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

乙種船長試驗

一　乙種一等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ一等運轉士ノ職チ執リタルコト

二　乙種二等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ運轉士ノ名義チ以テ其ノ運航ニ從事シタルコト

三　乙種一等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ船長ノ職チ執リタルコト

四　甲種一等運轉士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

甲種一等運轉士試驗

四年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

二　甲種二等運轉士ノ免狀若クハ臺灣總督ニ於テ之ニ相當ト認ムル外國政府ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ船長ノ職チ執リタルコト

三　二等機關士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

四　一等機關士ノ免狀チ受有シ一年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關長ノ職チ執リタルコト

五　臺灣總督ノ允當ト認ムル機關工場若クハ學校ニ在テ二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ從事シ且一年六月以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乘組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

甲種二等運轉士試驗

一　定期ノ日時ニ出場セサルトキ

二　試驗チ了ラスシテ退場シタルトキ

三　第十四條ノ期間內ニ答チ爲サヽルトキ

四　第十五條ノ處分チ受ケタルトキ

第十六條　試驗官吏ニ於テ受驗人ノ履歷若クハ身分ニ詐僞錯誤アリト認ムル又ハ受驗ノ資格ナキコトチ發見スルトキ若クハ臺灣總督府ノ定メタル受驗人心得ニ違反シタルコトチ認ムルトキハ何時ニテモ其ノ試驗チ停止スルコトチ得

第十七條　試驗官吏ニ於テ受驗人第十五條ノ處分チ受クヘキ所爲アリタルコトチ試驗結了後ニ發見スルトキハ其ノ試驗ハ無效トスヘシ

第十八條　受驗人左ニ揭クル場合ニ於テハ其ノ試驗ハ成立セサルモノトス

一　定期ノ日時ニ出場セサルトキ

二　試驗チ了ラスシテ退場シタルトキ

三　第十四條ノ期間內ニ答チ爲サヽルトキ

四　第十五條ノ處分チ受ケタルトキ

第十九條　受驗人試驗ニ合格シタルトキハ別記書式ノ合格證書チ付與ス

第二十條　合格證書チ付與シタル後試驗官吏ニ於テ第十五條ノ處分チ受クヘキ行爲アリタルコトチ發見スルトキハ其ノ合格證書チ無效トスヘシ

第四章　試驗停止

第二十一條　體格檢査ニ合格セサル者ハ受驗ノ日ヨリ三箇月チ經過スルニアラサレハ試驗チ受クルコトチ得ス

第二十二條　同種免狀ニ對スル筆記試驗ニ合格セサルコト若クハ筆記試驗成立セサルコト三箇月間ニ於テ二回ニ及ヒタル者ハ最後受驗ノ日ヨリ三箇月チ經過スルニアラサレハ下等免狀ニ對スルノ外試驗チ受クルコトチ得ス

第二十三條　同種免狀ニ對スル口述試驗ニ合格セサルコト若クハ口述試驗成立セサルコト二回ニ及ヒタル者ハ最後受驗ノ後三箇月間實地運航ニ從事シタル履歷チ有スルニアラサレハ下等免狀ニ對スルノ外試驗チ受クルコトチ得ス

前項ノ履歷ニ關シテハ第四條第八條及第十二條ノ規定チ適用ス

附　則

第二十三條　此ノ規程ハ明治三十四年十月一日ヨリ施行ス

第二十四條　此ノ規程施行ノ際現ニ汽船職員ノ職務ニ從事スル者ニ在テハ第四條ノ規定ニ依ラス單ニ當該船主ノ證明ヲ以テ足レリトス

（別記）

體格檢查ノ程度

體格檢查ニ於テ左ニ揭ケタル者ハ合格スルコトヲ得ス

一　四肢ノ一ヲ失ヒ若クハ其ノ用ヲ爲サヽル者

二　老眼、近視眼若クハ一眼ヲ失ヒタル者

三　蹇者、啞者

四　前各項ノ外當該醫官ニ於テ執務ニ不適當ト認ムル者

試驗科目

甲種船長試驗

（甲種一等運轉士試驗及甲種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　星象高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

二　太陰子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

三　經度及太陽高度ニ依リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法

四　「ナビヤール」自差表調製及用法

口述

一　羅針緯差ノ解明

二　原基羅針据付及自差矯正ノ方法

三　船雜ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法

四　颶風ノ解明及避離法

五　船舶及船員ニ關スル法規ノ要領

六　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

甲種一等運轉士試驗

（甲種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　太陽方位角ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法

二　子午線ニ近キ太陽高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

三　「サムナー」法ニ依リ船舶所在ノ位置及太陽ノ方位角ヲ知ル算法

四　潮時ノ算法

口述

一　六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱

二　下檣建設其ノ他圓材ノ取扱

三　錨ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚ル方法

四　船舶荒天運用ノ方法

五　航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置

六　汽船ノ暗車作用

七　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

甲種二等運轉士試驗

筆記

一　航海運用ニ關スル用語ノ解明

二　航海日誌ノ記載

三　分數及比例算法

四　航海日誌ノ算法

五　緯線航行算法

六　「マーケートル」法又ハ中分緯度法ニ依リ經緯度差若クハ針路航程ヲ知ル算法

七　太陽子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

八　太陽出沒方位ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法

九　時辰儀及太陽高度ニ依リ經度ヲ知ル算法

十　羅針自差ノ算法

十一　海圖ノ應用

口述

一　船具ノ取付及取扱

二　梳檣及帆架ノ揭降

三　帆ノ取扱

四　船舶常時運轉及碇泊ノ方法

五　測程具及測深具ノ解明竝用法

六　貨物積載法

七　海上衝突豫防法

八　萬國信號法

九　羅針自差ノ測定方法

十　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

乙種船長試驗

（乙種一等運轉士試驗及乙種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　太陽子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

二　太陽ノ出沒方位又ハ方位角ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法

三　時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知リ又ハ太陽高度及經度ニ依リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法

口述

一　六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱

二　羅針違差ノ解明

三　汽船ノ暗車作用

四　汽船荒天運用ノ方法

五　錨ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚ル方法

六　航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置

七　船雜ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法

八　船舶及船員ニ關スル法規ノ要領

九　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

乙種一等運轉士試驗

（乙種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　星象高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

二　太陰子午線高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

三　經度及太陽高度ニ依リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法

四　「ナビヤール」自差表調製及用法

口述

一　羅針緯差ノ解明

二　原基羅針据付及自差矯正ノ方法

三　船雜ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法

四　颶風ノ解明及避離法

五　船舶及船員ニ關スル法規ノ要領

六　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

甲種一等運轉士試驗

（甲種二等運轉士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　太陽方位角ニ依リ羅針ノ違差ヲ知ル算法

二　子午線ニ近キ太陽高度ニ依リ緯度ヲ知ル算法

筆記ノ記載

一　機關室日誌ノ記載

二　分數、比例及面積求積ノ算法

口述

一　汽機汽鑵組成ノ大要

二　汽機ノ毀損シ易キ部分及之ニ對スル注意

三　汽鑵ニ腐蝕燒損其ノ他毀損ヲ來スノ原因及其ノ豫防方法

四　運轉中汽機汽鑵ニ要スル注意

五　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

三等機關士試驗

口述

一　汽機汽鑵檢查ノ方法

二　汽機汽鑵各部ノ效用

三　汽機汽鑵ニ屬スル諸器ノ效用及用法

四　汽機汽鑵ノ取扱及運轉方法

五　汽機汽鑵ノ損所ヲ修繕スル方法

六　運轉中汽機汽鑵ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置

七　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

合格證書書式（竪七寸七分横一尺八寸）

合格證書

族籍

氏名

生年月日

右者臺灣汽船船員試驗規程ニ依リ（試驗種類）ヲ受ケ合格ス依テ此ノ證書ヲ付與ス

【明治】年　月　日

臺灣總督府遞信局長氏　名印

（明治三十五年四月十八日　臺灣總督府令第二十九號）

明治三十四年九月府令第五十八號臺灣汽船職員試驗規程第四條第一號ニ揭ケル官吏公吏ノ證明書ハ當分ノ內當該船主ノ證明ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

●臺灣汽船職員懲戒規則

（明治三十五年十月二十四日　律令第八號　改正　明治三九年第六號）

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣汽船職員懲戒規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣汽船職員懲戒規則

第一條　海技免狀ヲ受有スル汽船職員其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ懲戒委員會ノ評決ヲ以テ懲戒ヲ加フ

一　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シ又ハ自他ヲ問ハス船舶ヲ沈沒破壞シ又ハ船體若ハ機關ノ要部ヲ毀損シタルトキ

二　正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

三　海難ニ罹リタル自他ノ船舶船客若ハ船員ヲ正當ノ理由ナクシテ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

四　其ノ他職務懈怠又ハ法令違反ノ所爲ニシテ懲戒ヲ加フルノ必要アリト認ムルトキ

第二條　懲戒ハ左ノ三種トス

一　執職禁止

二　執職停止

三　譴責

第三條　執職停止ハ一月以上三年以下トス

第四條　懲戒ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ懲戒ヲ行ハス

前項時效ノ中斷ニ關スル規定ヲ準用ス

第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免カルルコトヲ得ス

第五條　懲戒審理ヲ行フ爲臺灣總督府ニ懲戒委員會ヲ置ク

懲戒委員會ニ懲戒委員長懲戒委員理事及書記ヲ置ク

懲戒審理ハ懲戒委員長一人懲戒委員二人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

懲戒委員長懲戒委員及理事ハ臺灣總督府高等官中ヨリ書記ハ臺灣總督府判任官中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

第六條　理事懲戒スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ且必要ニ應シ臨檢ヲ爲スヘシ但シ便宜其ノ地ノ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

第七條　理事ハ證憑其ノ他必要書類ヲ添付シ審理開始ヲ懲戒委員會ニ申立ツヘシ

第八條　懲戒委員會ハ理事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審理ヲ開始スヘキヤ否ヲ決定スル但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事及被審人ニ通知スヘシ

第九條　懲戒審理ヲ開始スヘシト決定シタルトキハ口頭審問期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ但シ下調ノ必要アリト決定シタルトキハ懲戒委員長ハ被審人ヲ呼出ス以前ニ於テ懲戒委員ニ其ノ下調ヲ命スルヲ得

第十條　下調ノ命ヲ受ケタル懲戒委員ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ受命懲戒委員ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ取調ヘ證人ヲ呼出シ鑑定人若ハ通事ヲ命シ又ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得但シ便宜其ノ地ノ司法警察官ニ證人ノ取調鑑定人ノ鑑定又ハ臨檢ヲ囑託スルコトヲ得

第十一條　被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命懲戒委員ノ呼出ニ應セサルトキハ受命懲戒委員ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ノ執行ハ刑事訴訟ニ於ケル勾引狀執行ノ手續ヲ準用ス

第十二條　被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命懲戒委員ハ執職ノ假停止ヲ爲スコトヲ得

第十三條　被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命懲戒委員ハ其所在ニ就テ之ヲ取調フルコトヲ得

第十四條　受命懲戒委員下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ懲戒委員長ニ差出シ懲戒委員長ハ之ヲ理事ニ送付スヘシ

理事ハ三日以內ニ意見ヲ付シ其書類ヲ懲戒委員長ニ還付スヘシ

第十五條　懲戒委員會ハ下調ヲ充分ナリト思料スルトキハ口頭審問ニ付スヘキヤ否ヲ決定スヘシ

口頭審問ニ付スヘシト決定シタルトキハ其期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

口頭審問ニ付セスト決定シタルトキハ其旨被審人ニ通知スヘシ

第十六條　口頭審問及評決言渡ハ之ヲ公開スル但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ決定ヲ以テ口頭審問ノ公開ヲ停止スルコトヲ得

第十七條　第十條乃至第十二條ノ規定ハ口頭審問ノ場合ニモ之ヲ準用ス

第十八條　口頭審問中必要アルトキハ決定ヲ以テ被審人若ハ證人ノ取調又ハ臨檢ノ爲受命懲戒委員ヲ命スルコトヲ得

第十條乃至第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　審理ノ公開中秩序ノ維持ハ懲戒委員長ニ屬ス懲戒委員長ハ審理ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退場セシムルコトヲ得

第二十條　被審人及證人ノ取調ハ懲戒委員長之ヲ爲ス懲戒委員及理事ハ懲戒委員長ニ告ケ被審人及證人ヲ取調フルコトヲ得

第二十一條　理事ハ審理ニ立會ヒ其意見ヲ述フルコトヲ得

第二十二條　被審人ハ補佐人ヲ用ユルコトヲ得但シ懲戒委員長ノ認許シタル者ニ限ル

第二十三條　呼出ヲ受ケタル被審人口頭審問期日ニ出頭セサルトキハ闕席評決ヲ爲スヘシ

被審人ノ疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ口頭審問ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ審理ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第二十四條　刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ終結ニ至ルマテ審理ヲ中止スヘシ

五　船舶信號法ノ大要

六　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

機關長試驗

（一等機關士試驗、二等機關士試驗及三等機關士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　汽機强力、汽鑵强力、螺旋螺距、標突溫度、蒸氣膨脹、蒸氣切斷、水壓力、開平式、汽力圖等ニ關スル算法

二　汽機汽鑵局部ノ製圖

口述

一　熟及汽機汽鑵ニ於ケル熱ノ效力及害

二　汽機汽鑵各部ニ要スル諸强力ノ解明

三　汽機汽鑵材料ノ解明

四　汽機各部ノ摩擦力及實馬力ト推進力トノ關係

五　蒸氣及其ノ膨脹力使用ニ基キ各種汽機比較ノ大要

六　汽力器及汽力圖ノ解明

七　汽機汽鑵ノ要部及炭量水量等ノ割合

八　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

一等機關士試驗

（二等機關士試驗及三等機關士試驗ノ科目ヲ併セ）

筆記

一　重量、炭費、觸火面、速力、槓杆安全辨、喞筒、馬力等ニ關スル算法

口述

一　汽機汽鑵各部組成ノ理解

二　各種ノ汽機汽鑵構造及利害ノ解明

三　汽機各部ノ働力方向ノ解明

四　各種ノ滑瀆、働瀆機及推進器ノ解明

五　車軸、螺旋軸、滑瀆等ノ裝置及其ノ位置ノ改正

六　馬力ノ解明

七　汽機汽鑵ニ屬スル諸器製造ノ理解

八　前各項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

二等機關士試驗

（三等機關士試驗ノ科目ヲ併セ）

第二十五條　評決ニハ其ノ理由及證憑ヲ明示スヘシ

第二十六條　期間ノ計算書類ノ調製送達及懲戒委員長懲戒委員ノ除斥忌避回避並證人鑑定人及通事ニ付テハ此規則ニ規定スルモノノ外刑事訴訟ニ關スル規定ヲ準用スル但シ書類ノ送達ニ付キ執達吏ノ爲スヘキ職務ハ臺灣總督府使丁ヲシテ之ヲ行ハシム

第二十七條　此ノ規則ニ依リ證人トシテ呼出サレタル者又ハ鑑定若ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　此規則ニ依リ證人トシテ呼出サレタル者僞證ヲ爲シタルトキ又ハ鑑定若ハ通事ノ爲呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ【重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加】ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ評決言渡ニ至ラサル前ニ於テ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第二十九條　此規則ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ハ臺灣總督之ヲ定ム

●臺灣汽船職員懲戒取扱規則

明治三十五年十一月二十五日
臺灣總督府令第八十二號
改正　明治三六年第七一號
大正九年第一〇八號

臺灣汽船職員懲戒取扱規則左ノ通相定ム

臺灣汽船職員懲戒取扱規則

第一條　海技免狀ヲ受有スル汽船職員其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當シタルトキハ當該船長（船長不在ナルトキハ其ノ代理者）ニ於テ臺灣總督府又ハ本船所在地若ハ開後初テ到著シタル地ヲ管轄スル都役所、支廳又ハ警察官署、內地ニ在リテハ【海事局、海務署】、同出張所、警察署、同分署、市役所、町村役場、市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長役場又ハ之ニ準スヘキ役場、外國ニ在リテハ其ノ地駐劄ノ日本領事館、同分館若クハ貿易事務館ニ其ノ旨屆出ツヘシ

一　人ヲ殺傷シ又ハ自他ヲ問ハス船舶ヲ沈沒、破壞シ又ハ船體若クハ機關ヲ毀損シタルトキ

二　船舶ヲ放棄シタルトキ

三　海難ニ罹リタルトキ若ハ海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ

四　法令違反ノ所爲アリタルトキ

第二條　前條各號ニ該當スル事實アルコトヲ認知シ若ハ其ノ事實アリト思料シタル者ハ同條ニ揭クル官廳若ハ公署ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第三條　海事官、稅關官吏、郡守、支廳長又ハ警察官吏ニ於テ臺灣汽船職員懲戒規則第一條各號ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ當該職員及必要ト認ムルトキハ關係人ニ對シ海難事件ニ在リテハ左ノ各號ノ事項其ノ他ノ事件ニ在リテハ第一號乃至第五號及第十四號ノ事項ヲ取調ヘ調書ヲ作リ直ニ之ヲ臺灣汽船職員懲戒委員會ニ提出スヘシ

一　取調ヲ受ケタル者ノ住所、氏名、職業及年齡

二　汽船ノ名稱、種類、登簿噸數及公稱馬力竝其ノ所有者ノ住所氏名

三　汽船職員ノ住所氏名竝其ノ受有スル海技免狀ノ種類及番號（內地ノ授與ニ係ルトキハ其ノ旨附記スヘシ）

四　發航地、到達地竝事件ヲ惹起シタル場所及年月日時

五　事件ノ顚末

六　發航以後事件ヲ惹起シタル差ノ天候、航路、速力及船舶職員、舵取、看守ノ當直時間竝其ノ氏名

七　船舶損傷ノ箇所竝其ノ再用ノ適否

八　船客、乘組員ノ員數竝其ノ死傷ノ有無

九　貨物ノ種類、數量竝其ノ損害ノ有無

十　人命船及貨物救護ノ方法

十一　航路ヲ指定シタル羅針盤ノ所在及航路ニ於ケル自差

十二　使用シタル海圖ノ種類及番號

十三　航海日誌ノ存否

十四　取調ヲ受ケタル者何日其ノ地ヲ去リ何地ニ到ルヘキコト

調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ取調ヲ受ケタル者ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名拇印スヘシ

第四條　理事前條ノ調書ヲ取調ヘタル後審理ヲ要セスト思料シタルトキハ其理由ヲ記シ一件書類竝證憑ヲ懲戒委員長ニ提出スヘシ

第五條　懲戒委員長ハ臺灣汽船職員懲戒委員會ノ事務ヲ總理シ懲戒委員長故障アルトキハ懲戒委員中官等最高キ者之ヲ代理ス

第六條　各事件ノ掛懲戒委員ハ懲戒委員長ノ指定ニ依ル

第七條　懲戒委員長ハ其ノ掛懲戒委員中故障アルトキハ他ノ懲戒委員ヲ指定シ之ニ代ハラシムルコトヲ得

第八條　評決及決定ハ過半數ノ意見ニ依ル其ノ意見三說ニ分レタルトキハ被審人ニ不利ナル意見ヲ順次利益ナル意見ニ合算ス

意見陳述ノ順序ハ官等ノ最低キ者ヨリ之ヲ始メ懲戒委員長ヲ終リトス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナル者ヲ始トシ受命事件ニ付テハ受命懲戒委員ヲ始メトス

第九條　懲戒委員長及懲戒委員ハ評決及決定ニ付自己ノ意見ヲ表白スルコトヲ拒ムヲ得

第十條　受命懲戒委員ハ搜索及物件差押ヲ爲シ又ハ之ヲ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得

第十一條　受命懲戒委員臨檢、搜索、物件ノ差押又ハ訊問ヲ爲ストキハ自ラ調書ヲ作リ之ヲ讀聞カセ共ニ署名拇印スヘシ

第十二條　臺灣汽船職員懲戒規則第六條ニ依リ囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ理事ト同一ノ職權ヲ以テ同第十條及此ノ規則第十條ニ依リ囑託ヲ受ケタル司法警察官ハ受命懲戒委員ト同一ノ職權ヲ以テ職務ヲ行フモノトス

第十三條　被審人ヲ呼出スニハ呼出狀ノ送達ト出頭ノ間少クモ二十四時間ノ猶豫アルヲ要ス

第十四條　呼出狀ニハ被審事件及被審人、證人、通事、鑑定人又ハ參考人ノ氏名、族籍、住所、職業竝之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ懲戒委員長又ハ受命懲戒委員及書記署名拇印スヘシ

引致狀ニハ被審事件及被審人又ハ證人ノ氏名、年齡、族籍、住所、職業ヲ記載シ懲戒委員長又ハ受命懲戒委員及書記署名拇印スヘシ

第十五條　呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證アルニアラサレハ缺席評決ヲ爲スコトヲ得ス

呼出狀ヲ本人ニ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ懲戒委員會ハ猶豫時間ヲ定メ其ノ期間ニ被審人出頭セサルトキハ缺席評決ヲ爲スヘキ告知ヲ府報ニ揭載スヘシ

第十六條　書記ハ審理廷ニ列席シテ訊問及陳述ノ大要ヲ錄取スヘシ

第十七條　懲戒委員長ハ被審人ヲ訊問スルニ際シ書記ヲシテ必要ナル訊書其ノ他證憑書類ヲ朗讀セシムヘシ

第十八條　出廷シタル被審人陳述スルコトヲ肯セサルトキハ對席トシテ審理ヲ爲シ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ懲戒委員長ヨリ退場ヲ命セラレタルトキハ亦同シ若シ陳述二日ニ渉ルトキハ更ニ被審人ヲ出頭セシムヘシ

第十九條　被審人及補佐人ハ懲戒委員長ノ許可ヲ得審理記錄ノ全部若クハ一部ヲ閱覽シ又ハ謄寫スルコトヲ得

第二十條　懲戒ヲ加フルノ言渡ヲ爲ストキハ審理費用ノ全部又ハ一部ヲ被審人ニ負擔セシムル言渡ヲ爲スヘシ

懲戒ヲ加ヘサルコトヲ言渡シタルトキハ審理費用ハ國庫ノ負擔トス

審理費用ト稱スルハ證人、鑑定人及通事ニ給與スヘキ日當旅費滯在費ヲ謂フ

第二十一條　差押物件ハ所有者ノ請求ナシ

贋之ヲ還付スルノ言渡ヲ爲スヘシ

第二十二條　評決ノ原本ニハ年月日及之ニ干與シタル理事ノ氏名ヲ記載シ懲戒委員長、懲戒委員共ニ署名捺印スヘシ

第二十三條　被審人ハ評決書ノ正本謄本若クハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但シ其ノ手數料ニ付テハ明治三十一年律令第二號ヲ準用ス

第二十四條　書記ハ評決言渡ヨリ三日以內ニ評決始末書ヲ作リ一切ノ審理手續ヲ記載シ懲戒委員長ト共ニ署名捺印スヘシ

第二十五條　評決ヲ言渡シタルトキハ懲戒委員長ハ直ニ評決ノ謄本ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

第二十六條　懲戒委員長ハ證人、鑑定人又ハ通事ニ臺灣汽船職員懲戒規則第二十七條又ハ第二十八條ニ該當スル行爲アリト思料シタルトキハ理事ノ意見ヲ聽キ之ヲ告發スヘシ

第二十七條　評決及評決始末書ハ之ヲ懲戒委員會ニ保存スヘシ

第二十八條　第一條ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　懲戒委員長ハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ事務取扱ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得

明治三十六年一月十六日
通信第訓令第一號

【海事局　海務署】

明治三十五年十一月二臺灣總督府令第八十二號臺灣汽船職員懲戒取扱規則第一條、第二條ニ依リ届出ヲ受ケタルトキハ同第三條ニ準據シ處理スヘシ

●基隆港水先規則

明治四十五年五月二十五日
臺總督府令第五十號

基隆港水先規則左ノ通相定ム

基隆港水先規則

第一條　基隆港水先區ハ野柳半島龜頭鼻ヨリ基隆島北端ニ向ヒ引キタル一線ト基隆島東北端ヨリ中山ノ西北端ニ向ヒ引キタル一線トノ內部水面トス

第二條　基隆港水先區ニ於テ水先業ヲ營ムトスル者ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第三條　水先免狀ハ帝國ノ臣民ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ臺灣總督ニ於テ適當ト認メタル者ニ之ヲ下付ス

一　二年以上總噸數千噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ現ニ甲種船長ノ免狀ヲ有スル者

二　一年以上總噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ現ニ乙種船長以上ノ免狀ヲ有シ且ツ一年以上基隆港水先區ニ於ケル水先ノ實務ヲ練習シタル者

第四條　水先免狀ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ履歷書及前條記載ノ條件ニ該當セル事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添ヘ基隆港務所ヲ經臺灣總督ニ提出スヘシ

第五條　臺灣總督ハ前條ノ申請ニ依リ其ノ資格ヲ審査シ適當ト認メタルトキハ別記甲號書式ノ水先免狀ヲ下付ス

第六條　水先人ハ豫メ事務所ノ位置、業務ニ關スル規程及水先案內料ノ額ヲ定メ基隆港務所長ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第七條　船舶ヨリ水先人ノ要求アリタルトキハ水先人ハ遲滯ナク當該船ニ乘込ミ水路ノ嚮導、繫留又ハ解纜ノ任ニ當ルヘシ

第八條　水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀ヲ携帶スヘシ

第九條　水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乘込ミタルトキハ書間ニ在リテハ別記雛形ノ水先旗ヲ揭揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

水先人水先船ヲ去リタルトキハ前項ノ水先旗ヲ撤去スヘシ

第十條　水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知シ船長ノ要求アルトキハ水先免狀ヲ閱示スヘシ

第十一條　水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶トホ路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　水先人水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案內料ヲ請求スルコトヲ得

第十三條　水先免狀ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ水先免狀ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ基隆港務所ヲ經臺灣總督ニ提出シテ書換又ハ再下付ヲ申請スヘシ

第十四條　水先人廢業セムトスルトキハ基隆港務所ヲ經水先免狀ヲ臺灣總督ニ返還シ休業セムトスルトキハ其ノ旨基隆港務所ニ届出ヘシ

第十五條　水先人ハ左ノ區別ニ從ヒ收入印紙ヲ以テ事數料ヲ納ムヘシ

一　免狀ノ下付ヲ受クルトキ　金十圓

二　免狀ノ書換又ハ再下付ヲ受クルトキ　金一圓

第十六條　臺灣總督ハ水先人ニシテ其ノ業務ニ從事スルニ當リ亂酔、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ又ハ重大ナル過失アリト認メタルトキハ其ノ水先免狀ノ行使ヲ禁止シ身體ノ機能ニ故障ヲ生シ業務ヲ營ムコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

第十七條　水先人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ水先人タルノ資格ヲ失フ

一　懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタルトキ

第九條　水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乘込ミタルトキハ書間ニ在リテハ別記雛形ノ水先旗ヲ揭揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

水先人水先船ヲ去リタルトキハ前項ノ水先旗ヲ撤去スヘシ

第十條　水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知シ船長ノ要求アルトキハ水先免狀ヲ閱示スヘシ

第十一條　水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶トホ路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　水先人水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案內料ヲ請求スルコトヲ得

第十三條　水先免狀ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ水先免狀ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ基隆港務所ヲ經臺灣總督ニ提出シテ書換又ハ再下付ヲ申請スヘシ

第十四條　水先人廢業セムトスルトキハ基隆港務所ヲ經水先免狀ヲ臺灣總督ニ返還シ休業セムトスルトキハ其ノ旨基隆港務所ニ届出ヘシ

第十五條　水先人ハ左ノ區別ニ從ヒ收入印紙ヲ以テ事數料ヲ納ムヘシ

一　免狀ノ下付ヲ受クルトキ　金十圓

二　免狀ノ書換又ハ再下付ヲ受クルトキ　金一圓

第十六條　臺灣總督ハ水先人ニシテ其ノ業務ニ從事スルニ當リ亂酔、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ又ハ重大ナル過失アリト認メタルトキハ其ノ水先免狀ノ行使ヲ禁止シ身體ノ機能ニ故障ヲ生シ業務ヲ營ムコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

第十七條　水先人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ水先人タルノ資格ヲ失フ

一　懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ水先人ハ遲滯ナク基隆港務所ヲ經水先免狀ヲ臺灣總督ニ返還スヘシ

第十八條　水先人ニシテ家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ水先免狀ノ行使ヲ停止ス此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ水先人復權シタルトキハ水先免狀ノ還付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　水先人ニシテ其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメタル者

二　水先免狀ヲ貸與シ之ヲ行使セシメタル者

三　第六條及第十一條ニ違背シタル者

四　正當ノ事由ナクシテ第七條ニ違背シタル者

五　定額ニ超過シタル水先案內料ヲ要求シタル者

六　水先人ニシテ其ノ業務ヲ怠リ因テ航路標識其ノ他ノ營造物ヲ毀損又ハ沈沒セシメタル者

第二十一條　第八條乃至第十條、第十三條、第十四條、第十七條第二項及第十八條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ明治四十五年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際基隆港ニ於テ三年以上繼續シテ水先業ヲ營ミ臺灣總督ニ於テ相當ノ技能ヲ有スルモノト認メタル者ハ當分ノ內水先業ヲ營ムコトヲ得

前項水先人ニ對シテハ別記乙號書式ノ水先免狀ヲ下付スルノ外總テ本令ノ規定ニ依ル

（別記）

水先免狀書式（竪八寸橫一尺一寸）

甲號

（表）

第　號

水先免狀

氏　名

年月日生

明治四十五年五月府令第五十號基隆

（面）

港水先規則第五條ニ依リ之ヲ下付ス

【明治】年　月　日

臺灣總督

（裏面）

Pilotage Licence.

This is to certify that……
is licenced as a pilot according to Art. V of the Keelung Pilotage Regulations of the Taiwan Government Ordinance No. 50. issued in the 45th year of Meiji.

Issued……

Governor-General of Formosa.

乙號

第　號

水先免狀

氏　名

年月日生

明治四十五年五月府令第五十號基隆港水先規則附則ニ依リ之ヲ下付ス

【明治】年　月　日

臺灣總督

●關東州船員令

大正六年五月三十日
關東都督府令第十二號

關東州船員令左ノ通定ム

關東州船員令

第一條　關東州ニ船籍港ヲ定ムル日本船舶ノ船員ニ關シテハ本令ヲ以テ規定スルモノヲ除クノ外船員法及船員法施行細則ニ依ル但シ同法合中日本トアルハ關東州トス

船員法中船員手帳ニ關スル規定ハ之ヲ支那人ニ適用セス

第二條　管海官廳ノ事務ハ關東州ニ在リテハ海務局長、同支局長之ヲ行フ

第三條　關東【都督】ヨリ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命セラレタルトキハ船長ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムヿヲ得ス

船員法第二十三條又ハ前項ノ規定ニ依ル送還費用ノ償還ニ關シテハ明治三十三年勅令第四百十五號ニ依ル但シ其ノ送還費用ノ償還ヲ得ル能ハサルトキハ關東【都督府】ノ負擔トス

第四條　管海官廳ハ海員ニシテ船中ニ於テ死亡シタル場合ニ船長ヨリ遺産目錄ノ提出ヲ受ケタルトキハ船長ニ對シ指定人ニ遺産ノ引渡ヲ命スルコトヲ得

第五條　船員法第五十二條、第五十五條、第六十五條第一項、第六十七條第一項ニ該當スル違反者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第六條　船員法第四十八條、第六十五條第二項、第七十二條第二號ニ該當スル違反者ハ六月以下ノ懲役ニ處ス

第七條　船員法第五十二條、第五十五條、第六十五條第一項、第六十七條第一項ニ該當スル違反者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　船員法第五十三條第一項、第五十六條、第七十三條ニ該當スル違反者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　船員法第五十四條ニ該當スル違反者ハ六月以下ノ懲役又ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　船員法第四十九條、第七十一條第一項ニ該當スル違反者ハ三月以下ノ懲役又ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　船員法第六十二條、第六十四條第三項ニ該當スル違反者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　船員法第五十條、第五十三條第二項、第五十七條、第五十八條ニ該當スル違反者又ハ本令第三條第一項、第四條ノ規定ニ反シテ其ノ命令ヲ拒ミタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　船員法第六十條ニ該當スル違反者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　船員法第六十六條ニ該當スル違反者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　船員法第四十七條、第五十一條、第五十九條、第六十一條、第六十三條、第六十四條第一項又ハ船員法施行細則第五十一條ニ該當スル違反者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ大正六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

船員ハ本令施行ノ日ヨリ六月以内ニ船員手帳ノ交付又ハ海員雇入ノ公認ヲ申請スヘシ

●關東州船舶職員令

明治四十四年十二月三十日
關東都督府令第三十九號

關東州船舶職員令左ノ通定ム

關東州船舶職員令

第一條　關東州ニ船籍ヲ定ムル日本船舶ノ船員ニ關シテハ本令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外船員法及船員法施行細則ニ依ル但シ同法合中日本トアルハ關東州トス

船員法中船員手帳ニ關スル規定ハ船舶ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リタル者ニ之ヲ準用ス

第二條　關東州ニ船籍ヲ定ムル日本船舶ノ職員ニ付テハ本令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外船舶職員法及船舶職員法施行細則ニ依ル但シ遞信大臣ノ職務ハ海技免狀ニ關スルモノヲ除クノ外關東【都督】之ヲ行フ

第三條　船舶職員ニ關スル規定ハ船舶ノ種類及航海ノ區域ニ應シ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　本令ニ依リ審理ニ附スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ實況ヲ詳記シ成ルヘク證憑ヲ集取シ之ヲ理事ニ報告スヘシ

第五條　被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ下調ノ命ヲ受ケタル懲戒委員又ハ懲戒委員會ノ假ニ職務執行ヲ停止スルコトヲ得

第六條　審務署長、同支署長又ハ海務局長カ本令ニ依リ審理ニ附スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ實況ヲ詳記シ成ルヘク證憑ヲ集取シ之ヲ理事ニ報告スヘシ

第七條　被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ下調ノ命ヲ受ケタル懲戒委員又ハ懲戒委員會ノ假ニ職務執行ヲ停止スルコトヲ得

第八條　本令ニ依ル補佐人ト稱スルハ甲種船長、機關長、辯護士又ハ大連港水先人ニシテ懲戒委員會ノ認許シタルモノヲ謂フ

第九條　本令ハ大連港水先規則第十六條ニ依ル水先人懲戒委員會ノ組織及懲戒ノ手續ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

【關東州船舶職員懲戒令】ニ依ル懲戒裁審人又ハ審判利害關係人ニ於テ裁決書又ハ關係書類ノ謄本又ハ抄本ノ下付ヲ求ムルトキハ左ノ手數料ヲ納付スヘシ

一　裁決書ノ謄本又ハ抄本　一件ニ付金壹圓

二　關係書類ノ謄本又ハ抄本　用紙一葉ニ付金拾錢

（大正九年六月四日關東廳令第四十一號）

●關東州船員懲戒令

大正六年五月三十日
關東都督府令第十二號

關東州船員懲戒令

第一條　關東州ニ船籍港ヲ定ムル日本船舶ノ船員ニ關シテハ本令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外船員法及船員法施行細則ニ依ル但シ同法合中日本トアルハ關東州トス

船員法中船員手帳ニ關スル規定ハ之ヲ支那人ニ適用セス

第二條　管海官廳ノ事務ハ關東州ニ在リテハ海務局長、同支局長之ヲ行フ

第三條　關東【都督】ヨリ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命セラレタルトキハ船長ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムヿヲ得ス

船員法第二十三條又ハ前項ノ規定ニ依ル送還費用ノ償還ニ關シテハ明治三十三年勅令第四百十五號ニ依ル但シ其ノ送還費用ノ償還ヲ得ル能ハサルトキハ關東【都督府】ノ負擔トス

第四條　管海官廳ハ海員ニシテ船中ニ於テ死亡シタル場合ニ船長ヨリ遺産目錄ノ提出ヲ受ケタルトキハ船長ニ對シ指定人ニ遺産ノ引渡ヲ命スルコトヲ得

第五條　船員法第五十二條、第五十五條、第六十五條第一項、第六十七條第一項ニ該當スル違反者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第六條　船員法第四十八條、第六十五條第二項、第七十二條第二號ニ該當スル違反者ハ六月以下ノ懲役ニ處ス

第七條　船員法第五十二條、第五十五條、第六十五條第一項、第六十七條第一項ニ該當スル違反者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　船員法第五十三條第一項、第五十六條、第七十三條ニ該當スル違反者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　船員法第五十四條ニ該當スル違反者ハ六月以下ノ懲役又ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　船員法第四十九條、第七十一條第一項ニ該當スル違反者ハ三月以下ノ懲役又ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　船員法第六十二條、第六十四條第三項ニ該當スル違反者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　船員法第五十條、第五十三條第二項、第五十七條、第五十八條ニ該當スル違反者又ハ本令第三條第一項、第四條ノ規定ニ反シテ其ノ命令ヲ拒ミタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　船員法第六十條ニ該當スル違反者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　船員法第六十六條ニ該當スル違反者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　船員法第四十七條、第五十一條、第五十九條、第六十一條、第六十三條、第六十四條第一項又ハ船員法施行細則第五十一條ニ該當スル違反者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ大正六年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

船員ハ本令施行ノ日ヨリ六月以内ニ船員手帳ノ交付又ハ海員雇入ノ公認ヲ申請スヘシ

●關東州船舶職員令

明治四十四年十二月三十日
關東都督府令第三十九號

關東州船舶職員令左ノ通定ム

關東州船舶職員令

第一條　關東州ニ船籍ヲ定ムル日本船舶ノ船員ニ關シテハ本令ヲ以テ規定スルモノヲ除クノ外船員法及船員法施行細則ニ依ル但シ同法合中日本トアルハ關東州トス

船員法中船員手帳ニ關スル規定ハ船舶ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リタル者ニ之ヲ準用ス

第二條　關東州ニ船籍ヲ定ムル日本船舶ノ職員ニ付テハ本令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外船舶職員法及船舶職員法施行細則ニ依ル但シ遞信大臣ノ職務ハ海技免狀ニ關スルモノヲ除クノ外關東【都督】之ヲ行フ

第三條　船舶職員ニ關スル規定ハ船舶ノ種類及航海ノ區域ニ應シ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●船員雇入雇止契約ノ公認其ノ他ノ證明ニ關スル手數料額

明治四十一年六月二十日
關東都督府令第三十五號
改正　大正三年第三號、第二六號

船員ノ雇入雇止契約ノ公認其ノ他ノ證明ニ關スル手數料左ノ通相定ム

一　船員ノ雇入雇止契約ノ公認
被雇者一人ニ付　金十錢
但シ海員名簿ノ滅失又ハ毀損ノ場合ニ於テハ被雇者一人ニ付金五錢

二　公認證證　一件ニ付　金五錢

三　船長ノ就職又ハ退職ノ認證　一件ニ付　金二十錢

四　船舶所有者カ自己ノ船舶ニ乘込、乘下船シタル場合ノ證明　一件ニ付　金二十錢

五　報告書ノ認證　一通ニ付　金二圓

六　船體機關屬具ニ關スル證明　一件ニ付　金二圓

七　船舶檢査證書ノ英譯證明　一通ニ付　金二圓

第一號乃至第五號ノ手數料ハ休暇日ノ場合ニ於テハ其ノ倍額トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州ニ船籍ヲ定ムル日本船舶ノ船員ニ對シ水夫適任證書交付方

大正五年三月九日
關東都督府令第五號

關東州ニ船籍ヲ定ムル日本船舶ノ船員ニ對シ千九百十五年三月四日ノ亞米利加合衆國海員法ニ依ル水夫適任證書ノ交付ニ關シテハ大正五年二遞信省令第十二號水夫適任證書交付規則ニ依ル但シ同規則中管海官廳ノ事務ハ關東【都督府】海務局之ヲ行フ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●關東州ニ船籍ヲ定ムル日本船舶ノ船員ニ對シ水夫適任證書交付方

大正五年三月九日
關東都督府令第五號

關東州ニ船籍ヲ定ムル日本船舶ノ船員ニ對シ千九百十五年三月四日ノ亞米利加合衆國海員法ニ依ル水夫適任證書ノ交付ニ關シテハ大正五年二遞信省令第十二號水夫適任證書交付規則ニ依ル但シ同規則中管海官廳ノ事務ハ關東【都督府】海務局之ヲ行フ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●大連港水先規則

明治四十三年十月二十六日
關東都督府令第三十四號
改正　大正三年第一號、九年關東廳令第

大連港水先規則左ノ通定ム

五八號、一四年第三三號

大連港水先規則

第一條　水先人ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ關東長官ノ水先免狀ヲ享有スル者タルコトヲ要ス

一　二年以上總噸數千噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リタル者

一　一年以上總噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乘組ミ船長ノ職ヲ執リ且ツ一年以上大連港水先區ニ於テ水先ノ實務ヲ練習シタル者

第二條　水先免狀ヲ享有セムトスル者ハ申請書ニ履歷書及其ノ證明書ヲ添ヘ海務局ヲ經由シ關東長官ニ提出スヘシ

第三條　關東長官ハ前條ノ申請ニ依リ其ノ資格ヲ審査シ適當ト認メタルトキハ別記書式ノ水先免狀ヲ交付ス

第四條　削除

第五條　水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀ヲ携帶スヘシ

第六條　水先人ハ豫メ事務所ノ位置及業務ニ關スル規定ヲ設ケ海務局長ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　水先人ヲ要スル艦船ハ口頭又ハ萬國船信號ノPT旗ヲ揭ケ水先人ヲ水先人事務所ニ請求スヘシ

第八條　前條ノ請求アリタルトキハ水先人ハ遲滯ナク當該艦船ニ乘船シ水路嚮導、繫留又ハ解纜ノ任ニ當ルヘシ

第八條ノ二　大連港規則第十二條ニ依ル水路嚮導ノ風間ハ大連港放泊區又ハ錨地ト同條第一項ニ揭ル場所間トス

第九條　水先人ヲ要シ又ハ艦船長ハ船名、國籍、總噸數、所有者名、代理店名、出入當時ノ各喫水及日時ヲ記載シ記名調印シテ之ヲ水先人ニ提供スヘシ

第十條　水先人ヲ要スル艦船長ハ豫メ運航及操縱ニ關スル準備ヲ整ヘ之ニ要スル一切ノ勢力ヲ水先人ニ提供スヘシ

第十一條　水先人ハ每年六月及十二月ノ末日迄ニ水先ヲ爲シタル艦船ノ名稱、國籍、所有者、總噸數及喫水ヲ記載シタル營業報告書ヲ海務局ニ提出スヘシ

第十二條　水先免狀ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ水先免狀ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ書換又ハ再交付ノ申請ヲ爲スヘシ

第十三條　水先人廢業セムトスルトキハ海務局ニ屆出ヘシ

第十四條　水先人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ水先人タルノ資格ヲ失フ

一　懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

三　身體ノ機能ニ故障ヲ生シ業務ヲ營ムコト能ハサルニ至リタルトキ

四　水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタルトキ

前項ノ場合ニ於テ水先人ハ遲滯ナク水先免狀ヲ海務局ニ返還スヘシ廢業シタルトキ亦同シ

水先人失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ現ニ水先免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　水先人ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一　免狀ヲ受クルトキ　金十圓

二　免狀ノ書換又ハ再交付ノトキ　金一圓

第十六條　水先人其業務上ノ義務ニ違背シ又ハ之ヲ怠リタルトキハ水先人懲戒委員會ノ組織及懲戒ノ手續ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　水先人ニシテ其ノ業務ヲ怠リ因テ航路區域ハ關東州船舶檢査規則第十一條乃至第十四條ノ規定ニ依ル

第三條　船舶職員法施行細則第七條第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ領事官ノ職務ハ海務局之ヲ行フ

第四條　本令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乘組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶管理人又ハ借入人ヲシテ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シテ船舶職員トナリ又ハ海技免狀ノ行使ノ假停止若ハ差押中其ノ職務ヲ執リタル者又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第五條　前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ借入人カ法人ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用スル但シ船舶ノ管理ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

第六條　本令ハ當分ノ內漁獵ニ專用スル船舶ニ之ヲ適用セス

第七條　本令ハ船舶法ニ依ル日本船舶ニシテ關東州ノ沿岸ヲ航行シ又ハ關東州ヲ起點トシ樺太、臺灣、朝鮮若ハ外國ニ航行スルモノニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ船舶ニシテ本令ノ適用ヲ受クヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以內ニ本令ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムヘシ但シ特種ノ目的ニ專用スル船舶ニ付テハ六箇月若猶豫スルコトヲ得

●關東州船舶職員懲戒規則

明治四十四年十二月三十日
關東都督府令第四十號
改正　大正二年關東廳令第六三號、一二年第六九號

關東州船舶職員懲戒令左ノ通定ム

關東州船舶職員懲戒規則

第一條　關東州船舶職員令ニ依ル船舶職員ノ懲戒ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外海員懲戒法ニ依ル但シ同法第七條ノ場合ニ於テハ關東州裁判事務取扱令中刑事訴

（別記書式）

（表面）

水先免狀

氏　名

明治四十三年十月關東都督府令第三十四號大連港水先規則第三條ニ依リ之ヲ授與ス

【明治】年月日

關東長官名

（備考）本免狀ハ竪八寸橫一尺二寸トス

（裏面）

PILOTAGE LICENSE.

This is to certify that .....
is licensed as a pilot according to Art. III of the Dairen Pilotage Regulations of the Kuantung Government Ordinance No. 34 issued in the 43rd year of Meiji.

Issued.....

Kuantung Governor-General.

標識其ノ他ノ營造物ヲ毀損又ハ沈沒セシメタル者

二　水先人ニ非スシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者

三　水先免狀行使ノ停止中水先人ノ業務ヲ營ミタル者

四　水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五　第八條ニ違反シタル者

六　正當ノ理由ナクシテ水先人ノ乘船ヲ拒ミタル者

第十八條　本令第五條第六條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第二項及第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十九條　本令ニ於テ船長ニ關スル規定ハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ明治四十三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六　海上衝突豫防

●海上衝突豫防法

明治二十五年六月二十三日
法律第五號
改正　明治三〇年第四三號、三九年第四四號
大正一四年第三八號

貿帝國議會ノ協賛ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（樞密院諮詢ノ上大日本帝國憲法第八條ニ依リ勅令ヲ以テ發シタル緊急勅令）

總　則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヒサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用ヒサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船　燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ晴夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條　船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日沒ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ揭ケヘカラス

第二條　汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ揭クヘシ

一　前檣若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ揭ケヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ揭クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鋭盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツヽ卽チ船ノ正首ヨリ各舷正橫後ノ二點マテ及ヘキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二　船體中央ヨリ後部ニ在リテ前檣ヨリ低キ位置ニ於テ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツヽ隔テ連揭スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ內上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周囘少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツヽ隔テ連揭スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ內上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用ヰ中央ノ一箇ハ白色竪菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ揭クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ揭クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ雞船信號ト混同スヘカラス雞船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條　航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ揭クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ揭クヘカラス

第六條　小形船航行中天氣ノ模樣ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ揭置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ樣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ來ルカヲ認メタルトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

第七條　總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫂ヲ以テ運轉スル船舶航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ若之ヲ揭ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一　四十噸未滿ノ汽船

甲　船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷緣上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

乙　第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ揭クルカ又ハ船首ヨリ各舷正橫後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及ヌヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ揭クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ揭クルヲ要ス

二　汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷緣上九尺ノ所ヨリ下方ニ揭クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三　二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫂ヲ用ウルトニ拘ハラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

四　櫂艇ヲ以テ運轉スル船舶ハ櫂艇ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第八條　水先船ハ水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セス周囘ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ揭ケ且十五分時ヲ超エサル短時ノ間隔ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ揭クルト代リニ隨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊セサルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣燈ノ下方八尺ノ所ニ周囘少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一箇ヲ增揭シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ揭クヘシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニ依リ紅燈ヲ增揭スヘシ但シ舷燈ヲ揭クヘカラス

水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セサルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同樣ノ燈ヲ揭クヘシ

第九條　漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭クルカ又ハ之ヲ表示スヘシ

一　無甲板船卽チ全部張詰メタル甲板ニ固リテ海水ノ浸入ヲ防カサル船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺以內ナルトキハ周囘ヨリ見得ヘキ白燈

不同ナキ光ヲ發シテ鋭盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正橫後ノ二點マテ及ヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

三　左舷ニ紅燈ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鋭盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正橫後ノ二點マテ及ヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四　本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ內側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル樣ニ爲スヘシ

五　汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ增揭スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ揭ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條　汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ揭クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ揭クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ增揭スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ揭クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正橫ヨリ前面ニ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

第四條　事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連揭スヘシ此ノ紅燈ハ周囘少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツヽ隔テ連揭スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ內上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用ヰ中央ノ一箇ハ白色竪菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ揭クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ揭クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ雞船信號ト混同スヘカラス雞船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條　航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ揭クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ揭クヘカラス

第六條　小形船航行中天氣ノ模樣ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ揭置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ樣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ來ルカヲ認メタルトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

第七條　總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫂ヲ以テ運轉スル船舶航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ若之ヲ揭ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一　四十噸未滿ノ汽船

甲　船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷緣上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

乙　第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ揭クルカ又ハ船首ヨリ各舷正橫後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及ヌヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ揭クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ揭クルヲ要ス

二　汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷緣上九尺ノ所ヨリ下方ニ揭クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三　二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫂ヲ用ウルトニ拘ハラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

四　櫂艇ヲ以テ運轉スル船舶ハ櫂艇ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第八條　水先船ハ水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セス周囘ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ揭ケ且十五分時ヲ超エサル短時ノ間隔ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ揭クルト代リニ隨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊セサルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣燈ノ下方八尺ノ所ニ周囘少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一箇ヲ增揭シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ揭クヘシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニ依リ紅燈ヲ增揭スヘシ但シ舷燈ヲ揭クヘカラス

水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セサルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同樣ノ燈ヲ揭クヘシ

第九條　漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ揭クルカ又ハ之ヲ表示スヘシ

一　無甲板船卽チ全部張詰メタル甲板ニ固リテ海水ノ浸入ヲ防カサル船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺以內ナルトキハ周囘ヨリ見得ヘキ白燈

行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(釣檣ノ方向ニ於テ)ニ表示スヘシ

四　打タセ網(總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス)ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船

船ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

甲　汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ尚其ノ下方六尺ヨリ少カラス十二尺ヨリ多カラサル所ニ白色ノ燈籠一箇ヲ增掲スヘシ此ノ三色ノ燈船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其レヨリ各舷正橫後ノ二點マテハ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シ且裝置スルヲ要シ又白燈ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周圍ヲ照スヘク製造シタルモノタルヲ要ス

帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周圍ヲ照スヘク製造シタル白色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ且他船ノ我船ニ近寄リ衝カ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防ク爲充分ナル時間ヲ見定メ最モ見得易キ所ニ白色ノ閃火又ハ炬火一箇ヲ表示スヘシ

乙

甲及乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

五　桁網ヲ用ヰテ牡蠣採取ニ從事スル船舶其ノ他桁網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ打タセ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲ケ及之ヲ表示スヘシ

六　漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ掲ケ及之ヲ表示スル外何時ニテモ閃火ヲ用ヰ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得

七　長サ百五十尺未滿ノ漁船碇泊中ハ周圍少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ケヘシ

長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周圍少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

第十四條　汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色形象一箇ヲ掲クヘシ

霧中信號

第十五條　航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ揭置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鍼盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及フヘキ樣隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

第十一條　長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周圍少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ケ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ

本條船舶ノ長サハ本船舶籍證書面ノ長サニ依ルヘシ

船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乘揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ掲クヘシ

第十二條　各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條　本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船舶ニ增掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

十

網延繩又ハ打タセ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶航行中晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ其ノ他ノ信號ヲ揭ケ近寄リ來ル他船ニ其ノ漁業中ナルコトヲ表示スヘシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄リ來リタルトキ同樣ノ信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スヘシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ揭ケ又之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第十一條本項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第十條　他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發

一箇ヲ揭ケ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ增揭スヘシ

無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺ヲ超エルトキハ周圍ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭ケ且我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモ三尺ヲ隔テ且漁具ノ結著シタル方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ增表スヘシ

二

第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二箇ヲ揭クヘシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラス十五尺ヨリ多カラス且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラス十尺ヨリ多カラサル樣其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ方向ニ揭クヘシ此ノ兩燈ハ周圍少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國竝韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ之ヲ揭ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(網又ハ漁具ノ方向ニ於テ)ニ表示スヘシ

三

第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ網ノ方向ニ揭クヘシ此ノ兩燈ハ周圍少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國竝韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ揭クルヲ要セス然レトモ之ヲ揭ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭ケ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ增揭スヘシ

第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二箇ヲ揭クヘシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラス十五尺ヨリ多カラス且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラス十尺ヨリ多カラサル樣其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ方向ニ揭クヘシ此ノ兩燈ハ周圍少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ網ノ方向ニ揭クヘシ此ノ兩燈ハ周圍少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同樣ノ號燈及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一　汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二　汽船航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ卽チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スヘシ又妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス

三　帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正橫後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四　船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五　他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ卽チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スヘシ又妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲サヽルトキハ其ノ他ノ有效ナル音響信號ヲ以テ少クモ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝設シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同樣ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一　汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二　汽船航行中運轉力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時ヲ要ス

三　帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正橫後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四　船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五　他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ卽チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スヘシ

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲サヽルトキハ其ノ他ノ有效ナル音響信號ヲ以テ少クモ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十六條　霧中速力

本條ハ晝間他船ノ我鍼路ヲ橫切リテ我船ノ前面ニ見エルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ橫切リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條　本法航方ニ依リ二船ノ內一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鍼路及速力ヲ保ツヘシ但シ他船ニ於テ天氣急變又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クルニ及ハス

本條ハ晝間他船ノ我鍼路ヲ橫切リテ我船ノ前面ニ見エルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ橫切リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條　本法航方ニ依リ二船ノ內一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鍼路及速力ヲ保ツヘシ但シ他船ニ於テ天氣急變又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クルニ及ハス

本條ハ晝間他船ノ我鍼路ヲ橫切リテ我船ノ前面ニ見エルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ橫切リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆

船信號ヲ表示ス

三　方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲ケル遠隔信號ヲ表示ス

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

夜間信號

一　大約一分時ノ間隔ヲ以テ砲又ハ其他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス

二　船上ノ發炤（ターレル號ニ於ケル發炤ハ發煙ス）ル機關ノ號）

三　星火ヲ發スル檣彈或ハ火箭ヲ一次一發ツヽ度々打揚ク

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附　則

第三十二條　本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條　本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條　明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

●帝國領海內及其ノ附近ニ於ケル潛水艦所在ノ海面ヲ通航シ若ハ同海面附近ニ作業スル船舶ノ注意方

大正七年海軍省令第九號ヲ左ノ通改正ス

帝國領海內及其ノ附近ニ於テ潛水艦作業中認識困難ヨリ生スル衝突等ノ危害ヲ豫防スル爲潛水艦所在ノ海面ヲ通航シ若ハ同海面附近ニ作業スル船舶ハ左ノ諸號ニ注意スヘシ

一　潛水艦潛航中ハ一般水上船舶ニ對シ自艦ノ所在ヲ表示スル爲潛望鏡頂又ハ假製檣頂ニ適宜帆布製又ハ金屬製ノ赤色方形標識ヲ掲ク

潛水艦作業中之ヲ隨伴スル艦船アルトキハ該艦ニ於テB旗（赤旗）二箇ヲ連綴檣頭又ハ桁端ニ掲揚シ以テ附近五浬以內ニ潛水艦作業中ナルヲ示シ又必要アルトキハ萬國船舶信號ニ依リ自船ヲ基點トシテ潛水艦ノ所在方位ヲ示ス

二　一般船舶前號ノ標識又ハ前號ノ信號ヲ掲揚スル艦船ヲ認メタルトキハ該標識又ハ該艦船ノ動靜及信號ニ注意シ且水面ノ見張ヲ最嚴ニシテ行動スヘシ

三　潛水艦ハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外一般船舶ノ常用航路ヲ避ケ行動スヘキニ依リ一般船舶ハ可成常用航路以外ニ逸セサル樣努ムヘシ

附　則

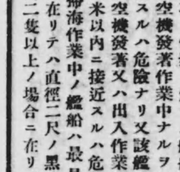
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●帝國海軍艦船、航空機作業、掃海作業、曳船作業及測量作業ニ從事中衝突等ノ危險豫防注意方

大正十五年十二月七日　海軍省令第二十號

帝國海軍艦船、航空機作業、掃海作業、曳船作業及測量作業ニ從事中ハ衝突等ノ危險ヲ豫防スル爲左記ノ信號ヲ爲シ該艦船ノ運動自由ナラサルカ針路ノ變換困難ナルカヲ表示スルヲ以テ其ノ附近海面ヲ通航シ又ハ同海面ニ於テ作業スル船舶ハ之ニ注意スヘシ

一、航空機發著作業ニ從事中ノ艦船ハ晝間最見エ易キ所ニ左圖ノ如キ吹流一箇ヲ掲揚ス



前項ノ信號ヲ爲セル艦船航海中ナルトキハ航空機發著作業中ナルヲ以テ其ノ前路ニ接近スルハ危險ナリ又該艦船停止セルトキハ航空機發著又ハ出入作業中ナルヲ以テ其ノ千米以內ニ接近スルハ危險ナリ

二、掃海作業中ノ艦船ハ最見エ易キ所ニ晝間晝間ニ在リテハ直徑二尺ノ黑球一箇ヲ掲揚シ夜間ニ在リテハ周圍少クトモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白白紅三箇ノ燈ヲ上下ニ少クトモ四尺宛ヲ隔テ連掲ス

前項ノ信號ヲ爲セル艦船單艦（艇）ノ場合ニハ掃海索ヲ其ノ左右斜後ニ曳航スルヲ以テ其ノ五百米以內ニ接近スルハ危險ナリ又該艦船對艦（艇）又ハ群艦（艇）ノ場合ニハ翼端及後尾ノモノヨリ五百米以內ニ接近スルハ危險ナリ

對艦（艇）ノ間ヲ航過セサル樣ニ注意スルヲ要ス

三、艦船他ノ艦船又ハ艦砲射撃用標的等ヲ曳航中又ハ其ノ曳索ヲ揚收中ハ晝間最見エ易キ所ニ直徑二尺ノ黑球三箇ヲ上下ニ少クトモ六尺宛ヲ隔テ連掲ス

前項ノ場合ニ於テ曳索上ヲ航過スルハ最危險ナリ

四、測量ノ爲停止中又ハ一定針路ヲ航行中ノ艦船ハ晝間最見エ易キ所ニ直徑二尺ノ黑球ノ下ニ少クトモ六尺ヲ隔テ日旗（赤白赤）一流ヲ連掲ス

●關東州ニ於ケル船舶ノ海上衝突豫防方

明治四十三年六月十三日　關東都督府令第十八號

關東州ニ於ケル船舶ノ海上衝突豫防ニ關シテハ海上衝突豫防法ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七款　船舶信號及通報

●船舶信號ニ關スル件

明治三十四年十月五日　勅令第二百八十八號

船舶信號ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム（逓信大臣伯爵芳川顯正署名）

日本船舶ハ遭信省ニ於テ發行スル船舶信號書ニ據リ普通信號ヲ爲スヘシ

附　則

明治八年第百四十四號布告ハ之ヲ廢止ス

明治三十四年十月五日　逓信省令第四十四號

日本船舶ハ明治三十四年十二月三十一日マテハ明治十七年月農商務省達第六號ヲ以テ定メタル萬國船舶信號書ヲ使用シ明治三十五年一月一日以後ハ別ニ告示スル改正增補萬國船舶信號書ヲ使用スヘシ

●內海沿岸船舶通航信號潮流信號方

明治四十二年七月十七日　逓信省告示第六百七十三號

內海沿岸中特ニ指定スル場所ニ信號所ヲ置キ通過船舶ニ對シ左記ノ規定ニ依リ船舶通航信號、潮流信號又ハ兩信號ヲ爲サシム

信號所ノ位置、信號開始ノ日等ハ別ニ之ヲ告示ス

一　船舶通航信號ハ信號所ノ附近ニ於ケル船舶ノ動靜ニ關シ之ヲ爲ス但シ各信號所ニ付テ特ニ定ムル場合、纜帆ノミヲ裝置スル帆船カ群走セサル場合及檣樯ヲ以テ運轉スル船ニ關スル場合ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

二　船舶通航信號ハ左ノ三種ニ分チ晝間ニ在テハ黑色ノ船舶通航信號塔ニ白色ノ記號ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ燈ヲ揭ケテ之ヲ爲ス（附圖參照）

第一種　晝間ニ在テハ前塔ニ圓形ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ不動白色燈ヲ掲クルモノ

第二種　晝間ニ在テハ中央塔ニ三角形ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ明暗紅色燈ヲ掲クルモノ

第三種　晝間ニ在テハ後塔ニ方形ヲ表示シ夜間ニ在テハ該塔ニ不動紅色燈ヲ掲クルモノ

前塔ト稱スルハ信號所見張所ノ上部ニ在ルモノ、中央塔ト稱スルハ前塔ノ後方ニ在ルモノ、後塔ト稱スルハ最後ニ在ルモノヲ謂フ

三　潮流信號ハ左ノ四種ニ分チ晝間ニ在テハ白色柱ノ頂ニ於テ一端ニ紅色圓形板、他端ニ黑色矩形板ヲ有スル白色桿ノ位置ヲ轉換シ夜間ニ在テハ白色ノ潮流信號塔ニ燈ヲ掲ケテ之ヲ爲ス（附圖參照）

第一種　晝間ニ在テハ矩形板ヲ上端トシテ桿カ約七十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ白色等分明暗燈ヲ掲クルモノ

第二種　晝間ニ在テハ圓形板ヲ上端トシテ桿カ約七十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白不等分互光燈ヲ掲クルモノ

第三種　晝間ニ在テハ圓形板ヲ上端トシテ桿カ約七十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白等分互光燈ヲ掲クルモノ

第四種　晝間ニ在テハ圓形板ヲ上端トシテ桿カ約三十度ニ傾斜シ夜間ニ在テハ紅白不等分互光燈ヲ掲クルモノ

四　潮流信號ハ同方向ノ潮流カ流レ始メテヨリ流レ止ムマテノ間ニ於テ最初ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ初期、次ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ中央期、最後ノ約三分ノ一ニ相當スル期間ヲ末期トシテ之ヲ爲ス

五　信號機ノ故障其ノ他ノ事由ニ依リ信號ヲ爲スコトヲ得サルトキハ左ニ定ムル所ニ從ヒ信號ヲ爲ス

船舶通航信號　晝間　W ノ信號旗ヲ旗竿ニ掲ク

夜間　紅燈一箇ヲ前後ノ各信號塔ニ掲ク

潮流信號　晝間　圓形板ヲ上端トシテ桿ヲ直立ス

夜間　綠燈一箇ヲ潮流信號塔ニ掲ク

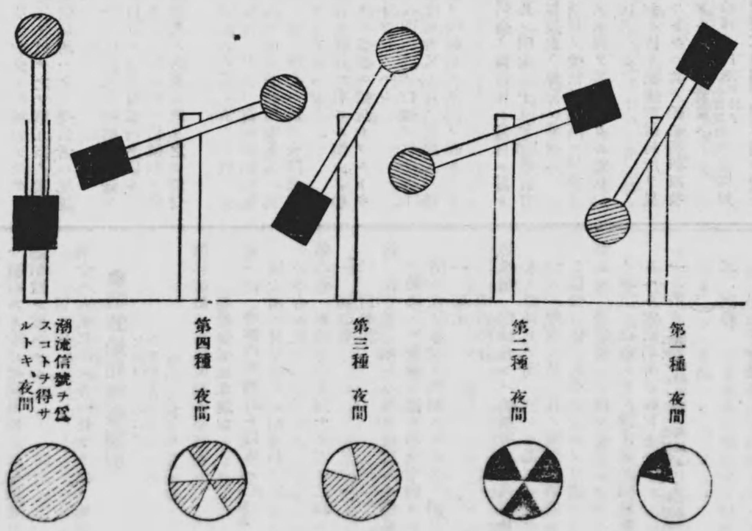
六　潮流信號ヲ爲ササル信號所ハ夜間信號所ノ位置ヲ示ス爲メ其ノ中央塔ニ明暗白色燈ヲ掲ク但シ第二項ノ船舶通航信號ヲ爲ス場合及前項ニ依リ燈ヲ掲クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

七　航路ニ異變アルトキ、航行危險ノ虞アルトキ其ノ他船舶ノ航行ニ關シ必要アルトキハ信號所ハ晝間ニ限リ萬國船舶信號法ニ依リ信號ヲ爲スコトアルヘシ

（附圖）

船舶通航信號

潮流信號



●船舶通報規則

明治四十四年九月二十六日　遞信省令第四十四號
改正　明治四三年第九二號、四四年第四三號
大正元年第二四號、四年第二二號、九年第四五號、一四年第六〇號

船舶通報規則左ノ通相定ム

第一條　船舶通報ヲ別チテ左ノ二種トス

一　通過報
二　信號報

第二條　通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ沿海ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ

一　船名
二　通過時分

第三條　信號報トハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ト船長トノ間ニ於ル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ沿海ヲ通過スル船舶ト信號ニ依リ送受スルモノヲ謂フ

第四條　通過報ノ取扱ヲ望ム者ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ其ノ電報ヲ配達スヘキ電信局所ニ差出スヘシ

一　船名（必要ナルトキハ信號符字）
二　國籍
三　船舶所有者名
四　燈臺名

五　請求者（若シ請求者カ受信者ニ非サルトキハ併セテ受信者）ノ住所氏名

臨時ニ通過報ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ必ス豫定通過日時ヲ記載スヘシ

第六條　通過報ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ船舶數及請求度數ニ拘ラス登記料トシテ一會計年度毎ニ二圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スヘシ但シ臨時ニ其ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スヘシ但シ初年度分ハ請求書差出ノ際之ヲ納付スヘシ

第七條　通過報ノ料金左ノ如シ

一　登記料ヲ納付シタル者ニ對シテハ
　一通毎ニ
　朝鮮內　二十錢
　互間　二十五錢
二　登記料ヲ納付セサル者ニ對シテハ
　一通毎ニ
　朝鮮內　三十錢
　互間　四十錢

夜間（日沒ヨリ日出ヨリ前迄）通過ノ船舶ニ對スル通過報ノ料金ハ前項料金ノ二倍トス

前二項ノ料金ハ通過報配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徵收ス

第八條　第五條第二項ノ請求者豫定通過日時切迫ノ爲電信局所ヨリ燈臺ニ電報ヲ以テ通知ヲ要求スルトキハ其ノ電報ノ料金ヲ前納スヘシ

第九條　第五條ノ請求書ニ記載シタル船舶カ燈臺ノ附近ヲ通過スル場合ト雖該燈臺ニ於テ其ノ通過又ハ船名ヲ知リ得サルトキハ通過報ヲ發セス

第十條　信號報ノ取扱ヲ受ケムトスル船舶所有者又ハ其ノ代理人ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ配達スヘキ電信局所ニ提出スヘシ

一　船名（必要ナルトキハ信號符字、航路名、方向等ヲ添記スヘシ）
二　國籍
三　船舶所有者名

四　燈臺名

五　請求者（若シ請求者カ受信者ニ非サルトキハ併セテ受信者）ノ住所氏名

臨時ニ通過報ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ必ス豫定通過日時ヲ記載スヘシ

第六條　通過報ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ船舶數及請求度數ニ拘ラス登記料トシテ一會計年度毎ニ二圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スヘシ但シ臨時ニ其ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スヘシ但シ初年度分ハ請求書差出ノ際之ヲ納付スヘシ

第七條　通過報ノ料金左ノ如シ

一　登記料ヲ納付シタル者ニ對シテハ
　一通毎ニ
　朝鮮內　二十錢
　互間　二十五錢
二　登記料ヲ納付セサル者ニ對シテハ
　一通毎ニ
　朝鮮內　三十錢
　互間　四十錢

夜間（日沒ヨリ日出ヨリ前迄）通過ノ船舶ニ對スル通過報ノ料金ハ前項料金ノ二倍トス

前二項ノ料金ハ通過報配達ノ際受信者ヨリ之ヲ徵收ス

第八條　第五條第二項ノ請求者豫定通過日時切迫ノ爲電信局所ヨリ燈臺ニ電報ヲ以テ通知ヲ要求スルトキハ其ノ電報ノ料金ヲ前納スヘシ

第九條　第五條ノ請求書ニ記載シタル船舶カ燈臺ノ附近ヲ通過スル場合ト雖該燈臺ニ於テ其ノ通過又ハ船名ヲ知リ得サルトキハ通過報ヲ發セス

第十條　信號報ノ取扱ヲ受ケムトスル船舶所有者又ハ其ノ代理人ハ左ノ事項ヲ記載シタル請求書ヲ配達スヘキ電信局所ニ提出スヘシ

一　船名（必要ナルトキハ信號符字、航路名、方向等ヲ添記スヘシ）
二　國籍
三　船舶所有者名

四　燈臺名

五　請求者ノ住所氏名

第十一條　信號報ノ取扱ヲ受ケムトスル者ハ船舶數及請求度數ニ拘ラス登記料トシテ一會計年度毎ニ二圓ヲ前條ノ電信局所ニ納付スヘシ

前項ノ登記料ハ毎年度分ヲ其ノ前年度ノ末日十五日前迄ニ納付スヘシ但シ初年度分ハ請求書差出ノ際之ヲ納付スヘシ

第十二條　信號報ノ料金左ノ如シ

信號料　一通ニ付　一圓
電報料又ハ郵便料　實費

船舶ヨリ發スル信號報ノ料金ハ之ヲ受信者ヨリ徵收ス

第十三條　船舶所有者又ハ其ノ代理人信號報ヲ發セムトスルトキハ和文電報書法ニ依リ相當事項ヲ賴信紙ニ記載シ之ヲ第十條ノ電信局所ニ提出スヘシ但シ之ニ關スル郵便切手ハ賴信紙ニ貼付スヘカラス

信號報ヲ發セムトスル場合ニ於テ郵便ニ依リ燈臺ニ送達ヲ望ムトキハ同時ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ得

第十四條　電信局所ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スヘシ但シ信號報ヲ發セムトスル場合ニ於テ郵便ニ依リ燈臺ニ送達ヲ望ムトキハ同時ニ其ノ旨ヲ申出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ適宜ノ用紙ニ記載スルコトヲ得

第十五條　船舶ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十一條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十六條　燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ和文電報ヲ以テ之ヲ第十條ノ電信局所ニ傳送シ電信局所ハ之ヲ受信者ニ配達スル場合ニ於テハ適宜ノ用紙ニ記載スルコトヲ得

第十七條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十八條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十九條　船舶通報ニ關係ヲ有スル船舶特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及信號符字ヲ揭クヘシ

前條但書ニ依リ夜間通過ノ信號ヲ爲サムトスルトキハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ハ特定信號ヲ定メ豫メ燈臺局ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第二十條　本令中料金ノ徵收又ハ還付ニ關シ明文ナキ事項ハ凡テ明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則ノ規定ヲ準用ス

第二十一條　船舶通報ノ受信者ノ住所ニ異動ヲ生シタルトキハ請求書ヲ差出シタル電信局所ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ消滅シタルモノト看做ス

第二十二條　船舶通報ハ內地（小笠原島、臺灣及樺太間ニ發受スル船舶通報ノ取扱ニ關シテハ本令ニ依ル）

第二條　船舶通報ヲ有スル者ハ左ノ二種トス

一　通過報
二　信號報

第三條　通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ附近ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ

一　船名
二　通過時分

第四條　信號報トハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ト船長トノ間ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ指定ノ方法ニ依リ之ヲ燈臺ニ傳送シ燈臺ニ於テ之ヲ船舶ニ通達スル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ沿海ヲ通過スル船舶ト信號ニ依リ送受スルモノヲ謂フ

第五條　燈臺ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第六條　燈臺ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第七條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第八條　燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第九條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十一條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十二條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十三條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十四條　船舶ニ於テ信號報ヲ發セムトスル場合ニ於テ郵便ニ依リ燈臺ニ送達ヲ望ムトキハ同時ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ得

第十五條　燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十六條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十七條　船舶通報ニ關係ヲ有スル船舶特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及信號符字ヲ揭クヘシ

前條但書ニ依リ夜間通過ノ信號ヲ爲サムトスルトキハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ハ特定信號ヲ定メ豫メ燈臺局ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第十八條　本令中料金ノ徵收又ハ還付ニ關シ明文ナキ事項ハ凡テ明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則ノ規定ヲ準用ス

第十九條　船舶通報ノ受信者住所ニ異動ヲ生シタルトキハ請求書ヲ差出シタル電信局所ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ消滅シタルモノト看做ス

第二十條　船舶通報ハ內地（小笠原島、臺灣及樺太間ニ發受スル船舶通報ノ取扱ニ關シテハ本令ニ依ル）

第二條　船舶通報ヲ有スル者ハ左ノ二種トス

一　通過報
二　信號報

第三條　通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ附近ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ

一　船名
二　通過時分

第四條　信號報トハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ト船長トノ間ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ指定ノ方法ニ依リ之ヲ燈臺ニ傳送シ燈臺ニ於テ之ヲ船舶ニ通達スル通信ニシテ特ニ指定スル燈臺ニ於テ其ノ沿海ヲ通過スル船舶ト信號ニ依リ送受スルモノヲ謂フ

第五條　燈臺ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第六條　燈臺ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第七條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第八條　燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ燈臺ニ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第九條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十一條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十二條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十三條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十四條　船舶ニ於テ信號報ヲ發セムトスルトキハ其ノ旨ヲ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十五條　燈臺ニ於テ前條ノ信號報ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ信號スヘシ但シ信號報ノ受信者ハ第十條ノ登記料ヲ納付シタル者ニ限ル

第十六條　燈臺ニ於テ信號報ヲ船舶ニ通達スルハ其ノ到達ノ日ヨリ三十日以內ニ限ル

第十七條　船舶通報ニ關係ヲ有スル船舶特ニ指定シタル燈臺ニ接近シタルトキハ國旗及信號符字ヲ揭クヘシ

前條但書ニ依リ夜間通過ノ信號ヲ爲サムトスルトキハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ハ特定信號ヲ定メ豫メ燈臺局ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第十八條　本令中料金ノ徵收又ハ還付ニ關シ明文ナキ事項ハ凡テ明治三十三年九月遞信省令第四十六號電報規則ノ規定ヲ準用ス

第十九條　船舶通報ノ受信者住所ニ異動ヲ生シタルトキハ請求書ヲ差出シタル電信局所ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

受信者住所ノ異動ニ依リ配達電信局所ヲ異ニスルニ至リタルトキハ其ノ船舶通報取扱ノ請求ハ消滅シタルモノト看做ス

第二十條　船舶通報ハ內地（小笠原島、臺灣及樺太間ニ發受スル船舶通報ノ取扱ニ關シテハ本令ニ依ル）

第二條　船舶通報ヲ有スル者ハ左ノ二種トス

一　通過報
二　信號報

第三條　通過報トハ特ニ指定スル燈臺ノ附近ヲ通過スル船舶ニ關シ和文電報ヲ以テ請求者ニ左ノ事項ヲ通知スルモノヲ謂フ

一　船名
二　通過時分

第四條　信號報トハ船舶所有者又ハ其ノ代理人ト船長トノ間ニ於ケ

第一條　航路標識條例第二條第一項ニ依リ【地方稅】又ハ區町村費ヲ以テ航路標識ヲ設置セントシ地方長官ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ請フトキハ左ノ書類ヲ具スヘシ

一　航路標識設置位置及其近傍實測地圖

二　航路標識圖面及其構造方法竝費用調書

三　一箇年間入港スヘキ日本形船西洋形船員數及其石數噸數竝其最大船舶石數又ハ噸數概算調書其位置ヲ變更セントスルトキハ第一項ノ書類又其性質ヲ變更セントスルトキハ第二項ノ書類ヲ具シ遞信大臣ニ經何ノ上之ヲ變更スヘシ

第二條　前條航路標識ヲ設置シ若クハ其位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止スルトキハ當省ヨリ告示スヘキヲ以テ地方長官ハ豫メ其實施期限ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第三條　船舶業留等ノ爲メ棧橋又ハ埠頭ニ設置スル標識ハ航路標識ト誤認シ易キ慮アルヲ以テ其設置變更等ハ都テ地方長官ニ於テ遞信大臣ニ經何ノ上若シ航路ニ障碍アリト認ムルトキハ變更又ハ撤去ヲ命スヘキ旨遞ヲ以テ之ヲ許可スヘシ

●私設航路標識取締條規

明治二十二年三月十四日
遞信省令第二號

從來私設ノ航路標識取締ニ關シ左ノ條規ヲ定ム

私設航路標識取締條規

第一條　私設航路標識建設人ニ於テ標識ノ位置又ハ性質ヲ變更セント欲スルトキハ其事由ヲ具シ管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ願出ツヘシ

第二條　前條航路標識ノ位置又ハ性質ヲ變更シ或ハ之ヲ停止若クハ廢止セントスルトキハ其實施期限ヲ定メ二箇月以前管轄廳ヲ經由シテ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第三條　私設航路標識建設人ハ標識看守上ニ付逓信省燈臺局又ハ同局派遣ノ視察官吏ヨリ教示スルコトアルトキハ之ヲ遵守スヘシ

第四條　私設航路標識ニシテ燈費ヲ徴收スルモノハ建設人ニ於テ帳簿ヲ備ヘ其徴收額及維持費支出額ヲ記載シ置キ遞信省燈臺局派遣視察官吏ノ檢閱ヲ受クヘシ

明治十九年六月二十九日
遞信省令第十八號

私築燈標ノ燈費ハ海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ルヲ得ス

●朝鮮航路標識規則

大正七年七月十九日
朝鮮總督府令第百號

朝鮮航路標識規則左ノ通改正ス

朝鮮航路標識規則

第一條　朝鮮ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲朝鮮總督府ニ於テ之ヲ設置ス

第二條　土地ノ狀況ニ因リ地方費又ハ府面ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得

前項ニ依リ航路標識ヲ設置セムトスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ其ノ位置又ハ性質ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三條　航路標識ノ設置ノ許可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　位置ヲ記載シタル書面

二　構造方法書

三　工事費概算書

四　工事設計圖

五　位置及附近ノ狀況ヲ示セル圖面

六　最近一年間ニ於ケル流過又ハ出入ノ船舶數調書

七　管理及維持方法書

航路標識ノ位置變更ノ許可申請書ニハ前項第一號及第五號ノ書類及圖面ヲ、性質變更ノ許可申請書ニハ第二號乃至第四號及第七號ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

第四條　航路標識ノ設置又ハ變更ノ許可ヲ受ケタル者供用ヲ開始セムトスルトキハ其ノ期日十四日前ニ之ヲ朝鮮總督府遞信局長官ニ届出ツヘシ

第五條　第二條ノ航路標識ノ看守ニ從事セシムル爲地方費又ハ府面ノ費用ヲ以テ看守員ヲ置クヘシ

前項ノ航路標識看守員ヲ採用シタルトキハ其ノ履歷書ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長【官】ニ届出ツヘシ

第六條　第二條ノ航路標識ノ看守ニ從事セシムル爲地方費又ハ府面ノ費用ヲ以テ看守員ヲ置クヘシ

前項ノ航路標識看守員ヲ採用シタルトキハ其ノ履歷書ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長【官】ニ届出ツヘシ

第七條　第二條ノ航路標識ニ於テ使用スル燈油其ノ他點燈用ノ消耗品ニ付テハ豫メ朝鮮總督府遞信局長【官】ノ承認ヲ受クヘシ

第八條　朝鮮總督ニ於テ第二條ノ航路標識不完全ニシテ危險ノ慮アリト認ムルトキハ其ノ廢止、修理其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　航路標識ヲ損壞シ若ハ移轉シ又ハ其ノ性質ヲ變更シ又ハ之ヲ藏遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ朝鮮總督ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ聲號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫留シ若ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ若ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●臺灣航路標識規則

明治三十一年五月二十一日
臺灣總督府令第二十六號

臺灣航路標識規則左ノ通相定ム

臺灣航路標識規則

第一條　臺灣島及澎湖列島ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲臺灣總督府ニ於テ之ヲ設置スルモノトス

第二條　土地ノ形狀又ハ情況ニ由リ一個人又ハ公共團體ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ但船舶ニ對シ其費用ヲ徵收スルコトヲ許サス

臺灣總督ニ於テ前項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更シ又ハ撤去セシムルコトアルヘシ

第三條　航路標識ノ設置又ハ變更ノ許可ヲ受ケタル者ハ供用ヲ開始セムトスルトキハ其ノ期日十四日前ニ之ヲ臺灣總督府遞信局長官ニ届出ツヘシ

第四條　私設ノ航路標識ニシテ燈費ヲ徵收スルモノハ建設人ニ於テ帳簿ヲ備ヘ其徵收額及維持費支出額ヲ記載シ置キ遞信省燈臺局派遣視察官吏ノ檢閱ヲ受クヘシ

明治十九年六月二十九日
遞信省令第十八號

私築燈標ノ燈費ハ海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ルヲ得ス

●朝鮮航路標識規則

大正七年七月十九日
朝鮮總督府令第百號

朝鮮航路標識規則左ノ通改正ス

朝鮮航路標識規則

第一條　朝鮮ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲朝鮮總督府ニ於テ之ヲ設置ス

第二條　土地ノ狀況ニ因リ地方費又ハ府面ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置スルコトヲ得

前項ニ依リ航路標識ヲ設置セムトスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ其ノ位置又ハ性質ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三條　航路標識ノ設置ノ許可申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一　位置ヲ記載シタル書面

二　構造方法書

三　工事費概算書

四　工事設計圖

五　位置及附近ノ狀況ヲ示セル圖面

六　最近一年間ニ於ケル流過又ハ出入ノ船舶數調書

七　管理及維持方法書

航路標識ノ位置變更ノ許可申請書ニハ前項第一號及第五號ノ書類及圖面ヲ、性質變更ノ許可申請書ニハ第二號乃至第四號及第七號ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

第四條　航路標識ノ設置又ハ變更ノ許可ヲ受ケタル者供用ヲ開始セムトスルトキハ其ノ期日十四日前ニ之ヲ朝鮮總督府遞信局長官ニ届出ツヘシ

第五條　第二條ノ航路標識ノ看守ニ從事セシムル爲地方費又ハ府面ノ費用ヲ以テ看守員ヲ置クヘシ

前項ノ航路標識看守員ヲ採用シタルトキハ其ノ履歷書ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長【官】ニ届出ツヘシ

第六條　第二條ノ航路標識ノ看守ニ從事セシムル爲地方費又ハ府面ノ費用ヲ以テ看守員ヲ置クヘシ

前項ノ航路標識看守員ヲ採用シタルトキハ其ノ履歷書ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長【官】ニ届出ツヘシ

第七條　第二條ノ航路標識ニ於テ使用スル燈油其ノ他點燈用ノ消耗品ニ付テハ豫メ朝鮮總督府遞信局長【官】ノ承認ヲ受クヘシ

第八條　朝鮮總督ニ於テ第二條ノ航路標識不完全ニシテ危險ノ慮アリト認ムルトキハ其ノ廢止、修理其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　航路標識ヲ損壞シ若ハ移轉シ又ハ其ノ性質ヲ變更シ又ハ之ヲ藏遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ朝鮮總督ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ聲號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫留シ若ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ若ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●關東廳航路標識使用料規則

大正十四年十二月二十八日
關東廳令第六十九號

關東廳航路標識使用料規則左ノ通定ム

關東廳航路標識使用料規則

第一條　船舶關東州外ヨリ關東州ノ港ニ入港シタルトキハ本令ニ依リ航路標識使用料ヲ徵收ス但シ內外國艦艇、日本官署ノ所屬船及二十噸未滿ノ汽船竝五百噸未滿ノ帆船ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　航路標識使用料ハ登簿噸數一噸ニ付金一錢トス但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ計算セス

第三條　關東州ト測度方法ヲ異ニスル船舶ノ噸數ハ關東州ニ於テ定ムル測度方法ニ依リ之ヲ換算ス

第四條　海難其ノ他ノ事故ニ因リ入港シタル船舶ニシテ關東廳海務局長又ハ同支局長ニ於テ事情已ムヲ得サルモノト認メタルトキハ航路標識使用料ハ之ヲ免除ス

第五條　航路標識使用料ハ關東廳海務局長又ハ同支局長ヲシテ之ヲ徵收セシム

第六條　航路標識使用料ハ船舶ノ船長之ヲ納入スヘシ

第七條　航路標識使用料ノ遞腑ヲ闕リ又ハ納付ヲ怠リ出航シタル船舶ノ船長ハ使用料金額ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額十圓ヲ下ルトキハ十圓トス

ハ撤去セシムルコトアルヘシ

臺灣總督府ニ於テ直接管理ヲ必要トスルトキハ相當ノ價格ヲ以テ前項ノ航路標識ヲ買上ルコトアルヘシ

第三條　航路標識ヲ損壞シ又ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ藏遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ臺灣總督ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若ハ聲號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條　航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●關東廳航路標識使用料規則

大正十四年十二月二十八日
關東廳令第六十九號

關東廳航路標識使用料規則左ノ通定ム

關東廳航路標識使用料規則

第一條　船舶關東州外ヨリ關東州ノ港ニ入港シタルトキハ本令ニ依リ航路標識使用料ヲ徵收ス但シ內外國艦艇、日本官署ノ所屬船及二十噸未滿ノ汽船竝五百噸未滿ノ帆船ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　航路標識使用料ハ登簿噸數一噸ニ付金一錢トス但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ計算セス

第三條　關東州ト測度方法ヲ異ニスル船舶ノ噸數ハ關東州ニ於テ定ムル測度方法ニ依リ之ヲ換算ス

第四條　海難其ノ他ノ事故ニ因リ入港シタル船舶ニシテ關東廳海務局長又ハ同支局長ニ於テ事情已ムヲ得サルモノト認メタルトキハ航路標識使用料ハ之ヲ免除ス

第五條　航路標識使用料ハ關東廳海務局長又ハ同支局長ヲシテ之ヲ徵收セシム

第六條　航路標識使用料ハ船舶ノ船長之ヲ納入スヘシ

第七條　航路標識使用料ノ遞腑ヲ闕リ又ハ納付ヲ怠リ出航シタル船舶ノ船長ハ使用料金額ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額十圓ヲ下ルトキハ十圓トス

附　則

本令ハ大正十五年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ當分ノ內大連港及旅順港以外ニ入港シタル船舶ニハ之ヲ適用セス

●南洋群島航路標識規則

大正十四年十月二十三日
南洋廳令第十三號

南洋群島航路標識規則左ノ通定ム

南洋群島航路標識規則

第一條　南洋群島ニ於ケル航路標識ハ航路ノ安寧ヲ保護スル爲南洋廳ニ於テ之ヲ設置ス

第二條　土地ノ狀況ニ依リ官以外ノ者ノ費用ヲ以テ航路標識ヲ設置セムトスルトキハ所轄支廳長ヲ經由シテ南洋廳長官ノ許可ヲ受クヘシ其ノ位置又ハ性質ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

南洋廳長官ニ於テ前項ノ航路標識不完全ニシテ危害アリト認メタルトキハ之ヲ變更シ又ハ撤去セシムルコトアルヘシ

第三條　前條ノ航路標識ノ停止又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ期日ヲ定メ所轄支廳長ヲ經由シテ南洋廳長官ニ届出ツヘシ

第四條　航路標識ヲ損壞シ若ハ移轉シ又ハ其性質ヲ變更シ又ハ之ヲ藏遮スヘキ所爲ヲ爲シ又ハ南洋廳長官ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光ト誤認シ易キ燈光ヲ點シ若ハ之ヲ汚穢シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條　航路標識ニ船筏其ノ他ノ物ヲ繫キ若ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ若ハ之ヲ汚穢シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮臺灣關東州ノ船舶ニシテ

戰時陸海軍使用ノモノ內地不開港場ニ寄港方

大正三年九月一日
遞信省令第二十五號

朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶ニシテ戰時陸海軍ノ使用ニ供セラルルモノハ陸海軍ノ必要ト認メ因リ內地ノ不開港場ニ寄港スルコトヲ得

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●海軍ニ於テ危險物沈置ニ當リ施行スヘキ手續

明治三十五年七月十八日
海軍省令第七號

海軍ニ於テ實驗ノ爲危險物ヲ海中ニ沈置スルニ當リ施行スヘキ手續左ノ通定ム

第一　危險物沈置區域ハ常ニ白色ノ浮標ヲ以テ之ヲ表示シ且附近適當ノ位置ニハ常ニ番船ヲ碇置シ所要ニ際シテハ通航ノ船舶及漁船等ニ對シ相當ノ指導竝注意ヲ爲サシム但シ時宜ニ依リ水路誓導船ヲ置キ番船ノ職務ヲ兼ネシムルコトアルヘシ

第二　前項ノ番船ニハ晝間ハ赤旗及萬國船舶信號旗ノV旗ヲ揭揚シ夜間ハ上下ニ約三尺ヲ隔テ、紅燈三箇ヲ連揭ス

第三　天候其ノ他ノ爲番船ヲ碇置スルコト能ハサルトキハ最近陸上ニ見張所ヲ設ケ相當ノ注意ヲ爲サシムルコトアリ

附　則

本令ノ手續ヲ施行スル場合ニ限リ危險物沈置區域竝其ノ期間等ニ關シテハ從來ノ如ク官報ヲ以テ告示セス

●朝鮮ト內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件

大正十二年三月二十七日
制令第六號

朝鮮ト內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル件明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

第一條　內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ヨリ朝鮮ニ貨物又ハ旅客ヲ輸送スル船舶朝鮮各港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時間內ニ稅關ニ入港届ヲ爲シ其ノ貨物ノ內其ノ港ニ於テ陸揚シ又ハ他船ニ積換フヘキモノノ積荷目錄ヲ提出スヘシ

第二　前項ノ船舶ハ稅關ノ認許ヲ得タル場合ヲ除クノ外前項ノ積荷目錄ヲ提出シタル後ニ非サレハ貨物ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品及郵便物ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　朝鮮ヨリ內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ貨物又ハ旅客ヲ輸送スル船舶朝鮮各港ヨリ出港セムトスルトキハ船長ハ出港一時間前迄ニ稅關ニ出港届ヲ爲シ其ノ港ヨリ內地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ輸送スル貨物ノ積荷目錄ヲ提出スヘシ

第三條　船長積荷目錄ノ訂正補足ヲ爲スニハ稅關ノ認許ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　左ニ揭クル物品ノ移出ハ開港又ハ朝鮮總督ノ指定スル港ニ由リ之ヲ爲スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故アルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　朝鮮ニ於テ內國稅ヲ課スヘキ物品

二　朝鮮出港稅令ニ依リ其ノ移入ヲ條件トシテ出港稅ノ免除ヲ得タル物品

三　內地、臺灣又ハ樺太ニ於テ內國稅ノ免除若ハ拂戾又ハ交付金ノ交付ヲ受クル爲稅關ノ移入免許ヲ受ケムトスル物品

四　大正九年制令第十九號ニ依リ移入稅ヲ課スヘキ物品

前項但書ノ規定ニ依リ貨物ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ヘタルトキハ船長ハ直ニ其ノ事由ヲ稅關ニ届出ツヘシ

第六條　前二條ノ規定ハ郵便物ニ付之ヲ適用セス

第七條　稅關長必要アリト認ムルトキハ第一條又ハ第二條ノ船舶ト陸地トノ交通ノ場所ヲ指定スルコトヲ得

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條第一項又ハ第二條ノ貨物ト符合セサル積荷目錄ヲ提出シタルトキ

二　第一條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三　第二條ノ積荷目錄ヲ提出セスシテ出港シタルトキ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條第一項ノ規定ニ違反シ所定ノ時間內ニ入港届ヲ爲ササルトキ

二　第二條ノ規定ニ違反シ所定ノ時間內ニ出港届ヲ爲ササルトキ

三　第五條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

第十條　第七條ノ規定ニ依リ稅關長交通ノ場所ヲ指定シタル場合ニ於テ其ノ場所ニ非スシテ交通シタル場合ニ於テハ從來ノ如ク科料ニ處ス

第十一條　第八條又ハ第九條ノ規定ニ該當スルトキハ船長ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條　第四條及第五條ニ揭クル物品ノ移出入ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外關稅法第二十四條乃至第二十七條、第二十九條乃至第三十條、第七十六條、第七十七條、第八十條乃至第八十二條ノ四、第百條ノ規定、保稅倉庫法、假置場法及大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ヲ準用ス

第十三條　本令違反事件ノ調查及處分ニ關シ

チハ關稅法第七章及大正九年法律第五十三號第八條ノ規定ヲ準用ス

第十四條　第一條乃至第三條及第五條第二項ノ規定中稅關ト稱スルハ稅關監視署所在地外ニ在リテハ稅關監視署、稅關及稅關監視署所在地外ニ在リテハ警察署トス

第十五條　稅關及稅關監視署所在地外ニ於テハ警察官吏ハ第一條及第二條ノ船舶ニ乘込ミ貨物ノ檢査其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十六條　本令中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前大正九年制令第十九號ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ニシテ本令中之ニ相當スル規定アルモノハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

●大正十二年制令第六號施行規則

大正十二年三月二十八日
朝鮮總督府令第四十八號
改正　大正一二年第一〇二號、一三年第八二號、一五年第八二號

大正十二年制令第六號施行規則左ノ通定ム

第一條　船舶ハ入港屆及出港屆ノ左ノ事項ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ積荷目錄ノ餘白ニ記載シテ之ヲ爲スコトヲ得

一　入港屆記載事項

船舶ノ名稱、船種、船籍港、登簿噸數及總噸數又ハ積石數、仕出港、入港ノ日時、朝鮮外ヨリ輸送セル旅客ノ數

二　出港屆記載事項

船舶ノ名稱、船種、船籍港、登簿噸數及總噸數又ハ積石數、仕向港、出港ノ日時、朝鮮外ニ輸送スル旅客ノ數

前項ノ入港屆及出港屆ニハ稅關ノ要求アルトキハ旅客ノ住所、氏名、乘込地及上陸地ヲ記載シタル船客名簿ヲ添附スヘシ

第二條　積荷目錄ニハ船舶ノ名稱、貨物ノ船荷證券番號、仕出地、仕向地、記號及番號、包裝種別、箇數、品名、數量、價格及大正十二年制令第六號第一條第一項ノ場合ニ在リテハ荷受人ヲ記載シ同令第二條ノ場合ニ在リテハ荷送人ヲ記載シ同令第一條第一項ノ貨物ニシテ經由港ニ於テ移入免許ヲ得タルモノ又ハ同令第二條ノ貨物ニシテ經由港ニ於テ移出免許ヲ得タル港名又ハ移出免許ヲ得ムトスル港名ヲ附記スヘシ

第三條　大正十二年制令第六號第四條及第五條ノ規定ニ依リ指定スル港左ノ如シ

慶尚南道蔚山郡方魚津
慶尚南道馬山府馬山浦
慶尚南道昌原郡鎭海
慶尚南道統營郡統營
全羅南道麗水郡麗水
全羅南道濟州島城山浦
慶尚北道迎日郡項
慶尚北道鬱陵島道洞
咸鏡南道咸興郡西湖津

第四條　郵便局ハ移入郵便物ノ到著シタルトキハ移入郵便物目錄ヲ作リ當該稅關ニ通知スヘシ

稅關官吏郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

內國稅又ハ移入稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ名宛人ニ交付スルコト能ハサルトキハ郵便局ハ其ノ理由ヲ記載シ稅關ニ通知スヘシ

第五條　前各條ニ規定スルモノヲ除クノ外大正十二年制令第六號ノ施行ニ關シテハ關稅法及大正九年法律第五十三號施行規則第三十一條又ハ同第七十七條第二項ノ特許手數料ヲ低減スルコトヲ得

附　則

本令ハ大正十二年制令第六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ保稅地域ニ在ル貨物ノ歎料又ハ使用料ニ付テハ第五條ノ規定ニ依ルヘキモノヲ除クノ外從前ノ例ニ依ル

●鴨綠江及豆滿江沿岸ニ於ケル外國船舶ノ出入及運送ニ關スル件

大正十二年一月二十五日
朝鮮總督府令第十二號

大正三年朝鮮總督府令第六十四號左ノ通改正ス

第一條　外國船舶ハ或克船又ハ端舟其ノ他橈櫂ノミヲ以テ運轉シ若ハ主トシテ橈櫂ヲ以テ運轉スル舟ニ限リ道知事ノ許可ヲ受ケ左ニ揭ケル場所ニ出入シ又ハ運送ヲ爲スコトヲ得

一　平安北道新義州府ヨリ上流鴨綠江沿岸但シ新義州府ト義州郡九龍浦トノ間ノ沿岸ヲ除ク

二　咸鏡北道慶興郡薑西面土里ヨリ上流豆滿江沿岸

前項ノ許可ノ期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　前條ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　申請者及船舶所有者ノ國籍、住所、氏名及年齡

二　船舶ノ種類、船名、總噸數又ハ積石數

三　船籍地

四　寄港地

五　航行區域

六　航行期間

第三條　第一條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附錄雛形ノ許可證ヲ交付ス

許可證ハ船內見易キ箇所ニ之ヲ標示スヘシ

第四條　第二條第四條乃至第六號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二條ノ規定ハ前項ノ許可申請ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ申請書ニ許可證ヲ添附スルコトヲ要ス

第五條　第二條第一項第一號乃至第三號ノ事項ヲ變更シタルトキハ十日內ニ道知事ニ屆出テ許可證ノ書換ヲ受クヘシ

第六條　道知事許可ヲ受クタル者法令ニ違反シ又ハ公益上必要アリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ又ハ取締上必要ナル指示命令ヲ爲スコトヲ得

第七條　本令ニ依リ道知事ニ提出スル申請書又ハ屆書ハ主タル寄港地ヲ管轄スル警察官署ヲ經由スヘシ

第八條　第三條第二項、第四條第一項、第五條ノ規定若ハ第六條ニ依ル指示命令ニ違反シ又ハ虛僞ノ申請ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年警務總監部令第二號ハ之ヲ廢止ス

許可證樣式（材料木製）

船舶出入（運送）許可證

國籍、住所
氏名
年齡

船種	
船名	（總噸數又ハ積石數）
船籍地名	
寄港地名	

右鴨綠江（又ハ豆滿江）ノ沿岸前記ノ場所ニ出入（運送ニ從事）スルコトヲ許可ス

本許可證ノ有效期間ハ許可ノ日ヨリ箇月トス

大正　年　月　日

官署名印

●船舶法第一條等ノ日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件

大正十二年三月三十一日
朝鮮總督府令第六十二號

船舶法第一條等ノ日本船舶ノ不開港出入ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　船舶法第一條又ハ臺灣船籍規則第一條ノ日本船舶ハ不開港ニ出入シ又ハ各港ノ間ニ於テ運送ヲ爲スコトヲ得但シ傳染病豫防上必要アリト認メ朝鮮總督ニ於テ其ノ最初ノ寄港地ヲ指定シタル場合ニ於テハ指定地以外ニ寄港スルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ニ違反シタルトキハ船長又ハ船長ニ代リテ其ノ職ヲ行フ者ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年朝鮮總督府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

●沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ニ關スル件

大正二年九月二十六日
朝鮮總督府令第九十二號
改正　大正三年第一四二號、一五年第七三號

沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ハ左記各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ貿易ノ爲外國ニ往來シ又ハ朝鮮ト內地、臺灣及樺太トノ間ニ通航スル支那形日本船舶ニシテ開港間ニ於ケル沿岸貿易ニ從事スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　船員漁夫其ノ他總乘船員ノ半數以上ハ內國人タルコト

二　內國人タル船長ヲ乘組マシムルコト

三　船體ノ外部周圍上緣ニ白色「ペイント」ヲ以テ幅五寸ノ白線一條ヲ畫スルコト

四　船首兩舷及船尾兩舷ニ於テ白線ヨリ下方一尺間ノ部分ヲ黑色「ペイント」ヲ以テ塗リ其ノ部分ニ白色「ペイント」ヲ以テ左ノ事項ヲ標示スルコト

甲　總噸數五噸以上ノモノハ船首兩舷ニ船名、船尾兩舷ニ船名及船籍港名

乙　總噸數五噸未滿ノモノハ船首兩舷ニ船名、船尾兩舷ニ船舶所有者ノ氏名又ハ稱號

五　前號標示ノ文字ハ方三寸五分以上ノ國字ヲ以テ船首ヨリ船尾ノ方向ニ橫列ニ配置シ且各文字ノ間ニハ八寸以上ノ間隔ヲ存スルコト

檣ハ其ノ頂上ヨリ下方六尺間ノ周圍ヲ白色「ペイント」ヲ以テ塗ルコト

七　夜間及風雨ノ場合ヲ除クノ外漁船ハ第一號樣式ノ旗章ヲ檣頭ニ揭クルコト

鰕柱木網漁業ニ從事スル支那形日本船舶ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項第一號及第二號ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ他ノ法令ニ於テ別ノ刑ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

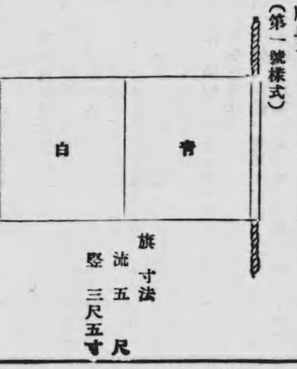
附　則

本令ハ大正二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府令第八十八號ハ之ヲ廢止ス

（第一號樣式）

（第二號樣式）



●臺灣ト內地樺太朝鮮及南洋群島間通航船舶取締規則

大正九年十二月二十一日
臺灣總督府令第百八十八號
改正　大正一二年第四九號

臺灣ト內地、樺太、朝鮮及南洋群島間通航船舶取締規則左ノ通相定ム

臺灣ト內地、樺太、朝鮮及南洋群島間通航船舶取締規則

第一條　臺灣ト內地、樺太、朝鮮及南洋群島間通航船舶ハ本令ノ定ムル所ニ依リ船籍港ニ於テ船長ヲシテ航海ニ關スル事項ヲ管理セシムヘシ

第二條　前條ノ船舶出港セムトスルトキハ船長ハ出港一時間前ニ稅關ニ出港屆ヲ提出スヘシ其ノ港ヨリ內地、樺太、朝鮮及南洋群島ニ輸送スヘキ貨物ノ積荷目錄ヲ提出スヘシ

第三條　本令ノ船舶內地、樺太、朝鮮及南洋群島ヨリ臺灣各港ニ、臺灣各港ヨリ內地、樺太、朝鮮及南洋群島ニ輸送スル貨物ノ積卸ヲナササルトキハ第一條及第二條ノ規定ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第四條　積荷目錄ハ入港船舶ニ在リテハ貨物ノ仕出地、品名、包裝箇數、數量、價額及荷受人氏名、出港船舶ニ在リテハ貨物ノ仕向地、品名、包裝箇數、數量、價額及荷出人氏名ヲ記載スヘシ

第五條　積荷目錄ハ其ノ提出ノ日ヨリ七日內ニ稅關ノ認許ヲ得タル之ヲ訂正補足スルコトヲ得

第六條　本令ノ船舶臺灣各港ニ於ケル貨物ノ運送ニ關シテハ臺灣沿海通航船取締規則ヲ準用ス

第七條　稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第八條　第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　第二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　貨物ト符合セサル積荷目錄ヲ提出シタルトキハ稅關官吏ハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　此ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第十二條　此ノ規定ニ於テ稅關ニ關スル規定ハ稅關支署、稅關監視署又ハ其ノ之ヲナサヽル地ニ在リテハ郡役所、警察署、警察分署、警察官吏派出所及警察官吏駐在所ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣內地間往復船舶取締規則ハ之ヲ廢止ス

●臺灣沿海通航船取締規則

明治三十一年七月府令第五十號
改正　大正四年第八號

明治三十一年七月府令第五十號臺灣沿海通航船取締規則左ノ通改正ス

臺灣沿海通航船取締規則

第一條　沿海通航船臺灣沿岸ヲ往復スルトキハ出入港ノ都度稅關稅關支署稅關監視署其之ナキ所ニ於テハ警察官署ニ出入港屆ヲ爲シ積荷目錄ヲ添付スヘシ

第二條　積荷目錄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　船名竝船舶國籍證書又ハ船籍札ノ番號

二　船籍港

三　船積量

四　船長ノ住所氏名

五　船員船客ノ氏名

六　積荷ノ種類、數量、價額及其仕向地竝仕出地

七　發港地、寄港地、終港地

八　入出港ノ年月日

第三條乃至第六條　削除

第七條　出入港屆ヲ爲ササルトキハ船長ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　此ノ規則中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リ其ノ職務ヲ行フ者ニ對シ亦之ヲ適用ス

●內地屬籍西洋形船內地臺灣間若ハ臺灣沿岸航行又ハ臺灣起

點外國航行屆出方

明治三十年十月四日
遞信省令第九十九號
改正　明治三二年第一一四號

內地ノ船舶ニ關スル西洋形舶ニシテ臺灣沿岸ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トナシ外國ニ航行スルモノ屆出ノ件左ノ通相定ム

第一條　內地ノ船舶ニ關スル西洋形舶ニシテ內地臺灣間若ハ臺灣沿岸ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トナシ外國ニ航行スル內國船舶ノ左記ノ事項ニ該當スルトキハ其都度臺灣ニ於ケル本船到達港若ハ本船根據地ヲ管轄スル地方官廳ヲ經テ臺灣總督府ニ屆出ツヘシ但臺灣總督ノ命令ニ依リ航行スルモノハ此限ニアラス

一　初テ航海ヲ開始スルトキハ航路及發著定日（月曜日ノモノハ一號）ヲ記シ之ヲ本船受有ノ登簿船舶狀ノ寫ヲ添付スルコト

二　航路若ハ發著定日ヲ變更シタルトキハ其事項

三　航路ヲ廢止シタルトキハ其事由

第二條　前條ノ規定ニ違背シタル者ハ其船長ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

●高雄港內船舶出入及運航規程

明治四十三年九月三日
臺灣總督府令第六十四號
改正　明治四三年第八七號、四四年第六六號、大正三年第八〇號、八年第九一號、一三年第八八號、一五年第四二號

打狗港內船舶出入及運航規程左ノ通相定ム

第一條　本令ニ於テ高雄港ト稱スルハ高雄燈臺ヲ中心トシ二浬ノ半徑ヲ以テ劃キタル線內ノ水面ヲ謂フ

第二條　高雄港ヲ別テ左ノ二區トス
內港　高雄山下旅後島間ニアル水道以東ノ水面
外港　內港以外ノ水面

第三條　外港中左ノ區域ヲ以テ公ノ航路トス
高雄燈臺ヨリ百二十六度三十分審雅信號標ハ九十七度三十分ノ點ヨリ百二十二度三十分ニ劃キタル線ト此ノ線ノ北側ニ百八十米突ヲ隔テ平行ニ劃キタル線ノ中間

第四條　船舶ハ臺灣總督府交通局總長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ內港ニ進航スルコトヲ得ス但シ小蒸汽船竝艀艇ノ類ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　內港中船舶繫留用營造物ノ位置ハ臺灣總督府交通局總長之ヲ公示ス

船舶ハ前項ノ營造物ノ外繫留スルコトヲ得ス

第六條　船舶ハ內港ニ於テ臺灣總督府交通局總長ノ指定シタル區域內ニ投錨又ハ運航スルコトヲ得ス但シ特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條　許可ヲ得テ內港ヲ運航スル汽船ハ其ノ針路ヲ保ツニ足ルタケノ速力ニ止メ帆船ハ帆ヲ減シテ徐行スヘシ

第八條　許可ヲ得テ內港ニ進航シタル船舶ニシテ出港セムトスルトキハ豫メ臺灣總督府交通局總長ニ其ノ旨屆出ヘシ

第九條　臺灣總督府交通局總長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ內港ヲ出入スル船舶ニ對シ出入ノ順序ヲ指定スルコトヲ得

第十條　船舶ハ外港ニ於テ公ノ航路ニ投錨スルコトヲ得ス

第十一條　船舶ハ築港用船舶ノ運航又ハ投錨ノ自由ヲ妨害シ又ハ衝突ノ虞アルトキハ之ヲ避ケシ又ハ其ノ前面ヲ橫過スルコトヲ得ス

第十二條　臺灣總督府交通局總長ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ錨地ノ指定、變更又ハ投錨方法ノ指定ヲ爲スコトヲ得

第十三條　船舶ハ港內ニ於テ臺灣總督府交通局總長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ一切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ得ス

第十四條　港內又ハ其ノ附近ニ於テ通航又ハ工事ヲ妨害シ若ハ危險ノ原因トナルヘキ雜硫物其ノ他ノ物件アルトキハ臺灣總督府交通局總長ノ指定スル期間內ニ其ノ船長若ハ其ノ所有者ニ於テ之ヲ取除クヘシ前項ノ義務者不明ナルトキハ臺灣總督府交通局總長ハ之ヲ除去スルコトヲ得

第十五條　船舶カ浮標、立標其ノ他ノ官有營造物ヲ毀損又ハ滅失シタルトキハ其ノ船長又ハ船舶操縱者ニ於テ臺灣總督府交通局總長ノ許可ヲ受ケ又ハ臺灣總督府交通局總長ノ指定スル期間內ニ原形ニ復スヘシ

第十五條ノ二　臺灣總督府交通局總長ハ第十四條第一項又ハ前條ノ命令ヲ受ケタル義務者ニ於テ指定ノ期間內ニ終了スヘキ見込ナシト認メタルトキハ自ラ之ヲ履行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ履行セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第十六條　本令又ハ本令ニ基キテ臺灣總督府交通局長又ハ船舶操縱者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　港內ノ警察及衞生ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ築港用船舶ニ之ヲ適用セス

明治四十二年六月府令第四十六號ハ之ヲ廢止ス

●基隆港內取締規則

明治四十四年九月三十日
臺灣總督府令第七十號
改正　明治四五年第四四號

明治三十六年九月府令第六十二號基隆港內取締規則左ノ通改正ス

基隆港內取締規則

第一條　基隆港內ト稱スルハ萬人堆鼻ヨリ北東微東二分ノ一東ニ向ヒ中山ノ西北端ニ引キタル一線ト尖山鼻ヨリ南西微南ニ向ヒテ引キタル一線トノ內部ヲ謂フ

第二條　各航洋船舶ハ入港スルニ當リ其ノ國旗及信號符字ヲ揭クヘシ

前項國旗及信號符字ハ別記第一號書式ノ港屆ヲ基隆港務所ニ差出シタル後ニ非サレハ之ヲ引下スコトヲ得ス

第三條　基隆港務所長ハ必要アリト認ムルトキハ各船舶ノ碇泊所ヲ指定シ若ハ之ヲ移轉セシムルコトヲ得

前項指定ノ碇泊所ニ碇泊シタル船舶ハ避難其ノ他已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外基隆港務所長ノ許可ヲ得スシテ其ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第四條　入港シタル航洋船舶ハ基隆港務所ノ指定シタル期間內ニ其ノ所有者ニ於テ之ヲ取除クヘシ若其ノ期間內ニ取除カサルトキハ基隆港務所ニ於テ之ヲ取除キ所有者ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシム

第二十條　信號用浮標又ハ立標ニハ鐵、綱又ハ其ノ他ノ船具ヲ繫クヘカラス

何等ノ船舶ト雖前項ノ浮標、立標又ハ其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタルトキハ其ノ修繕又ハ再設ニ要スル費用ハ之ヲ辨償セシム

第二十一條　出港シタル航洋船舶避難、修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間以內ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル屆書ヲ以テ著港屆ニ代フルコトヲ得

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サムトスル者ハ設計書及圖面ヲ添ヘ基隆港務所長ノ許可ヲ受クヘシ

一　繫船浮標ヲ設置又ハ變更セムトスルトキ

二　棧橋ヲ架設又ハ變更セムトスルトキ

三　波止場、物揚場、石垣等ヲ築造又ハ變更セムトスルトキ

四　標燈其ノ他ノ目標ヲ建設又ハ變更セムトスルトキ

五　波止杭又ハ繫船杭ヲ建設又ハ變更セムトスルトキ

六　浚渫又ハ土砂ヲ採掘セムトスルトキ

七　沈沒船又ハ其ノ他ノ物品ヲ引揚ケムトスルトキ

八　船舶ノ修繕場又ハ其ノ燈場若ハ游泳場ヲ設ケムトスルトキ

九　地曳網又ハ張網ヲ以テ漁業ヲ爲サムトスルトキ

十　波止場、物揚場又ハ海面若ハ海岸ニ一日以上舟車其ノ他長大ノ物品ヲ置カムトスルトキ

第二十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サムトスル者ハ豫メ基隆港務所ニ屆出ヘシ

一　繫船浮標、棧橋、波止場、物揚場、石垣、標燈、目標、波止杭又ハ繫船杭ヲ修理セムトスルトキ

二　船舶ノ進水式ヲ行ハムトスルトキ

三　端艇ノ競爭ヲ行ハムトスルトキ

四　物品ヲ筏ニ組ミ運搬セムトスルトキ

五　施餓鬼祭ヲ行ハムトスルトキ

第二十四條　本令ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條　前條ニ依リ船舶ニ科シタル罰金又ハ第十九條及第二十條ノ費用ハ船長又ハ船舶所有者ニ於テ之ヲ完納スルカ又ハ基隆港務所長ノ適當ト認ムル擔保物ヲ提供スルニ非サレハ其ノ船舶ハ出港ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　基隆港務所長ハ築港作業上已ムヲ得スト認ムル場合ニ限リ本令ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

（別記）

第一號書式

港屆

一船ノ種類
一船名
一船舶所有者名
一國籍
一船籍港名
一總噸數
一登簿噸數
一發航地名（最後寄航地）及發航年月日
右年月日時當港ニ入船候間此段及御屆候也

年月日　船長　某

基隆港務所長宛

第二號書式

出港屆

一船名
右年月日時（何地）ヘ向ケ當港出船可致候間此段及御屆候也

年月日　船長　某

基隆港務所長宛

●條約諸外國人臺灣ニ通商航海方

（明治二十九年二月二十二日外務省告示第一號）

通商航海ノ條約アル歐米各國臣民及人民ヲシテ臺灣ニ於テ淡水、基隆、安平、臺南及【打狗】ニ居住シ商業ヲ營ミ且ツ右等諸國ノ船舶ヲシテ淡水、基隆、安平及【打狗】ノ諸港ヘ當港シ且積荷ヲ輸出入スルコトヲ得セシメ又臺灣ハ特殊ナル情形アリト雖モ現行通商航海條約規則及其他ノ諸取極ノ出來得ヘキ限リ臺灣ニ居住シ又ハ同地ニ往來スル歐米各締盟國ノ臣民人民及船舶ニモ之ヲ適用スヘシ

●出入船舶屆出規則

大正十三年十月九日
遞信省令第三十五號

出入船舶ニ關スル屆出規則左ノ通改正ス

出入船舶屆出規則

第一條　樺太ニ出入スル汽船及帆船ノ船長ハ別記第一號及第二號樣式ニ依リ各其ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ハ入港ノ場合ニ在リテハ御時、出港ノ場合ニ在リテハ出港前ニ於テシ、警察官署所在地外ノ地ニ在リテハ受持警部補派出所、巡査部長派出所、巡査駐在所ヲ經由スヘシ

第二條　前條ノ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ七十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式ノ一（用紙半紙算紙）

一　船舶ノ種類
二　船名
三　船主ノ氏名
四　船籍地
五　總噸數及登簿噸數又ハ石數
六　船員ノ數
七　陸揚スヘキ荷物　別紙目錄ノ通
八　陸揚スヘキ船客　別紙名簿ノ通
九　發航地竝其ノ年月日時
十　寄港地
十一　入港年月日時

右及御屆候也

年月日　船長　氏　名印

警察（分）署長殿

第一號樣式ノ二（用紙半紙算紙）

揭荷目錄

ハ總テ之ヲ常川外ト看做ス

容易ニ燃燒スヘキ物料ハ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノノ外總テ之ヲ常用外ト看做ス

第十一條　汽艇、荷船、水船、端艇又ハ艀船ハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外船舶ノ後部ニ繫留スヘカラス

第十二條　汽船港內ニ於テ曳船ヲ爲サムトスルトキハ基隆港務所ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外左ノ制限ニ從フヘシ

一　端纜若ハ艀船ハ三艘以內荷船水船ハ二艘以內ヲ限リ曳クコトヲ得

二　航洋船及汽艇ハ一艘ヲ限リ曳クコトヲ得

第十三條　各船舶ハ荒天ノ際アルトキハ之カ豫防ノ設備ヲ爲スヘシ

第十四條　船舶港內ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ル迄船鐘ヲ打鳴シ日出ヨリ日沒迄ハNMノ信號ヲ揭ケ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ白燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救護ヲ要スルトキハ日出ヨリ日沒迄ノ間ハGノ信號ヲ揭ケ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ藍火若ハ閃光ヲ示スヘシ

第十五條　基隆港務所長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港內ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十六條　港內ニ於テ動物ノ死體、荷足、灰燼、糠莽等ヲ海中ニ投棄スヘカラス

前項ノ物件ヲ取捨ツル爲廻船ヲ使用セムトスル船舶ハ船內見易キ所ニF ノ信號若ハ藍ヲ揭ケ日標ト爲スヘシ

石炭、荷足其ノ他之ニ類スル物品ヲ積卸スル船舶ハ其ノ水中ニ脫落スルヲ防ク爲必要ノ注意ヲ爲スヘシ

第十七條　演洋船舶出港セムトスルトキハ出帆旗ヲ揭ケ出港四時前ニ別記第二號書式ノ出港屆ヲ基隆港務所ニ差出スヘシ但シ定期ニ出港スル航洋船舶ハ其ノ變更アリタル場合ヲ除クノ外豫メ出港ノ日時ヲ屆出テ時時ノ屆出ヲ省略スルコトヲ得

第十八條　削除

第十九條　港內又ハ其ノ附近ニ於テ通航ヲ妨ケ若ハ危險ノ原因ト爲ルヘキ總テノ雜破物

品目	單位	數量	換算噸數	價格	仕出地	備考
稱呼			噸	圓		
計						

記載例

一　品目ハ具體的ニ記載スヘシ

二　數量ハ一般取引上使用スル單位、稱呼ヲ用ヰ換算噸數ハ噸以下二位迄トシ價格ハ厘位ヲ切捨ツヘシ

三　樺太產ト其ノ他ノ區別ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第一號樣式ノ三（用紙半紙算紙）

船客名簿

等級	乘船	本籍又ハ國籍	住所	職業	男女ノ別	氏名	年齡
地							

第二號樣式ノ一（用紙半紙算紙）

出港届

一　船舶ノ種類

二　船名

三　積込タル荷物　別紙目錄ノ通

四　乘込タル船客　別紙名簿ノ通

五　仕向地

六　寄港地

七　出港年月日時

右及御届候也

年　月　日

船長　氏　名印

警察（分）署長殿

第二號樣式ノ二（用紙半紙算紙）

積荷目錄

品目	單位	數量	換算噸數	價格	仕向地	備考
稱呼			噸	圓		
計						

記載例

一　品目ハ具體的ニ記載スヘシ

二　數量ハ一般取引上使用スル單位、稱呼ヲ用ヰ換算噸數ハ噸以下二位迄トシ價格ハ厘位ヲ切捨ツヘシ

三　樺太產ト其ノ他ノ區別ヲ備考欄ニ記載スヘシ

第二號樣式ノ三（用紙半紙算紙）

船客名簿

等級	上陸	本籍又ハ國籍	住所	職業	男女ノ別	氏名	年齡
地							

●船入澗取締規則

大正元年十二月廳太廳令第十二號

改正　大正二年第一號、七年第一八號

船入澗取締規則

第一條　本則ハ大泊及眞岡ノ船入澗ニ之ヲ適用ス

船入澗ノ區域ハ標杭ヲ以テ之ヲ表示ス

第二條　船入澗ハ支廳長之ヲ管理ス

第三條　左ノ事項ハ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　工作物ヲ設クルトキ

二　舟艇ノ引揚又ハ引卸ヲ爲スコト

三　標火其ノ他火器ヲ弄スルトキ

四　木材ヲ水面ト直接ニ揚卸スルトキ

五　前各號ノ外舟艇ノ出入碇泊又ハ荷役ニ支障アル事項

第四條　船入澗ニ出入スル舟艇ハ海上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依リ船燈ヲ揭クヘシ

第五條　舟艇ハ航路ニ支障ナキ場所ニ碇泊繫留スヘシ

所轄警察官署ノ必要ト認ムルトキハ其ノ位置ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　火藥類又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載スル舟艇ハ所轄警察官署ニ届出テ其ノ指示スル場所ニ碇泊スヘシ

第七條　船入澗ノ外側ノ之ニ連亙スル護岸壁又ハ標木浮標等ニ舟艇木材等ヲ繫留スヘカラス

第八條　重量又ハ長大ノ物件ヲ揭卸スルトキハ埠頭及物揭場ヲ毀損セサル樣豫メ相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第九條　故意又ハ懈怠ニ因リ埠頭物揭場又ハ其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタルトキハ其ノ修繕ヲ爲サシメ又ハ修繕ニ必要ナル費用ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十條　貨物其ノ他ノ物件ヲ海中ニ脫落シタルトキハ之ヲ除去セシメ又ハ除去ニ必要ナル費用ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十一條　船入澗ニ荷足、廐肥、瓦礫又ハ禽獸ノ死屍等ヲ投棄スヘカラス

第十二條　第三條、第四條、第五條第一項、第六條乃至第八條及第十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス第五條第二項ノ命令ニ從ハサル者亦同シ

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●旅順港取締規則

昭和二年四月十八日關東廳令第十六號

旅順港取締規則左ノ通改正ス

旅順港取締規則

第一條　本令ニ於テ港內トハ旅順港規則第一條ニ規定スル第二區及第三區ヲ謂フ

第二條　第二區（老虎尾水道實金山下西端ヨリ東方及距岸百五十米以內ノ海面ヲ除ク）及第三區（西港ヲ除ク）ハ之ヲ船舶ノ自由碇泊所トス

第三區西港內棧橋竝東港北岸ハ之ヲ船舶ノ碇泊所又ハ繫留所トス汽艇、支那形船其ノ他小廻船ニ對シテハ別圖第二區內第一標木及第二標木ヲ連結シタル點線以北ノ海面ヲモ其ノ碇泊所及繫留所トス

第三條　老虎尾水道以內第一區ニ進入スル船舶ハ關東廳海務局長（以下海務局長ト稱ス）ノ指定シタル位置ニ碇泊スヘシ但シ汽艇、支那形船其ノ他小廻船ハ航路又ハ運航ノ妨害ト爲ラサル限リ指定ヲ俟タス碇泊スルコトヲ得

軍艦ノ碇泊所ハ特別ノ場合ヲ除クノ外船舶ノ自由碇泊所トス

第四條　海務局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ船舶ニ對シ碇泊所ノ變更又ハ運航ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第五條　港內ニ在ル船舶ハ海務局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ碇泊所ヲ變更スルコトヲ得ス但シ風波災害其ノ他已ムコトヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ニ依リ碇泊所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及碇泊所ヲ海務局長ニ届出ツヘシ

第六條　船舶入港ノ場合ニ於テハ港外ヨリ碇泊所ニ就ク迄、出港ノ場合ニ於テハ碇泊所ヲ離ルル時ヨリ港外ニ出ツル迄晝間ハ國旗及信號符字ヲ表示シ夜間ハ所定ノ燈火ヲ揭クヘシ港內運航ノトキ亦同シ

第七條　關東州外ヨリ入港スル船舶ハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ受クヘシ

前項ノ船舶ハ入港前ヨリ檢疫信號ヲ揭クヘシ

檢疫信號ハ晝間ハ前檣頭ニ黃旗ヲ揭ケ夜間ハ同所ニ紅白二燈ヲ上下ニ連揭スルモノトス

第八條　前條ノ船舶ハ自由碇泊所ニ假泊シ關東廳海務局（以下海務局ト稱ス）官吏ノ臨檢ヲ受ケ別記第一號書式ノ檢疫濟證書ヲ提出シ別記第二號書式ノ交通許可證ヲ受クルニ非サレハ陸地若ハ他船トノ交通、船客若ハ船員ノ上陸又ハ物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　關東州沿岸ノミヲ航行スル船舶ハ入港シタルトキハ直ニ別記第一號書式ノ著港届ヲ差出スヘシ

前項ノ船舶左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前二條ノ規定ヲ準用ス

一　現ニ傳染病若ハ其ノ疑アル患者又ハ死者アルトキ

二　航海中傳染病若ハ其ノ疑アル患者又ハ死者アリタルトキ

三　傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノニシテ必要アリト認ムルトキハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

四　停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノヲ發見シタルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

五　傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

六　發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ又ハ傳染病源體保有者ノ檢索ヲ爲スコト

七　別記第一號書式第二十二號ニ揭クル物件ニ對シテハ消毒、燻蒸其ノ他ノ處分ヲ爲スコト

八　必要アリト認ムルトキハ消毒ノ爲所定ノ場所ニ廻航セシムルコト

前項第一號及第三號ノ規定ニ依ル停船期間ハ消毒又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ペスト」ハ十日以內、「コレラ」、黃熱ハ五日以內ト又第三號ノ場合ニ於ケル期間ノ算定ハ傳染病流行地ヲ發シタル時又ハ其ノ地ヲ經過シタル時若ハ傳染病毒ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二十八條　船舶及物件ノ消毒費、停留人ノ食費、患者及死者ニ關スル費用ハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ヨリ之ヲ徵收ス

第二十九條　船舶ハ健全證書ノ交付ヲ海務局長ニ申請スルコトヲ得

來航シ又ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルトキ

第十條　總噸數一千噸以上ノ船舶ハ水先人ノ水路嚮導アルニ非サレハ西港及東港內第二區ニ著發スルコトヲ得ス但シ老虎尾水道ヲ通過セムトスル航セサルトキ又ハ海務局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

海務局長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總噸數一千噸未滿ノ船舶ト雖モ前項ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

水先人ヲ要スル船舶ハ口頭又ハ萬國船舶信號ノPT旗ヲ揭ケ水先人ヲ海務局ニ請求スヘシ

水路嚮導料ハ別ニ之ヲ告示ス

第十一條　水先人船舶ニ乘込ミタル場合ト雖モ船舶ノ指揮ハ船長ノ責任トス

第十二條　水路嚮導ヲ要シタル船舶ノ船長ハ船名、國籍、總噸數、所有者名、代理店名、出入港當時ノ各吃水及水路嚮導ヲ要シタル日時、區域ヲ記載シ記名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付スヘシ

第十三條　船舶入港シタルトキハ著港後二十四時間內ニ海務局ニ船員名簿ヲ謄寫ヲ提出シ同時ニ船舶國籍證書又ハ之ニ代ルヘキ證書及最近發航地ノ出港免狀ヲ預クヘシ但シ船客、貨物ノ積卸ヲ爲サシテ著港後二十四時間內ニ出港スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ預リタル書類ハ出港許可ト同時ニ之ヲ還付ス

支那形船及小廻船ニ在リテハ別記第五號書式ノ著港届ヲ提出シ第一項ノ書類ニ代フルコトヲ得

第十四條　船舶ハ出港一時間前ニ別記第三號書式ノ（支那形船ニ在リテハ別記第六號書式ノ）出港届ヲ提出シ別記第四號書式ノ出港許可證ヲ受クルニ非サレハ出港スルコトヲ得ス

船舶ハ出港十二時間前ヨリ出帆旗ヲ前檣頭ニ揭ケ出港ノ意ヲ表示スヘシ

第十五條　出港許可證ヲ受ケタル後二十四時間以上碇泊スル船舶ハ更ニ前二條ノ手續ヲ爲スニ非サレハ出港スルコトヲ得ス但シ荷役ヲ爲ササル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　出港シタル船舶避難、修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間內ニ歸港シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル届書ヲ海務局ニ提出シ著港届ニ代フルコトヲ得

第十七條　左ニ揭クル以外ノ場所ニ於テ貨物ノ積卸又ハ船客船員ノ上陸若ハ乘船ヲ爲スコトヲ得ス但シ海務局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　西港汐見崎ヨリ朝日町第二標木ニ至ル沿岸

二　第二區內第二標木ヨリ第一標木ニ至ル朝日町嚴島町沿岸及下關波止場竝東港北岸

爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ危險物ノ積卸場ハ汐見崎西岸トス

第十八條　老虎尾水道內出入船舶ノ航路ハ白玉山高低導燈ヲ一直線ニ視ル線ヨリ東西各百米ノ幅ヲ以テ南方ニ走ル竝行線內トス

前項ノ航路ノ延長ハ老虎尾水道南端ノ浮標ヨリ五百米トス

第十九條　前條ノ航路ヲ航行セムトスルトキハ入港船ハ老虎尾水道外ニ於テ出港船ノ航路ヲ避クヘシ

船舶ハ老虎尾水道竝前條ノ航路ニ於テ濫ニ停留若ハ投錨シ又ハ被曳船ヲ放チ其ノ他航路ノ妨害ト爲ルヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

帆船ハ老虎尾水道ニ於テ縱航スヘカラス

第二十條　海務局長ハ船舶又ハ物件ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　現ニ傳染病患者若ハ死者アルトキハ停船ヲ命シ患者、死者又ハ物件ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ一定ノ期間船客、船員ヲ檢疫所又ハ船內ニ停留スルコト

二　航海中傳染病患者又ハ死者アリタルモノニハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

三　傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノニシテ必要アリト認ムルトキハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

四　停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノヲ發見シタルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

五　傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

六　發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ又ハ傳染病源體保有者ノ檢索ヲ爲スコト

七　別記第一號書式第二十二號ニ揭クル物件ニ對シテハ消毒、燻蒸其ノ他ノ處分ヲ爲スコト

八　必要アリト認ムルトキハ消毒ノ爲所定ノ場所ニ廻航セシムルコト

前項第一號及第三號ノ規定ニ依ル停船期間ハ消毒又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ペスト」ハ十日以內、「コレラ」、黃熱ハ五日以內ト又第三號ノ場合ニ於ケル期間ノ算定ハ傳染病流行地ヲ發シタル時又ハ其ノ地ヲ經過シタル時若ハ傳染病毒ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二十八條　船舶及物件ノ消毒費、停留人ノ食費、患者及死者ニ關スル費用ハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ヨリ之ヲ徵收ス

第二十九條　船舶ハ健全證書ノ交付ヲ海務局長ニ申請スルコトヲ得

第二十一條　港內ニ於ケル船舶ハ繫船壁又ハ棧橋ニ著發スル場合ヲ除クノ外其ノ周圍二百米以內ニ停留スヘカラス

第二十二條　船舶老虎尾水道ヲ通過セムトスルトキハ錨ヲ捲揚ケ海底電纜ニ對スル危害ヲ豫防スヘシ

第二十三條　本令ニ於テ傳染病トハ「コレラ」、痘瘡、猩紅熱、「ペスト」、黃熱及發疹「チフス」ヲ謂フ

傳染病源體保有者ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

第二十四條　在港中ノ船舶其ノ船內ニ傳染病、赤痢、腸「チフス」、「パラチフス」、「ヂフテリヤ」、流行性腦脊髓膜炎又ハ其ノ疑アル患者發生シタルトキハ檢疫信號ヲ揭ケ海務局官吏ノ指揮ヲ受ケ更ニ別記第二號書式ノ交通許可證ヲ受クルニ非サレハ陸地若ハ他船トノ交通、船客若ハ船員ノ上陸又ハ物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス本項ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實ヲ發見シタルトキ亦同シ

第二十五條　海務局長必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ家畜傳染病豫防上其ノ他必要アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　船舶ノ消毒ヲ爲スコト

二　家畜又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類ニ對シテハ隔離、撲殺又ハ消毒等ノ處分ヲ爲スコト

第二十七條　海務局長ハ船舶又ハ物件ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　現ニ傳染病患者若ハ死者アルトキハ停船ヲ命シ患者、死者又ハ物件ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ一定ノ期間船客、船員ヲ檢疫所又ハ船內ニ停留スルコト

二　航海中傳染病患者又ハ死者アリタルモノニハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

三　傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノニシテ必要アリト認ムルトキハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

四　停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノヲ發見シタルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

五　傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

六　發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ又ハ傳染病源體保有者ノ檢索ヲ爲スコト

七　別記第一號書式第二十二號ニ揭クル物件ニ對シテハ消毒、燻蒸其ノ他ノ處分ヲ爲スコト

八　必要アリト認ムルトキハ消毒ノ爲所定ノ場所ニ廻航セシムルコト

前項第一號及第三號ノ規定ニ依ル停船期間ハ消毒又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ペスト」ハ十日以內、「コレラ」、黃熱ハ五日以內ト又第三號ノ場合ニ於ケル期間ノ算定ハ傳染病流行地ヲ發シタル時又ハ其ノ地ヲ經過シタル時若ハ傳染病毒ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二十八條　船舶及物件ノ消毒費、停留人ノ食費、患者及死者ニ關スル費用ハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ヨリ之ヲ徵收ス

第二十九條　船舶ハ健全證書ノ交付ヲ海務局長ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタルトキハ海務局長ハ其ノ船舶ノ健康狀態ヲ檢閱シ別記第七號書式ノ健全證書ヲ交付スヘシ

第三十條　常用外ノ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載シ入港スル船舶ハ晝間ハ赤旗、夜間ハ紅燈一箇ヲ前檣頭又ハ見易キ場所ニ揭ケ自由碇泊所ニ於テ海務局長ノ指揮ヲ俟ツヘシ

第三十一條　前條ノ爆發物トハ有煙火藥（Rc火藥、「シコルツ」火藥、棉火藥、各種「ダイナマイト」、「ブラスチングゼラチン」、「ゼリグナイト」、「ハアークルス」、「ゼラチングダイナマイト」、「カアーボニット」、「ウエーテル」、「マイ」、「コルダイト」、「バリスチット」、「ノーベルオルダー」ノ類、「ピクリン」酸、黃色火藥、「メリナイト」、「ロビライト」、「ノルネー」火藥、「ペマカリツト」、「フアーベル」、「アスフアリン」、「シエデツト」、「ドナリツト」、「アンモンカアーボニツト」、「コーレンカアーボニツト」、「アンモナアール」、「ナイトログリセリン」、硝安爆藥、雷酸鹽類（雷汞、雷銀ノ類）彈藥筒、實包、空包、藥筒、火藥又ハ爆藥ヲ裝塡シタル彈丸又ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、導火線、燃火ノ類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物件トハ生石油、「アルマ」油、「ランプオイル」、石油、「ナフター」、「テルピン」油、「エーテル」、「ベンゾル」、石油「ペンヂン」、「アセトン」、酒精及硫化炭素ノ類其ノ他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂フ

第三十二條　船舶ニ備附クル大砲一門毎ニ火藥五十發分、門管又ハ爆管七十箇、小銃一挺毎ニ實包又ハ空包百發分、雷管百五十箇及積載船舶相當量ノ信號用煙彈、火箭、焰管、救命焰等ニシテ適當ニ格納シタルモノヲ除クノ外爆發質ノ物件ハ總テ之ヲ常用外ト看做ス

容易ニ燃燒スヘキ物件ハ船舶ノ所用タルコトヲ證明シ得ルモノノ外總テ之ヲ常用外ト看做ス

第三十三條　東港外ニ於テ常用外ノ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積卸セムトスル船舶ハ其ノ品名、數量ヲ海務局長ニ届出テ所定ノ場所ニ於テ積卸ヲ爲スヘシ

前項ノ船舶ハ在港中晝間ハ赤旗、夜間ハ紅燈一箇ヲ前檣頭又ハ見易キ場所ニ揭クヘシ但シ海務局長ニ於テ排泄スルコトヲ得

第三十四條　火氣ヲ有スル汽艇又ハ端舶ニシテ赤旗又ハ紅燈一箇ヲ揭クル船舶ノ近傍ヲ運航スルトキハ安全ナル距離ヲ保チ成ルヘク風下側ヲ運航スヘシ、風上側ヲ運航スルノ已ムヲ得サル場合ニ於テハ特ニ安全ナル距離ヲ保ツヘシ

第三十五條　船舶東港外ニ於テ曳船ヲ爲シ又ハ竹木、筏其ノ他ノ物件ヲ曳クトキハ左ノ制限ニ從フヘシ但シ海務局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　曳船ノ船尾ヨリ艀船、竹木、筏其ノ他ノ物件ノ後端ニ至ル迄ノ距離ハ百米以内トスルコト

二　竝列シテ艀船又ハ端舶ヲ曳ク場合ニ在リテハ前號ノ距離ヲ超エサル限リ二隻トスルコト

三　艀船及端舶以外ノ船ヲ曳ク場合ハ一隻トスルコト

第三十六條　東港外ノ第二區及西港ニ碇泊中ノ船舶ハ其ノ後端ニ艀船、端舶、竹木其ノ他ノ物件ヲ繫留シ水路ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十七條　港內ニ於テ船舶其ノ搭載セル多數ノ竹木ヲ水上ニ卸サムトスルトキ及筏又ハ多數ノ竹木ヲ水上ニ繫留シ運行セムトスルトキハ海務局長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十八條　船舶港內ニ碇泊スルトキハ棧橋、繫船壁又ハ浮標ニ繫留スル場合ヲ除クノ外艤錨泊ヲ爲スヘシ但シ海務局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　港內ニ碇泊スル船舶ハ錨ニ浮標ヲ附スヘカラス

第四十條　汽艇、發動機艇、艀船、端舶、支那形船其ノ他橋檻ヲ以テ運航スル船舶ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第四十一條　前條ノ船舶ニシテ埠頭、棧橋、岬角、護岸ノ突端又ハ繫留船ノ一端ヲ回航スル場合ニ於テ之ヲ右ニ見テ航行スルトキハ小廻リ、左ニ見テ航行スルトキハ大廻リヲ爲スヘシ

第四十二條　船舶港內ヲ航行スルトキハ針路ヲ保ツニ必要ナル速力ニ止ムヘシ

港內ニ於テ船舶竝列シテ航行シ又ハ第十八條ノ航路及老虎尾水道ニ於テハ他船ノ前路ヲ橫切リ又ハ追越スヘカラス但シ汽艇其ノ他小廻船ニシテ危險ノ虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條　港內及其ノ沿岸ニ於ケル左ノ事項ハ關東長官ノ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更シ又ハ撤去セムトスルトキ亦同シ

一　棧橋ノ架設、埠頭ノ築造

二　海面ノ埋立、浚渫、海岸ノ掘鑿

三　運河隧道ノ開通、橋梁、鐵道ノ架設

四　浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置

五　第二區ノ沿岸（海軍用地ヲ除ク）ニシテ水面ヨリ百米以內ニ於ケル家屋倉庫其ノ他ノ築造物ノ新築

第四十四條　港內ニ於ケル左ノ事項ハ海務局長ノ許可ヲ受クヘシ

一　海面又ハ海底ニ於ケル工作物ノ施設、變更又ハ撤去

二　船舶航行ノ妨ト爲ルヘキ一切ノ作業

第四十五條　港內（東港ヲ除ク）ニ於テ船舶ノ運航ノ妨ト爲ルヘキ漁撈採藻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條　海務局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ西港內ニ於テ水泳ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條　繫留ノ爲設置シタル浮標其ノ他ノ物件ノ脅造物ニ非サルモノニ船舶其ノ他ノ物件ヲ繫留スヘカラス

第四十八條　船舶カ浮標立標其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタルトキハ其ノ修繕又ハ再設ノ費用ハ船長又ハ船舶ノ職務ヲ行フ者ノ之ヲ賠償スヘシ

第四十九條　第二區及西港ノ水面其ノ海岸竝之ニ注流スル水流ニハ塵芥、灰燼、油類其ノ他ノ物件ヲ委棄スヘカラス但シ油類ハ第三區（西港ヲ除ク）ニ於テ排泄スルコトヲ得

東港外ニ於テ荷足其ノ他土砂ノ類ヲ放棄セムトスルトキハ海務局長ノ指揮ヲ受クヘシ

船舶ニシテ塵芥、灰燼其ノ他ノ物件ヲ處分スル爲艀船ヲ要スルトキハ萬國船舶信號ノF旗又ハ籃ヲ揭クヘシ

前項艀船ニ要スル費用ハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ノ負擔トス

第五十條　港內ニ於テ石炭其ノ他海底ニ堆積スル虞アル物件ヲ積卸セムトスルトキハ水中ニ飛落スルコトヲ豫防スル爲必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第五十一條　船舶ハ海務局官吏又ハ警察官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

臨檢官吏ノ要求アルトキハ船長其ノ他ノ乘組員ハ之ニ應シ必要ナル便宜ヲ與フヘシ

第五十二條　在港中ノ船舶警察官吏ノ救援ヲ要スルトキハ晝間ハ萬國船舶信號ノG旗ヲ揭ケ夜間ハ藍火又ハ閃火ヲ示スヘシ

第五十三條　在港中ノ船舶火ヲ失シタルトキハ時鐘若ハ之ニ類似ノ振鳴器ヲ連打シ又ハ汽笛ヲ連吹シ晝間ハ萬國船舶信號ノM旗ヲ揭ケ夜間ハ號火、火箭等ヲ用ヰテ見易キ發火信號ヲ爲シ且斷エス紅燈ヲ上下スヘシ

船舶危急ノ場合ニ遭遇シ救助ヲ要スルトキ亦同シ但シ晝間ハ萬國船舶信號ノNC旗ヲ揭クヘシ

第五十四條　海務局長ハ第三區內ニ於テ船舶ニ危害ヲ及ホスノ虞アル難破物、委棄物其ノ他ノ物件ハ期間ヲ定メ義務者ヲシテ之ヲ取除カシメ又ハ破壞セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ義務者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ海務局長之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメ其ノ費用ハ義務者ヨリ之ヲ徵收ス

第五十五條　廢船其ノ他船舶ニ等シキ形體ヲ有スル工作物ニハ本令中船舶ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十六條　海務局長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ニシテ航海中特ニ危險ヲ惹起スルノ虞アリト認ムルトキハ一時其ノ出港ヲ差止ムルコトヲ得

一　乾舷記號ヲ有スル船舶ニシテ制限吃水ヲ超エテ貨物ヲ搭載シタルトキ

二　貨物積載方不完全ニシテ傾斜甚シキトキ

三　航海ニ適セサル事故アリタルトキ

第五十七條　港內ニ於テ倉庫船及休業又ハ修繕セムトスル船舶ハ海務局長ニ届出テ碇泊位置ノ指定ヲ受クヘシ

第五十八條　艀船、端船、支那形船夜間港內ヲ航行スルトキハ舷上見易キ所ニ白燈ヲ揭クヘシ

第五十九條　港內ニ於テ特設信號ヲ用キムトスル者ハ海務局長ノ許可ヲ受クヘシ

第六十條　港內ニ於ケル船泊ハ海上衝突豫防法ノ規定其ノ他法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫ニ汽笛又ハ汽角ヲ吹鳴スルコトヲ得ス

第六十一條　船舶ノ艤裝、休業又ハ修繕ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ海務局長ハ相當船員ノ乘込ヲ命スルコトヲ得

第六十二條　本令又ハ本令ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條　本令又ハ本令ニ基ク處分中船舶ニ係ルモノニ付テハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者其ノ責ニ任ス

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乘組員カ本令ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六十四條　罰金、科料又ハ本令ニ依リ費用ノ負擔ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ完納セサルトキハ相當ノ擔保ヲ提供セサルトキハ其ノ船舶ノ出港ヲ許サス

第六十五條　本令中第三條乃至第五條、第十九條、第三十八條、第三十九條、第四十二條及第四十九條ハ內外國軍艦ニシテ入港ノ際第九條第二項各號ノ一ニ該當スル事實アルトキハ自由碇泊所ニ假泊シ檢疫信號ヲ揭クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ海務局官吏ハ軍艦長ト協議シ本令ノ規定ニ準シテ處分スヘシ

第六十七條　外國軍艦ノ乘員ハ關東長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ武裝ノ儘上陸スルコトヲ得ス但シ准士官以上ニシテ其ノ服裝ニ帶劍ノ制アルモノニシテ帶劍ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　本令ニ依リ關東長官ニ提出スヘキ書類ハ總テ海務局長ヲ經由スヘシ

附　則

本令ハ昭和二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別圖略ス）

（別記）

（第一號書式）

寄港届

船舶、種類……　船　丸

及名稱

二　國籍及船籍……　港

三　積量……（總噸數　純噸數）　積荷石數　石

四　長及吃水……長呎（現在船尾吃水　滿載船尾吃水　呎　呎　時　時）

五　船舶所有者……

六　代理店……

七　船客員數……名（船客ノ乘船場、等級、國籍、住所、身分、職業、男女、氏名、年齡ヲ記載スヘシ）

內譯

區分		一等	二等	三等	其ノ他ノ船客	合計	上陸客
男	女						
男	女						
男	女						
男	女						
計							
男	女						

（第一號書式別表ノ一）

船客明細書

船丸							
船長氏名	著港年月日	昭和　年　月　日午（前後）　時					
	乘船地	等級	國籍	族籍	住所	職業	男女別	氏名	年齡
		等	國	府縣			男		歲
		等	國	府縣			女		歲
		等	國	府縣			男		歲
							女		

日本人　支那人　外國人　計

八　乘組員ノ員數

上級員	甲板部	機關部	事務員	賄部	其ノ他	合計

九　發航地及發航年月日……

十　寄港地及著發年月日……

十一　爆發物若ハ容易ニ燃燒スヘキ物件搭載ノ有無若アラハ其ノ品名、數量

十二　航海中ニ於ケル海難又ハ危險物發見等ノ有無

十三　航海中出生、犯罪者ノ有無

十四　航海中、寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、痘瘡、猩紅熱、黃熱、發疹「チフス」又ハ該病疑似症患者及其ノ他病者ノ有無若アラハ其ノ病名

十五　航海中、寄港中第十四號ニ揭クル患者アリタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無

十六　航海中、寄港中及現在船中ニ鼠ノ有無

十七　他港ニ於テ檢查、消毒、停船ノ有無

十八　飲料水ヲ汲入レ又ハ食料ヲ積入レタル地名

十九　牛、羊其ノ他ノ獸類又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類搭載ノ有無若アラハ其ノ種類、數量及搭載地名

二十　航海中、寄港中及現在船中ニ病獸又ハ斃獸ノ有無

二十一　航海中、寄港中家畜傳染病發生シタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無

二十二　積荷中襤褸、古綿、古著、古皮、古羽毛、古敷物、古麻袋、古紙等ノ有無若アラハ其ノ搭載地名

二十三　揭荷ノ種類噸數（別表ノ通）

右昭和　年　月　日午　時　分著港候間及御屆候也

昭和　年　月　日

船長　　印

關東廳海務局御中

（第二號書式）

關東廳海務局

Marine Office, Kwantung Government.

交通許可證
Communication Permit.

交付年月日
Date Delivered.……

國籍船種船名
Flag, Rig, Name of Vessel.……

船長氏名
Name of Master.……

許可港
Port Permitted.……

臨檢官吏
Inspecting Officers.……

……

（第三號書式別表ノ一）

出港届

一　船舶、國籍、種類及名稱　　國船　丸

二　仕向港

三　寄港地

四　船客員數　　名（船客ノ上陸地、等級、國籍、住所、身分、職業、男女別、氏名、年齢別ハ別表トシテ記載スヘシ）

五　積荷ノ種類、噸數（別表ノ通）

右昭和　年　月　日午前後　時　分出港可致候間此段及御届候也

昭和　年　月　日

船長

關東廳海務局御中

（第一號書式別表ノ二）

輸入貨物表
Import Cargo List.

大連　昭和　年　月　日
Dairen,……192……

國籍船種
Flag, Rig……

船名
Vessel's Name……

品名 Articles.	噸數 Tonnage.	船積港 Where shipped.	摘要 Remarks.
穀類 Grain.			
食料品 Provision.			
機械類 Machinery.			
木材 Timber.			
セメント Cement.			
建築橋梁等ノ材料 Materials for Building & Bridge Construction, etc.			
綿絲 Cotton Yarn.			
綿布 Cotton Tissue.			
綿花 Cotton.			
燃料 Fuel.			
雜品 Miscellaneous.			
合計 Total.			

（第四號書式）

關東廳海務局

Marine Office Kwantung Government.

出港許可證
Port Clearance.

番號
No.……

交付年月日
Date Delivered.……

國籍船種船名
Flag, Rig, Name of Vessel.……

船長氏名
Name of Master.……

仕向地
Port of Destination.……

寄港地
Intermediate Port of Call.……

發航地
Port of Departure.……

（第三號書式別表ノ二）

輸出貨物表
Export Cargo List.

大連　昭和　年　月　日
Dairen,……192……

國籍船種
Flag, Rig……

船名
Vessel's Name……

品名 Articles.	噸數 Tonnage.	陸揚港 Where Landing.	摘要 Remarks.
豆類 Bean.			
穀類種子 Grain, Seed.			
豆油 Bean Oil.			
豆粕 Bean Cake.			
石炭 Coal.			
雜品 Miscellaneous.			
合計 Total.			

船容明細書

船　丸

船長氏名

出港年月日　昭和　年　月　日　午前後　時

上陸地等級	國籍	身分	住所	職業	男女別	氏名	年齢
等	國	縣府			女男		歲
等	國	縣府			女男		歲

（第五號書式）

單第　號　帆船著港届　發航港（所發航港）

届出人　船長氏名 代理店名

一船名　船員數 船石數　入港日時　昭和　年　月　日午時

一船主原籍氏名

關東廳海務局御中

輸入貨物品目	箇數或數量	備考

（第六號書式）

單第　號　帆船出港届　仕向港（所到著港）

届出人　船長氏名 代理店名

一船名　船員數 船石數　出港日時　昭和　年　月　日午時

關東廳海務局御中

輸出貨物品目	箇數或數量	備考

（第七號書式）

健全證書

現時當港ニハ傳染病ノ流行無之且本日出港（船名）ノ健康狀態良好ナルコトヲ證明ス

昭和　年　月　日

關東廳海務局長

●大連港規則

大正十四年四月二十四日關東廳令第二十二號

大連港規則左ノ通定ム

大連港規則

第一條　黃白嘴ヨリ東嘴子ニ至ル一線以內ノ水域ヲ大連港トス

第二條　港內ヲ分チテ左ノ三區トス

大連區　黃白嘴ヨリ北長山頂ニ引キタル一線ノ西南水域

柳樹屯區　大連區境界線ノ北長山南東岸ニ達シタル處ヨリ東嘴子ニ引キタル一線以北ノ水域

放泊區　大連、柳樹屯兩區以外ノ水域

第三條　大連區ヲ分チテ左ノ三區トス

第一區　濱町以東及同棧橋ニ在ル綠燈ト同埠頭ニ在ル紅燈トヲ一直線ニ北方ニ引キタル一線以東ノ水域

第二區　周家屯紅嘴ヨリ南七十三度東ニ引キタル一線以南及第一區西界線以西ノ水域

第三區　第二區以北ノ水域

柳樹屯區ヲ分チテ左ノ三區トス

第一區　老龍頭ヨリ棉花島角ニ引キタル一線以西ノ水域

第二區　棉花島角ヨリ黃嫂子角ニ引キタル一線以北ノ水域

第三區　第一區、第二兩區以外ノ水域

第四條　放泊區ヲ船舶ノ自由碇泊所トス

大連區寺兒溝棧橋附近ヲ危險物搭載船ノ碇泊所トス

前項碇泊所以外ノ各區ヲ一般船舶ノ碇泊所トス

第五條　海務局長必要ト認ムルトキハ船舶ノ碇泊所ヲ指定シ若ハ變更ヲ命シ又ハ運航ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條　港内ニ在ル船舶ハ海務局長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ碇泊所ヲ變更スルコトヲ得ス但シ風波災害其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ事由及碇泊所ヲ海務局長ニ届出ツヘシ

第七條　柳樹屯區ニ通航セムトスル船舶ハ豫メ海務局長ニ届出ツヘシ

第八條　船舶入航ノ場合ハ港外ヨリ碇泊所ニ就ク迄、出港ノ場合ハ碇泊所ヲ離ルルトキヨリ港外ニ出ツル迄壹間ハ國旗及信號符字ヲ表示シ夜間ハ所定ノ燈火ヲ揭クヘシ港内運航ノトキ亦同シ

第九條　關東州外ヨリ入港スル船舶ハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ受クヘシ

前項ノ船舶ハ入港前ヨリ檢疫信號ヲ揭クヘシ

檢疫信號ハ壹間ハ前檣頭ニ黃旗ヲ揭ケ夜間ハ同所ニ紅白二燈ヲ上下ニ連揭スルモノトス

第十條　前條ノ船舶ハ放泊區ニ假泊シ海務局官吏ノ臨檢ヲ受ケ第一號書式ノ著港届ヲ提出シ第二號書式ノ交通許可證ヲ受クルニ非サレハ陸地又ハ他船トノ交通、船客若ハ船員ノ上陸及物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條　關東州沿岸ノミヲ航行スル船舶入港シタルトキハ直ニ第一號書式ノ著港届ヲ差出スヘシ

前二條ノ規定ヲ準用ス

一　現ニ傳染病若ハ其ノ疑アル患者又ハ死者アリタルモノ

二　航海中傳染病若ハ其ノ疑アル患者又ハ死者アリタルモノ

三　傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノ

第十二條　總噸數一千噸以上ノ船舶ハ水先人ノ水路嚮導アルニ非サレハ左ノ場所ニ著發スルコトヲ得但シ海務局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　水先人船舶ニ乘込ミタル場合ト雖船舶ノ指揮ハ船長ノ責任トス

第十四條　船舶入港シタルトキハ著港後二十四時間内ニ海務局ニ船員名簿寫ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍證書又ハ之ニ代ルヘキ證書及最近發航地ノ出港免狀ヲ預ケヘシ但シ船客、貨物ノ積卸ヲ爲サスシテ著港後二十四時間内ニ出港スル場合ノ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依リ預リタル書類ハ出港許可ト同時ニ還付ス

支那形船及小蒐船ニ在リテハ第五號書式ノ著港届ヲ提出シ第一項ノ書類ニ代フルコトヲ得

第十五條　船舶ハ出港一時間前ニ支那形船及小蒐船ニ在リテハ第六號書式、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ第三號書式ノ出港届ヲ提出シ第四號書式ノ出港許可證ヲ受クルニ非サレハ出港スルコトヲ得ス

船舶ハ出港十二時間前ヨリ出帆旗ヲ前檣頭ニ揭ケヘシ但シ支那形船及小蒐船ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　出港許可證ヲ受ケタル後二十四時間以上碇泊スル船舶ハ更ニ前二條ノ手續ヲ爲スニ非サレハ出港スルコトヲ得但シ荷役ヲ爲ササル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　出港シタル船舶避難、修繕其ノ他ノ事故ノ爲出港後十二時間内ニ歸航シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル届書ヲ海務局ニ提出シ著港届ニ代フルコトヲ得

第十八條　左ニ揭ケル以外ノ場所ニ於テ貨物ノ積卸又ハ船客、船員ノ上陸若ハ乘船ヲ爲スコトヲ得ス但シ海務局長ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　沿岸

大連區第一區ノ埠頭、棧橋及第二區第一埠頭、甲埠頭、第二埠頭、乙埠頭、第三埠頭、丙埠頭、濱町埠頭、寺兒溝棧橋

二　海務局長必要ト認ムルトキハ總噸數一千噸未滿ノ船舶ト雖前項ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第十九條　防波堤内出入ノ航路ハ東入口兩燈臺ヨリ南七十度東及北八十度西ニ走ル弦行線内トス

前項ノ航路ノ延長ハ防波堤外ニ在リテハ防波堤東入口兩燈臺ヨリ二海里、防波堤内ニ在リテハ四鏈トス

第二十條　前條ノ航路内ニ於テハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出港船ノ航路ヲ避クヘシ

船舶ハ前條ノ航路内ニ於テハ入港船ハ其ノ他航路ノ航路ヲ避ケ又ハ被曳船ヲ放チ其ノ他航路ノ妨害ヲ爲スヘカラス

帆船ハ前條ノ航路内ニ於テ縱航スヘカラス

第二十一條　小形船及埠頭ニ著發スル船舶ヲ除クノ外海務局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ防波堤内ニ通航スルコトヲ得ス

第二十二條　船舶ハ埠頭又ハ棧橋ニ著發スル場合ヲ除クノ外其ノ周圍六百尺以内ニ停留スヘカラス

第二十三條　船舶防波堤ノ入口ヲ通過セムトスルトキハ錨ヲ捲揚ケ海底電線ニ對スル危害ヲ豫防スヘシ

第二十四條　本令ニ於テ傳染病ト稱スルハコレラ、疫痢、猩紅熱、ペスト、黃熱、發疹チフスヲ謂フ

傳染病源體保有者ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

第二十五條　在港中ノ船舶傳染病、赤痢、腸チフス、パラチフス、ヂフテリア、流行性腦脊髓膜炎若ハ其ノ疑アル患者發生シタルトキハ檢疫信號ヲ揭ケ海務局官吏ノ指揮ヲ受ケ更ニ第二號書式ノ交通許可證ヲ受クルニ非サレハ陸地又ハ他船トノ交通、船客若ハ船員ノ上陸及物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル事實ヲ發見シタルトキ亦同シ

第二十六條　海務局長必要ト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ船客及船員ノ健康診斷ヲ行フコトヲ得

第二十七條　海務局長ハ牛羊其ノ他ノ獸類又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類等ヲ搭載セル船舶ニ臨檢シ家畜傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　船舶ノ消毒ヲ爲スコト

二　家畜又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類ニ對シテハ隔離、撲殺、消毒等ノ處分ヲ爲スコト

第二十八條　海務局長ハ船舶又ハ物件ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ停船ヲ命シ患者、死者又ハ物件ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒方法若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要ト認ムルトキハ一定ノ期間船客、船員ヲ檢疫所又ハ船内ニ停留スルコト

二　航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

三　傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノハ必要ト認ムルトキ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

四　停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

五　傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

六　發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ若ハ傳染病源體保有者ノ檢索ヲ爲スコト

七　第一號書式第二十二號ニ揭ケル物件ニ對シテハ消毒、燒棄其ノ他ノ處分ヲ爲スコト

八　必要ト認ムルトキハ消毒ノ爲所定ノ場所ニ廻航セシムルコト

前項第一號ノ停船期間ハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ其ノ日以内ニコレラ、黃熱ハ五日以内トス但シ前項第三號ノ場合ニ於テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經過シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス

第二十九條　船舶及物件ノ消毒費、停留人ノ食費、患者死者ニ關スル費用ハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ヨリ之ヲ徵收ス

第三十條　船舶ハ健全證書ノ交付ヲ海務局長ニ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタルトキハ海務局長ハ其ノ船舶ノ健康狀態ヲ檢閱シ第七號書式ノ健全證書ヲ交付スヘシ

第三十一條　常用外ノ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ搭載シ入港スル船舶ハ壹間ハ赤旗、夜間ハ紅燈一箇ヲ前檣頭又ハ見易キ場所ニ揭ケ放泊區ニ在リテ海務局官吏ノ指揮ヲ俟ツヘシ

第三十二條　前條ノ爆發物ト稱スルハ有煙火藥、無煙火藥（DK火藥シエルツ火藥）、綿火藥、各種ダイナマイト（ブラスチングゼラチン、ゼリグナマイト、カアーボニットハードアークルス、ゼラチンダイナマイト、ノーベルオルダーノ號）コルダイト、パリスチット、ノーベルダーノ號）、硝酸、黃色火藥、メリニットヒクリン酸、ペル火藥、ペライト、ロピライト、ノルネー火藥、マカリット、フアーベル、アスフアリン、シエデット、ドナリット、アンモンカアーボニット、コーレングアーボニット、アンモナアール、ナイトログリセリン、硝安爆藥、雷酸鹽類（雷汞、雷銅）、彈藥筒、實包、空包、藥筒、火藥又ハ爆藥ヲ裝塡シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、導火線、煙火ノ類ヲ謂ヒ容易ニ燃燒スヘキ物件ト稱スルハ生石油（ブルマ油、テングトン）、石油、ナフター、的列拉（粗ロック油ヲ包含ス）、底油、依的兒、偏蘇爾、石油偏疎、アセトン、酒精及硫化炭素ノ類其ノ他華氏九十五度以下ノ熱度ニ依リ發火スヘキ氣體ヲ發スルモノヲ謂フ

第三十三條　船舶ニ備附クル大砲一門毎ニ火藥五十發分門管又ハ爆管七十箇、小銃一挺毎ニ實包又ハ空包百發分雷管百五十箇及積載船舶相當量ノ信號用揚彈、火箭、焰管、救命焰等ニシテ適當ニ格納シタルモノヲ除クノ外爆發質ノ物件ハ總テ之ヲ當用外ト看做ス

容易ニ燃燒スヘキ物件ハ船舶所用ノ目的ヲ證明シ得ルモノノ外總テ之ヲ當用外ト看做ス

第三十四條　常用外ノ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ヲ積卸セムトスル船舶ハ其ノ品名、數量ヲ海務局長ニ届出テ所定ノ場所ニ於テ積卸ヲ爲スヘシ

前項ノ船舶ハ在港中壹間ハ赤旗、夜間ハ紅燈一箇ヲ前檣頭又ハ見易キ場所ニ揭ケヘシ

第三十五條　火氣ヲ有スル汽艇又ハ端船ニシテ赤旗又ハ紅燈一箇ヲ揭ケル船舶ノ近傍ヲ運航スルトキハ安全ナル距離ヲ保チ成ルヘク風下側ヲ運航スルノ已ムヲ得サル場合ニ於テハ十分安全ナル距離ヲ保ツヘシ

第三十六條　海務局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港内ニ於テ火器又ハ爆發物ノ發射發火ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條　船舶港内ニ於テ曳船ヲ爲シ又ハ竹木、筏其ノ他ノ物件ヲ曳クトキハ海務局長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ港内ニ於テ多數ノ竹木、筏其ノ他ノ物件ヲ水上ニ卸サムトスルトキハ海務局長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十八條　船舶ハ碇泊中ノ船舶ノ其ノ後端ニ、舷側ニ、船端、端船、竹木其ノ他ノ物件ヲ繫留シ水路ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第三十九條　港内ニ於テ多數ノ竹木、筏其ノ他ノ物件ヲ水上ニ卸サムトスルトキハ海務局長ノ許可ヲ受クヘシ

第四十條　船舶港内ニ碇泊スルトキハ棧橋又ハ艀標ニ繫留スル場合ヲ除クノ外雙錨泊ヲ爲スヘシ但シ海務局長ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條　港内ニ碇泊スル船舶ハ錨ニ艀標ヲ附スヘカラス

第四十二條　港内ニ於テ汽艇、發動機艇、艀船ニ臨檢シ家畜傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　船舶ノ消毒ヲ爲スコト

二　家畜又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類ニ對シテハ隔離、撲殺、消毒等ノ處分ヲ爲スコト

第二十八條　海務局長ハ船舶又ハ物件ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　現ニ傳染病患者若ハ死者アルモノハ停船ヲ命シ患者、死者又ハ物件ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒方法若ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要ト認ムルトキハ一定ノ期間船客、船員ヲ檢疫所又ハ船内ニ停留スルコト

二　航海中傳染病患者若ハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

三　傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルモノハ必要ト認ムルトキ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

四　停船中傳染病患者若ハ死者又ハ傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アルコトヲ發見シタルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト

五　傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト

六　發航地若ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ若ハ傳染病源體保有者ノ檢索ヲ爲スコト

七　第一號書式第二十二號ニ揭ケル物件ニ對シテハ消毒、燒棄其ノ他ノ處分ヲ爲スコト

八　必要ト認ムルトキハ消毒ノ爲所定ノ場所ニ廻航セシムルコト

前項第一號ノ停船期間ハ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ其ノ日以内ニコレラ、黃熱ハ五日以内トス但シ前項第三號ノ場合ニ於テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經過シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス

繕セムトスル船舶ハ海務局長ニ屆出テ碇泊所ノ指定ヲ受クヘシ

第五十九條　舢舨、端船、支那形船夜間港内ヲ航行スルトキハ舷上見易キ所ニ白燈ヲ掲クヘシ

第六十條　港内ニ於テ特設信號ヲ用ヰムトスル者ハ海務局長ノ許可ヲ受クヘシ

第六十一條　船舶ハ海上衝突豫防法ノ規定其ノ他法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濃霧若ハ汽角ヲ吹鳴スルコトヲ得ス

第六十二條　船舶ノ艤裝、休繋又ハ修繕ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ海務局長ハ相當船員ノ乘込ヲ命スルコトヲ得

第六十三條　本令ニ規定スル方位ハ總テ眞方位トス

第六十四條　本令又ハ本令ニ基ク處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十五條　本令又ハ本令ニ基ク處分中船舶ニ係ルモノニ付テハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者其ノ責ニ任ス

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ其ノ船舶ノ乘組員カ本令ニ違反シタル場合ニ於テ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六十六條　罰金、科料又ハ本令ニ依リ負擔スヘキ費用ヲ完納スルカ若ハ相當ノ擔保物ヲ提供スルニ非サレハ其ノ船舶ノ出港ヲ許サス

第六十七條　本令中第四條乃至第六條、第十二條、第二十條、第二十二條、第四十條、第四十一條、第四十四條及第五十條ヲ除クノ外ハ内外國軍艦ニ之ヲ適用セス

第六十八條　内外國軍艦ニシテ入港ノ際第十一條第二項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長又ハ醫官ヨリ書面ヲ以テ海務局官吏ニ其ノ旨通告スヘシ

第六十九條　内外國軍艦ニシテ入港ノ際第十一條第二項各號ノ一ニ該當スル事實アルトキハ放泊區ニ假泊シ檢疫信號ヲ掲クヘシ入港後傳染病患者發生シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ海務局官吏ハ艦長ト協議シ本令ノ規定ニ準シテ處分スヘシ

附　則

本令ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス大連港則ハ之ヲ廢止ス

（第一號書式）

著港届

一　船舶、種類及名稱…　船　丸
二　國籍及船籍港名…　國　港
三　積量……（總噸數　登簿噸數）　噸　積石數　石
四　長及吃水：長　呎（現在船尾　滿載船尾）　吃水　呎　吋　吃水　呎　吋
五　船舶所有者……
六　代理店……
七　船客員數……名（船客ノ乘船地、等級、國籍、住所、身分、職業、男女、氏名、年齡別ハ別表ニテ記載スヘシ）

内譯

區分	一等	二等	三等	其ノ他ノ船客	合計	上陸客	男	女
日本人	男							
	女							
支那人	男							
	女							
外國人	男							
	女							
計								

八　乘組員ノ員數

上級部員	甲板部	機關部	事務員	賄部	其ノ他	合計

九　發航地及發航年月日……
十　寄港地及著發年月日……
十一　爆發物若ハ容易ニ燃燒スヘキ物件搭載ノ有無若アラハ其ノ品名、數量
十二　航海中ニ於ケル海難又ハ危險物發見等ノ有無
十三　航海中出生、犯罪者ノ有無
十四　航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、疫癘、猩紅熱、黄熱、發疹チフス又ハ該病疑似症患者及其ノ他病者ノ有無若アラハ其ノ病名
十五　航海中寄港中第十四號ニ掲クル患者アリタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無
十六　航海中寄港中及現在船中ニ鼠ノ有無
十七　他港ニ於テ檢査、消毒、停船ノ有無
十八　飲料水ヲ汲入レ又ハ食料ヲ積入レタル地名
十九　牛羊其ノ他ノ獸類又ハ其ノ屍體、肉、皮、毛骨類搭載ノ有無若アラハ其ノ種類、數量及搭載地名
二十　航海中寄港中及現在船中ニ病獸又ハ斃獸ノ有無
二十一　航海中寄港中家畜傳染病發生シタル船舶又ハ疑ハシキ船舶ト交通ノ有無
二十二　積荷中襤褸、古綿、古著、古皮、古羽毛、古敷物、古麻袋、古紙等ノ有無若アラハ其ノ搭載地名
二十三　積荷ノ種類噸數（別表ノ通）

右大正　年　月　日午前後　時　分著港候間及御屆候也

大正　年　月　日　船長　印

關東廳海務局　御中

（第一號書式別表）

輸入貨物表
IMPORT CARGO LIST.

大連　大正　年　月　日
Dairen,.....192....

國籍、船種
Frag, Rig.....

船名
Vessels, Name.....

品名 Articles.	噸數 Tonnage.	積港 Where shipped.	摘要 Remarks.
穀類 Grain.			
食料品 Provision.			
機械類 Machinery.			
木材 Timber.			
セメント Cement.			
建築橋梁等ノ材料 Materials for Building & Bridge Construction, etc.			
綿糸 Cotton yarn.			
綿布 Cotton Tissue.			
棉花 Cotton.			
燃料 Fuel.			
雜品 Miscellaneous.			
合計 Total.			

（第一號書式別表）

船客明細書

船丸　著港年月日　大正年月日午前後時

船長氏名	乘船地	等級	國籍	族籍身分	住所	職業	男女別	氏名	年齡
		等	國	縣府			男 女		歲

（第二號書式）

關東廳海務局

Marine Office, Kuantung Government.

交通許可證
Communication Permit.

交付年月日
Date Delivered,.....

國籍、船種、船名
Flag, Rig, Name of Vessel.....

船長氏名
Name of Master.....

許可港
Port Permitted.....

臨檢官吏
Inspecting Officers.....

.....

（第三號書式）

出港届

一　船舶、國籍、種類及名稱　國　船　丸
二　仕向港
三　寄港地
四　船客員數　名（船客上陸地、等級、國籍、住所、身分、職業、男女氏名、年齡別ハ別表トシテ記載スヘシ）
五　積荷ノ種類、噸數（別表ノ通）

右大正　年　月　日午前後　時　分出港可致候間此段及御屆候也

大正　年　月　日　船長

關東廳海務局　御中

（第三號書式別表）

輸出貨物表
EXPORT CARGO LIST.

大連　大正　年　月　日
Dairen,.....192....

國籍、船種
Frag, Rig.....

船名
Vessel's Name.....

品名 Articles.	噸數 Tonnage.	陸揚港 Where landing.	摘要 Remarks.
豆類 Bean.			
穀類、種子 Grain. Seed.			
豆油 Bean oil.			
豆粕 Bean Cake.			
石炭 Coal.			
雜品 Miscellaneous.			
合計 Total.			

（第四號書式）

船客明細書

船丸　出港年月日　大正　年　月　日午前後　時

船長氏名	上陸地	等級	國籍	族籍身分	住所	職業	男女別	氏名	年齡
		等	國	縣府			男 女		歲

局務海廳東關

Marine Office, Kuantung Government.

出港許可證
Port Clearance.

番號
No. .....

交付年月日
Date Delivered. .....

國籍・船種・船名
Flag, Rig, Name of Vessel. .....

船長氏名
Name of Master. .....

仕向地
Port of Destination. .....

寄港地
Intermediate Port of Call. .....

發航地
Port of Departure. .....

（第五號書式）

單第　號　帆船著港扇發航港（所發航港）

一船名　船員數 船名數　届出人 船長氏名 代理店名

一船主原籍氏名　入港日時大正年月日午時

關東廳海務局御中

入貨物品目	箇數或數量	備考

（第六號書式）

單第　號　帆船出港扇仕向港（所到著港）

一船名　船員數 船名數　届出人 船長氏名 代理店名

出港日時大正年月日午時

關東廳海務局御中

輸出貨物品目	箇數或數量	備考

（第七號書式）

健全證書

現時當港ニハ傳染病ノ流行無之且本日出港（船名）ノ健康狀態良好ナルコトヲ證明ス

大正　年　月　日

關東廳海務局長

●旅順港取締規則及大連港規則ニ依ル船舶物件ノ消毒費停留人ノ食費患者死者其ノ他ニ關スル費用及手數料

明治四十三年十月二十六日 關東都督府令第三十五號
改正 大正八年廳令第三二號、一四年第三四號

旅順港取締規則及大連港規則ニ依ル船舶物件ノ消毒費、停留人ノ食費、患者、死者其ノ他ニ關スル費用及手數料左ノ通定ム

船舶消毒費

登簿噸數百噸未滿	二十圓
同百噸以上一千噸未滿	四十圓
同一千噸以上二千噸未滿	六十圓
二千噸以上一千噸未滿ヲ增ス每ニ二十圓ヲ加フ	
局部消毒費	一箇ニ付　三十錢
積荷消毒費ハ各其ノ四分ノ一トス	
船客船員ノ衣服手荷物所持品ノ消毒費	
一等船客及之ニ準スヘキ船員一人分ニ付	二圓
二等船客及之ニ準スヘキ船員一人分ニ付	一圓
三等船客及之ニ準スヘキ船員一人分ニ付	二十錢

檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費

一等船客及之ニ準スヘキ船員一人一日分ニ付	三圓
同　洋食	六圓
二等船客及之ニ準スヘキ船員一人一日分ニ付	一圓五十錢
三等船客及之ニ準スヘキ船員一人一日分ニ付	九十錢
同　支那人	六十錢

一日ニ充タサルトキハ一日分ノ三分ノ一ヲ以テ一食分トシテ計算ス

患者死者ニ關スル費用

患者賄費　一人一日分ニ付	五十錢
死者ニ關スル費用　實費	實費
畜類ノ隔離停留其ノ他ノ費用　實費	實費
輸出入制限品（羅摸、古綿、古麻袋等）ノ消毒費消毒證明書交付手數料	
消毒物品　一箇ニ付	五錢
消毒證明書交付手數料　一通ニ付	五十錢
船舶檢査證明及其ノ他ノ手數料　一通ニ付	五十錢
健全證書交付手數料　一通ニ付	五圓

附則

本令ハ明治四十三年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●夜間大連港入港船舶臨檢請求方

明治四十四年九月三十日 關東都督府告示第七十五號

定期郵便船又ハ特ニ緊急ヲ要スル船舶ニシテ夜間大連港ニ入港セムトスルモノハ成規ノ檢疫信號ヲ揭クルノ外汽笛長三聲ヲ發シ海務局官吏ノ臨檢ヲ求ムヘシ

前項ノ船舶ハ豫メ船主又ハ代理店ヨリ其ノ旨海務局ニ届出ツヘシ

第十款　棧橋及繫船浮標

●稅關棧橋及繫船岸壁使用規則

大正六年十二月一日 大藏省令第三十四號

稅關棧橋及繫船岸壁使用規則左ノ通定ム

稅關棧橋及繫船岸壁使用規則

第一條　稅關所屬ノ棧橋又ハ繫船岸壁ニ船舶ヲ繫留セムトスル者ハ附錄樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ使用料ヲ納付スヘシ但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ計算セス

一　繫留二十四時以內ノトキ　登簿噸數一噸ニ付	二錢
二　繫留二十四時ヲ超ユルトキ　同	三錢
三　繫留九十六時ヲ超ユルトキ　同	前號ノ金額ニ超過時間二十四時毎ニ一錢ヲ加フ

前項ノ繫留時間ニハ稅關ノ休日及稅關長ノ命令ニ依リ一時棧橋又ハ繫船岸壁ヲ離レタル時間ヲ算入セス但シ稅關ノ休日カ船舶ヲ繫留シ初日又ハ解纜シタル日ナルトキ又ハ貨物積卸ノ特許ヲ受ケタル日ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　許可ヲ受ケタル繫船期間滿了後倘引續キ繫留セムトスル者ハ附錄樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ納付スヘキ使用料ハ最初繫留ノ時ヨリ通算シタル繫

留時間ニ相當スル使用料額ヨリ既納ノ分ヲ控除シタル金額トス

第四條　繫留ノ許可ヲ受ケタル船舶ハ稅關ノ指定スル場所ニ繫留スヘシ

稅關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ繫留場所ヲ變更シ若ハ一時之ヲヨリ離レシムルコトアルヘシ

第五條　稅關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ繫留ノ許可ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テ既納ノ使用料ハ之ヲ還付ス

第六條　既納ノ使用料ハ前條ノ場合ヲ除クノ外之ヲ還付スルコトナシ

第七條　爆發質若ハ燃燒質ノ物品、石炭、荷足又ハ他物ヲ汚損スヘキ物品ハ棧橋又ハ繫船岸壁ニ於テ陸揭若ハ船積スルコトヲ得ス但シ稅關長ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

稅關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ前項以外ノ物品ト雖倘棧橋又ハ繫船岸壁ニ於テ之カ陸揭若ハ船積ヲ禁スルコトヲ得

第八條　繫留中ノ船舶、棧橋又ハ繫船岸壁ニ於テ「ピッチ」「タール」其ノ他燃燒質ノ物品ヲ煖ムルコトヲ得ス

第九條　繫留中ノ船舶ハ麻苧、灰燼、荷足等ヲ棧橋又ハ繫船岸壁ニ投棄スルコトヲ得ス

第十條　繫留中ノ船舶本令ノ規定又ハ稅關長ノ命令ニ違反スルトキハ稅關長ハ直ニ其ノ繫留場所ヨリ離レシムルコトアルヘシ

第十一條　稅關長ハ必要ト認ムル場合ニ於テ棧橋又ハ繫船岸壁ニ立入ルコトヲ禁止シ若ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第十二條　稅關長ハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ定期航海船又ハ當時棧橋又ハ繫船岸壁ヲ使用スル船舶業者ニ對シ期間ヲ定メテ使用料減額ノ特約ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

橫濱稅關棧橋及繫船岸壁ノ使用料ハ當分ノ內左ノ通定ム

一　繫留二十四時以內ノトキ　登簿噸數一噸ニ付	一錢
二　繫留二十四時ヲ超ユルトキ　同	一錢五厘
三　繫留九十六時ヲ超ユルトキ　同	前號ノ金額ニ超過時間二十四時毎ニ五厘ヲ加フ

附則

本令ハ大正十五年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年大藏省令第三十一號ハ之ヲ廢止ス

●繫船浮標使用料ニ關スル規程

昭和二年四月十五日 遞信省告示第九百四十號

開港港則施行規則第七條第三項ノ規定ニ依リ繫船浮標使用料ニ關スル規程左ノ通定メ昭和二年四月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十一年十月遞信省告示第二百六十六號及大正十五年十月十二日 大藏省令第四十三號

橫濱稅關棧橋及繫船岸壁ノ使用料ハ當分ノ內大正六年大藏省令第三十四號第二條第一項第一號乃至第三號ニ依ラス左記ニ依ル

一　繫留二十四時以內ノトキ　登簿噸數一噸ニ付	一錢
二　繫留二十四時ヲ超ユルトキ　同	一錢五厘
三　繫留九十六時ヲ超ユルトキ　同	前號ノ金額ニ超過時間二十四時毎ニ五厘ヲ加フ

附則

本令ハ大正十五年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年大藏省令第三十一號ハ之ヲ廢止ス

●繫船浮標使用規則

大正十四年八月十一日 遞信省告示第百五十二號
改正 大正十五年第一〇號

神戶鐵道棧橋使用規則左ノ通リ定ム

神戶鐵道棧橋使用規則

第一條　神戶鐵道棧橋ハ鐵道ニ跨リ運送セラルル貨物及省用品ヲ陸揭若ハ船積スル船舶

No.　棧橋　棧岸　書請申可許　船繼續船繫　船繫

船名	
船舶ノ所有者又ハ主船	
船籍	
航路	
全長	
入港吃水	
總噸數	
登簿噸數	
繫船繼續期間	
使用料	

申請者
申請年月日

（第二號樣式）

甲
乙
六分　六寸九分

丙 No. 15

鐵道省繫船承認證

船種
船名
數噸又ハ積石數　丸
登簿噸數又ハ積石數
船ノ全長

	自 月	自 日	自 時刻 午前	自 時刻 午後	至 月	至 日	至 時刻 午前	至 時刻 午後	期間計算 日	期間計算 時	割合	繫船料	記事
繫船期間													
繫船延期間													
期間合計													
追徴ヲ要スル料金													

摘要

大正　年　月　日

鐵道局　局長　棧橋　㊞

四寸五分

（黒色刷）　炭酸紙用

甲片ハ洋紙　乙、丙片ハ薄葉紙トス

○ヲ設ケ線斷切ニ目隱ハニ片乙甲シ但ス一同ト片丙ト片乙、甲

●敦賀鐵道棧橋使用規則

大正十四年十一月二十七日鐵道省告示第二百二十七號
改正　大正十五年第一〇號

敦賀鐵道棧橋使用規則左ノ通改ム

敦賀鐵道棧橋使用規則

第一條　敦賀鐵道棧橋ニ船舶ヲ繫留セントスルモノハ別記第一號樣式ノ繫船申込書ヲ棧橋長ニ提出シ之カ承認ヲ受クヘシ

第二條　繫船承認證ハ料金收入ノ證ニ之ヲ兼用シ甲片ハ申込者ニ交付シ乙片ハ所屬鐵道局經理課（調査掛）ニ送付シ丙片ハ控トシテ發行者ニ於テ保管スルモノトス

繫船料ノ還付ヲ爲ス場合ハ別ニ定ムル荷物貨訂正通知書ヲ發行スルモノトス

第三條　繫船料金ハ左ノ通トス

一　船舶所屬國ノ積量測度方法ニ依ル登簿噸數一噸ニ付　毎一日　金二錢

前項ノ繫船日數ハ二十四時間ヲ以テ一日トス但シ二十四時間未滿ノ端數ハ一日トシテ計算ス

第一項ノ料金計算ニ關シ一噸未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ算入セス

第四條　繫船時間ヲ延長セントスル者ハ期間滿了三時間前ニ其ノ日時ヲ棧橋長ニ申出テ之カ承認ヲ受ケヘシ

棧橋長ハ必要ニ應シ繫留箇所ヲ變更シ又ハ一時棧橋ヲ離レシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル費用ハ棧橋使用者ノ負擔トス

前項ニ依リ棧橋ヲ離レタル時間ハ第四條ノ繫船時間中ニ算入セス

第五條　繫船時間ヲ延長セントスル者ハ期間滿了三時間前ニ其ノ日時ヲ棧橋長ニ申出テ之カ承認ヲ受ケヘシ

棧橋長ハ前項ノ申込書ヲ調査シ差支ナシト認ムル時ハ別記第二號樣式ノ承認證ヲ交付スヘシ

第六條　繫船承認證ニ延期期間ヲ記入スヘシ

繫船申込者ニ於テ繫船又ハ其ノ延期ノ承認ヲ受ケタル時ハ直ニ繫船料ヲ納付スヘシ

第七條　繫船ノ承認ヲ受ケタル船舶ハ棧橋長ノ指定スル箇所ニ繫留スヘシ

棧橋長ハ必要ニ應シ繫留箇所ヲ變更シ又ハ一時棧橋ヲ離レシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル費用ハ棧橋使用者ノ負擔トス

前項ニ依リ棧橋ヲ離レタル時間ハ第四條ノ繫船時間中ニ算入セス

第八條　棧橋長ハ必要ニ應シ繫留ノ承認ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外既納繫船料ハ之ヲ還付セス

第九條　船舶カ棧橋ヲ離レントスルトキハ船長ハ其ノ旨棧橋長ニ屆出ツルコトヲ要ス

第十條　棧橋ニ於テハ一平方呎ニ付三分ノ一噸以上負荷スル重量品、爆發質若ハ燃燒質ノ物品又ハ他物ヲ汚染スル虞アル物品ノ陸揚、船積ヲ爲スコトヲ得サルモノトス但シ棧橋長ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニアラス

棧橋長ハ必要ニ應シ前項以外ノ物品ト雖モ陸揚若ハ船積ヲ禁止スルコトヲ得

第十一條　繫留中ノ船舶ハ棧橋又ハ船舶ノ甲板上ニ於テ火氣ヲ使用シ又ハ「ピッチ」「タール」其ノ他ノ燃燒性ノ物ヲ煖ムルコトヲ得ス

第十二條　繫留中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ失火アリタルトキハ船長ハ直ニ之ヲ棧橋長ニ報告スヘシ

第十三條　繫留中ノ船舶ニ傳染病患者又ハ失火アリタルトキハ棧橋長ハ繫船申込者ヲシテ之カ修繕ヲ爲サシムルモノトス

前項ノ場合ニ於テ繫船申込者カ遲滯ナク之カ修繕ヲ爲ササルトキハ省ニ於テ施工シ其ノ費用ヲ繫船申込者ヨリ徵收スルモノトス

第十四條　故意又ハ過失ニ依リ棧橋ヲ毀損シタルトキハ棧橋長ハ繫船申込者ヲシテ之カ修繕ヲナサシムルモノトス

前項ノ場合ニ於テ繫船申込者カ遲滯ナク之カ修繕ヲ爲ササルトキハ省ニ於テ施工シ其ノ費用ヲ徵收スルモノトス

第十五條　本規定ニ違背シ又ハ棧橋長ノ指揮ニ從ハサル船舶ハ棧橋ヨリ退去セシムルコトアルヘシ

附　則

第十六條　大正二年十二月鐵道院告示第百二十五號敦賀鐵道棧橋使用規則ハ之ヲ廢止ス

第十七條　本規則ハ大正十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

（第一號樣式）

六分五寸

繫船申込書

船名				國籍	
船種				船主又ハ借入者若ハ備船人	
數噸又ハ積石數				船長氏名	
登簿噸數又ハ積石數				入港吃水	
船ノ全長				總噸數	
繫船期間	自 月 日 午 時	至 月 日 午 時	時間	陸揚又ハ積品船數及名量	
繫船延期期間	自 月 日 午 時	至 月 日 午 時	時間		

摘要

也候込申上ノ知承則規用使橋棧道鐵

大正　年　月　日

申込者　㊞

中御省道鐵

五寸

上部左方ニ存保スルモノトス　㊞ハ申込者ノ署名ノ上ニ記入スルモノトス　番號ヲ付シテ繫船承認證ニ記入スルモノトス　本書ハ省ニ於テ備付ケルモノトス

（別記）

（第一號樣式）

分五寸六

五寸

繫船申込書

船名								籍國			
船種								借人又ハ貨船主若ハ傭			
登簿噸數								船名及氏長			
船長全ノ								水吃港入			
繫船期間	自	月	日	午時	時	午時	時	總噸數			
	至	月	日	午時	時	午時	時	積載品及數量			
繫船延期間	自	月	日	午時	時	午時	時	揚地ハ船名及			
	至	月	日	午時	時	午時	時				

摘要

也候込申上ノ知承則規用使橋棧道號

大正　年　月　日

申込者　㊞

中御省道鐵

ストノモスルス存保ニ驛上ノ入記ヲ號番證認承船繫ニ方左部上
ストノモスルス付交リ依リ請求ノ者込申シ備設ヲ之テ於ニ省ハ書本

（第二號樣式）

甲
乙
六寸九分
六分

丙 No. 15

鐵道省繫船承認證

船種
船名　丸　登簿噸數　船ノ全長

	自 月	自 日	自 時刻 午前	自 時刻 午後	至 月	至 日	至 時刻 午前	至 時刻 午後	計算期間 日	計算期間 時	割合	繫船料	記事
繫船期間													
繫船延期間々													
									計算期間合計				
									追徴スベキ料金				

摘要

大正　年　月　日

鐵道局　棧橋長　㊞

（黒色刷）　炭酸紙用

甲片ハ洋紙、乙、丙片ハ薄葉紙トス
甲、乙片ハ丙片ト同一トス但シ甲、乙片ニハ綴目ニ切斷線ヲ設ク

●稅關棧橋、繫船壁及船渠使用規則

大正十一年四月一日
關鮮滿遞好令第四十七號
改正　大正一三年第六三號、昭八三號

稅關棧橋、繫船壁及船渠使用規則左ノ通定ム

稅關棧橋、繫船壁及船渠使用規則

第一條　本令ニ於テ棧橋トハ釜山稅關所屬ノ第一棧橋及第二棧橋ヲ、繫船壁トハ元山稅關支署所屬ノ繫船壁ヲ、船渠トハ仁川稅關及鎭南浦稅關支署所屬ノ船渠ヲ謂ヒ、稅關又ハ稅關長トアルハ第六條ニ規定スル場合ヲ除クノ外稅關支署所屬ノ繫船壁又ハ船渠ニ付テハ稅關支署長トス

第二條　棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用セムトスル者ハ其ノ前日迄ニ第一號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ但シ稅關ノ承認ヲ受ケタル者ハ船舶ノ登簿噸數（噸ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ツ）前ニ付使用二十四時迄毎ニ二錢ノ割合ヲ以テ使用料ヲ前納スヘシ但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ計算セス

前條ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ納付スヘキ使用料ハ最初使用ノ時ヨリ逆算シタル使用時間ニ相當スル使用料額ヨリ既納ノ分ヲ控除シタル金額トス

第五條ノ二　使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ使用料ヲ納付セムトスル者ハ納付書又ハ第一號樣式ノ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ提出スヘシ

第三條　前條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ使用時間ヲ變更セムトスルトキハ稅關ノ許可ヲ受クヘシ

第四條　使用時間經過後引續キ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用セムトスル者ハ時間（三時迄ニ第一號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第五條　棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ船舶ノ登簿噸數（噸ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ツ）前ニ付使用二十四時迄毎ニ二錢ノ割合ヲ以テ使用料ヲ前納スヘシ但シ一噸未滿ノ端數ハ之ヲ計算セス

前條ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ納付スヘキ使用料ハ最初使用ノ時ヨリ逆算シタル使用時間ニ相當スル使用料額ヨリ既納ノ分ヲ控除シタル金額トス

第五條ノ二　使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ使用料ヲ納付セムトスル者ハ納付書又ハ第一號樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第六條　稅關長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ承ケ定期就行船舶又ハ常時棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用スル船舶ニ付テハ期間ヲ定メ使用料ヲ減額シ又ハ納付方法ヲ定ムルコトヲ得

戰時軍用ノ船舶ニ付テハ稅關長ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ使用料ヲ免除スルコトヲ得

第七條　既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス但シ使用ノ許可ヲ取消シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ棧橋、繫船壁若ハ船渠ノ使用ヲ停止シ、使用ノ許可ヲ取消シ、繫留ノ場所ヲ、變更シ又ハ一時棧橋、繫船壁若ハ船渠ヨリ離退セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ棧橋、繫船壁又ハ船渠ヲ使用セサル時間ハ之ヲ使用時間ニ算入セス此ノ場合ニ於テハ使用時間終了後之ニ相當スル時間ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得

第九條　棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用中ハ左ノ行爲スコトヲ得ス但シ第一號及第二號ノ行爲ハ稅關長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　船舶ノ修繕ヲ爲スコト

二　爆發貨若ハ引火貨ノ物品、石炭、荷足又ハ他物ヲ汚損スヘキ貨物ノ積卸ヲ爲スコト

三　荷足、灰燼、廢芥、汚物等ヲ水中ニ投棄スルコト

第十條　釜山稅關棧橋ノ使用ニ付テハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一　荷重ハ面積一坪ニ付第一棧橋ニ在リテハ基部ヨリ延長九十間ニ至ル海面沿幅五間ハ一千八十貫其ノ他ハ一百七十貫第二棧橋ニ在リテハ一千三百五十貫ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

二　第二棧橋ニ在リテハ中央二線ノ軌道上ニハ輕機關車以外ノ機關車、兩側ノ軌道上ニハ機關車又ハ自重共二十六噸以上ノ貨車ヲ通スルコトヲ得ス其ノ運轉速度ハ一時間六哩ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條　仁川稅關船渠關門ノ開閉時ハ稅關長ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　本令ニ規定スルモノノ外稅關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ棧橋、繫船壁又ハ船渠ノ使用ニ關シ制限ヲ設クルコトヲ得

●稅關所屬曳船使用規則

大正七年五月九日
朝鮮總督府令第四十八號
改正　大正七年第九九號、一一年第四八號、一二年第九三號、一三年第六四號

稅關所屬曳船使用規則左ノ通定ム

第一條　釜山稅關棧橋ニ船舶繫離ノ爲又ハ仁川船渠ニ船舶出入ノ爲稅關所屬ノ曳船ヲ使用セムトスル者ハ別記樣式ノ申請書ヲ稅關ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

第二條　曳船使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ納付書又ハ第一號樣式ノ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ提出スヘシ

第二條ノ二　使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ使用料ヲ納付セムトスル者ハ納付書又ハ第一號樣式ノ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ提出スヘシ

第三條　稅關長ハ必要アリト認ムルトキハ曳船使用ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコトヲ得

第四條　曳船カ船舶ノ曳船作業ニ從事中其ノ船舶ニ生セシメタル損害ニ付テハ稅關ハ其ノ責任セス

第五條　稅關棧橋、繫船壁及船渠使用規則第三條、第四條、第六條、第七條及第十三條ノ規定ハ曳船ノ使用ニ付之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式略ス）

●臺灣總督府港務所所屬曳船使用規則

大正十一年二月二十五日
臺灣總督府令第十二號

臺灣總督府港務所所屬曳船使用規則左ノ通相定ム

第一條　臺灣總督府港務所所屬曳船使用規則

若ハ船渠ニ於ケル繫離用ノ爲港務所所屬曳船ノ使用ヲ許可ス

第二條　曳船使用ノ許可ヲ得ムトスル者ハ別記ノ申請書ヲ前日迄ニ港務所ニ提出スヘシ

第三條　曳船使用料ハ一隻一回ニ付左記ノ區別ニ依リ港務所ニ納付スヘシ

一　汽船登簿噸數　六千噸以上　三十圓
二　汽船登簿噸數　六千噸未滿　二十圓
三　汽船登簿噸數　三千噸未滿　十五圓
四　西洋形帆船　十五圓以內
五　其ノ他ノ帆船　十圓以內

前項第四號第五號ノ料金ハ距離ノ遠近、風向、潮流等ノ關係ニ依リ港務所長之ヲ定ム

曳船ノ使用開始申請ヨリ二時間以上ヲ經過シタルトキハ爾後經過一時間迄毎ニ一隻ニ付金二圓ヲ港務所ニ納付スヘシ

第四條　內外國軍艦ニ對シテハ使用料ヲ徵收セス

港務所ノ必要ニ依リ又ハ特別ノ事由アル場合曳船ニ從事シタルトキ亦同シ

第五條　曳船カ曳船作業ニ從事中其ノ船舶ニ生セシメタル損害ニ付テハ賠償ノ責ニ任セス

曳船使用者ニ於テ曳船ニ損害ヲ生セシメタ

別記書式

書請申可許用使曳船

年　月　日

申請者住所氏名……㊞

宛長所務港隆基

也候間申請申度相成度許可許用使曳船ノ對ニ舶船記下

No

船名	船種	國籍	登簿順數	的目使用	使用日時	延長時間	使用料金
					月日午時	時間	

……切……取……線……

曳船使用許可書

年　月　日

長　所　務　港　隆　基

ス可許ヲ用使曳船ノ對ニ舶船記下

No

船名	船種	國籍	登簿順數	的目使用	使用日時	申請者
					月日午時	

ルトキハ賠償ノ責ニ任スヘシ

第六條　曳船作業準備後使用ノ取消ヲ願出ツルトキハ燃料其ノ他消耗品ノ實費ヲ徴收ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●基隆上家使用規則

大正九年二月十一日
鐵總省府令第九號

基隆上家使用規則左ノ通相定ム

基隆上家使用規則

第一條　本令ニ於テ上家ト稱スルハ基隆埠頭ニ於ケル上家ニシテ鐵道部長ノ指定シタルモノヲ謂フ

第二條　上家ハ鐵道部長之ヲ管理ス

第三條　上家ハ埠頭ヲ通過シテ船車ニ接續スル貨物ヲ入ルル爲一般ニ之ヲ使用スルコトヲ得但シ左ノ貨物ハ此ノ限ニ在ラス

一　危險品

二　他ノ貨物ヲ汚損スル虞アルモノ

三　燃料、木材、石材、鐵材其ノ他粗雜品及潤大物

埠頭ヲ通過シ船車ニ接續セサル貨物ト雖鐵道部長ノ承認ヲ得タルトキ亦前項ニ同シ

第四條　上家內ニ於ケル作業時間ハ日出ヨリ日沒迄トス但シ鐵道部長ノ承認ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　本令ニ定ムル檢査又ハ試驗ニ關スル規程ニ合格セサルトキハ成績書(第三號書式)ヲ交付ス

前二項ノ場合ニ在リテハ該船用品ニ成績書番號及別記雛形ノ乙號檢印ヲ附ス

第七條　檢査試驗手數料ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

特種ノ品質構造ヲ有スルモノ又ハ檢査試驗手數料ノ規定ナキモノノ檢査試驗手數料ハ別表ニ準シ其ノ都度之ヲ定ム其ノ豫メ手數料ヲ定メ難キモノニ在リテハ檢査又ハ試驗結了後之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ檢査又ハ試驗結了後指定ノ手數料ヲ納付スヘキ旨ヲ依頼書ニ記入セシム

第五條ノ規定ニ依ル檢査又ハ試驗ニ付テハ其ノ檢査試驗手數料ハ前二項ノ規定ニ依ル手數料ノ倍額トス

第八條　船用品合格證明書又ハ船用品檢査試驗成績書ノ交付手數料ハ一通ニ付一圓トス

檢査又ハ試驗ヲ依頼シタル者合格證明書又ハ成績書ノ複本若ハ抄本ヲ受ケムトスルトキハ申請書(第四號書式)ヲ其ノ合格證明書又ハ成績書ノ交付ヲ受ケタル遞信省管船局船用品檢査所又ハ其ノ支所ニ提出シ複本又ハ抄本ノ交付手數料ヲ納付スヘシ

船用品合格證明書又ハ船用品檢査試驗成績書ノ複本若ハ抄本ノ交付手數料ハ一通ニ付一圓トス

手數料ハ凡テ之ニ相當スル收入印紙ヲ手數料納付書(第五號書式)ニ貼附シテ納付スヘシ

檢査又ハ試驗ノ依頼ヲ取下ケル場合ト雖既ニ檢査又ハ試驗ニ著手シタルトキハ手數料ハ之ヲ徵收ス

第九條　檢査又ハ試驗依頼者ハ檢査品又ハ試驗品ノ運搬其ノ他檢査又ハ試驗ヲ行フ爲特種ノ費用ヲ要スルトキハ之ヲ負擔スヘシ

第十條　檢査品又ハ試驗品ノ檢査又ハ試驗中ノ滅失若ハ毀損ニ因ル損害ニ對シテハ賠償ノ責ニ任セス

第十一條　遞信省ノ檢査又ハ試驗ヲ詐稱シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

(別記雛形)

甲號檢印　乙號檢印

第一號書式

船用品檢査試驗依頼書

檢査試驗手數料金額　圓　錢

再檢査試驗手數料金額　圓　錢

合格證明書又ハ成績書交附手數料金額　圓　錢

計　圓　錢

一　檢査試驗品名、數量及用途

二　製造者住所及氏名又ハ名稱

三　製造年月

四　檢査試驗ノ種別

五　添附書類　何々何通

六　船用品檢査試驗規則第三條第一項但書ノ規定ニ依リ檢査試驗品ノ所在地ニ於テ檢査又ハ試驗ヲ受ケムトスルトキハ其ノ場所

右大正九年九月遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則ニ依リ檢査試驗依頼候也

年　月　日　住所　依頼者名印

遞信大臣宛

第二號書式

第　號

船用品合格證明書

住所　依頼者名

一　檢査試驗品名、數量及用途

一　製造者住所及氏名又ハ名稱

一　製造年月

一　檢査試驗ノ成績　別記明細書ノ通

右檢査試驗ノ結果　年　月遞信省令第　號ニ適合スルモノト認メ大正九年九月遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則第六條ニ依リ本證ヲ交付ス

年　月　日　遞信省印

第三號書式

第　號

船用品檢査試驗成績書

住所　依頼者名

一　檢査試驗品名及數量

一　製造者住所及氏名又ハ名稱

一　製造年月

一　檢査試驗ノ成績　別記明細書ノ通

右大正九年九月遞信省令第七十五號船用品檢査試驗規則第六條ニ依リ本書ヲ交付ス

年　月　日　遞信省印

第四號書式

複本
抄本　下付申請書

手數料金額

一　原本ノ種類　番號及交付年月日

二　物品名

三　複本ノ數
　抄本ノ數

右複本
抄本下付相成度申請候也

年　月　日　住所　申請者名印

遞信大臣宛

第五號書式

手數料納付書

手數料ノ種別	手數料算定ノ基礎	手數料金額
船用品檢査試驗手數料		圓　錢
船用品合格證明書	證明書	圓　錢
船用品檢査試驗成績書交付手數料	成績書	通　圓　錢
船用品合格證明書	證明書	圓　錢
船用品檢査試驗成績書複本抄本交付手數料	複本抄本	通　圓　錢
合計圓　錢		

右手數料納付候也

大正　年　月　日

(住所)

(氏名印)

遞信大臣　殿

別表

第一號　船用品檢査所檢査試驗細目表

檢査試驗種別	適用規格	手數料算定單位	手數料金額	備考
抗壓試驗	造船規程又ハ船舶檢査規程	截面積五平方吋以下	一箇	四・〇〇
		截面積五平方吋ヲ超エ一平方吋以下	一箇	二・五〇
		截面積一平方吋ヲ超ユルトキ	一箇	三・〇〇
試驗材ニ特種ノ處理ヲ		截面積五平方吋以下	一箇	一・〇〇

取扱檢査所名

鉚	鋲	材木材試驗			金屬線		貫空計	壓力計	鍛接		管				鑄又鍛ノ鋼ニ準ジ製可ノ品	
檢查	同	同	捲同試驗	捲解試驗	繰返屈折試驗	抗張試驗	同	壓力試驗	壓着試驗	材料檢查	扁壓試驗	壓流試驗	衝撃試驗	材料檢查	屈曲試驗
同	程鉚意試驗規	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇	一箇
同	程試器船檢鉦定命信規具號															

船燈甲種檢查	船燈乙種檢查	船燈甲種檢查	船燈乙種檢查	救命具	信號器	電氣信號器	羅針儀	測深器	測程儀	救命具	信號器	電氣信號器	羅針儀	測深器	測程儀
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

船燈ニ關スル備考
一　電氣信號器ニ關スル備考
二　ニ揭ケル手數料ヲ徴收スル船燈ニ付テハ本表ニ揭ケル電氣信號器ニ關スル備考ヲ參照シ標本試驗ヲ行フコト
三　本表ニ揭ケル手數料ヲ徴收スル船燈ニ付テハ本表ニ揭ケル電氣信號器ニ關スル備考ヲ參照シ標本試驗ヲ行フコト

救命具ニ關スル備考
一　救命具ニ關スル備考ニ揭ケル安定ニ付テハ本表ニ揭ケル手數料ヲ徴收スル救命具ニ付テハ本表ニ揭ケル手數料ヲ徴收スル救命具ニ付テハ本表ニ揭ケル手數料ヲ徴收スル救命具ニ付テハ本表ニ揭ケル手數料ヲ徴收スル救命具ニ付テハ本表ニ揭ケル手數料ヲ徴收スル

| 鎖 | 鎖 | 鎖 |

「スタッド」ヲ有スル鎖	切斷及率引試驗竝鎖索試驗規程	「スタッド」ヲ有スル鎖	切斷及率引試驗竝鎖索試驗規程	檢査試驗品種別	檢査試驗種別	適用規格	種類	率引荷重ノ噸又ハ其ノ未滿每一箇ノ手數料	備考	取扱檢査所名
				鋼索	檢査試驗及	鎖索試驗規程	三吋以下	四・〇〇	長一二〇尋ヲ超ユルモノハ其ノ超過一二〇尋又ハ其ノ未滿每ニ上記ノ手數料ノ三割ヲ加算ス	船用品檢査所大阪支所
							三吋ヲ超エ四吋以下	五・〇〇		
							四吋ヲ超エ五吋以下	六・〇〇		
							五吋ヲ超エ六吋以下	七・〇〇		
							六吋ヲ超ユルモノ	八・〇〇		
				マニラ索又ハ麻索	試驗及檢査	鎖索試驗規程	三吋以下	二・〇〇	長一二〇尋ヲ超ユルモノハ其ノ超過一二〇尋又ハ其ノ未滿每ニ上記ノ手數料ノ三割ヲ加算ス	船用品檢査所大阪支所
							三吋ヲ超エ六吋以下	三・〇〇		
							六吋ヲ超エ九吋以下	四・〇〇		
							九吋ヲ超ユルモノ	五・〇〇		
				滑車	率引試驗及檢査		單輪	四 〇・一五	最低手數料試驗一回ニ付三圓ト	船用品檢査所大阪支所
							二輪	〇・一八		
							三輪	〇・二一	同一荷重ヲ以テ試驗スヘキモノハ連結シテ同時ニ試驗スルコトヲ得	
							四輪	〇・二五		
							ザフエレンシアル	一・〇〇		
				鈎	率引試驗及檢査		單鈎	〇・一五	最低手數料試驗一回ニ付三圓ト	船用品檢査所同大阪支所
							二鈎	〇・二五		
「アイ」	率引試驗及檢査			同			單日	〇・一五	同	船用品檢査所同大阪支所
							二日	〇・二五		

備考

一　鎖ノ長五尋未滿ニ對スル率引試驗手數料ハ本表ニ揭クルモノノ半額トス

二　鎖ニ所定ノ試驗荷重ヨリ少キ荷重ヲ加ヘテ切斷試驗又ハ率引試驗ヲ行フトキト雖規定ノ手數料ヲ徵收ス

三　鎖ニ所定ノ試驗荷重ヲ超ユル荷重ヲ加ヘテ切斷試驗（抗張力ノ測定試驗ヲ含ム）又ハ率引試驗ヲ行フトキハ規定ノ手數料ニ超過荷重一噸又ハ其ノ未滿每ニ十錢ヲ加算シタルモノヲ徵收ス

四　鎖ニ附屬スル「シャックル」、「スウイヴル」、鈎等ニシテ鎖ニ連結シテ率引試驗ヲ行フトキハ之ヲ其ノ鎖ノ一部ト看做シテ手數料ヲ徵收ス

五　「シャックル」、「スウイヴル」及連結用鎖環ノ切斷試驗手數料ハ試驗一回ニ付試驗荷重十噸又ハ其ノ未滿每ニ一箇トス但シ鎖ニ附屬スル「スウイヴル」ニシテ鎖ノ鎖環ニ連結シテ試驗ヲ行フトキハ之ニ對シテ別ニ手數料ヲ徵收セス

六　「シャックル」及「スウイヴル」ノ率引試驗手數料ハ試驗一回ニ付試驗荷重十噸又ハ其ノ未滿每ニ一箇トス但シ鎖ニ附屬シタルモノニシテ之ニ連結シテ率引試驗ヲ行フトキハ之ニ對シテ別ニ手數料ヲ徵收セス

七　鎖、「シャックル」、「スウイヴル」又ハ連結用鎖環ノ切斷試驗又ハ率引試驗ニ付再試驗ヲ行フトキハ再試驗手數料トシテ試驗一回每ニ規定ノ手數料ノ半額ヲ徵收ス

備考

鎖＝附屬スル鉤ニシテ之ニ連結シテ牽引試驗ヲ行フトキヘ鎖ニ關スル備考第四號ニ依リ手數料ヲ徵收ス

第五號

品檢種査別試驗	試驗種査別試驗	規適格用	試驗機能力	手數料	備考	查定所名
鎖材質料試	鎖強力試		一〇噸以下	四〇圓・〇〇	牢記ノ同再試ノ手數料ハ鎖材ノ及上鎖二	所同大阪支
			一〇噸以下ノ超ユ五	八〇・〇〇		船用品檢査所
			一五噸以下ノ超ユ一〇	一二〇・〇〇		
			二〇噸以下ノ超ユ一五	一六〇・〇〇		
			三〇噸以下ノ超ユ二〇	二〇〇・〇〇		
			二〇噸ヲ超ユルモノ	二五〇・〇〇		

數料ヲ徵收ス

第十一款　船用品檢査及取締

第一章　總則

第一條　鎖ノ腕ノ長ハ鎖ノ尖端ヨリ中心迄ノ距離ヲ以テ之ヲ測ル

第二條　本令ニ於テ一鎖ト稱スルハ左ノ各號ニ依リ牽引試驗ヲ行フヘキ鎖ヲ謂フ

一　鎖節ヲ除キ其ノ長サ二十五米突ノ鎖

二　牽引荷重ヲ加フルトキ其ノ長サ二十五米突ニ對シ一米突ノ割合ヲ以テ伸ヒタル鎖

三　鎖節ヲ除キ其ノ長サ二十五米突ニ對シ一米突ノ割合ヲ以テ伸ヒタル鎖ニ牽引荷重ヲ加フルトキ其ノ長サ二十五米突ニ對シ一米突ノ割合ヲ以テ伸ヒタル鎖

第三條　鎖ノ腕ハ其ノ大サニ應シ適當ナル法ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス

第四條　試驗管吏ハ於テ鎖ノ各部ノ寸法ヲ檢査シ且試驗ニ使用スル檢査器ノ適否ヲ認ムルモノトス

第五條　鎖ノ腕ハ左ノ各號ニ依リ牽引試驗ヲ行フ

一　鎖節ヲ除キ其ノ長サ二十五米突ニ對シ一米突ノ割合ヲ以テ伸ヒタル鎖

二　牽引荷重ヲ加フルトキ其ノ長サ二十五米突ニ對シ一米突ノ割合ヲ以テ伸ヒタル鎖ニ牽引荷重ヲ加フ

三　牽引荷重ヲ加フルトキ其ノ長サ二十五米突ニ對シ一米突ノ割合ヲ以テ伸ヒタル鎖ニ牽引荷重ヲ加フ

第六條　荷重測定裝置ノ試驗ハ牽引試驗ニ準シ之ヲ行フ

第七條　檢査ハ各試驗荷重ニ對スル公差ヲ減シタル差ノ平均ヲ以テ指示荷重ト認ムルモノトス

第八條　各試驗荷重ニ對スル公差ハ左表ノ通リトス

試驗荷重ニ對スル指示荷重ノ公差	五噸未滿	五噸以上一〇噸以下	一〇噸以上
公差（正又ハ負）	千分ノ五	千分ノ八	千分ノ十

備考

一　指示荷重カ零又ハ之ニ近キ場合ノ公差ハ上欄ニ拘ラス試驗官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

二　牽引試驗ニ於テ鎖ノ一節ヲ切斷シ其ノ他ノ異狀ナキトキハ之ヲ切斷セサル鎖ニ準シ試驗ス

第九條　感重ハ荷重指示裝置ノ平衡位置ヲ變化セシムル爲試驗機ニ加フヘキ荷重ニシテ試驗荷重ノ二分ノ一ニ相當スルモノトス

第十條　感重ハ試驗機ノ最小目盛ノ二分ノ一ヲ超ユヘカラス但シ試驗官吏ニ於テ之ヲ測定スヘシ

第十一條　感重ハ試驗機ノ最小目盛ノ二分ノ一ヲ超ユヘカラス但シ試驗官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　本令ニ合格シタル試驗機ノ第二回以後ノ試驗ニ於テハ適當ナル證明書ヲ受ケシムルニ非サレハ試驗機ノ數及試驗回數ヲ減スルコトヲ得

第十三條　特殊ノ構造ヲ有スル試驗機ノ試驗方法ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依ル

附則

本令ハ昭和二年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●船用品試驗機試驗規程

遞信省令第九號
昭和二年七月二十四日

第一條　船用品試驗機試驗規程左ノ通定ム

第二條　船用品試驗機試驗規程ニ於テ試驗機ト稱スルハ左ノ各號ニ揭ケル具備スルモノヲ謂フ

一　要ス

二　強固ナル基礎ノ上ニ正確ニ据付ケラレタルコト

三　方法ハ遞信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第三條　檢査所名ノ欄「同大阪支所」ヲ「同大阪支所」ニ改ム

第四條　第三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「船用品試驗機」ヲ「檢査試驗品」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第五條　第三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第六條　第三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第七條　第三號中「取扱檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第八條　第三號中「取扱檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第九條　第四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗機」ヲ「檢査試驗」ニ改ム

第十條　第一號「檢査試驗規程」ヲ「船用品試驗機試驗規程」ニ改ム

第十一條　第二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第十二條　第三號中「取扱檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第十三條　第四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第十四條　第五號中「檢査品試驗機種別ノ欄」ヲ「檢査品種別」ニ、「檢査試驗種別ノ欄」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第十五條　第五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第十六條　第五號中「取扱檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第十七條　第五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第十八條　第五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第十九條　第六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二十條　第六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二十一條　第七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二十二條　第七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二十三條　第八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二十四條　第八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二十五條　第九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二十六條　第九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二十七條　第十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二十八條　第十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二十九條　第十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第三十條　第十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第三十一條　第十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第三十二條　第十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第三十三條　第十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第三十四條　第十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第三十五條　第十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第三十六條　第十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第三十七條　第十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第三十八條　第十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第三十九條　第十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第四十條　第十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第四十一條　第十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第四十二條　第十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第四十三條　第十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第四十四條　第十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第四十五條　第十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第四十六條　第十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第四十七條　第二十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第四十八條　第二十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第四十九條　第二十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第五十條　第二十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第五十一條　第二十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第五十二條　第二十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第五十三條　第二十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第五十四條　第二十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第五十五條　第二十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第五十六條　第二十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第五十七條　第二十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第五十八條　第二十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第五十九條　第二十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第六十條　第二十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第六十一條　第二十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第六十二條　第二十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第六十三條　第二十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第六十四條　第二十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第六十五條　第二十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第六十六條　第二十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第六十七條　第三十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第六十八條　第三十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第六十九條　第三十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第七十條　第三十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第七十一條　第三十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第七十二條　第三十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第七十三條　第三十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第七十四條　第三十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第七十五條　第三十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第七十六條　第三十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第七十七條　第三十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第七十八條　第三十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第七十九條　第三十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第八十條　第三十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第八十一條　第三十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第八十二條　第三十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第八十三條　第三十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第八十四條　第三十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第八十五條　第三十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第八十六條　第三十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第八十七條　第四十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第八十八條　第四十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第八十九條　第四十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第九十條　第四十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第九十一條　第四十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第九十二條　第四十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第九十三條　第四十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第九十四條　第四十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第九十五條　第四十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第九十六條　第四十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第九十七條　第四十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第九十八條　第四十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第九十九條　第四十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百條　第四十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百一條　第四十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百二條　第四十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百三條　第四十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百四條　第四十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百五條　第四十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百六條　第四十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百七條　第五十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百八條　第五十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百九條　第五十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百十條　第五十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百十一條　第五十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百十二條　第五十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百十三條　第五十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百十四條　第五十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百十五條　第五十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百十六條　第五十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百十七條　第五十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百十八條　第五十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百十九條　第五十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百二十條　第五十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百二十一條　第五十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百二十二條　第五十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百二十三條　第五十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百二十四條　第五十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百二十五條　第五十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百二十六條　第五十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百二十七條　第六十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百二十八條　第六十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百二十九條　第六十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百三十條　第六十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百三十一條　第六十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百三十二條　第六十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百三十三條　第六十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百三十四條　第六十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百三十五條　第六十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百三十六條　第六十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百三十七條　第六十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百三十八條　第六十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百三十九條　第六十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百四十條　第六十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百四十一條　第六十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百四十二條　第六十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百四十三條　第六十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百四十四條　第六十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百四十五條　第六十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百四十六條　第六十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百四十七條　第七十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百四十八條　第七十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百四十九條　第七十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百五十條　第七十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百五十一條　第七十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百五十二條　第七十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百五十三條　第七十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百五十四條　第七十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百五十五條　第七十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百五十六條　第七十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百五十七條　第七十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百五十八條　第七十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百五十九條　第七十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百六十條　第七十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百六十一條　第七十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百六十二條　第七十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百六十三條　第七十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百六十四條　第七十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百六十五條　第七十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百六十六條　第七十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百六十七條　第八十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百六十八條　第八十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百六十九條　第八十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百七十條　第八十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百七十一條　第八十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百七十二條　第八十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百七十三條　第八十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百七十四條　第八十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百七十五條　第八十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百七十六條　第八十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百七十七條　第八十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百七十八條　第八十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百七十九條　第八十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百八十條　第八十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百八十一條　第八十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百八十二條　第八十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百八十三條　第八十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百八十四條　第八十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百八十五條　第八十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百八十六條　第八十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百八十七條　第九十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百八十八條　第九十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百八十九條　第九十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百九十條　第九十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百九十一條　第九十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百九十二條　第九十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百九十三條　第九十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百九十四條　第九十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百九十五條　第九十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百九十六條　第九十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百九十七條　第九十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第百九十八條　第九十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第百九十九條　第九十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百條　第九十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百一條　第九十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百二條　第九十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百三條　第九十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百四條　第九十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百五條　第九十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百六條　第九十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百七條　第百號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百八條　第百號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百九條　第百一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百十條　第百一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百十一條　第百二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百十二條　第百二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百十三條　第百三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百十四條　第百三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百十五條　第百四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百十六條　第百四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百十七條　第百五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百十八條　第百五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百十九條　第百六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百二十條　第百六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百二十一條　第百七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百二十二條　第百七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百二十三條　第百八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百二十四條　第百八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百二十五條　第百九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百二十六條　第百九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百二十七條　第百十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百二十八條　第百十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百二十九條　第百十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百三十條　第百十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百三十一條　第百十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百三十二條　第百十二號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百三十三條　第百十三號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百三十四條　第百十三號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百三十五條　第百十四號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百三十六條　第百十四號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百三十七條　第百十五號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百三十八條　第百十五號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百三十九條　第百十六號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百四十條　第百十六號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百四十一條　第百十七號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百四十二條　第百十七號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百四十三條　第百十八號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百四十四條　第百十八號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百四十五條　第百十九號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百四十六條　第百十九號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百四十七條　第百二十號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百四十八條　第百二十號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百四十九條　第百二十一號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ「檢査種別」ニ改ム

第二百五十條　第百二十一號中「船用品檢査所名ノ欄」ヲ「船用品檢査所」ニ改ム

第二百五十一條　第百二十二號中「物品名」ヲ「檢査試驗品名」ニ、「檢査試驗種別」ヲ

第十八條　前條ノ根付鎖ニ「スウイヴル」ヲ混用スル場合ニ於テモ其ノ試驗ニ關シテハ前條第一項ノ規定ヲ適用ス

前項ノ「スウイヴル」ハ檢査官吏ノ適當ト認ムル形狀寸法ノモノナルコトヲ要ス

第十九條　前二條ニ揭クル根付鎖ノ鎖環及「スウイヴル」ノ徑カ鍛鎖ノ普通鎖環ノ徑ニ等シキモノヲ使用セムトスルトキハ左ノ各號ニ依リ切斷及牽引試驗ヲ行フコトヲ要ス

一　同一種類ノ根付鎖ニシテ五箇以内ノ鎖環又ハ四箇以内ノ鎖環ト一箇ノ「スウイヴル」トヲ以テ組成スルモノナルトキハ七筋以内ヲ一組トシ其ノ内ヨリ任意ニ連續セル三箇ノ鎖環又ハ二箇ノ鎖環及一箇ノ「スウイヴル」ヲ採リ切斷試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタルトキハ其ノ一組ノ殘リノ鎖環ヲ連續シ牽引試驗ヲ行フ

二　前號ノ切斷試驗カ不合格ナルトキハ更ニ他ノ三箇ノ連續セル鎖環又ハ二箇ノ鎖環及一箇ノ「スウイヴル」ヲ採リ再試驗ヲ行フコトヲ得

第二十條　試驗及檢査ニ合格シタルトキハ鍛ニ在リテハ其ノ兩端及中間五等毎ノ鎖環ニ「シヤックル」及「スウイヴル」ニ在リテハ各箇ニ、第十七條及第十九條ニ揭クル根付鎖ニ在リテハ一箇ノ鎖環ニ檢印及試驗番號ヲ刻ス

第二十一條　鍛鎖ハ各試驗及檢査ヲ行ヒタル後其ノ重量ヲ測定シ、牽引荷重ヲ加ヘタル後試驗床ヨリ取出ス前ニ其ノ長ヲ測定スヘシ

第二十二條　鎖ハ檢査ヲ經タル後ニ非サレハ之ニ檢料ヲ施スコトヲ得ス

第二十三條　第九條乃至第二十二條ノ規定ハ鍛鎖以外ノ鎖及其ノ附屬品ノ試驗ニ付之ヲ準用ス但シ切斷試驗ヲ行フコトヲ要セス

第三章　索

第二十四條　索ハ一卷毎ニ左ノ試驗ヲ行フ

一　切斷試驗　索ハ一部ヨリ採リタル試驗材ニ付索ノ種類及周ニ應シ第三號表ニ揭クル切斷荷重ヲ加ヘ之ニ耐ユルコトヲ要ス但シ鋼索ニ在リテハ切斷試驗ヲ行フコトヲ得サルトキハ索ヲ組成スル子繩又ハ鋼線ニ付切斷試驗ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ子繩ノ平均抗張力ニ索ノ子繩數ヲ乘シタル合計抗張力第三號表ニ揭クル切斷荷重ノ一・一〇倍以上ナルコトヲ要ス

二　捲解試驗　鋼索ハ其ノ一部ヨリ採リタル鋼線ヲ之ト同一ノ徑ヲ有スル鋼線ノ周ニ少クトモ八回捲キ付ケタル後之ヲ解戻シ裂疵ヲ生セサルモノナルコトヲ要ス本試驗ハ各子繩ヨリ當該官吏ノ適當ト認ムル數ノ鋼線ヲ採リ之ヲ行フ

第二十五條　一條ノ索ヲ數卷ニ分割スル場合ニ在リテハ其ノ内ヨリ當該官吏ノ任意ニ採リタル一卷ニ付試驗ヲ執行シ其ノ他ハ檢査ヲ爲スニ止ムルコトヲ得

第二十六條　試驗及檢査ニ合格シタル索ニハ鉛製封緘ヲ付シ檢印及試驗番號ヲ刻ス

第一號表

鍛牽引試驗荷重表

鍛重量（鍛錆ヲ除ク）以上未滿	牽引試驗荷重
封度 噸・瓲	封度 噸・瓲
一・九 一三三	一四七 一・一
一三三 一四七	一六一 一・一
一四七 一六一	一七五 一・一
一六一 一七五	一九〇 一・一
一七五 一九〇	二〇三 一・一
一九〇 二〇三	二一七 一・一
二〇三 二一七	二三一 一・一
二一七 二三一	二四五 一・一
二三一 二四五	二五九 一・一
二四五 二五九	二七三 一・一
二五九 二七三	二八七 一・一
二七三 二八七	三〇一 一・一
二八七 三〇一	三一五 一・一
三〇一 三一五	三二九 一・一
三一五 三二九	三四三 一・一
三二九 三四三	三五七 一・一
三四三 三五七	三七一 一・一
三五七 三七一	三八五 一・一
三七一 三八五	三九九 一・一
三八五 三九九	四一三 一・一
三九九 四一三	四二六 一・一
四一三 四二六	四四〇 一・一
四二六 四四〇	四五四 一・一
四四〇 四五四	四六八 一・一
四五四 四六八	四八二 一・一
四六八 四八二	四九六 一・一
四八二 四九六	五一〇 一・一
四九六 五一〇	五二四 一・一
五一〇 五二四	五三八 一・一
五二四 五三八	五五二 一・一
五三八 五五二	五六六 一・一
五五二 五六六	五八〇 一・一
五六六 五八〇	五九四 一・一
五八〇 五九四	六〇八 一・一
五九四 六〇八	六二二 一・一
六〇八 六二二	六三六 一・一
六二二 六三六	六五〇 一・一
六三六 六五〇	六六四 一・一
六五〇 六六四	六七八 一・一
六六四 六七八	六九二 一・一
六七八 六九二	七〇六 一・一
六九二 七〇六	七二〇 一・一
七〇六 七二〇	七三四 一・一
七二〇 七三四	七四八 一・一
七三四 七四八	七六二 一・一
七四八 七六二	七七六 一・一
七六二 七七六	七九〇 一・一
七七六 七九〇	八〇四 一・一
七九〇 八〇四	八一八 一・一
八〇四 八一八	八三二 一・一
八一八 八三二	八四六 一・一
八三二 八四六	八六〇 一・一
八四六 八六〇	八七四 一・一
八六〇 八七四	八八八 一・一
八七四 八八八	九〇二 一・一
八八八 九〇二	九一六 一・一
九〇二 九一六	九三〇 一・一
九一六 九三〇	九四四 一・一
九三〇 九四四	九五八 一・一
九四四 九五八	九七二 一・一
九五八 九七二	九八六 一・一
九七二 九八六	一〇〇 一・一
九八六 一〇〇	一〇一四 一・一
一〇〇 一〇一四	一〇二八 一・一
一〇一四 一〇二八	一〇四二 一・一
一〇二八 一〇四二	一〇五六 一・一
一〇四二 一〇五六	一〇七〇 一・一
一〇五六 一〇七〇	一〇八四 一・一
一〇七〇 一〇八四	一〇九八 一・一
一〇八四 一〇九八	一一一二 一・一
一〇九八 一一一二	一一二六 一・一
一一一二 一一二六	一一四〇 一・一
一一二六 一一四〇	一一五四 一・一
一一四〇 一一五四	一一六八 一・一
一一五四 一一六八	一一八二 一・一
一一六八 一一八二	一一九六 一・一
一一八二 一一九六	一二一〇 一・一
一一九六 一二一〇	一二二四 一・一
一二一〇 一二二四	一二三八 一・一
一二二四 一二三八	一二五二 一・一
一二三八 一二五二	一二六六 一・一
一二五二 一二六六	一二八〇 一・一
一二六六 一二八〇	一二九四 一・一
一二八〇 一二九四	一三〇八 一・一
一二九四 一三〇八	一三二二 一・一
一三〇八 一三二二	一三三六 一・一
一三二二 一三三六	一三五〇 一・一
一三三六 一三五〇	一三六四 一・一
一三五〇 一三六四	一三七八 一・一
一三六四 一三七八	一三九二 一・一
一三七八 一三九二	一四〇六 一・一
一三九二 一四〇六	一四二〇 一・一
一四〇六 一四二〇	一四三四 一・一
一四二〇 一四三四	一四四八 一・一
一四三四 一四四八	一四六二 一・一
一四四八 一四六二	一四七六 一・一
一四六二 一四七六	一四九〇 一・一
一四七六 一四九〇	一五〇四 一・一
一四九〇 一五〇四	一五一八 一・一
一五〇四 一五一八	一五三二 一・一
一五一八 一五三二	一五四六 一・一
一五三二 一五四六	一五六〇 一・一
一五四六 一五六〇	一五七四 一・一
一五六〇 一五七四	一五八八 一・一
一五七四 一五八八	一六〇二 一・一
一五八八 一六〇二	一六一六 一・一
一六〇二 一六一六	一六三〇 一・一
一六一六 一六三〇	一六四四 一・一
一六三〇 一六四四	一六五八 一・一
一六四四 一六五八	一六七二 一・一
一六五八 一六七二	一六八六 一・一
一六七二 一六八六	一七〇〇 一・一
一六八六 一七〇〇	一七一四 一・一
一七〇〇 一七一四	一七二八 一・一
一七一四 一七二八	一七四二 一・一
一七二八 一七四二	一七五六 一・一
一七四二 一七五六	一七七〇 一・一
一七五六 一七七〇	一七八四 一・一
一七七〇 一七八四	一七九八 一・一
一七八四 一七九八	一八一二 一・一
一七九八 一八一二	一八二六 一・一
一八一二 一八二六	一八四〇 一・一
一八二六 一八四〇	一八五四 一・一
一八四〇 一八五四	一八六八 一・一
一八五四 一八六八	一八八二 一・一
一八六八 一八八二	一八九六 一・一
一八八二 一八九六	一九一〇 一・一
一八九六 一九一〇	一九二四 一・一
一九一〇 一九二四	一九三八 一・一
一九二四 一九三八	一九五二 一・一
一九三八 一九五二	一九六六 一・一
一九五二 一九六六	一九八〇 一・一
一九六六 一九八〇	一九九四 一・一
一九八〇 一九九四	二〇〇八 一・一
一九九四 二〇〇八	二〇二二 一・一
二〇〇八 二〇二二	二〇三六 一・一
二〇二二 二〇三六	二〇五〇 一・一
二〇三六 二〇五〇	二〇六四 一・一
二〇五〇 二〇六四	二〇七八 一・一
二〇六四 二〇七八	二〇九二 一・一
二〇七八 二〇九二	二一〇六 一・一
二〇九二 二一〇六	二一二〇 一・一
二一〇六 二一二〇	二一三四 一・一
二一二〇 二一三四	二一四八 一・一
二一三四 二一四八	二一六二 一・一
二一四八 二一六二	二一七六 一・一
二一六二 二一七六	二一九〇 一・一
二一七六 二一九〇	二二〇四 一・一
二一九〇 二二〇四	二二一八 一・一
二二〇四 二二一八	二二三二 一・一
二二一八 二二三二	二二四六 一・一
二二三二 二二四六	二二六〇 一・一
二二四六 二二六〇	二二七四 一・一
二二六〇 二二七四	二二八八 一・一
二二七四 二二八八	二三〇二 一・一
二二八八 二三〇二	二三一六 一・一
二三〇二 二三一六	二三三〇 一・一
二三一六 二三三〇	二三四四 一・一
二三三〇 二三四四	二三五八 一・一
二三四四 二三五八	二三七二 一・一
二三五八 二三七二	二三八六 一・一
二三七二 二三八六	二四〇〇 一・一
二三八六 二四〇〇	二四一四 一・一
二四〇〇 二四一四	二四二八 一・一
二四一四 二四二八	二四四二 一・一
二四二八 二四四二	二四五六 一・一
二四四二 二四五六	二四七〇 一・一
二四五六 二四七〇	二四八四 一・一
二四七〇 二四八四	二四九八 一・一
二四八四 二四九八	二五一二 一・一
二四九八 二五一二	二五二六 一・一
二五一二 二五二六	二五四〇 一・一
二五二六 二五四〇	二五五四 一・一
二五四〇 二五五四	二五六八 一・一
二五五四 二五六八	二五八二 一・一
二五六八 二五八二	二五九六 一・一
二五八二 二五九六	二六一〇 一・一
二五九六 二六一〇	二六二四 一・一
二六一〇 二六二四	二六三八 一・一
二六二四 二六三八	二六五二 一・一
二六三八 二六五二	二六六六 一・一
二六五二 二六六六	二六八〇 一・一
二六六六 二六八〇	二六九四 一・一
二六八〇 二六九四	二七〇八 一・一
二六九四 二七〇八	二七二二 一・一
二七〇八 二七二二	二七三六 一・一
二七二二 二七三六	二七五〇 一・一
二七三六 二七五〇	二七六四 一・一
二七五〇 二七六四	二七七八 一・一
二七六四 二七七八	二七九二 一・一
二七七八 二七九二	二八〇六 一・一
二七九二 二八〇六	二八二〇 一・一
二八〇六 二八二〇	二八三四 一・一
二八二〇 二八三四	二八四八 一・一
二八三四 二八四八	二八六二 一・一
二八四八 二八六二	二八七六 一・一
二八六二 二八七六	二八九〇 一・一
二八七六 二八九〇	二九〇四 一・一
二八九〇 二九〇四	二九一八 一・一
二九〇四 二九一八	二九三二 一・一
二九一八 二九三二	二九四六 一・一
二九三二 二九四六	二九六〇 一・一
二九四六 二九六〇	二九七四 一・一
二九六〇 二九七四	二九八八 一・一
二九七四 二九八八	三〇〇二 一・一
二九八八 三〇〇二	三〇一六 一・一
三〇〇二 三〇一六	三〇三〇 一・一
三〇一六 三〇三〇	三〇四四 一・一
三〇三〇 三〇四四	三〇五八 一・一
三〇四四 三〇五八	三〇七二 一・一
三〇五八 三〇七二	三〇八六 一・一
三〇七二 三〇八六	三一〇〇 一・一
三〇八六 三一〇〇	三一一四 一・一
三一〇〇 三一一四	三一二八 一・一
三一一四 三一二八	三一四二 一・一
三一二八 三一四二	三一五六 一・一
三一四二 三一五六	三一七〇 一・一
三一五六 三一七〇	三一八四 一・一
三一七〇 三一八四	三一九八 一・一
三一八四 三一九八	三二一二 一・一
三一九八 三二一二	三二二六 一・一
三二一二 三二二六	三二四〇 一・一
三二二六 三二四〇	三二五四 一・一
三二四〇 三二五四	三二六八 一・一
三二五四 三二六八	三二八二 一・一
三二六八 三二八二	三二九六 一・一
三二八二 三二九六	三三一〇 一・一
三二九六 三三一〇	三三二四 一・一
三三一〇 三三二四	三三三八 一・一
三三二四 三三三八	三三五二 一・一
三三三八 三三五二	三三六六 一・一
三三五二 三三六六	三三八〇 一・一
三三六六 三三八〇	三三九四 一・一
三三八〇 三三九四	三四〇八 一・一
三三九四 三四〇八	三四二二 一・一
三四〇八 三四二二	三四三六 一・一
三四二二 三四三六	三四五〇 一・一
三四三六 三四五〇	三四六四 一・一
三四五〇 三四六四	三四七八 一・一
三四六四 三四七八	三四九二 一・一
三四七八 三四九二	三五〇六 一・一
三四九二 三五〇六	三五二〇 一・一
三五〇六 三五二〇	三五三四 一・一
三五二〇 三五三四	三五四八 一・一
三五三四 三五四八	三五六二 一・一
三五四八 三五六二	三五七六 一・一
三五六二 三五七六	三五九〇 一・一
三五七六 三五九〇	三六〇四 一・一
三五九〇 三六〇四	三六一八 一・一
三六〇四 三六一八	三六三二 一・一
三六一八 三六三二	三六四六 一・一
三六三二 三六四六	三六六〇 一・一
三六四六 三六六〇	三六七四 一・一
三六六〇 三六七四	三六八八 一・一
三六七四 三六八八	三七〇二 一・一
三六八八 三七〇二	三七一六 一・一
三七〇二 三七一六	三七三〇 一・一
三七一六 三七三〇	三七四四 一・一
三七三〇 三七四四	三七五八 一・一
三七四四 三七五八	三七七二 一・一
三七五八 三七七二	三七八六 一・一
三七七二 三七八六	三八〇〇 一・一
三七八六 三八〇〇	三八一四 一・一
三八〇〇 三八一四	三八二八 一・一
三八一四 三八二八	三八四二 一・一
三八二八 三八四二	三八五六 一・一
三八四二 三八五六	三八七〇 一・一
三八五六 三八七〇	三八八四 一・一
三八七〇 三八八四	三八九八 一・一
三八八四 三八九八	三九一二 一・一
三八九八 三九一二	三九二六 一・一
三九一二 三九二六	三九四〇 一・一
三九二六 三九四〇	三九五四 一・一
三九四〇 三九五四	三九六八 一・一
三九五四 三九六八	三九八二 一・一
三九六八 三九八二	三九九六 一・一
三九八二 三九九六	四〇一〇 一・一
三九九六 四〇一〇	四〇二四 一・一
四〇一〇 四〇二四	四〇三八 一・一
四〇二四 四〇三八	四〇五二 一・一
四〇三八 四〇五二	四〇六六 一・一
四〇五二 四〇六六	四〇八〇 一・一
四〇六六 四〇八〇	四〇九四 一・一
四〇八〇 四〇九四	四一〇八 一・一
四〇九四 四一〇八	四一二二 一・一
四一〇八 四一二二	四一三六 一・一
四一二二 四一三六	四一五〇 一・一
四一三六 四一五〇	四一六四 一・一
四一五〇 四一六四	四一七八 一・一
四一六四 四一七八	四一九二 一・一
四一七八 四一九二	四二〇六 一・一
四一九二 四二〇六	四二二〇 一・一
四二〇六 四二二〇	四二三四 一・一
四二二〇 四二三四	四二四八 一・一
四二三四 四二四八	四二六二 一・一
四二四八 四二六二	四二七六 一・一
四二六二 四二七六	四二九〇 一・一
四二七六 四二九〇	四三〇四 一・一
四二九〇 四三〇四	四三一八 一・一
四三〇四 四三一八	四三三二 一・一
四三一八 四三三二	四三四六 一・一
四三三二 四三四六	四三六〇 一・一
四三四六 四三六〇	四三七四 一・一
四三六〇 四三七四	四三八八 一・一
四三七四 四三八八	四四〇二 一・一
四三八八 四四〇二	四四一六 一・一
四四〇二 四四一六	四四三〇 一・一
四四一六 四四三〇	四四四四 一・一
四四三〇 四四四四	四四五八 一・一
四四四四 四四五八	四四七二 一・一
四四五八 四四七二	四四八六 一・一
四四七二 四四八六	四五〇〇 一・一
四四八六 四五〇〇	四五一四 一・一
四五〇〇 四五一四	四五二八 一・一
四五一四 四五二八	四五四二 一・一
四五二八 四五四二	四五五六 一・一
四五四二 四五五六	四五七〇 一・一
四五五六 四五七〇	四五八四 一・一
四五七〇 四五八四	四五九八 一・一
四五八四 四五九八	四六一二 一・一
四五九八 四六一二	四六二六 一・一
四六一二 四六二六	四六四〇 一・一
四六二六 四六四〇	四六五四 一・一
四六四〇 四六五四	四六六八 一・一
四六五四 四六六八	四六八二 一・一
四六六八 四六八二	四六九六 一・一
四六八二 四六九六	四七一〇 一・一
四六九六 四七一〇	四七二四 一・一
四七一〇 四七二四	四七三八 一・一
四七二四 四七三八	四七五二 一・一
四七三八 四七五二	四七六六 一・一
四七五二 四七六六	四七八〇 一・一
四七六六 四七八〇	四七九四 一・一
四七八〇 四七九四	四八〇八 一・一
四七九四 四八〇八	四八二二 一・一
四八〇八 四八二二	四八三六 一・一
四八二二 四八三六	四八五〇 一・一
四八三六 四八五〇	四八六四 一・一
四八五〇 四八六四	四八七八 一・一
四八六四 四八七八	四八九二 一・一
四八七八 四八九二	四九〇六 一・一
四八九二 四九〇六	四九二〇 一・一
四九〇六 四九二〇	四九三四 一・一
四九二〇 四九三四	四九四八 一・一
四九三四 四九四八	四九六二 一・一
四九四八 四九六二	四九七六 一・一
四九六二 四九七六	四九九〇 一・一
四九七六 四九九〇	五〇〇四 一・一
四九九〇 五〇〇四	五〇一八 一・一
五〇〇四 五〇一八	五〇三二 一・一
五〇一八 五〇三二	五〇四六 一・一
五〇三二 五〇四六	五〇六〇 一・一
五〇四六 五〇六〇	五〇七四 一・一
五〇六〇 五〇七四	五〇八八 一・一
五〇七四 五〇八八	五一〇二 一・一
五〇八八 五一〇二	五一一六 一・一
五一〇二 五一一六	五一三〇 一・一
五一一六 五一三〇	五一四四 一・一
五一三〇 五一四四	五一五八 一・一
五一四四 五一五八	五一七二 一・一
五一五八 五一七二	五一八六 一・一
五一七二 五一八六	五二〇〇 一・一
五一八六 五二〇〇	五二一四 一・一
五二〇〇 五二一四	五二二八 一・一
五二一四 五二二八	五二四二 一・一
五二二八 五二四二	五二五六 一・一
五二四二 五二五六	五二七〇 一・一
五二五六 五二七〇	五二八四 一・一
五二七〇 五二八四	五二九八 一・一
五二八四 五二九八	五三一二 一・一
五二九八 五三一二	五三二六 一・一
五三一二 五三二六	五三四〇 一・一
五三二六 五三四〇	五三五四 一・一
五三四〇 五三五四	五三六八 一・一
五三五四 五三六八	五三八二 一・一
五三六八 五三八二	五三九六 一・一
五三八二 五三九六	五四一〇 一・一
五三九六 五四一〇	五四二四 一・一
五四一〇 五四二四	五四三八 一・一
五四二四 五四三八	五四五二 一・一
五四三八 五四五二	五四六六 一・一
五四五二 五四六六	五四八〇 一・一
五四六六 五四八〇	五四九四 一・一
五四八〇 五四九四	五五〇八 一・一
五四九四 五五〇八	五五二二 一・一
五五〇八 五五二二	五五三六 一・一
五五二二 五五三六	五五五〇 一・一
五五三六 五五五〇	五五六四 一・一
五五五〇 五五六四	五五七八 一・一
五五六四 五五七八	五五九二 一・一
五五七八 五五九二	五六〇六 一・一
五五九二 五六〇六	五六二〇 一・一

第二表

鐵鎖試驗荷重及普通鎖環寸法表

| 鐵鎖ノ徑 | 普通鎖 | 鐵鎖種別 | 鐵鎖試驗荷重及普通鎖環寸法表 | | |

爲スコトヲ得ル免許製造人ナキ港ニ碇舶中船燈、信號器又ハ救命具ニ急速ノ修繕ヲ要スルトキハ前項ノ規定ニ依ラス之ヲ修繕スルコトヲ得

第十五條　免許製造人其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキハ製造免許證書ノ書換ヲ遞信省ニ申請スヘシ

第十六條　製造免許證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ免許製造人ハ其ノ再交付ヲ遞信省ニ申請スヘシ

第十七條　免許製造人前二條ノ規定ニ依リ免許證書ノ交付ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免許證書ヲ遞信省ニ返還スヘシ但シ免許證書カ滅失シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人又ハ製造免許證書ノ保管者ハ其ノ事由ヲ具シ製造免許證書ヲ遞信省ニ返還スヘシ

一　免許期間滿了ノトキ

二　死亡若ハ廢業シタルトキ又ハ法人カ解散シタルトキ

三　免許ヲ取消サレタルトキ

四　火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

前項ノ規定ニ依リ製造免許證書ヲ返還シタルトキハ管海官廳ハ其ノ本標ヲ還付スヘシ

第十九條　製造免許證書ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ返還セサルトキハ遞信省ハ其ノ無效ナルコトヲ官報ニ公告ス

第二十條　免許製造人其ノ製造所ヲ移轉、廢止又ハ增設シタルトキハ左ニ揭ケル事項ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

一　移轉、廢止又ハ增設シタル製造所ノ位置及名稱

二　移轉、廢止又ハ增設シタル製造所ニ於ケル製造品ノ名稱及種類

第二十一條　免許製造人カ死亡又ハ隱居シタルトキハ其ノ相續人ニ限リ其ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造ヲ繼續セムトスル者ハ第十八條ノ手續ヲ爲スト同時ニ第一號書式申請書ニ相續ヲ證明スル書面ヲ添附シ製造免許證書ノ交付ヲ遞信省ニ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ヲ適用セス

第二十二條　免許製造人ハ其ノ製造所毎ニ第三號書式ニ依リ毎年一月ニ前年中ニ製造シタル船燈、信號器又ハ救命具ノ統計表ヲ調製シ遞信省ニ差出スヘシ

第二十三條　第六條、第十五條、第十六條、第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出ヲ爲シ、前條ノ規定ニ依リ統計表ヲ差出シ又ハ第十八條ノ規定ニ依リ製造免許證書ヲ返還スルニハ其ノ製造所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第二十四條　免許製造人本令ノ規定ニ違反シタルトキハ遞信大臣ハ其ノ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第三章　請賣認可

第二十五條　免許製造人ヨリ船燈、信號器又ハ救命具ヲ請賣セムトスル者ハ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　前條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ノ申請書ヲ遞信省ニ差出スヘシ

星火ヲ發スル樽彈、火箭又ハ信號焰管ニ在リテハ前項ノ申請書ニ火藥類ノ販賣ニ關スル許可證ノ寫ヲ添附スヘシ

第二十七條　遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ第五號書式ノ認可證書ヲ申請人ニ交付ス

第二十八條　第十一條、第十三條及第二十四條ノ規定ハ請賣人ニ之ヲ準用ス

第二十九條　第十五條乃至第十九條ノ規定ハ認可證書ニ之ヲ準用ス

第三十條　請賣人其ノ請賣所ヲ移轉、廢止又ハ增設シタルトキハ左ニ揭ケル事項ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

一　移轉、廢止又ハ增設シタル請賣所ノ位置及名稱

二　移轉、廢止又ハ增設シタル請賣所ニ於ケル製造品ノ名稱、種類竝免許製造人ヨリ請賣スルトキハ增減シタル請賣品ノ名稱、種類竝免許製造人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ請賣所毎ニ遞信省ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ增加シタル請賣品ノ種類カ星火ヲ發スル樽彈、火箭又ハ信號焰管ナルトキハ前項ノ届出ニ火藥類ノ販賣ニ關スル許可證ノ寫ヲ添附スヘシ

第三十一條　第二十一條ノ規定ニ依リ請賣人カ死亡又ハ隱居シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　請賣人カ第二十六條、第二十九條、第三十條若ハ前條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出ヲナシ又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ認可證書ヲ返還スル場合ニハ其ノ請賣所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第四章　檢定及監査

第三十三條　免許製造人船燈、信號器又ハ救命具ヲ販賣セムトスルトキハ第六號書式ノ檢定申請書ニ之ヲ添ヘ其ノ製造所所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ檢定ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船燈ニハ一箇毎ニ其ノ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書ノ寫ニ該品ノ製造年月及製造番號ヲ記入シタルモノヲ添附スヘシ

第三十四條　本令ニ依リ檢印ヲ附セサル外國製ノ船燈、信號器又ハ救命具ヲ船舶ニ備附クルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ第七號書式ノ申請書ニ之ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ檢定ヲ申請スヘシ

第三十五條　第三十三條又ハ前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ之ニ檢印ヲ附シ申請人ニ交付シ且船燈ニ在リテハ第八號書式ノ檢定證明書ヲ申請人ニ交付スヘシ

第三十六條　船燈、信號器又ハ救命具ヲ修繕シタルトキハ免許製造人ヲシテ現品ヲ檢査セシメ船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ之ニ檢印ヲ附シ申請人ニ交付スヘシ

第三十七條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ之ヲ申請人ニ交付シ且船燈ニ在リテハ其ノ檢定證明書ニ修繕檢定年月日及修繕箇所ヲ裏書シ檢査官吏捺印ノ上之ヲ申請人ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船燈、信號器又ハ救命具ヲ販賣セムトスルトキハ第六號書式ノ檢定申請書ニ修繕檢定證明書ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ檢定ヲ申請スヘシ

第三十八條　船燈ノ檢定證明書ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ第十號書式ニ依リ最初檢定ヲ爲シタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第三十九條　前條ノ場合ニ於テ第十號書式ノ記載事項ノ不明其ノ他ノ事由ニ依リ檢定證明書ノ再交付ヲ受クルコト能ハサルトキハ第十一號書式ニ依リ現品ヲ最寄管海官廳ニ差出シ再檢定ヲ申請スヘシ

第四十條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ更ニ之ニ檢印ヲ附シ第八號書式ノ檢定證明書ト共ニ申請人ニ交付スヘシ

前項ノ場合ニ於テ現品カ船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合セスト認メタルトキハ檢印ヲ取消シ之ヲ申請人ニ交付スヘシ

第四十一條　製造所ニ保管シ又ハ管海官廳ニ差出シタル標本ハ該免許品ノ製造ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ第三十三條及第三十五條ノ規定ニ準シ檢定ヲ受クルコトヲ得

第四十二條　管海官廳ハ船燈、信號器若ハ救命具ノ製造所、請賣所又ハ船舶ニ臨時監査官吏ヲ派出シテ船燈信號器又ハ救命具ノ監査ヲ行ハシムヘシ

監査官吏船燈、信號器又ハ救命具ヲ監査シ其ノ檢定證明書又ハ標本ノ合格證明書ニ適合セスト認ムルトキハ其ノ檢印ヲ取消スヘシ

第五章　手數料

第四十三條　製造免許證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二圓ヲ納付スヘシ

第四十四條　認可證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料一圓ヲ納付スヘシ

第四十五條　檢定證明書ノ再交付ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二十錢ヲ納付スヘシ

第四十六條　船燈、信號器又ハ救命具ノ檢定ヲ受クルトキハ一箇ニ付左ノ檢定手數料ヲ納付スヘシ

名稱及種類		
甲種檣燈	五十錢	第三十四條又ハ第三十九條ノ申請ニ依ル場合
乙種檣燈	三十錢	
甲種舷燈	三十錢	
乙種舷燈	二十錢	
甲種戶燈	二十錢	
乙種丙色燈	十錢	
碇泊燈	十錢	
別種船燈	十錢	
機械製鑄中號角	二十錢	
星火ヲ發スル樽彈	五十錢	
火箭	三十錢	
信號焰管	三十錢	
救命胴衣	十五錢	
救命浮環	十錢	
救命索	十錢	
救命袴	二十錢	

第四十七條　前四條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ申請書ニ貼用シタル收入印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトス

但シ申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スヲ妨ケス

第六章　雜則

第四十八條　左ノ場合ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ反シテ檢印ヲ附セサル船燈、信號器若ハ救命具ヲ備附ケタルトキ、船燈ノ檢定證明書ヲ船內ニ保管セサルトキ又ハ救命胴衣ノ著用法說明書ヲ旅客室ニ揭示セサルトキ

二　第五條ノ規定ニ反シテ免許ヲ受ケスシテ船燈、信號器又ハ救命具ヲ製造シタルトキ

三　第九條ノ規定ニ反シテ標本ヲ製造所ニ保管セス又ハ之ヲ管轄管海官廳ニ差出ササルトキ

四　第十條ノ規定ニ反シテ更ニ製造品ノ標本ヲ備ヘス又ハ製造品ノ標本ヲ管轄管海官廳ニ差出ササルトキ

五　第十一條又ハ第二十八條ノ規定ニ反シテ製造所又ハ請賣所ニ標札ヲ揭ケサルトキ

六　第十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ反シ檢定證明書ヲ添附セスシテ船燈ヲ販賣若ハ請賣シ又ハ說明書ヲ添附セスシテ星火ヲ發スル樽彈、火箭、信號焰管、救命胴衣若ハ救命袴ヲ販賣又ハ請賣シタルトキ

七　第十三條又ハ第二十八條ノ場合ニ於テ虛僞ノ書類ヲ製造品又ハ請賣品ニ添附シタルトキ

八　第十五條乃至第十八條、第二十九條又ハ第三十八條ノ規定ニ反シ製造免許證書、認可證書又ハ檢定證明書ノ書換若ハ再交付ヲ申請セス又ハ之ヲ返還スヘキ義務ヲ怠リタルトキ

九　第二十條又ハ第三十條ノ規定ニ反シ製造所又ハ請賣所ヲ移轉若ハ增減シタル届出ヲ怠リタルトキ又ハ請賣品ニ關スル届出ヲ怠リタルトキ

十　第二十二條ノ規定ニ反シ統計表ヲ遞信省ニ差出ササルトキ

十一　第二十五條ノ規定ニ反シ認可ヲ受クスシテ船燈、信號器又ハ救命具ヲ請賣シタルトキ

十二　第三十三條、第三十四條、第三十六條又ハ第三十九條ノ規定ニ反シ檢定ヲ受ケサルトキ

第五十條　本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十一條　本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十二條　明治三十三年十二遞信省令第九十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第五十三條　本令施行前明治三十三年十二遞信省令第九十二號ニ依リ爲シタル製造免許ノ申請又ハ請賣認可ノ申請ハ從前ノ例ニ依リ之ヲ處理スルコトヲ得但シ製造免許ノ期間ハ五年トス

第五十四條　明治三十三年十二遞信省令第九十二號ニ依リ交付シタル製造免許證書又ハ認可證書ハ其ノ有效期間內本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス但シ救命浮帶ノ製造免許證書ニ在リテハ其ノ有效期間ハ本令施行後五年ヲ以テ限トス

前項ノ製造免許證書ニ記載スル救命浮帶ニ付テハ本令中救命胴衣ニ關スル規定ヲ準用ス

第一號書式

收入印紙

製造免許申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　製造品ノ名稱及種類

二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　製造所ノ位置及名稱
右大正九年九月遞信省令第七十七號船燈信號器救命具取締規則ニ依リ製造免許申請候也

年　月　日

遞信大臣宛

申請人　何　某印

備考　相續ニ依リ製造ヲ繼續セムトスル場合ニ在リテハ製造人ノ住所及氏名又ハ名稱ハ新舊ヲ併記スヘシ

第二號書式

割印

第　號

製造免許證書

（住所）

（名稱、種類）　（氏名又ハ名稱）

右大正九年九月遞信省令第七十七號船燈信號器救命具取締規則ニ依リ製造ヲ免許ス

年　月　日

遞信省印

第三號書式

年分（船燈）（信號器）（救命具）製造販賣高統計表

（船燈）（信號器）（救命具）製造免許證書番號　製造人　氏　名

名稱種類	前年繰越高	製造高	販賣高	殘高	一箇ノ代價
		適合			
		不適合			卸賣
					小賣

第四號書式

收入印紙

請賣認可申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　（船燈）（信號器）（救命具）
二　請賣所ノ位置竝請賣人ノ住所及氏名又ハ名稱
右大正九年九月遞信省令第七十七號船燈信號器救命具取締規則ニ依リ請賣認可申請候也

年　月　日

遞信大臣宛

申請人　何　某印

備考　請賣所毎ニ請賣品ノ名稱及種類竝其ノ免許製造人ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ添記シ相續ニ依リ請賣ヲ繼續セムトスルトキハ請賣人ノ住所及氏名又ハ名稱ハ新舊ヲ併記スヘシ

第五號書式

割印

第　號

認可證書

（住所）

（船燈）（信號器）（救命具）　（氏名又ハ名稱）

右大正九年九月遞信省令第七十七號船燈信號器救命具取締規則ニ依リ請賣ヲ認可ス

年　月　日

遞信省印

第六號書式

收入印紙

免許製造品檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　製造免許番號、製造品ノ名稱、種類及箇數
二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　製造所ノ位置及名稱
四　製造年月
五　船燈ニ在リテハ製造番號

右大正九年九月遞信省令第七十七號船燈信號器救命具取締規則第三十三條ニ依リ檢定申請候也

年　月　日

管海官廳宛

申請人　何　某印

第七號書式

收入印紙

外國製造品檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　名稱、種類及箇數
二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　製造所ノ位置及名稱
四　製造年月
五　備附船舶ノ種類、名稱、總噸數及所有者
右大正九年九月遞信省令第七十七號船燈信號器救命具取締規則第三十四條ニ依リ檢定申請候也

年　月　日

住所

管海官廳宛

申請人　何　某印

第八號書式

（何海）檢第　號

檢定證明書

製造免許第　號、名稱及種類
製造人住所及氏名又ハ名稱
製造所位置及名稱
製造年月
製造番號
檢定ノ成績　別記明細書ノ通
右檢定ノ結果明治三十三年十二月遞信省令第九十三號船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合ノモノト認ム

年　月　日

（所屬管海官廳名）

檢定主任　官　氏　名印

第九號書式

收入印紙

修繕檢定申請書

一　名稱、種類及箇數
二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　修繕箇所
四　修繕年月
五　備附船舶ノ種類、名稱、總噸數及所有者
右大正九年九月遞信省令第七十七號船燈信號器救命具取締規則第三十六條ニ依リ別紙檢定證明書何通相添檢定申請候也

年　月　日

住所

管海官廳宛

申請人　何　某印

第十號書式

收入印紙

檢定證明書再交付申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　名稱、種類及製造免許番號
二　製造人ノ氏名又ハ名稱
三　製造年月
四　製造番號
五　檢定官廳名及檢定番號
六　再交付申請ノ理由
右檢定證明書（何）通再交付申請候也

年　月　日

住所

申請人　何　某印

管海官廳宛

第十一號書式

收入印紙

再檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額

一　名稱、種類及箇數
二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　製造所ノ位置及名稱
四　製造年月

五　製造番號

右大正九年九月遞信省令第七十七號船燈信號器救命具取締規則第三十九條ニ依リ再檢定申請候也

年　月　日

住所
申請人　何　某　印

管海官廳宛

●船燈信號器救命具試驗檢定規程

明治三十三年十二月二十八日遞信省令第九十三號
改正　大正九年第七八號

船燈、信號器、救命具試驗檢定規程左ノ通之ヲ定メ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

船燈、信號器、救命具試驗檢定規程

第一章　船燈

第一節　通則

第一條　舷燈、檣燈及ヒ兩色燈ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種舷燈ハ海上衝突豫防法第二條第二號及ヒ第三號、甲種檣燈ハ同條第一號、乙種舷燈ハ同法第七條第二號乙前段、乙種檣燈ハ同號甲、甲種兩色燈ハ同號ニ掲クルモノヲ謂フ

第二條　船燈ノ射光角度及ヒ光達距離ハ海上衝突豫防法ノ規定ニ適合スルヲ要ス

第三條　燈籠ハ銅若ハ眞鍮ヲ用ヰ各接合ノ部分ハ間隙ナク密著セシムルヲ要ス

第四條　燈籠ノ通氣孔ハ相當ノ大サヲ有シ船舶ノ動搖風波等ノ爲メ透鏡、燈筒若ハ反射鏡ニ曇ヲ生セス又ハ消火セサル裝置ト爲スヲ要ス

第五條　燈籠ニハ適當ナル掛具ヲ裝置スルヲ要ス

第六條　燈窓ニハ透鏡ヲ裝置スルヲ要ス但此ノ規程中特ニ規定アル場合ハ此ノ限ニアラス

第七條　透鏡ノ橫截內面ハ圓弧形、竪截外面ハ平凸形若ハ折射平凸形ナルヲ要ス（第一圖及ヒ第二圖參照）

第八條　透鏡ハ冷熱ニ堪ユヘキ品質ニシテ兩面トモ滑カニ磨キ氣泡其ノ他ノ瑕疵ヲ有セス保存ニ堪ヘ得ル限リ薄キモノナルヲ要ス

第九條　油壺ノ容積ハ十六時間以上費消シ得ヘキ油量ヲ貯ヘ其ノ構造ハ同時間以上規定ノ光力ヲ保ツヘキモノナルヲ要ス

第十條　油壺ノ內部ニハ燈油ノ動搖ヲ防クヘキ裝置ヲ設クルヲ要ス（第三圖參照）

第十一條　油壺ノ高ハ透鏡ノ全面ニ及ホス光線ヲ妨ケサルヲ要ス

第十二條　油壺ハ一定ノ位置ヨリ移動シ又ハ他ノ油壺ト挿違ヘサル裝置ト爲スヲ要ス

第十三條　火口ハ一定ノ位置ヨリ移動セサル裝置ト爲スヲ要ス

第十四條　火口ノ抑ヘ金及ヒ注油口ノ栓ハ繰旋留ナルヲ要ス

第十五條　燈筒ハ無色透明ナル良質ノ硝子ナルヲ要ス

第十六條　焔穗ノ最輝點ハ透鏡ノ橫截內面ニ於ケル圓弧ノ中心ニ在リテ且透鏡ノ中央水平面ニ在ルヲ要ス

第十七條　前條ニ揭ケタル圓弧ノ中心ヲ求ムル爲メ其ノ半徑ヲ得ルニハ左ノ算式ニ依ルヘシ

$$\frac{a^2}{2b}+\frac{b}{2}$$

a ハ透鏡ノ橫截內面ニ於ケル圓弧ノ半徑
b ハ透鏡ノ弦ノ二分ノ一

第十八條　反射鏡ハ金屬ニテ製造シ鍍銀ヲ加ヘ充分磨キタルモノナルヲ要ス

第十九條　反射鏡ノ中心ハ焔穗ノ最輝點ト同水平面ニ在ルヲ要ス

第二十條　反射鏡ノ橫截內面ハ焔穗ノ最輝點ヲ貫通スル垂直線內ニ中心ヲ有スル圓弧ナルヲ要ス

第二十一條　反射鏡ノ中心ヨリ焔穗ノ最輝點ニ至ル距離ヲ求ムルニハ第十七條ノ算式ニ依ルヘシ但此ノ場合ニ於テハ反射鏡ノ橫截內面ニ於ケル圓弧ノ半徑ヲ以テ反射鏡ノ弦ノ二分ノ一ヲ以テ反射鏡ノ弦ニ對スル正矢トス

第二十二條　透鏡ノ橫截內面ノ中心、反射鏡ノ橫截內面ノ中心及ヒ焔穗ノ最輝點ハ同一水平面上ノ一直線上ニ在ルヲ要ス

第二十三條　此ノ規程ニ該當セサル船燈ハ試驗官吏又ハ檢定官吏ニ於テ此ノ規程ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムル場合ニ限リ特ニ之ヲ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第二節　甲種舷燈

第二十四條　燈籠ノ後面及ヒ側面ノ幅ハ各七寸五分以上其ノ高ハ煙筒ヲ除キ九寸二分以上ナルヲ要ス

第二十五條　透鏡ノ橫截內面ハ百二十度以上ノ角度ヲ有シ其ノ高ハ半徑ノ長ヨリ少カラサルヲ要ス

第二十六條　透鏡ハ船燈カ水平面ヨリ上下ニ各二十度傾斜スルモ一海里以上ノ距離ヨリ燈光ヲ見得ヘキ曲率ヲ有スルヲ要ス

第二十七條　燈窓ニ無色ノ透鏡ヲ使用スルトキハ透鏡ノ內面ニ接シ紅色又ハ綠色ノ良質ノ硝子ヲ挿入スヘキ裝置ヲ設クルヲ要ス

第二十八條　前條ニ揭クル著色硝子ノ角度及ヒ高ハ第二十五條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十九條　火口ハ石油ヲ使用スルトキハ幅八分以上ノ平燈心又ハ徑八分以上ノ輪形燈心、種油ヲ使用スルトキハ幅一寸五分以上ノ平燈心又ハ徑一寸五分以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ヘキ適當ノ大サナルヲ要ス

第三十條　火口ノ幅八分ノ平燈心ヲ使用スル場合ニ於テハ船ノ首尾線ニ直角ニ据ユルヲ要ス

第三節　乙種舷燈

第三十三條　燈籠ノ後面及ヒ側面ノ幅ハ各六寸以上其ノ高ハ煙筒ヲ除キ七寸五分以上ナルヲ要ス

第三十四條　透鏡ノ角度及ヒ高ハ第二十五條ノ規定ニ依ルヘシ

第三十五條　燈窓ニハ彎形硝子ヲ使用スルコトヲ得但其ノ角度及ヒ高ハ第二十五條ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ不同ナキモノナルヲ要ス

第三十六條　火口ハ石油ヲ使用スルトキハ幅五分以上ノ平燈心又ハ徑五分以上ノ輪形燈心種油ヲ使用スルトキハ幅一寸以上ノ平燈心又ハ徑一寸以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ヘキ適當ノ大サナルヲ要ス

第三十七條　火口ノ据方ハ第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ニ準スヘシ

第三十八條　反射鏡ノ大サハ第三十二條ノ規定ニ依ルヘシ

第四節　甲種檣燈

第三十九條　燈窓ニハ彎形硝子ヲ使用スルコトヲ得但其ノ角度及ヒ高ハ第二十五條ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ不同ナキモノナルヲ要ス

第四十條　透鏡ノ角度及ヒ高ハ第二十五條ノ規定ニ依ルヘシ

第四十一條　火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ルヘシ

第四十二條　反射鏡ノ角度及ヒ高ハ第二十五條ノ規定ニ依ルヘシ

第五節　乙種檣燈

第四十三條　燈籠ノ大サハ第三十三條ノ規定ニ準スヘシ

第四十四條　透鏡ノ角度及ヒ高ハ第四十條ノ規定ニ依ルヘシ

第四十五條　燈窓ニハ彎形硝子ヲ使用スルコトヲ得但其ノ角度及ヒ高ハ第四十條ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ不同ナキモノナルヲ要ス

第四十六條　火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ルヘシ

第四十七條　反射鏡ノ角度ハ第四十二條ノ規定ニ依ルヘシ

第六節　甲種兩色燈

第四十八條　燈籠ノ大サハ第三十三條ノ規定ニ依ルヘシ

第四十九條　各側ニ於ケル透鏡ノ角度及ヒ高ハ第二十五條ノ規定ニ依ルヘシ

第五十條　燈窓ニハ彎形硝子ヲ使用スルコトヲ得但各側ニ於ケル角度及ヒ高ハ第二十五條ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ不同ナキモノナルヲ要ス

第五十一條　燈窓ノ中央ニハ隔障ヲ設ケ綠光ヲ左舷ヨリ紅光ヲ右舷ヨリ見得サル樣適當ノ裝置ヲ設クルヲ要ス

第五十二條　火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ルヘシ

第七節　乙種兩色燈

第五十三條　反射鏡ノ角度ハ第四十二條ノ規定ニ依ルヘシ

第五十四條　燈籠ノ後面及ヒ側面ノ幅ハ各五寸以上、其ノ高ハ煙筒ヲ除キ六寸五分以上ナルヲ要ス

第五十五條　燈窓ニハ良質ノ彎形硝子又ハ板硝子ヲ使用スルコトヲ得

第五十六條　燈窓ノ中央ニハ第五十一條ノ規定ニ依リ隔障ヲ設クルヲ要ス

第五十七條　火口ノ大サハ幅五分以上ノ燈心ヲ挿入シ得ヘキ適當ノ大サナルヲ要ス

第八節　碇泊燈

第五十八條　燈籠ニハ徑六寸以上ノ圓筒形透鏡若ハ徑七寸以上ノ球形硝子ヲ使用スルヲ要ス

第五十九條　火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ルヘシ

第九節　別種船燈

第六十條　信號用紅燈及ヒ白燈ノ燈籠ニハ徑七寸以上ノ圓筒形透鏡若ハ直徑八寸以上ノ球形硝子ヲ使用スルヲ要ス

透鏡ノ高ハ第二十五條ノ規定ニ依ルヘシ

第六十一條　信號用紅燈及ヒ白燈ノ火口ハ徑七分以上ノ輪形燈心ヲ挿入シ得ヘキ適當ノ大サナルヲ要ス

第六十二條　船尾燈ノ燈籠ノ大サハ第三十三條ノ規定ニ準スヘシ

第六十三條　船尾燈ノ燈窓ニ使用スル透鏡ノ橫截內面ハ百四十度以上ノ角度ヲ有シ其ノ高ハ半徑ノ長ヨリ少カラサルヲ要ス

船尾燈ノ燈窓ニハ彎形硝子ヲ使用スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ其ノ角度及ヒ高ハ前項ノ規定ニ適合シ其ノ厚ハ不同ナキモノナルヲ要ス

第六十四條　船尾燈ノ火口ノ大サハ第三十六條ノ規定ニ依ルヘシ

第六十五條　水先船用白燈及ヒ檣燈船用白燈ハ第五十八條及ヒ第五十九條ノ規定ニ依ルヘシ

第二章　信號器

第六十六條　機械製霧中號角ハ其ノ音響少クモ一海里以上ニ達シ且四秒乃至六秒時間宛發聲シ得ヘキ構造ナルヲ要ス

第六十七條　星火ヲ發スル檣彈及ヒ火箭ハ容易ニ發火セス且保存ニ堪ヘ四百尺以上昇騰スルモノナルヲ要ス

第六十八條　信號焰管ハ容易ニ發火セス且保存ニ堪ヘ五分時間以上發焰シ得ヘキモノナルヲ要ス

第六十九條　此ノ規程ニ該當セサル信號器ハ試驗官吏又ハ檢定官吏ニ於テ此ノ規程ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムル場合ニ限リ特ニ之ヲ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

第三章　救命具

第七十條　救命浮環ハ實體「コルク」又ハ之ト同一ノ效力ヲ有スル材料ヲ以テ製造シ保存ニ堪ヘ得ヘキモノナルヲ要ス

第七十一條　救命浮環ノ內徑ハ一尺三寸五分以上トシ之ニ三貫八百七十匁以上ノ重量ヲ附著シ淡水中ニ於テ二十四時間以上浮泛シ得ヘキモノナルヲ要ス

第七十二條　救命浮環ハ帆布類ヲ以テ外裝シ之ニ防水塗料ヲ施スヲ要ス

第七十三條　救命浮環ニハ其ノ周圍ニ救命索ヲ附著スルヲ要ス

第七十四條　救命胴衣ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　浮力ヲ付スルニハ檢査官吏ノ適當ト認ムル實體「コルク」若ハ「カポック」又ハ檢査官吏ニ於テ之ト同一效力アリト認ムルモノヲ用ヒ氣嚢又ハ氣室ハ之ヲ用ヒサルコト

二　强靭ナル布類ヲ以テ外裝及紐付スルコト

三　大人及小兒ノ兼用ニ適シ著用法簡易ニシテ前後表裏轉用シ得ヘキコト

四　水中ニ於テ身體ヲ略ホ垂直ノ位置ニ保チ頭部ヲ充分露出セシメ得ヘキコト

五　淡水中ニ於テ一貫八百十匁ノ鐵片ヲ附著シテ、四十八時間浮ヒタル後三貫八百七十匁ノ鐵片ヲ附著シテ浮ヒ得ヘキコト

第七十五條　削除

第七十六條　救命焰ハ水中ニ於テ容易ニ發火シ三十分時間以上發焰シ得ヘキモノナルヲ要ス

第七十七條　此ノ規程ニ該當セサル救命具ハ試驗官吏又ハ檢定官吏ニ於テ此ノ規程ト同一ノ效力ヲ有スルト認ムル場合ニ限リ特ニ之ヲ此ノ規程ニ適合スルモノト看做ス

（圖式略ス）

附　則（大正九年遞信省令第七十八號）

本令ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

救命浮帶ノ試驗檢定ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

●舷窓試驗規程

大正十一年一月二十八日遞信省令第六號

舷窓試驗規程左ノ通定ム

舷窓試驗規程

第一條　舷窓ヲ分チテ左ノ二種トス

一　甲種舷窓
二　乙種舷窓

第二條　舷窓ノ各部ニハ內蓋及外蓋ヲ備ヘ乙種舷窓ニハ內蓋ヲ備フルコトヲ要ス

第三條　舷窓ノ各部ニハ舷窓ノ種別ニ從ヒ左表ニ揭クル種類ノ材料ヲ用ウヘシ

舷窓各部ノ名稱	材料ノ種類	
	甲種舷窓	乙種舷窓
窓枠	黃銅、砲金又ハ鑄銅	黃銅、砲金、鑄銅又ハ可鍛鑄鐵
硝子枠	黃銅又ハ砲金	黃銅、砲金、鑄銅又ハ可鍛鑄鐵
內蓋	黃銅、砲金又ハ鑄銅	黃銅、砲金、鑄銅、可鍛鑄鐵又ハ鑄鐵
外蓋	板鋼	鋼板、可鍛鑄鐵又ハ鑄鐵
蝶番軸針及締附螺釘	鍛黃銅	鍛黃銅

第三條　第一章　第二章　第三章　第四章　第五章　第六章　第七章　第八章　第九章　第十章　第十一章　第十二章　第十三章　第十四章　第十五章　第十六章　第十七章

朝鮮船舶運送信號並救命具取締規則

朝鮮船舶運送信號並救命具取締規則左ノ通定ム

●朝鮮船舶運送信號並救命具取締規則

則

第一條　本章ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本章ノ規定ハ朝鮮ノ港ニ在ル船舶ニ適用ス

第二條　本章ニ於テ船舶ト稱スルハ汽船、帆船、艀船、端舟其ノ他ノ船舶ヲ謂フ

第三條　本章ニ於テ船舶所有者ト稱スルハ船舶ノ所有者ノ外船舶ヲ賃貸シテ其ノ使用ヲ爲ス者ヲ謂フ

第四條　本章ニ於テ船長ト稱スルハ船舶所有者ノ外船舶ヲ賃貸シテ其ノ使用ヲ爲ス者ヲ謂フ

第五條　本章ニ於テ船員ト稱スルハ船長ノ外船舶ニ乘組ム者ヲ謂フ

第六條　本章ニ於テ旅客ト稱スルハ船舶ニ乘組ム者ニシテ船長、船員、運送人、其ノ代理者及其ノ使用人ニ非サル者ヲ謂フ

第七條　本章ニ於テ運送人ト稱スルハ船舶ニ依リ運送ヲ爲ス者ヲ謂フ

第八條　本章ニ於テ運送賃ト稱スルハ運送ニ對スル報酬ヲ謂フ

第九條　本章ニ於テ航海ト稱スルハ船舶ノ發航ヨリ次ノ發航マテ又ハ發航ヨリ最後ノ到達マテノ間ヲ謂フ

第十條　本章ニ於テ航行ト稱スルハ船舶ノ發航ヨリ到達マテノ間ヲ謂フ

第十一條　本章ニ於テ沿海航行ト稱スルハ朝鮮ノ各港間ノ航行ヲ謂フ

第十二條　本章ニ於テ近海航行ト稱スルハ朝鮮ノ各港ト日本國、清國、露國ノ沿岸ノ各港トノ間ノ航行ヲ謂フ

第十三條　本章ニ於テ遠洋航行ト稱スルハ朝鮮ノ各港ト其ノ他ノ各國ノ港トノ間ノ航行ヲ謂フ

第十四條　本章ニ於テ總噸數ト稱スルハ船舶ノ內部ノ容積ニ船員ノ居住、船舶ノ運轉及航海ノ爲ニ必要ナル場所ノ容積ヲ加ヘタル噸數ヲ謂フ

第十五條　本章ニ於テ純噸數ト稱スルハ總噸數ヨリ船員ノ居住、船舶ノ運轉及航海ノ爲ニ必要ナル場所ノ容積ヲ控除シタル噸數ヲ謂フ

第十六條　本章ニ於テ載貨重量噸數ト稱スルハ船舶ノ航海ノ安全ノ爲ニ積載スルコトヲ得ル最大ノ重量ヲ噸ヲ以テ表ハシタルモノヲ謂フ

第十七條　本章ニ於テ乘客定員ト稱スルハ船舶ニ乘スルコトヲ得ル旅客ノ最大ノ數ヲ謂フ

第十八條　本章ニ於テ船舶檢査官ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏ト稱スルハ船舶檢査官吏ヲ謂フ

第二十條　本章ニ於テ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第三十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第四十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第五十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第六十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第七十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第八十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第九十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百二十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百三十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百四十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百五十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百六十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百七十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百八十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第百九十九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百八條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百九條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百十條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百十一條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百十二條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百十三條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百十四條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百十五條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百十六條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ヲ謂フ

第二百十七條　本章ニ於テ船舶檢査官吏又ハ船舶檢査官補ト稱スルハ船舶檢査官吏又ハ船舶

一　免許期間滿了ノトキ
二　死亡若ハ廢業シタルトキ又ハ法人カ解散シタルトキ
三　免許ヲ取消サレタルトキ
四　警察官廳ヨリ火藥類ニ關スル許可ヲ取消サレタルトキ

前項ノ規定ニ依リ製造免許證書ヲ返還シタルトキハ管海官廳ハ其ノ標本ヲ還付ス

第十九條　製造免許證書ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ返還セサルトキハ其ノ無效ナルコトヲ朝鮮總督府官報ニ公告ス

第二十條　免許製造人其ノ製造所ヲ移轉、廢止又ハ增設シタルトキハ左ニ揭クル事項ヲ届出ツヘシ

一　移轉、廢止又ハ增設シタル製造所ノ位置及名稱
二　移轉、廢止又ハ增設シタル製造所ニ於ケル製造品ノ名稱及種類

第二十一條　免許製造人カ死亡又ハ隱居シタルトキハ其ノ相續人ニ限リ其ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造ヲ繼續セムトスルモノハ第十八條ノ手續ヲ爲スト共ニ第一號書式ノ申請書ニ相續ヲ證明スル書面ヲ添附シ製造免許證書ノ交付ヲ申請スヘシ

此ノ場合ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ヲ適用セス

第二十二條　免許製造人ハ其ノ製造所毎ニ第四號書式ニ依リ毎年一月前年中ニ製造シタル船燈、信號器又ハ救命具ノ統計表ヲ調製シ朝鮮總督府遞信局ニ差出スヘシ

第二十三條　第六條、第十條第三項、第十五條、第十六條、第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ申請若ハ届出ヲ爲シ前條ノ規定ニ依リ統計表ヲ差出シ又ハ第十八條ノ規定ニ依リ製造免許證書ヲ返還スルニハ其ノ製造所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第二十四條　免許製造人本令ノ規定ニ違反シタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第三章　請賣認可

第二十五條　免許製造人ヨリ船燈、信號器又ハ救命具ヲ請賣セムトスル者ハ朝鮮總督府遞信局長ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　前條ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ第五號書式ノ申請書ヲ差出スヘシ

星火ヲ發スル榴彈、火箭又ハ信號焰管ニ在リテハ前項ノ申請書ニ火藥類ノ販賣ニ關スル許可證ノ寫ヲ添附スヘシ

第二十七條　朝鮮總督府遞信局長ニ於テ前條ノ申請ヲ受理シ之ヲ適當ト認メタルトキハ第六號書式ノ認可證書ヲ申請人ニ交付ス

第二十八條　第十一條、第十三條及第二十四條ノ規定ハ請賣人ニ之ヲ準用ス

第二十九條　第十五條乃至第十九條ノ規定ハ認可證書ニ之ヲ準用ス

第三十條　請賣人其ノ請賣所ヲ移轉、廢止又ハ增設シタルトキハ左ニ揭クル事項ヲ朝鮮總督府遞信局長ニ届出ツヘシ

一　移轉、廢止又ハ增設シタル請賣所ノ位置及名稱
二　移轉、廢止又ハ增設シタル請賣所ニ於ケル請賣品ノ名稱、種類竝免許製造人ノ住所及氏名又ハ名稱

請賣人請賣品ノ種類ヲ增減シタルトキ又ハ既ニ請賣セルモノト同種類ノ船燈、信號器若ハ救命具ヲ他ノ免許製造人ヨリ請賣スルトキハ增減シタル請賣品ノ名稱、種類竝免許製造人ノ住所氏名又ハ名稱ヲ請賣所毎ニ朝鮮總督府遞信局長ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ增加シタル請賣品ノ種類カ星火ヲ發スル榴彈、火箭又ハ信號焰管ナルトキハ前項ノ届出ニ火藥類ノ販賣ニ關スル許可證ノ寫ヲ添附スヘシ

第三十一條　第二十一條ノ規定ハ請賣人カ死亡又ハ隱居シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條　請賣人カ第二十六條、第二十九條ノ規定ニ依リ申請若ハ前條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シ又ハ第二十九條ノ規定ニ依リ認可證書ヲ返還スル場合ニハ其ノ請賣所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第三十三條　本章ノ規定ハ請賣人カ既ニ請賣セルモノト同種類ノ船燈、信號器又ハ救命具ヲ他ノ免許製造人ヨリ請賣スル場合ニハ之ヲ準用セス

第三十四條　免許製造人ハ船燈、信號器又ハ救命具ヲ販賣セムトスルトキハ第七號書式ノ申請書ニ現品ヲ添ヘ製造所所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ檢定ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船燈ニ在リテハ一箇年毎ニ其ノ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書ノ寫ニ該品ノ製造年月及製造番號ヲ記入シタルモノヲ添附スヘシ

第三十五條　本令ニ依リ檢印ヲ附セサル外國製ノ船燈、信號器又ハ救命具ヲ船舶ニ備附クルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ第八號書式ノ申請書ニ現品ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ檢定ヲ申請スヘシ

第三十六條　第三十四條又ハ前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ニ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ之ヲ檢印ヲ附シ之ヲ申請人ニ交付シ且船燈ニ在リテハ第九號書式ノ檢定證明書ヲ申請人ニ交付ス

第三十七條　船燈信號器又ハ救命具ヲ修繕シタルトキハ免許製造人之ヲ爲シタル場合ニ在リテハ免許製造人、其ノ他ノ場合ニ在リテハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ハ第十號書式ノ修繕檢定申請書ニ修繕品ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ檢定ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船燈ニ在リテハ其ノ檢定證明書ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三十八條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ之ヲ檢印ヲ附シ且船燈ニ在リテハ其ノ檢定證明書ニ修繕檢定上之ヲ申請人ニ交付ス

前項ノ場合ニ於テ現品カ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ檢印ヲ附シ且其ノ檢定證明書ニ修繕檢定年月日及修繕箇所ヲ裏書シ檢査官吏捺印ノ上之ヲ申請人ニ交付ス

前項ノ場合ニ於テ現品カ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ檢印ヲ取消シ且其ノ檢定證明書ニ消印シ之ヲ申請人ニ交付ス

第三十九條　船燈ノ檢定證明書ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ第十一號書式ニ依リ最初檢定ヲ受ケタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第四章　檢定及監督

第四十條　前條ノ場合ニ於テ第十一號書式ニ依ル記載事項不明其ノ他ノ事由ニ依リ檢定證明書ノ再交付ヲ受クルコト能ハサルトキハ第十二號書式ニ依リ現品ヲ最寄管海官廳ニ差出シ再檢定ヲ申請スヘシ

前條ノ場合ニ於テ滅失又ハ毀損シタル檢定證明書カ內地、臺灣又ハ關東州ノ管海官廳ニ於テ交付ヲ受ケタルモノナルトキハ前項ノ手續ニ依リ再檢定ヲ申請スルコトヲ得

第四十一條　前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ノ檢査官吏ヲシテ現品ヲ檢査セシメ朝鮮船燈、信號器、救命具試驗檢定規程ニ適合スト認メタルトキハ檢印ヲ附シ之ヲ申請人ニ交付ス

第四十二條　製造所ニ保管シ又ハ管海官廳ニ差出シタル標本ハ該免許品ノ製造ヲ廢止セムトスル場合ニ於テハ第三十四條及第三十六條ノ規定ニ準シ檢定ヲ受クルコトヲ得

第四十三條　朝鮮總督府遞信局長ハ船燈、信號器、救命具ノ製造所、請賣所又ハ船舶ニ監査官吏ヲ派出シ船燈、信號器又ハ救命具ノ監査ヲ行ハシム

監査官吏船燈、信號器又ハ救命具ヲ監査シ其ノ檢定證明書又ハ標本ノ合格證明書ニ適合セスト認ムルトキハ其ノ檢印ヲ取消スヘシ

第五章　手數料

第四十四條　製造免許證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二圓ヲ納ムヘシ

第四十五條　認可證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料一圓ヲ納ムヘシ

第四十六條　檢定證明書ノ再交付ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手數料二十錢ヲ納ムヘシ

第四十七條　船燈、信號器又ハ救命具ノ製造免許又ハ檢定ヲ受クルトキハ一箇ニ付左ノ手數料ヲ納ムヘシ

名稱及種類	第三十四條又ハ第四十二條ノ申請ニ依ル場合	第三十五條又ハ第四十條ノ申請ニ依ル場合	第六條第一項又ハ第十條第三項ノ申請ニ依ル場合
甲種檣燈	五十錢	三圓	七圓
乙種檣燈	三十錢	二圓	五圓
甲種舷燈	五十錢	三圓	七圓
乙種舷燈	三十錢	二圓	五圓
甲種兩色燈	四十錢	三圓	六圓
乙種兩色燈	二十錢	一圓	三圓
碇泊燈	二十錢	一圓	三圓
別種船燈	二十錢	一圓	三圓
機械製霧中號角	二十錢	一圓	三圓
星火ヲ發スル榴彈	五十錢	三十錢	二圓
火箭	五十錢	三十錢	二圓
信號焰管	五十錢	十錢	一圓
救命胴衣	十錢	五十錢	七圓
救命浮環	十錢	五十錢	三圓
救命焰	十錢	二十錢	一圓

第四十八條　前四條ノ手數料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ申請書ニ貼用シタル收入印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトス

第六章　罰則

第四十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シテ檢印ヲ附セサルトキ、船燈、信號器、救命具ヲ備附ケタルトキ、船燈ノ檢定證明書ヲ船內ニ保管セサルトキ又ハ救命胴衣ノ著用法說明書ヲ旅客室ニ揭示セサルトキ

二　第五條ノ規定ニ違反シテ免許ヲ受ケスシテ船燈、信號器、救命具ヲ製造シタルトキ

三　第九條ノ規定ニ違反シテ標本ヲ製造所ニ保管セス又ハ之ヲ管轄管海官廳ニ差出ササルトキ

四　第十條ノ規定ニ違反シテ更ニ製造品ノ標本ヲ備ヘス又ハ製造品ノ標本ヲ管海官廳ニ差出ササルトキ

五　第十一條又ハ第二十八條ノ規定ニ違反シテ製造所又ハ請賣所ニ標札ヲ揭ケサルトキ

六　第十三條又ハ第二十八條ノ規定ニ違反シテ船燈、信號器、救命具ヲ製造シタルトキ

第五十條　舊令ニ依リ交付シタル製造免許證書又ハ認可證書ハ其ノ有效期間內本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス但シ救命浮帶ノ製造免許證書ニ在リテハ其ノ有效期間ハ本令施行後五年ヲ以テ限トス

前項ノ製造免許證書ニ記載スル救命浮帶ニ付テハ本令中救命胴衣ニ關スル規定ヲ準用ス

第一項ノ製造免許證書ニ記載スル船燈ニ付檢定ヲ申請スル場合ニ於テハ第三十四條第二項ニ揭クル添附書類ハ從前ノ規定ニ依リ試驗成績書寫ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第五十五條　舊令ニ依ル檢印ヲ附シタル船燈、信號器及救命具ハ本令ニ依リ檢印ヲ附シタルモノト看做ス

舊令ニ依リ交付シタル檢定ハ本令ニ於テ交付シタル檢定ト看做ス

第五十六條　舊令ニ依リ認可ヲ受ケタル製造免許證書又ハ認可證書ハ其ノ有效期間內本令ニ依リ交付シタルモノト看做ス但シ救命浮帶ノ製造免許證書ニ在リテハ其ノ有效期間ハ本令施行後五年ヲ以テ限トス

前項ノ試驗成績書寫ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ該船燈ノ免許製造人ニ之ヲ請求スヘシ若シ免許製造人ヨリ之ヲ得難キ事情アルトキハ朝鮮總督府遞信局ニ其ノ交付ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十九條乃至第四十一條、第四十六條乃至第四十八條ノ規定ヲ準用ス

第五十六條　舊令ニ依リ認可ヲ受ケタル請賣人ハ本令施行後一年內ニ第五號書式ニ準シ認可證書ノ書換ヲ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ手數料ヲ徵收セス

前項ニ依リ請賣人認可證書ノ書換ヲ申請セサルトキハ該證書ハ之ヲ無效トシ遞信局ハ其ノ旨ヲ朝鮮總督府官報ニ公告ス

第一號書式

（收入印紙）　製造免許申請書　貼付シタル收入印紙ノ額

一　製造品ノ名稱及種類
二　製造人ノ住所及氏名又ハ名稱
三　製造所ノ位置及名稱

右朝鮮船燈信號器救命具取締規則ニ依リ製造免許申請候也

年　月　日

申請人　何　某　印

第一節　船燈信號器救命具試驗檢定規程

第一章　船燈信號器救命具試驗檢定規程左ノ通

第一條　船燈信號器救命具ノ試驗檢定ハ本章ノ規定ニ依ル但シ其ノ構造ニ特別ノ事項アリテ本章ノ規定ニ適合シ難キ場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル方法ニ依ルコトヲ得

第二條　船燈ノ試驗檢定ハ逓信大臣ノ指定スル官吏又ハ逓信大臣ノ指定スル者之ヲ行フ

第三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四條　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　型式ノ試驗檢定

二　個別ノ試驗檢定

第五條　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　型式ノ試驗檢定

二　個別ノ試驗檢定

第六條　定期ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　型式ノ試驗檢定

二　個別ノ試驗檢定

第七條　船燈ノ型式ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八條　船燈ノ個別ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十一條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十二條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十四條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十五條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十六條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十七條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十八條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第十九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十一條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十二條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十四條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十五條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十六條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十七條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十八條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第二十九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十一條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十二條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十四條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十五條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十六條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十七條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十八條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第三十九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十一條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十二條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十四條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十五條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十六條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十七條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十八條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第四十九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十一條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十二條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十四條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十五條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十六條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十七條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十八條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第五十九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十一條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十二條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十四條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十五條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十六條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十七條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十八條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第六十九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十一條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十二條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十四條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十五條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十六條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十七條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十八條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第七十九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十一條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十二條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十四條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十五條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十六條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十七條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十八條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第八十九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十一條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十二條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十三條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十四條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十五條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十六條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十七條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十八條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第九十九條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定

第百條　船燈ノ試驗檢定ハ左ノ種別ニ依リ之ヲ行フ

一　新製ノ船燈ニ對スル試驗檢定

二　修繕ノ船燈ニ對スル試驗檢定

三　定期ノ試驗檢定